都民等のボランティア活動等に関する実態調査

令和５年３月

東京都生活文化スポーツ局

ま　え　が　き

東京都は、共助社会づくりを図ることを目的として、都内におけるボランティア活動等の推進に取り組んでおります。

この調査は、都民及び各種団体のボランティア活動の実態や意識、ボランティア活動に至らない原因等を把握することを目的として実施しています。

調査内容は、都民調査は「ボランティア活動について」、「東京ボランティア・市民活動センターや「ボラ市民ウェブ」について」、「東京都のボランティア活動推進に関する施策について」、「寄附について」及び「ボランティア活動への参加のための支援について」に関することとし、各種団体調査は「ボランティア活動について」、「団体の活動について」、「他の団体との連携について」、「その他の活動などについて」等に関することとし、ボランティア活動に関する現状・意識等について分析しています。

この調査結果が、行政関係者のみならず、都民の方々や、各種団体の方々に広くお役に立てれば幸いです。

最後に、この調査に御協力いただいた多くの皆様に深く感謝申し上げます。

令和５年３月

東京都生活文化スポーツ局都民生活部

目次

調査概要 ・・・

２ 東京ボランティア・市民活動センターや「ボラ市民ウェブ」について ･････････ **105**
２－１ 東京ボランティア・市民活動センターや「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験 ･･･ 105
２－２ 東京ボランティア・市民活動センターもしくは「ボラ市民ウェブ」の満足度･･･ 111
２－３ 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験 ･････････････････ 114
３ 東京都のボランティア活動推進に関する施策について ･････････････････････････ **117**
３－１ 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び訪問経験 ･････････････ 117
４ 寄附について ･･･ **120**
４－１ 寄附の経験 ･･･ 120
４－２ 寄附をした対象・分野 ･･･ 125
４－３ 寄附をした方法 ･･･ 129
４－４ 寄附の金額 ･･･ 133
５ ボランティア活動への参加のための支援について ･････････････････････････････ **137**
５－１ ボランティア活動参加に関して望む支援 ･････････････････････････････････････ 137

団体調査 ・・・

II.　NPO 法人向け調査 ･･ 165
１ ボランティア活動について ･･ 165
１－１ 企画・実施しているボランティア活動 ･･････････････････････････････････････ 165
１－２ 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果 ･･････････････ 166
１－３ 連携団体 ･･ 167
１－４ ボランティアコーディネーター配置の有無 ･･････････････････････････････････ 168
１－５ ボランティア参加の有無 ･･ 168
１－６ ボランティアの年間活動頻度、1 回あたりの活動人数・平均活動時間 ･････････ 169
１－７ 参加人数を増やすために必要なこと ･･ 171
１－８ ボランティアが参加していない理由 ･･ 172
１－９ 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験 ･･････････････････ 173
１－１０ 「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験 ･･････････････････････････････････ 173
１－１１ 東京ボランティア・市民活動センターもしくは「ボラ市民ウェブ」の満足度･･ 174
１－１２ 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験 ･･････････････ 175
１－１３ 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験 ･･････････ 176
１－１４ 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の満足度 ･･････････････････････ 176
１－１５ ボランティア活動を推進するにあたっての課題 ･･････････････････････････････ 177
１－１６ 今後の取組意向 ･･ 178
１－１７ ボランティア活動に関して望む支援 ･･ 179
２ 団体の概要について ･･ 180
２－１ 団体構成員の総数 ･･ 180
２－２ 設立からの経過年数 ･･ 180
２－３ 活動分野 ･･ 181
２－４ 活動地域 ･･ 182
２－５ 構成員の平均勤続年数 ･･ 182
２－６ 構成員の平均賃金 ･･ 183
２－７ 主な収入源 ･･ 183
２－８ 情報発信の利用媒体 ･･ 184

III.　大学向け調査 ･･･ 185
１ ボランティア活動について ･･･ 185
１－１ 学生のボランティア活動の支援組織の有無 ･････････････････････････････ 185
１－２ ボランティア活動支援部署などの名称・設置年度・職員数・設置のきっかけ････ 186
１－３ ボランティア活動支援部署などで行っている取組 ･････････････････････････ 189
１－４ 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果 ･････････････ 190
１－５ 学生が参加したボランティア活動 ･････････････････････････････････････ 191
１－６ ボランティア活動に参加した学生数 ･･････････････････････････････････････ 192
１－７ 学生が参加したボランティア活動の地域 ･･････････････････････････････････ 193
１－８ 学生へのボランティア活動の周知方法 ･･････････････････････････････････ 194
１－９ 学内ボランティア活動を充実させていくための課題 ･････････････････････ 195
１－１０ ボランティア活動支援部署などを設置していない理由 ･････････････････ 196
１－１１ 学生ボランティアサークルの有無 ･･････････････････････････････････ 197
１－１２ ボランティア活動を主目的とするサークルなどの活動内容、団体数、学生数･･ 198
１－１３ 連携団体 ･･ 200
１－１４ 今後連携したい団体 ･･ 201
１－１５ 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験 ･････････････ 202
１－１６ 「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験 ･･････････････････････････････ 203
１－１７ 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験 ･････････････ 203
１－１８ 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験 ･････････ 204
１－１９ 今後の取組意向 ･･ 204
１－２０ ボランティア活動に関して望む支援 ･･････････････････････････････････ 205
２ 学校の概要について ･･ 206
２－１ 総職員数 ･･ 206
２－２ 設立からの経過年数 ･･ 206
２－３ 学生数 ･･ 207

Ⅳ.　中学高校向け調査 ･･･ 209
１ ボランティア活動について ･･･ 209
１－１ 授業でのボランティア活動の取り入れ状況 ･････････････････････････････ 209
１－２ 授業に取り入れたボランティア活動の年間時間数及び教科名 ･････････････ 210
１－３ 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果 ･････････ 211
１－４ 授業で生徒が参加したボランティア活動 ･････････････････････････････ 212
１－５ 授業でボランティア活動を取り入れるための課題 ･････････････････････ 213
１－６ 授業にボランティア活動を取り入れていない理由 ･････････････････････ 214
１－７ ボランティア活動を行う部活動の有無 ･････････････････････････････ 215
１－８ 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果 ･････････ 215
１－９ ボランティア活動を行う部活動の活動内容、団体数、生徒数、担当教員数 ････ 216
１－１０ 連携団体 ･･･ 219
１－１１ ボランティアコーディネーターの有無 ･････････････････････････････ 220
１－１２ 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験 ･････････････ 220
１－１３ 「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験 ･････････････････････････ 221
１－１４ 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験 ･････････ 221
１－１５ 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験 ･････････ 222
１－１６ 今後の取組意向 ･･･ 222
１－１７ ボランティア活動に関して望む支援 ･････････････････････････････ 223
２ 学校の概要について ･･･ 224
２－１ 総職員数 ･･･ 224
２－２ 設立からの経過年数 ･･･ 224
２－３ 生徒数 ･･･ 225

V.　町会自治会向け調査 ･･ 227
１ 団体の活動について ･･ 227
１－１ 活動内容 ･･ 227
１－２ 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果 ･･････････････ 228
１－３ 活動状況 ･･ 228
１－４ 外国人の参加状況 ･･ 229
１－５ 外国人の参加にあたり、妨げとなっていること ･･････････････････････････ 229
１－６ 活動を行うにあたっての課題 ･･ 230
２ 他の団体との連携について ･･ 231
２－１ 連携団体 ･･ 231
２－２ 連携した団体のボランティア募集の有無、参加人数及び活動内容 ･･････････････ 232
２－３ 連携してよかった点や課題 ･･ 234
２－４ 連携の妨げとなること ･･ 235
２－５ 今後連携して行いたい活動分野 ･･････････････････････････････････････ 236
２－６ 連携の継続に必要なこと ･･ 237
２－７ 地元ボランティアとの連携について ･･････････････････････････････････ 238
２－８ ボランティアコーディネーターの有無 ･･････････････････････････････････ 238
３ その他の活動などについて ･･ 239
３－１ サードプレイスを設ける取組の有無 ･･････････････････････････････････ 239
３－２ 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験 ･･････････････････ 240
３－３ 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験 ･･････････････ 240
３－４ 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験 ･･････････ 241
３－５ 今後の取組意向 ･･ 242
４ 団体の概要について ･･ 244
４－１ 役員数 ･･ 244
４－２ 加入世帯数 ･･ 244
４－３ 加入率 ･･ 245
４－４ 加入促進の取組 ･･ 246

都民調査　調査票 ･･ **247**
団体調査　調査票 ･･ **279**

調査概要

１ 調査目的

東京都がボランティア活動等を推進する中で、都民及び各種団体におけるボランティア活動に関する取組状況等についての把握を行う。

２ 調査項目

【都民調査】

（１）ボランティア活動について
（２）東京ボランティア・市民活動センターや「ボラ市民ウェブ」について
（３）東京都のボランティア活動推進に関する施策について
（４）寄附について
（５）ボランティア活動への参加のための支援について

【団体調査】

［企業、NPO 法人、大学、中学高校］
（１）ボランティア活動について
［町会自治会］
（１）団体の活動について
（２）他の団体との連携について
（３）その他の活動などについて

３ 調査設計

【都民調査】

（１）調査対象
東京都に住む満 15 歳以上 80 歳未満の男女個人

（２）対象者数
3,000 人

（３）標本設計
令和 4 年 1 月 1 日時点での東京都内の 15～79 歳における、年代（15～19 歳及び 20～70 代）ごとの性別・年代別構成比の近似値で回収を行った。

（４）調査方法
アンケートモニターに対する Web アンケート調査

（５）調査期間
令和 4 年 11 月 15 日～同年 11 月 18 日

【団体調査】

（１）調査対象

東京都の区域内に事務所又は事業所を有する法人又はその他の団体

（２）対象者数

計 1,012 団体

（内訳：企業 800、NPO 法人 70、大学 30、中学高校 50、町会自治会 62）

（３）標本抽出方法

［企業］

下記のとおり資本金別に層化し、無作為抽出により選定

大企業（資本金 5 億円以上）‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥400 社

中小企業

資本金 1,000 万円未満‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥100 社

資本金 1,000 万円以上 5,000 万円未満‥‥100 社

資本金 5,000 万円以上 1 億円未満‥‥‥‥100 社

資本金 1 億円以上 5 億円未満‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥100 社

［NPO 法人］

都内の NPO 法人から特定非営利活動促進法第 2 条第 1 項別表に掲げる 20 分野を考慮して抽出

［大学］

都内に住所がある公立・私立大学（短期大学を除く）から無作為抽出

［中学高校］

都内の公立私立中学・高校（通信制を除く）から無作為抽出

［町会自治会］

東京都町会連合会に加盟する町会自治会連合会のある区市町村に抽出を依頼

（４）調査方法：郵送配付、郵送または Web ページ上での回答

（５）調査期間：令和 4 年 11 月 22 日～令和 5 年 1 月 6 日

4 回収結果

【都民調査】

回収数計 3,000 件。東京都内を区市町村ごとに 7 地域に分類（P.10 参照）、回答者の年齢は 15～19 歳、20～79 歳は 10 歳ごとの 7 区分にした上で、令和 4 年 1 月 1 日現在の満 15 歳以上の人口数により推定される各地域の母集団に基づき、3,000 標本を比例配分して回収目標とした結果、回収数の内訳は以下の通りとなった。

	男性			女性			その他	答えたくない	計		
	回収目標	回収数	回収率（%）	回収目標	回収数	回収率（%）	回収数	回収数	回収目標	回収数	回収率（%）
15-19 歳	75	59	78.7	72	65	90.3	－	4	147	128	87.1
20 代	221	218	98.6	223	198	88.8	2	5	444	423	95.3
30 代	254	261	102.8	246	250	101.6	1	1	500	513	102.6
40 代	297	307	103.4	287	282	98.3	1	3	584	593	101.5
50 代	283	283	100.0	267	262	98.1	－	－	550	545	99.1
60 代	191	205	107.3	188	190	101.1	－	－	379	395	104.2
70 代	183	196	107.1	213	207	97.2	－	－	396	403	101.8
計	1,504	1,529	101.7	1,496	1,454	97.2	4	13	3,000	3,000	100.0

【団体調査】

回収数計 336 件。内訳は以下の通り。

	企　業	NPO 法人	大　学	中学高校	町会自治会	計
対象者数	800	70	30	50	62	1,012
回収数	188	34	25	37	52	336
回収率	23.5%	48.6%	83.3%	74.0%	83.9%	33.2%

5 回答者属性（都民調査）

（1）性別

男性	女性	その他	答えたくない	計
1,529	1,454	4	13	3,000
51.0	48.5	0.1	0.4	100.0

上段：実数
下段：(%)

（2）年代

	15～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	59	218	261	307	283	205	196	1,529
	2.0	7.3	8.7	10.2	9.4	6.8	6.5	51.0
女性	65	198	250	282	262	190	207	1,454
	2.2	6.6	8.3	9.4	8.7	6.3	6.9	48.5
その他	－	2	1	1	－	－	－	4
	－	0.1	0.0	0.0	－	－	－	0.1
答えたくない	4	5	1	3	－	－	－	13
	0.1	0.2	0.0	0.1	－	－	－	0.4
計	128	423	513	593	545	395	403	3,000
	4.3	14.1	17.1	19.8	18.2	13.2	13.4	100.0

（3）職業

自営・家族従業			勤め			主婦・主夫	学生	無職	その他	計
	自営業	家族従業（家業手伝い）		勤め（全日）	勤め（短時間）					
266	245	21	1,556	1,305	251	474	175	474	55	3,000
8.9	8.2	0.7	51.9	43.5	8.4	15.8	5.8	15.8	1.8	100.0

（４）未・既婚

未婚					既婚（配偶者有）					既婚（離別・死別）					計
	男性	女性	その他	答えたくない		男性	女性	その他	答えたくない		男性	女性	その他	答えたくない	
1,323	741	567	4	11	1,426	711	713	－	2	251	77	174	－	－	3,000
44.1	24.7	18.9	0.1	0.4	47.5	23.7	23.8	－	0.1	8.4	2.6	5.8	－	－	100.0

（５）共働き状況

共働きをしている					共働きをしていない					計
	男性	女性	その他	答えたくない		男性	女性	その他	答えたくない	
622	332	290	－	－	804	379	423	－	2	1,426
43.6	23.3	20.3	－	－	56.4	26.6	29.7	－	0.1	100.0

（６）子供の数

いない	いる						計
		1人	2人	3人	4人	5人以上	
1,775	1,225	409	659	141	13	3	3,000
59.2	40.8	13.6	22.0	4.7	0.4	0.1	100.0

（７）子供の成長段階

0歳～小学校入学前	小学生	中学生	高校生	専門学生	大学生・大学院生	学校教育終了	その他	計
141	188	101	104	16	145	754	－	1,225
11.5	15.3	8.2	8.5	1.3	11.8	61.6	－	100.0

（８）家族人数

1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上	計
812	969	685	399	104	22	9	3,000
27.1	32.3	22.8	13.3	3.5	0.7	0.3	100.0

（９）収入

収入なし	200万円未満	200～300万円台	400～500万円台	600～700万円台	800～900万円台	1,000万円以上	わからない	答えたくない	計
356	653	575	511	268	153	148	92	244	3,000
11.9	21.8	19.2	17.0	8.9	5.1	4.9	3.1	8.1	100.0

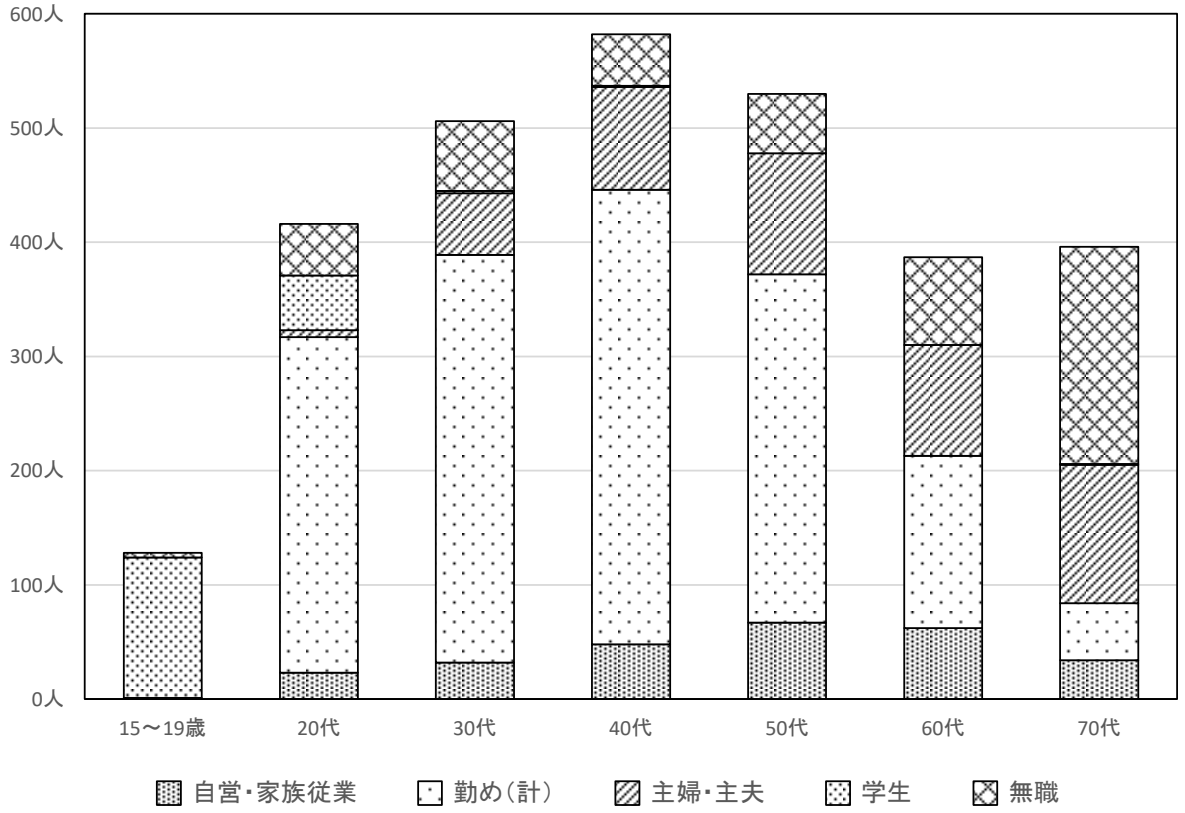
（10）ライフステージ

学校教育期	独身期	家族形成期	家族成長前期	家族成長後期	家族成熟期	高齢期	その他	計
170	609	222	206	173	315	439	866	3,000
5.7	20.3	7.4	6.9	5.8	10.5	14.6	28.9	100.0

（11）居住エリア

センター・コア・エリア	区部東部・北部エリア	区部西部・南部エリア	多摩東部エリア	多摩中央部北エリア	多摩中央部南エリア	多摩西部・島しょエリア	計
607	601	881	366	109	388	48	3,000
20.2	20.0	29.4	12.2	3.6	12.9	1.6	100.0

※年代別職業分布



	15～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
自営・家族従業	－	23	32	48	67	62	34	266
勤め（計）	1	294	357	398	305	151	50	1,556
主婦・主夫	－	6	54	90	106	97	121	474
学生	123	48	2	1	－	－	1	175
無職	4	45	61	45	52	77	190	474
計	128	416	506	582	530	387	396	2,945

（注）その他を除く

※エリア

【区部】

センター・コア・エリア ····· 千代田区、中央区、港区、新宿区、文京区、台東区、墨田区、江東区、渋谷区、豊島区、荒川区

区部東部・北部エリア ····· 北区、板橋区、足立区、葛飾区、江戸川区

区部西部・南部エリア ····· 品川区、目黒区、大田区、世田谷区、中野区、杉並区、練馬区

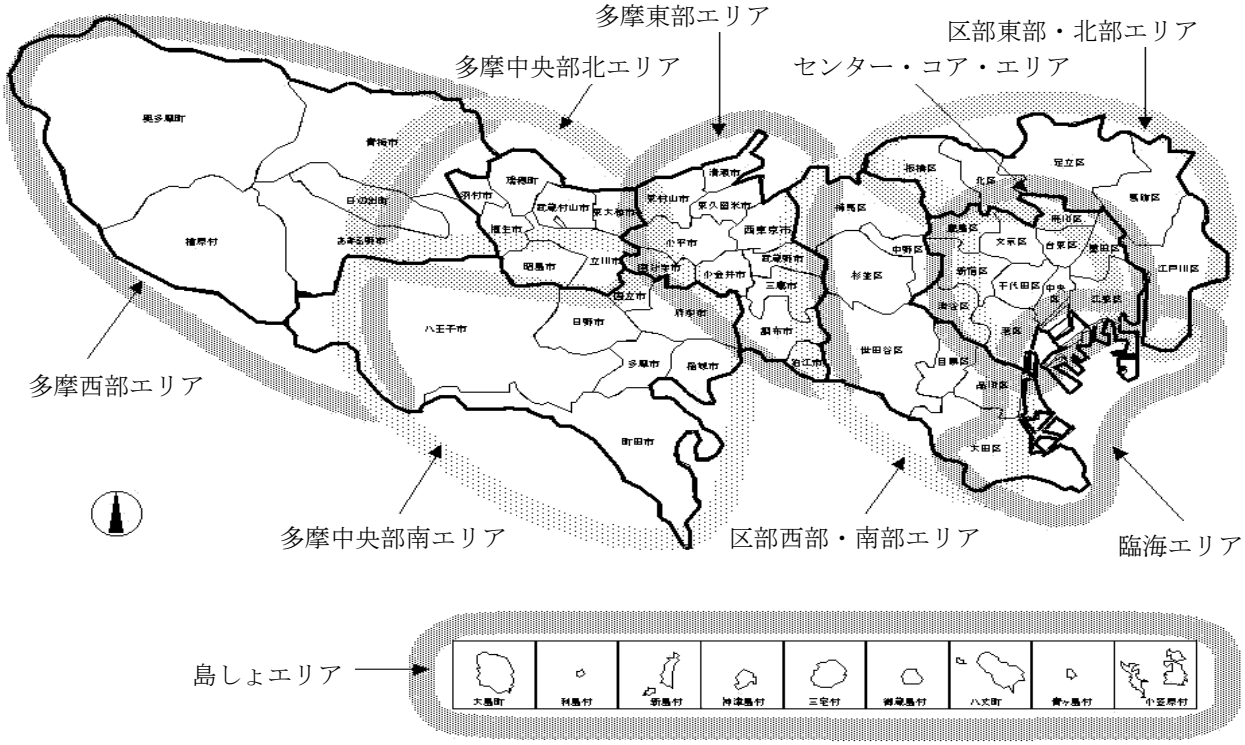
【市町村部】

多摩東部エリア ····· 武蔵野市、三鷹市、調布市、小金井市、小平市、東村山市、国分寺市、狛江市、清瀬市、東久留米市、西東京市

多摩中央部北エリア ····· 立川市、昭島市、福生市、東大和市、武蔵村山市、羽村市、瑞穂町

多摩中央部南エリア ····· 八王子市、府中市、町田市、日野市、国立市、多摩市、稲城市

多摩西部・島しょエリア ····· 青梅市、あきる野市、日の出町、檜原村、奥多摩町、大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村



居住エリア区分について

上記 7 つのエリアは、東京構想 2000 の 9 つのエリアを基に、従前の世論調査との継続性を考慮して、行政区域単位に便宜上、区分した。

※ライフステージの分類

ライフステージ	構　成　内　容
①学校教育期	●未婚の学生
②独身期	●40 歳未満の独身者 （未婚または既婚離死別・子供なし）
③家族形成期	●40 歳未満で子供がいない夫婦 ●第一子が小学校入学前の親
④家族成長前期	●第一子が小・中学生の親
⑤家族成長後期	●第一子が高校・大学生（専門学生含む）の親
⑥家族成熟期	●第一子が学校教育を終了し、かつ第二子以降が学校教育を終了していない親 ●子供が全員学校教育を終了している親（65 歳未満）
⑦高齢期	●子供が全員学校教育を終了している親（65 歳以上）
⑧その他	上記①～⑦以外

※ライフステージの構成条件

質問項目名 選択肢名 ＼ ライフステージ		学校教育期	独身期	家族形成期		家族成長前期	家族成長後期	家族成熟期		高齢期
		学生	独身	夫婦のみ子供なし	第一子就学前	第一子義務教育	第一子高等学校以上	第一子独立	全員独立（65歳未満）	全員独立（65歳以上）
年齢	40歳未満		○	○						
	65歳未満								○	
	65歳以上									○
職業	有職		○							
	学生	○								
	その他の無職		○							
未・既婚	未婚	○	○		○	○	○	○	○	○
	既婚・有配偶			○	○	○	○	○	○	○
	既婚・離死別		○		○	○	○	○	○	○
子供の成長段階	子供なし	○	○	○						
	小学校 入学前				○	(○)	(○)	(○)		
	小学校 在学中					○	(○)	(○)		
	中学校 在学中					○	(○)	(○)		
	高校 在学中						○	(○)		
	大学・大学院 在学中						○	(○)		
	学校教育終了							○	○	○

・未・既婚、子供の成長段階の欄で○印が２つ以上あるものは、いずれか１つに○印が付いていればよい。

・子供の成長段階の欄で（　　）付きの○印は、そこに付いていても、より高い成長段階の条件で、ライフステージを判断したことを示す。

６ 報告書の見方

（１）図表中に示してある「n」は回答者全体の人数であるが、設問によっては回答者を限定している場合があり、n の値は変動する。

（２）質問に対する回答は、1 つの場合（単一回答）やいくつでもよい場合（複数回答）などがあるが、複数回答の場合、回答割合の合計は通常 100％を超える。

（３）百分率は n を 100％として算出し、小数点以下第 2 位を四捨五入して第 1 位まで示した。このため、全ての選択肢の割合を合計しても 100％にならない場合がある。

（４）図表中の「－」は回答者が皆無であること、「0.0」は 0.05 未満の数値であること、空白は選択肢がないことを示している。

（５）都民調査において、過去の調査結果を掲載している箇所がある。令和 3 年度以降は Web アンケート調査であるが、平成 30 年度は調査員による戸別訪問面接聴取法での調査であったため、参考値として掲載し、コメントは省略している。

（６）都民調査におけるクロス集計では、各属性のうち「その他」「答えたくない」等のサンプルは除いている。そのため、属性ごとの合計サンプル数と全体のサンプル数は一致しない場合がある。

都民調査

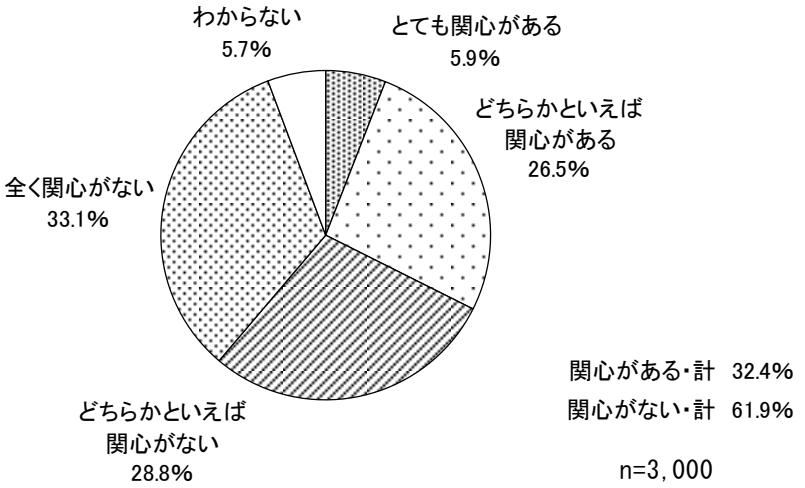
1 ボランティア活動について

1－1 ボランティア活動への関心

Q1　あなたはボランティア活動（名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください）に関心がありますか。次の中から1つだけお答えください。ただし、ボランティア活動とは、下記の1～15に掲げる活動及び金銭や物品の寄附を指します。

1. 町会・自治会の活動
2. PTAの活動や学校行事の手伝い
3. まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、観光ガイドボランティアなど）
4. 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティアなど）
5. 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
6. 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
7. 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
8. 自然や環境を守るための活動（保護動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
9. スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
10. 文化・芸術・学術に関係した活動（文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
11. 災害に関係した活動（炊き出し、募金を集める活動など）
12. 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
13. 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
14. 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
15. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動）

図表1. ボランティア活動への関心

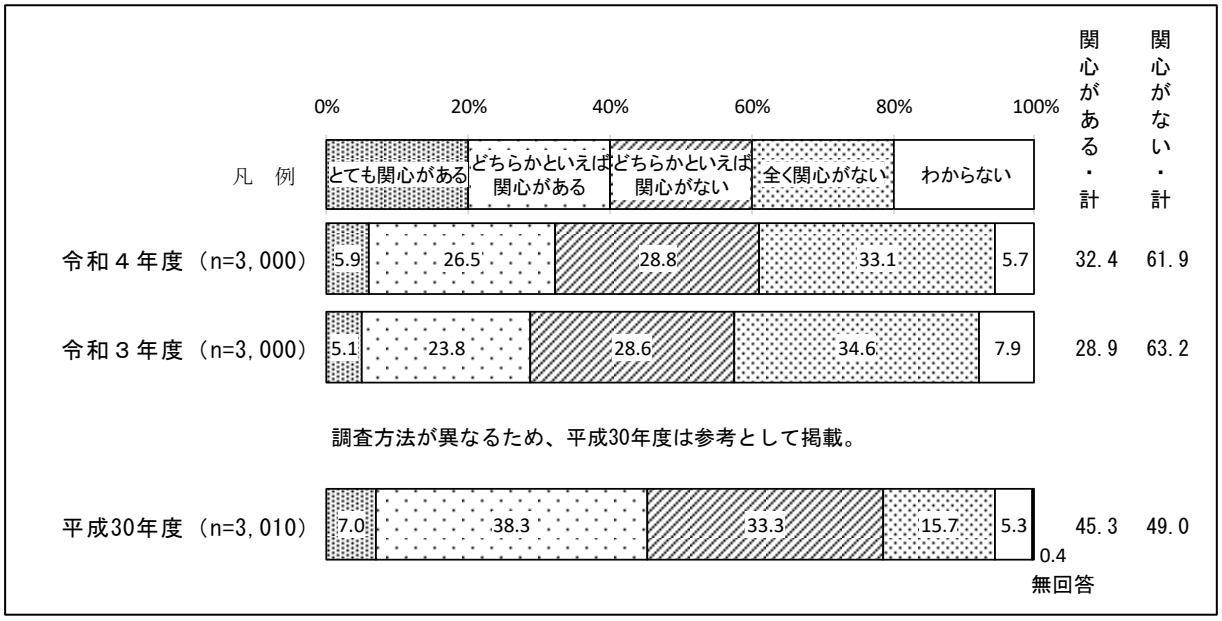


（注）『関心がある・計』は「とても関心がある」「どちらかといえば関心がある」の合計
『関心がない・計』は「どちらかといえば関心がない」「全く関心がない」の合計

ボランティア活動への関心は、「とても関心がある」が 5.9%、「どちらかといえば関心がある」が 26.5%で、この 2 項目を合わせた『関心がある・計』は 32.4%であった。一方、「どちらかといえば関心がない」が 28.8%、「全く関心がない」が 33.1%で、この 2 項目を合わせた『関心がない・計』は 61.9%であった。

令和 3 年度と比較すると、『関心がある・計』は 3.5 ポイントの増加であった。

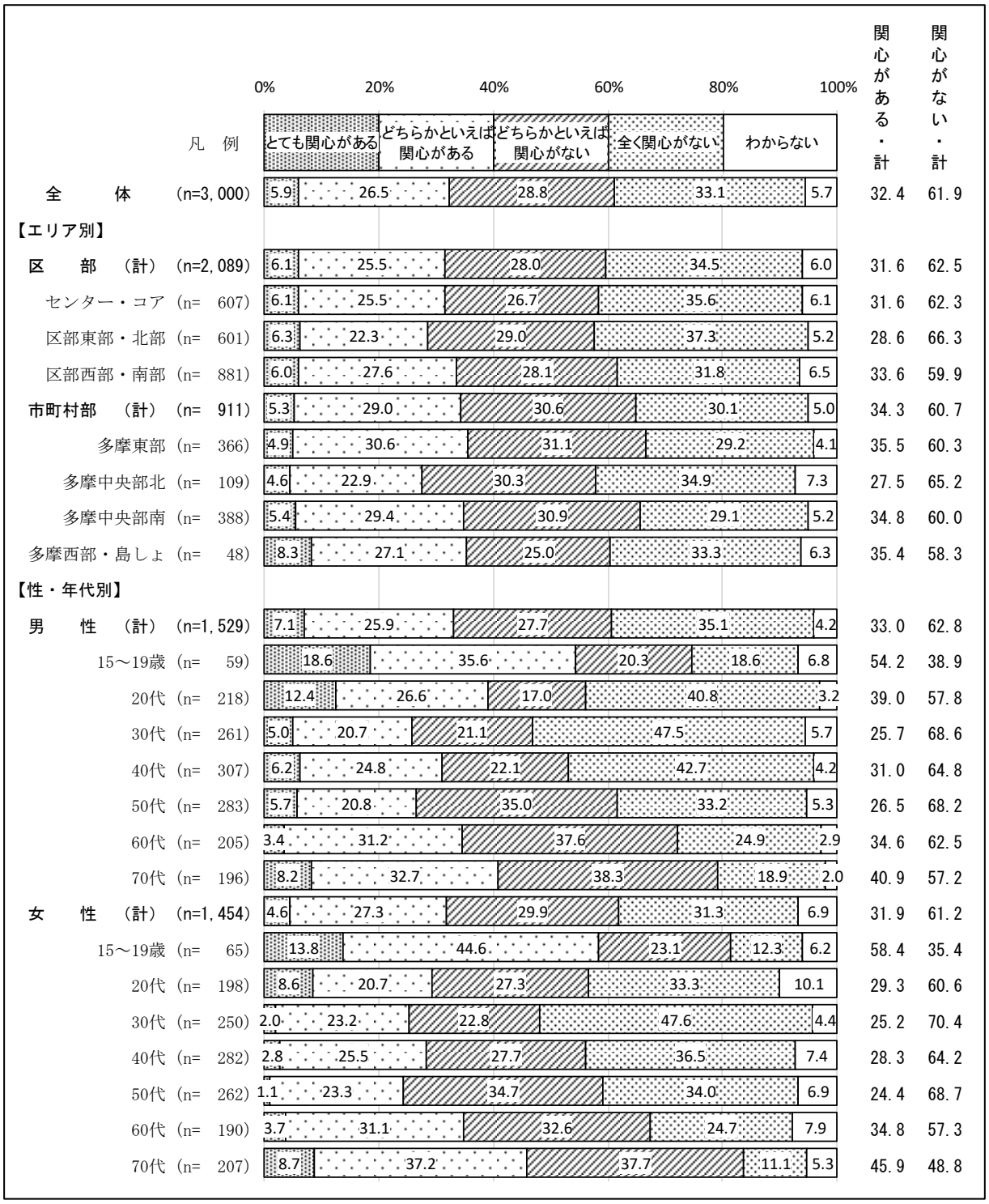
図表2. ボランティア活動への関心【経年比較】



『関心がある・計』をエリア別にみると、多摩東部が 35.5%で最も高かった。一方、多摩中央部北は 27.5%で最も低かった。

性・年代別にみると、男性 15～19 歳が 54.2%、女性 15～19 歳が 58.4%であった。

図表3. ボランティア活動への関心【エリア別／性・年代別】

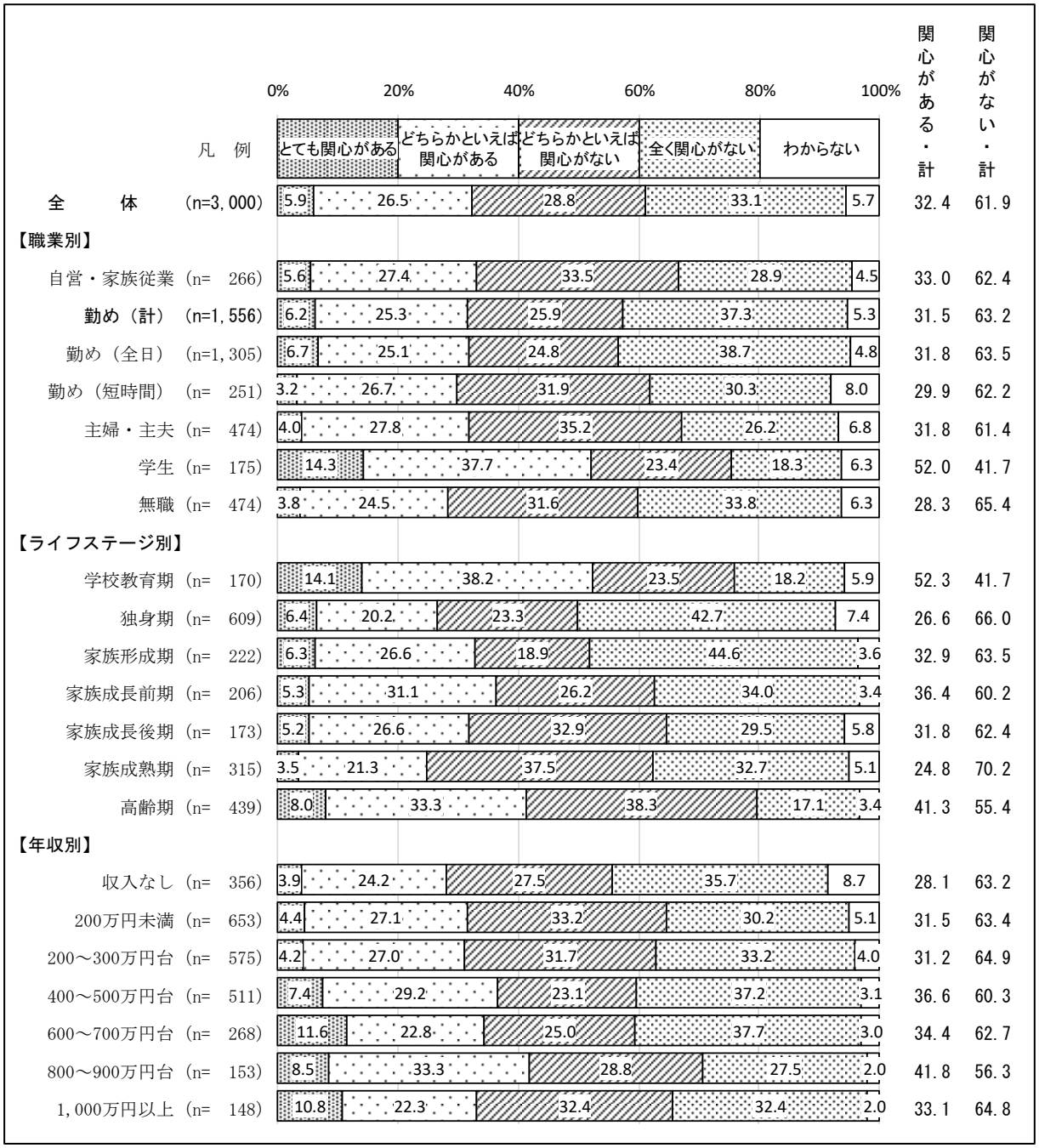


『関心がある・計』を職業別にみると、学生が 52.0%で最も高かった。

ライフステージ別にみると、学校教育期が 52.3%で最も高く、次いで、高齢期が 41.3%であった。

年収別にみると、800～900 万円台が 41.8%で最も高かった。

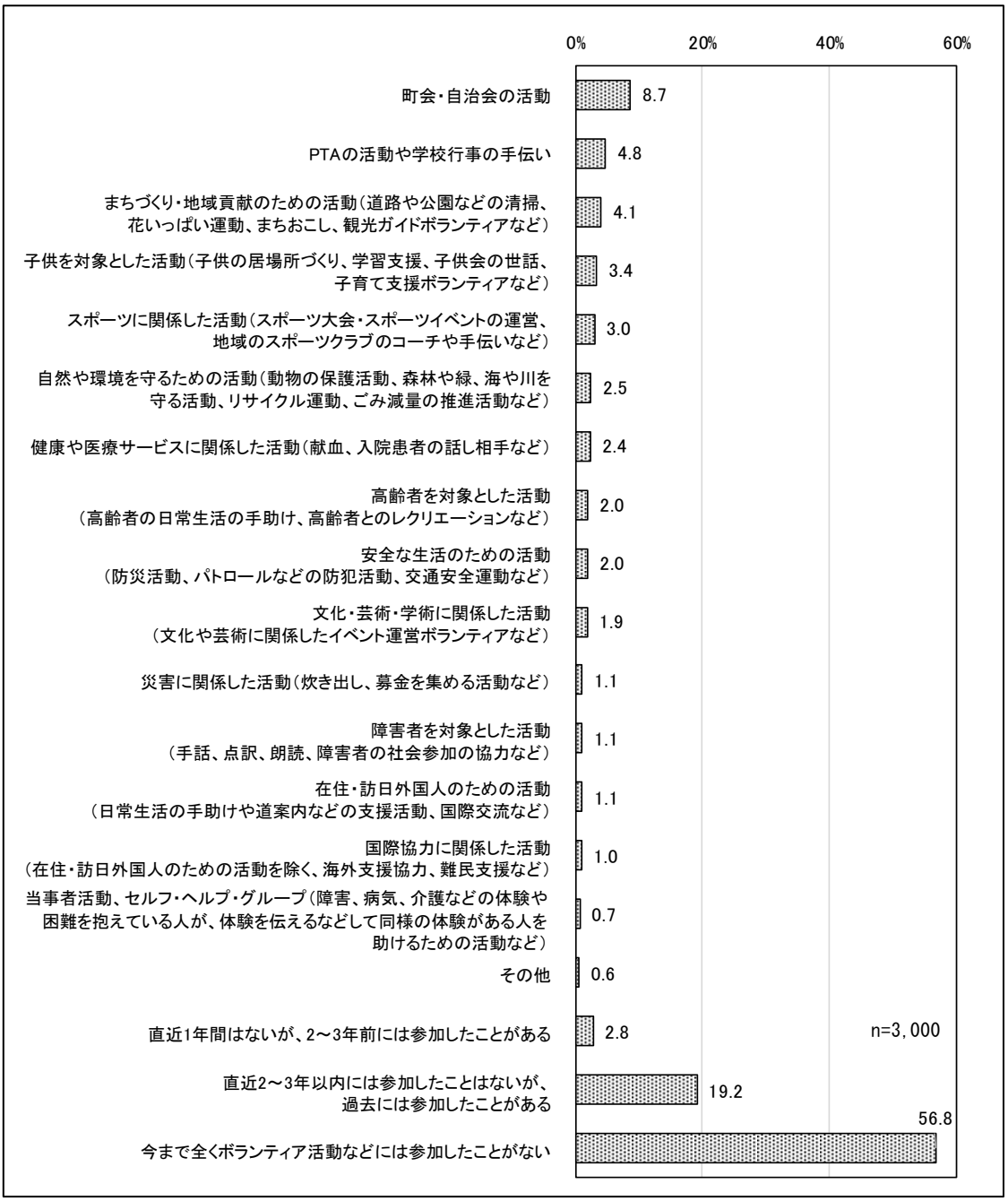
図表4. ボランティア活動への関心【職業別／ライフステージ別／年収別】



１－２ ボランティア活動の参加経験

Q2　あなたは直近１年間（令和３年 11 月１日から令和４年 10 月 31 日まで）にボランティア活動（寄附は除く）に参加しましたか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

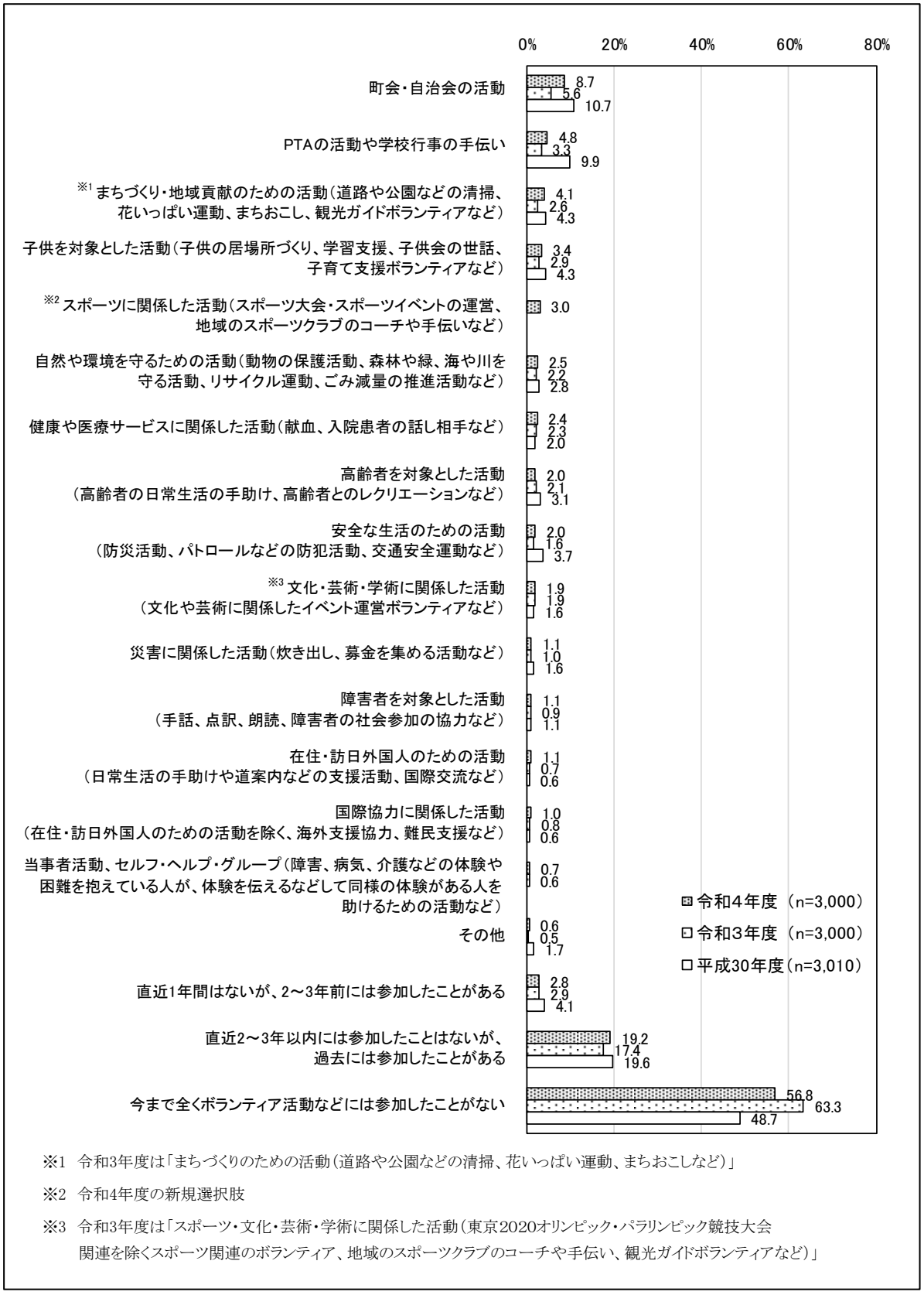
図表5. ボランティア活動の参加経験



直近１年間に参加したボランティア活動のうち、「町会・自治会の活動」が 8.7％で最も高かった。また、「直近１年間はないが、2～3 年前には参加したことがある」は 2.8％、「直近 2～3 年以内には参加したことはないが、過去には参加したことがある」は 19.2％で、「今まで全くボランティア活動などには参加したことがない」は 56.8％であった。

令和３年度と比較すると、「町会・自治会の活動」は 3.1 ポイントの増加、「今まで全くボランティア活動などには参加したことがない」は 6.5 ポイントの減少であった。

図表6. ボランティア活動の参加経験【経年比較】



※1　令和3年度は「まちづくりのための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこしなど）」

※2　令和4年度の新規選択肢

※3　令和3年度は「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動（東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連を除くスポーツ関連のボランティア、地域のスポーツクラブのコーチや手伝い、観光ガイドボランティアなど）」

エリア別にみると、「町会・自治会の活動」では、市町村部（計）が 11.3%で、区部（計）の 7.6%より 3.7 ポイント高かった。

性・年代別にみると、「町会・自治会の活動」では、男性 70 代が 21.9%、女性 70 代が 20.3%であった。

図表7. ボランティア活動の参加経験【エリア別／性・年代別】

	n	町会・自治会の活動	PTAの活動や学校行事の手伝い	まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、観光ガイドボランティアなど）	子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティアなど）	スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）	自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）	健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）	高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）	安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）	文化・芸術・学術に関係した活動（文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）	災害に関係した活動（炊き出し、募金を集める活動など）	障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）	在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）	国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）	当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）	その他	直近1年間はないが、2～3年前には参加したことがある	直近2～3年以内には参加したことはないが、過去には参加したことがある	今まで全くボランティア活動などには参加したことがない
全体	3,000	8.7	4.8	4.1	3.4	3.0	2.5	2.4	2.0	2.0	1.9	1.1	1.1	1.1	1.0	0.7	0.6	2.8	19.2	56.8
【エリア別】																				
区部（計）	2,089	7.6	4.4	4.3	3.2	3.1	2.4	2.8	2.0	2.2	1.9	1.2	1.0	1.0	1.2	0.8	0.9	2.3	18.0	59.3
センター・コア	607	9.7	3.6	5.9	3.3	2.8	3.0	2.8	2.1	2.1	1.8	1.5	1.2	1.8	1.6	0.8	0.7	3.0	18.0	56.3
区部東部・北部	601	7.0	4.7	2.5	2.7	2.3	2.2	2.5	1.5	2.2	1.3	1.3	0.7	0.5	1.2	0.7	1.0	1.8	18.0	63.1
区部西部・南部	881	6.5	4.8	4.4	3.4	3.7	2.3	3.1	2.3	2.3	2.3	1.0	1.0	0.8	0.9	0.9	0.9	2.3	18.0	58.8
市町村部（計）	911	11.3	5.6	3.7	4.0	2.7	2.5	1.3	2.1	1.4	2.0	0.8	1.4	1.3	0.7	0.3	0.1	3.7	21.8	51.2
多摩東部	366	10.7	7.4	3.8	4.4	3.3	2.7	1.4	2.5	1.4	2.5	0.8	2.2	2.2	0.8	0.3	－	3.6	19.9	52.7
多摩中央部北	109	7.3	3.7	1.8	4.6	1.8	2.8	1.8	2.8	1.8	2.8	－	1.8	－	0.9	0.9	－	1.8	18.3	56.9
多摩中央部南	388	12.4	4.4	4.1	3.4	2.6	2.6	1.3	1.5	1.5	1.0	1.0	0.8	1.0	0.5	0.3	－	4.6	24.7	47.7
多摩西部・島しょ	48	16.7	6.3	4.2	4.2	2.1	－	－	2.1	－	4.2	－	－	－	－	－	2.1	2.1	20.8	54.2
【性・年代別】																				
男性（計）	1,529	9.9	3.7	5.0	3.2	4.1	2.9	3.3	2.0	2.6	2.0	1.6	1.2	1.3	0.9	0.8	0.7	2.2	17.4	58.1
15～19歳	59	6.8	8.5	10.2	10.2	8.5	13.6	6.8	－	5.1	1.7	3.4	1.7	－	5.1	1.7	－	6.8	23.7	28.8
20代	218	10.1	5.5	11.9	6.4	4.1	6.4	6.9	4.6	3.7	3.7	3.7	1.4	1.8	1.8	3.2	－	2.8	19.7	54.1
30代	261	6.5	3.1	2.3	1.5	3.1	1.9	3.4	1.5	0.4	2.3	0.8	0.8	1.5	0.8	0.4	0.4	－	17.2	65.9
40代	307	5.9	5.9	4.2	2.3	5.2	2.0	3.9	1.0	1.3	1.3	1.3	1.3	－	0.3	0.7	1.0	3.3	15.0	60.9
50代	283	8.5	3.2	3.2	3.2	3.5	0.4	3.2	1.8	2.5	1.4	1.4	1.1	0.7	0.4	－	0.7	1.8	17.0	63.3
60代	205	11.7	1.5	3.4	2.4	4.9	2.4	0.5	1.5	2.9	1.0	1.0	1.0	2.4	1.5	－	1.5	1.0	17.1	61.0
70代	196	21.9	1.0	5.1	2.0	2.0	3.1	0.5	3.1	5.6	2.6	1.5	1.5	2.6	－	0.5	0.5	3.6	17.9	45.9
女性（計）	1,454	7.5	5.8	3.2	3.6	1.8	2.0	1.4	2.1	1.3	1.9	0.5	1.0	0.9	1.2	0.6	0.6	3.4	21.0	55.5
15～19歳	65	10.8	10.8	7.7	7.7	4.6	6.2	6.2	6.2	3.1	7.7	3.1	4.6	3.1	6.2	3.1	1.5	13.8	20.0	30.8
20代	198	4.5	4.5	4.5	6.1	3.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	0.5	1.0	2.5	1.5	0.5	4.5	21.2	55.6
30代	250	2.4	9.6	3.2	6.0	0.4	1.2	1.2	0.4	1.2	1.2	0.4	0.8	－	0.8	－	－	1.6	16.4	64.0
40代	282	3.2	9.6	1.4	1.8	1.8	0.7	1.1	1.1	0.7	0.4	－	0.4	0.4	0.7	－	0.4	2.1	22.3	58.5
50代	262	5.7	5.0	2.3	0.8	0.8	1.9	1.5	1.5	1.5	0.4	－	－	0.4	－	0.4	0.4	1.1	27.5	57.3
60代	190	11.1	1.1	1.6	2.1	1.6	1.6	－	2.1	1.1	2.1	0.5	1.6	1.1	1.1	1.1	1.6	6.3	20.5	53.2
70代	207	20.3	1.0	5.8	4.3	2.4	2.9	0.5	4.3	0.5	3.9	0.5	2.4	2.4	1.0	－	1.0	2.9	17.4	48.8

（人）（%）

職業別にみると、「町会・自治会の活動」では、自営・家族従業が 12.0%、「PTA の活動や学校行事の手伝い」では、主婦・主夫が 8.9%であった。

ライフステージ別にみると、「町会・自治会の活動」では、高齢期が 18.7%、「PTA の活動や学校行事の手伝い」では、家族成長前期が 29.6%、「まちづくり・地域貢献のための活動」では、学校教育期が 10.0%であった。

年収別にみると、「町会・自治会の活動」では、600 万円以上が 10%を超えた。

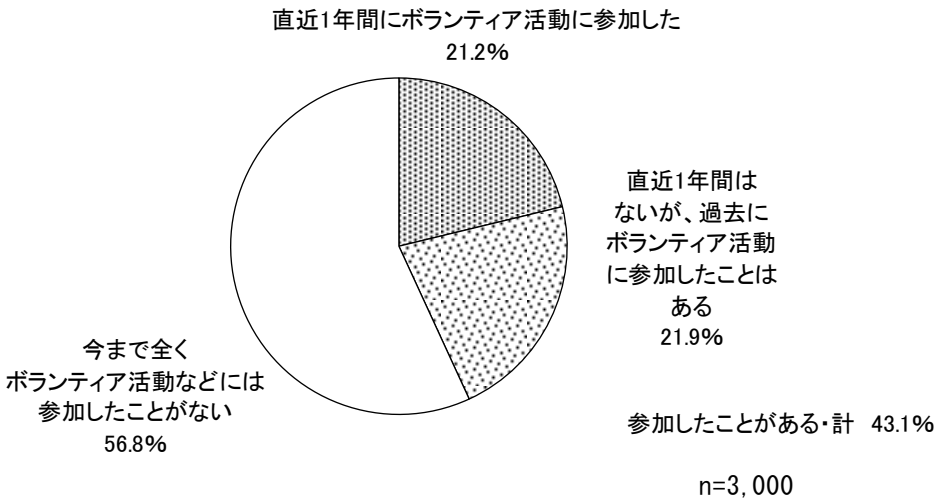
図表8. ボランティア活動の参加経験【職業別／ライフステージ別／年収別】

	n	町会・自治会の活動	PTAの活動や学校行事の手伝い	まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、観光ガイドボランティアなど）	子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティアなど）	スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）	自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）	健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）	高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）	安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）	文化・芸術・学術に関係した活動（文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）	災害に関係した活動（炊き出し、募金を集める活動など）	障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）	在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）	国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）	当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）	その他	直近1年間はないが、2～3年前には参加したことがある	直近2～3年以内には参加したことはないが、過去には参加したことがある	今まで全くボランティア活動などには参加したことがない
全体	3,000	8.7	4.8	4.1	3.4	3.0	2.5	2.4	2.0	2.0	1.9	1.1	1.1	1.1	1.0	0.7	0.6	2.8	19.2	56.8
【職業別】																				
自営・家族従業	266	12.0	3.0	4.1	3.4	2.6	1.5	1.5	0.8	2.3	1.9	0.4	0.4	1.5	0.4	－	1.5	1.1	20.7	55.6
勤め（計）	1,556	7.6	4.9	4.6	3.5	3.5	2.8	3.1	1.9	2.2	1.9	1.5	1.0	1.2	1.1	1.0	0.6	2.2	17.9	59.5
勤め（全日）	1,305	7.7	4.9	4.7	3.7	4.1	3.0	3.4	2.2	2.2	2.1	1.7	1.1	1.2	1.3	1.0	0.6	2.1	17.5	59.7
勤め（短時間）	251	7.6	5.2	4.0	2.4	0.8	2.0	1.2	0.4	2.4	1.2	0.4	0.4	0.8	－	0.8	0.4	3.2	19.5	58.6
主婦・主夫	474	11.0	8.9	2.7	3.2	1.7	1.9	1.1	3.0	0.6	1.5	0.4	1.3	1.3	0.8	0.2	0.8	3.0	22.4	50.0
学生	175	8.0	8.0	10.3	8.6	5.7	8.0	6.3	4.0	4.0	4.6	2.9	2.3	1.1	4.0	1.7	0.6	9.7	24.6	30.3
無職	474	9.1	0.4	1.9	1.7	1.7	0.6	0.4	1.5	1.5	1.3	0.4	1.1	0.6	0.4	0.2	0.2	2.1	17.9	64.8
【ライフステージ別】																				
学校教育期	170	8.2	8.2	10.0	8.2	5.9	8.2	5.3	4.1	3.5	4.7	2.9	2.4	1.2	4.1	1.8	0.6	10.0	24.1	30.6
独身期	609	4.6	2.5	4.3	3.3	3.0	3.4	3.8	2.0	1.6	2.8	1.8	1.1	1.3	1.6	1.5	0.3	1.6	18.6	64.5
家族形成期	222	6.3	5.0	5.4	7.2	1.8	1.4	1.8	1.4	1.4	0.9	0.5	0.5	0.9	0.9	0.5	－	2.7	18.0	62.6
家族成長前期	206	10.2	29.6	4.4	7.8	4.9	1.9	3.9	1.5	3.4	1.5	1.0	0.5	0.5	1.0	0.5	－	2.9	11.2	43.7
家族成長後期	173	8.7	13.3	4.6	5.2	5.2	1.7	2.9	1.7	1.7	1.7	0.6	1.2	1.7	0.6	－	2.3	2.3	22.5	42.8
家族成熟期	315	8.6	1.9	1.9	2.2	1.9	1.3	1.0	1.6	2.9	0.6	0.6	0.3	0.6	0.3	0.3	0.6	2.2	29.5	52.4
高齢期	439	18.7	1.6	4.8	3.6	3.9	3.2	0.5	3.9	2.1	3.2	1.1	2.3	2.3	1.1	0.2	0.7	3.9	18.2	48.1
【年収別】																				
収入なし	356	5.6	7.9	2.8	2.0	1.4	2.5	1.7	1.7	1.1	2.0	1.1	0.8	0.6	1.1	0.6	0.6	3.1	19.4	57.6
200万円未満	653	7.7	3.7	3.4	3.2	2.5	1.1	1.4	1.4	0.9	1.1	0.5	1.2	1.1	0.8	0.3	0.6	3.5	22.8	54.7
200～300万円台	575	8.3	3.1	2.8	2.4	1.7	2.3	1.9	2.3	2.3	2.1	1.0	0.5	0.9	0.7	0.3	0.7	2.4	18.8	59.8
400～500万円台	511	9.8	5.1	6.5	4.7	3.9	4.9	3.1	2.0	2.5	3.1	1.6	1.4	1.6	2.0	0.8	0.6	1.8	16.2	56.9
600～700万円台	268	10.4	5.2	6.3	4.9	5.2	3.0	4.5	2.2	3.4	3.0	1.9	0.7	1.5	0.7	1.5	－	3.0	16.8	56.3
800～900万円台	153	12.4	7.8	6.5	4.6	7.8	2.6	5.2	4.6	2.6	2.0	1.3	1.3	2.6	2.0	1.3	2.0	2.0	17.6	48.4
1,000万円以上	148	11.5	5.4	6.1	5.4	6.1	1.4	3.4	3.4	5.4	2.7	3.4	2.7	1.4	1.4	2.0	1.4	4.1	20.3	50.7

（人）（%）

＜ボランティア活動行動者率＞

図表9. ボランティア活動行動者率



「直近1年間にボランティア活動に参加した」は
Q2で「町会・自治会の活動」から「その他」までの16項目のなかで1つ以上回答した人

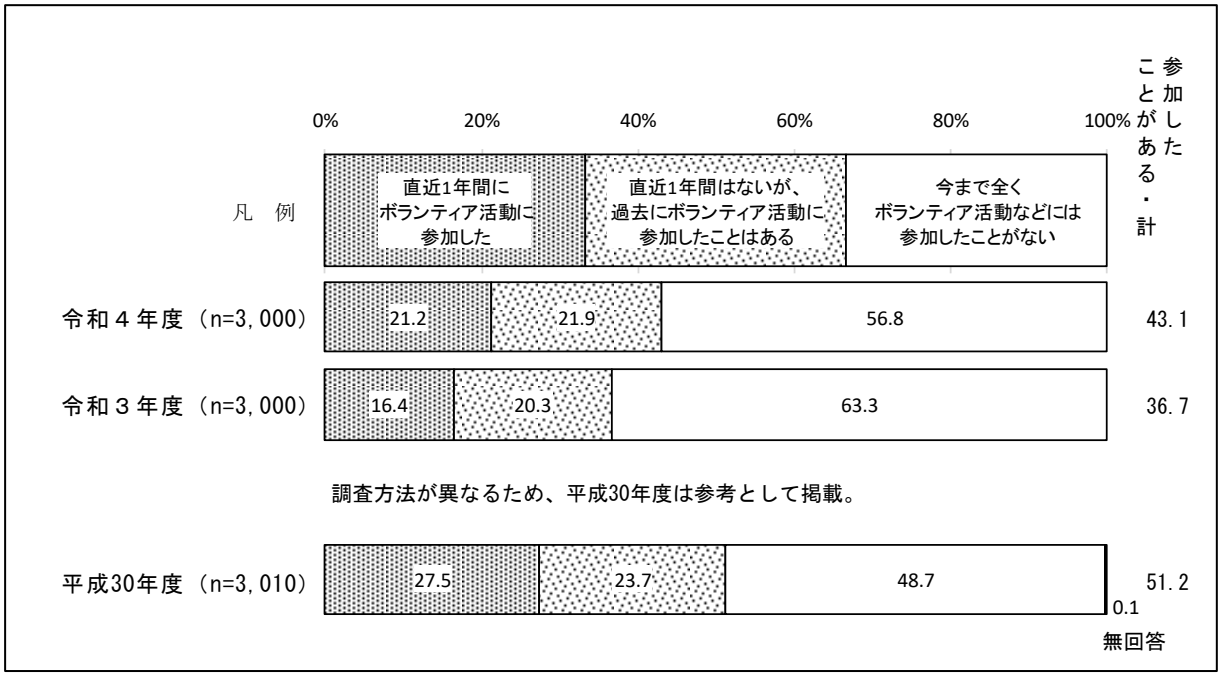
「直近1年間はないが、過去にボランティア活動に参加したことはある」は
Q2で「直近1年間はないが、2～3年前には参加したことがある」または
「直近2～3年以内には参加したことはないが、過去には参加したことがある」と回答した人

（注）『参加したことがある・計』は「直近1年間にボランティア活動に参加した」
「直近1年間はないが、過去にボランティア活動に参加したことはある」の合計

「直近１年間にボランティア活動に参加した」が 21.2%、「直近１年間はないが、過去にボランティア活動に参加したことはある」が 21.9%であった。この２項目を合わせた『参加したことがある・計』は 43.1%であった。

令和３年度と比較すると、『参加したことがある・計』は 6.4 ポイントの増加であった。

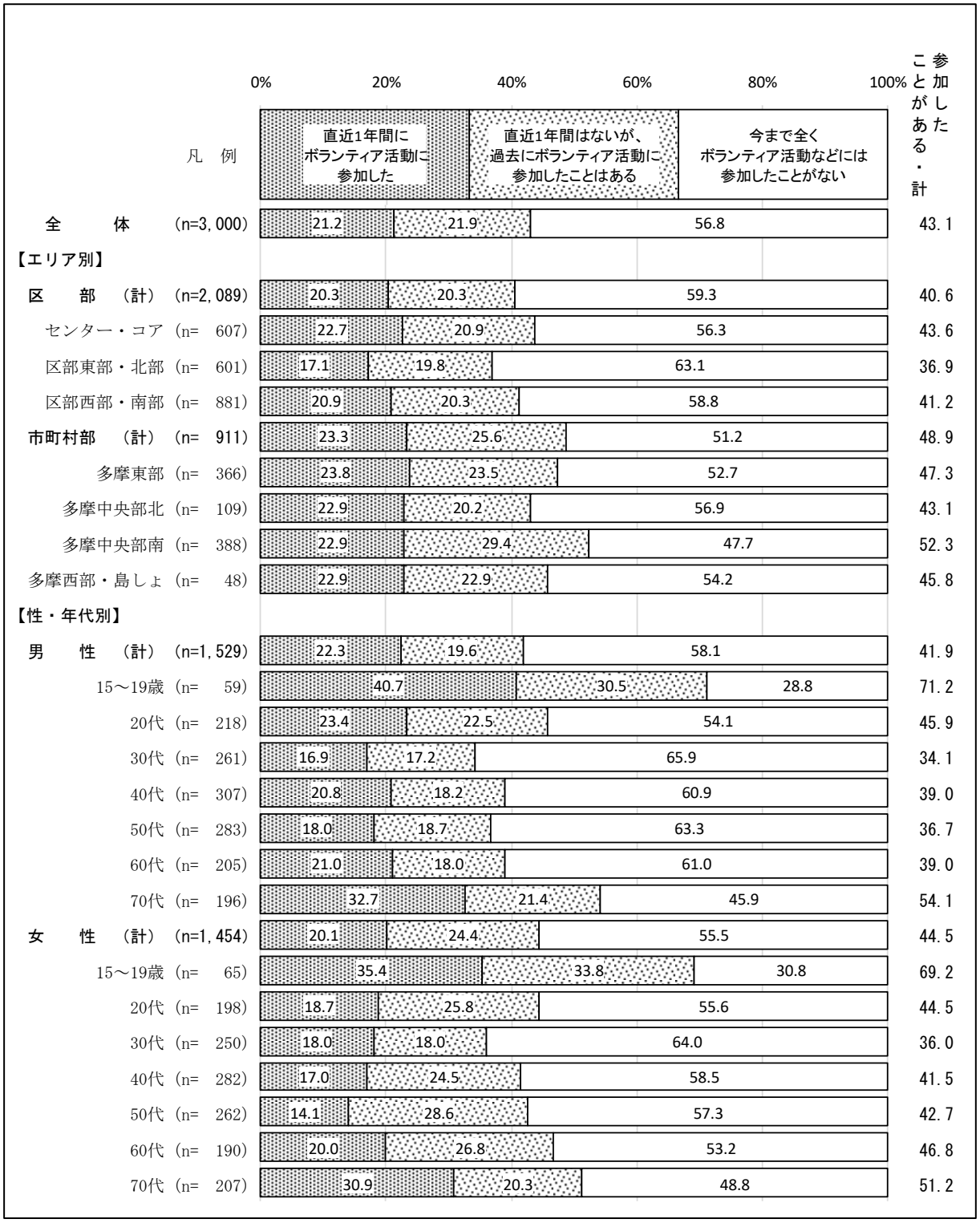
図表10. ボランティア活動行動者率【経年比較】



『参加したことがある・計』をエリア別にみると、市町村部（計）が 48.9%で、区部（計）の 40.6%より 8.3 ポイント高かった。

性・年代別にみると、男性 15～19 歳が 71.2%、女性 15～19 歳が 69.2%であった。

図表11. ボランティア活動行動者率【エリア別／性・年代別】

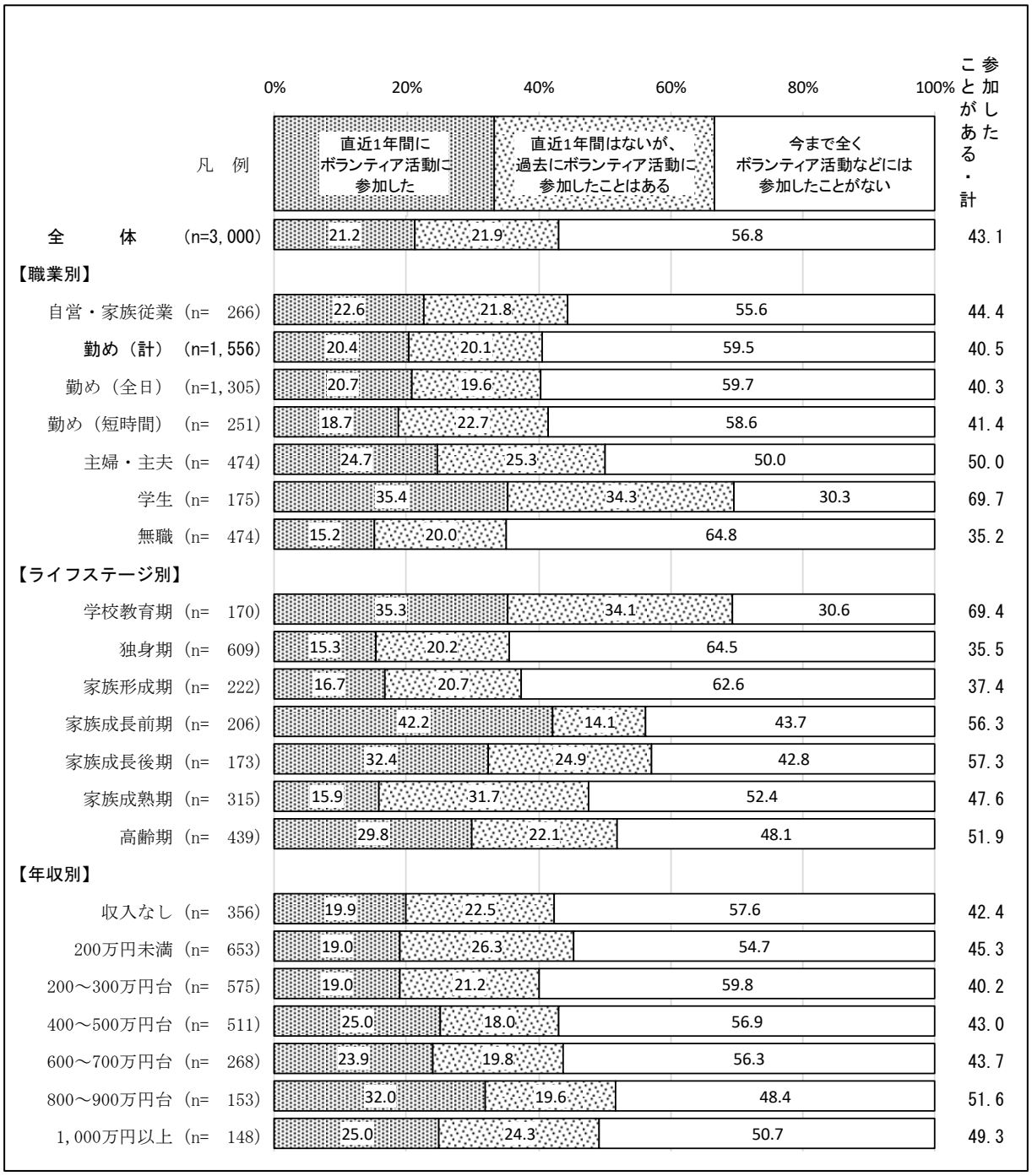


『参加したことがある・計』を職業別にみると、学生が 69.7%で最も高く、次いで、主婦・主夫が 50.0%であった。

ライフステージ別にみると、学校教育期が 69.4%で最も高く、次いで、家族成長後期が 57.3%、家族成長前期が 56.3%であった。

年収別にみると、800～900 万円台が 51.6%で最も高く、次いで、1,000 万円以上が 49.3%であった。

図表12. ボランティア活動行動者率【職業別／ライフステージ別／年収別】



関心度別にみると、「直近１年間にボランティア活動に参加した」では、「とても関心がある」が 77.8%、「どちらかといえば関心がある」が 42.0%、「どちらかといえば関心がない」が 13.0%であった。関心度が高いほど、直近１年間でのボランティア活動参加率は高かった。

図表13. ボランティア活動行動者率【関心度別】

	n	直近1年間にボランティア活動に参加した	直近1年間はないが、過去にボランティア活動に参加したことはある	今まで全くボランティア活動などには参加したことがない
全体	3,000	21.2	21.9	56.8
【関心度別】				
とても関心がある	176	77.8	12.5	9.7
どちらかといえば関心がある	796	42.0	28.9	29.1
どちらかといえば関心がない	863	13.0	29.1	57.9
全く関心がない	994	3.6	12.4	84.0
わからない	171	10.5	18.7	70.8

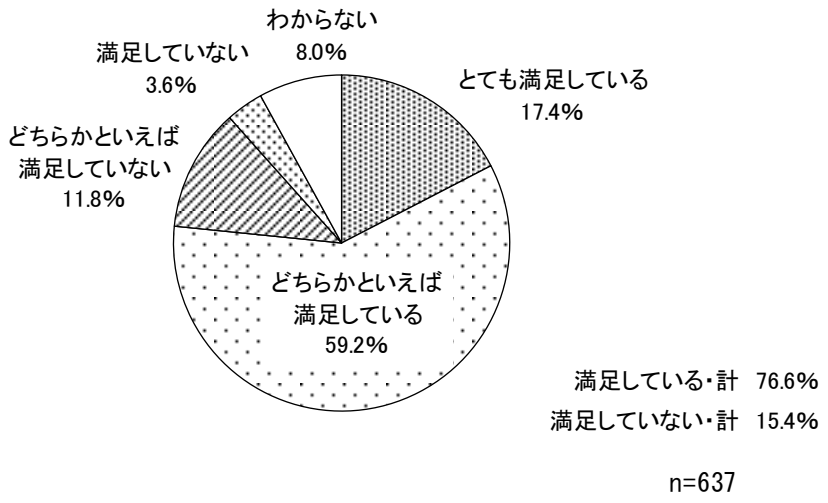
（人）　（%）

１－３ ボランティア活動の満足度

（Q2 で 1～16 のいずれかを答えた方）

Q3　直近に参加したボランティア活動の満足度について、次の中から 1 つだけお答えください。（複数の活動を実施されている方は、そのうち中心的に行っている活動についてお答えください。）

図表14. ボランティア活動の満足度



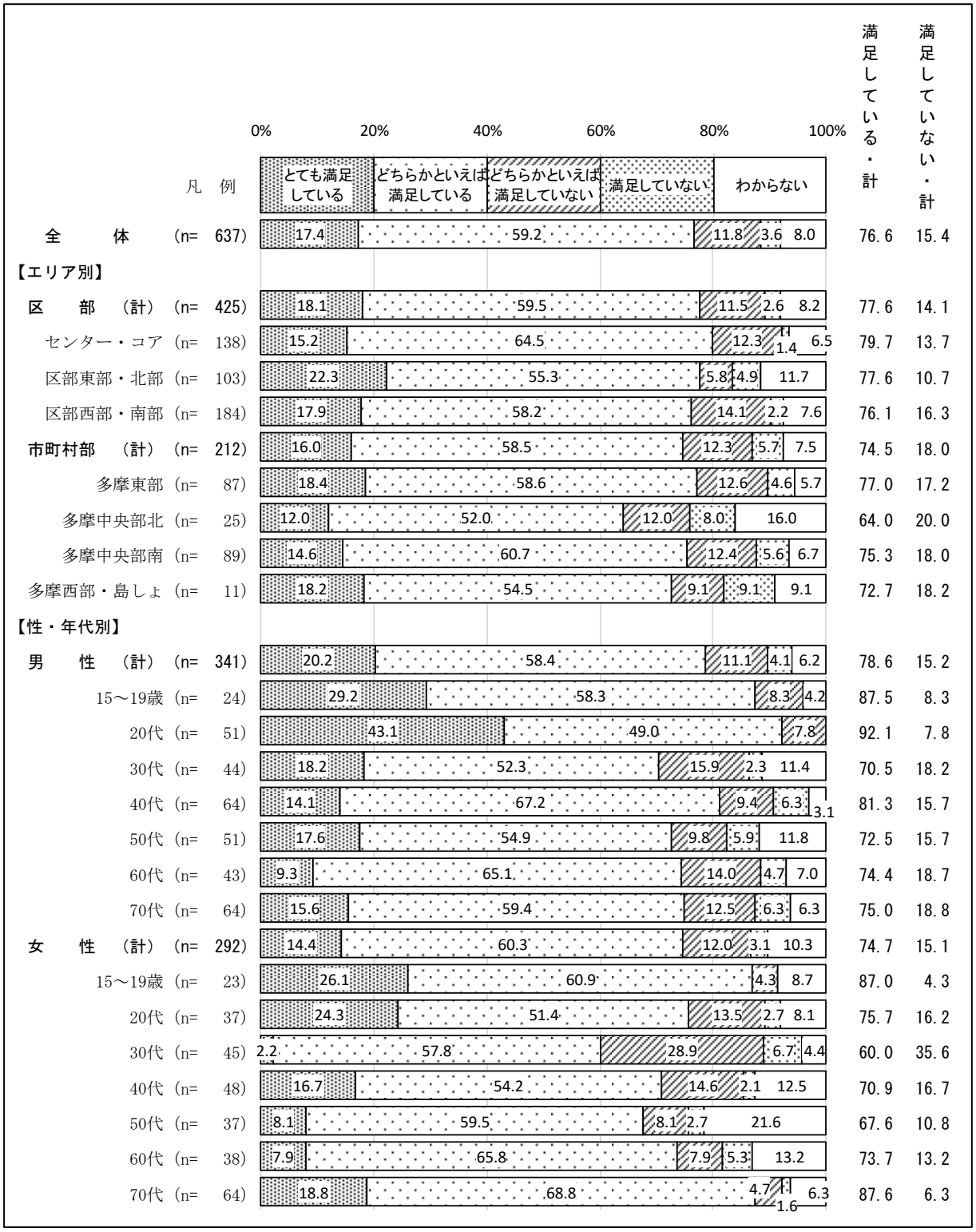
（注）『満足している・計』は「とても満足している」「どちらかといえば満足している」の合計
『満足していない・計』は「どちらかといえば満足していない」「満足していない」の合計

直近 1 年間にボランティア活動に参加した 637 人のうち、活動に「とても満足している」が 17.4%、「どちらかといえば満足している」が 59.2%であった。この 2 項目を合わせた『満足している・計』は 76.6%であった。一方、「どちらかといえば満足していない」が 11.8%、「満足していない」が 3.6%で、この 2 項目を合わせた『満足していない・計』は 15.4%であった。

『満足している・計』をエリア別にみると、区部（計）が 77.6%、市町村部（計）が 74.5%であった。

性・年代別にみると、男性（計）が 78.6%、女性（計）が 74.7%であった。

図表15. ボランティア活動の満足度【エリア別／性・年代別】

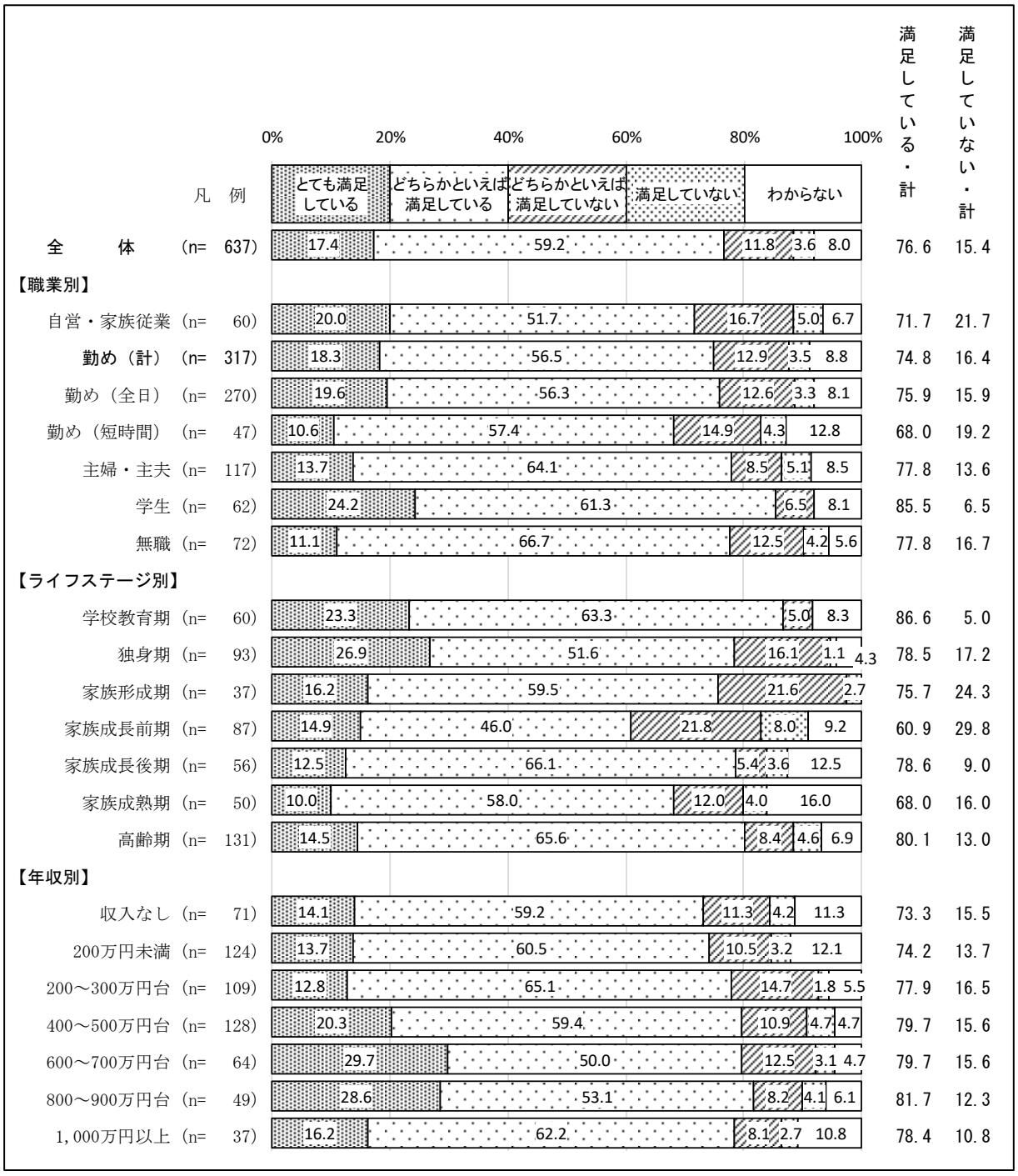


『満足している・計』を職業別にみると、学生が 85.5%で最も高かった。一方、勤め（短時間）は 68.0%で最も低かった。

ライフステージ別にみると、学校教育期が 86.6%で最も高かった。一方、家族成長前期は 60.9%で最も低かった。

年収別にみると、800～900 万円台が 81.7%で最も高かった。

図表16. ボランティア活動の満足度【職業別／ライフステージ別／年収別】

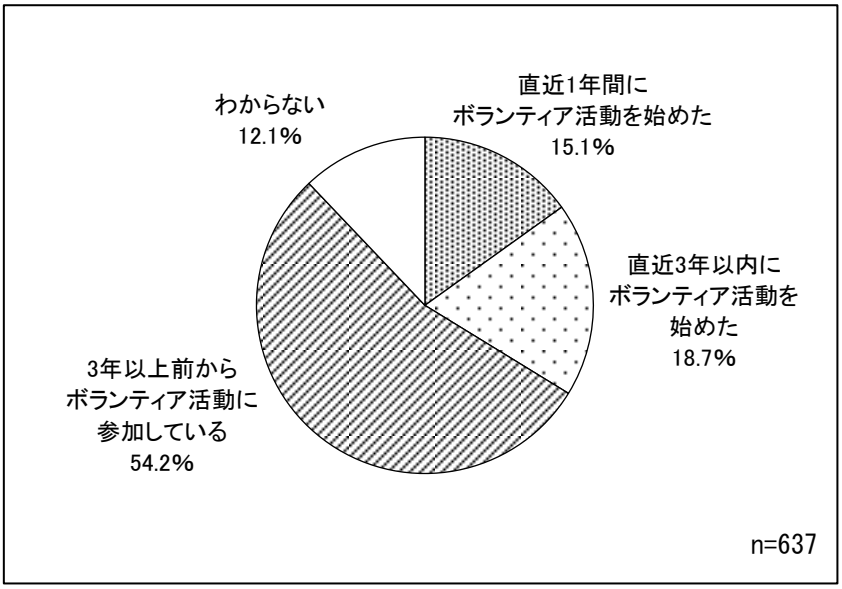


１－４ ボランティア活動の参加歴

（Q2 で 1～16 のいずれかを答えた方）

Q4　あなたのボランティア活動の開始時期について、次の中から 1 つだけお答えください。

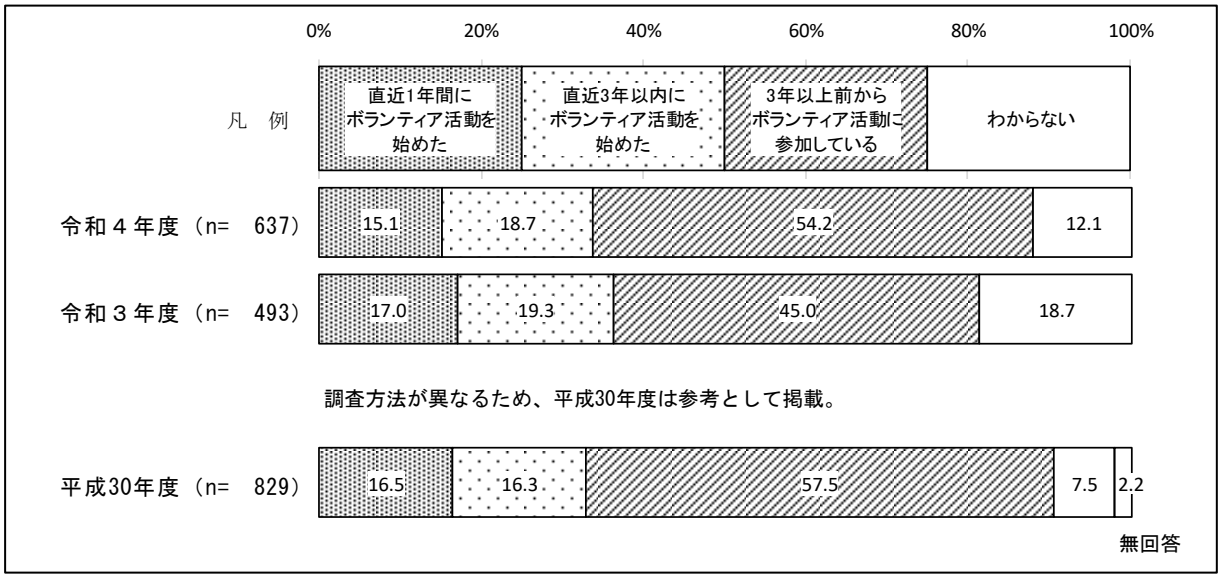
図表17. ボランティア活動の参加歴



直近 1 年間にボランティア活動に参加した 637 人のうち、「直近 1 年間にボランティア活動を始めた」は 15.1%、「直近 3 年以内にボランティア活動を始めた」は 18.7%、「3 年以上前からボランティア活動に参加している」は 54.2%であった。

令和 3 年度と比較すると、「3 年以上前からボランティア活動に参加している」は 9.2 ポイントの増加であった。

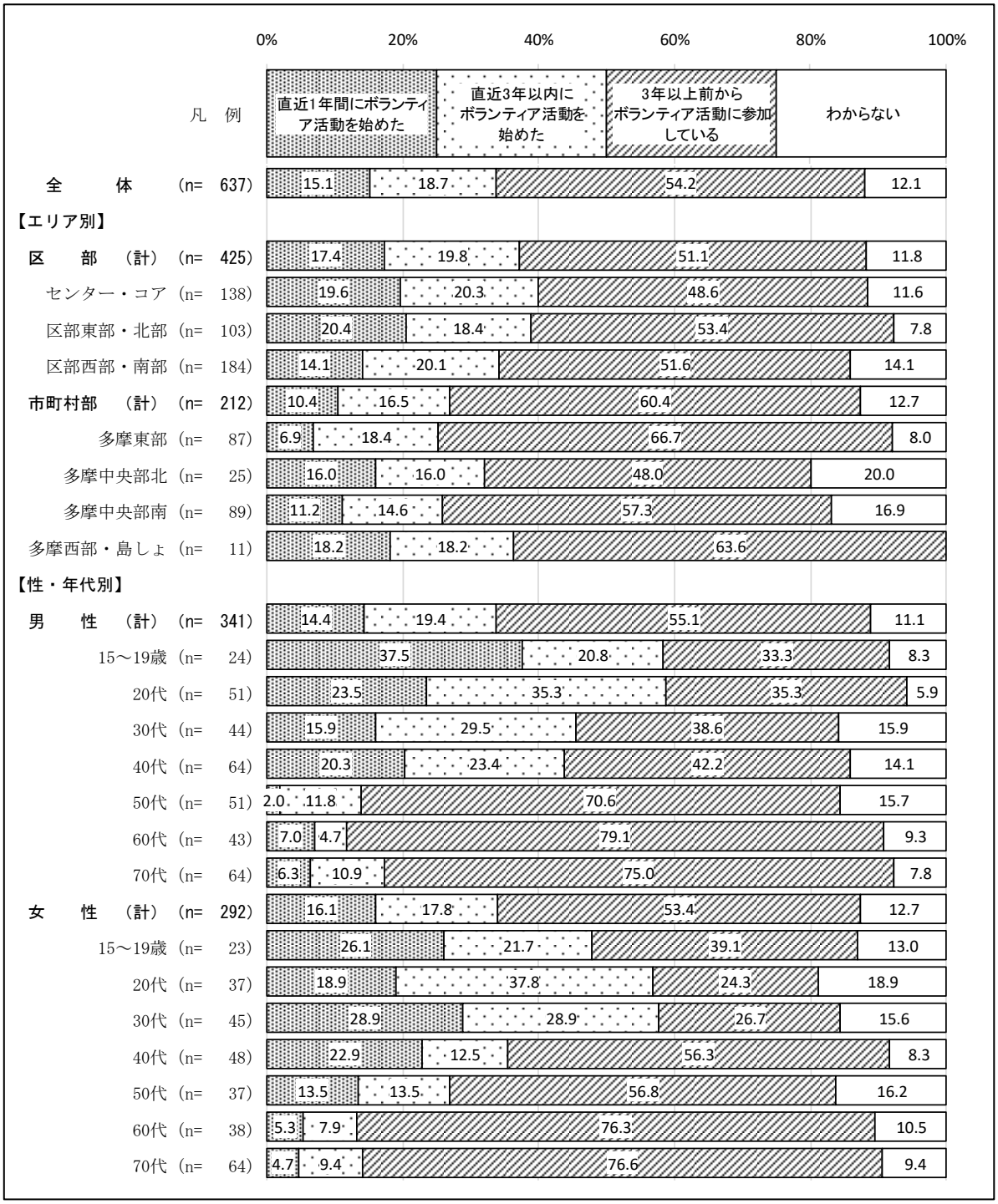
図表18. ボランティア活動の参加歴【経年比較】



エリア別にみると、「直近１年間にボランティア活動を始めた」では、区部（計）が 17.4％で、市町村部（計）の 10.4％より 7.0 ポイント高かった。「3 年以上前からボランティア活動に参加している」では、市町村部（計）が 60.4％で、区部（計）の 51.1％より 9.3 ポイント高かった。

性・年代別にみると、「直近１年間にボランティア活動を始めた」では、男性（計）が 14.4％、女性（計）が 16.1％であった。「3 年以上前からボランティア活動に参加している」では、男女ともに 60 代と 70 代が 75％以上であった。

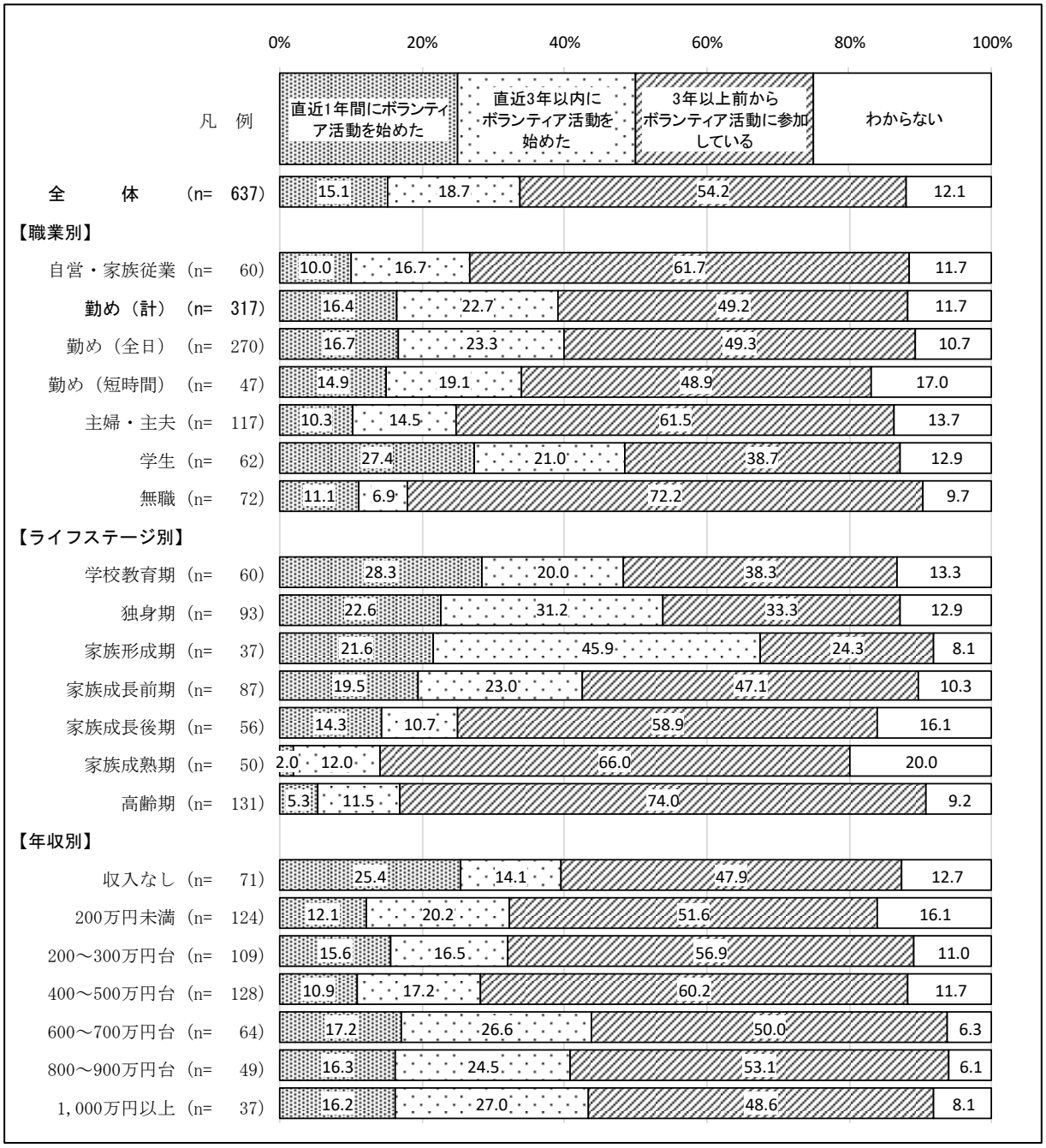
図表19. ボランティア活動の参加歴【エリア別／性・年代別】



職業別にみると、「直近１年間にボランティア活動を始めた」では、学生が 27.4％で最も高かった。「3 年以上前からボランティア活動に参加している」では、無職が 72.2％で最も高かった。

ライフステージ別にみると、「3 年以上前からボランティア活動に参加している」では、高齢期が 74.0％で最も高かった。

図表20. ボランティア活動の参加歴【職業別／ライフステージ別／年収別】

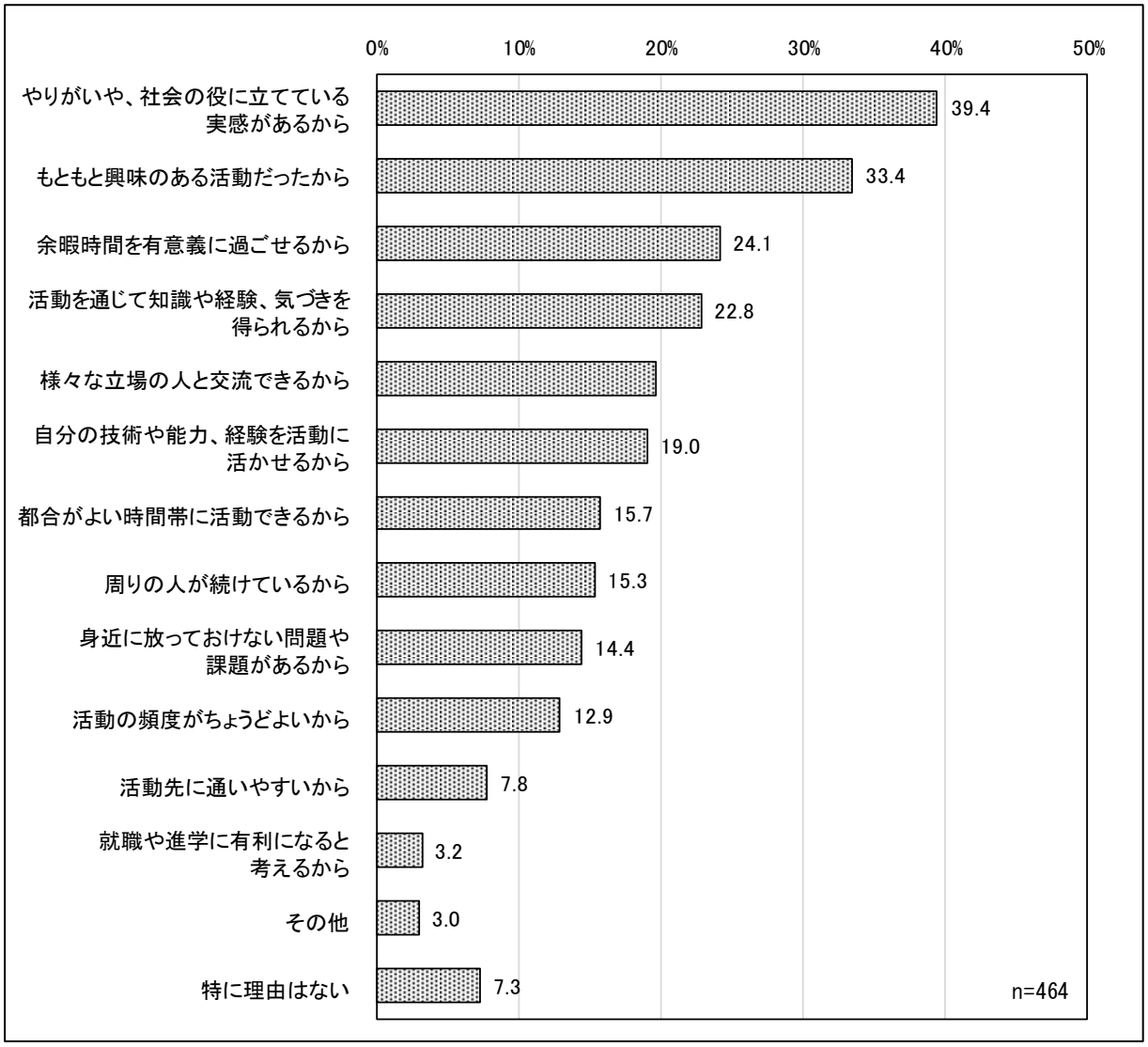


１－５ ボランティア活動を続けている理由

（Q4 で 2 または 3 と答えた方）

Q5　あなたがボランティア活動を続けている理由について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

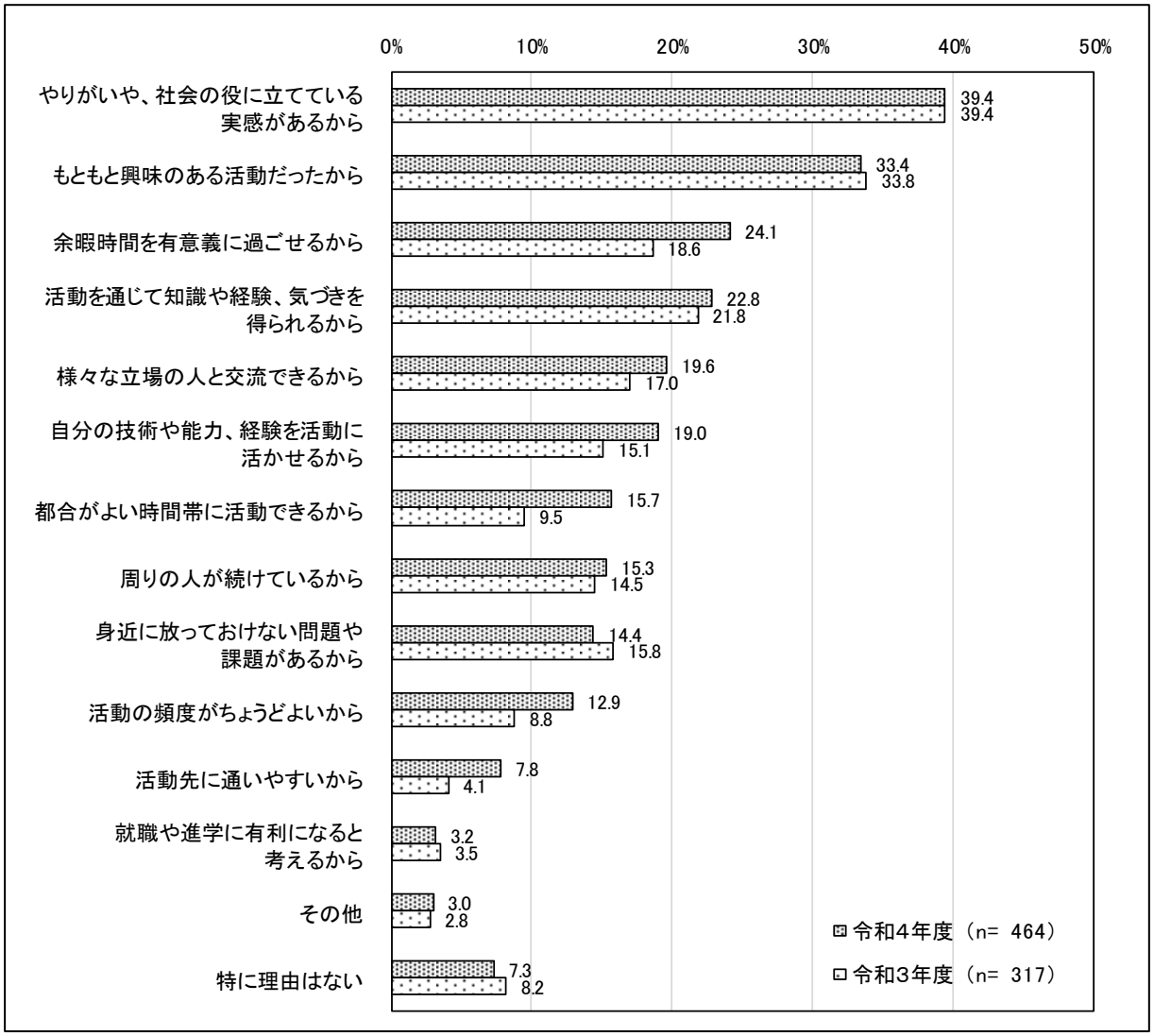
図表21. ボランティア活動を続けている理由



1 年以上前にボランティア活動を始めた 464 人がボランティア活動を続けている理由は、「やりがいや、社会の役に立てている実感があるから」が 39.4％で最も高かった。次いで、「もともと興味のある活動だったかから」が 33.4％、「余暇時間を有意義に過ごせるから」が 24.1％であった。

令和３年度と比較すると、増加幅が５ポイント以上の項目は、「余暇時間を有意義に過ごせるから」、「都合がよい時間帯に活動できるから」であった。

図表22. ボランティア活動を続けている理由【経年比較】



エリア別にみると、「活動を通じて知識や経験、気づきを得られるから」では、区部（計）が25.9%で、市町村部（計）の17.2%より8.7ポイント高かった。

性・年代別にみると、男性（計）では、「やりがいや、社会の役に立てている実感があるから」が42.9%、「自分の技術や能力、経験を活動に活かせるから」が21.7%、「周りの人が続けているから」が20.5%で、それぞれ女性（計）より5ポイント以上高かった。「都合がよい時間帯に活動できるから」では、女性（計）が19.7%で、男性（計）の12.6%より7.1ポイント高かった。

図表23. ボランティア活動を続けている理由【エリア別／性・年代別】

	n	やりがいや、社会の役に立てている実感があるから	もともと興味のある活動だったから	余暇時間を有意義に過ごせるから	活動を通じて知識や経験、気づきを得られるから	様々な立場の人と交流できるから	自分の技術や能力、経験を活動に活かせるから	都合がよい時間帯に活動できるから	周りの人が続けているから	身近に放っておけない問題や課題があるから	活動の頻度がちょうどよいから	活動先に通いやすいから	就職や進学に有利になると考えるから	その他	特に理由はない
全体	464	39.4	33.4	24.1	22.8	19.6	19.0	15.7	15.3	14.4	12.9	7.8	3.2	3.0	7.3
【エリア別】															
区部（計）	301	39.5	32.6	24.6	25.9	19.9	20.6	15.6	15.0	14.3	12.3	8.0	4.0	2.7	5.6
センター・コア	95	40.0	35.8	25.3	17.9	18.9	22.1	16.8	11.6	12.6	14.7	5.3	2.1	1.1	7.4
区部東部・北部	74	39.2	28.4	17.6	16.2	13.5	16.2	14.9	17.6	12.2	9.5	10.8	4.1	5.4	5.4
区部西部・南部	132	39.4	32.6	28.0	37.1	24.2	22.0	15.2	15.9	16.7	12.1	8.3	5.3	2.3	4.5
市町村部（計）	163	39.3	35.0	23.3	17.2	19.0	16.0	16.0	16.0	14.7	14.1	7.4	1.8	3.7	10.4
多摩東部	74	33.8	37.8	28.4	23.0	23.0	20.3	10.8	14.9	18.9	6.8	4.1	1.4	5.4	9.5
多摩中央部北	16	56.3	25.0	12.5	18.8	6.3	12.5	6.3	18.8	12.5	6.3	－	－	－	25.0
多摩中央部南	64	39.1	34.4	21.9	12.5	18.8	10.9	25.0	17.2	10.9	23.4	14.1	3.1	1.6	7.8
多摩西部・島しょ	9	55.6	33.3	11.1	－	11.1	22.2	11.1	11.1	11.1	22.2	－	－	11.1	11.1
【性・年代別】															
男性（計）	254	42.9	33.1	23.2	20.9	20.1	21.7	12.6	20.5	13.0	13.8	6.7	1.6	2.4	7.5
15～19歳	13	61.5	53.8	7.7	23.1	15.4	15.4	7.7	23.1	7.7	7.7	7.7	7.7	－	－
20代	36	47.2	44.4	33.3	19.4	13.9	27.8	8.3	30.6	16.7	11.1	8.3	5.6	－	－
30代	30	40.0	26.7	13.3	23.3	13.3	23.3	16.7	26.7	10.0	6.7	3.3	－	3.3	－
40代	42	45.2	45.2	19.0	23.8	19.0	21.4	14.3	19.0	16.7	16.7	11.9	2.4	2.4	2.4
50代	42	42.9	26.2	28.6	9.5	19.0	16.7	2.4	16.7	2.4	16.7	2.4	－	－	26.2
60代	36	27.8	25.0	8.3	25.0	22.2	16.7	8.3	25.0	16.7	2.8	5.6	－	5.6	5.6
70代	55	45.5	25.5	34.5	23.6	29.1	25.5	23.6	10.9	16.4	23.6	7.3	－	3.6	9.1
女性（計）	208	35.6	33.7	25.5	25.5	19.2	15.9	19.7	9.1	16.3	12.0	8.7	5.3	3.8	7.2
15～19歳	14	64.3	57.1	21.4	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	21.4	7.1	14.3	28.6	－	－
20代	23	43.5	30.4	21.7	17.4	8.7	17.4	13.0	8.7	17.4	4.3	13.0	30.4	4.3	4.3
30代	25	20.0	40.0	24.0	8.0	12.0	4.0	4.0	12.0	16.0	4.0	4.0	－	8.0	4.0
40代	33	42.4	33.3	18.2	24.2	18.2	18.2	24.2	12.1	3.0	9.1	12.1	－	6.1	12.1
50代	26	26.9	30.8	26.9	30.8	15.4	15.4	7.7	7.7	11.5	11.5	7.7	－	7.7	15.4
60代	32	25.0	34.4	28.1	25.0	9.4	12.5	25.0	3.1	15.6	15.6	3.1	－	－	6.3
70代	55	38.2	27.3	30.9	34.5	32.7	21.8	30.9	9.1	25.5	20.0	9.1	－	1.8	5.5

（人）　（%）

職業別にみると、自営・家族従業では、「やりがいや、社会の役に立てている実感があるから」が 46.8%で、全体の 39.4%より 7.4 ポイント高かった。一方、「もともと興味のある活動だったから」は 19.1%で、全体の 33.4%より 14.3 ポイント低かった。

図表24. ボランティア活動を続けている理由【職業別／ライフステージ別／年収別】

	n	やりがいや、社会の役に立てている実感があるから	もともと興味のある活動だったから	余暇時間を有意義に過ごせるから	活動を通じて知識や経験、気づきを得られるから	様々な立場の人と交流できるから	自分の技術や能力、経験を活動に活かせるから	都合がよい時間帯に活動できるから	周りの人が続けているから	身近に放っておけない問題や課題があるから	活動の頻度がちょうどよいから	活動先に通いやすいから	就職や進学に有利になると考えるから	その他	特に理由はない
全体	464	39.4	33.4	24.1	22.8	19.6	19.0	15.7	15.3	14.4	12.9	7.8	3.2	3.0	7.3
【職業別】															
自営・家族従業	47	46.8	19.1	27.7	23.4	23.4	23.4	10.6	12.8	12.8	14.9	2.1	2.1	2.1	17.0
勤め（計）	228	37.3	38.6	23.7	21.9	17.1	18.4	11.4	19.7	14.0	11.4	7.0	3.1	2.6	6.1
勤め（全日）	196	38.8	37.8	22.4	20.9	17.9	19.4	9.2	21.4	13.3	10.7	6.6	3.6	2.6	5.1
勤め（短時間）	32	28.1	43.8	31.3	28.1	12.5	12.5	25.0	9.4	18.8	15.6	9.4	－	3.1	12.5
主婦・主夫	89	34.8	29.2	23.6	27.0	21.3	15.7	27.0	9.0	18.0	13.5	11.2	－	3.4	6.7
学生	37	54.1	43.2	16.2	27.0	18.9	13.5	10.8	18.9	13.5	8.1	16.2	18.9	－	2.7
無職	57	42.1	24.6	26.3	15.8	26.3	22.8	22.8	8.8	12.3	21.1	5.3	－	7.0	8.8
【ライフステージ別】															
学校教育期	35	54.3	42.9	17.1	25.7	17.1	14.3	11.4	20.0	14.3	8.6	17.1	20.0	－	2.9
独身期	60	48.3	38.3	23.3	18.3	13.3	25.0	13.3	20.0	18.3	6.7	6.7	8.3	－	－
家族形成期	26	38.5	50.0	34.6	11.5	11.5	15.4	7.7	26.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	－
家族成長前期	61	31.1	19.7	11.5	21.3	18.0	9.8	6.6	23.0	11.5	13.1	9.8	1.6	9.8	8.2
家族成長後期	39	28.2	28.2	23.1	17.9	17.9	15.4	15.4	10.3	7.7	10.3	5.1	－	－	12.8
家族成熟期	39	23.1	28.2	20.5	12.8	12.8	10.3	17.9	5.1	12.8	15.4	5.1	2.6	5.1	15.4
高齢期	112	41.1	28.6	30.4	32.1	30.4	23.2	25.0	11.6	20.5	21.4	9.8	－	0.9	8.0
【年収別】															
収入なし	44	40.9	38.6	18.2	22.7	15.9	13.6	13.6	15.9	18.2	6.8	9.1	9.1	4.5	6.8
200万円未満	89	32.6	29.2	25.8	24.7	21.3	15.7	25.8	11.2	11.2	19.1	10.1	2.2	3.4	10.1
200～300万円台	80	42.5	32.5	30.0	20.0	22.5	21.3	20.0	15.0	16.3	17.5	6.3	－	1.3	7.5
400～500万円台	99	41.4	32.3	22.2	26.3	24.2	21.2	11.1	17.2	16.2	12.1	4.0	1.0	5.1	6.1
600～700万円台	49	51.0	42.9	28.6	30.6	16.3	28.6	10.2	22.4	14.3	10.2	12.2	6.1	2.0	－
800～900万円台	38	31.6	28.9	26.3	21.1	15.8	23.7	7.9	15.8	5.3	5.3	5.3	－	2.6	5.3
1,000万円以上	28	39.3	39.3	21.4	14.3	14.3	14.3	10.7	17.9	17.9	7.1	7.1	10.7	－	10.7

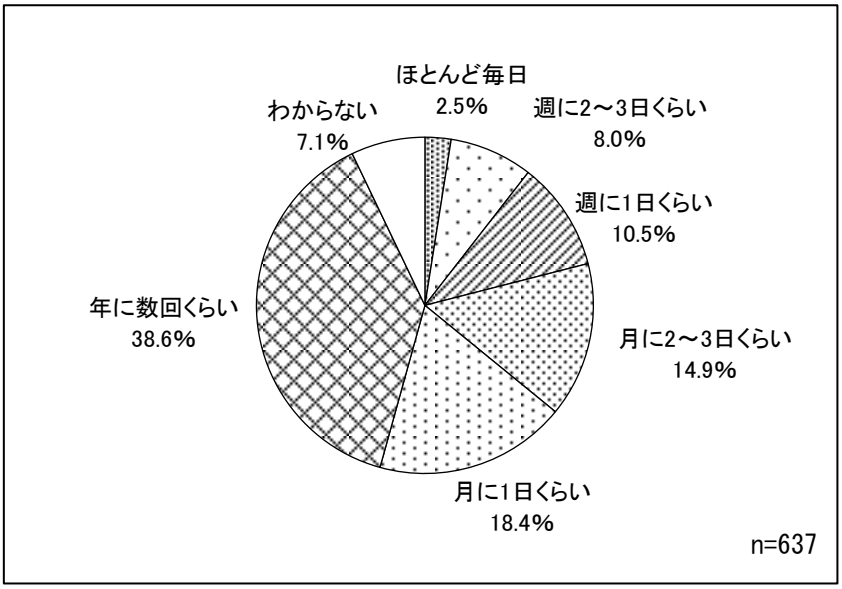
（人）　（%）

１－６ ボランティア活動の参加頻度

（Q2 で 1～16 のいずれかを答えた方）

Q6　あなたは直近 1 年間でどの程度ボランティア活動に参加しましたか。次の中から 1 つだけお答えください。

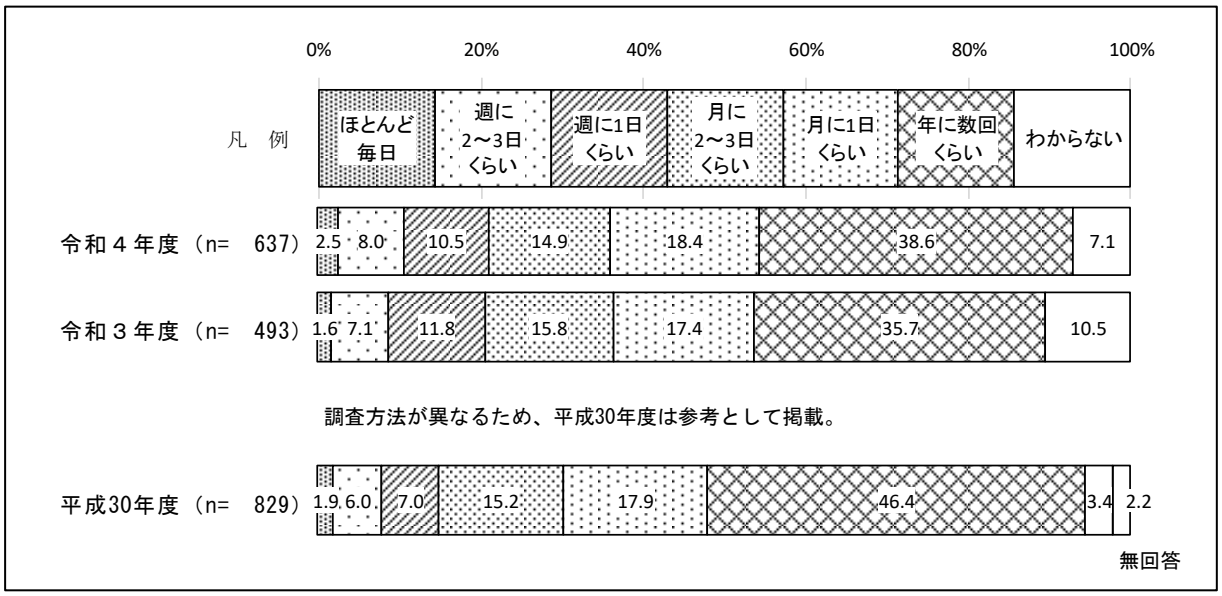
図表25. ボランティア活動の参加頻度



直近 1 年間にボランティア活動に参加した 637 人の参加頻度は、「ほとんど毎日」が 2.5%、「週に 2～3 日くらい」が 8.0%、「週に 1 日くらい」が 10.5%、「月に 2～3 日くらい」が 14.9%、「月に 1 日くらい」が 18.4%、「年に数回くらい」が 38.6%であった。

令和 3 年度と比較すると、「年に数回くらい」は 2.9 ポイントの増加であった。

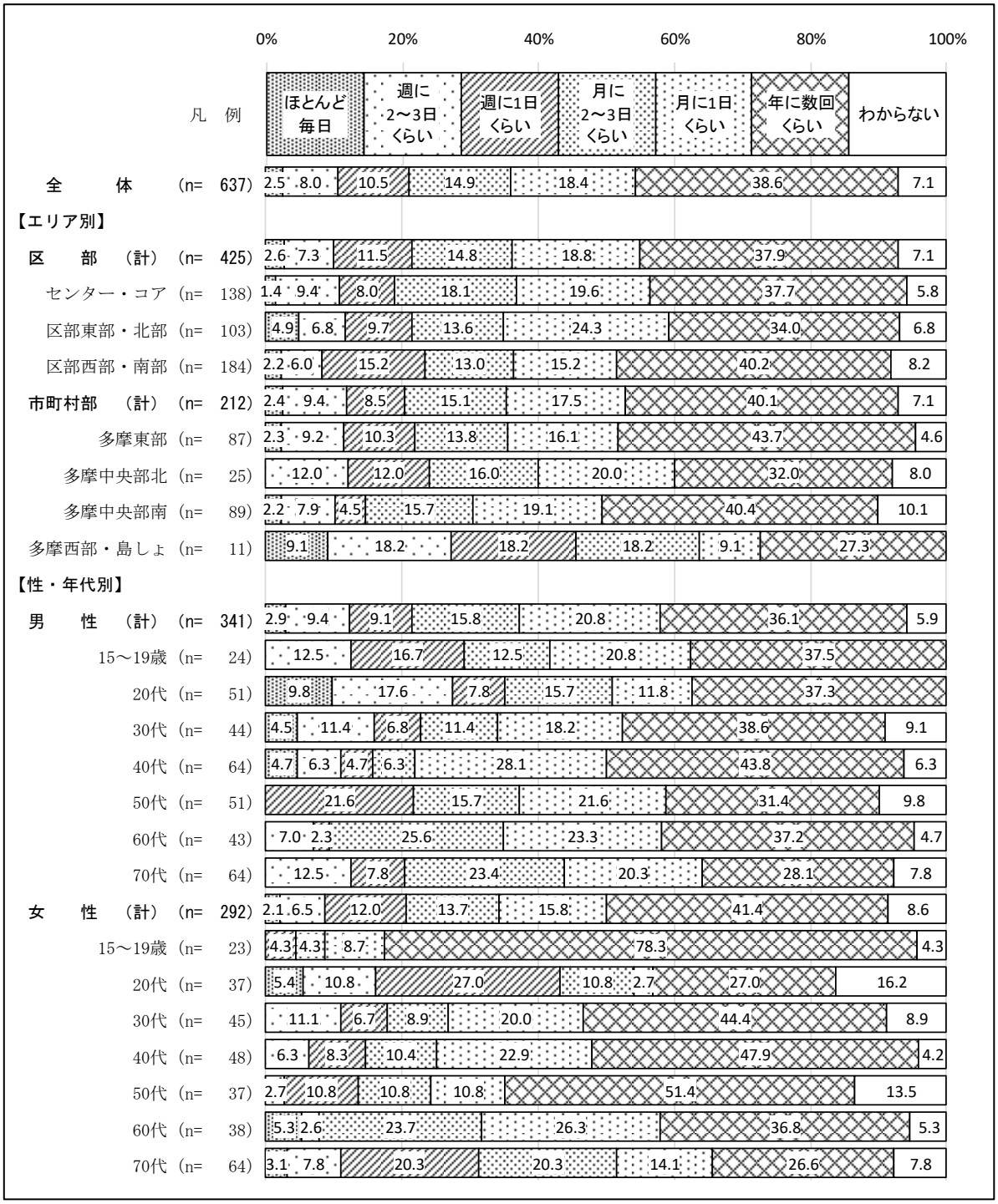
図表26. ボランティア活動の参加頻度【経年比較】



エリア別にみると、区部（計）と市町村部（計）で差はみられなかった。区部内で比較すると、「週に１日くらい」では、区部西部・南部が 15.2%で、他の区部より５ポイント以上高かった。

性・年代別にみると、男性（計）と女性（計）で差はみられなかった。

図表27. ボランティア活動の参加頻度【エリア別／性・年代別】

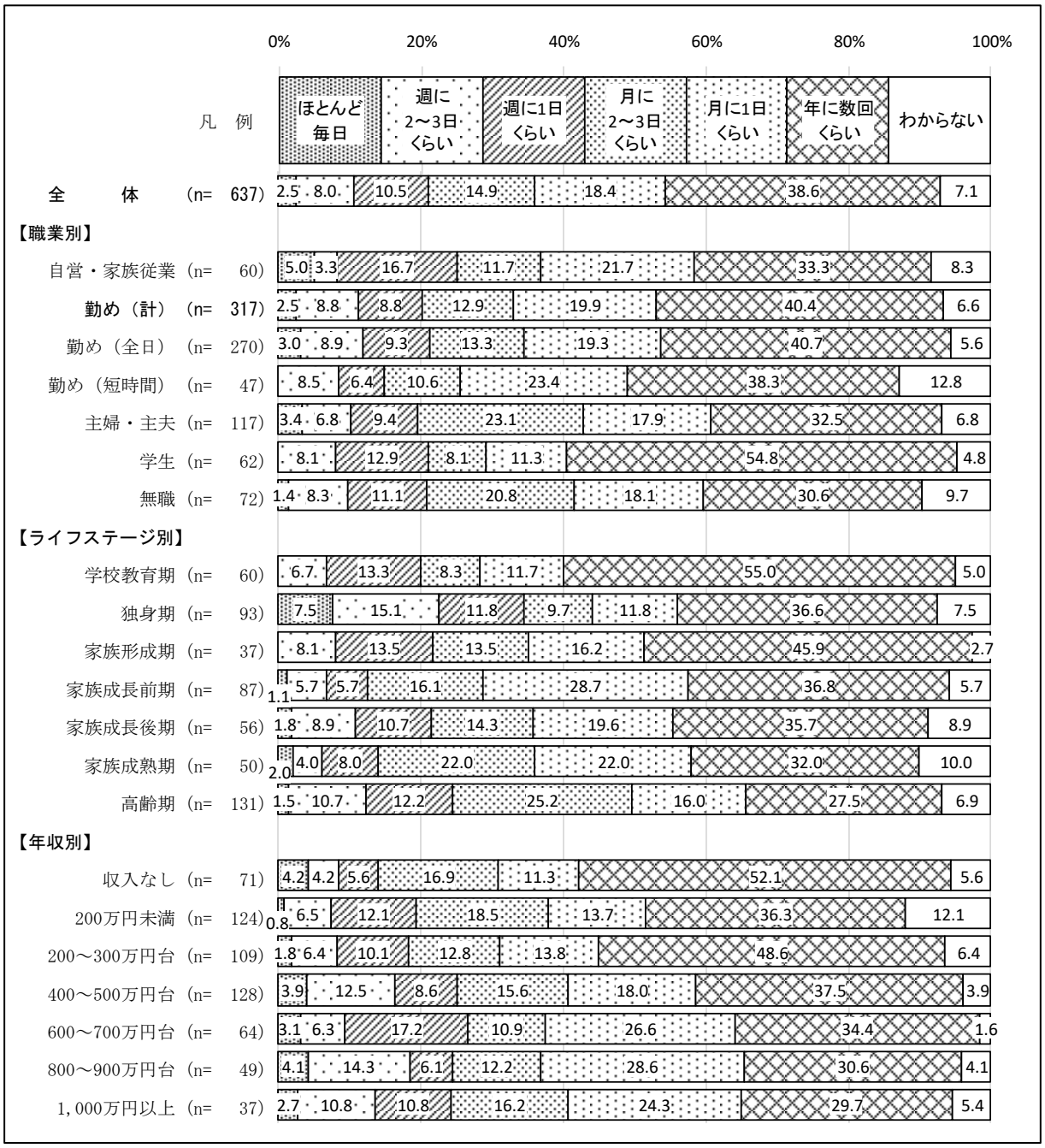


職業別にみると、主婦・主夫では、「月に 2～3 日くらい」が 23.1%で、全体の 14.9%より 8.2 ポイント高かった。学生では、「年に数回くらい」が 54.8%で、全体の 38.6%より 16.2 ポイント高かった。

ライフステージ別にみると、学校教育期では、「年に数回くらい」が 55.0%、家族成長前期では、「月に 1 日くらい」が 28.7%、高齢期では、「月に 2～3 日くらい」が 25.2%で、それぞれ全体より 10 ポイント以上高かった。

年収別にみると、年収が上がるにつれて、「年に数回くらい」の回答割合が低くなる傾向がみられた。

図表28. ボランティア活動の参加頻度【職業別／ライフステージ別／年収別】

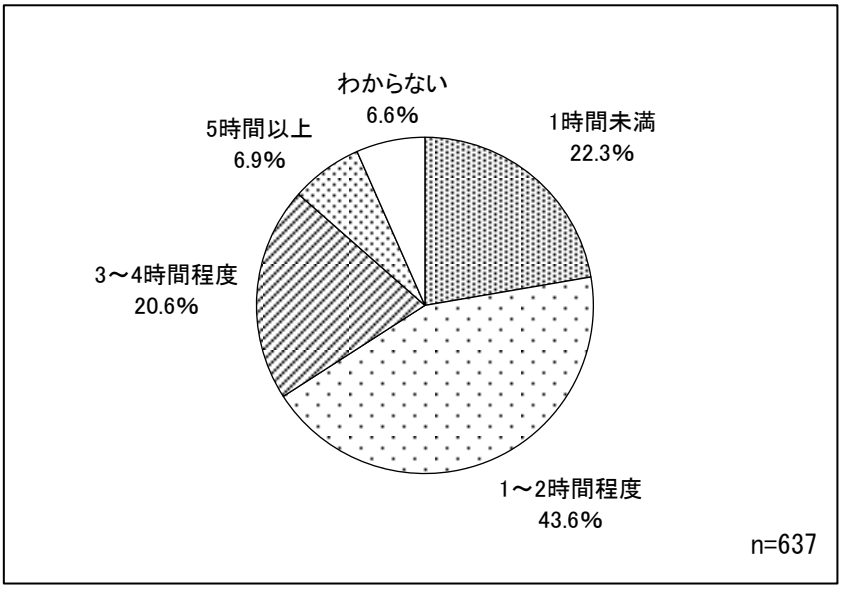


１－７ ボランティア活動の参加時間

（Q2 で 1～16 のいずれかを答えた方）

Q7　あなたは直近 1 年間で 1 回につき平均どのくらいの時間、ボランティア活動に参加しましたか。次の中から 1 つだけお答えください。
（複数の活動を実施されている方は、そのうち中心的に行っている活動についてお答えください。）

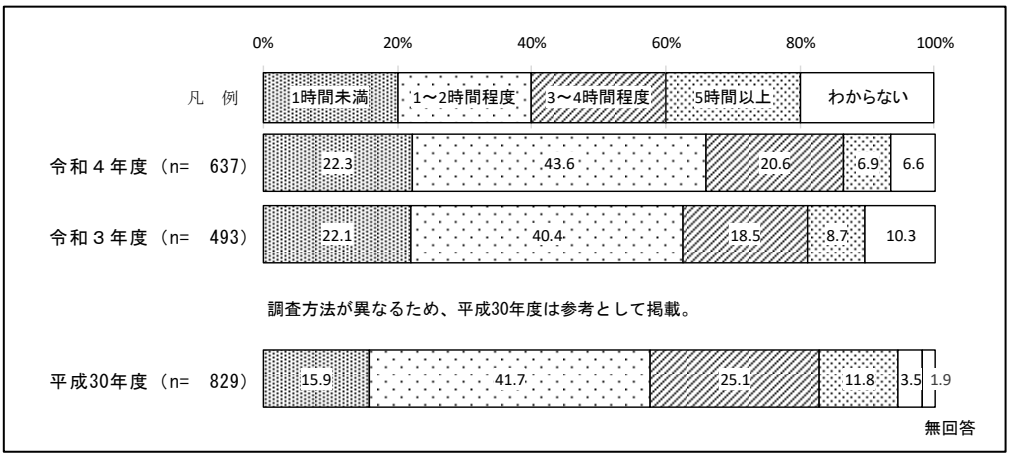
図表29. ボランティア活動の参加時間



直近 1 年間にボランティア活動に参加した 637 人の参加時間は、「1 時間未満」が 22.3%、「1～2 時間程度」が 43.6%、「3～4 時間程度」が 20.6%、「5 時間以上」が 6.9%であった。

令和 3 年度と比較すると、「1～2 時間程度」は 3.2 ポイントの増加、「3～4 時間程度」は 2.1 ポイントの増加であった。

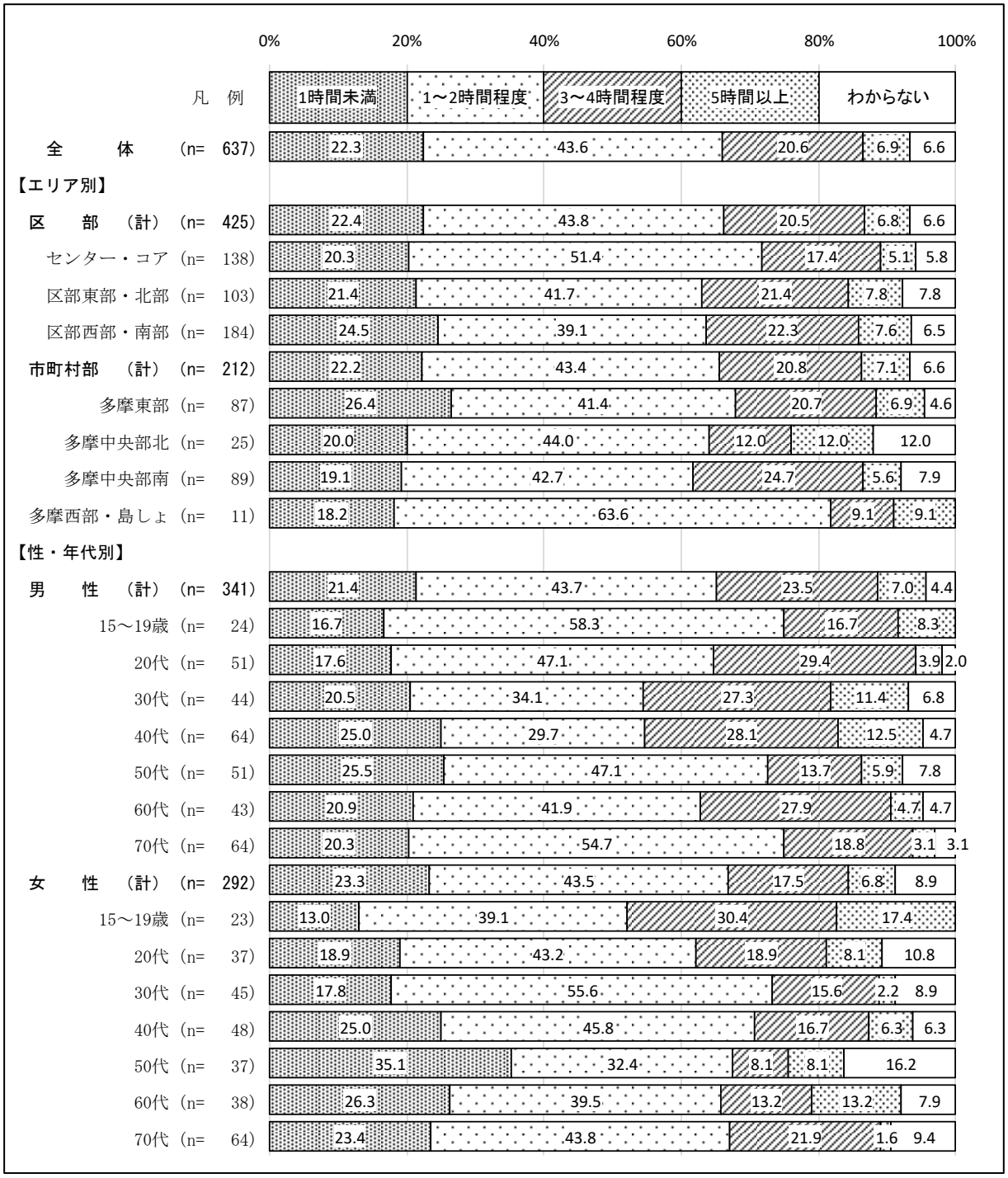
図表30. ボランティア活動の参加時間【経年比較】



エリア別にみると、区部（計）と市町村部（計）で差はみられなかった。

性・年代別にみると、「3～4 時間程度」では、男性（計）が 23.5％で、女性（計）の 17.5％より 6.0 ポイント高かった。

図表31. ボランティア活動の参加時間【エリア別／性・年代別】

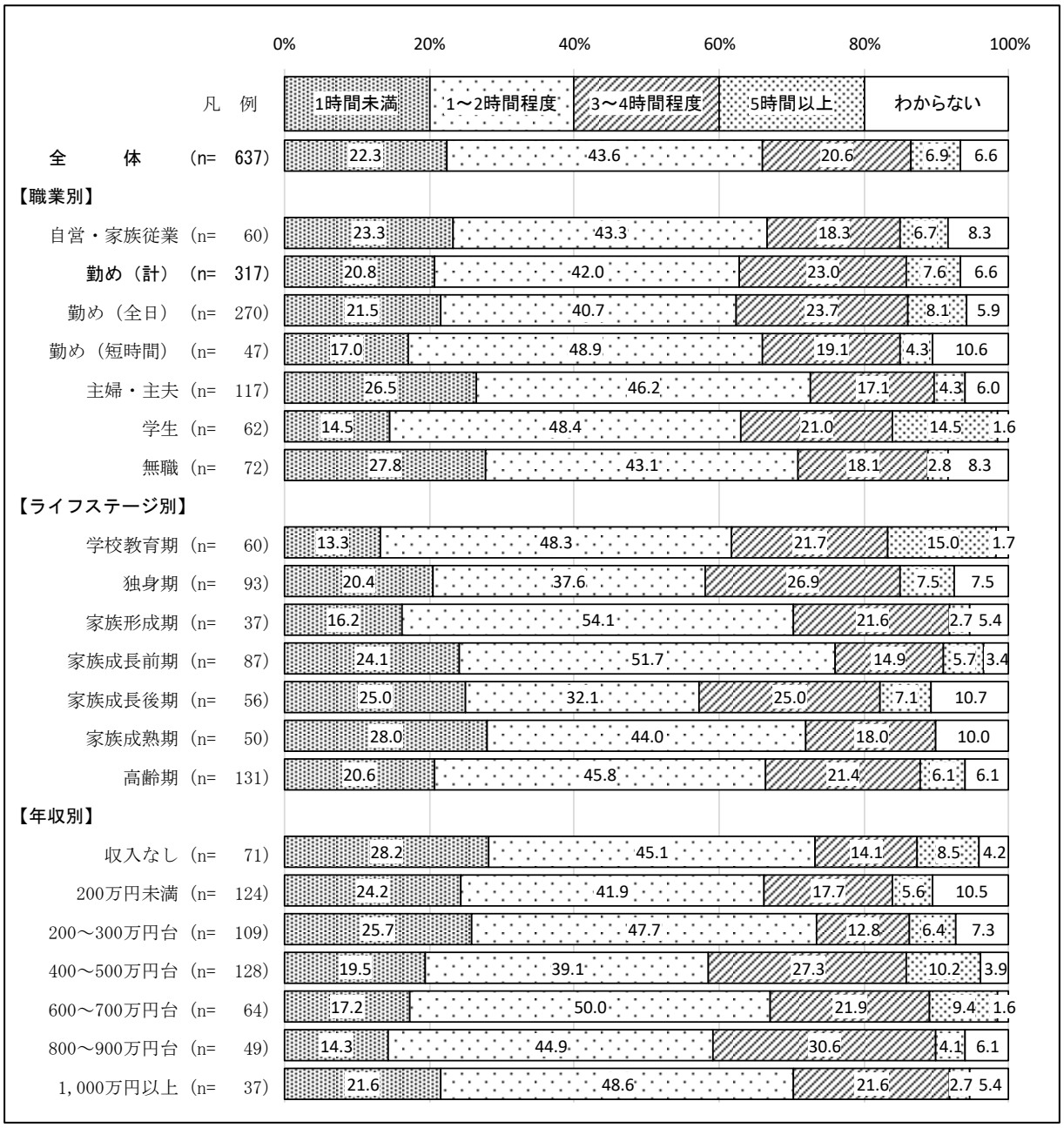


職業別にみると、「1 時間未満」では、無職が 27.8%、主婦・主夫が 26.5%で、他の職業に比べ高かった。「5 時間以上」では、学生が 14.5%で、全体の 6.9%より 7.6 ポイント高かった。

ライフステージ別にみると、「5 時間以上」では、学校教育期が 15.0%で、全体の 6.9%より 8.1 ポイント高かった。

年収別にみると、「3～4 時間程度」では、800～900 万円台が 30.6%で、全体の 20.6%より 10.0 ポイント高かった。

図表32. ボランティア活動の参加時間【職業別／ライフステージ別／年収別】

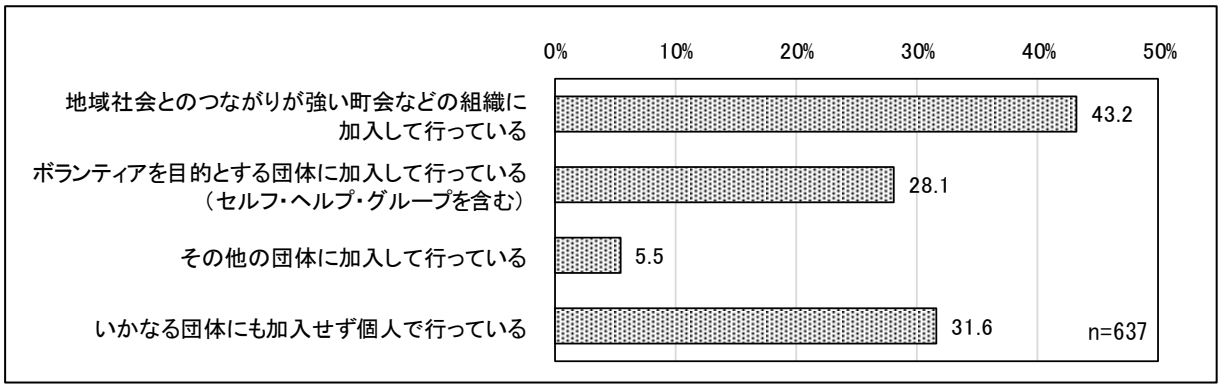


１－８ ボランティア活動の団体加入状況

（Q2 で 1～16 のいずれかを答えた方）

Q8　あなたは、ボランティア活動を団体などに加入して行っていますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

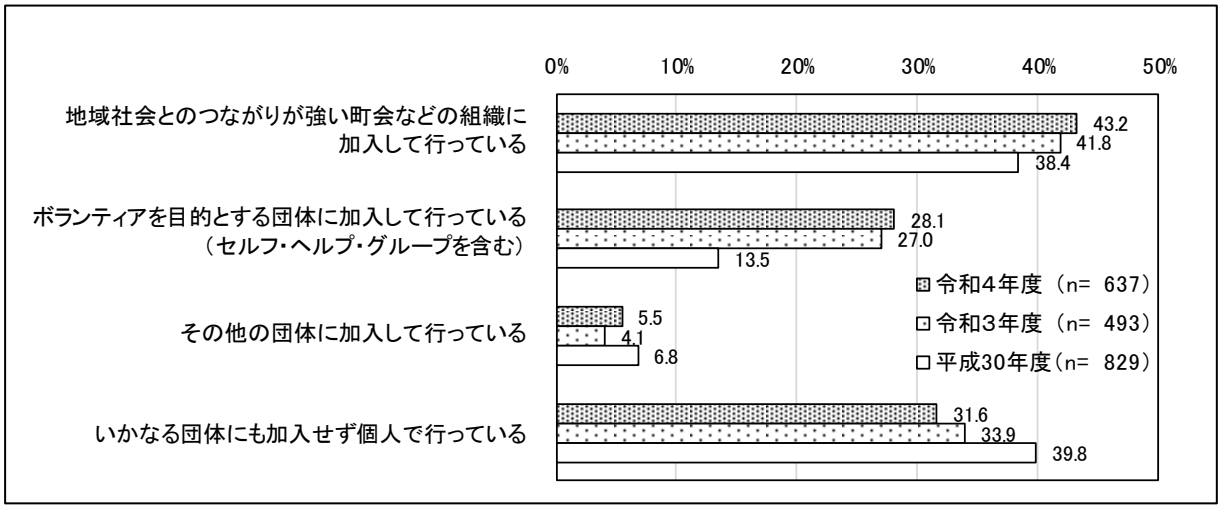
図表33. ボランティア活動の団体加入状況



直近 1 年間にボランティア活動に参加した 637 人の団体加入状況は、「地域社会とのつながりが強い町会などの組織に加入して行っている」が 43.2%、「ボランティアを目的とする団体に加入して行っている」が 28.1%、「その他の団体に加入して行っている」が 5.5%であった。また、「いかなる団体にも加入せず個人で行っている」は 31.6%であった。

令和 3 年度と比較すると、「地域社会とのつながりが強い町会などの組織に加入して行っている」は 1.4 ポイントの増加、「ボランティアを目的とする団体に加入して行っている」は 1.1 ポイントの増加であった。

図表34. ボランティア活動の団体加入状況【経年比較】



エリア別にみると、「地域社会とのつながりが強い町会などの組織に加入して行っている」では、市町村部（計）が 45.3%で、区部（計）の 42.1%より 3.2 ポイント高かった。「ボランティアを目的とする団体に加入して行っている」では、区部（計）が 29.4%で、市町村部（計）の 25.5%より 3.9 ポイント高かった。

性・年代別にみると、「地域社会とのつながりが強い町会などの組織に加入して行っている」では、男性（計）が 47.8%で、女性（計）の 37.7%より 10.1 ポイント高かった。

図表35. ボランティア活動の団体加入状況【エリア別／性・年代別】

	n	地域社会とのつながりが強い町会などの組織に加入して行っている	ボランティアを目的とする団体に加入して行っている（セルフ・ヘルプ・グループを含む）	その他の団体に加入して行っている	いかなる団体にも加入せず個人で行っている
全体	637	43.2	28.1	5.5	31.6
【エリア別】					
区部（計）	425	42.1	29.4	5.9	32.2
センター・コア	138	43.5	29.7	8.0	29.7
区部東部・北部	103	49.5	28.2	2.9	28.2
区部西部・南部	184	37.0	29.9	6.0	36.4
市町村部（計）	212	45.3	25.5	4.7	30.2
多摩東部	87	47.1	29.9	5.7	24.1
多摩中央部北	25	32.0	40.0	12.0	20.0
多摩中央部南	89	46.1	16.9	2.2	39.3
多摩西部・島しょ	11	54.5	27.3	－	27.3
【性・年代別】					
男性（計）	341	47.8	28.4	5.9	30.5
15～19歳	24	45.8	29.2	－	29.2
20代	51	60.8	45.1	2.0	17.6
30代	44	45.5	29.5	2.3	36.4
40代	64	34.4	26.6	4.7	39.1
50代	51	41.2	23.5	5.9	43.1
60代	43	55.8	20.9	16.3	16.3
70代	64	53.1	25.0	7.8	28.1
女性（計）	292	37.7	28.1	5.1	32.5
15～19歳	23	21.7	30.4	17.4	34.8
20代	37	29.7	43.2	5.4	29.7
30代	45	42.2	22.2	2.2	35.6
40代	48	22.9	31.3	4.2	41.7
50代	37	43.2	24.3	5.4	32.4
60代	38	44.7	15.8	10.5	28.9
70代	64	48.4	29.7	－	26.6

（人）　（%）

職業別にみると、いずれの職業でも差はみられなかった。

ライフステージ別にみると、「地域社会とのつながりが強い町会などの組織に加入して行っている」では、家族形成期が 64.9%、家族成熟期が 52.0%、高齢期が 52.7%であった。

年収別にみると、「地域社会とのつながりが強い町会などの組織に加入して行っている」では、1,000 万円以上が 59.5%で、全体の 43.2%より 16.3 ポイント高かった。

図表36. ボランティア活動の団体加入状況【職業別／ライフステージ別／年収別】

	n	地域社会とのつながりが強い町会などの組織に加入して行っている	ボランティアを目的とする団体に加入して行っている（セルフ・ヘルプ・グループを含む）	その他の団体に加入して行っている	いかなる団体にも加入せず個人で行っている
全体	637	43.2	28.1	5.5	31.6
【職業別】					
自営・家族従業	60	45.0	26.7	5.0	33.3
勤め（計）	317	46.1	31.5	4.7	28.7
勤め（全日）	270	47.0	32.6	4.8	28.1
勤め（短時間）	47	40.4	25.5	4.3	31.9
主婦・主夫	117	41.9	24.8	1.7	35.0
学生	62	37.1	29.0	9.7	29.0
無職	72	41.7	19.4	9.7	36.1
【ライフステージ別】					
学校教育期	60	36.7	28.3	10.0	30.0
独身期	93	41.9	37.6	1.1	34.4
家族形成期	37	64.9	35.1	2.7	10.8
家族成長前期	87	39.1	26.4	3.4	35.6
家族成長後期	56	30.4	35.7	5.4	32.1
家族成熟期	50	52.0	18.0	10.0	32.0
高齢期	131	52.7	29.0	5.3	22.9
【年収別】					
収入なし	71	35.2	18.3	8.5	40.8
200万円未満	124	34.7	28.2	2.4	37.1
200～300万円台	109	45.9	20.2	3.7	35.8
400～500万円台	128	46.1	32.8	10.2	23.4
600～700万円台	64	56.3	32.8	－	21.9
800～900万円台	49	40.8	38.8	8.2	30.6
1,000万円以上	37	59.5	32.4	8.1	21.6

（人）　（%）

ボランティア活動の参加頻度を団体加入状況別にみると、「ボランティアを目的とする団体に加入して行っている」では、「週に 2～3 日くらい」が 16.2%、「週に 1 日くらい」が 19.6%で、他より高かった。「いかなる団体にも加入せず個人で行っている」では、「年に数回くらい」が 5 割を超えた。

図表37. ボランティア活動の参加頻度【団体加入状況別】

	n	ほとんど毎日	週に2～3日くらい	週に1日くらい	月に2～3日くらい	月に1日くらい	年に数回くらい	わからない
全体	637	2.5	8.0	10.5	14.9	18.4	38.6	7.1
【団体加入状況別】								
地域社会とのつながりが強い町会などの組織に加入して行っている	275	2.9	10.5	11.6	20.4	22.2	30.2	2.2
ボランティアを目的とする団体に加入して行っている（セルフ・ヘルプ・グループを含む）	179	6.1	16.2	19.6	19.6	16.2	21.2	1.1
その他の団体に加入して行っている	35	－	11.4	5.7	14.3	5.7	62.9	－
いかなる団体にも加入せず個人で行っている	201	1.0	2.0	6.5	5.5	14.4	52.2	18.4

（人）　（%）

ボランティア活動の参加時間を団体加入状況別にみると、「1～2 時間程度」では、「地域社会とのつながりが強い町会などの組織に加入して行っている」が 46.9%、「ボランティアを目的とする団体に加入している」が 48.0%で、全体の 43.6%と比べ高かった。「1 時間未満」では、「いかなる団体にも加入せず個人で行っている」が 27.9%で、全体の 22.3%より 5.6 ポイント高かった。

図表38. ボランティア活動の参加時間【団体加入状況別】

	n	1時間未満	1～2時間程度	3～4時間程度	5時間以上	わからない
全体	637	22.3	43.6	20.6	6.9	6.6
【団体加入状況別】						
地域社会とのつながりが強い町会などの組織に加入して行っている	275	24.4	46.9	21.1	5.5	2.2
ボランティアを目的とする団体に加入して行っている（セルフ・ヘルプ・グループを含む）	179	12.3	48.0	29.6	8.4	1.7
その他の団体に加入して行っている	35	8.6	40.0	25.7	22.9	2.9
いかなる団体にも加入せず個人で行っている	201	27.9	37.3	14.9	4.0	15.9

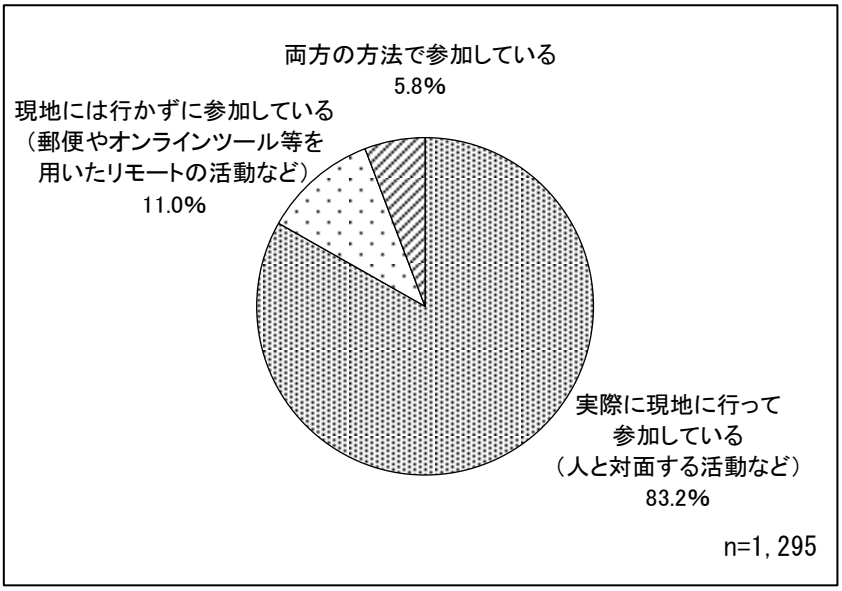
（人）　（%）

１－９ ボランティア活動の参加方法

（Q2 で 1～18 のいずれかを答えた方）

Q9　あなたは、どのようにボランティア活動に参加していますか。次の中から 1 つだけお答えください。

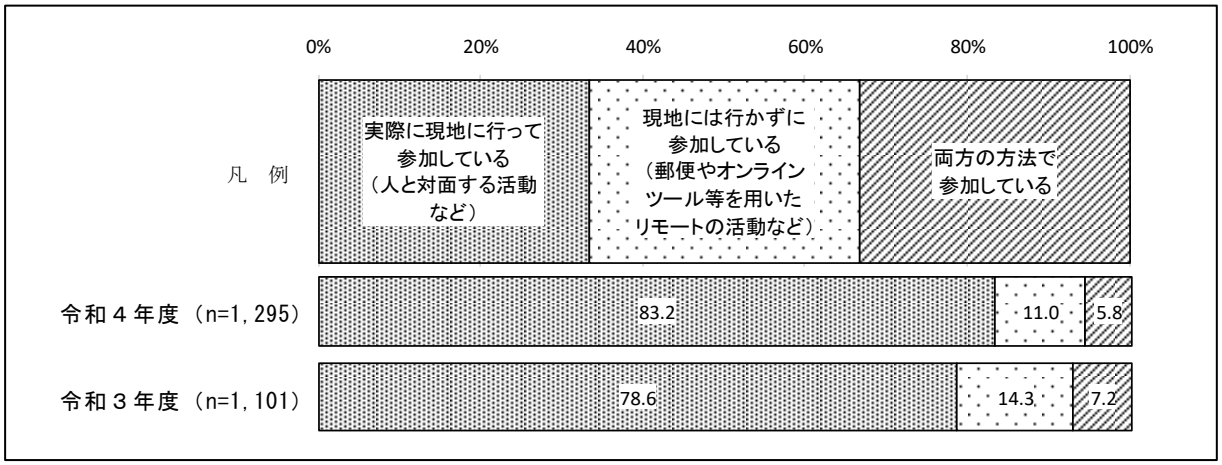
図表39. ボランティア活動の参加方法



過去にボランティア活動に参加したことがある 1,295 人の参加方法は、「実際に現地に行って参加している」が 83.2%、「現地には行かずに参加している」が 11.0%、「両方の方法で参加している」が 5.8%であった。

令和 3 年度と比較すると、「実際に現地に行って参加している」は 4.6 ポイントの増加であった。

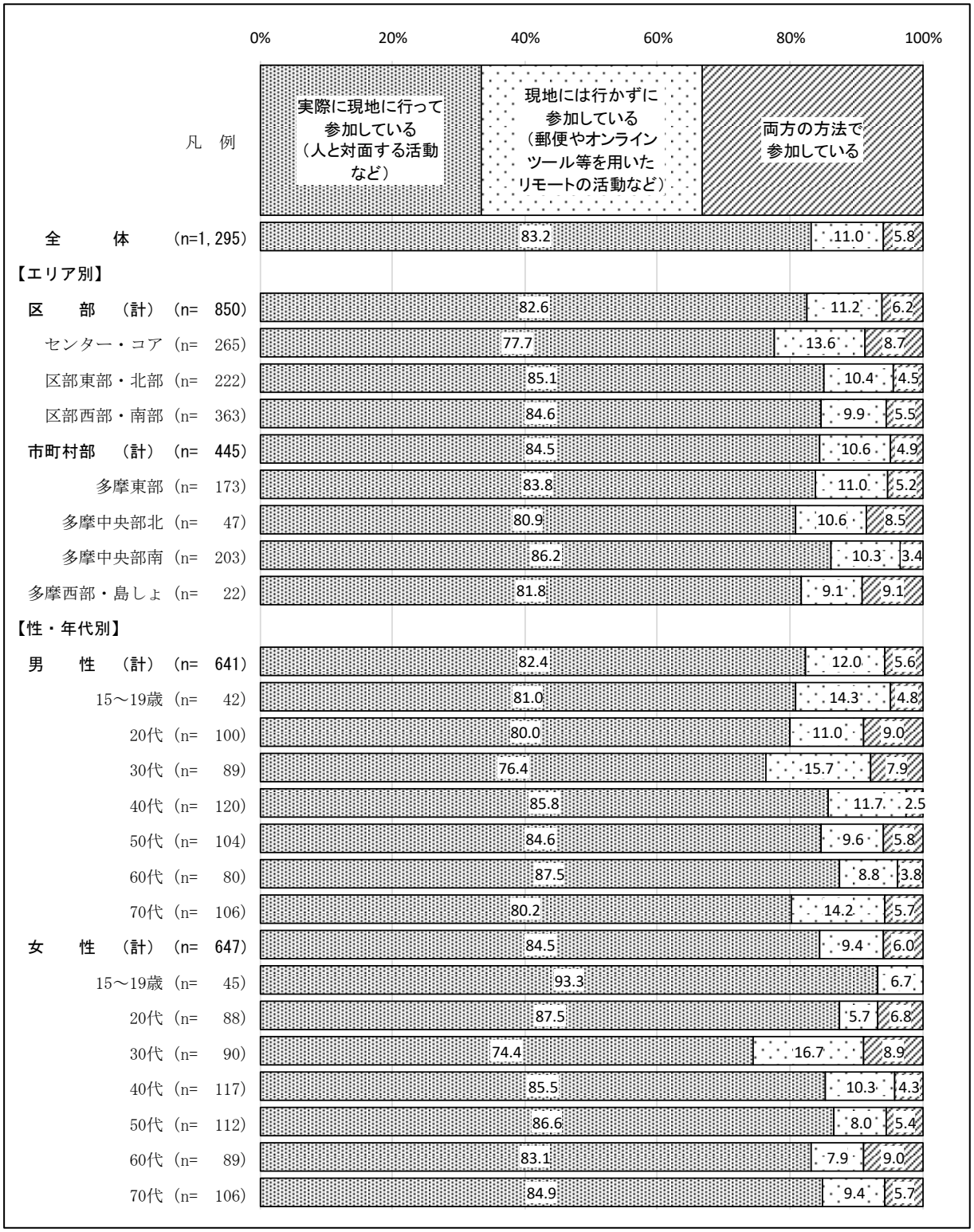
図表40. ボランティア活動の参加方法【経年比較】



エリア別にみると、「現地には行かずに参加している」では、センター・コアが 13.6%で他のエリアに比べ高かった。

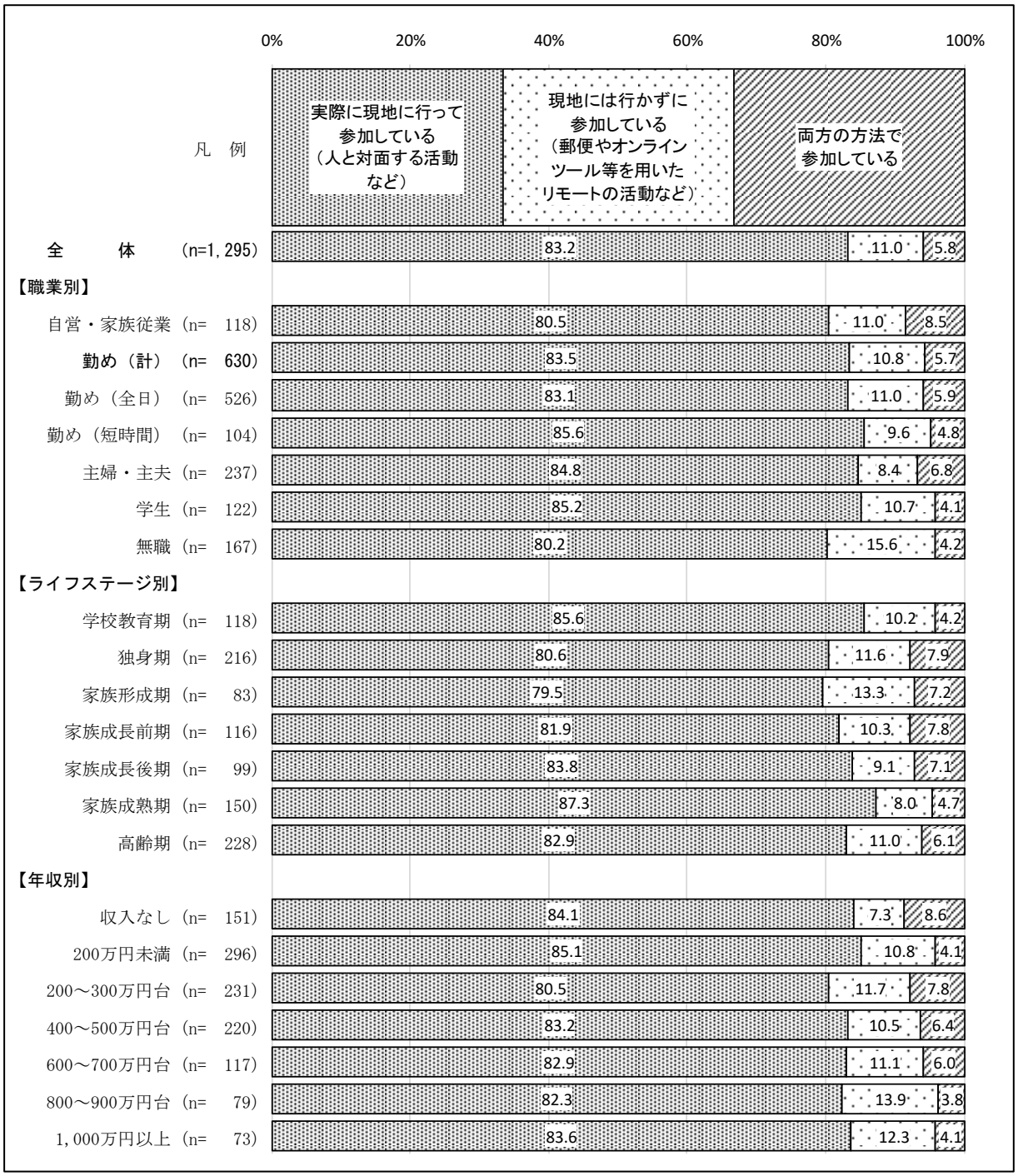
性・年代別にみると、「現地には行かずに参加している」では、男性 30 代が 15.7%、女性 30 代が 16.7%で、他の年代に比べ高かった。

図表41. ボランティア活動の参加方法【エリア別／性・年代別】



職業別にみると、「現地には行かずに参加している」では、無職が 15.6%で他の職業に比べ高かった。

図表42. ボランティア活動の参加方法【職業別／ライフステージ別／年収別】

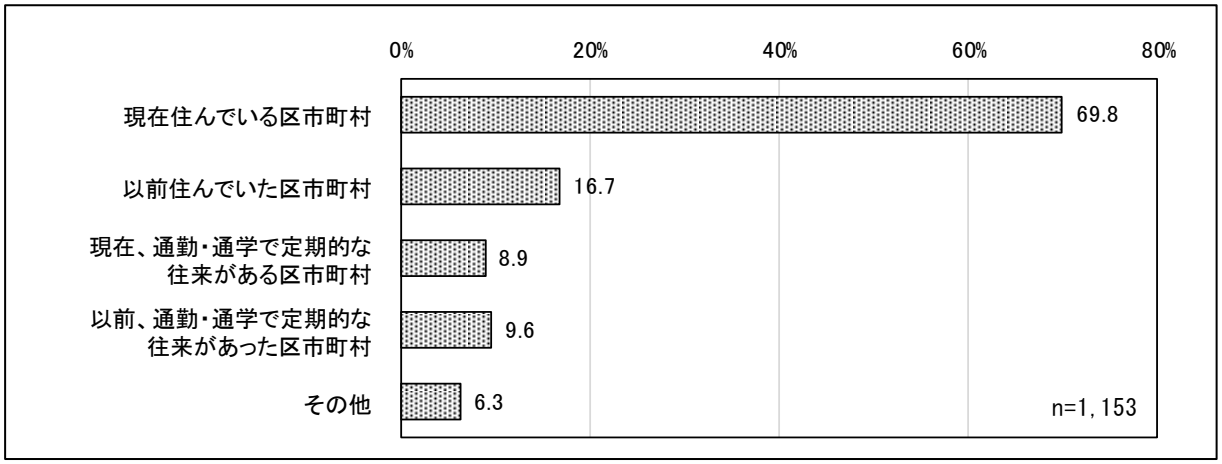


１－１０ ボランティア活動に参加する場所（現地参加）

（Q9 で 1 または 3 と答えた方）

Q10　あなたは、現地でボランティア活動に参加する際に、どこでボランティア活動に参加していますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

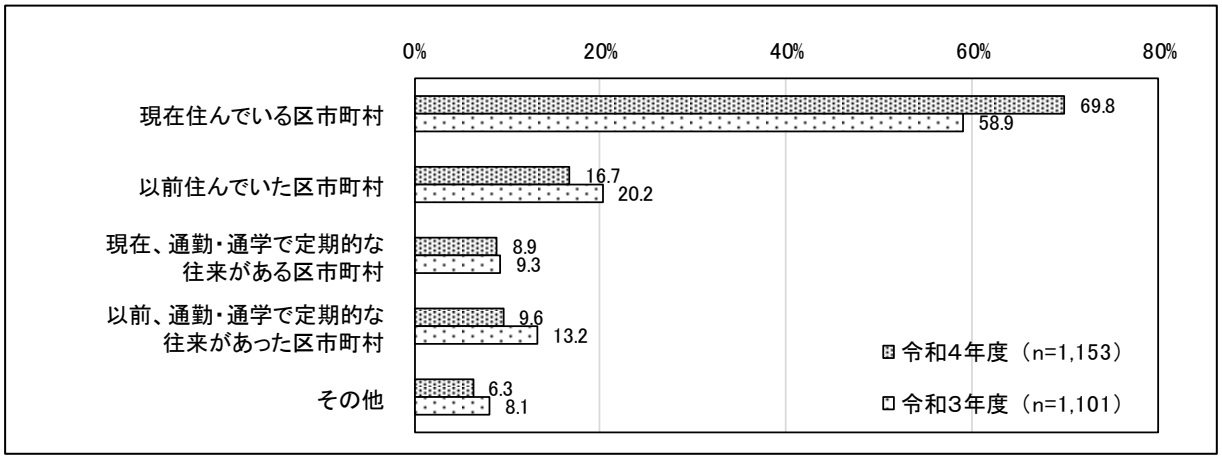
図表43. ボランティア活動に参加する場所（現地参加）



ボランティア活動に現地参加している 1,153 人の具体的な参加場所は、「現在住んでいる区市町村」が 69.8%、「以前住んでいた区市町村」が 16.7%、「現在、通勤・通学で定期的な往来がある区市町村」が 8.9%、「以前、通勤・通学で定期的な往来があった区市町村」が 9.6%であった。

令和 3 年度と比較すると、「現在住んでいる区市町村」は 10.9 ポイントの増加であった。「以前住んでいた区市町村」は 3.5 ポイントの減少、「以前、通勤・通学で定期的な往来があった区市町村」は 3.6 ポイントの減少であった。

図表44. ボランティア活動に参加する場所（現地参加）【経年比較】



エリア別にみると、「現在住んでいる区市町村」では、市町村部（計）が 72.1%で、区部（計）の 68.6%より 3.5 ポイント高かった。

性・年代別にみると、「現在住んでいる区市町村」では、男性 70 代が 81.3%、女性 70 代が 85.4%で、他の年代に比べ高かった。

図表45. ボランティア活動に参加する場所（現地参加）【エリア別／性・年代別】

	n	現在住んでいる区市町村	以前住んでいた区市町村	現在、通勤・通学で定期的な往来がある区市町村	以前、通勤・通学で定期的な往来があった区市町村	その他
全体	1,153	69.8	16.7	8.9	9.6	6.3
【エリア別】						
区部（計）	755	68.6	16.8	10.1	10.3	6.6
センター・コア	229	73.4	16.2	10.5	9.6	3.9
区部東部・北部	199	69.3	17.1	8.5	10.6	7.0
区部西部・南部	327	64.8	17.1	10.7	10.7	8.3
市町村部（計）	398	72.1	16.6	6.8	8.3	5.8
多摩東部	154	68.2	14.9	6.5	11.0	9.1
多摩中央部北	42	76.2	16.7	11.9	7.1	2.4
多摩中央部南	182	74.2	17.0	6.6	7.1	3.8
多摩西部・島しょ	20	75.0	25.0	－	－	5.0
【性・年代別】						
男性（計）	564	69.1	16.7	10.3	9.6	7.4
15～19歳	36	83.3	11.1	5.6	2.8	11.1
20代	89	62.9	22.5	15.7	18.0	6.7
30代	75	62.7	22.7	8.0	9.3	5.3
40代	106	66.0	17.9	16.0	8.5	6.6
50代	94	70.2	16.0	13.8	8.5	7.4
60代	73	64.4	15.1	4.1	9.6	12.3
70代	91	81.3	8.8	3.3	6.6	5.5
女性（計）	586	70.3	16.9	7.7	9.7	5.3
15～19歳	42	69.0	14.3	16.7	11.9	4.8
20代	83	55.4	28.9	18.1	21.7	1.2
30代	75	53.3	21.3	13.3	14.7	6.7
40代	105	66.7	14.3	5.7	11.4	8.6
50代	103	75.7	17.5	1.9	3.9	3.9
60代	82	81.7	17.1	6.1	7.3	2.4
70代	96	85.4	6.3	－	1.0	8.3

（人）　（%）

職業別にみると、「現在住んでいる区市町村」では、主婦・主夫が 78.3%で、全体の 69.8%より 8.5 ポイント高かった。

ライフステージ別にみると、「現在住んでいる区市町村」では、家族成長前期が 84.6%、家族成長後期が 86.7%で、全体の 69.8%より 10 ポイント以上高かった。

図表46. ボランティア活動に参加する場所（現地参加）【職業別／ライフステージ別／年収別】

	n	現在住んでいる区市町村	以前住んでいた区市町村	現在、通勤・通学で定期的な往来がある区市町村	以前、通勤・通学で定期的な往来があった区市町村	その他
全体	1,153	69.8	16.7	8.9	9.6	6.3
【職業別】						
自営・家族従業	105	73.3	21.0	11.4	9.5	5.7
勤め（計）	562	66.2	18.3	11.9	11.2	6.4
勤め（全日）	468	64.3	19.2	13.2	11.5	6.4
勤め（短時間）	94	75.5	13.8	5.3	9.6	6.4
主婦・主夫	217	78.3	12.9	2.8	5.1	4.6
学生	109	70.6	15.6	12.8	10.1	6.4
無職	141	67.4	14.9	2.1	10.6	8.5
【ライフステージ別】						
学校教育期	106	71.7	15.1	13.2	10.4	5.7
独身期	191	59.2	22.5	15.7	18.3	5.8
家族形成期	72	44.4	33.3	11.1	13.9	6.9
家族成長前期	104	84.6	8.7	8.7	5.8	1.9
家族成長後期	90	86.7	11.1	5.6	5.6	3.3
家族成熟期	138	74.6	18.1	3.6	7.2	3.6
高齢期	203	79.3	8.9	1.5	4.4	8.9
【年収別】						
収入なし	140	73.6	13.6	7.1	4.3	7.1
200万円未満	264	68.9	18.9	5.3	9.8	6.4
200～300万円台	204	68.6	13.7	9.3	11.8	5.4
400～500万円台	197	69.0	14.2	10.7	8.6	9.1
600～700万円台	104	75.0	19.2	13.5	8.7	4.8
800～900万円台	68	69.1	17.6	17.6	11.8	4.4
1,000万円以上	64	70.3	20.3	15.6	9.4	7.8

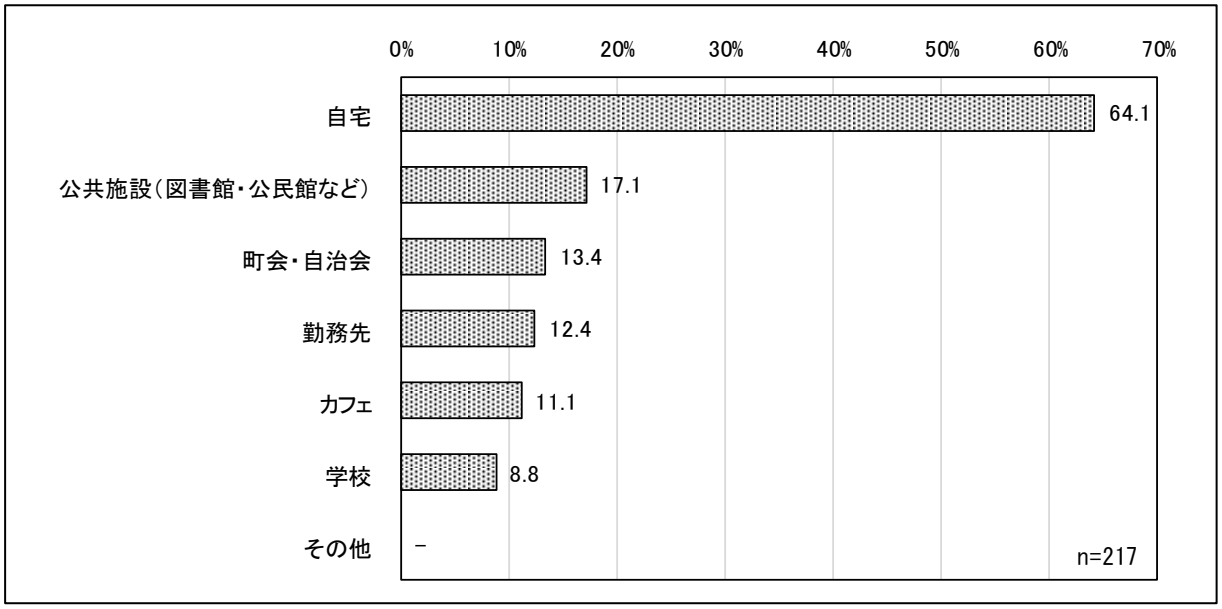
（人）　（%）

１－１１ リモート参加によるボランティア活動の実施場所

（Q9 で 2 または 3 と答えた方）

Q11　あなたは、現地に赴かず、オンラインツールなどを用いてボランティア活動に参加する際には、どこでボランティア活動に参加していますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表47. リモート参加によるボランティア活動の実施場所



ボランティア活動にリモートで参加している 217 人の実施場所は、「自宅」が 64.1％で最も高かった。次いで、「公共施設」が 17.1％、「町会・自治会」が 13.4％であった。

【参考】令和 3 年度は記述回答形式であったため、回答内容を掲載する。

現地に赴かずボランティア活動に参加する際の場所	件数
自宅（家）	161
町内会・自治会	7
自宅周辺	6
センター・公共施設	5
会社（勤務先）	4
カフェ	4
学校	4
近所	2
消防団	2
近くの教会	1
不定	1
合計	197

エリア別にみると、「自宅」では、センター・コアが 74.6%で、全体の 64.1%より 10.5 ポイント高かった。

性・年代別にみると、「自宅」では、男性（計）が 66.4%で、女性（計）の 62.0%より 4.4 ポイント高かった。

図表48. ボランティア活動に参加する場所（リモート参加）【エリア別／性・年代別】

	n	自宅	公共施設（図書館・公民館など）	町会・自治会	勤務先	カフェ	学校	その他
全体	217	64.1	17.1	13.4	12.4	11.1	8.8	－
【エリア別】								
区部（計）	148	64.9	17.6	12.8	13.5	10.8	10.1	－
センター・コア	59	74.6	16.9	8.5	16.9	8.5	5.1	－
区部東部・北部	33	54.5	21.2	24.2	15.2	9.1	15.2	－
区部西部・南部	56	60.7	16.1	10.7	8.9	14.3	12.5	－
市町村部（計）	69	62.3	15.9	14.5	10.1	11.6	5.8	－
多摩東部	28	64.3	21.4	7.1	7.1	10.7	3.6	－
多摩中央部北	9	55.6	22.2	22.2	11.1	－	11.1	－
多摩中央部南	28	71.4	10.7	14.3	14.3	10.7	7.1	－
多摩西部・島しょ	4	－	－	50.0	－	50.0	－	－
【性・年代別】								
男性（計）	113	66.4	16.8	12.4	15.9	11.5	8.0	－
15～19歳	8	62.5	－	－	12.5	12.5	37.5	－
20代	20	55.0	20.0	25.0	25.0	30.0	15.0	－
30代	21	57.1	23.8	14.3	19.0	19.0	9.5	－
40代	17	82.4	17.6	－	23.5	－	－	－
50代	16	68.8	25.0	12.5	12.5	12.5	6.3	－
60代	10	60.0	20.0	10.0	10.0	－	－	－
70代	21	76.2	4.8	14.3	4.8	－	－	－
女性（計）	100	62.0	18.0	15.0	9.0	9.0	9.0	－
15～19歳	3	－	66.7	33.3	－	－	－	－
20代	11	36.4	18.2	9.1	18.2	36.4	－	－
30代	23	60.9	34.8	8.7	13.0	13.0	26.1	－
40代	17	76.5	11.8	－	11.8	5.9	11.8	－
50代	15	66.7	13.3	26.7	－	－	6.7	－
60代	15	66.7	6.7	13.3	13.3	6.7	－	－
70代	16	68.8	6.3	31.3	－	－	－	－

（人）　（%）

職業別にみると、勤め（全日）では、「勤務先」が 24.7%で、全体の 12.4%より 12.3 ポイント高かった。

図表49. ボランティア活動に参加する場所（リモート参加）【職業別／ライフステージ別／年収別】

	n	自宅	公共施設（図書館・公民館など）	町会・自治会	勤務先	カフェ	学校	その他
全体	217	64.1	17.1	13.4	12.4	11.1	8.8	－
【職業別】								
自営・家族従業	23	73.9	17.4	13.0	8.7	13.0	－	－
勤め（計）	104	61.5	21.2	12.5	22.1	16.3	5.8	－
勤め（全日）	89	60.7	22.5	12.4	24.7	16.9	6.7	－
勤め（短時間）	15	66.7	13.3	13.3	6.7	13.3	－	－
主婦・主夫	36	66.7	8.3	16.7	－	5.6	11.1	－
学生	18	55.6	16.7	5.6	5.6	11.1	33.3	－
無職	33	66.7	12.1	18.2	－	－	9.1	－
【ライフステージ別】								
学校教育期	17	58.8	17.6	5.9	5.9	11.8	29.4	－
独身期	42	54.8	21.4	23.8	16.7	26.2	7.1	－
家族形成期	17	58.8	23.5	5.9	17.6	29.4	11.8	－
家族成長前期	21	66.7	19.0	4.8	28.6	9.5	19.0	－
家族成長後期	16	50.0	31.3	6.3	12.5	－	25.0	－
家族成熟期	19	57.9	21.1	21.1	10.5	5.3	－	－
高齢期	39	71.8	7.7	17.9	2.6	2.6	－	－
【年収別】								
収入なし	24	66.7	12.5	12.5	－	4.2	16.7	－
200万円未満	44	68.2	18.2	13.6	4.5	11.4	6.8	－
200～300万円台	45	71.1	8.9	13.3	6.7	11.1	6.7	－
400～500万円台	37	54.1	29.7	10.8	16.2	18.9	5.4	－
600～700万円台	20	45.0	30.0	15.0	40.0	15.0	5.0	－
800～900万円台	14	71.4	14.3	14.3	21.4	14.3	－	－
1,000万円以上	12	91.7	8.3	－	25.0	8.3	8.3	－

（人）　（%）

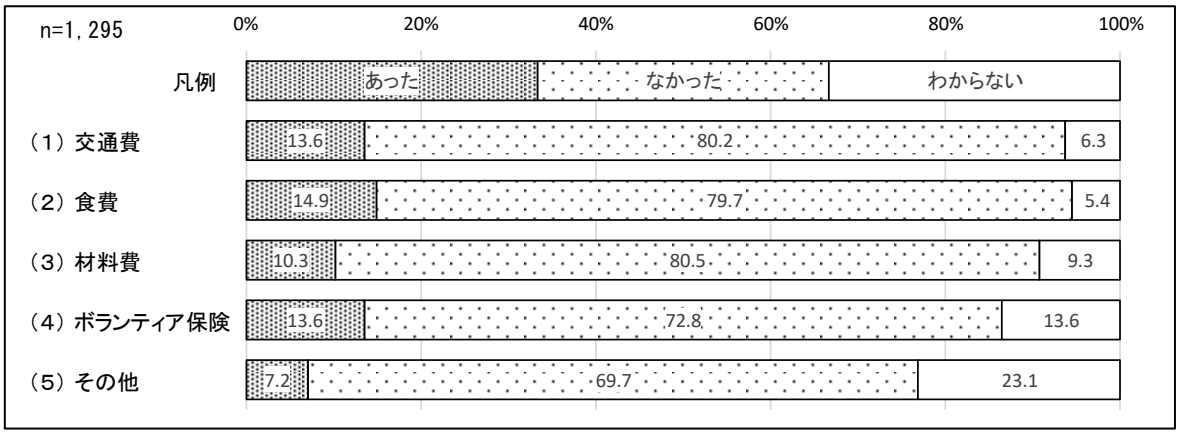
１－１２ ボランティア活動における実費支給の有無

（Q2 で 1～18 のいずれかを答えた方）

Q12　あなたが参加したボランティア活動において、一度でも交通費、食費やその他実費の支給はありましたか。次の中からそれぞれ 1 つずつお答えください。

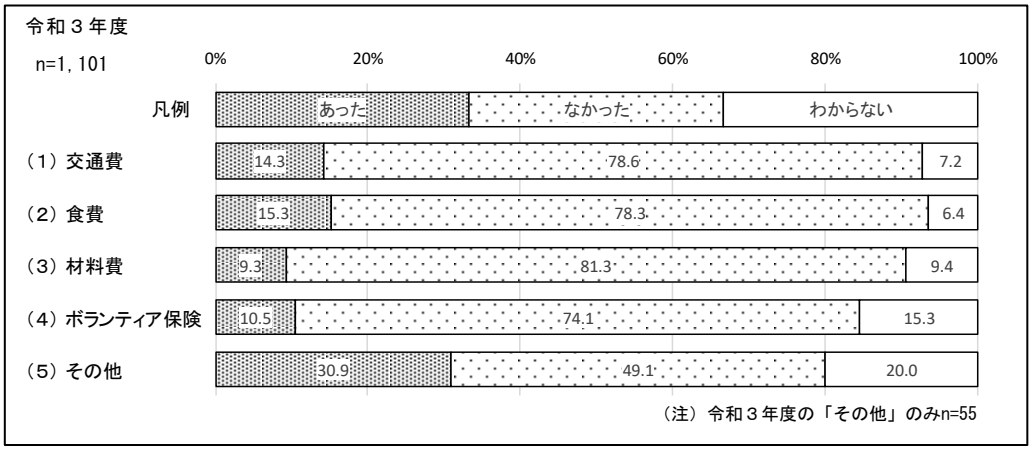
（１）交通費　（２）食費　（３）材料費　（４）ボランティア保険　（５）その他

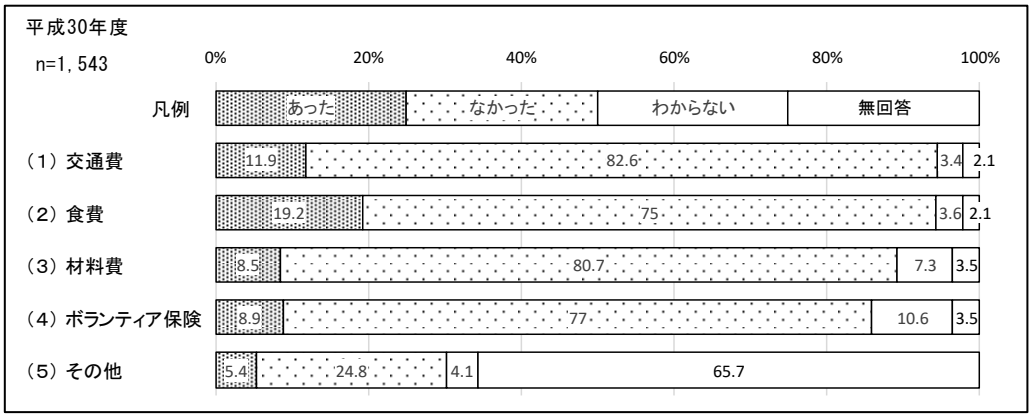
図表50. ボランティア活動における実費支給の有無



過去にボランティア活動に参加したことがある 1,295 人の実費支給があった活動の支給内容は、「食費」が 14.9%、「交通費」と「ボランティア保険」がいずれも 13.6%であった。

令和 3 年度と比較すると、「ボランティア保険」は 3.1 ポイントの増加であった。



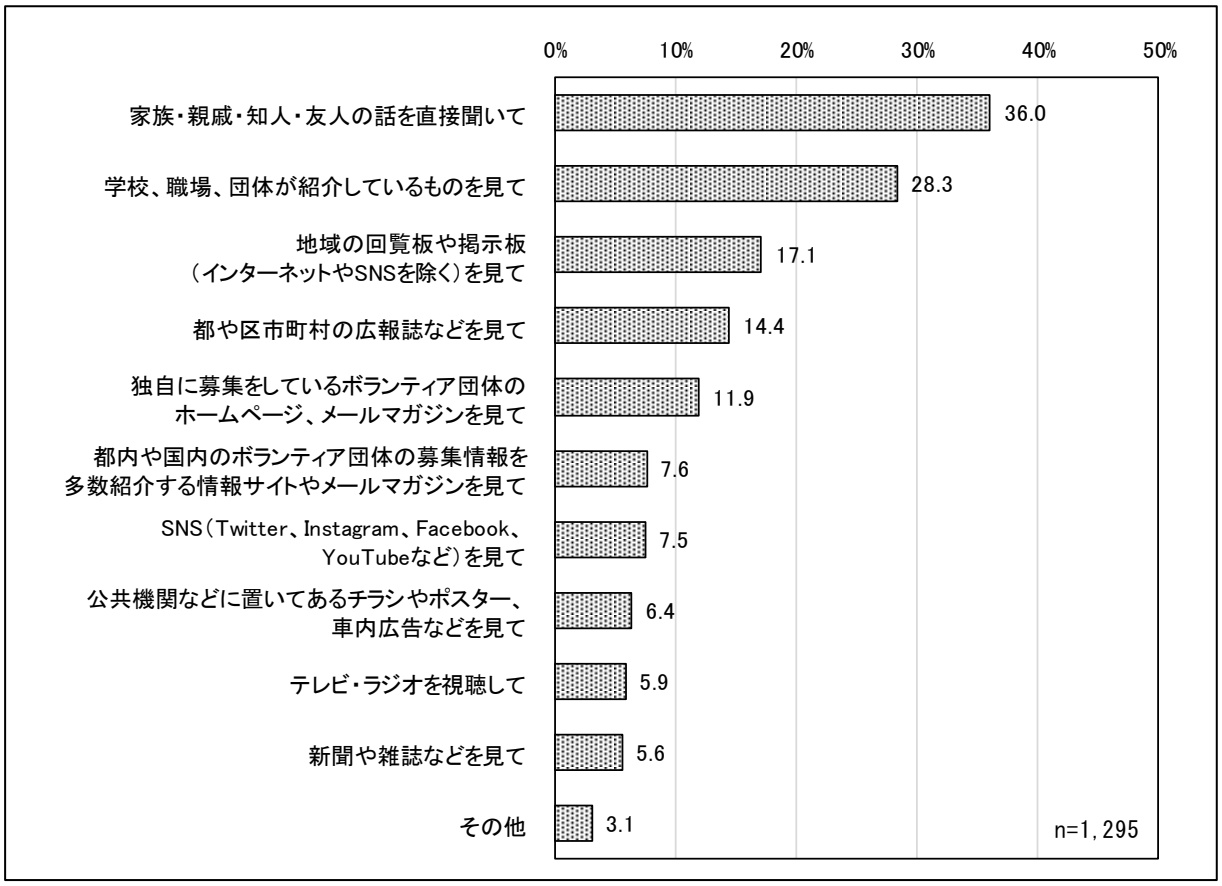


１－１３ ボランティア活動の情報入手方法

（Q2 で 1～18 のいずれかを答えた方）

Q13　あなたはボランティア活動の情報をどこから入手しましたか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

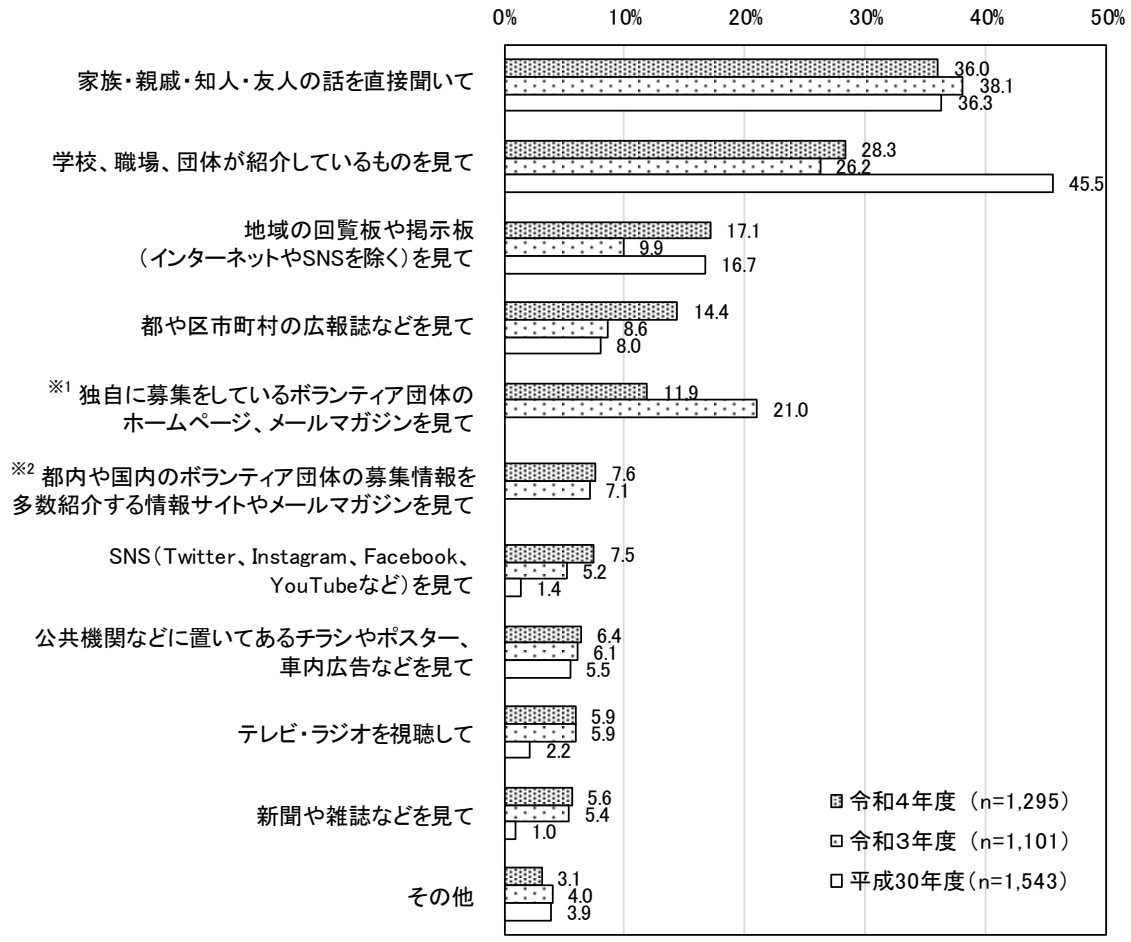
図表51. ボランティア活動の情報入手方法



過去にボランティア活動に参加したことがある 1,295 人の情報入手方法は、「家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて」が 36.0％で最も高かった。次いで、「学校、職場、団体が紹介しているものを見て」が 28.3％、「地域の回覧板や掲示板を見て」が 17.1％であった。

令和３年度と比較すると、「家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて」は 2.1 ポイントの減少であった。

図表52. ボランティア活動の情報入手方法【経年比較】



※1　令和3年度は「自治体やボランティア団体など、独自にボランティア募集をしている団体のホームページ、メールマガジンを見て」

※2　令和3年度は「都内や国内のボランティア団体のボランティア募集情報を多数紹介する情報サイトを見て」

エリア別にみると、多摩東部は他のエリアと異なり、「学校、職場、団体が紹介しているものを見て」の選択割合が 34.1%で最も高かった。

性・年代別にみると、「学校、職場、団体が紹介しているものを見て」では、男性（計）が 23.9%で、女性（計）の 32.5%より 8.6 ポイント高かった。

図表53. ボランティア活動の情報入手方法【エリア別／性・年代別】

	n	家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて	学校、職場、団体が紹介しているものを見て	地域の回覧板や掲示板（インターネットやSNSを除く）を見て	都や区市町村の広報誌などを見て	独自に募集をしているボランティア団体のホームページ、メールマガジンを見て	都内や国内のボランティア団体の募集情報を多数紹介する情報サイトやメールマガジンを見て	SNSを見て	公共機関などに置いてあるチラシやポスター、車内広告などを見て	テレビ・ラジオを視聴して	新聞や雑誌などを見て	その他
全体	1,295	36.0	28.3	17.1	14.4	11.9	7.6	7.5	6.4	5.9	5.6	3.1
【エリア別】												
区部（計）	850	36.9	28.4	14.8	13.2	13.2	8.8	8.5	5.9	7.1	6.0	2.8
センター・コア	265	38.9	25.7	14.3	16.2	12.1	10.2	9.1	6.4	9.4	6.8	2.6
区部東部・北部	222	36.5	25.7	16.2	12.2	14.0	9.9	6.3	5.0	6.8	7.2	2.3
区部西部・南部	363	35.8	32.0	14.3	11.6	13.5	7.2	9.4	6.1	5.5	4.7	3.3
市町村部（計）	445	34.2	28.3	21.3	16.9	9.4	5.2	5.6	7.4	3.6	4.7	3.6
多摩東部	173	30.1	34.1	18.5	15.6	13.3	4.6	5.8	6.9	3.5	5.8	3.5
多摩中央部北	47	36.2	27.7	21.3	14.9	10.6	6.4	4.3	8.5	－	2.1	4.3
多摩中央部南	203	36.5	25.1	23.2	19.2	6.4	5.9	5.9	6.9	4.4	4.9	3.4
多摩西部・島しょ	22	40.9	13.6	27.3	9.1	4.5	－	4.5	13.6	4.5	－	4.5
【性・年代別】												
男性（計）	641	37.1	23.9	18.6	13.1	15.0	9.7	9.4	7.0	8.0	6.7	2.7
15～19歳	42	40.5	28.6	9.5	9.5	14.3	16.7	16.7	－	7.1	9.5	2.4
20代	100	42.0	35.0	12.0	11.0	22.0	13.0	22.0	9.0	9.0	15.0	3.0
30代	89	32.6	36.0	11.2	6.7	14.6	6.7	9.0	5.6	9.0	4.5	3.4
40代	120	31.7	23.3	13.3	12.5	21.7	15.8	14.2	8.3	10.8	5.8	1.7
50代	104	49.0	21.2	15.4	12.5	13.5	9.6	3.8	7.7	9.6	4.8	1.0
60代	80	36.3	13.8	21.3	16.3	8.8	6.3	1.3	6.3	7.5	7.5	－
70代	106	30.2	12.3	41.5	20.8	7.5	1.9	0.9	7.5	1.9	1.9	6.6
女性（計）	647	35.1	32.5	15.8	15.9	9.0	5.4	5.6	5.9	3.9	4.5	3.6
15～19歳	45	42.2	51.1	13.3	11.1	11.1	2.2	6.7	2.2	2.2	－	－
20代	88	37.5	45.5	10.2	6.8	14.8	12.5	13.6	5.7	5.7	6.8	1.1
30代	90	35.6	45.6	7.8	4.4	13.3	6.7	7.8	5.6	4.4	4.4	2.2
40代	117	35.9	38.5	7.7	12.0	8.5	0.9	6.8	4.3	3.4	5.1	2.6
50代	112	26.8	33.9	24.1	11.6	7.1	3.6	3.6	4.5	3.6	5.4	4.5
60代	89	38.2	16.9	19.1	21.3	5.6	3.4	2.2	5.6	3.4	2.2	5.6
70代	106	34.9	7.5	25.5	39.6	4.7	8.5	－	11.3	3.8	4.7	6.6

（人）　（%）

職業別にみると、自営・家族従業では、「家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて」が45.8%で、全体の36.0%より9.8ポイント高かった。学生では、「学校、職場、団体が紹介しているものを見て」が39.3%で、全体の28.3%より11.0ポイント高かった。

ライフステージ別にみると、家族成長前期では、「学校、職場、団体が紹介しているものを見て」が54.3%で、全体より26.0ポイント高かった。

年収別にみると、800～900万円台では、「家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて」が45.6%で、全体より9.6ポイント高かった。

図表54. ボランティア活動の情報入手方法【職業別／ライフステージ別／年収別】

	n	家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて	学校、職場、団体が紹介しているものを見て	地域の回覧板や掲示板（インターネットやSNSを除く）を見て	都や区市町村の広報誌などを見て	独自に募集をしているボランティア団体のホームページ、メールマガジンを見て	都内や国内のボランティア団体の募集情報を多数紹介する情報サイトやメールマガジンを見て	SNSを見て	公共機関などに置いてあるチラシやポスター、車内広告などを見て	テレビ・ラジオを視聴して	新聞や雑誌などを見て	その他
全体	1,295	36.0	28.3	17.1	14.4	11.9	7.6	7.5	6.4	5.9	5.6	3.1
【職業別】												
自営・家族従業	118	45.8	15.3	21.2	11.9	12.7	4.2	5.1	5.1	4.2	4.2	2.5
勤め（計）	630	36.2	29.8	13.0	12.4	15.1	10.6	10.8	8.4	8.4	7.1	2.2
勤め（全日）	526	36.7	29.8	12.7	12.4	16.0	11.8	11.2	8.9	9.1	7.0	1.7
勤め（短時間）	104	33.7	29.8	14.4	12.5	10.6	4.8	8.7	5.8	4.8	7.7	4.8
主婦・主夫	237	32.5	32.1	20.7	19.4	5.1	4.2	1.3	5.1	3.4	3.8	4.2
学生	122	41.8	39.3	10.7	9.8	16.4	8.2	11.5	2.5	4.1	5.7	0.8
無職	167	27.5	17.4	29.3	20.4	6.6	3.0	3.0	4.8	3.0	3.0	6.6
【ライフステージ別】												
学校教育期	118	42.4	40.7	10.2	9.3	16.9	7.6	11.0	2.5	4.2	4.2	0.8
独身期	216	35.6	38.0	12.0	7.9	16.7	11.1	16.2	6.9	7.4	8.8	3.2
家族形成期	83	36.1	31.3	7.2	9.6	15.7	9.6	9.6	8.4	8.4	6.0	2.4
家族成長前期	116	42.2	54.3	7.8	5.2	10.3	7.8	6.9	3.4	6.9	6.0	1.7
家族成長後期	99	30.3	31.3	18.2	16.2	8.1	5.1	1.0	5.1	4.0	3.0	5.1
家族成熟期	150	26.0	32.0	21.3	16.0	6.0	7.3	2.7	2.0	2.7	2.7	4.0
高齢期	228	34.2	11.4	30.7	26.8	6.1	4.8	0.9	9.2	3.1	3.9	5.3
【年収別】												
収入なし	151	27.8	47.0	15.2	7.3	13.2	3.3	6.0	3.3	3.3	4.6	6.6
200万円未満	296	37.8	27.0	19.3	17.6	7.4	5.4	3.4	5.1	4.1	4.4	2.4
200～300万円台	231	29.9	25.5	22.9	15.6	11.3	6.5	9.1	7.4	3.0	3.0	2.2
400～500万円台	220	39.1	25.5	13.6	16.8	14.5	10.5	12.3	6.8	8.2	5.9	2.3
600～700万円台	117	41.0	26.5	13.7	14.5	13.7	12.8	9.4	8.5	9.4	10.3	3.4
800～900万円台	79	45.6	20.3	17.7	5.1	22.8	17.7	8.9	10.1	13.9	8.9	－
1,000万円以上	73	39.7	28.8	13.7	13.7	12.3	8.2	8.2	12.3	11.0	8.2	1.4

（人）　（%）

行動者率別にみると、「家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて」では、「直近１年間にボランティア活動に参加した」が 39.2%で、「直近１年間はないが、過去にボランティア活動に参加したことはある」の 32.8%より 6.4 ポイント高かった。「学校、職場、団体が紹介しているものを見て」では、「直近１年間はないが、過去にボランティア活動に参加したことはある」が 35.4%で、「直近１年間にボランティア活動に参加した」の 21.0%より 14.4 ポイント高かった。

図表55. ボランティア活動の情報入手方法【行動者率別】

	n	家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて	学校、職場、団体が紹介しているものを見て	地域の回覧板や掲示板（インターネットやＳＮＳを除く）を見て	都や区市町村の広報誌などを見て	独自に募集をしているボランティア団体のホームページ、メールマガジンを見て	都内や国内のボランティア団体の募集情報を多数紹介する情報サイトやメールマガジンを見て	ＳＮＳを見て	公共機関などに置いてあるチラシやポスター、車内広告などを見て	テレビ・ラジオを視聴して	新聞や雑誌などを見て	その他
全体	1,295	36.0	28.3	17.1	14.4	11.9	7.6	7.5	6.4	5.9	5.6	3.1
【行動者率別】												
直近１年間にボランティア活動に参加した	637	39.2	21.0	19.3	16.8	16.2	10.7	11.0	9.1	7.5	6.6	3.3
直近1年間はないが、過去にボランティア活動に参加したことはある	658	32.8	35.4	14.9	12.2	7.8	4.6	4.1	3.8	4.3	4.6	2.9

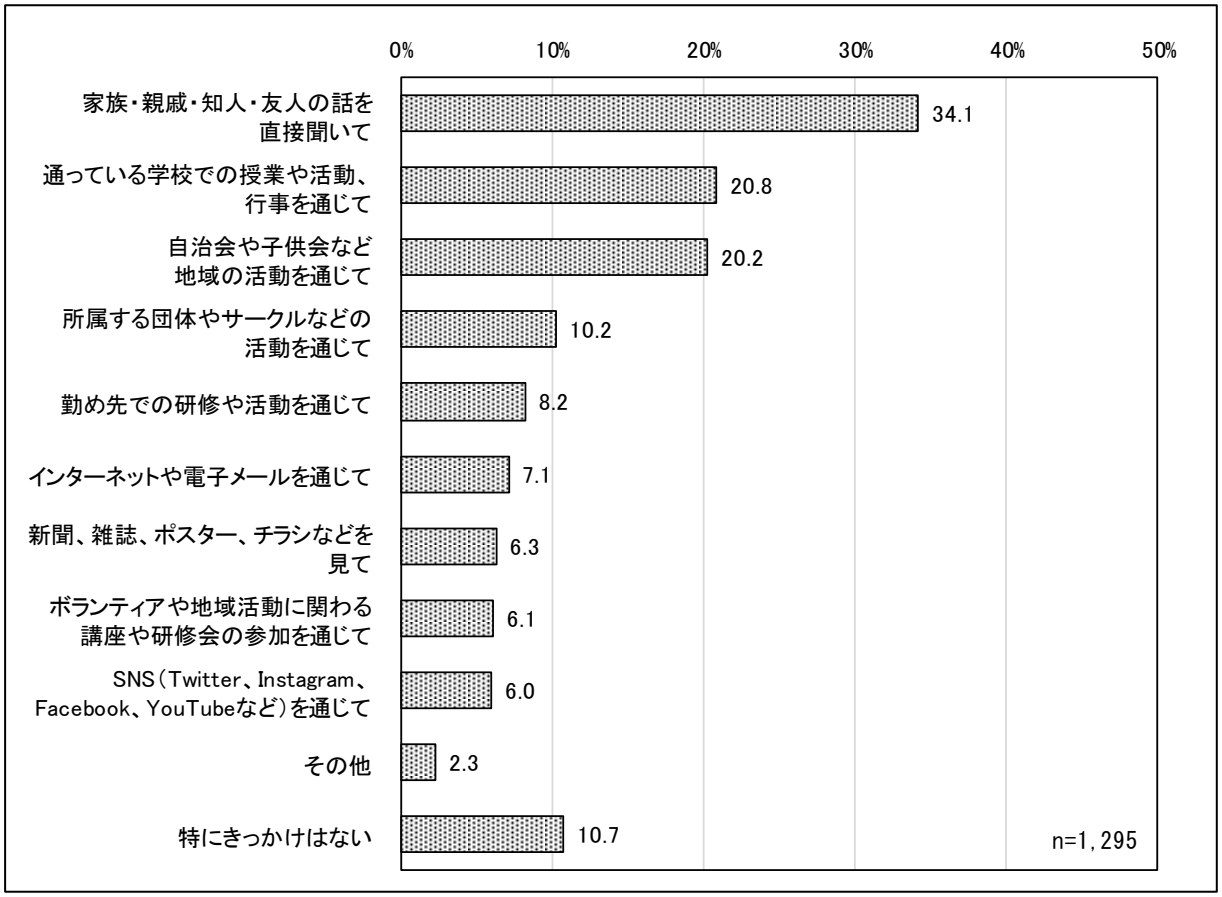
（人）　（%）

１－１４ ボランティア活動に参加したきっかけ

（Q2 で 1～18 のいずれかを答えた方）

Q14　あなたがボランティア活動に参加したきっかけは何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

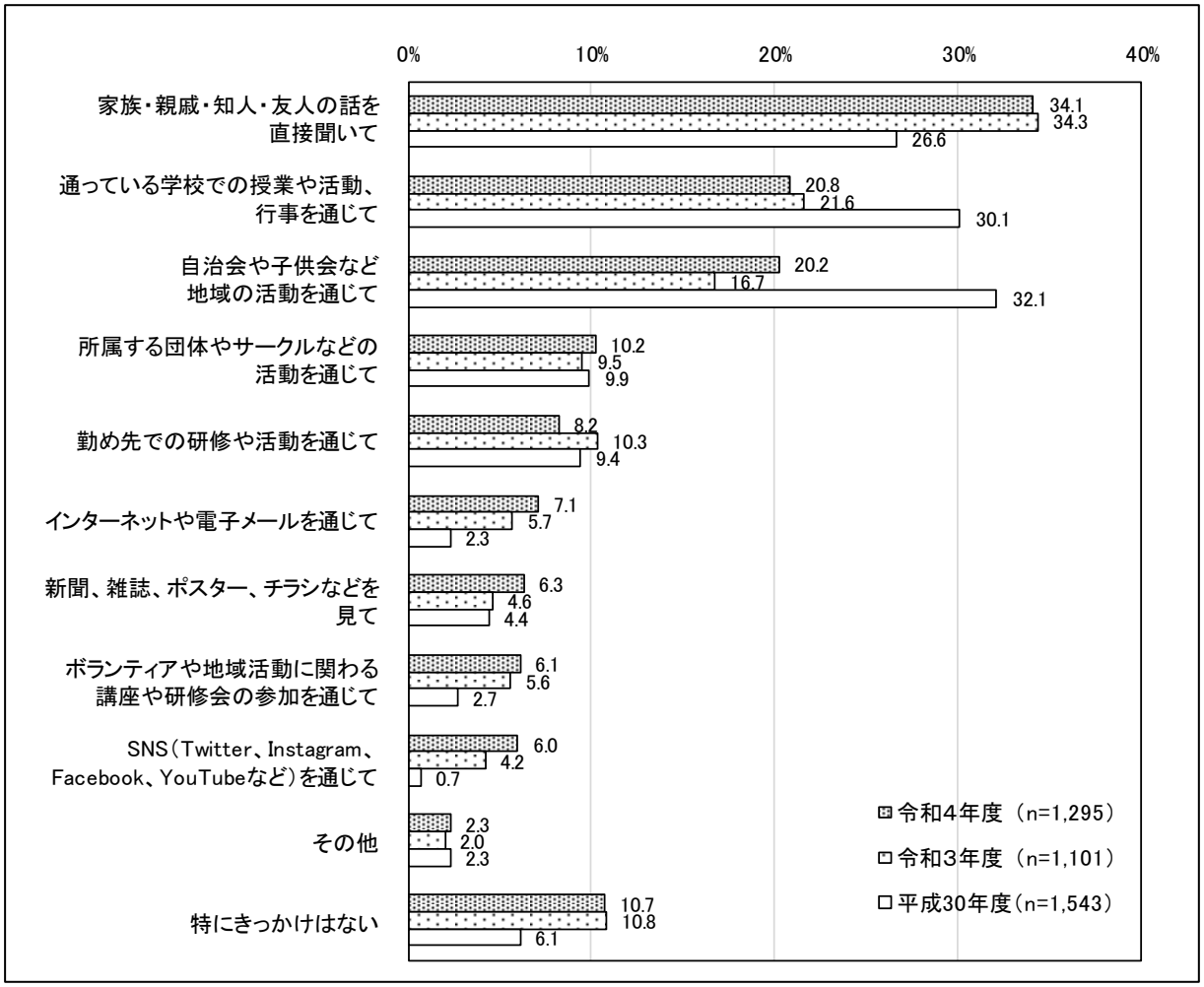
図表56. ボランティア活動に参加したきっかけ



過去にボランティア活動に参加したことがある 1,295 人が活動に参加したきっかけは、「家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて」が 34.1％で最も高かった。次いで、「通っている学校での授業や活動、行事を通じて」が 20.8％、「自治会や子供会など地域の活動を通じて」が 20.2％であった。

令和３年度と比較すると、「家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて」は 0.2 ポイントの減少、「通っている学校での授業や活動、行事を通じて」は 0.8 ポイントの減少であった。

図表57. ボランティア活動に参加したきっかけ【経年比較】



エリア別にみると、「自治会や子供会等地域の活動を通じて」では、市町村部（計）が 24.7%で、区部（計）の 17.8%より 6.9 ポイント高かった。

性・年代別にみると、「家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて」では、男性（計）が 38.4%で、女性（計）の 29.8%より 8.6 ポイント高かった。「通っている学校での授業や活動、行事を通じて」では、女性（計）が 26.0%で、男性（計）の 15.6%より 10.4 ポイント高かった。

図表58. ボランティア活動に参加したきっかけ【エリア別／性・年代別】

	n	家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて	通っている学校での授業や活動、行事を通じて	自治会や子供会など地域の活動を通じて	所属する団体やサークルなどの活動を通じて	勤め先での研修や活動を通じて	インターネットや電子メールを通じて	新聞、雑誌、ポスター、チラシなどを見て	ボランティアや地域活動に関わる講座や研修会の参加を通じて	ＳＮＳを通じて	その他	特にきっかけはない
全体	1,295	34.1	20.8	20.2	10.2	8.2	7.1	6.3	6.1	6.0	2.3	10.7
【エリア別】												
区部（計）	850	34.6	21.1	17.8	10.0	9.1	7.6	6.6	6.7	7.3	2.6	10.4
センター・コア	265	36.6	17.0	16.6	8.3	13.6	7.5	8.7	5.3	7.5	1.9	10.2
区部東部・北部	222	33.8	23.0	21.2	9.9	8.1	9.5	8.1	5.9	5.9	1.8	10.8
区部西部・南部	363	33.6	22.9	16.5	11.3	6.3	6.6	4.1	8.3	8.0	3.6	10.2
市町村部（計）	445	33.0	20.4	24.7	10.6	6.5	6.1	5.6	4.9	3.6	1.8	11.5
多摩東部	173	29.5	24.9	23.7	15.0	3.5	5.8	5.2	6.4	3.5	3.5	9.2
多摩中央部北	47	34.0	25.5	27.7	6.4	8.5	2.1	2.1	6.4	2.1	2.1	8.5
多摩中央部南	203	36.5	16.7	24.6	7.4	8.4	7.9	7.4	3.9	3.9	0.5	12.8
多摩西部・島しょ	22	27.3	9.1	27.3	13.6	9.1	－	－	－	4.5	－	22.7
【性・年代別】												
男性（計）	641	38.4	15.6	20.7	11.5	11.9	9.4	6.7	6.2	7.5	2.3	9.2
15～19歳	42	38.1	33.3	7.1	4.8	2.4	19.0	9.5	11.9	16.7	－	16.7
20代	100	38.0	30.0	16.0	18.0	17.0	13.0	9.0	10.0	15.0	1.0	8.0
30代	89	31.5	23.6	15.7	14.6	15.7	7.9	4.5	3.4	9.0	2.2	6.7
40代	120	40.0	15.8	19.2	8.3	11.7	14.2	10.0	7.5	10.8	2.5	8.3
50代	104	49.0	8.7	14.4	11.5	14.4	4.8	3.8	2.9	2.9	1.0	12.5
60代	80	38.8	5.0	26.3	6.3	12.5	7.5	3.8	3.8	－	3.8	8.8
70代	106	32.1	2.8	38.7	13.2	4.7	3.8	6.6	6.6	1.9	4.7	7.5
女性（計）	647	29.8	26.0	19.6	8.8	4.6	4.9	5.9	6.0	4.6	2.3	12.1
15～19歳	45	42.2	60.0	8.9	2.2	－	2.2	4.4	4.4	2.2	2.2	4.4
20代	88	35.2	30.7	6.8	18.2	10.2	10.2	4.5	9.1	17.0	－	9.1
30代	90	25.6	34.4	8.9	6.7	10.0	8.9	3.3	5.6	4.4	－	11.1
40代	117	32.5	32.5	12.8	3.4	6.0	3.4	6.0	－	5.1	1.7	15.4
50代	112	24.1	26.8	28.6	4.5	2.7	2.7	7.1	0.9	2.7	3.6	16.1
60代	89	33.7	11.2	30.3	6.7	2.2	3.4	7.9	6.7	1.1	2.2	11.2
70代	106	23.6	4.7	33.0	17.9	－	3.8	6.6	16.0	－	5.7	11.3

（人）　（%）

職業別にみると、自営・家族従業では、「家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて」が48.3%で、全体の34.1%より14.2ポイント高かった。学生では、「通っている学校での授業や活動、行事を通じて」が49.2%で、全体の20.8%より28.4ポイント高かった。

ライフステージ別にみると、学校教育期では、「通っている学校での授業や活動、行事を通じて」が50.0%で、全体より29.2ポイント高かった。

年収別にみると、800～900万円台では、「家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて」が46.8%で、全体より12.7ポイント高かった。

図表59. ボランティア活動に参加したきっかけ【職業別／ライフステージ別／年収別】

	n	家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて	通っている学校での授業や活動、行事を通じて	自治会や子供会など地域の活動を通じて	所属する団体やサークルなどの活動を通じて	勤め先での研修や活動を通じて	インターネットや電子メールを通じて	新聞、雑誌、ポスター、チラシなどを見て	ボランティアや地域活動に関わる講座や研修会の参加を通じて	ＳＮＳを通じて	その他	特にきっかけはない
全体	1,295	34.1	20.8	20.2	10.2	8.2	7.1	6.3	6.1	6.0	2.3	10.7
【職業別】												
自営・家族従業	118	48.3	11.9	22.0	12.7	5.1	2.5	5.1	2.5	7.6	0.8	9.3
勤め（計）	630	35.7	18.9	16.7	11.4	13.7	9.4	7.0	6.3	7.8	1.7	10.0
勤め（全日）	526	36.5	18.4	16.3	12.2	15.8	9.9	7.2	6.7	8.4	1.5	9.1
勤め（短時間）	104	31.7	21.2	18.3	7.7	2.9	6.7	5.8	4.8	4.8	2.9	14.4
主婦・主夫	237	25.3	24.5	30.0	8.4	1.7	3.8	6.3	7.2	1.7	2.5	11.8
学生	122	39.3	49.2	8.2	4.9	1.6	10.7	5.7	7.4	9.8	0.8	9.8
無職	167	26.3	9.0	27.5	9.6	3.6	4.2	4.8	5.4	1.8	5.4	13.8
【ライフステージ別】												
学校教育期	118	39.8	50.0	8.5	5.1	1.7	9.3	5.1	5.9	9.3	0.8	10.2
独身期	216	33.8	24.5	12.0	14.4	14.4	13.0	6.5	7.9	13.0	1.4	9.7
家族形成期	83	33.7	16.9	12.0	18.1	16.9	4.8	7.2	7.2	8.4	－	6.0
家族成長前期	116	33.6	43.1	16.4	9.5	9.5	3.4	3.4	5.2	5.2	1.7	8.6
家族成長後期	99	32.3	25.3	23.2	5.1	4.0	3.0	3.0	2.0	－	3.0	16.2
家族成熟期	150	25.3	20.0	28.7	4.0	6.7	3.3	4.0	2.0	2.0	3.3	15.3
高齢期	228	30.7	5.7	35.1	14.0	4.4	4.8	8.3	9.2	0.9	3.9	8.8
【年収別】												
収入なし	151	23.2	40.4	23.8	4.6	3.3	6.0	5.3	4.0	3.3	3.3	13.9
200万円未満	296	32.4	24.0	21.6	10.8	0.7	5.4	4.7	6.4	4.4	1.7	11.1
200～300万円台	231	32.9	16.5	20.3	14.7	5.6	6.9	6.1	4.3	7.8	2.6	10.0
400～500万円台	220	37.3	14.5	18.2	10.0	11.8	8.2	9.1	8.2	9.1	1.8	9.1
600～700万円台	117	33.3	16.2	20.5	12.0	18.8	6.8	7.7	7.7	6.8	3.4	6.8
800～900万円台	79	46.8	21.5	19.0	15.2	15.2	11.4	3.8	8.9	10.1	2.5	8.9
1,000万円以上	73	39.7	11.0	24.7	11.0	26.0	8.2	4.1	6.8	4.1	1.4	5.5

（人）　（%）

行動者率別にみると、「家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて」では、「直近１年間にボランティア活動に参加した」が 37.2%で、「直近１年間はないが、過去にボランティア活動に参加したことはある」の 31.0%より 6.2 ポイント高かった。「通っている学校での授業や活動、行事を通じて」では、「直近１年間はないが、過去にボランティア活動に参加したことはある」が 23.6%で、「直近１年間にボランティア活動に参加した」の 18.1%より 5.5 ポイント高かった。

図表60. ボランティア活動に参加したきっかけ【行動者率別】

	n	家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて	通っている学校での授業や活動、行事を通じて	自治会や子供会など地域の活動を通じて	所属する団体やサークルなどの活動を通じて	勤め先での研修や活動を通じて	インターネットや電子メールを通じて	新聞、雑誌、ポスター、チラシなどを見て	ボランティアや地域活動に関わる講座や研修会の参加を通じて	ＳＮＳを通じて	その他	特にきっかけはない
全体	1,295	34.1	20.8	20.2	10.2	8.2	7.1	6.3	6.1	6.0	2.3	10.7
【行動者率別】												
直近１年間にボランティア活動に参加した	637	37.2	18.1	25.4	12.4	7.4	8.2	6.8	10.4	9.1	3.5	8.3
直近1年間はないが、過去にボランティア活動に参加したことはある	658	31.0	23.6	15.0	8.1	9.0	6.1	5.8	2.0	3.0	1.2	13.1

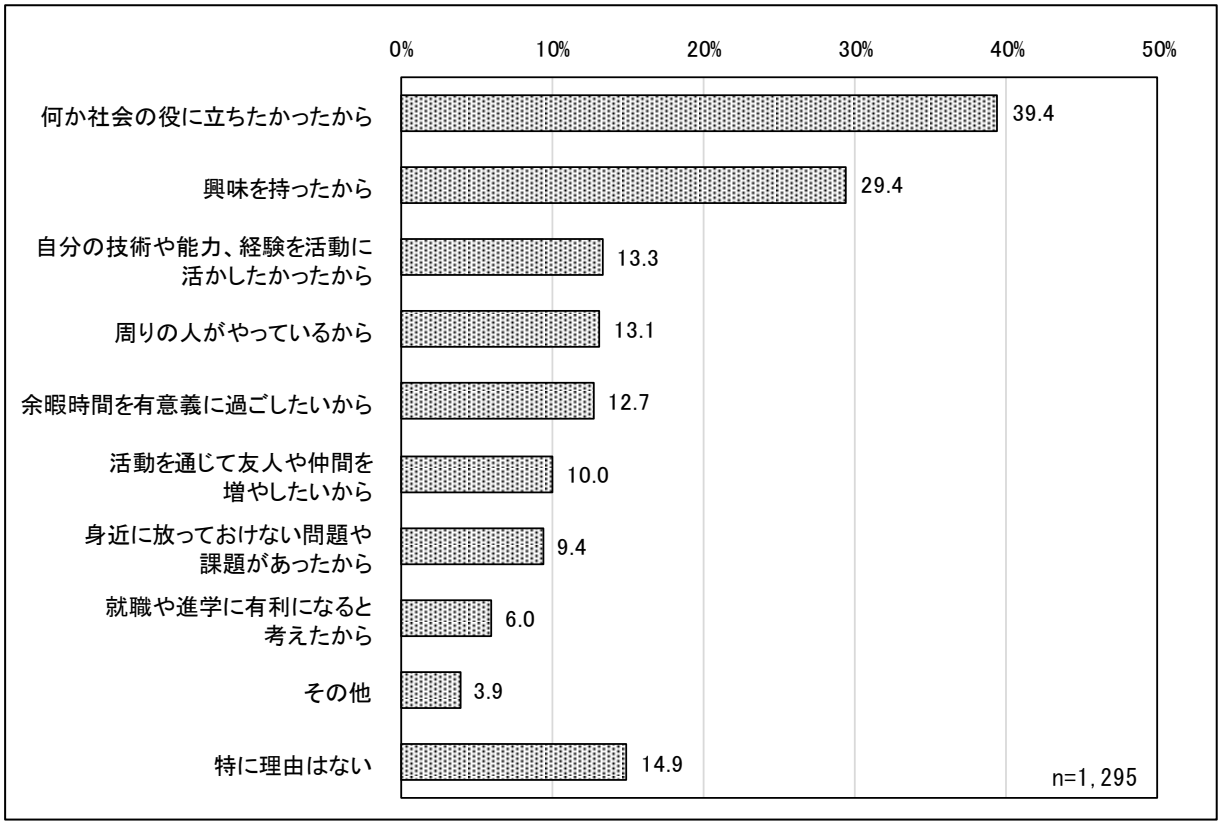
（人）　（%）

１－１５ ボランティア活動に参加した理由

（Q2 で 1～18 のいずれかを答えた方）

Q15　あなたがボランティア活動に参加した理由は何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

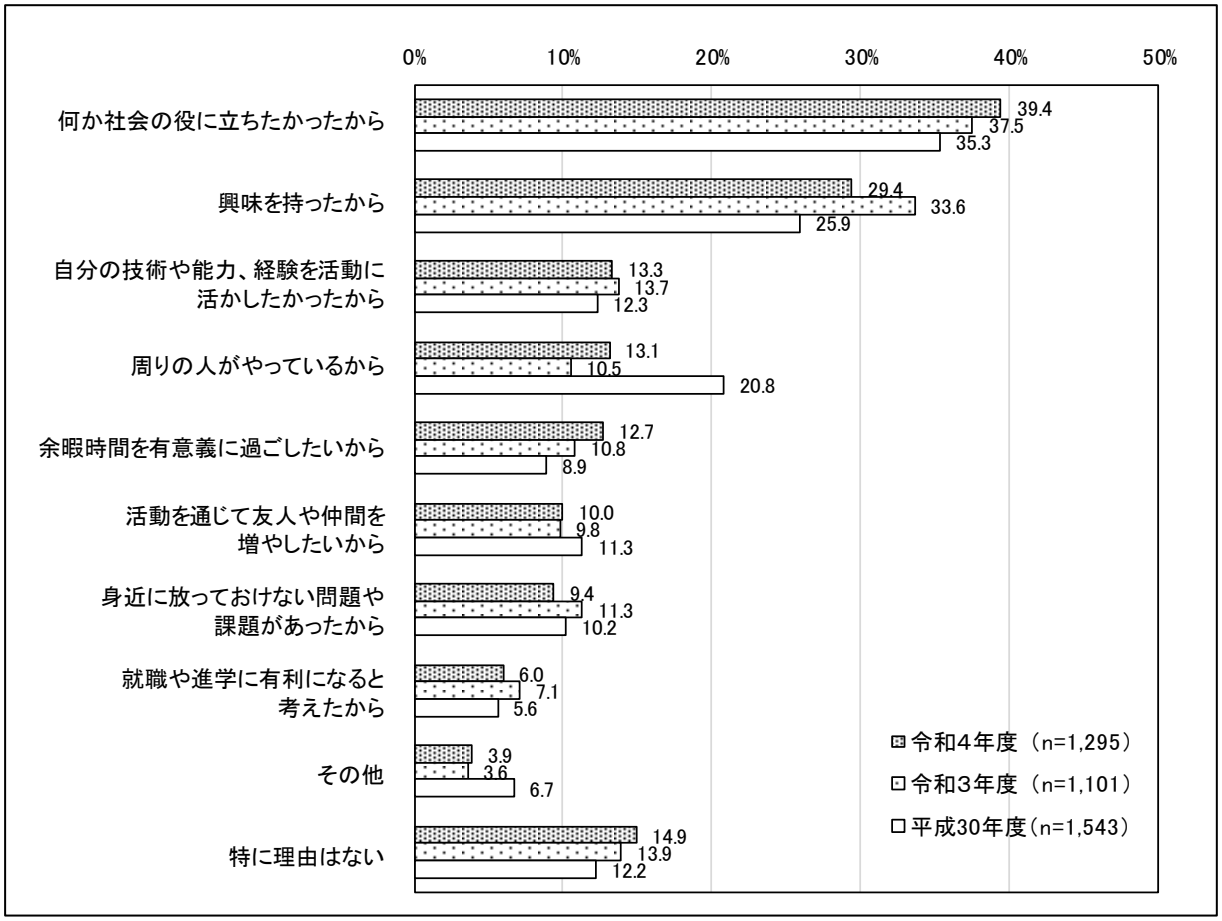
図表61. ボランティア活動に参加した理由



過去にボランティア活動に参加したことがある 1,295 人の参加理由は、「何か社会の役に立ちたかったから」が 39.4％で最も高かった。次いで、「興味を持ったから」が 29.4％、「自分の技術や能力、経験を活動に活かしたかったから」が 13.3％であった。

令和３年度と比較すると、「何か社会の役に立ちたかったから」は 1.9 ポイントの増加、「興味を持ったから」は 4.2 ポイントの減少であった。

図表62. ボランティア活動に参加した理由【経年比較】



エリア別にみると、センター・コアでは、「何か社会の役に立ちたかったから」が 48.7%で、全体の 39.4%より 9.3 ポイント高かった。

性・年代別にみると、「何か社会の役に立ちたかったから」では、男性（計）が 43.1%で、女性（計）の 36.0%より 7.1 ポイント高かった。「興味を持ったから」では、男性（計）が 32.1%で、女性（計）の 26.9%より 5.2 ポイント高かった。

図表63. ボランティア活動に参加した理由【エリア別／性・年代別】

	n	何か社会の役に立ちたかったから	興味を持ったから	自分の技術や能力、経験を活動に活かしたかったから	周りの人がやっているから	余暇時間を有意義に過ごしたいから	活動を通じて友人や仲間を増やしたいから	身近に放っておけない問題や課題があったから	就職や進学に有利になると考えたから	その他	特に理由はない
全体	1,295	39.4	29.4	13.3	13.1	12.7	10.0	9.4	6.0	3.9	14.9
【エリア別】											
区部（計）	850	40.5	29.8	14.0	12.9	12.6	10.7	10.1	5.8	4.2	13.6
センター・コア	265	48.7	31.7	13.2	8.3	13.6	10.6	9.4	4.2	3.4	13.2
区部東部・北部	222	36.9	28.4	13.1	16.2	10.4	11.3	9.0	5.9	5.9	12.2
区部西部・南部	363	36.6	29.2	15.2	14.3	13.2	10.5	11.3	6.9	3.9	14.9
市町村部（計）	445	37.3	28.8	11.9	13.5	12.8	8.8	8.1	6.5	3.1	17.3
多摩東部	173	38.2	28.9	12.7	11.6	15.0	9.2	9.2	7.5	2.3	13.3
多摩中央部北	47	38.3	29.8	12.8	12.8	8.5	2.1	－	6.4	4.3	25.5
多摩中央部南	203	36.5	30.0	8.9	15.8	11.8	10.3	9.4	6.4	3.4	17.2
多摩西部・島しょ	22	36.4	13.6	31.8	9.1	13.6	4.5	4.5	－	4.5	31.8
【性・年代別】											
男性（計）	641	43.1	32.1	15.9	13.1	14.2	10.5	10.0	5.5	2.2	13.6
15～19歳	42	50.0	45.2	16.7	11.9	11.9	7.1	19.0	11.9	2.4	9.5
20代	100	41.0	39.0	26.0	15.0	15.0	11.0	15.0	15.0	1.0	14.0
30代	89	38.2	31.5	9.0	13.5	12.4	9.0	6.7	7.9	2.2	18.0
40代	120	46.7	33.3	13.3	12.5	10.8	6.7	9.2	4.2	1.7	10.0
50代	104	42.3	27.9	16.3	9.6	6.7	15.4	9.6	2.9	1.0	20.2
60代	80	40.0	31.3	10.0	7.5	15.0	8.8	10.0	－	3.8	15.0
70代	106	45.3	24.5	18.9	19.8	26.4	13.2	5.7	－	3.8	7.5
女性（計）	647	36.0	26.9	10.7	13.3	11.1	9.7	9.0	6.5	5.6	15.9
15～19歳	45	37.8	35.6	17.8	17.8	8.9	4.4	8.9	20.0	－	17.8
20代	88	29.5	37.5	12.5	14.8	12.5	5.7	12.5	27.3	4.5	8.0
30代	90	24.4	32.2	12.2	16.7	6.7	3.3	5.6	8.9	6.7	12.2
40代	117	35.9	28.2	7.7	9.4	12.8	11.1	5.1	0.9	7.7	19.7
50代	112	29.5	13.4	6.3	19.6	7.1	8.9	8.0	－	8.9	24.1
60代	89	48.3	22.5	9.0	10.1	10.1	10.1	10.1	－	4.5	14.6
70代	106	47.2	26.4	14.2	7.5	17.9	19.8	13.2	－	2.8	13.2

（人）　（%）

職業別にみると、学生では、「興味を持ったから」が 41.0%で、全体の 29.4%より 11.6 ポイント高かった。

ライフステージ別にみると、高齢期では、「何か社会の役に立ちたかったから」が 49.1%で、全体の 39.4%より 9.7 ポイント高かった。「興味を持ったから」では、学校教育期が 39.8%、独身期が 38.0%で、いずれも全体より約 10 ポイント高かった。

年収別にみると、400 万円以上では、「何か社会の役に立ちたかったから」が 40%を超えた。

図表64. ボランティア活動に参加した理由【職業別／ライフステージ別／年収別】

	n	何か社会の役に立ちたかったから	興味を持ったから	自分の技術や能力、経験を活動に活かしたかったから	周りの人がやっているから	余暇時間を有意義に過ごしたいから	活動を通じて友人や仲間を増やしたいから	身近に放っておけない問題や課題があったから	就職や進学に有利になると考えたから	その他	特に理由はない
全体	1,295	39.4	29.4	13.3	13.1	12.7	10.0	9.4	6.0	3.9	14.9
【職業別】											
自営・家族従業	118	44.9	24.6	12.7	14.4	11.0	10.2	5.9	5.1	1.7	14.4
勤め（計）	630	40.3	33.5	14.8	11.4	12.9	9.7	9.8	7.1	3.2	13.5
勤め（全日）	526	41.8	33.7	15.0	11.0	13.3	10.1	9.7	7.8	2.5	12.5
勤め（短時間）	104	32.7	32.7	13.5	13.5	10.6	7.7	10.6	3.8	6.7	18.3
主婦・主夫	237	33.8	20.7	7.6	14.8	11.8	13.5	10.5	1.3	5.5	17.3
学生	122	40.2	41.0	16.4	14.8	8.2	5.7	13.9	15.6	1.6	16.4
無職	167	40.1	21.0	13.2	15.6	16.8	10.2	6.0	2.4	6.0	15.0
【ライフステージ別】											
学校教育期	118	39.8	39.8	15.3	15.3	7.6	5.9	12.7	16.1	1.7	16.9
独身期	216	33.3	38.0	14.4	14.4	14.4	8.8	9.7	17.1	3.2	13.0
家族形成期	83	38.6	28.9	20.5	9.6	10.8	6.0	8.4	14.5	3.6	10.8
家族成長前期	116	34.5	21.6	13.8	17.2	10.3	10.3	6.9	1.7	4.3	15.5
家族成長後期	99	31.3	17.2	9.1	13.1	4.0	14.1	9.1	2.0	10.1	21.2
家族成熟期	150	34.0	16.0	7.3	14.0	8.0	9.3	9.3	1.3	6.7	24.7
高齢期	228	49.1	25.9	15.4	13.6	21.5	15.4	9.2	－	3.1	11.0
【年収別】											
収入なし	151	35.1	29.1	9.3	17.2	8.6	7.9	8.6	8.6	5.3	18.5
200万円未満	296	33.8	28.7	10.5	15.2	10.8	11.8	9.5	4.1	4.4	17.6
200～300万円台	231	38.1	26.8	12.1	14.3	15.6	9.5	7.4	7.4	1.7	17.3
400～500万円台	220	44.5	33.6	15.5	9.1	16.8	10.9	11.8	5.0	3.6	8.6
600～700万円台	117	47.0	30.8	22.2	15.4	12.8	10.3	10.3	4.3	3.4	10.3
800～900万円台	79	46.8	27.8	20.3	7.6	15.2	16.5	8.9	8.9	2.5	8.9
1,000万円以上	73	46.6	34.2	15.1	6.8	15.1	9.6	13.7	6.8	2.7	11.0

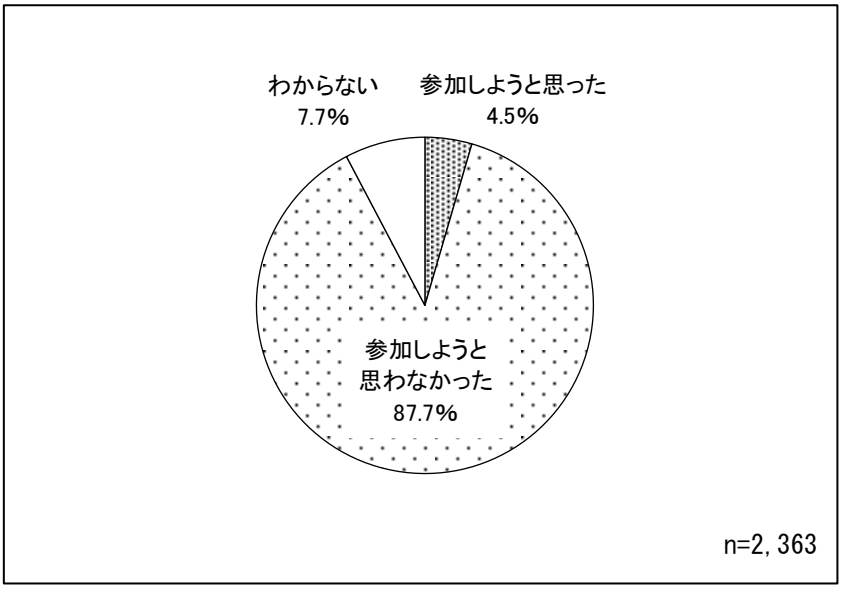
（人）　（%）

１－１６ ボランティア活動に参加しなかった人の参加意向

（Q2 で 17～19 のいずれかを答えた方）

Q16　あなたは直近 1 年間でボランティア活動に参加しようと思いましたか。次の中から 1 つだけお答えください。

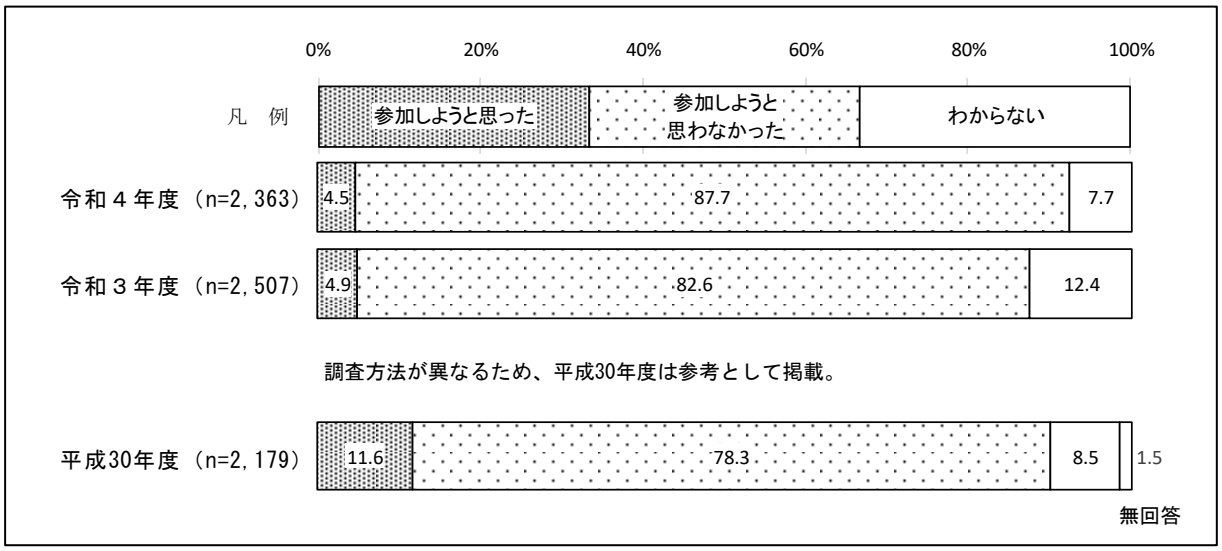
図表65. ボランティア活動に参加しなかった人の参加意向



直近 1 年間にボランティア活動に参加しなかった 2,363 人の参加意向は、「参加しようと思った」が 4.5%、「参加しようと思わなかった」が 87.7%、「わからない」が 7.7%であった。

令和 3 年度と比較すると、「参加しようと思った」は 0.4 ポイントの減少、「参加しようと思わなかった」は 5.1 ポイントの増加であった。

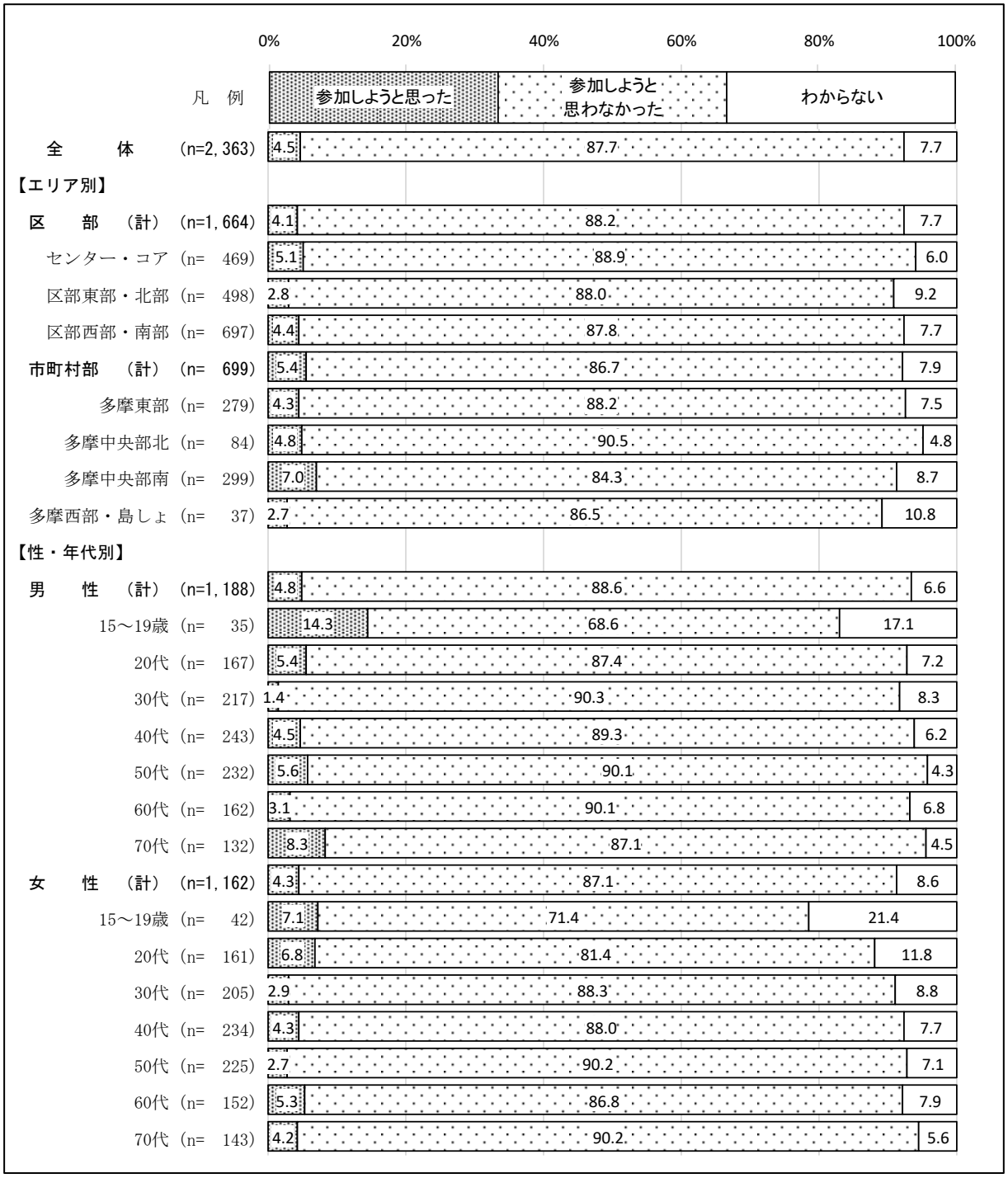
図表66. ボランティア活動に参加しなかった人の参加意向【経年比較】



エリア別でみると、いずれのエリアでも差はみられなかった。

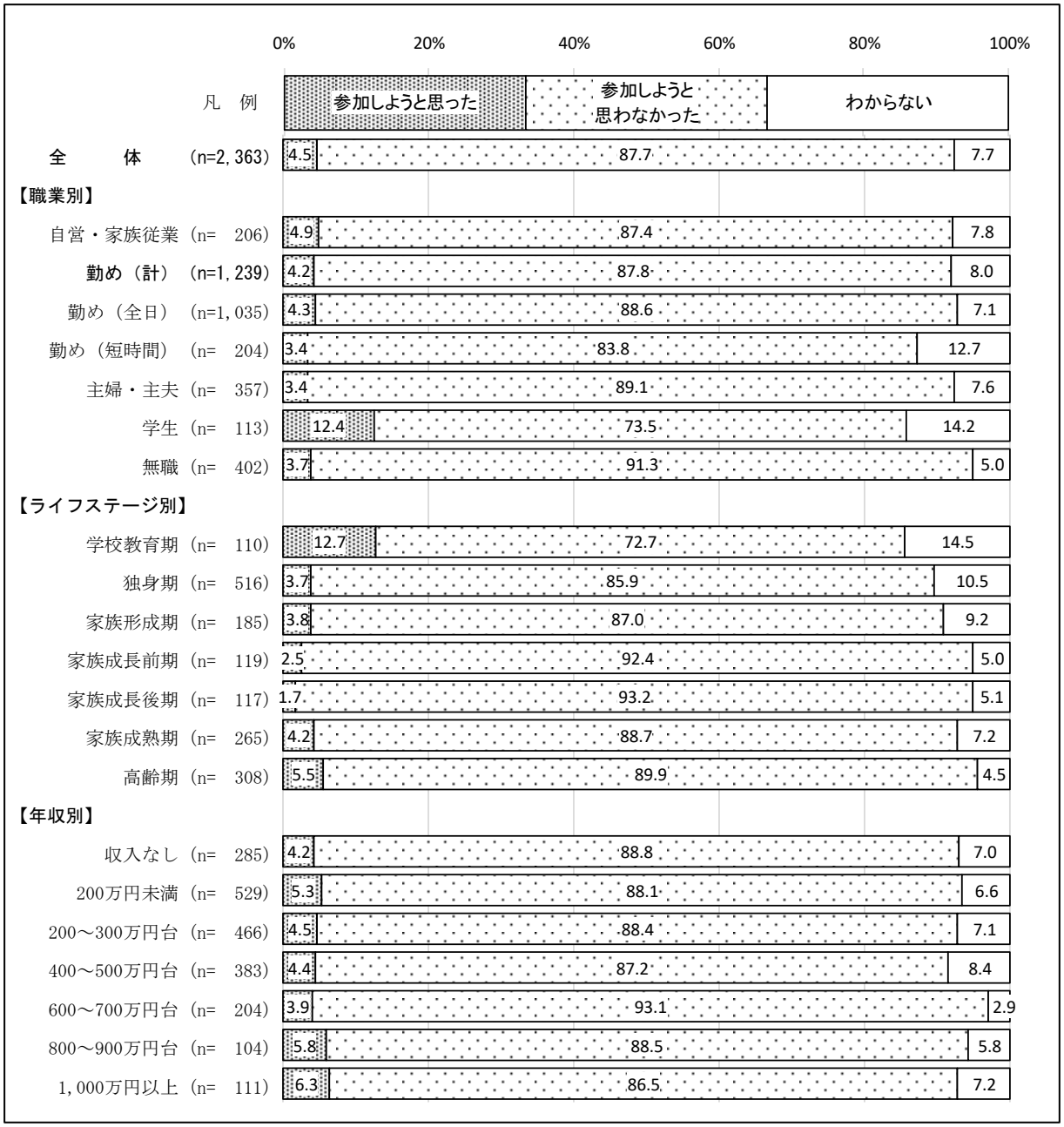
性・年代別にみると、「参加しようと思った」では、男性 15～19 歳が 14.3%、女性 15～19 歳が 7.1%であった。

図表67. ボランティア活動に参加しなかった人の参加意向【エリア別／性・年代別】



「参加しようと思った」を職業別にみると、学生が 12.4%で最も高かった。
ライフステージ別にみると、学校教育期が 12.7%で最も高かった。

図表68. ボランティア活動に参加しなかった人の参加意向【職業別／ライフステージ別／年収別】



「参加しようと思った」を行動者率別にみると、「直近１年間はないが、過去にボランティア活動に参加したことはある」が 9.3%で、「今まで全くボランティア活動などには参加したことがない」の 2.7%より 6.6 ポイント高かった。

図表69. ボランティア活動に参加しなかった人の参加意向【行動者率別】

	n	参加しようと思った	参加しようと思わなかった	わからない
全体	2,363	4.5	87.7	7.7
【行動者率別】				
直近1年間はないが、過去にボランティア活動に参加したことはある	658	9.3	82.4	8.4
今まで全くボランティア活動などには参加したことがない	1,705	2.7	89.8	7.5

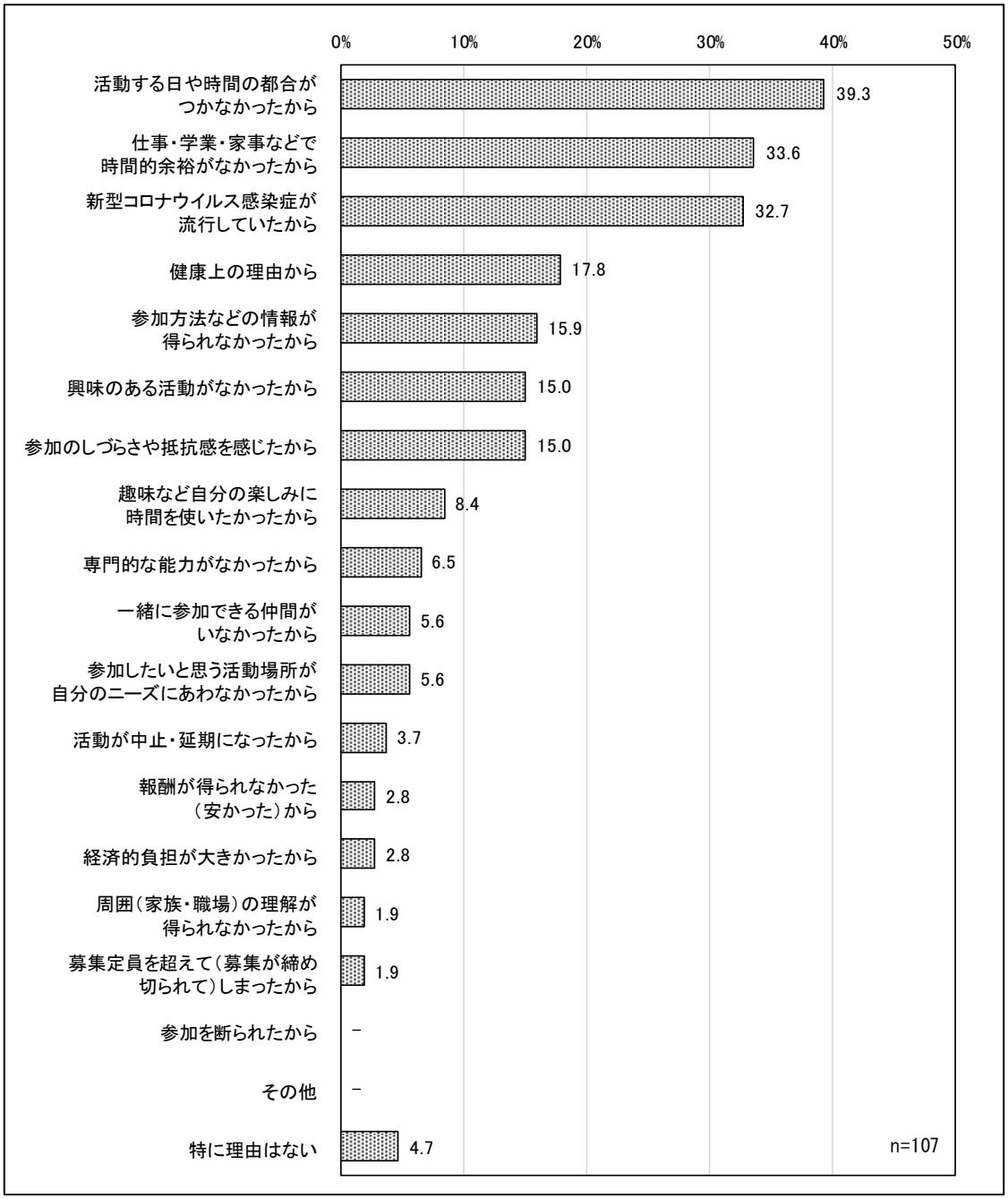
（人）　（%）

１－１７ ボランティア活動に参加しようと思ったのに参加しなかった理由

（Q16 で１と答えた方）

Q17　あなたがボランティア活動に参加しようと思ったのに、参加しなかったのはなぜですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

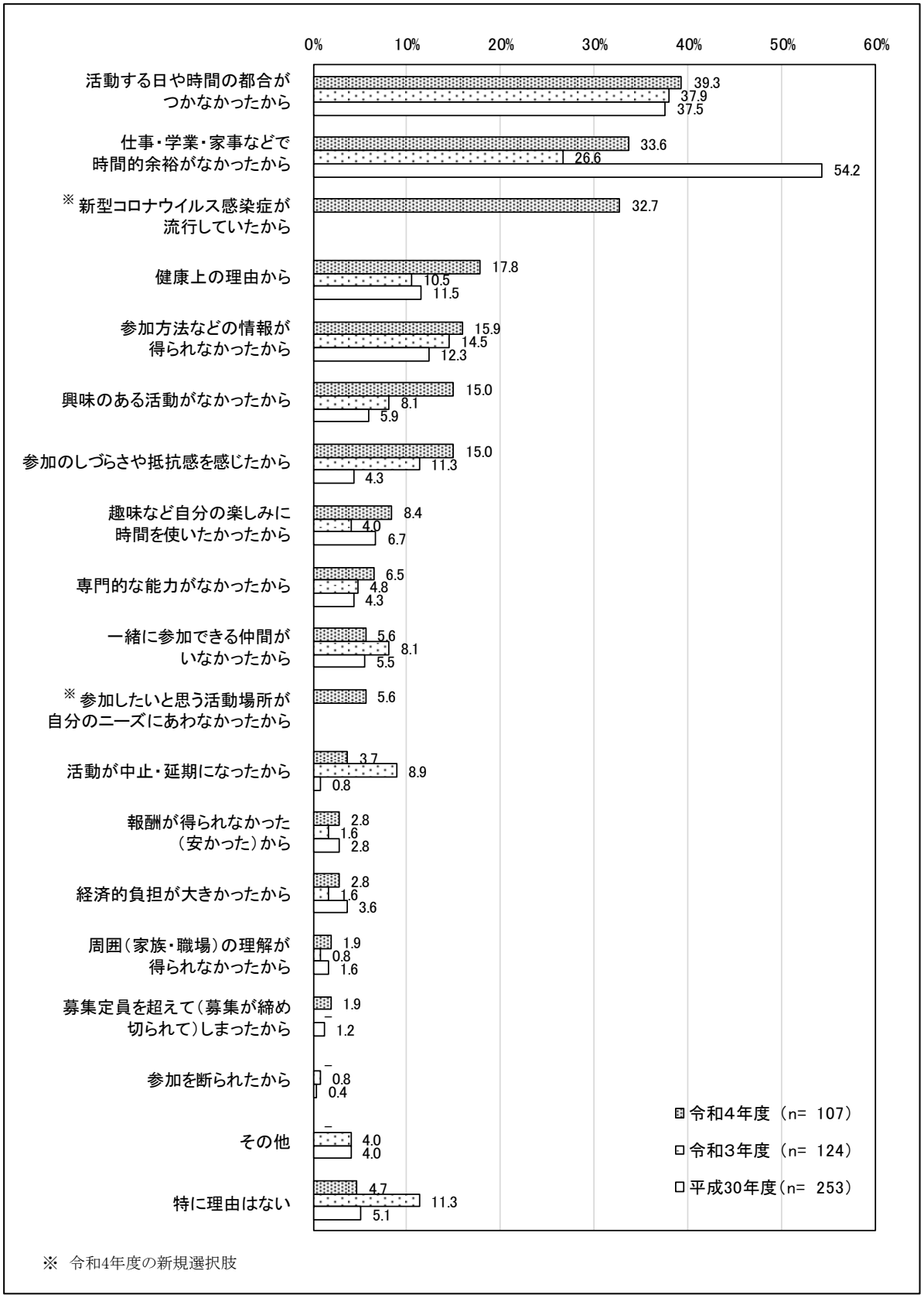
図表70. ボランティア活動に参加しようと思ったのに参加しなかった理由



ボランティア活動への参加意志があったが参加しなかった 107 人の不参加の理由は、「活動する日や時間の都合がつかなかったから」が 39.3％で最も高かった。次いで、「仕事・学業・家事などで時間的余裕がなかったから」が 33.6％、「新型コロナウイルス感染症が流行していたから」が 32.7％であった。

令和３年度と比較すると、「活動する日や時間の都合がつかなかったから」は 1.4 ポイントの増加、「仕事・学業・家事などで時間的余裕がなかったから」は 7.0 ポイントの増加であった。

図表71. ボランティア活動に参加しようと思ったのに参加しなかった理由【経年比較】



※ 令和4年度の新規選択肢

エリア別にみると、「新型コロナウイルス感染症が流行していたから」では、市町村部（計）が 42.1%で、区部（計）の 27.5%より 14.6 ポイント高かった。

性・年代別にみると、「活動する日や時間の都合がつかなかったから」では、男性（計）が 49.1%で、女性（計）の 28.0%より 21.1 ポイント高かった。「新型コロナウイルス感染症が流行していたから」では、女性（計）が 42.0%で、男性（計）の 24.6%より 17.4 ポイント高かった。

図表72. ボランティア活動に参加しようと思ったのに参加しなかった理由【エリア別／性・年代別】

	n	活動する日や時間の都合がつかなかったから	仕事・学業・家事などで時間的余裕がなかったから	新型コロナウイルス感染症が流行していたから	健康上の理由から	参加方法などの情報が得られなかったから	興味のある活動がなかったから	参加のしづらさや抵抗感を感じたから	趣味など自分の楽しみに時間を使いたかったから	専門的な能力がなかったから	一緒に参加できる仲間がいなかったから	参加したいと思う活動場所が自分のニーズにあわなかったから	活動が中止・延期になったから	報酬が得られなかった（安かった）から	経済的負担が大きかったから	周囲（家族・職場）の理解が得られなかったから	募集定員を超えて（募集が締め切られて）しまったから	参加を断られたから	その他	特に理由はない
全体	107	39.3	33.6	32.7	17.8	15.9	15.0	15.0	8.4	6.5	5.6	5.6	3.7	2.8	2.8	1.9	1.9	－	－	4.7
【エリア別】																				
区部（計）	69	42.0	31.9	27.5	20.3	15.9	7.2	17.4	8.7	5.8	7.2	5.8	5.8	1.4	2.9	1.4	1.4	－	－	5.8
センター・コア	24	29.2	20.8	29.2	29.2	16.7	8.3	16.7	12.5	8.3	4.2	12.5	4.2	－	4.2	－	－	－	－	8.3
区部東部・北部	14	35.7	28.6	35.7	7.1	42.9	7.1	21.4	7.1	7.1	7.1	－	7.1	－	－	－	－	－	－	7.1
区部西部・南部	31	54.8	41.9	22.6	19.4	3.2	6.5	16.1	6.5	3.2	9.7	3.2	6.5	3.2	3.2	3.2	3.2	－	－	3.2
市町村部（計）	38	34.2	36.8	42.1	13.2	15.8	28.9	10.5	7.9	7.9	2.6	5.3	－	5.3	2.6	2.6	2.6	－	－	2.6
多摩東部	12	50.0	50.0	25.0	33.3	16.7	16.7	8.3	8.3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
多摩中央部北	4	25.0	25.0	50.0	－	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	－	25.0	－	－	－	－	－	－	－	25.0
多摩中央部南	21	28.6	33.3	52.4	4.8	14.3	28.6	9.5	4.8	9.5	4.8	4.8	－	9.5	4.8	4.8	4.8	－	－	－
多摩西部・島しょ	1	－	－	－	－	－	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
【性・年代別】																				
男性（計）	57	49.1	33.3	24.6	12.3	12.3	14.0	10.5	3.5	3.5	3.5	7.0	5.3	1.8	－	1.8	1.8	－	－	5.3
15～19歳	5	60.0	80.0	20.0	－	－	－	－	－	－	－	20.0	－	－	－	－	－	－	－	－
20代	9	66.7	55.6	22.2	－	－	22.2	22.2	－	－	11.1	11.1	－	11.1	－	－	－	－	－	－
30代	3	66.7	－	－	－	33.3	－	33.3	－	－	－	33.3	－	－	－	－	－	－	－	－
40代	11	63.6	45.5	18.2	－	9.1	9.1	9.1	9.1	－	－	－	9.1	－	－	9.1	－	－	－	9.1
50代	13	46.2	15.4	30.8	7.7	23.1	7.7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	7.7	－	－	15.4
60代	5	40.0	20.0	－	60.0	20.0	20.0	－	－	－	20.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
70代	11	18.2	18.2	45.5	27.3	9.1	27.3	18.2	9.1	18.2	－	9.1	18.2	－	－	－	－	－	－	－
女性（計）	50	28.0	34.0	42.0	24.0	20.0	16.0	20.0	14.0	10.0	8.0	4.0	2.0	4.0	6.0	2.0	2.0	－	－	4.0
15～19歳	3	66.7	100.0	33.3	－	33.3	－	－	33.3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
20代	11	27.3	63.6	27.3	36.4	9.1	18.2	54.5	36.4	18.2	9.1	－	－	－	9.1	－	9.1	－	－	－
30代	6	16.7	16.7	33.3	33.3	16.7	－	－	－	－	16.7	－	－	16.7	－	－	－	－	－	16.7
40代	10	50.0	40.0	40.0	10.0	10.0	30.0	10.0	10.0	10.0	－	10.0	10.0	－	20.0	10.0	－	－	－	－
50代	6	16.7	－	66.7	16.7	16.7	33.3	50.0	16.7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
60代	8	－	12.5	37.5	25.0	50.0	12.5	－	－	25.0	12.5	－	－	12.5	－	－	－	－	－	12.5
70代	6	33.3	16.7	66.7	33.3	16.7	－	－	－	－	16.7	16.7	－	－	－	－	－	－	－	－

（人）（%）

※コメント省略

図表73. ボランティア活動に参加しようと思ったのに参加しなかった理由

【職業別／ライフステージ別／年収別】

	n	活動する日や時間の都合がつかなかったから	仕事・学業・家事などで時間的余裕がなかったから	新型コロナウイルス感染症が流行していたから	健康上の理由から	参加方法などの情報が得られなかったから	興味のある活動がなかったから	参加のしづらさや抵抗感を感じたから	趣味など自分の楽しみに時間を使いたかったから	専門的な能力がなかったから	一緒に参加できる仲間がいなかったから	参加したいと思う活動場所が自分のニーズにあわなかったから	活動が中止・延期になったから	報酬が得られなかった（安かった）から	経済的負担が大きかったから	周囲（家族・職場）の理解が得られなかったから	募集定員を超えて（募集が締め切られて）しまったから	参加を断られたから	その他	特に理由はない
全体	107	39.3	33.6	32.7	17.8	15.9	15.0	15.0	8.4	6.5	5.6	5.6	3.7	2.8	2.8	1.9	1.9	－	－	4.7
【職業別】																				
自営・家族従業	10	20.0	－	30.0	20.0	10.0	－	20.0	－	－	－	10.0	－	－	－	－	－	－	－	10.0
勤め（計）	52	53.8	42.3	26.9	13.5	17.3	15.4	17.3	9.6	5.8	5.8	1.9	3.8	1.9	1.9	3.8	1.9	－	－	3.8
勤め（全日）	45	60.0	42.2	24.4	11.1	17.8	13.3	17.8	11.1	4.4	6.7	2.2	4.4	2.2	2.2	4.4	－	－	－	4.4
勤め（短時間）	7	14.3	42.9	42.9	28.6	14.3	28.6	14.3	－	14.3	－	－	－	－	－	－	14.3	－	－	－
主婦・主夫	12	8.3	8.3	66.7	25.0	25.0	16.7	16.7	8.3	16.7	8.3	－	－	8.3	8.3	－	－	－	－	8.3
学生	14	57.1	71.4	21.4	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	－	7.1	14.3	－	7.1	－	－	－	－	－	－
無職	15	13.3	13.3	40.0	33.3	20.0	26.7	6.7	6.7	6.7	6.7	13.3	6.7	－	－	－	－	－	－	－
【ライフステージ別】																				
学校教育期	14	57.1	71.4	21.4	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	－	7.1	14.3	－	7.1	－	－	－	－	－	－
独身期	19	42.1	42.1	21.1	21.1	15.8	15.8	42.1	21.1	10.5	10.5	5.3	－	5.3	5.3	－	5.3	－	－	－
家族形成期	7	28.6	42.9	57.1	14.3	－	－	－	14.3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	14.3
家族成長前期	3	66.7	33.3	33.3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
家族成長後期	2	100.0	50.0	50.0	－	50.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
家族成熟期	11	27.3	－	27.3	－	18.2	27.3	18.2	9.1	9.1	18.2	－	－	9.1	－	－	9.1	－	－	27.3
高齢期	17	23.5	23.5	52.9	35.3	11.8	29.4	11.8	5.9	11.8	－	5.9	11.8	－	－	－	－	－	－	－
【年収別】																				
収入なし	12	41.7	41.7	50.0	25.0	8.3	16.7	16.7	16.7	－	－	8.3	－	－	－	－	－	－	－	－
200万円未満	28	25.0	32.1	39.3	17.9	14.3	10.7	10.7	－	7.1	7.1	3.6	－	7.1	7.1	3.6	3.6	－	－	7.1
200～300万円台	21	38.1	33.3	23.8	14.3	23.8	19.0	33.3	19.0	14.3	4.8	14.3	14.3	－	4.8	4.8	4.8	－	－	－
400～500万円台	17	47.1	29.4	23.5	11.8	17.6	29.4	17.6	11.8	11.8	5.9	5.9	5.9	－	－	－	－	－	－	－
600～700万円台	8	62.5	62.5	37.5	－	－	－	－	－	－	12.5	－	－	12.5	－	－	－	－	－	－
800～900万円台	6	66.7	33.3	33.3	16.7	16.7	16.7	－	16.7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	16.7
1,000万円以上	7	42.9	28.6	28.6	28.6	28.6	14.3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	14.3

（人）　（%）

行動者率別にみると、「直近１年間はないが、過去にボランティア活動に参加したことはある」では、「活動する日や時間の都合がつかなかったから」が 52.5%、「仕事・学業・家事などで時間的余裕がなかったから」が 45.9%で、いずれも全体より 10 ポイント以上高かった。「今まで全くボランティア活動などには参加したことがない」では、「新型コロナウイルス感染症が流行していたから」「参加方法などの情報が得られなかったから」「参加のしづらさや抵抗感を感じたから」がいずれも 23.9%であった。

図表74. ボランティア活動に参加しようと思ったのに参加しなかった理由【行動者率別】

	n	活動する日や時間の都合がつかなかったから	仕事・学業・家事などで時間的余裕がなかったから	新型コロナウイルス感染症が流行していたから	健康上の理由から	参加方法などの情報が得られなかったから	興味のある活動がなかったから	参加のしづらさや抵抗感を感じたから	趣味など自分の楽しみに時間を使いたかったから	専門的な能力がなかったから	一緒に参加できる仲間がいなかったから	参加したいと思う活動場所が自分のニーズにあわなかったから	活動が中止・延期になったから	報酬が得られなかった（安かった）から	経済的負担が大きかったから	周囲（家族・職場）の理解が得られなかったから	募集定員を超えて（募集が締め切られて）しまったから	参加を断られたから	その他	特に理由はない
全体	107	39.3	33.6	32.7	17.8	15.9	15.0	15.0	8.4	6.5	5.6	5.6	3.7	2.8	2.8	1.9	1.9	－	－	4.7
【行動者率別】																				
直近1年間はないが、過去にボランティア活動に参加したことはある	61	52.5	45.9	39.3	18.0	9.8	14.8	8.2	6.6	3.3	4.9	8.2	4.9	3.3	3.3	1.6	3.3	－	－	－
今まで全くボランティア活動などには参加したことがない	46	21.7	17.4	23.9	17.4	23.9	15.2	23.9	10.9	10.9	6.5	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	－	－	－	10.9

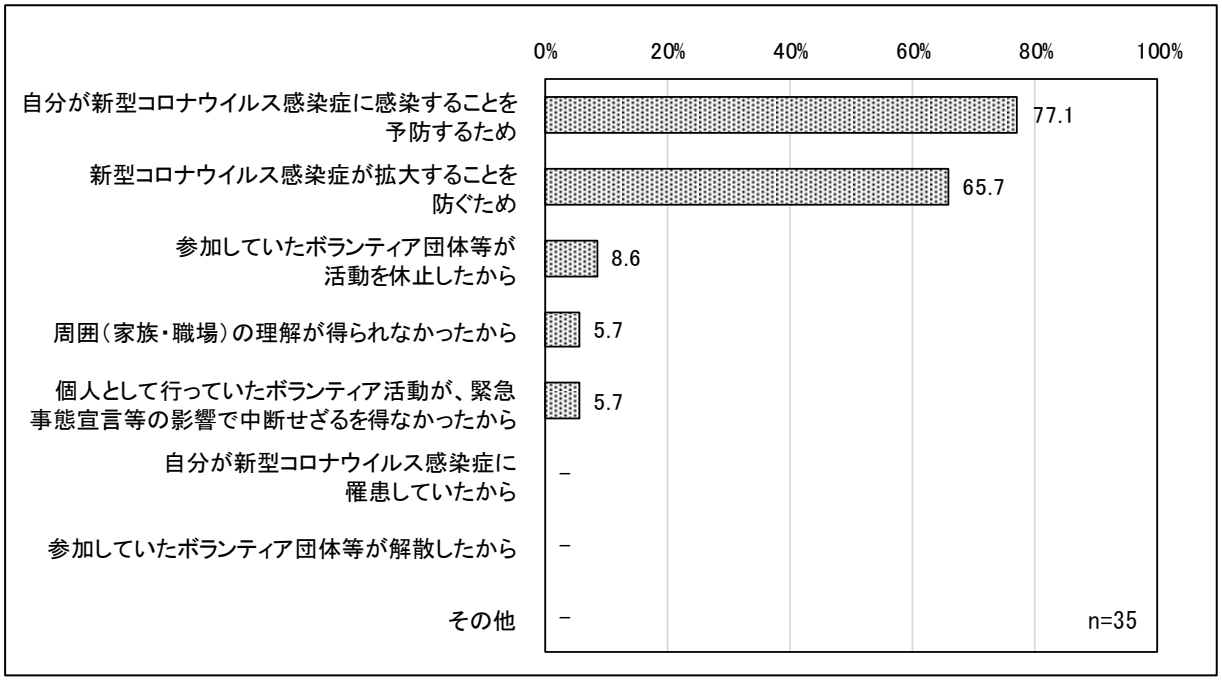
（人）（%）

１－１８ 新型コロナウイルス感染症の流行により参加しなかった理由

（Q17 で 16 と答えた方）

Q18　新型コロナウイルス感染症の流行により参加しなかったのは、具体的にどのような理由からですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表75. 新型コロナウイルス感染症の流行により参加しなかった理由



ボランティア活動への参加意志があったが、新型コロナウイルス感染症の流行により参加しなかった 35 人の理由は、「自分が新型コロナウイルス感染症に感染することを予防するため」が 77.1％で最も高かった。次いで、「新型コロナウイルス感染症が拡大することを防ぐため」が 65.7％であった。

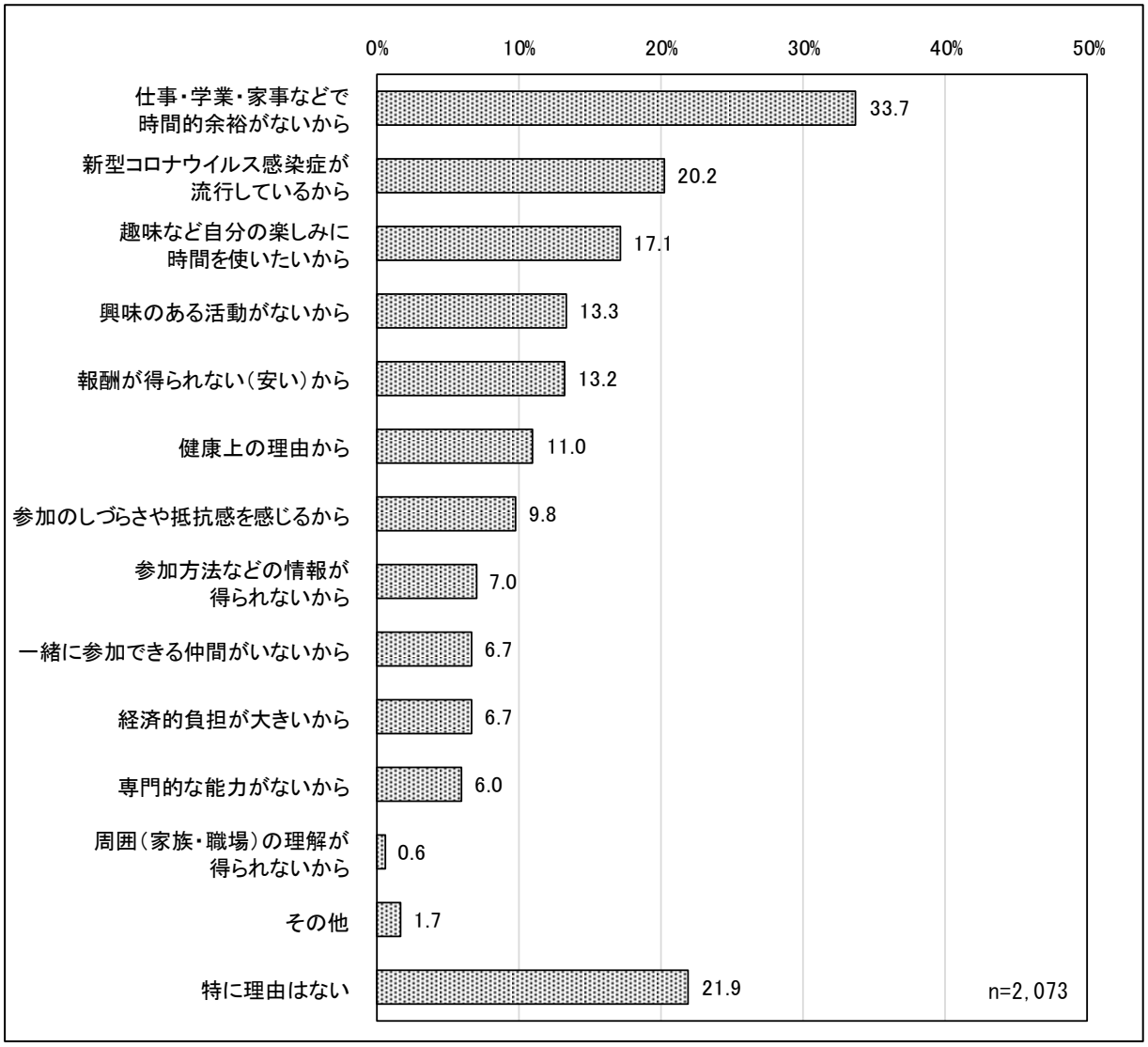
（注）令和 3 年度は回答対象者が異なるため、本設問は経年比較を行っていない。

１－１９ ボランティア活動に参加しようと思わなかった理由

（Q16 で 2 と答えた方）

Q19　あなたがボランティア活動に参加しようと思わなかったのはなぜですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

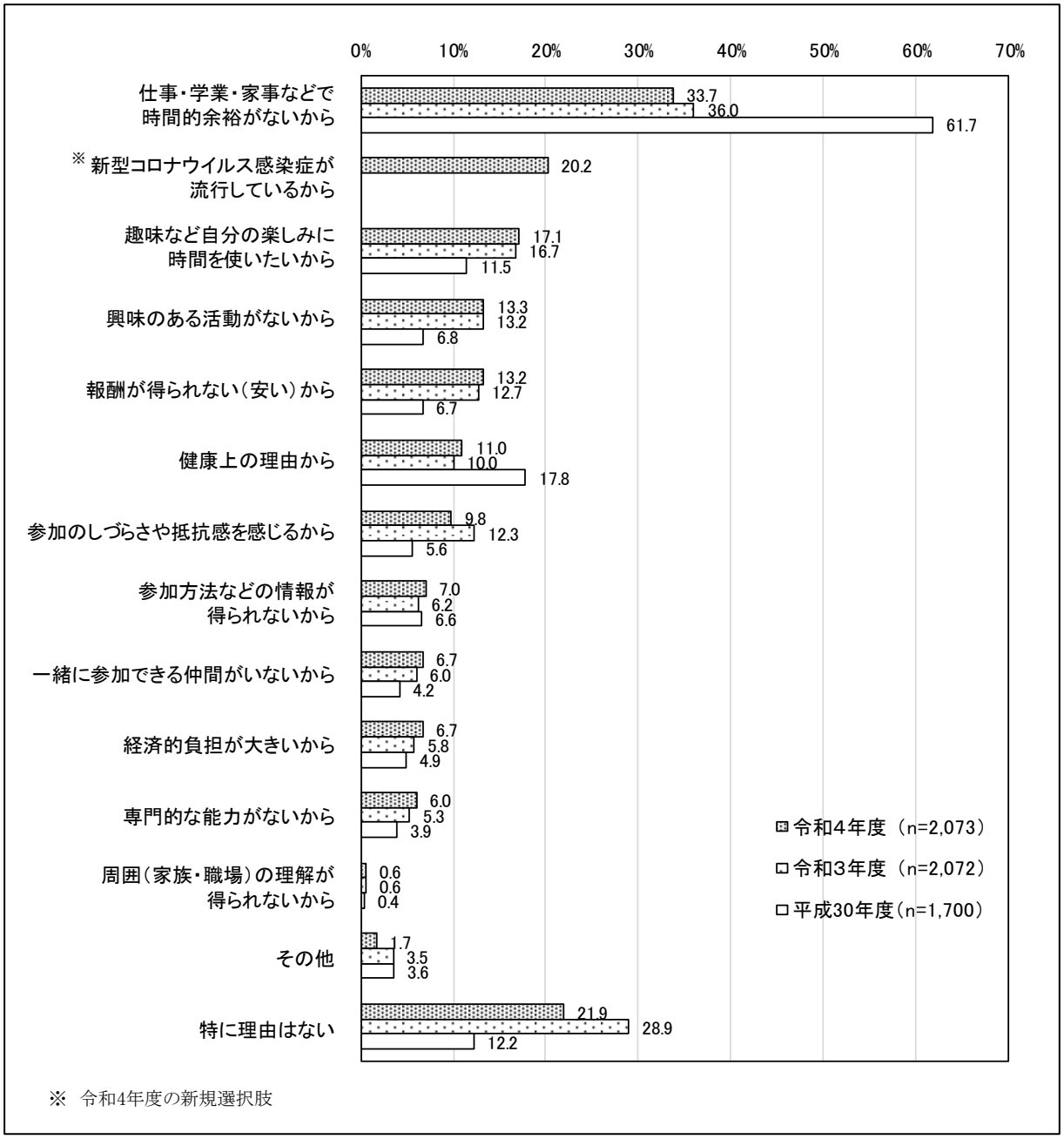
図表76. ボランティア活動に参加しようと思わなかった理由



ボランティア活動に参加しようと思わなかった 2,073 人の理由は、「仕事・学業・家事などで時間的余裕がないから」が 33.7％で最も高かった。次いで、「新型コロナウイルス感染症が流行しているから」が 20.2％、「趣味など自分の楽しみに時間を使いたいから」が 17.1％であった。また、「特に理由はない」は 21.9％であった。

令和３年度と比較すると、「仕事・学業・家事などで時間的余裕がないから」は 2.3 ポイントの減少、「趣味など自分の楽しみに時間を使いたいから」は 0.4 ポイントの増加であった。

図表77. ボランティア活動に参加しようと思わなかった理由【経年比較】



※ 令和4年度の新規選択肢

エリア別にみると、区部（計）と市町村部（計）で差はみられなかった。

性・年代別にみると、「新型コロナウイルス感染症が流行しているから」では、女性（計）が25.2%で、男性（計）の15.5%より9.7ポイント高かった。

図表78. ボランティア活動に参加しようと思わなかった理由【エリア別／性・年代別】

	n	仕事・学業・家事などで時間的余裕がないから	新型コロナウイルス感染症が流行しているから	趣味など自分の楽しみに時間を使いたいから	興味のある活動がないから	報酬が得られない（安い）から	健康上の理由から	参加のしづらさや抵抗感を感じるから	参加方法などの情報が得られないから	経済的負担が大きいから	一緒に参加できる仲間がいないから	専門的な能力がないから	周囲（家族・職場）の理解が得られないから	その他	特に理由はない
全体	2,073	33.7	20.2	17.1	13.3	13.2	11.0	9.8	7.0	6.7	6.7	6.0	0.6	1.7	21.9
【エリア別】															
区部（計）	1,467	33.5	19.6	17.5	13.7	12.8	10.3	8.5	7.0	7.0	7.1	6.6	0.5	1.6	22.8
センター・コア	417	31.2	21.6	17.0	16.1	13.9	9.6	9.4	6.2	6.2	6.2	5.3	0.2	2.2	24.7
区部東部・北部	438	35.4	17.8	17.8	11.9	13.7	9.8	8.4	8.2	7.8	6.8	5.7	0.5	1.4	21.2
区部西部・南部	612	33.8	19.6	17.5	13.4	11.4	11.1	8.0	6.5	6.9	7.8	8.2	0.8	1.5	22.5
市町村部（計）	606	34.2	21.6	16.3	12.4	14.0	12.7	12.9	7.1	5.9	5.8	4.6	0.8	2.0	20.0
多摩東部	246	35.4	25.6	17.9	15.4	12.6	11.4	13.8	6.5	5.7	6.5	3.3	0.8	3.3	15.0
多摩中央部北	76	30.3	19.7	21.1	6.6	15.8	11.8	10.5	7.9	2.6	3.9	2.6	1.3	－	27.6
多摩中央部南	252	35.3	18.3	13.1	12.3	15.1	15.9	12.7	7.1	7.1	6.3	6.3	0.8	1.6	23.0
多摩西部・島しょ	32	25.0	21.9	18.8	3.1	12.5	－	12.5	9.4	6.3	－	6.3	－	－	15.6
【性・年代別】															
男性（計）	1,053	32.3	15.5	18.3	14.1	13.7	9.9	9.5	7.0	6.4	5.9	5.2	0.6	1.1	24.8
15～19歳	24	41.7	4.2	20.8	25.0	16.7	4.2	8.3	16.7	4.2	12.5	－	－	－	33.3
20代	146	30.8	13.7	19.9	13.0	18.5	4.1	8.9	8.9	4.8	6.8	4.1	－	1.4	32.2
30代	196	30.1	11.7	23.0	14.3	21.4	4.1	10.7	5.6	7.7	5.1	4.6	－	1.5	27.0
40代	217	33.2	13.4	17.1	14.7	13.8	7.4	6.9	6.5	6.5	2.8	4.1	0.5	0.9	28.1
50代	209	40.7	19.1	16.3	12.9	11.0	8.6	9.6	4.8	7.7	6.7	6.2	1.4	1.4	21.1
60代	146	37.0	19.9	16.4	9.6	6.2	18.5	8.9	8.2	5.5	4.1	7.5	1.4	0.7	17.8
70代	115	13.0	18.3	16.5	19.1	7.8	24.3	13.9	8.7	5.2	11.3	6.1	－	0.9	19.1
女性（計）	1,012	35.1	25.2	16.0	12.6	12.7	12.2	10.2	6.9	7.0	7.6	6.9	0.7	2.3	19.0
15～19歳	30	66.7	13.3	30.0	16.7	23.3	－	6.7	20.0	10.0	16.7	3.3	－	－	16.7
20代	131	51.1	13.0	26.7	19.8	23.7	6.1	8.4	7.6	5.3	7.6	3.1	－	－	18.3
30代	181	43.1	20.4	22.1	13.8	17.1	6.1	11.6	8.3	6.6	6.1	3.9	－	1.1	21.0
40代	206	37.4	22.3	17.0	11.7	13.6	8.3	12.1	4.4	6.8	4.4	6.8	0.5	0.5	19.4
50代	203	34.0	30.0	9.9	13.3	10.8	14.8	9.9	7.9	10.3	8.9	10.8	1.0	3.4	16.7
60代	132	25.0	35.6	9.8	5.3	6.1	17.4	7.6	2.3	7.6	9.8	8.3	2.3	3.0	19.7
70代	129	8.5	33.3	7.8	10.9	1.6	26.4	10.9	8.5	3.1	8.5	8.5	0.8	7.0	19.4

（人）　（%）

職業別にみると、学生では、「仕事・学業・家事などで時間的余裕がないから」が 55.4%で、全体の 33.7%より 21.7 ポイント高かった。主婦・主夫では、「新型コロナウイルス感染症が流行しているから」が 35.5%で、全体の 20.2%より 15.3 ポイント高かった。

ライフステージ別にみると、学校教育期では、「仕事・学業・家事などで時間的余裕がないから」が 57.5%で、全体より 23.8 ポイント高かった。高齢期では、「新型コロナウイルス感染症が流行しているから」が 28.5%で、全体より 8.3 ポイント高かった。

年収別にみると、600 万円以上では、「仕事・学業・家事などで時間的余裕がないから」が 40%を超えた。

図表79. ボランティア活動に参加しようと思わなかった理由【職業別／ライフステージ別／年収別】

	n	仕事・学業・家事などで時間的余裕がないから	新型コロナウイルス感染症が流行しているから	趣味など自分の楽しみに時間を使いたいから	興味のある活動がないから	報酬が得られない（安い）から	健康上の理由から	参加のしづらさや抵抗感を感じるから	参加方法などの情報が得られないから	経済的負担が大きいから	一緒に参加できる仲間がいないから	専門的な能力がないから	周囲（家族・職場）の理解が得られないから	その他	特に理由はない
全体	2,073	33.7	20.2	17.1	13.3	13.2	11.0	9.8	7.0	6.7	6.7	6.0	0.6	1.7	21.9
【職業別】															
自営・家族従業	180	40.0	17.8	15.0	10.0	10.6	7.2	7.8	6.1	10.6	5.0	3.3	－	1.1	22.2
勤め（計）	1,088	44.2	17.6	19.7	13.7	15.8	5.9	9.0	7.0	6.4	5.8	4.7	0.7	1.1	20.7
勤め（全日）	917	45.3	15.9	19.6	13.4	14.7	4.8	8.3	7.4	5.2	5.0	4.1	0.7	1.2	21.5
勤め（短時間）	171	38.6	26.3	19.9	15.2	21.6	11.7	12.9	4.7	12.9	9.9	7.6	1.2	0.6	16.4
主婦・主夫	318	19.5	35.5	10.4	12.9	6.9	17.9	12.6	6.9	4.1	10.7	8.8	1.3	3.1	20.1
学生	83	55.4	8.4	24.1	19.3	21.7	2.4	4.8	13.3	7.2	10.8	1.2	－	－	27.7
無職	367	8.2	19.1	16.1	13.6	10.9	24.0	12.0	6.3	8.2	6.3	10.4	0.3	3.0	24.3
【ライフステージ別】															
学校教育期	80	57.5	7.5	25.0	20.0	22.5	2.5	5.0	13.8	7.5	11.3	1.3	－	－	26.3
独身期	443	35.4	14.0	24.4	14.2	19.6	5.9	10.8	8.6	7.4	7.4	5.4	－	1.6	25.5
家族形成期	161	44.1	19.3	17.4	18.6	18.6	3.7	9.9	6.2	1.9	3.7	1.2	0.6	0.6	21.1
家族成長前期	110	38.2	17.3	11.8	6.4	13.6	4.5	6.4	3.6	2.7	4.5	2.7	0.9	2.7	24.5
家族成長後期	109	40.4	24.8	10.1	10.1	5.5	6.4	9.2	6.4	7.3	5.5	0.9	－	1.8	21.1
家族成熟期	235	33.6	27.2	14.5	9.4	11.5	14.0	7.7	6.4	5.5	6.0	6.0	2.1	1.7	17.0
高齢期	277	14.8	28.5	12.6	13.4	3.2	25.3	11.9	6.1	3.2	9.4	7.9	0.7	2.5	18.8
【年収別】															
収入なし	253	21.7	25.7	12.3	12.6	13.4	17.8	10.7	5.9	5.5	8.3	9.5	0.4	2.8	22.1
200万円未満	466	28.3	22.3	18.5	15.5	13.7	16.5	11.2	7.7	12.0	7.9	6.9	0.9	2.4	18.0
200～300万円台	412	37.1	20.9	18.7	13.8	18.2	10.2	11.9	6.8	6.3	8.0	5.8	0.7	1.5	21.1
400～500万円台	334	38.0	15.3	17.1	13.2	15.6	6.3	8.1	8.1	6.6	6.0	4.5	－	0.9	22.5
600～700万円台	190	44.7	15.3	21.1	11.1	12.6	6.8	8.9	6.8	3.7	3.7	4.2	1.6	2.1	20.5
800～900万円台	92	48.9	18.5	20.7	10.9	5.4	7.6	8.7	5.4	2.2	6.5	3.3	1.1	－	21.7
1,000万円以上	96	40.6	20.8	15.6	17.7	3.1	1.0	7.3	8.3	3.1	6.3	9.4	1.0	2.1	16.7

（人）　（%）

行動者率別にみると、「仕事・学業・家事などで時間的余裕がないから」では、「直近1年間はないが、過去にボランティア活動に参加したことはある」が37.1%で、「今まで全くボランティアなどには参加したことがない」の32.5%より4.6ポイント高かった。「新型コロナウイルス感染症が流行しているから」では、「直近1年間はないが、過去にボランティア活動に参加したことはある」が33.8%で、「今まで全くボランティアなどには参加したことがない」の15.4%より18.4ポイント高かった。

図表80. ボランティア活動に参加しようと思わなかった理由【行動者率別】

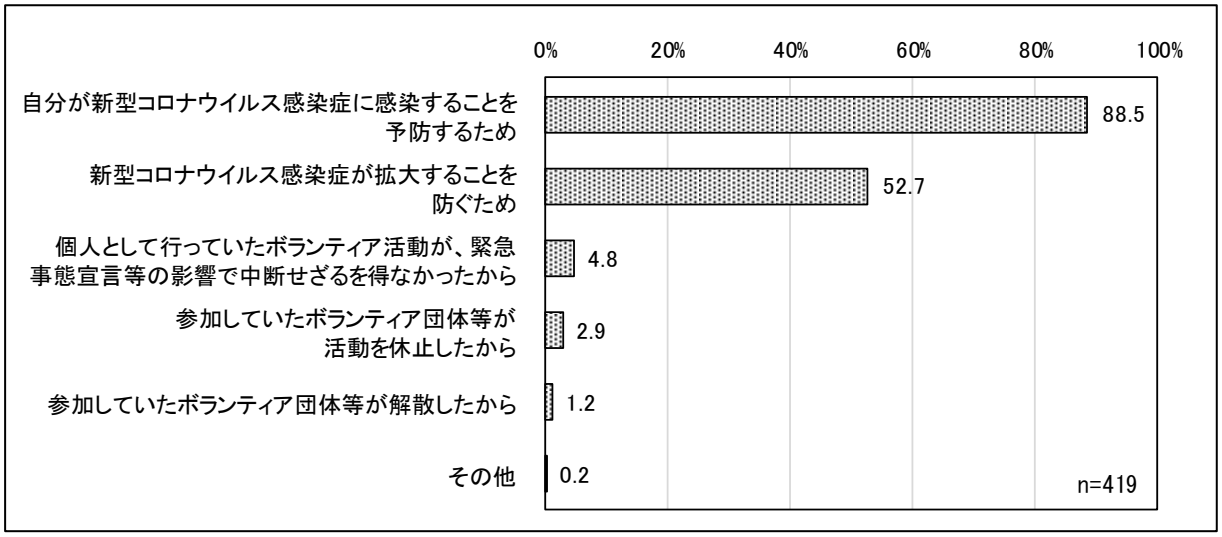
	n	仕事・学業・家事などで時間的余裕がないから	新型コロナウイルス感染症が流行しているから	趣味など自分の楽しみに時間を使いたいから	興味のある活動がないから	報酬が得られない（安い）から	健康上の理由から	参加のしづらさや抵抗感を感じるから	参加方法などの情報が得られないから	経済的負担が大きいから	一緒に参加できる仲間がいないから	専門的な能力がないから	周囲（家族・職場）の理解が得られないから	その他	特に理由はない
全体	2,073	33.7	20.2	17.1	13.3	13.2	11.0	9.8	7.0	6.7	6.7	6.0	0.6	1.7	21.9
【行動者率別】															
直近1年間はないが、過去にボランティア活動に参加したことはある	542	37.1	33.8	12.4	13.5	9.2	11.3	8.7	5.9	6.6	7.2	3.0	0.9	2.8	10.1
今まで全くボランティア活動などには参加したことがない	1,531	32.5	15.4	18.8	13.3	14.6	10.9	10.2	7.4	6.7	6.5	7.1	0.5	1.4	26.1

１－２０ 新型コロナウイルス感染症の流行により参加しなかった理由

（Q19 で 12 と答えた方）

Q20　新型コロナウイルス感染症の流行により、参加しようと思わなかったのはなぜですか。（複数回答）

図表81. 新型コロナウイルス感染症の流行により参加しなかった理由



ボランティア活動への参加意志がなく、新型コロナウイルス感染症の流行により参加しなかった 419 人の理由は、「自分が新型コロナウイルス感染症に感染することを予防するため」が 88.5%で最も高かった。次いで、「新型コロナウイルス感染症が拡大することを防ぐため」が 52.7%であった。

「新型コロナウイルス感染症が拡大することを防ぐため」をエリア別にみると、区部（計）が54.2%で、市町村部（計）の49.6%より4.6ポイント高かった。

性・年代別にみると、男性（計）が57.7%で、女性（計）の49.4%より8.3ポイント高かった。

図表82. 新型コロナウイルス感染症の流行により参加しなかった理由【エリア別／性・年代別】

	n	自分が新型コロナウイルス感染症に感染することを予防するため	新型コロナウイルス感染症が拡大することを防ぐため	個人として行っていたボランティア活動が、緊急事態宣言等の影響で中断せざるを得なかったから	参加していたボランティア団体等が活動を休止したから	参加していたボランティア団体等が解散したから	その他
全体	419	88.5	52.7	4.8	2.9	1.2	0.2
【エリア別】							
区部（計）	288	87.5	54.2	6.3	3.5	1.0	0.3
センター・コア	90	87.8	48.9	7.8	3.3	2.2	－
区部東部・北部	78	91.0	57.7	6.4	3.8	－	1.3
区部西部・南部	120	85.0	55.8	5.0	3.3	0.8	－
市町村部（計）	131	90.8	49.6	1.5	1.5	1.5	－
多摩東部	63	92.1	49.2	1.6	－	－	－
多摩中央部北	15	93.3	60.0	－	6.7	－	－
多摩中央部南	46	91.3	47.8	2.2	2.2	4.3	－
多摩西部・島しょ	7	71.4	42.9	－	－	－	－
【性・年代別】							
男性（計）	163	90.8	57.7	3.1	1.8	1.8	－
15～19歳	1	100.0	－	－	－	－	－
20代	20	80.0	45.0	－	－	5.0	－
30代	23	91.3	60.9	4.3	－	－	－
40代	29	93.1	69.0	3.4	3.4	－	－
50代	40	92.5	55.0	2.5	2.5	5.0	－
60代	29	89.7	58.6	3.4	3.4	－	－
70代	21	95.2	57.1	4.8	－	－	－
女性（計）	255	87.1	49.4	5.9	3.5	0.8	0.4
15～19歳	4	75.0	25.0	－	－	－	－
20代	17	82.4	41.2	5.9	5.9	－	－
30代	37	97.3	51.4	2.7	2.7	－	－
40代	46	82.6	56.5	4.3	2.2	2.2	－
50代	61	91.8	39.3	4.9	1.6	－	1.6
60代	47	87.2	57.4	10.6	6.4	2.1	－
70代	43	79.1	51.2	7.0	4.7	－	－

（人）　（%）

「新型コロナウイルス感染症が拡大することを防ぐため」を職業別にみると、勤め（計）が58.1%で、他の職業に比べ高かった。

図表83. 新型コロナウイルス感染症の流行により参加しなかった理由

【職業別／ライフステージ別／年収別】

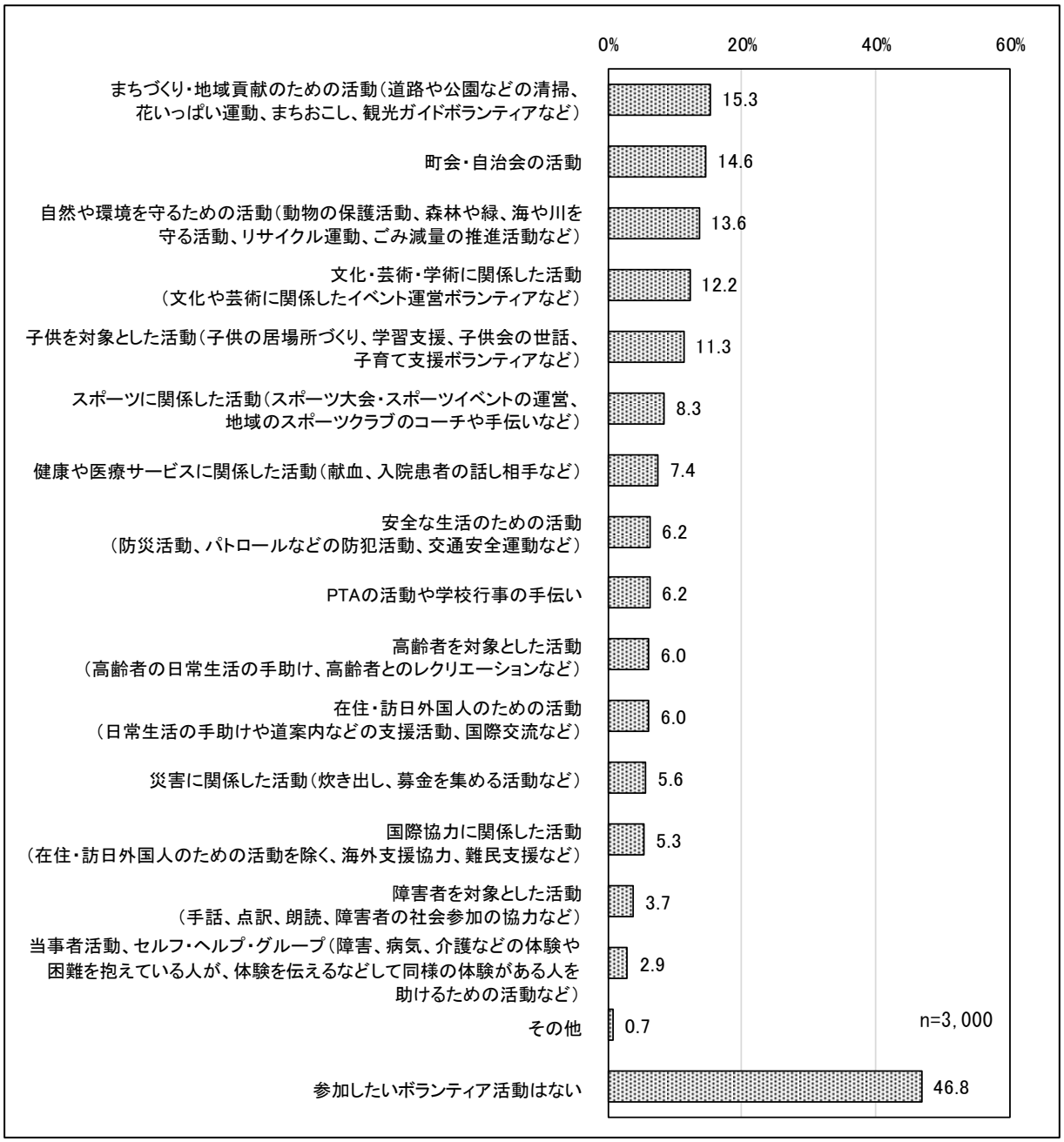
	n	自分が新型コロナウイルス感染症に感染することを予防するため	新型コロナウイルス感染症が拡大することを防ぐため	個人として行っていたボランティア活動が、緊急事態宣言等の影響で中断せざるを得なかったから	参加していたボランティア団体等が活動を休止したから	参加していたボランティア団体等が解散したから	その他
全体	419	88.5	52.7	4.8	2.9	1.2	0.2
【職業別】							
自営・家族従業	32	87.5	43.8	－	－	－	－
勤め（計）	191	89.0	58.1	5.2	2.6	2.6	－
勤め（全日）	146	87.0	56.2	4.8	2.1	2.7	－
勤め（短時間）	45	95.6	64.4	6.7	4.4	2.2	－
主婦・主夫	113	86.7	50.4	6.2	2.7	－	0.9
学生	7	85.7	28.6	－	－	－	－
無職	70	91.4	47.1	4.3	5.7	－	－
【ライフステージ別】							
学校教育期	6	83.3	16.7	－	－	－	－
独身期	62	91.9	46.8	1.6	3.2	1.6	－
家族形成期	31	87.1	51.6	6.5	－	－	－
家族成長前期	19	84.2	63.2	－	－	－	－
家族成長後期	27	81.5	40.7	3.7	3.7	3.7	3.7
家族成熟期	64	93.8	60.9	9.4	6.3	1.6	－
高齢期	79	87.3	51.9	6.3	3.8	－	－
【年収別】							
収入なし	65	86.2	44.6	3.1	3.1	－	1.5
200万円未満	104	92.3	58.7	3.8	1.9	－	－
200～300万円台	86	94.2	50.0	4.7	4.7	－	－
400～500万円台	51	82.4	47.1	3.9	3.9	7.8	－
600～700万円台	29	82.8	62.1	3.4	－	－	－
800～900万円台	17	76.5	76.5	5.9	－	－	－
1,000万円以上	20	80.0	65.0	15.0	5.0	－	－

（人）　（%）

１－２１ 今後参加したいボランティア活動

Q21　あなたが今後ボランティア活動に参加する場合、どのようなボランティア活動に参加したいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

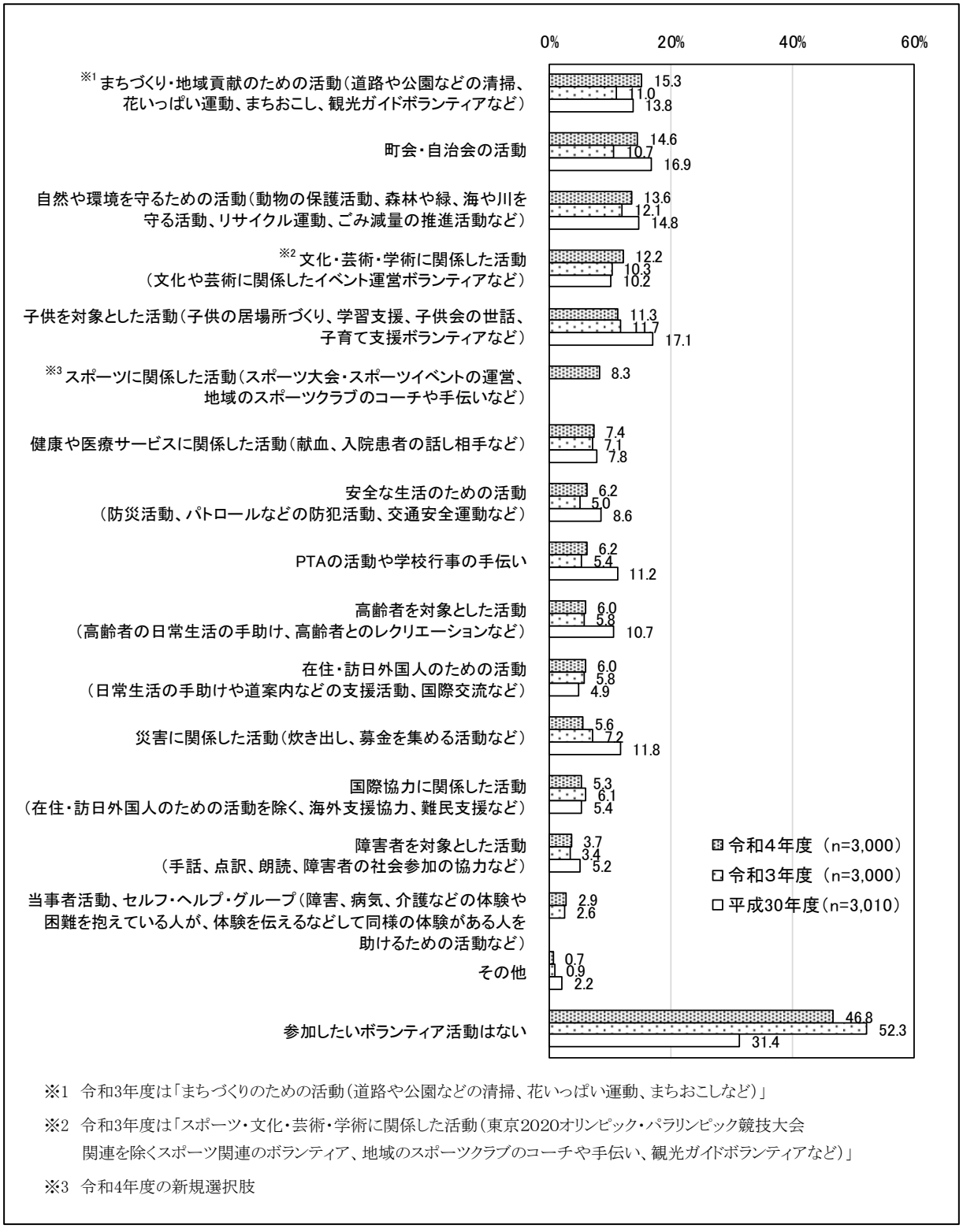
図表84. 今後参加したいボランティア活動



今後参加したいボランティア活動のうち、「まちづくり・地域貢献のための活動」が 15.3％で最も高かった。次いで、「町会・自治会の活動」が 14.6％、「自然や環境を守るための活動」が 13.6％であった。また、「参加したいボランティア活動はない」は 46.8％であった。

令和３年度と比較すると、「まちづくり・地域貢献のための活動」は 4.3 ポイントの増加、「町会・自治会の活動」は 3.9 ポイントの増加であった。また、「参加したいボランティア活動はない」は 5.5 ポイントの減少であった。

図表85. 今後参加したいボランティア活動【経年比較】



※1　令和3年度は「まちづくりのための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこしなど）」

※2　令和3年度は「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動（東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連を除くスポーツ関連のボランティア、地域のスポーツクラブのコーチや手伝い、観光ガイドボランティアなど）」

※3　令和4年度の新規選択肢

エリア別にみると、多摩中央部南では、「町会・自治会の活動」が 21.1%で、全体の 14.6%より 6.5 ポイント高かった。

性・年代別にみると、「町会・自治会の活動」では、男性 70 代が 31.6%、女性 70 代が 21.7%であった。「子供を対象とした活動」では、男性 15～19 歳が 25.4%で、全体の 11.3%より 14.1 ポイント高く、女性 15～19 歳は 30.8%で、全体より 19.5 ポイント高かった。

図表86. 今後参加したいボランティア活動【エリア別／性・年代別】

	n	まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、観光ガイドボランティアなど）	町会・自治会の活動	自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）	文化・芸術・学術に関係した活動（文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）	子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティアなど）	スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）	健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）	PTAの活動や学校行事の手伝い	安全な生活のための活動（防犯活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）	高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）	在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）	災害に関係した活動（炊き出し、募金を集める活動など）	国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）	障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）	当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）	その他	参加したいボランティア活動はない
全体	3,000	15.3	14.6	13.6	12.2	11.3	8.3	7.4	6.2	6.2	6.0	6.0	5.6	5.3	3.7	2.9	0.7	46.8
【エリア別】																		
区部（計）	2,089	14.9	13.6	12.5	12.2	10.7	8.2	7.2	6.1	6.0	5.9	6.4	5.6	6.1	3.5	2.9	0.7	48.3
センター・コア	607	15.2	15.3	10.5	10.7	9.7	8.4	8.1	5.3	5.3	7.1	8.4	5.9	7.1	3.6	2.3	1.0	47.4
区部東部・北部	601	12.3	13.6	13.8	11.6	10.8	8.0	6.8	6.5	6.0	4.8	4.2	4.7	4.3	3.7	2.8	0.8	51.4
区部西部・南部	881	16.5	12.4	13.1	13.6	11.4	8.3	6.9	6.5	6.6	5.9	6.6	5.9	6.7	3.3	3.3	0.5	46.9
市町村部（計）	911	16.1	16.8	16.1	12.2	12.5	8.3	7.8	6.3	6.7	6.0	4.9	5.8	3.4	4.3	3.0	0.8	43.4
多摩東部	366	18.0	13.4	17.5	10.7	13.7	9.8	8.5	7.1	6.0	7.7	6.3	7.1	4.9	4.6	3.0	1.1	42.1
多摩中央部北	109	8.3	11.9	10.1	13.8	11.0	4.6	5.5	4.6	5.5	7.3	2.8	4.6	1.8	5.5	3.7	－	56.9
多摩中央部南	388	16.8	21.1	17.0	13.1	12.4	8.5	7.7	6.2	7.7	4.4	4.1	5.2	2.8	3.4	2.3	0.8	39.9
多摩西部・島しょ	48	14.6	18.8	12.5	12.5	8.3	4.2	8.3	4.2	6.3	4.2	6.3	4.2	－	6.3	6.3	－	50.0
【性・年代別】																		
男性（計）	1,529	16.2	16.6	12.4	10.0	10.5	10.4	6.9	6.0	8.3	5.2	5.1	5.8	4.3	3.5	2.6	0.4	48.1
15～19歳	59	22.0	18.6	18.6	13.6	25.4	16.9	8.5	15.3	10.2	5.1	6.8	8.5	5.1	5.1	5.1	－	32.2
20代	218	21.6	14.7	14.7	10.1	15.1	14.7	11.0	7.8	7.3	8.3	4.6	7.3	7.3	6.4	2.8	－	47.7
30代	261	14.2	11.9	9.2	9.2	7.7	8.8	6.5	6.5	5.4	3.4	3.4	5.0	3.1	2.3	1.9	0.4	56.7
40代	307	13.7	11.7	11.7	10.7	10.4	8.5	9.1	8.1	5.2	3.6	4.6	5.9	4.2	4.2	4.6	0.3	53.7
50代	283	13.1	17.0	9.9	6.7	8.8	11.0	4.9	5.7	9.2	4.9	6.7	6.7	3.9	4.2	1.4	0.4	49.5
60代	205	15.1	16.6	15.1	12.7	9.3	10.7	5.4	2.4	9.3	4.4	3.9	4.9	4.4	1.0	2.0	0.5	45.9
70代	196	20.4	31.6	13.8	10.7	8.7	7.7	3.6	1.5	15.3	7.7	7.1	3.6	2.6	2.0	2.0	1.0	33.7
女性（計）	1,454	14.5	12.5	15.1	14.5	12.2	6.1	8.0	6.3	4.1	6.9	6.7	5.5	6.3	3.9	3.2	1.1	45.3
15～19歳	65	26.2	15.4	18.5	27.7	30.8	20.0	10.8	18.5	9.2	7.7	15.4	12.3	16.9	9.2	9.2	－	29.2
20代	198	19.2	7.6	16.7	20.7	17.7	9.1	9.1	7.6	3.5	7.1	10.1	7.1	9.1	4.5	5.1	1.0	44.4
30代	250	11.6	7.2	12.4	11.2	10.8	2.4	6.4	6.8	1.6	3.2	5.2	4.0	6.0	1.2	1.6	0.4	52.0
40代	282	9.2	7.4	14.9	14.9	12.4	4.3	6.4	10.3	2.8	4.6	5.7	7.1	6.4	5.3	2.8	1.1	46.8
50代	262	16.4	14.9	16.4	11.1	7.6	4.6	9.2	5.0	5.0	6.1	5.3	4.2	4.6	4.2	2.7	0.8	49.6
60代	190	12.1	17.9	12.1	12.1	10.5	5.8	11.1	1.6	6.8	10.5	6.3	3.7	4.7	2.1	4.2	1.6	41.6
70代	207	16.9	21.7	16.9	14.5	9.7	7.7	5.8	1.0	4.3	11.6	6.3	4.8	4.3	4.3	1.9	2.4	39.1

（人）　（%）

職業別にみると、学生では、「まちづくり・地域貢献のための活動」が 27.4%で、全体の 15.3%より 12.1 ポイント高く、「子供を対象とした活動」は 25.7%で、全体の 11.3%より 14.4 ポイント高かった。

ライフステージ別にみると、学校教育期では、「まちづくり・地域貢献のための活動」が 27.6%で、全体の 15.3%より 12.3 ポイント高かった。高齢期では、「町会・自治会の活動」が 25.3%で、全体の 14.6%より 10.7 ポイント高かった。家族成長前期では、「PTA の活動や学校行事の手伝い」が 27.7%で、全体の 6.2%より 21.5 ポイント高かった。

図表87. 今後参加したいボランティア活動【職業別／ライフステージ別／年収別】

	n	まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、観光ガイドボランティアなど）	町会・自治会の活動	自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）	文化・芸術・学術に関係した活動（文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）	子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティアなど）	スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）	健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）	PTAの活動や学校行事の手伝い	安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）	高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）	在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）	災害に関係した活動（炊き出し、募金を集める活動など）	国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）	障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）	当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）	その他	参加したいボランティア活動はない
全体	3,000	15.3	14.6	13.6	12.2	11.3	8.3	7.4	6.2	6.2	6.0	6.0	5.6	5.3	3.7	2.9	0.7	46.8
【職業別】																		
自営・家族従業	266	16.9	16.9	14.7	12.8	8.6	6.4	6.8	4.9	5.3	5.3	6.0	3.8	5.3	2.6	1.5	0.8	44.0
勤め（計）	1,556	15.0	13.3	13.6	11.2	11.6	9.2	8.5	6.2	6.0	5.1	6.1	6.6	5.8	3.7	2.9	0.4	47.4
勤め（全日）	1,305	15.6	13.0	13.9	10.8	12.0	9.5	8.2	6.8	5.7	5.1	6.4	7.0	6.3	3.7	2.5	0.4	47.3
勤め（短時間）	251	12.4	14.7	12.4	13.1	9.6	7.6	10.0	2.8	7.2	5.2	4.8	4.8	3.6	3.6	5.2	0.4	47.8
主婦・主夫	474	14.3	16.5	13.7	11.4	11.8	4.9	7.0	8.2	5.3	8.4	6.1	4.0	4.6	3.8	2.7	1.5	43.0
学生	175	27.4	16.6	18.3	20.6	25.7	17.7	8.6	14.9	8.6	6.9	11.4	9.7	10.3	6.3	5.7	－	33.7
無職	474	12.7	15.4	11.8	12.9	6.3	6.3	4.4	2.1	7.4	7.0	3.6	4.2	2.1	3.6	2.7	1.3	54.4
【ライフステージ別】																		
学校教育期	170	27.6	17.1	18.2	21.2	25.3	17.6	8.8	15.3	8.8	6.5	11.8	9.4	10.6	5.9	5.9	－	34.1
独身期	609	13.0	8.7	12.6	14.1	10.7	8.9	9.4	4.8	4.3	5.7	5.9	6.7	7.4	4.3	3.1	0.5	52.7
家族形成期	222	19.4	14.0	12.6	9.9	19.8	7.7	5.9	8.6	4.5	3.6	5.9	4.5	4.1	2.7	1.8	0.5	45.5
家族成長前期	206	14.1	14.6	10.7	7.3	16.5	5.8	5.3	27.7	4.4	2.9	4.9	4.9	1.9	1.9	1.0	1.0	43.2
家族成長後期	173	11.0	17.3	6.4	5.8	14.5	5.2	5.8	12.7	7.5	4.0	7.5	1.2	5.8	2.9	0.6	0.6	44.5
家族成熟期	315	15.9	16.2	13.3	10.5	12.7	10.5	5.7	5.7	7.9	5.4	3.5	7.0	2.2	3.2	2.5	1.0	47.3
高齢期	439	17.1	25.3	15.0	11.8	10.0	9.3	5.2	0.9	9.8	9.6	5.7	4.3	3.0	3.0	1.8	1.1	36.0
【年収別】																		
収入なし	356	15.4	11.8	12.6	14.3	12.9	5.9	6.5	10.7	6.7	6.7	5.6	5.9	5.6	5.6	2.2	0.3	50.8
200万円未満	653	13.5	14.7	12.3	13.0	8.6	6.9	7.4	3.5	5.1	6.3	5.1	4.1	3.7	3.5	3.1	1.1	48.1
200～300万円台	575	13.7	15.3	13.7	15.0	11.0	9.6	8.7	4.5	6.3	5.7	6.1	6.6	5.2	3.0	3.5	1.0	43.8
400～500万円台	511	20.0	12.7	18.4	12.1	12.3	9.4	7.2	5.3	7.2	6.7	6.7	7.0	6.7	4.7	3.9	0.2	45.0
600～700万円台	268	18.7	16.4	12.3	6.7	13.1	12.7	8.2	6.7	7.8	4.9	7.5	6.0	6.3	3.4	1.1	0.4	44.4
800～900万円台	153	17.6	18.3	11.1	12.4	17.6	9.2	9.2	13.1	8.5	7.8	5.2	5.9	7.2	3.3	2.0	1.3	39.2
1,000万円以上	148	16.2	21.6	14.2	7.4	10.1	9.5	5.4	12.2	6.1	5.4	8.1	8.1	5.4	3.4	2.7	－	37.2

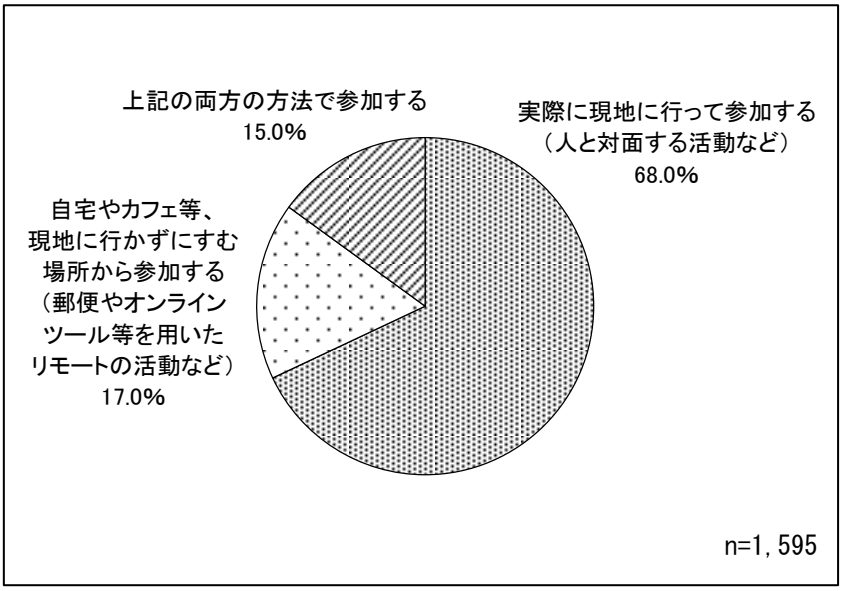
（人）　（%）

１－２２ 今後参加したいボランティア活動への参加方法

（Q21 で 1～16 のいずれかを答えた方）

Q22　前問であなたが選択したボランティア活動について、あなたはどのように参加しようと思いますか。次の中から当てはまるものを 1 つだけお答えください。

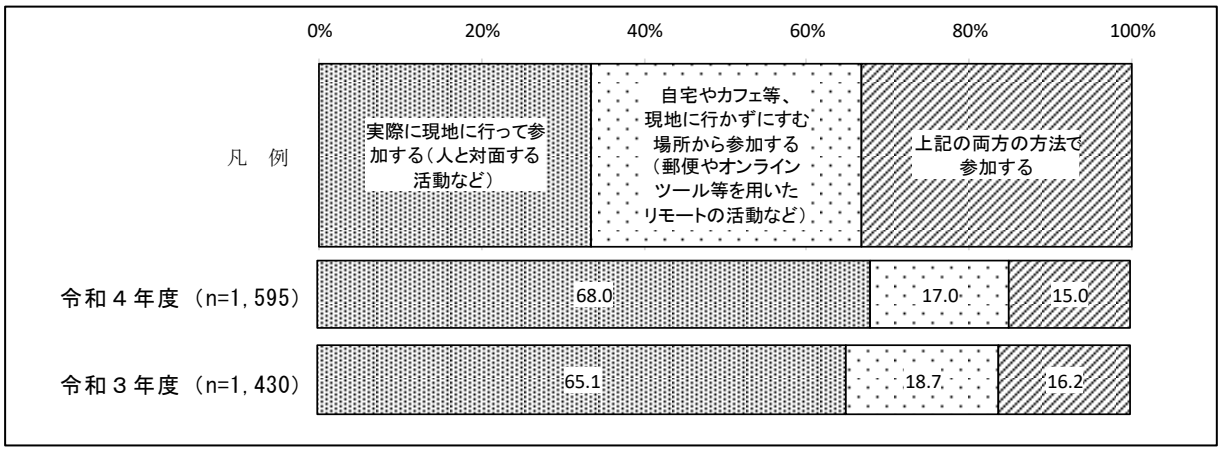
図表88. 今後参加したいボランティア活動への参加方法



今後参加したいボランティア活動がある 1,595 人の希望参加方法は、「実際に現地に行って参加する」が 68.0%、「自宅やカフェ等、現地に行かずにすむ場所から参加する」が 17.0%、「上記の両方の方法で参加する」が 15.0%であった。

令和 3 年度と比較すると、「実際に現地に行って参加する」は 2.9 ポイントの増加であった。

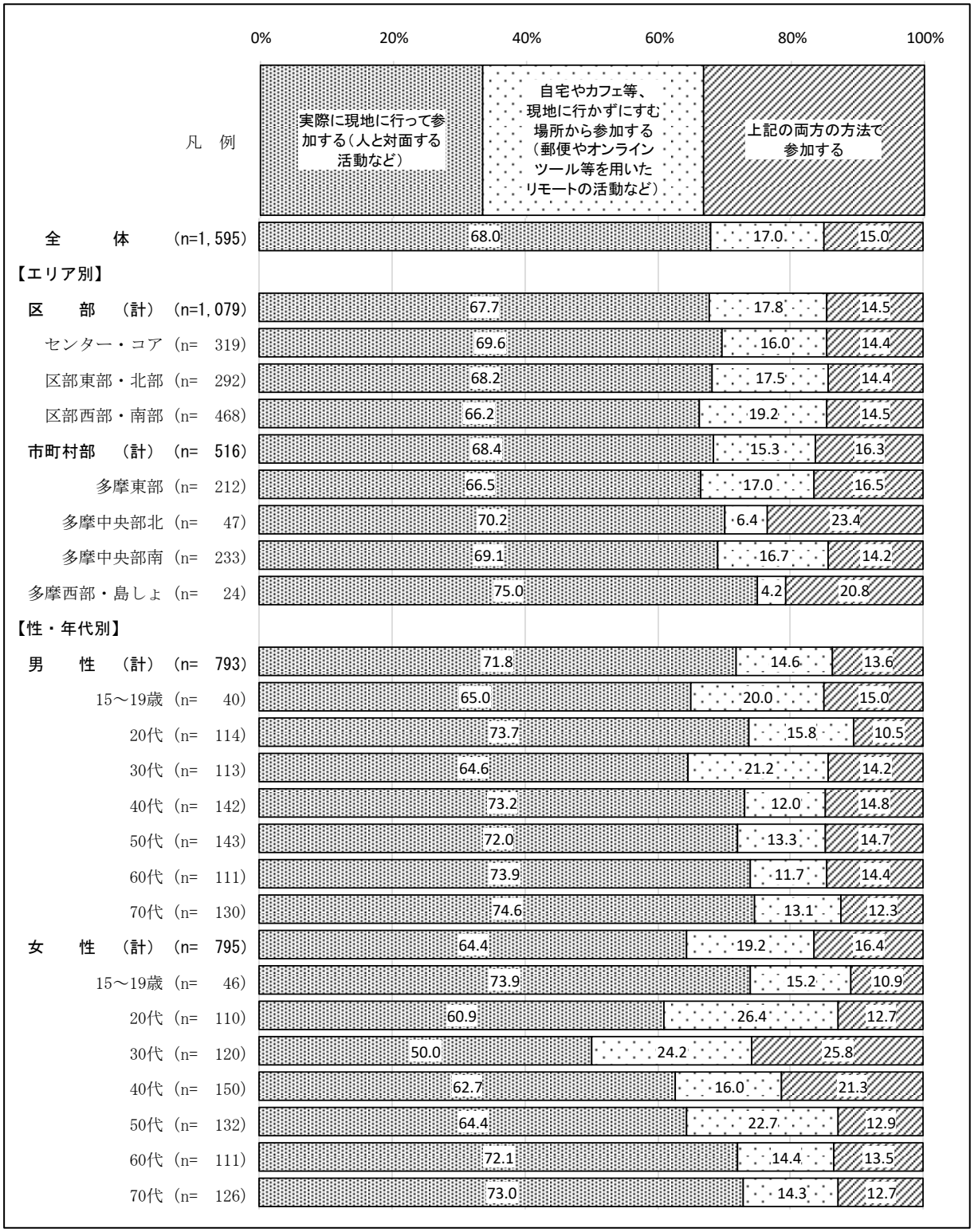
図表89. 今後参加したいボランティア活動への参加方法【経年比較】



エリア別にみると、区部（計）と市町村部（計）で差はみられなかった。

性・年代別にみると、「実際に現地に行って参加する」では、男性（計）が 71.8%で、女性（計）の 64.4%より 7.4 ポイント高かった。「自宅やカフェ等、現地に行かずにすむ場所から参加する」では、女性 20 代が 26.4%で、他の性・年代に比べ高かった。

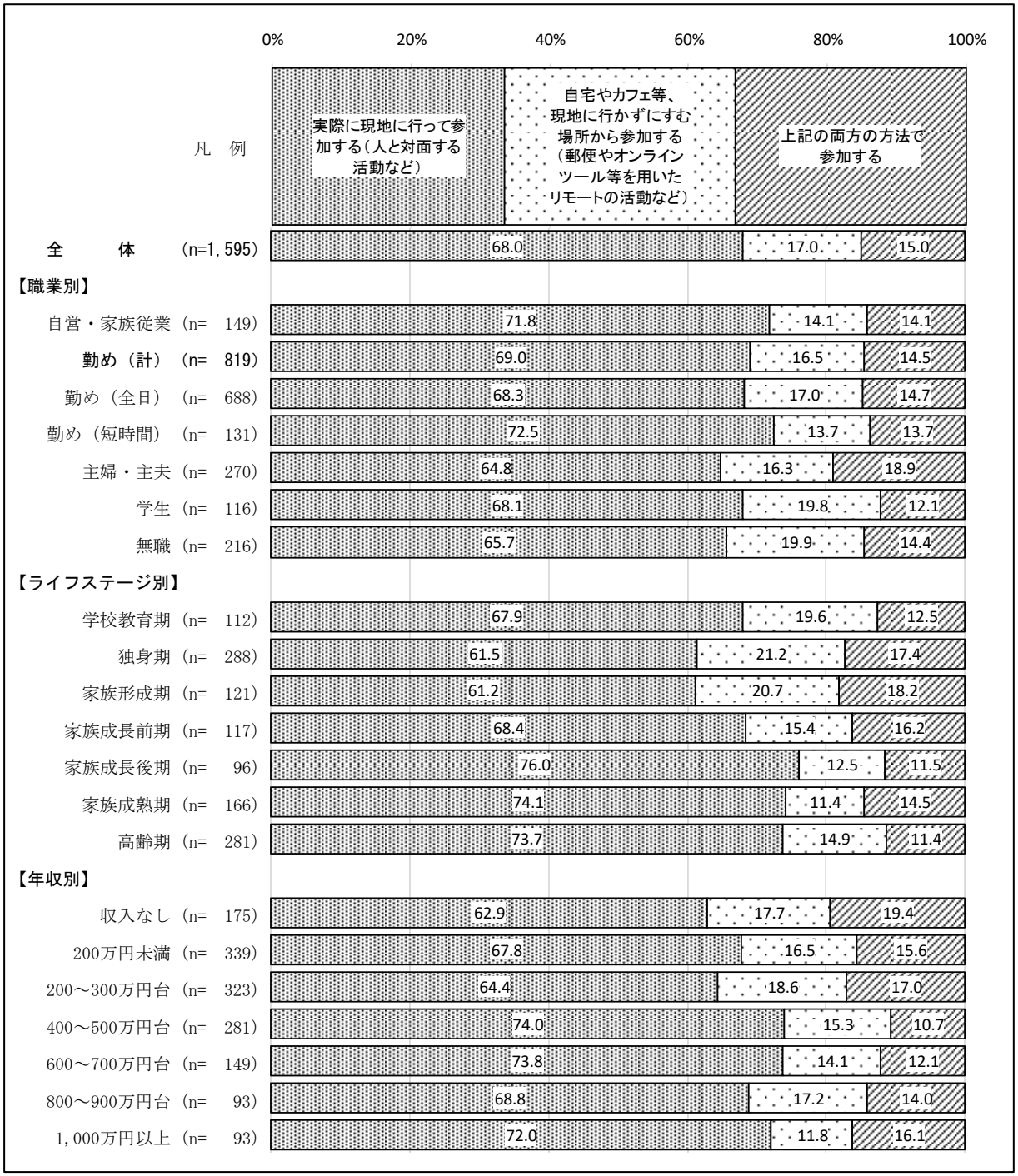
図表90. 今後参加したいボランティア活動への参加方法【エリア別／性・年代別】



職業別にみると、いずれの職業でも差はみられなかった。

ライフステージ別にみると、「自宅やカフェ等、現地に行かずにすむ場所から参加する」では、独身期が 21.2%、家族形成期が 20.7%であった。

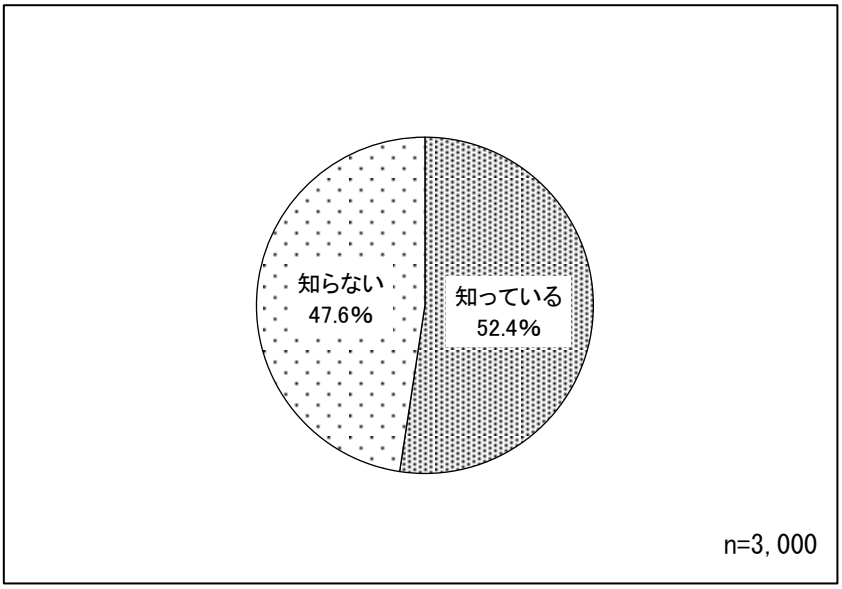
図表91. 今後参加したいボランティア活動への参加方法



１－２３ 東京２０２０大会におけるボランティアの認知

Q23　あなたは東京２０２０大会でボランティアが大会運営のサポートや役割を担い、大会を盛り上げたことをご存じですか。

図表92. 東京２０２０大会におけるボランティアの認知

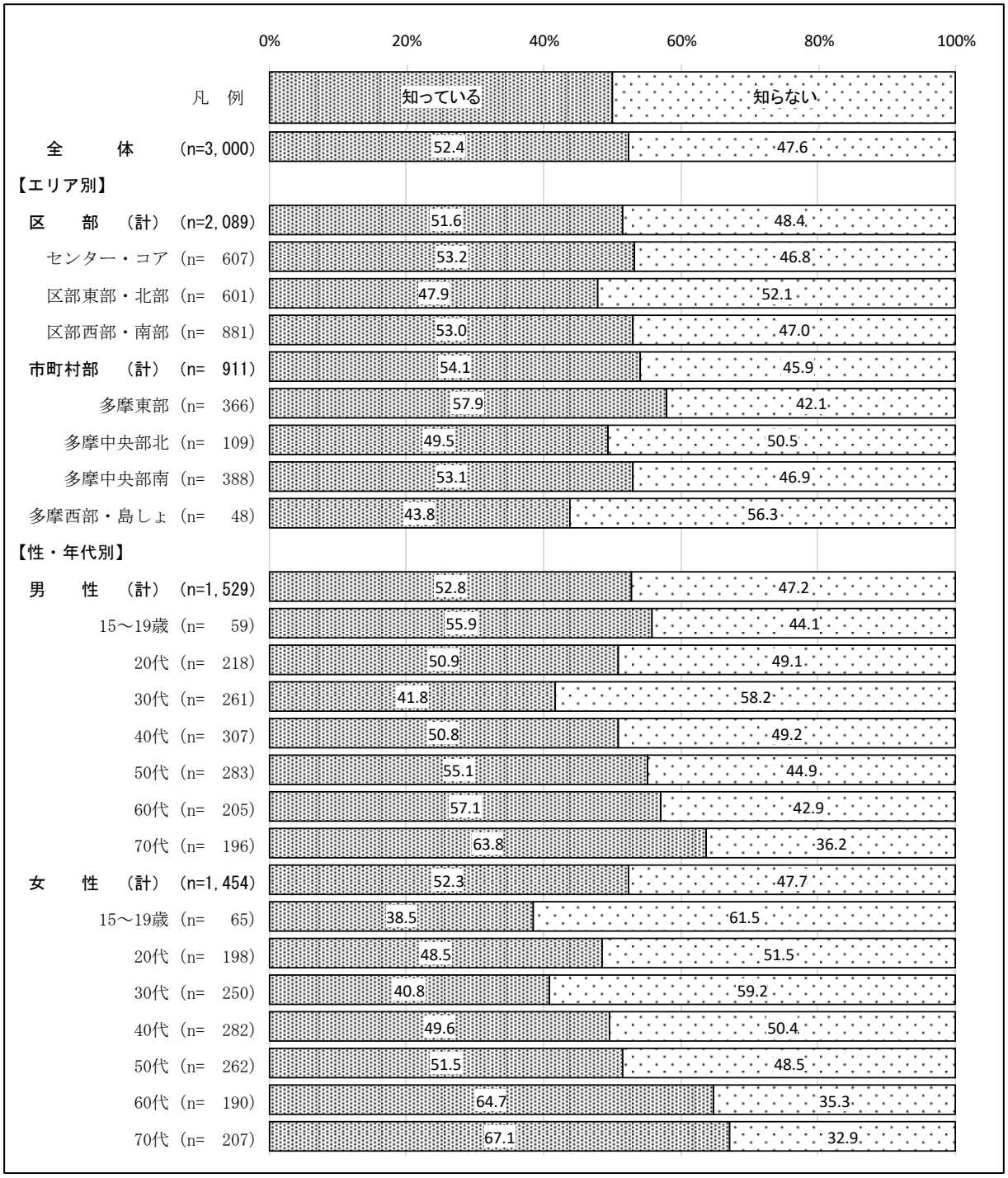


東京２０２０大会におけるボランティアの活躍を「知っている」が 52.4%、「知らない」が 47.6%であった。

エリア別にみると、区部（計）と市町村部（計）で差はみられなかった。

性・年代別にみると、男女ともに 30 代から年代が上がるにつれて、「知っている」の回答割合が高くなる傾向がみられた。

図表93. 東京２０２０大会におけるボランティアの認知【エリア別／性・年代別】

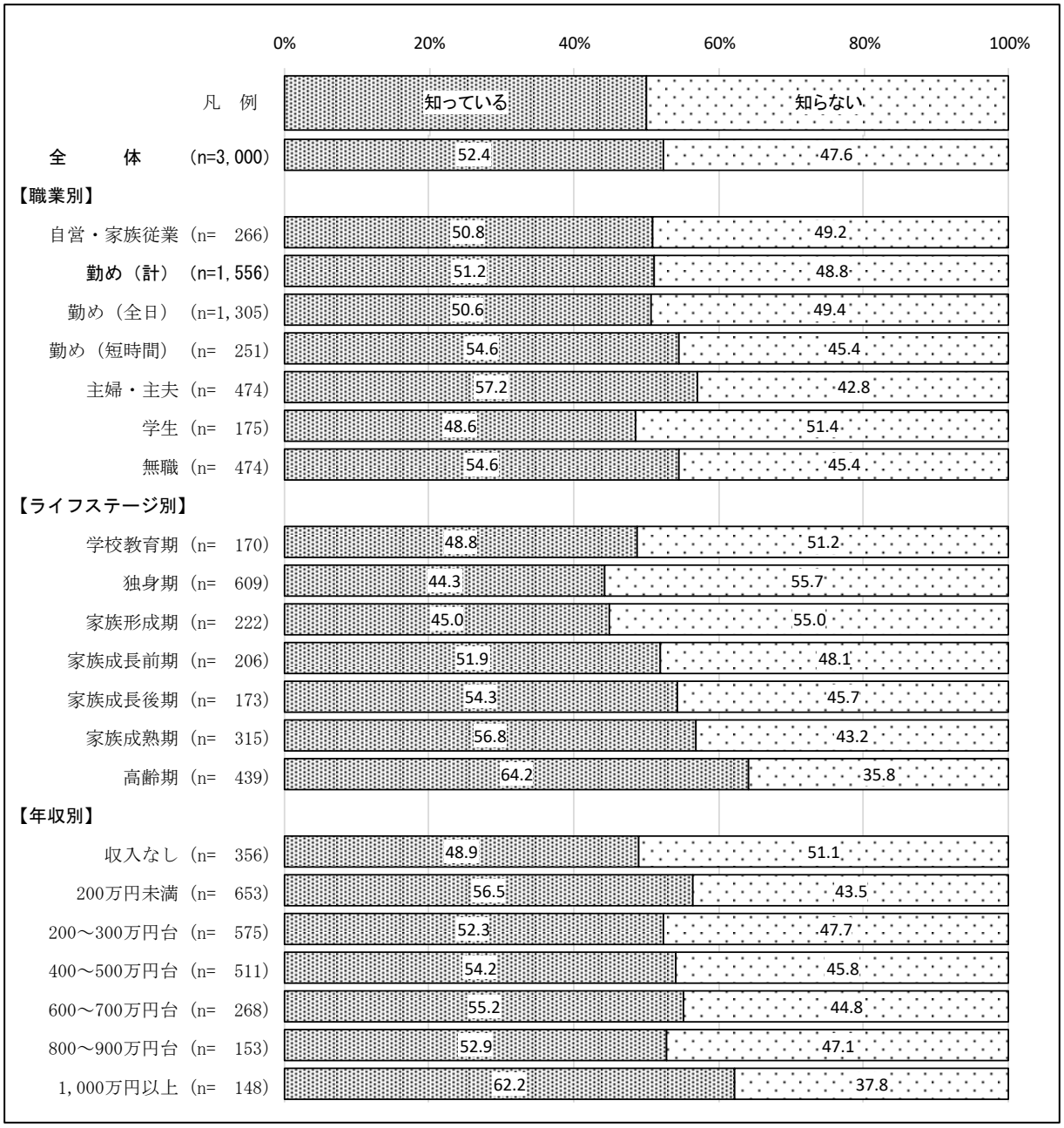


職業別にみると、いずれの職業でも差はみられなかった。

「知っている」をライフステージ別にみると、高齢期が 64.2%で、全体の 52.4%より 11.8 ポイント高かった。

年収別にみると、1,000 万円以上が 62.2%で、全体より 9.8 ポイント高かった。

図表94. 東京２０２０大会におけるボランティアの認知【職業別／ライフステージ別／年収別】

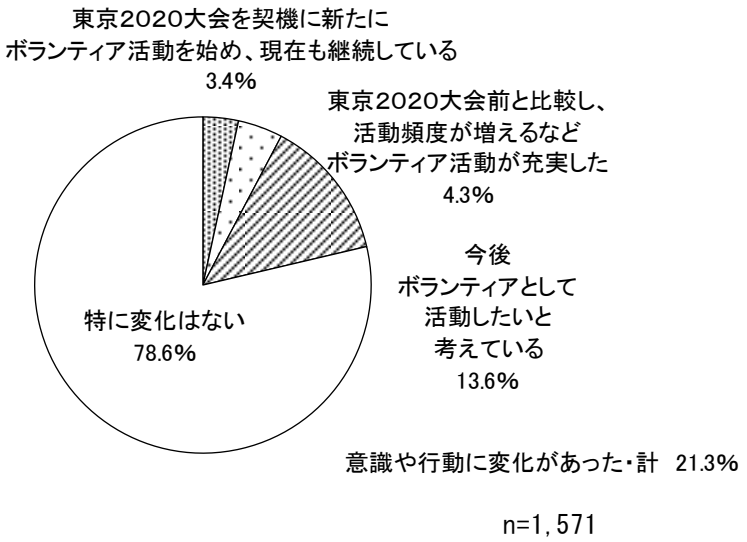


１－２４ 東京２０２０大会でボランティアが活躍したことの影響

（Q23 で１と答えた方）

Q24　東京２０２０大会でボランティアが活躍したことを知って、ご自身のボランティア活動に対する意識や行動に変化はありましたか。

図表95. 東京２０２０大会でボランティアが活躍したことの影響



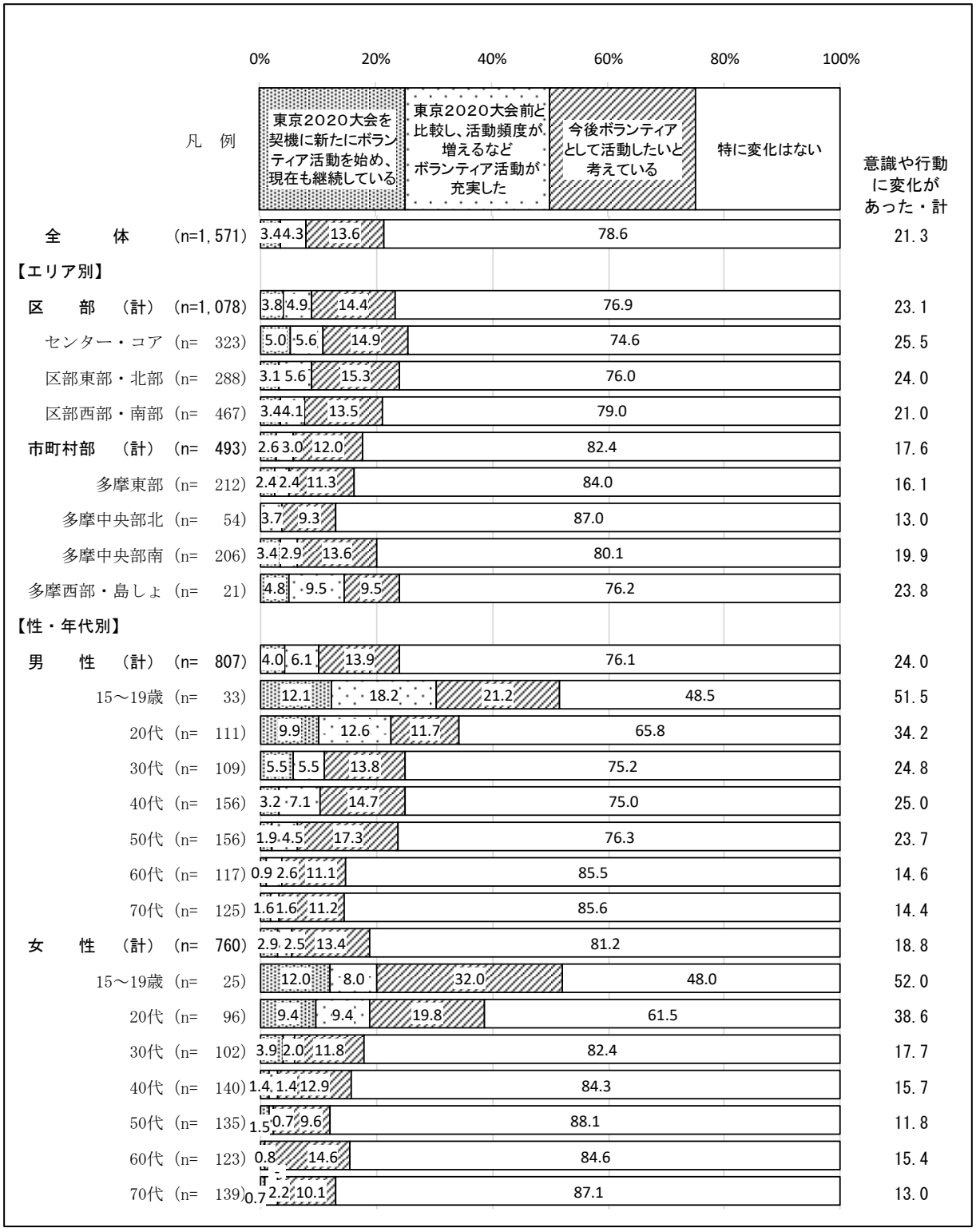
（注）『意識や行動に変化があった・計』は
「東京２０２０大会を契機に新たにボランティア活動を始め、現在も継続している」
「東京２０２０大会前と比較し、活動頻度が増えるなどボランティア活動が充実した」
「今後ボランティアとして活動したいと考えている」の合計

東京２０２０大会でボランティアが活躍したことを知っている 1,571 人の意識や行動の変化は、「東京２０２０大会を契機に新たにボランティア活動を始め、現在も継続している」が 3.4%、「東京２０２０大会前と比較し、活動頻度が増えるなどボランティア活動が充実した」が 4.3%、「今後ボランティアとして活動したいと考えている」が 13.6%で、この 3 項目を合わせた『意識や行動に変化があった・計』は 21.3%であった。また、「特に変化はない」は 78.6%であった。

エリア別にみると、区部（計）と市町村部（計）で差はみられなかった。

性・年代別にみると、男女ともに年代が上がるにつれて、『意識や行動に変化があった・計』が低くなる傾向がみられた。

図表96. 東京２０２０大会でボランティアが活躍したことの影響【エリア別／性・年代別】



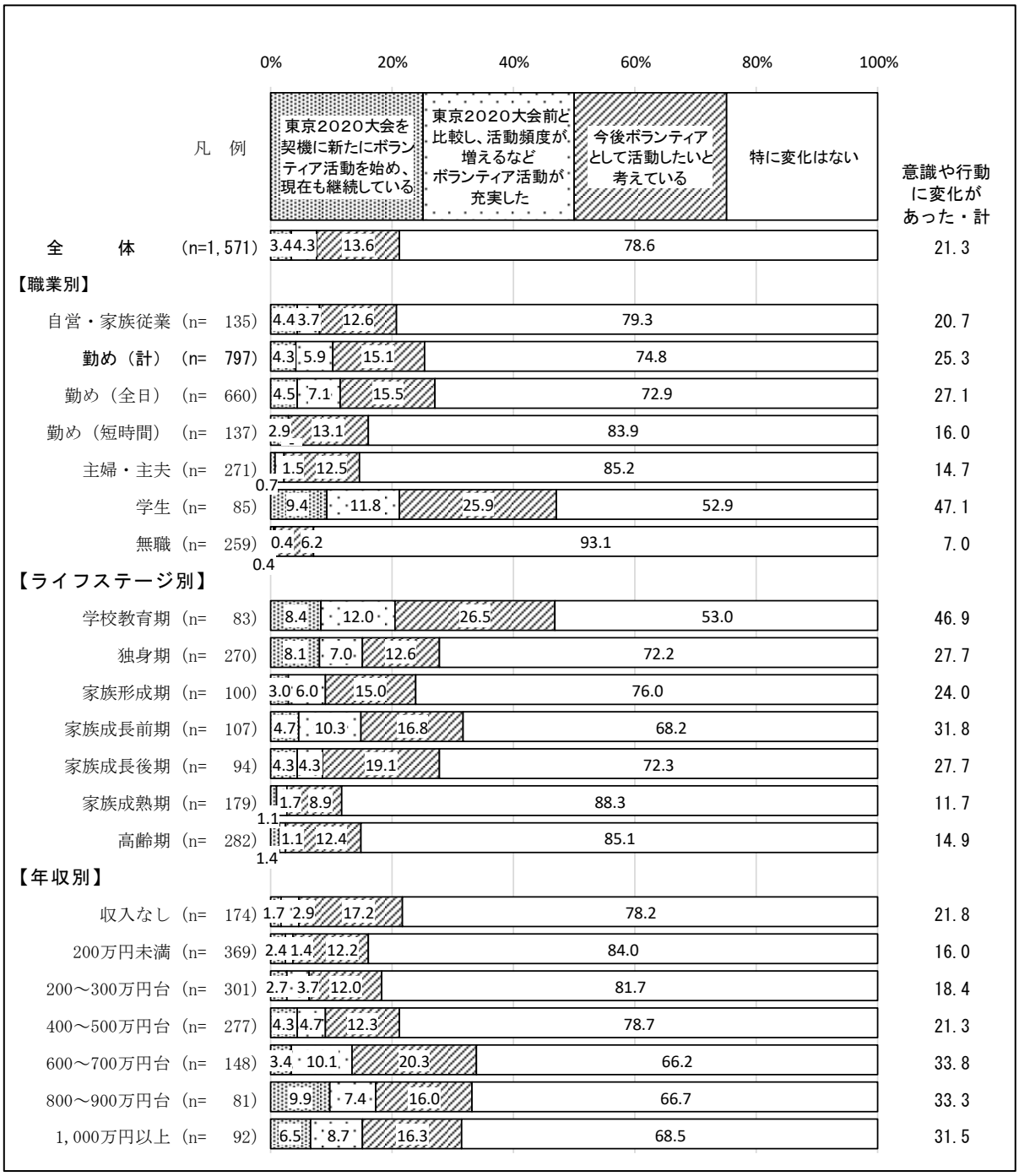
職業別にみると、学生では、「東京２０２０大会を契機に新たにボランティア活動を始め、現在も継続している」が 9.4%、「東京２０２０大会前と比較し、活動頻度が増えるなどボランティア活動が充実した」が 11.8%、「今後ボランティアとして活動したいと考えている」が 25.9%で、それぞれ他の職業に比べ高かった。

ライフステージ別にみると、学校教育期では、「今後ボランティアとして活動したいと考えている」が 26.5%で、他のステージに比べ高かった。

年収別にみると、600 万円以上では、『意識や行動に変化があった・計』が 3 割を超えた。

図表97. 東京２０２０大会でボランティアが活躍したことの影響

【職業別／ライフステージ別／年収別】

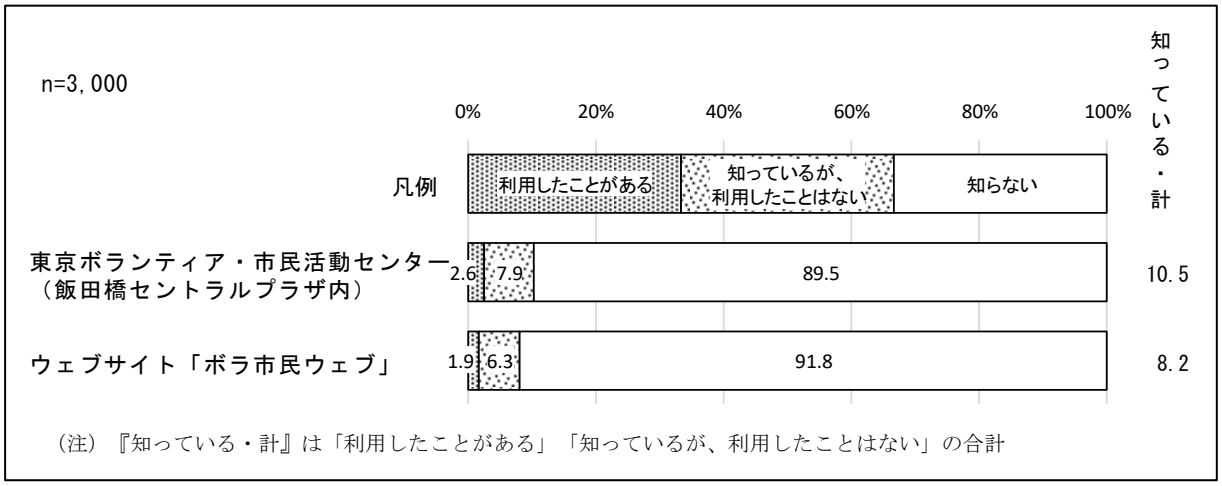


２ 東京ボランティア・市民活動センターや「ボラ市民ウェブ」について

２－１ 東京ボランティア・市民活動センターや「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験

Q25　あなたは東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）や、センターが運営するウェブサイト「ボラ市民ウェブ」をご存じですか。また、利用したことはありますか。次の中からそれぞれ１つずつお答えください。

図表98. 東京ボランティア・市民活動センターや「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験



（注）『知っている・計』は「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」の合計

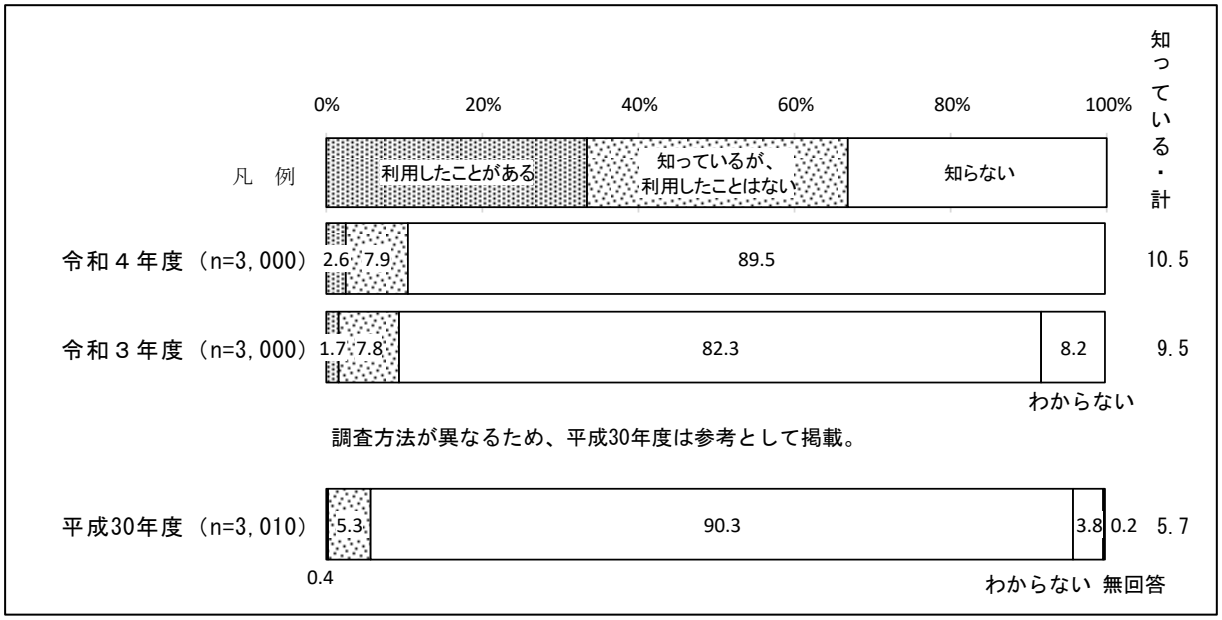
東京ボランティア・市民活動センターを「利用したことがある」が 2.6%、「知っているが、利用したことはない」が 7.9%で、この２項目を合わせた『知っている・計』は 10.5%であった。一方、「知らない」は 89.5%であった。

ウェブサイト「ボラ市民ウェブ」を「利用したことがある」が 1.9%、「知っているが、利用したことはない」が 6.3%で、この２項目を合わせた『知っている・計』は 8.2%であった。一方、「知らない」は 91.8%であった。

＜東京ボランティア・市民活動センター＞

令和３年度と比較すると、『知っている・計』は 1.0 ポイントの増加であった。

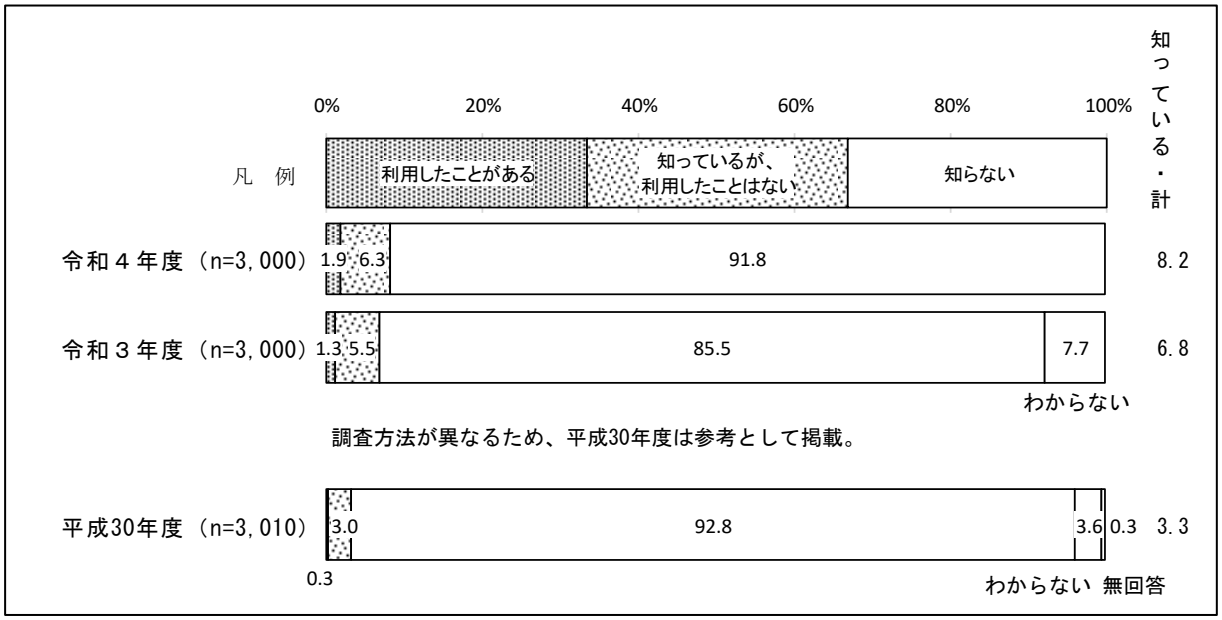
図表99. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験【経年比較】



＜ウェブサイト「ボラ市民ウェブ」＞

令和３年度と比較すると、『知っている・計』は 1.4 ポイントの増加であった。

図表100. 「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験【経年比較】

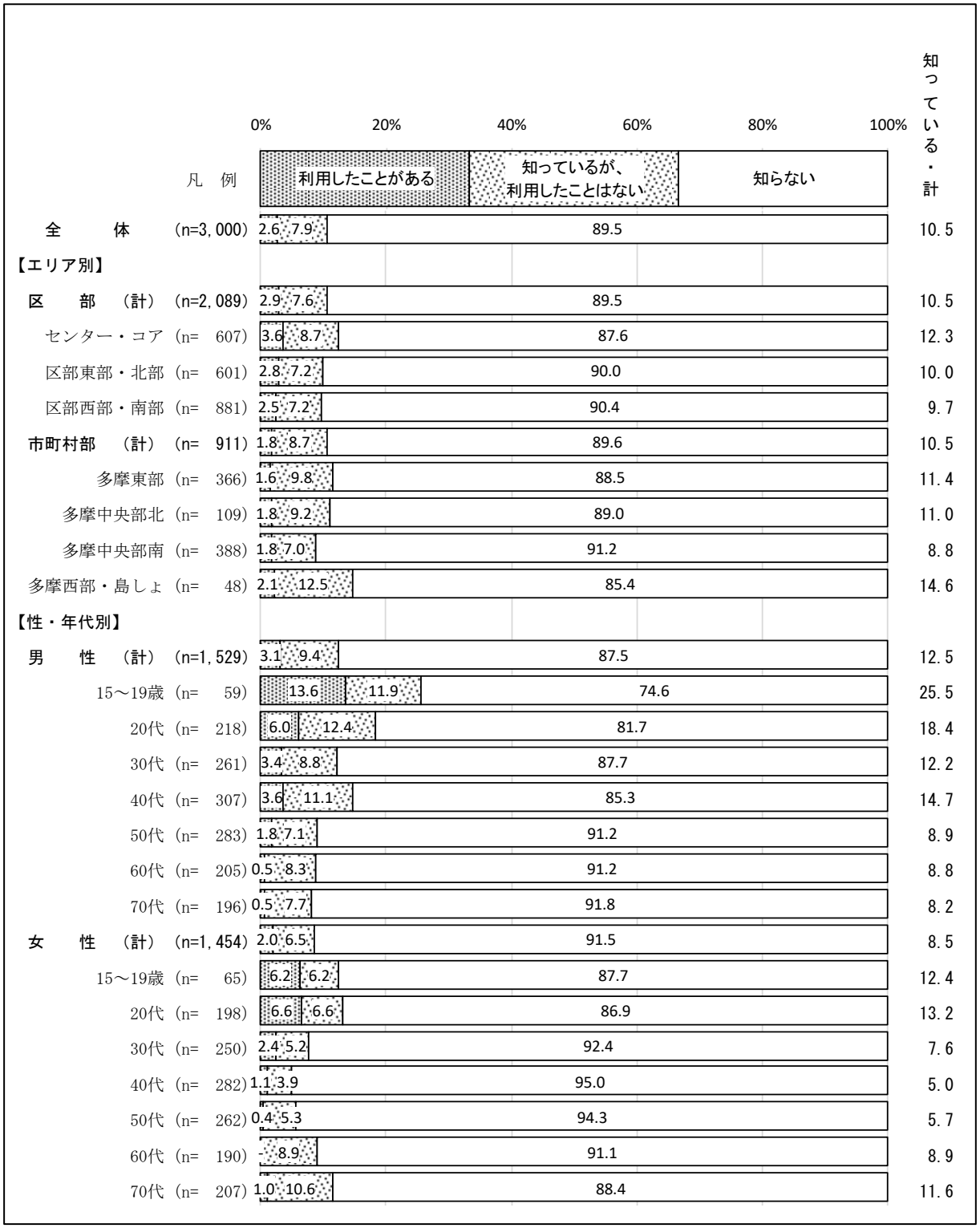


＜東京ボランティア・市民活動センター＞

エリア別にみると、いずれのエリアでも差はみられなかった。

性・年代別にみると、男性では年代が上がるにつれて、『知っている・計』が低くなる傾向がみられた。

図表101. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験【エリア別／性・年代別】



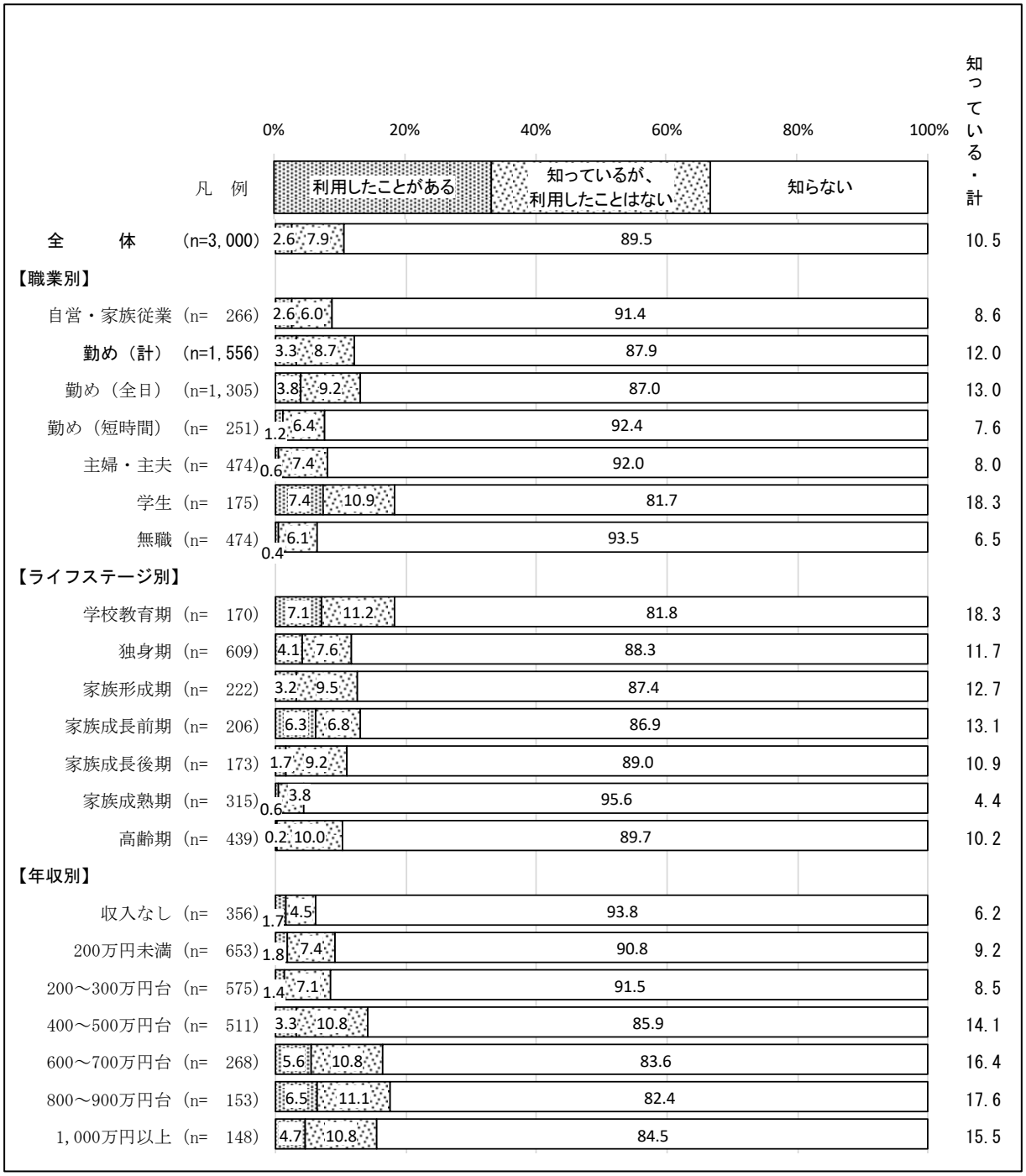
＜東京ボランティア・市民活動センター＞

職業別にみると、学生では、『知っている・計』が 18.3%で、他の職業に比べ高かった。

年収別にみると、年収が上がるにつれて、『知っている・計』が高くなる傾向がみられた。

図表102. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験

【職業別／ライフステージ別／年収別】

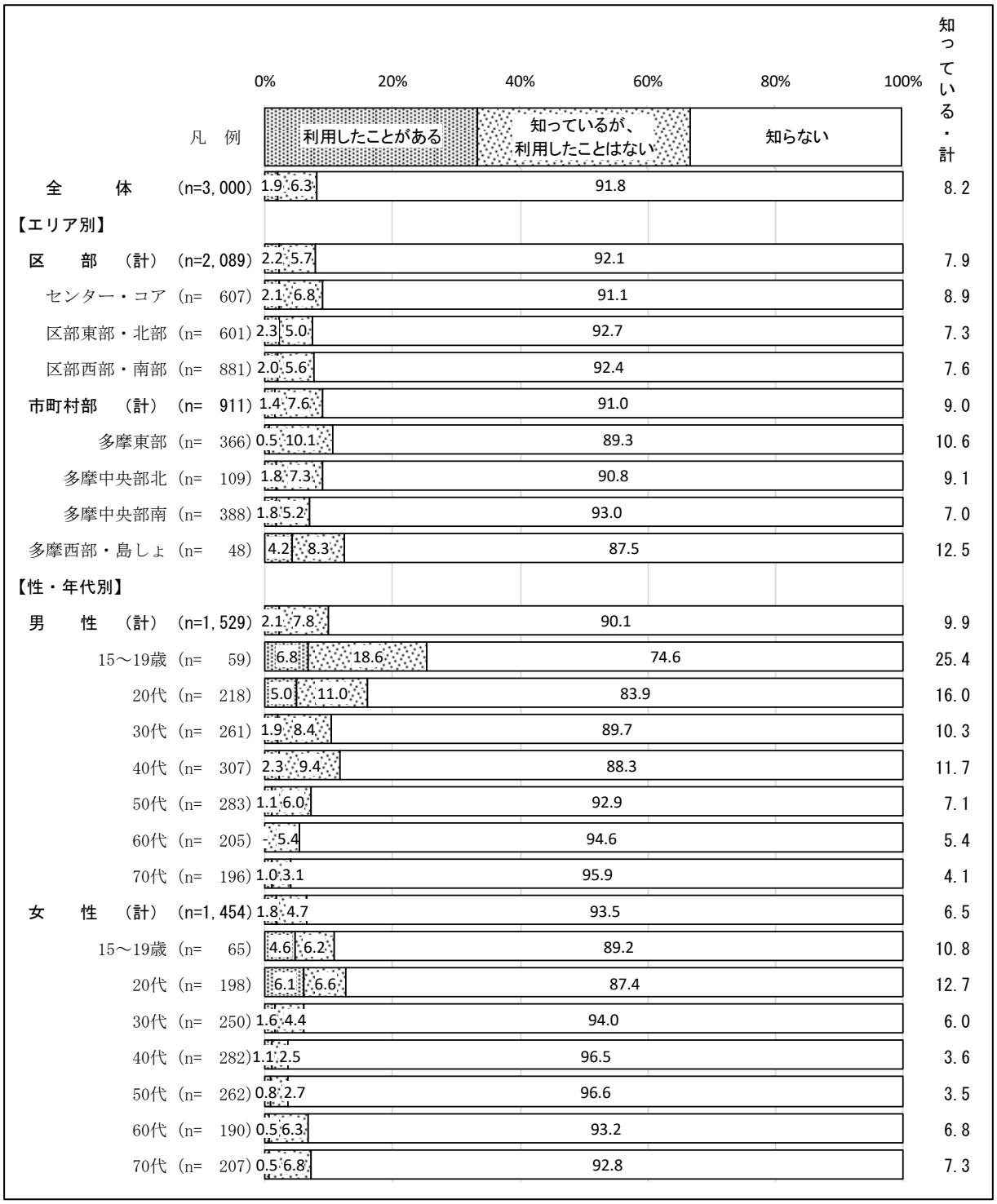


＜ウェブサイト「ボラ市民ウェブ」＞

エリア別にみると、いずれのエリアでも差はみられなかった。

性・年代別にみると、男性では年代が上がるにつれて、『知っている・計』が低くなる傾向がみられた。

図表103. 「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験【エリア別／性・年代別】

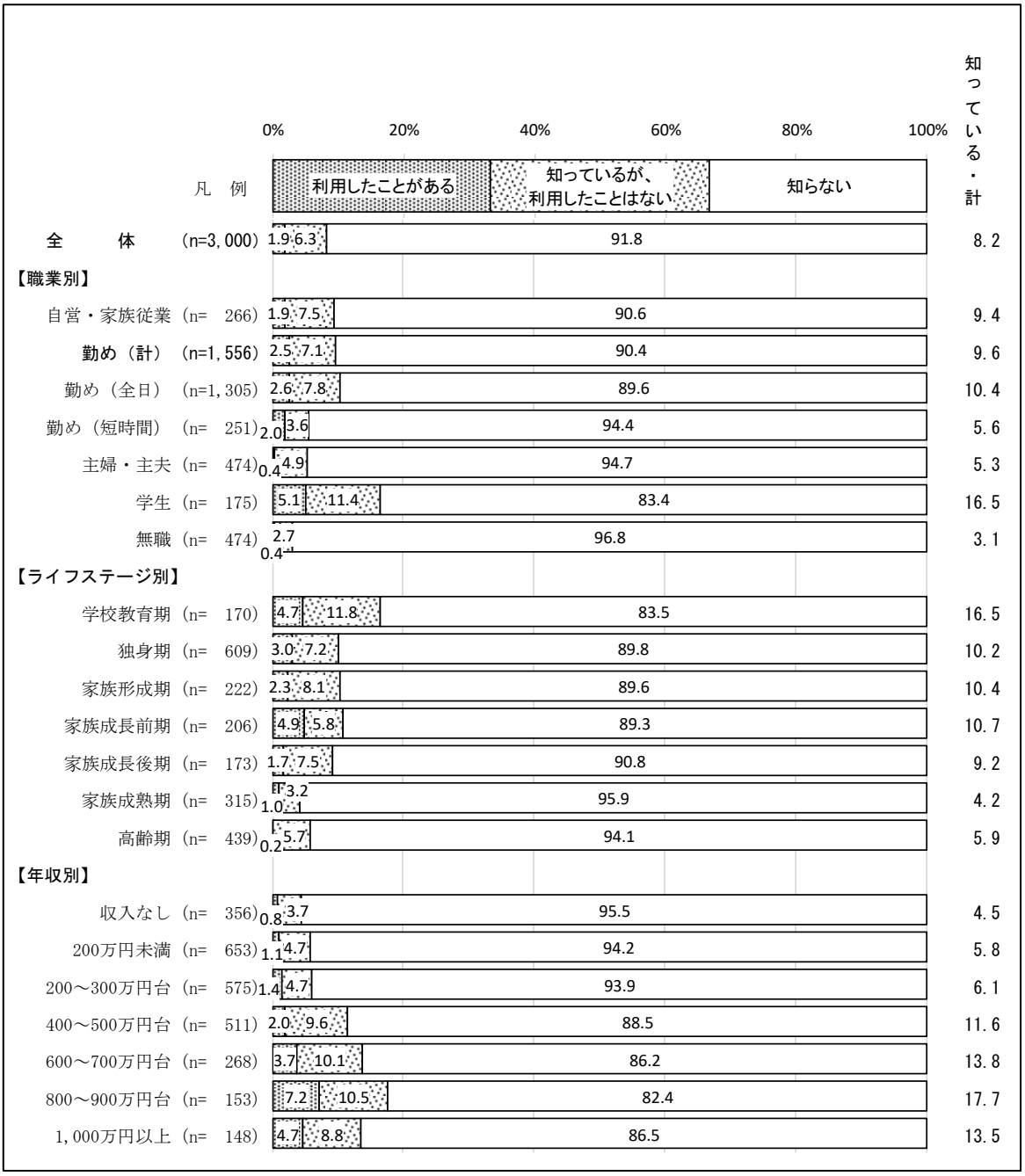


＜ウェブサイト「ボラ市民ウェブ」＞

職業別にみると、学生では、『知っている・計』が 16.5%で、他の職業に比べ高かった。

年収別にみると、800～900 万円台では、『知っている・計』が 17.7%で、他の年収に比べ高かった。

図表104. 「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験【職業別／ライフステージ別／年収別】

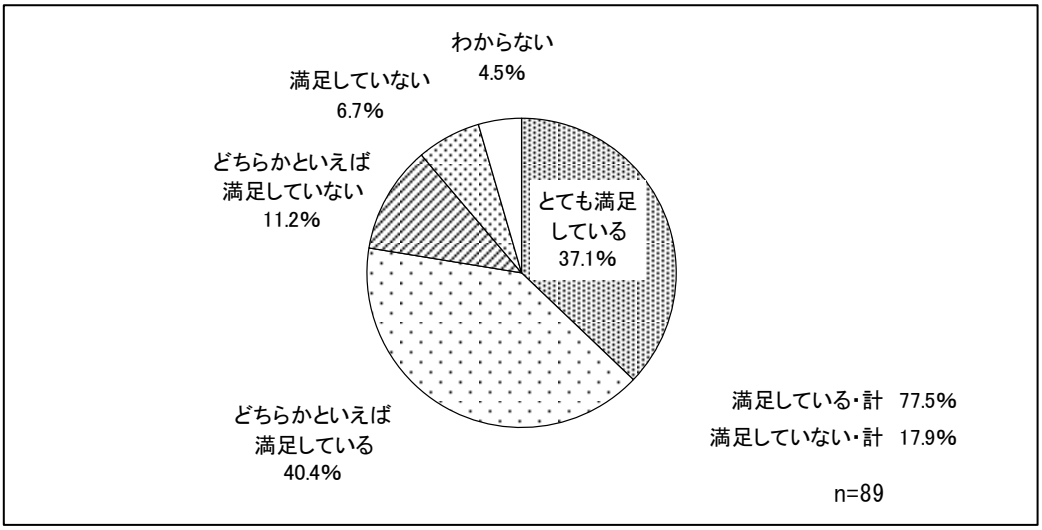


２－２ 東京ボランティア・市民活動センターもしくは「ボラ市民ウェブ」の満足度

（Q25 で東京ボランティア・市民活動センター、「ボラ市民ウェブ」のいずれかに 1 と答えた方）

Q26　あなたは東京ボランティア・市民活動センターもしくは「ボラ市民ウェブ」を利用して満足されましたか。次の中から 1 つだけお答えください。

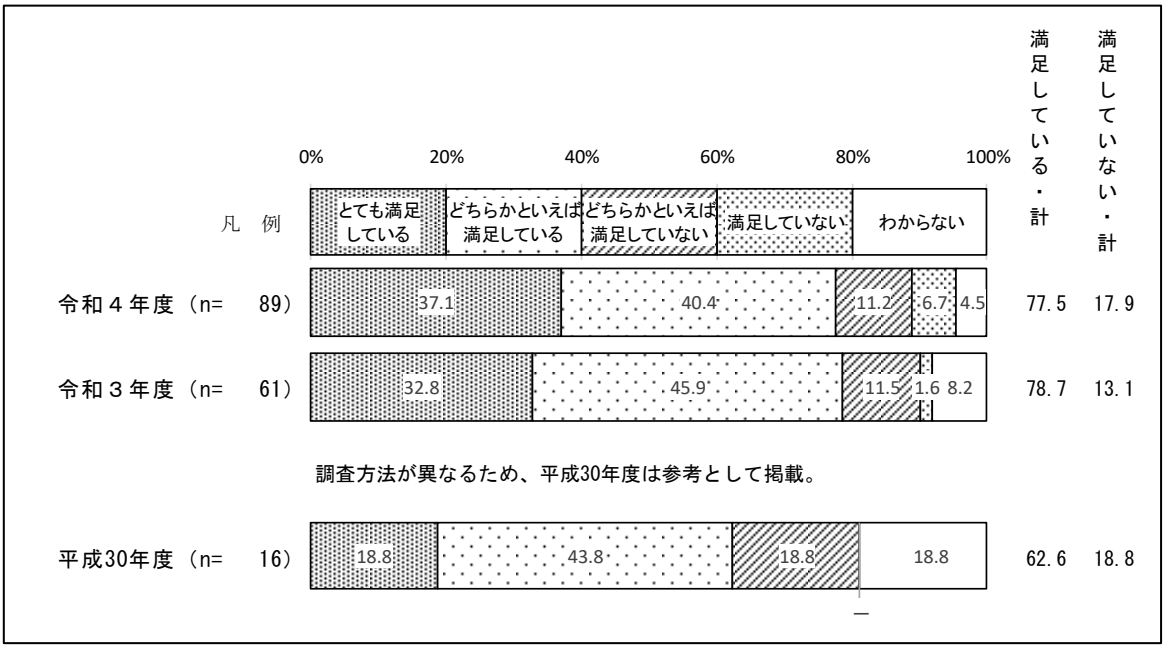
図表105. 東京ボランティア・市民活動センターもしくは「ボラ市民ウェブ」の満足度



東京ボランティア・市民活動センターもしくは「ボラ市民ウェブ」の利用経験がある 89 人の満足度は、「とても満足している」が 37.1%、「どちらかといえば満足している」が 40.4%で、この 2 項目を合わせた『満足している・計』は 77.5%であった。一方、「どちらかといえば満足していない」が 11.2%、「満足していない」が 6.7%で、この 2 項目を合わせた『満足していない・計』は 17.9%であった。

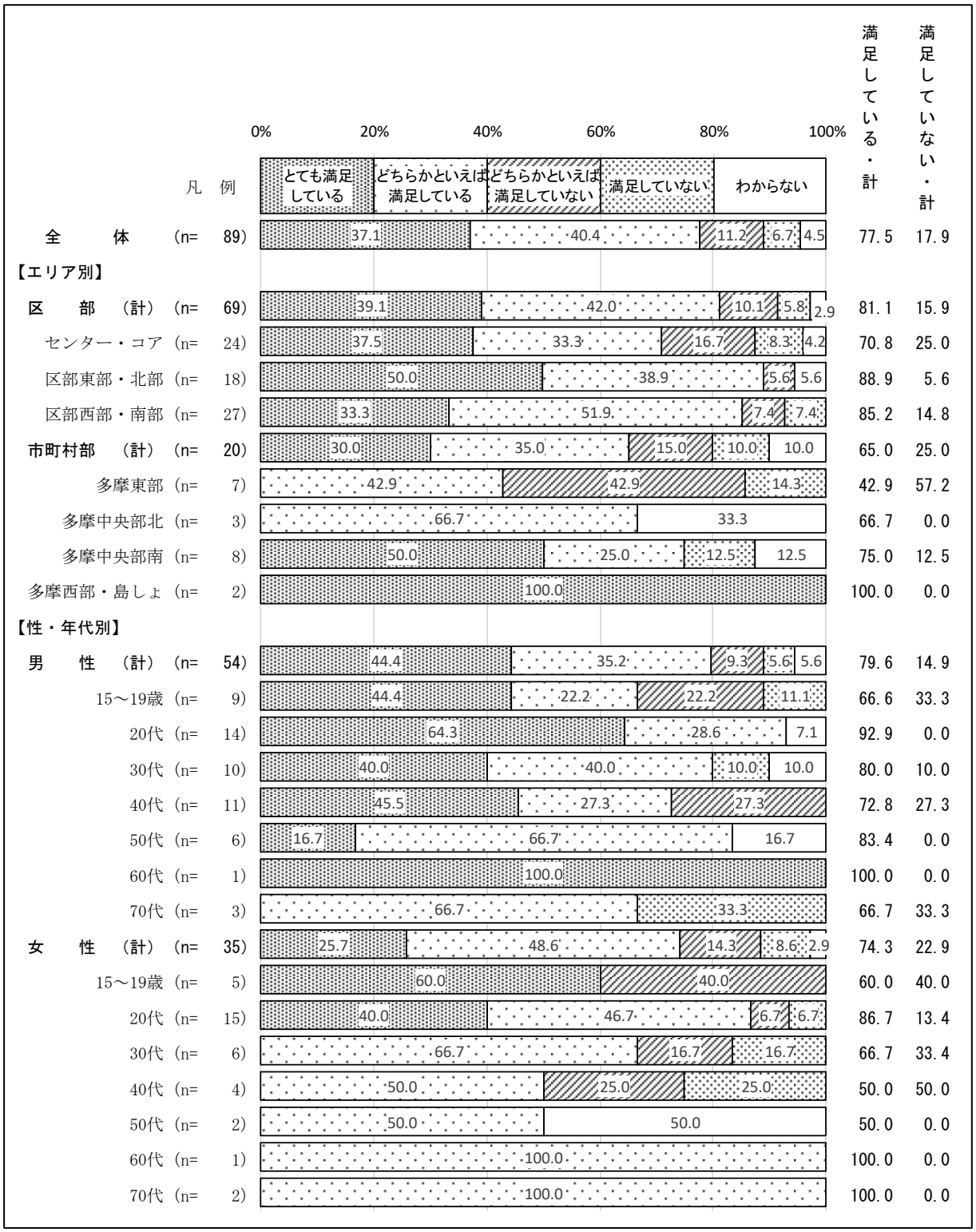
令和 3 年度と比較すると、「とても満足している」は 4.3 ポイントの増加であった。

図表106. 東京ボランティア・市民活動センターもしくは「ボラ市民ウェブ」の満足度【経年比較】



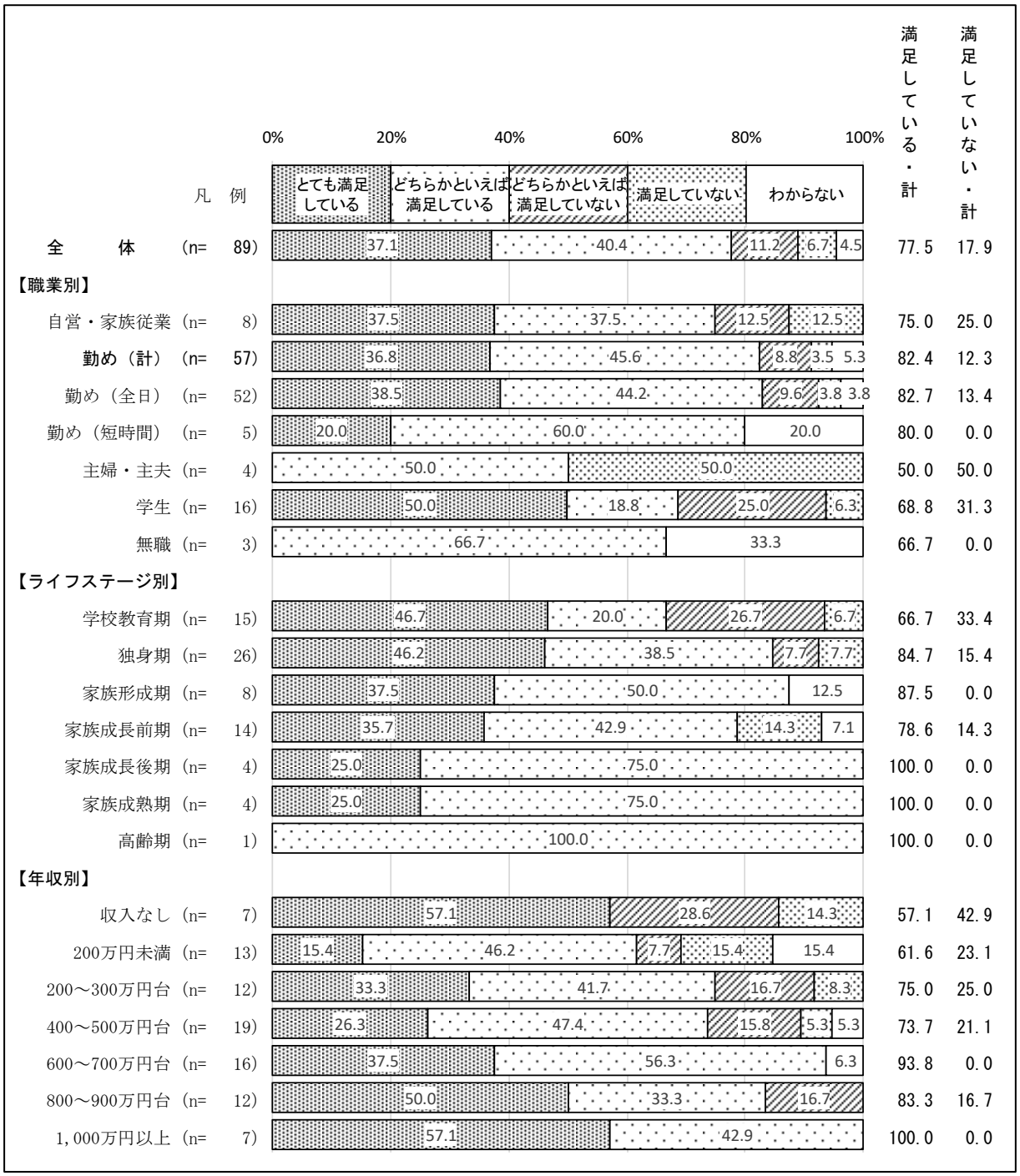
※コメント省略

図表107. 東京ボランティア・市民活動センターもしくは「ボラ市民ウェブ」の満足度
【エリア別／性・年代別】



※コメント省略

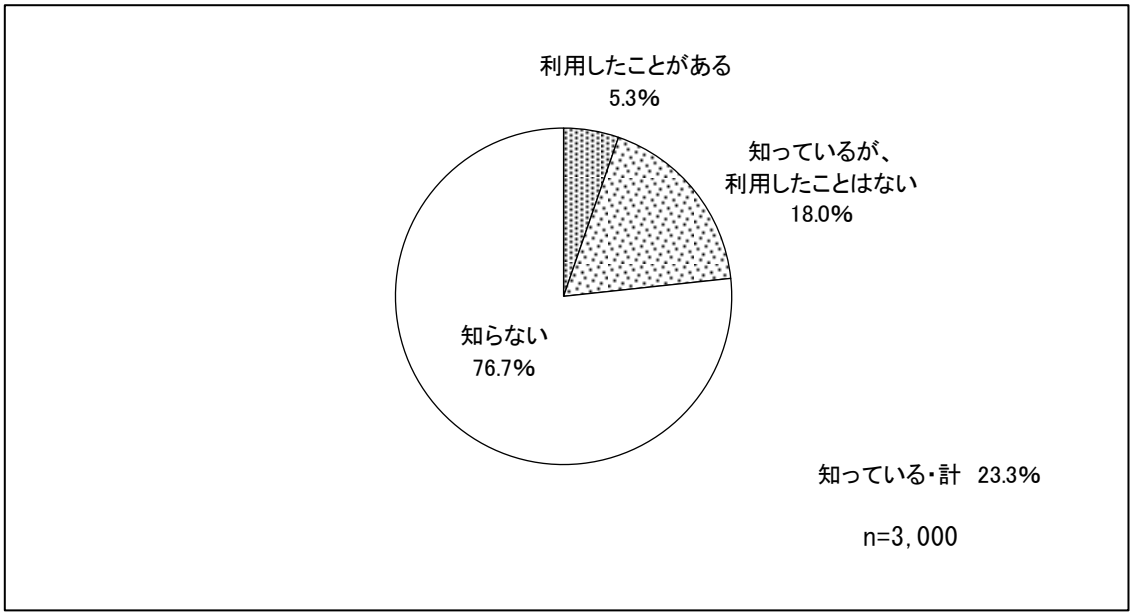
図表108. 東京ボランティア・市民活動センターもしくは「ボラ市民ウェブ」の満足度
【職業別／ライフステージ別／年収別】



２－３ 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

Q27　区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。次の中から１つだけお答えください。※

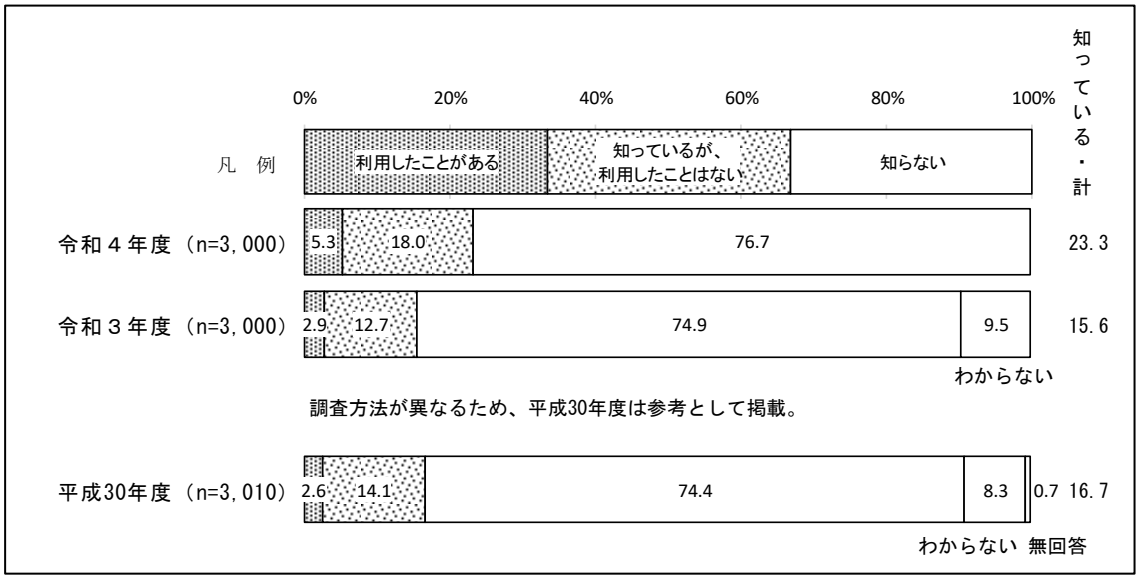
図表109. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験



社会福祉協議会やボランティアセンターを「利用したことがある」が 5.3%、「知っているが、利用したことはない」が 18.0%で、この２項目を合わせた『知っている・計』は 23.3%であった。一方、「知らない」は 76.7%であった。

令和３年度と比較すると、「利用したことがある」は 2.4 ポイントの増加、「知っているが、利用したことはない」は 5.3 ポイントの増加であった。

図表110. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験【経年比較】



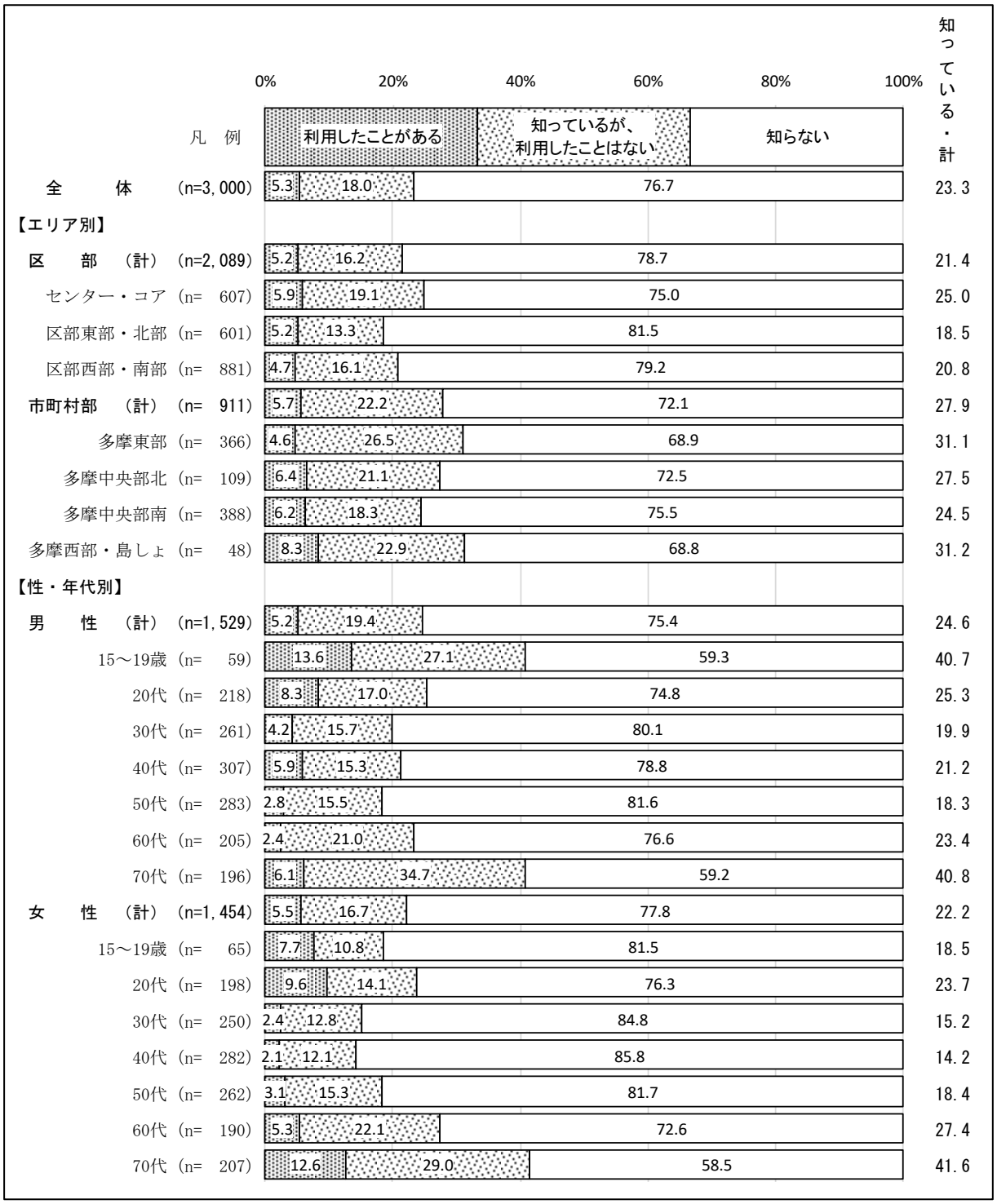
※令和３年度は「Q　あなたは各区市町村にあるボランティアセンターの存在をご存知ですか。また、利用したことはありますか。次の中から１つだけお答えください。」

エリア別にみると、いずれのエリアでも差はみられなかった。

性・年代別にみると、「利用したことがある」では、男性 15～19 歳が 13.6%、女性 70 代が 12.6%で、他の性・年代に比べ高かった。

図表111. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

【エリア別／性・年代別】

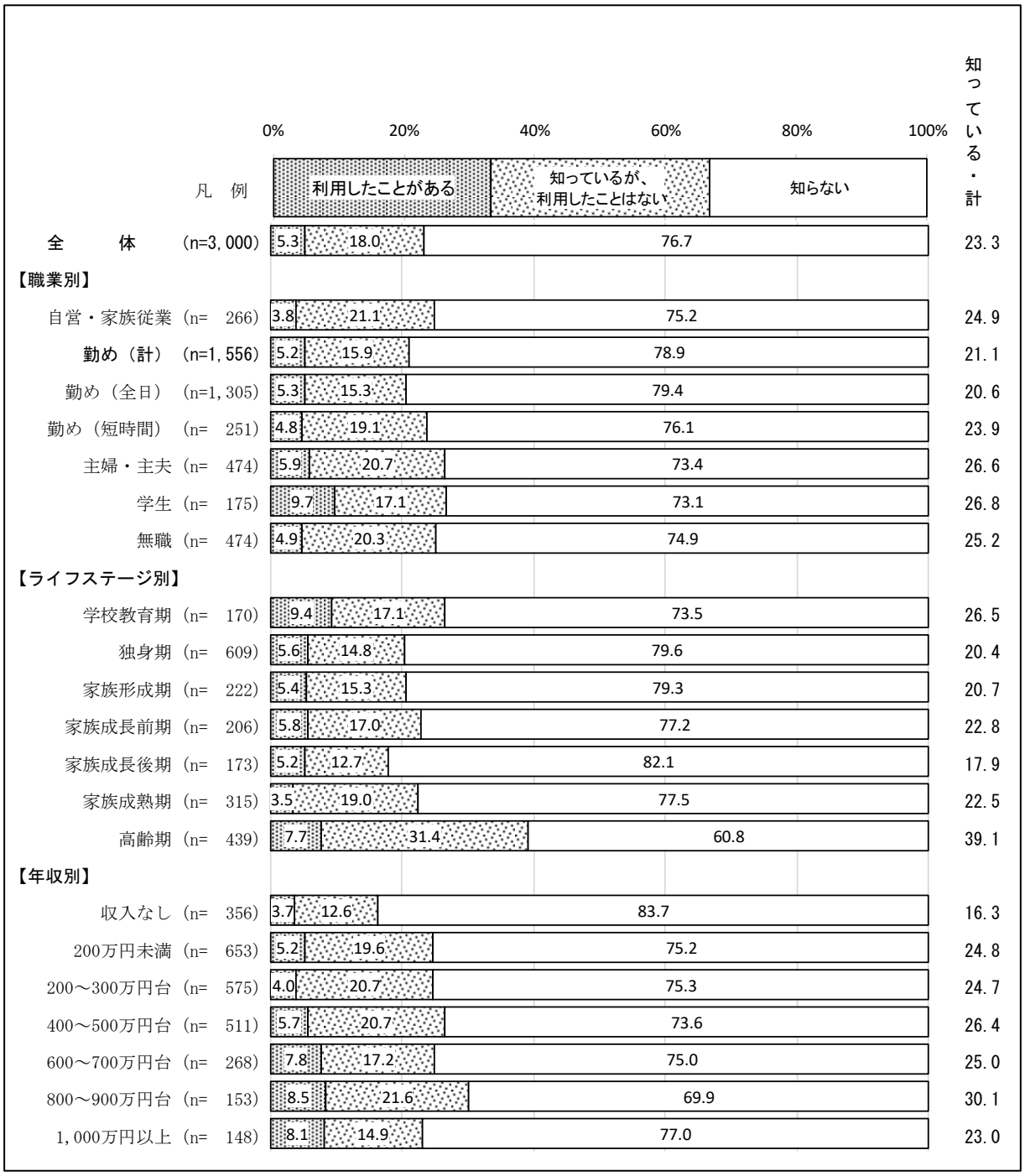


職業別にみると、「利用したことがある」では、学生が 9.7%で、他の職業に比べ高かった。

ライフステージ別にみると、「知っているが、利用したことはない」では、高齢期が 31.4%で、全体の 18.0%より 13.4 ポイント高かった。

年収別にみると、『知っている・計』では、収入なしが 16.3%で、全体の 23.3%より 7.0 ポイント低かった。

図表112. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験
【職業別／ライフステージ別／年収別】

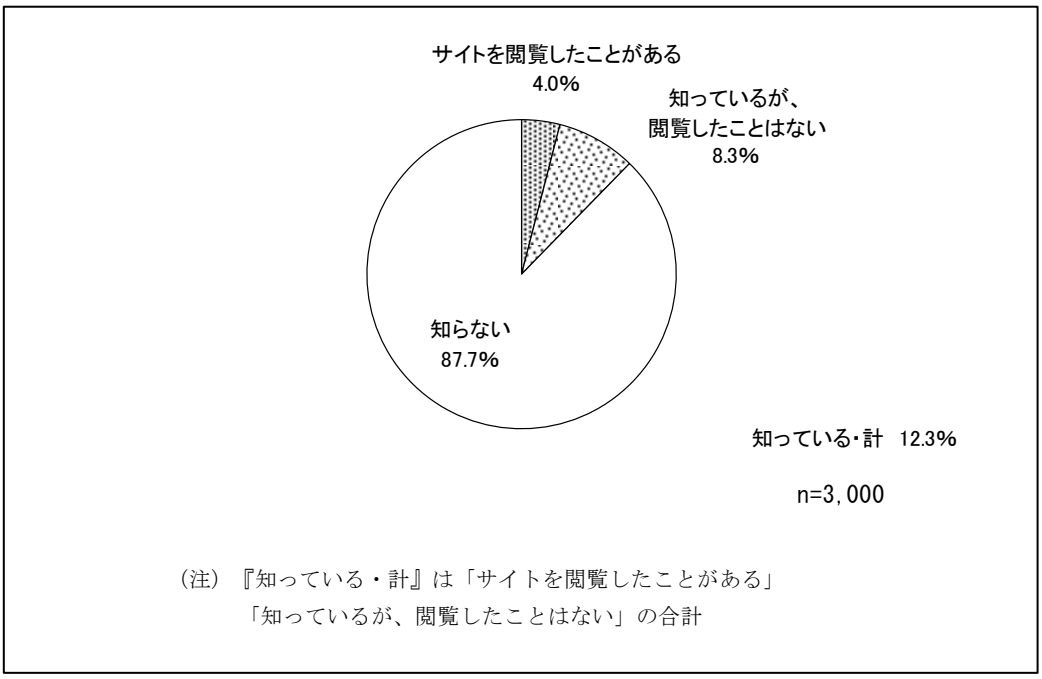


３ 東京都のボランティア活動推進に関する施策について

３－１ 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び訪問経験

Q28　東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。
このサイトでは、ボランティア活動情報をチェックすることができるほか、ユーザー登録をすれば、ボランティアに関する最新情報をメールで受け取ったり、ユーザー同士で交流したりできます。あなたはこの「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。次の中から１つだけお答えください。

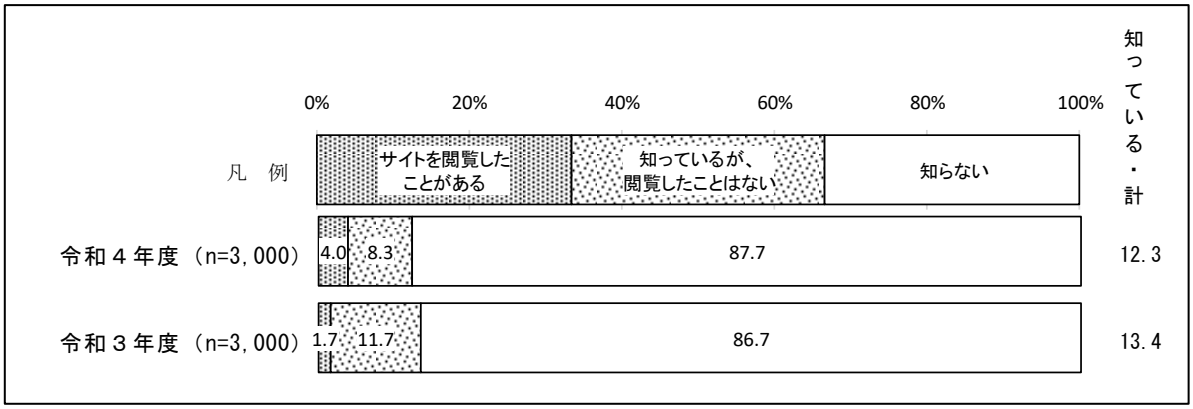
図表113. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び訪問経験



東京ボランティアレガシーネットワークの「サイトを閲覧したことがある」が 4.0%、「知っているが、閲覧したことはない」が 8.3%で、この２項目を合わせた『知っている・計』は 12.3%であった。一方、「知らない」は 87.7%であった。

令和３年度と比較すると、「サイトを閲覧したことがある」は 2.3 ポイントの増加であった。

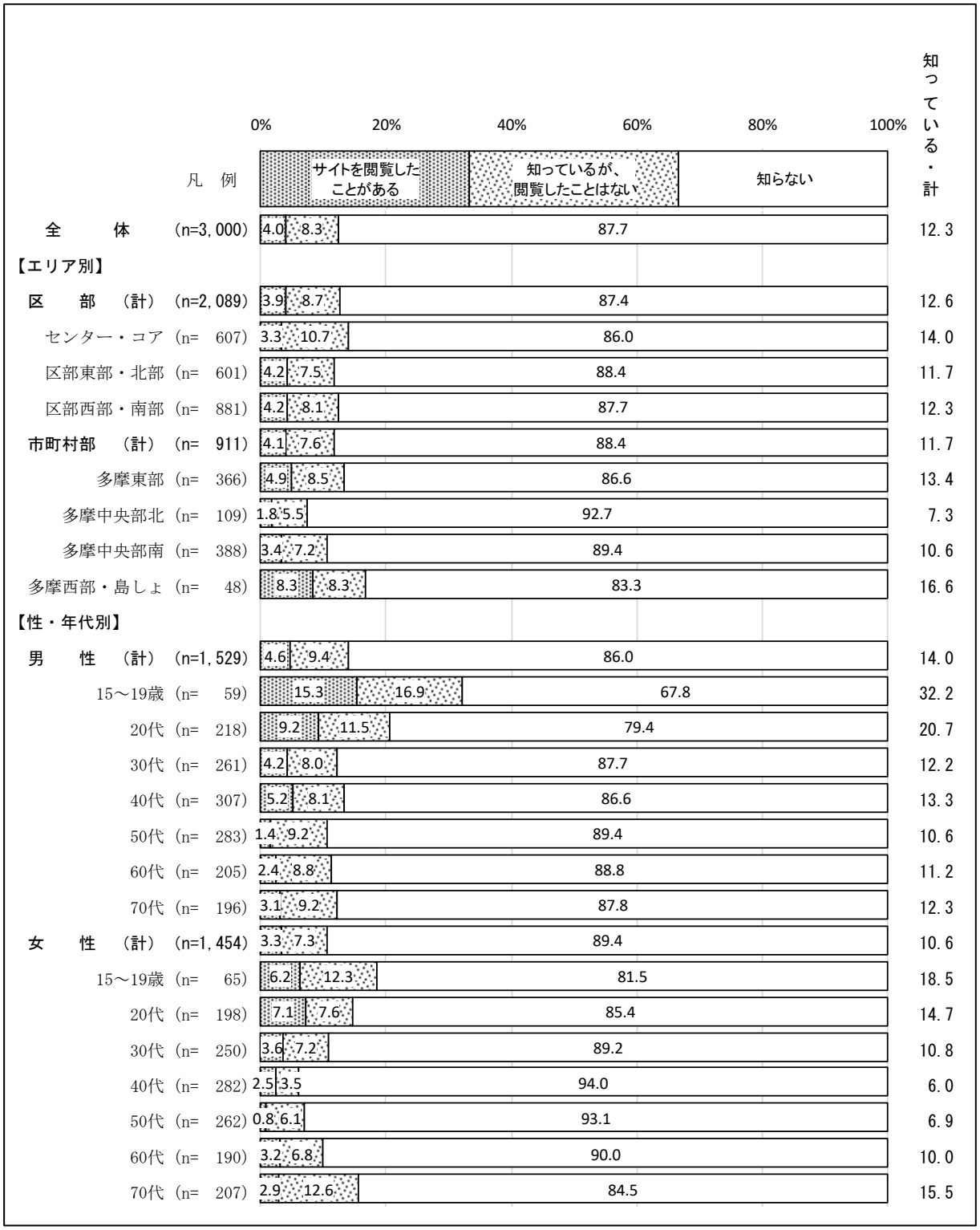
図表114. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び訪問経験【経年比較】



エリア別にみると、区部（計）と市町村部（計）で差はみられなかった。

性・年代別にみると、「サイトを閲覧したことがある」では、男性 15～19 歳が 15.3%、男性 20 代が 9.2%、女性 15～19 歳が 6.2%、女性 20 代が 7.1%であった。

図表115. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び訪問経験
【エリア別／性・年代別】

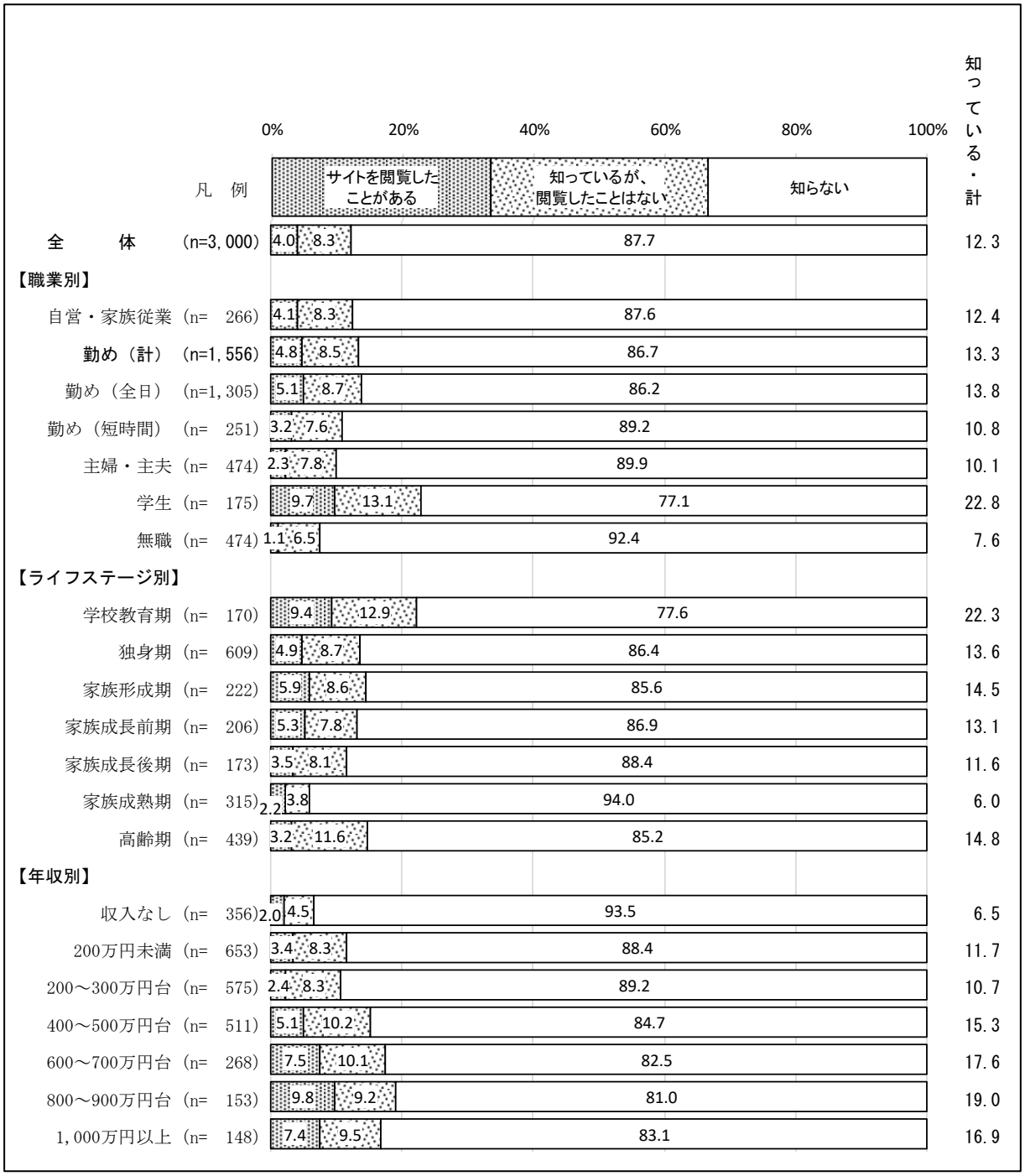


職業別にみると、学生では、「サイトを閲覧したことがある」が 9.7%、「知っているが、閲覧したことはない」が 13.1%で、それぞれ他の職業に比べ高かった。

ライフステージ別にみると、家族成熟期では、「知らない」が 94.0%で、全体の 87.7%より 6.3 ポイント高かった。

年収別にみると、800～900 万円台では、『知っている・計』が 19.0%で、全体の 12.3%より 6.7 ポイント高かった。

図表116. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び訪問経験
【職業別／ライフステージ別／年収別】



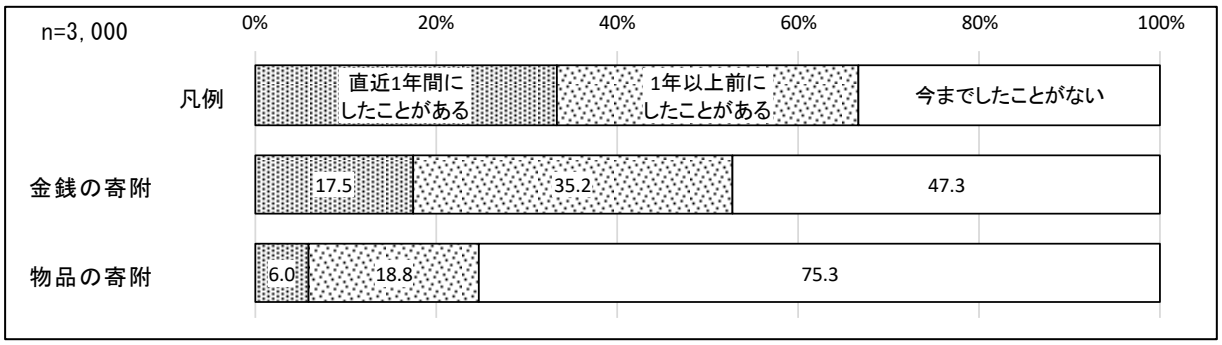
４ 寄附について

４－１ 寄附の経験

Q29　あなたは寄附をしたことがありますか。金銭・物品について、それぞれ１つずつお答えください。ただし、「金銭の寄附」は下記の 1～8 に掲げる方法、「物品の寄附」は食材・衣類・電子機器等の物品の無償での提供を指します。

1. 街頭での募金
2. 設置されている募金箱への寄附（街頭募金を除く）
3. 直接手渡し
4. 銀行やコンビニエンスストア等での振込・口座引落
5. クレジットカード等の利用（ポイント等の利用を含む）
6. 商品の購入を通じた寄附（寄附付き商品、フェアトレード製品、被災地産品の購入など）
7. 給与からの天引き
8. クラウドファンディング（ただし、対価性のある還元をもたらすものを除く）

図表117. 寄附の経験



金銭の寄附を「直近１年間にしたことがある」が 17.5%、「1 年以上前にしたことがある」が 35.2%、「今までしたことがない」が 47.3%であった。

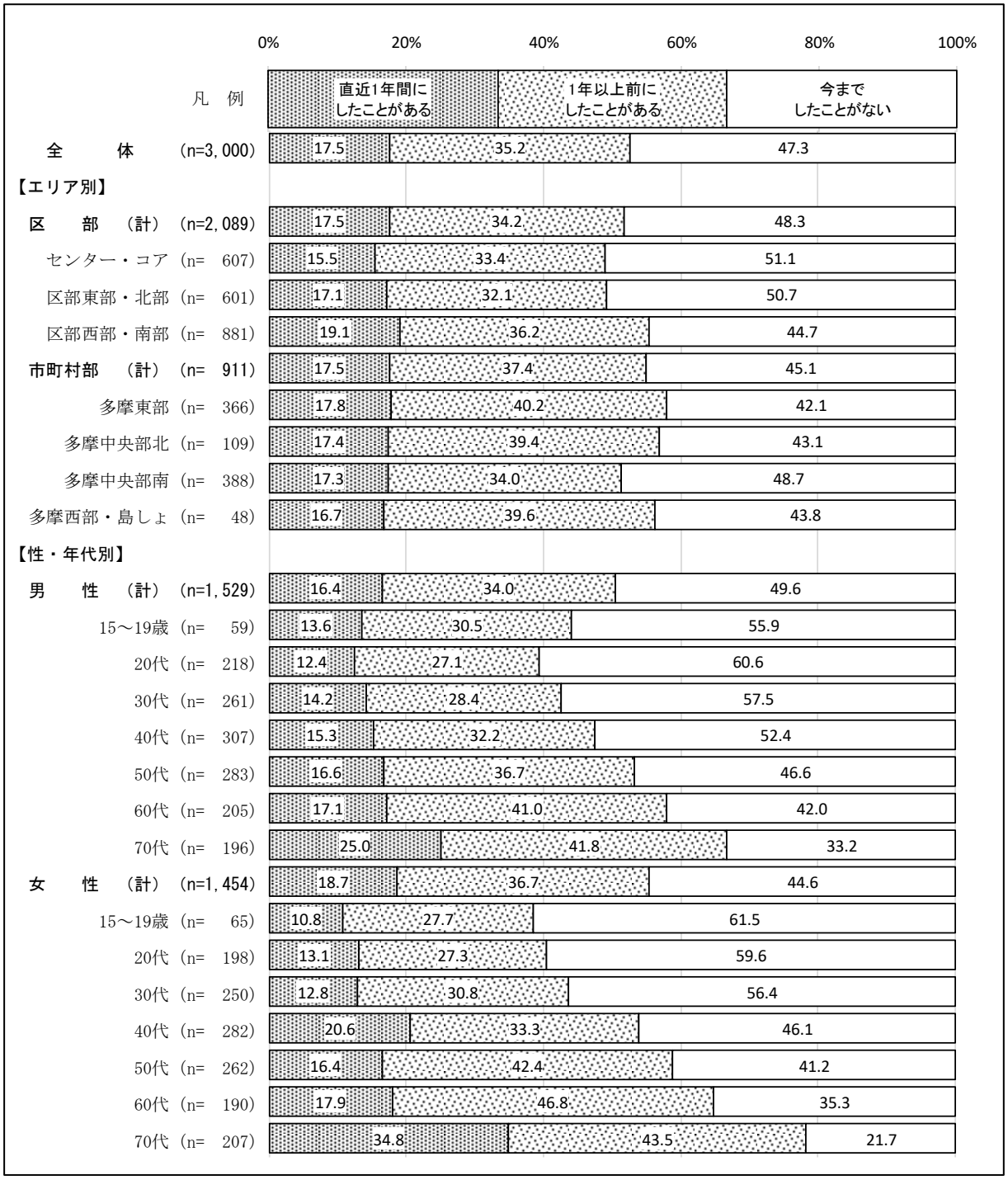
物品の寄附を「直近１年間にしたことがある」が 6.0%、「1 年以上前にしたことがある」が 18.8%、「今までしたことがない」が 75.3%であった。

＜金銭の寄附＞

エリア別にみると、いずれのエリアでも差はみられなかった。

性・年代別にみると、男女ともに年代が上がるにつれて、金銭の寄附の経験があるという回答割合が高くなる傾向がみられた。

図表118. 金銭の寄附【エリア別／性・年代別】



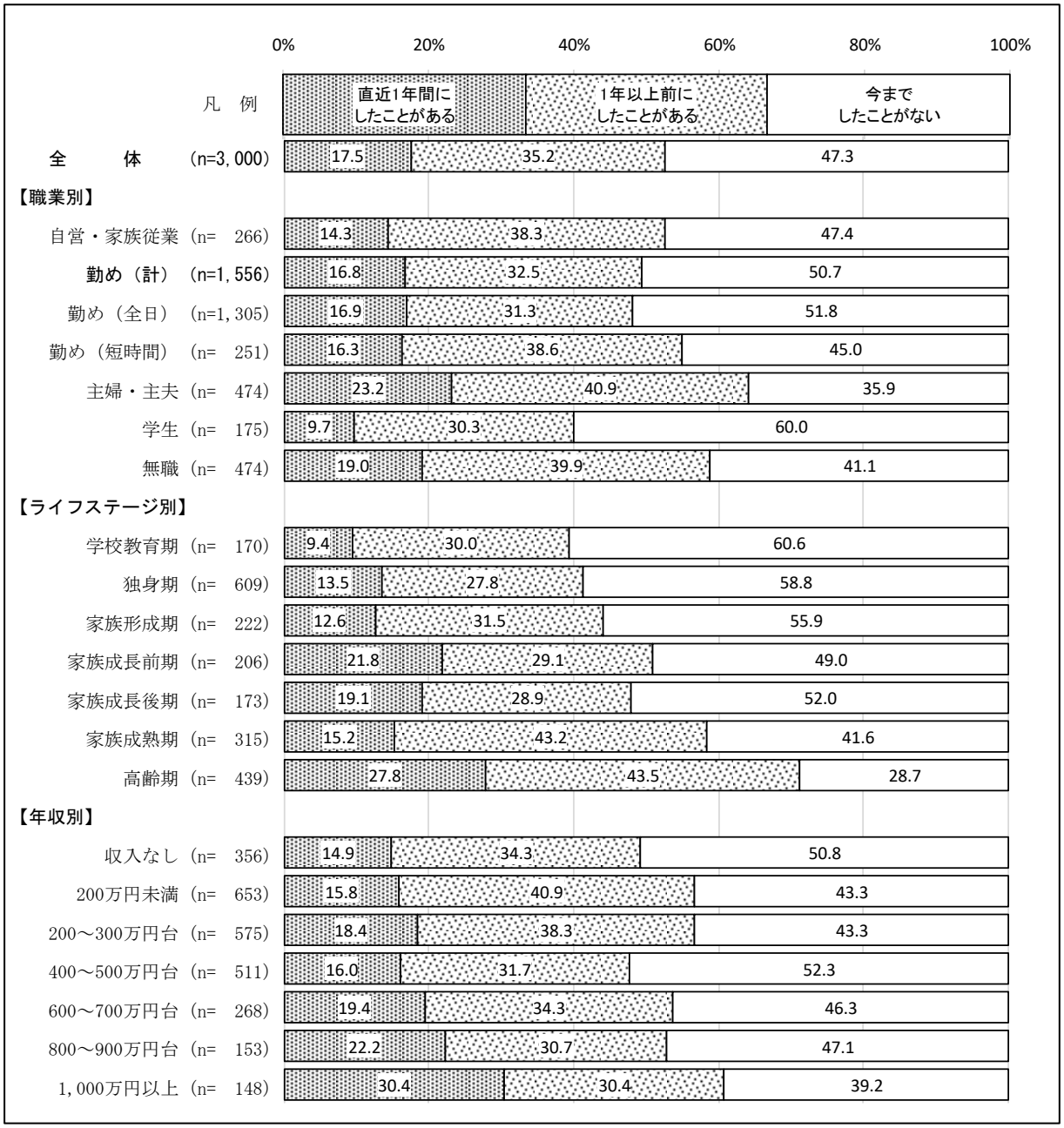
＜金銭の寄附＞

職業別にみると、主婦・主夫では、「直近１年間にしたことがある」が 23.2%、「1 年以上前にしたことがある」が 40.9%で、他の職業に比べ高かった。

ライフステージ別にみると、高齢期では、「直近１年間にしたことがある」が 27.8%、「1 年以上前にしたことがある」が 43.5%で、他のステージに比べ高かった。

年収別にみると、年収が上がるにつれて、「直近１年間にしたことがある」の回答割合が高くなる傾向がみられた。

図表119. 金銭の寄附【職業別／ライフステージ別／年収別】

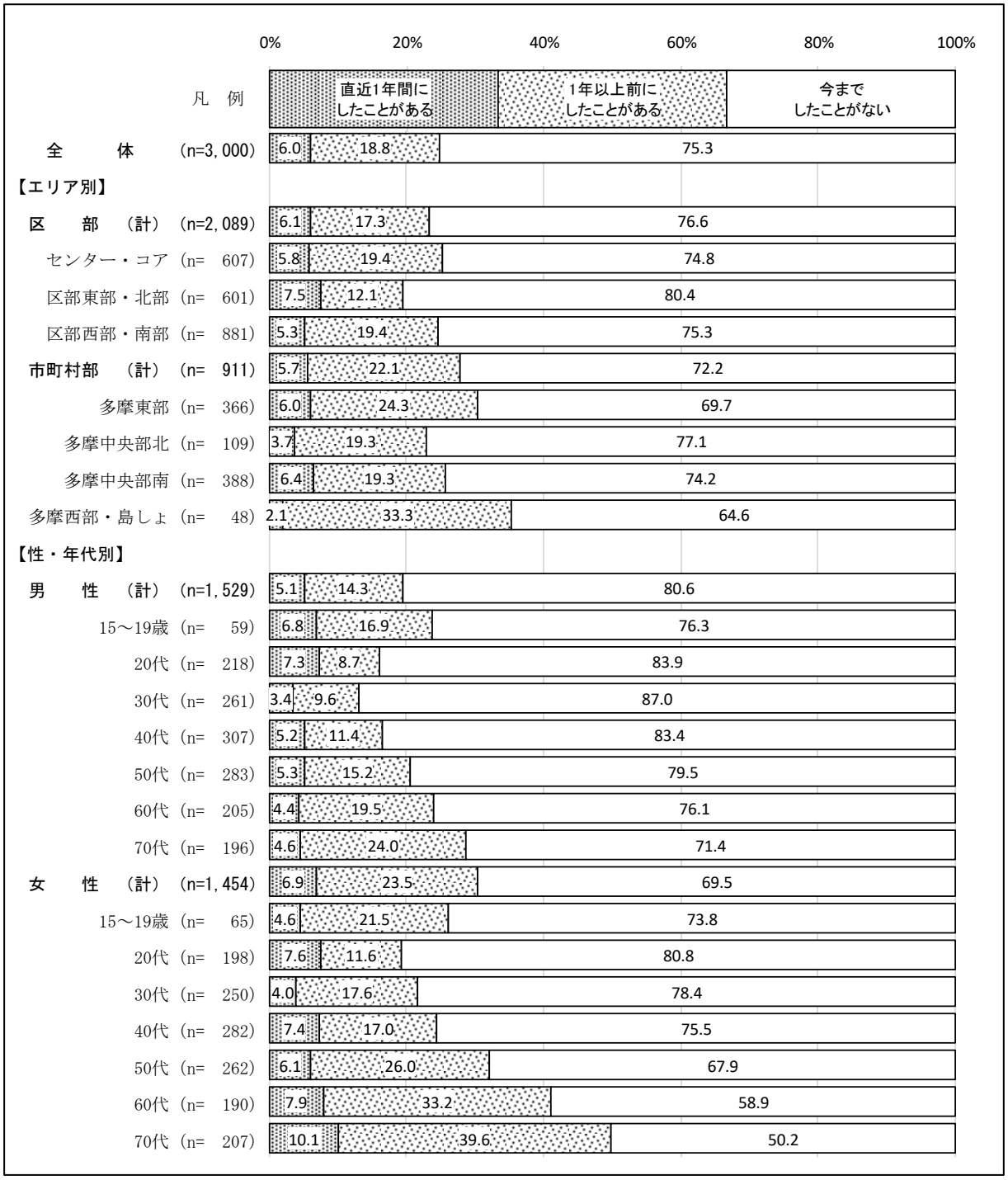


＜物品の寄附＞

エリア別にみると、区部（計）と市町村部（計）で差はみられなかった。

性・年代別にみると、男女ともに年代が上がるにつれて、物品の寄附の経験があるという回答割合が高くなる傾向がみられた。

図表120. 物品の寄附【エリア別／性・年代別】



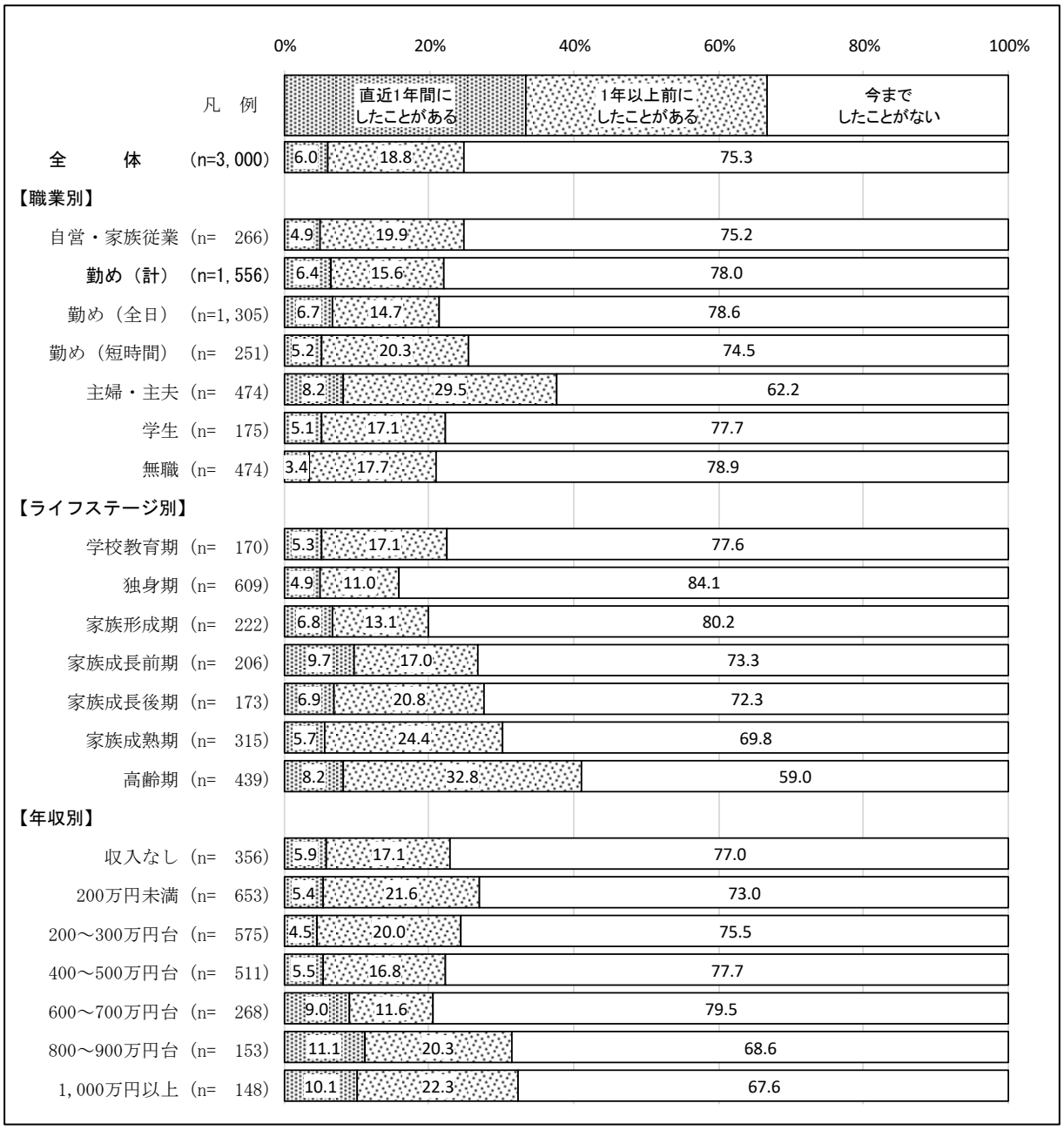
＜物品の寄附＞

職業別にみると、主婦・主夫では、「直近１年間にしたことがある」が 8.2%、「1 年以上前にしたことがある」が 29.5%で、他の職業に比べ高かった。

ライフステージ別にみると、高齢期では、「1 年以上前にしたことがある」が 32.8%で、全体の 18.8%より 14.0 ポイント高かった。

年収別にみると、800 万円以上では、「直近１年間にしたことがある」が１割を超えた。

図表121. 物品の寄附【職業別／ライフステージ別／年収別】

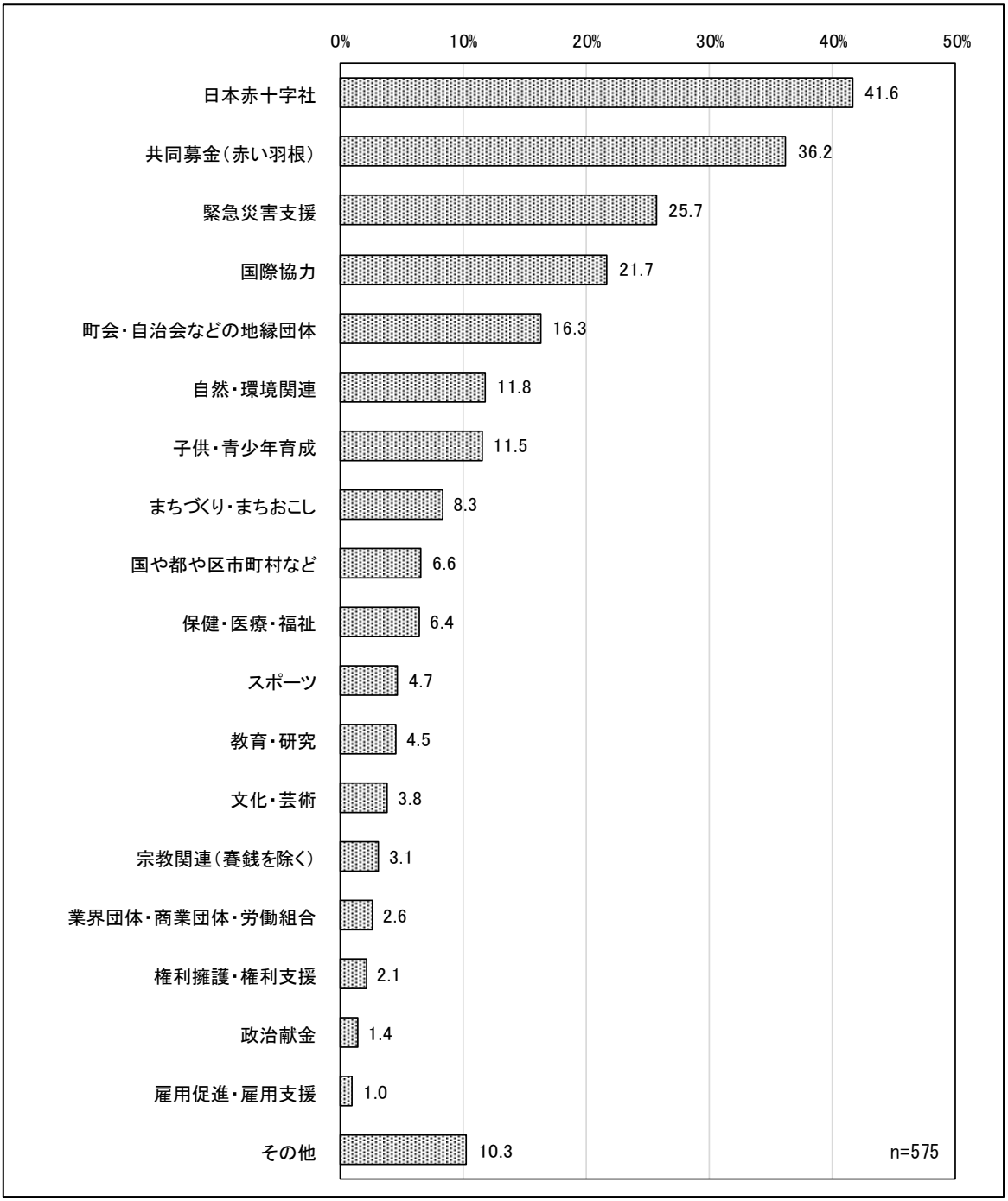


４－２ 寄附をした対象・分野

（Q29 で金銭の寄附、物品の寄附のいずれかに 1 と答えた方）

Q30　あなたは直近 1 年間にどのような対象あるいは分野に寄附をしましたか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

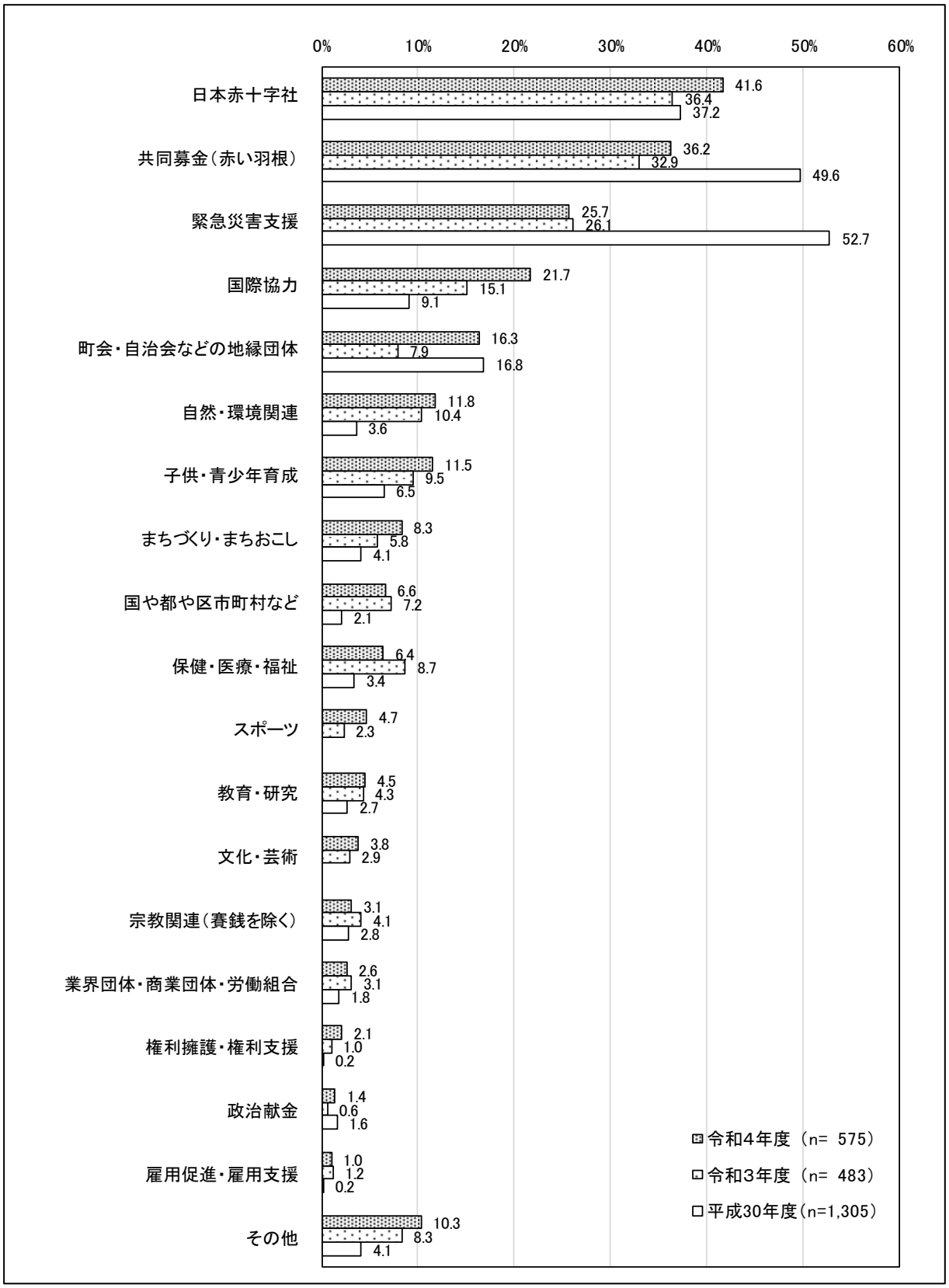
図表122. 寄附をした対象・分野



直近 1 年間に金銭または物品の寄附をした 575 人の寄附の対象・分野は、「日本赤十字社」が 41.6％で最も高かった。次いで、「共同募金（赤い羽根）」が 36.2％、「緊急災害支援」が 25.7％であった。

令和３年度と比較すると、「日本赤十字社」は 5.2 ポイントの増加、「共同募金（赤い羽根）」は 3.3 ポイントの増加であった。

図表123. 寄附をした対象・分野【経年比較】



エリア別にみると、「日本赤十字社」では、区部（計）が 43.5%で、市町村部（計）の 37.3%より 6.2 ポイント高かった。

性・年代別にみると、「日本赤十字社」では、男性（計）が 44.6%で、女性（計）の 38.4%より 6.2 ポイント高かった。

図表124. 寄附をした対象・分野【エリア別／性・年代別】

	n	日本赤十字社	共同募金（赤い羽根）	緊急災害支援	国際協力	町会・自治会などの地縁団体	自然・環境関連	子供・青少年育成	まちづくり・まちおこし	国や都や区市町村など	保健・医療・福祉	スポーツ	教育・研究	文化・芸術	宗教関連（賽銭を除く）	業界団体・商業団体・労働組合	権利擁護・権利支援	政治献金	雇用促進・雇用支援	その他
全体	575	41.6	36.2	25.7	21.7	16.3	11.8	11.5	8.3	6.6	6.4	4.7	4.5	3.8	3.1	2.6	2.1	1.4	1.0	10.3
【エリア別】																				
区部（計）	398	43.5	36.7	24.9	23.6	17.8	11.8	11.1	7.5	7.3	4.8	5.8	4.5	3.8	4.0	3.5	2.3	1.5	0.5	9.8
センター・コア	103	40.8	41.7	22.3	25.2	17.5	9.7	9.7	8.7	4.9	2.9	4.9	5.8	2.9	4.9	7.8	1.0	－	1.0	11.7
区部東部・北部	114	44.7	33.3	24.6	22.8	20.2	14.9	14.0	7.9	7.0	3.5	7.0	3.5	4.4	5.3	1.8	1.8	2.6	0.9	12.3
区部西部・南部	181	44.2	35.9	26.5	23.2	16.6	11.0	9.9	6.6	8.8	6.6	5.5	4.4	3.9	2.8	2.2	3.3	1.7	－	7.2
市町村部（計）	177	37.3	35.0	27.7	17.5	13.0	11.9	12.4	10.2	5.1	10.2	2.3	4.5	4.0	1.1	0.6	1.7	1.1	2.3	11.3
多摩東部	74	48.6	41.9	27.0	16.2	18.9	9.5	17.6	13.5	6.8	14.9	4.1	5.4	1.4	2.7	1.4	1.4	1.4	2.7	12.2
多摩中央部北	20	40.0	20.0	40.0	15.0	5.0	15.0	10.0	5.0	－	10.0	－	5.0	－	－	－	－	－	5.0	15.0
多摩中央部南	75	28.0	33.3	26.7	18.7	10.7	13.3	9.3	9.3	5.3	5.3	1.3	4.0	5.3	－	－	1.3	1.3	1.3	9.3
多摩西部・島しょ	8	12.5	25.0	12.5	25.0	－	12.5	－	－	－	12.5	－	－	25.0	－	－	12.5	－	－	12.5
【性・年代別】																				
男性（計）	271	44.6	38.7	24.0	23.2	19.2	12.2	13.3	9.6	8.5	7.7	6.6	5.9	4.4	4.4	3.7	1.8	2.2	1.8	6.6
15～19歳	10	30.0	10.0	30.0	20.0	20.0	10.0	30.0	－	－	10.0	－	10.0	10.0	－	－	－	－	－	10.0
20代	31	48.4	58.1	22.6	25.8	16.1	16.1	12.9	19.4	12.9	9.7	12.9	－	6.5	3.2	16.1	6.5	－	－	6.5
30代	39	28.2	28.2	17.9	15.4	17.9	20.5	10.3	17.9	12.8	15.4	5.1	12.8	2.6	5.1	－	－	－	2.6	5.1
40代	51	43.1	37.3	31.4	29.4	13.7	11.8	21.6	9.8	3.9	3.9	7.8	2.0	3.9	2.0	7.8	－	3.9	3.9	3.9
50代	50	50.0	28.0	28.0	24.0	10.0	10.0	12.0	6.0	4.0	2.0	6.0	6.0	4.0	6.0	2.0	－	2.0	－	6.0
60代	39	59.0	48.7	25.6	15.4	33.3	10.3	12.8	10.3	15.4	5.1	10.3	10.3	2.6	5.1	－	2.6	2.6	－	5.1
70代	51	43.1	45.1	15.7	27.5	25.5	7.8	5.9	2.0	7.8	11.8	2.0	3.9	5.9	5.9	－	3.9	3.9	3.9	11.8
女性（計）	302	38.4	34.1	27.5	20.5	13.9	11.6	9.9	7.3	5.0	5.3	3.0	3.3	3.3	2.0	1.7	2.3	0.7	0.3	13.6
15～19歳	8	37.5	62.5	37.5	25.0	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5	25.0	－	12.5	12.5	12.5	－	－	－	－	12.5
20代	29	37.9	37.9	24.1	27.6	10.3	17.2	13.8	24.1	10.3	6.9	17.2	10.3	6.9	3.4	6.9	6.9	6.9	3.4	－
30代	34	23.5	11.8	23.5	20.6	8.8	14.7	5.9	5.9	－	11.8	－	－	－	－	2.9	2.9	－	－	17.6
40代	63	34.9	27.0	19.0	14.3	11.1	9.5	14.3	4.8	1.6	3.2	－	3.2	1.6	1.6	1.6	3.2	－	－	12.7
50代	50	36.0	22.0	28.0	16.0	10.0	16.0	10.0	10.0	4.0	6.0	4.0	4.0	4.0	2.0	2.0	－	－	－	14.0
60代	43	44.2	39.5	30.2	16.3	14.0	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	－	2.3	2.3	－	－	－	－	－	18.6
70代	75	46.7	50.7	34.7	28.0	22.7	9.3	9.3	2.7	8.0	1.3	2.7	1.3	4.0	2.7	－	2.7	－	－	14.7

（人）（%）

職業別にみると、自営・家族従業では、「日本赤十字社」が 54.8%で、全体の 41.6%より 13.2 ポイント高かった。

ライフステージ別にみると、「共同募金（赤い羽根)」では、家族成長前期が 46.8%、高齢期が 50.0%で、いずれも全体の 36.2%より 10 ポイント以上高かった。

年収別にみると、1,000 万円以上では、「日本赤十字社」が 58.7%で、全体より 17.1 ポイント高かった。

図表125. 寄附をした対象・分野【職業別／ライフステージ別／年収別】

	n	日本赤十字社	共同募金（赤い羽根）	緊急災害支援	国際協力	町会・自治会などの地縁団体	自然・環境関連	子供・青少年育成	まちづくり・まちおこし	国や都や区市町村など	保健・医療・福祉	スポーツ	教育・研究	文化・芸術	宗教関連（賽銭を除く）	業界団体・商業団体・労働組合	権利擁護・権利支援	政治献金	雇用促進・雇用支援	その他
全体	575	41.6	36.2	25.7	21.7	16.3	11.8	11.5	8.3	6.6	6.4	4.7	4.5	3.8	3.1	2.6	2.1	1.4	1.0	10.3
【職業別】																				
自営・家族従業	42	54.8	47.6	11.9	16.7	26.2	11.9	14.3	7.1	7.1	4.8	2.4	4.8	－	4.8	2.4	2.4	2.4	2.4	14.3
勤め（計）	287	40.1	32.8	28.2	21.6	13.9	14.3	11.1	11.5	7.3	7.0	5.6	5.2	4.5	3.8	4.5	3.1	2.1	1.4	8.0
勤め（全日）	243	40.7	32.5	23.9	21.8	14.8	14.0	11.9	13.2	7.4	7.0	6.2	5.3	4.1	3.7	5.3	2.9	2.1	1.2	7.8
勤め（短時間）	44	36.4	34.1	52.3	20.5	9.1	15.9	6.8	2.3	6.8	6.8	2.3	4.5	6.8	4.5	－	4.5	2.3	2.3	9.1
主婦・主夫	123	42.3	41.5	23.6	24.4	17.9	7.3	12.2	4.9	6.5	2.4	2.4	1.6	1.6	0.8	0.8	－	－	－	13.8
学生	21	38.1	42.9	23.8	23.8	14.3	9.5	19.0	4.8	9.5	9.5	－	9.5	9.5	4.8	－	－	－	－	9.5
無職	93	43.0	36.6	26.9	21.5	17.2	9.7	8.6	4.3	3.2	10.8	5.4	5.4	5.4	3.2	－	2.2	1.1	1.1	8.6
【ライフステージ別】																				
学校教育期	20	40.0	45.0	25.0	25.0	10.0	10.0	20.0	5.0	10.0	5.0	－	10.0	10.0	5.0	－	－	－	－	10.0
独身期	86	29.1	29.1	23.3	23.3	14.0	20.9	10.5	16.3	10.5	14.0	11.6	4.7	4.7	4.7	9.3	4.7	2.3	2.3	8.1
家族形成期	35	40.0	31.4	25.7	20.0	11.4	17.1	14.3	14.3	5.7	2.9	－	5.7	2.9	－	5.7	－	－	－	8.6
家族成長前期	47	38.3	46.8	10.6	27.7	14.9	8.5	17.0	8.5	4.3	10.6	6.4	6.4	2.1	－	4.3	2.1	－	2.1	6.4
家族成長後期	36	30.6	33.3	22.2	16.7	16.7	19.4	25.0	8.3	5.6	8.3	8.3	－	2.8	－	－	－	－	－	5.6
家族成熟期	56	46.4	21.4	32.1	12.5	14.3	12.5	10.7	7.1	7.1	－	3.6	8.9	－	1.8	1.8	1.8	1.8	－	10.7
高齢期	132	47.0	50.0	28.0	25.8	24.2	7.6	8.3	3.0	10.6	5.3	3.0	3.8	4.5	2.3	－	3.0	1.5	1.5	13.6
【年収別】																				
収入なし	63	38.1	33.3	20.6	19.0	22.2	7.9	17.5	6.3	1.6	1.6	－	4.8	1.6	4.8	1.6	－	－	－	11.1
200万円未満	112	41.1	42.9	36.6	17.9	14.3	12.5	8.9	2.7	2.7	7.1	2.7	3.6	4.5	0.9	－	0.9	－	0.9	12.5
200～300万円台	111	41.4	32.4	26.1	21.6	9.0	13.5	2.7	6.3	5.4	6.3	5.4	1.8	2.7	1.8	0.9	4.5	1.8	0.9	14.4
400～500万円台	91	37.4	31.9	20.9	27.5	18.7	7.7	13.2	7.7	9.9	6.6	4.4	6.6	2.2	7.7	4.4	1.1	3.3	2.2	13.2
600～700万円台	61	50.8	44.3	23.0	19.7	19.7	9.8	11.5	21.3	6.6	8.2	6.6	4.9	8.2	－	－	1.6	1.6	1.6	4.9
800～900万円台	38	26.3	34.2	18.4	18.4	18.4	15.8	18.4	18.4	13.2	13.2	7.9	5.3	5.3	5.3	10.5	5.3	－	－	10.5
1,000万円以上	46	58.7	28.3	34.8	32.6	19.6	23.9	17.4	10.9	8.7	6.5	13.0	10.9	4.3	6.5	8.7	4.3	4.3	2.2	2.2

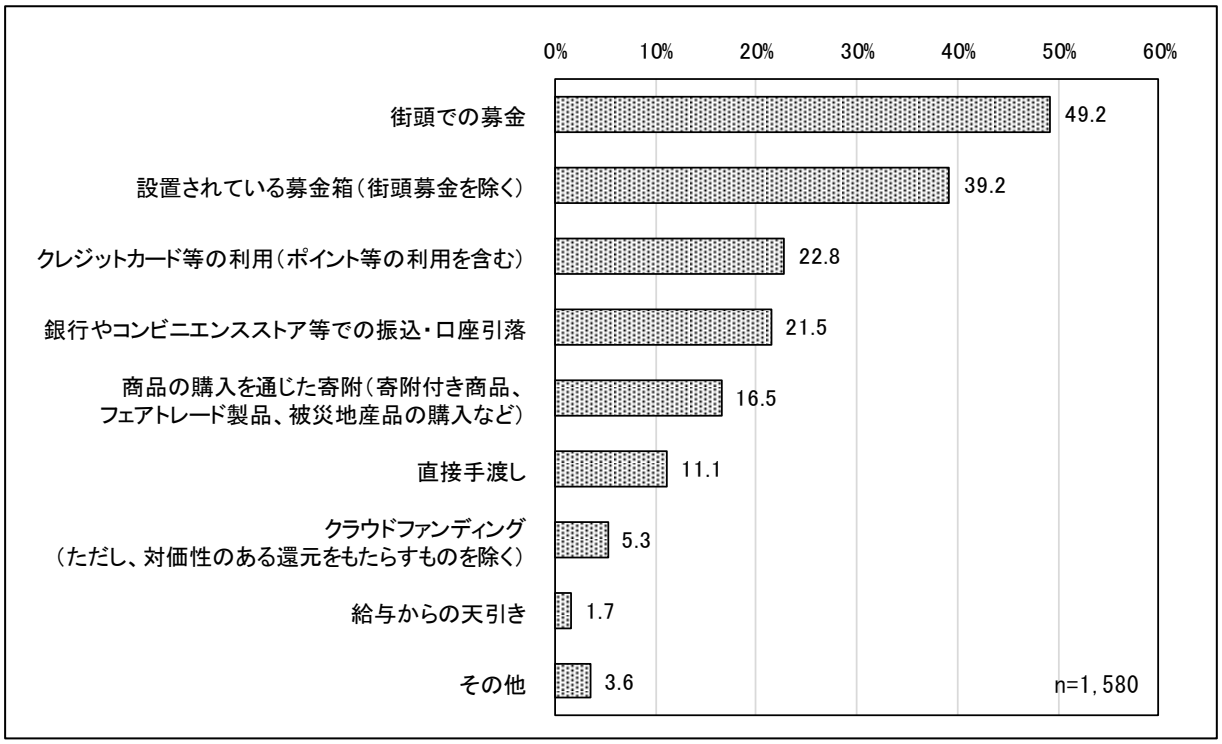
（人）（%）

４－３ 寄附をした方法

（Q29 の金銭の寄附で 1 または 2 と答えた方）

Q31　あなたはどのような方法で金銭の寄附をしましたか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

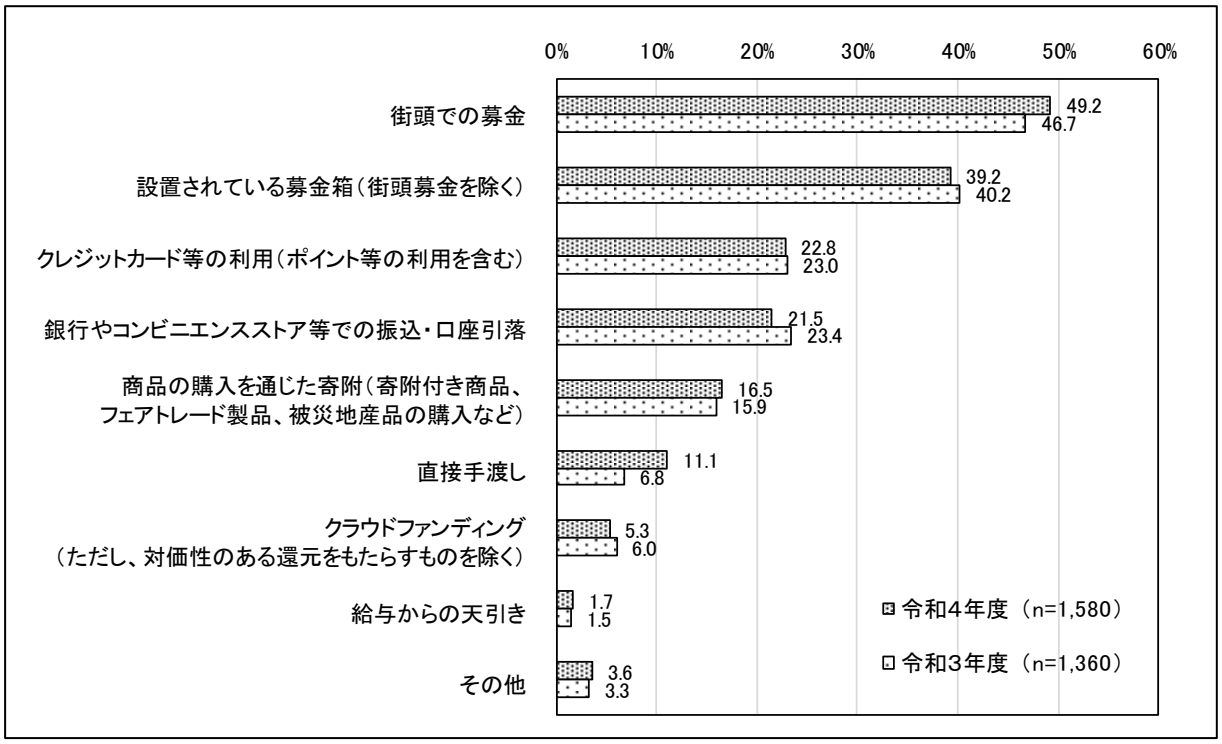
図表126. 寄附をした方法



金銭の寄附をしたことがある 1,580 人が寄附をした方法は、「街頭での募金」が 49.2%で最も高かった。次いで、「設置されている募金箱（街頭募金を除く）」が 39.2%、「クレジットカード等の利用（ポイント等の利用を含む）」が 22.8%であった。

令和３年度と比較すると、「街頭での募金」は 2.5 ポイントの増加、「設置されている募金箱（街頭募金を除く）」は 1.0 ポイントの減少であった。

図表127. 寄附をした方法【経年比較】



エリア別にみると、区別（計）と市町村部（計）で差はみられなかった。

性・年代別にみると、男性50代では、「街頭での募金」が59.6%で、全体の49.2%より10.4ポイント高かった。

図表128. 寄附をした方法【エリア別／性・年代別】

	n	街頭での募金	設置されている募金箱（街頭募金を除く）	クレジットカード等の利用（ポイント等の利用を含む）	銀行やコンビニエンスストア等での振込・口座引落	商品の購入を通じた寄附（寄附付き商品、フェアトレード製品、被災地産品の購入など）	直接手渡し	クラウドファンディング（ただし、対価性のある還元をもたらすものを除く）	給与からの天引き	その他
全体	1,580	49.2	39.2	22.8	21.5	16.5	11.1	5.3	1.7	3.6
【エリア別】										
区部（計）	1,080	48.5	38.9	23.2	21.3	15.6	12.4	5.6	2.0	3.5
センター・コア	297	48.5	38.7	21.5	22.2	15.2	12.5	4.7	2.0	4.0
区部東部・北部	296	48.0	39.5	23.0	22.0	13.5	13.9	4.1	1.7	3.0
区部西部・南部	487	48.9	38.6	24.4	20.3	17.0	11.5	7.2	2.3	3.5
市町村部（計）	500	50.6	40.0	22.0	22.0	18.4	8.2	4.4	1.0	3.8
多摩東部	212	55.2	42.5	23.6	25.0	20.8	7.5	4.2	0.9	2.4
多摩中央部北	62	32.3	37.1	22.6	21.0	14.5	11.3	1.6	1.6	6.5
多摩中央部南	199	51.8	39.2	19.6	18.6	17.1	8.0	5.5	0.5	4.5
多摩西部・島しょ	27	48.1	33.3	25.9	25.9	18.5	7.4	3.7	3.7	3.7
【性・年代別】										
男性（計）	770	51.9	37.3	22.6	21.6	11.3	11.9	5.5	2.5	2.3
15～19歳	26	38.5	50.0	7.7	－	11.5	15.4	3.8	11.5	3.8
20代	86	46.5	50.0	12.8	18.6	10.5	11.6	12.8	4.7	－
30代	111	43.2	37.8	22.5	22.5	12.6	8.1	6.3	2.7	－
40代	146	52.1	39.0	26.7	20.5	8.9	8.2	5.5	2.1	1.4
50代	151	59.6	33.1	24.5	17.9	14.6	11.9	3.3	2.6	4.0
60代	119	58.0	37.8	21.0	22.7	13.4	14.3	5.9	0.8	1.7
70代	131	51.1	28.2	26.7	31.3	7.6	16.8	2.3	0.8	5.3
女性（計）	805	46.6	41.2	22.9	21.4	21.4	10.3	5.1	1.0	4.8
15～19歳	25	72.0	60.0	8.0	4.0	16.0	4.0	4.0	－	8.0
20代	80	41.3	47.5	20.0	18.8	20.0	6.3	6.3	2.5	1.3
30代	109	43.1	45.0	18.3	12.8	19.3	9.2	6.4	2.8	3.7
40代	152	43.4	48.0	27.0	19.7	20.4	8.6	3.3	0.7	5.3
50代	154	50.0	39.6	26.6	23.4	22.7	10.4	5.8	－	3.2
60代	123	48.0	37.4	20.3	22.0	23.6	13.8	7.3	1.6	4.1
70代	162	46.3	30.9	24.1	30.2	22.2	13.0	3.1	－	8.6

（人）　（%）

職業別にみると、自営・家族従業では、「街頭での募金」が 57.9%で、全体の 49.2%より 8.7 ポイント高かった。

ライフステージ別にみると、学校教育期では、「設置されている募金箱（街頭募金を除く）」が 52.2%で、全体の 39.2%より 13.0 ポイント高かった。

年収別にみると、800～900 万円台では、「街頭での募金」が 58.0%で、全体より 8.8 ポイント高かった。

図表129. 寄附をした方法【職業別／ライフステージ別／年収別】

	n	街頭での募金	設置されている募金箱（街頭募金を除く）	クレジットカード等の利用（ポイント等の利用を含む）	銀行やコンビニエンスストア等での振込・口座引落	商品の購入を通じた寄附（寄附付き商品、フェアトレード製品、被災地産品の購入など）	直接手渡し	クラウドファンディング（ただし、対価性のある還元をもたらすものを除く）	給与からの天引き	その他
全体	1,580	49.2	39.2	22.8	21.5	16.5	11.1	5.3	1.7	3.6
【職業別】										
自営・家族従業	140	57.9	41.4	25.0	21.4	15.7	11.4	5.7	1.4	4.3
勤め（計）	767	48.8	39.8	24.1	21.4	16.0	10.8	5.1	2.3	1.8
勤め（全日）	629	48.3	39.4	25.0	22.1	16.4	11.0	5.6	2.9	1.4
勤め（短時間）	138	50.7	41.3	20.3	18.1	14.5	10.1	2.9	－	3.6
主婦・主夫	304	47.4	36.8	20.1	23.0	21.1	11.8	5.3	0.7	6.3
学生	70	52.9	51.4	5.7	2.9	10.0	11.4	5.7	4.3	4.3
無職	279	48.0	36.2	24.7	25.1	12.9	11.5	4.7	0.4	5.0
【ライフステージ別】										
学校教育期	67	53.7	52.2	6.0	3.0	10.4	9.0	6.0	3.0	4.5
独身期	251	43.8	45.4	20.7	21.1	17.9	6.4	9.2	2.4	0.4
家族形成期	98	45.9	42.9	14.3	15.3	14.3	14.3	5.1	6.1	2.0
家族成長前期	105	46.7	40.0	21.9	17.1	12.4	13.3	3.8	4.8	4.8
家族成長後期	83	45.8	30.1	25.3	20.5	14.5	12.0	2.4	2.4	4.8
家族成熟期	184	52.7	32.6	22.8	21.2	14.1	11.4	6.5	0.5	2.2
高齢期	313	50.5	32.3	23.0	27.5	17.6	15.3	2.6	－	6.1
【年収別】										
収入なし	175	45.7	46.3	15.4	16.0	17.1	13.1	6.9	0.6	5.1
200万円未満	370	53.8	43.8	19.2	18.1	17.0	9.7	3.8	0.5	4.9
200～300万円台	326	47.5	37.1	25.5	19.9	16.6	8.3	3.7	1.2	4.3
400～500万円台	244	50.8	38.9	23.0	22.1	15.6	10.2	6.1	2.9	3.7
600～700万円台	144	46.5	38.2	26.4	26.4	9.7	16.0	8.3	2.1	1.4
800～900万円台	81	58.0	29.6	27.2	28.4	23.5	16.0	7.4	2.5	1.2
1,000万円以上	90	43.3	37.8	27.8	27.8	18.9	13.3	6.7	7.8	－

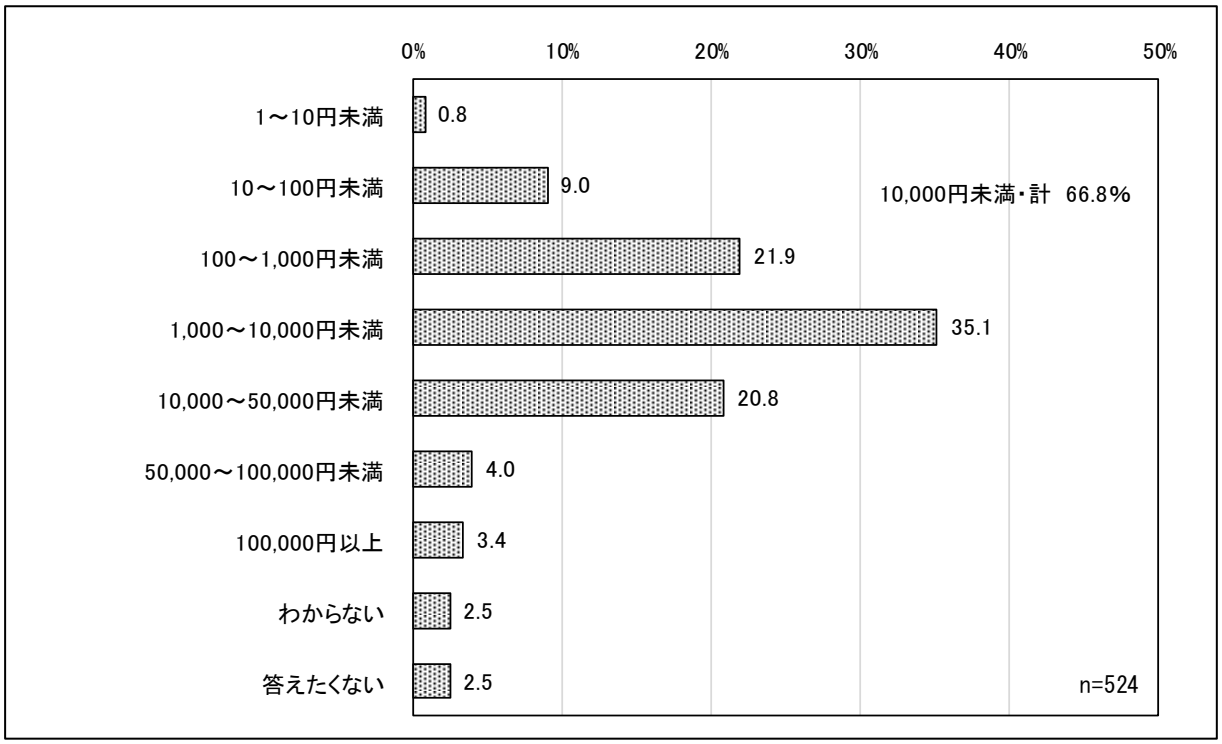
（人）　（%）

４－４ 寄附の金額

（Q29 の金銭の寄附で 1 と答えた方）

Q32　あなたは直近 1 年間で合計どのくらい寄附をしましたか。次の中から 1 つだけお答えください。

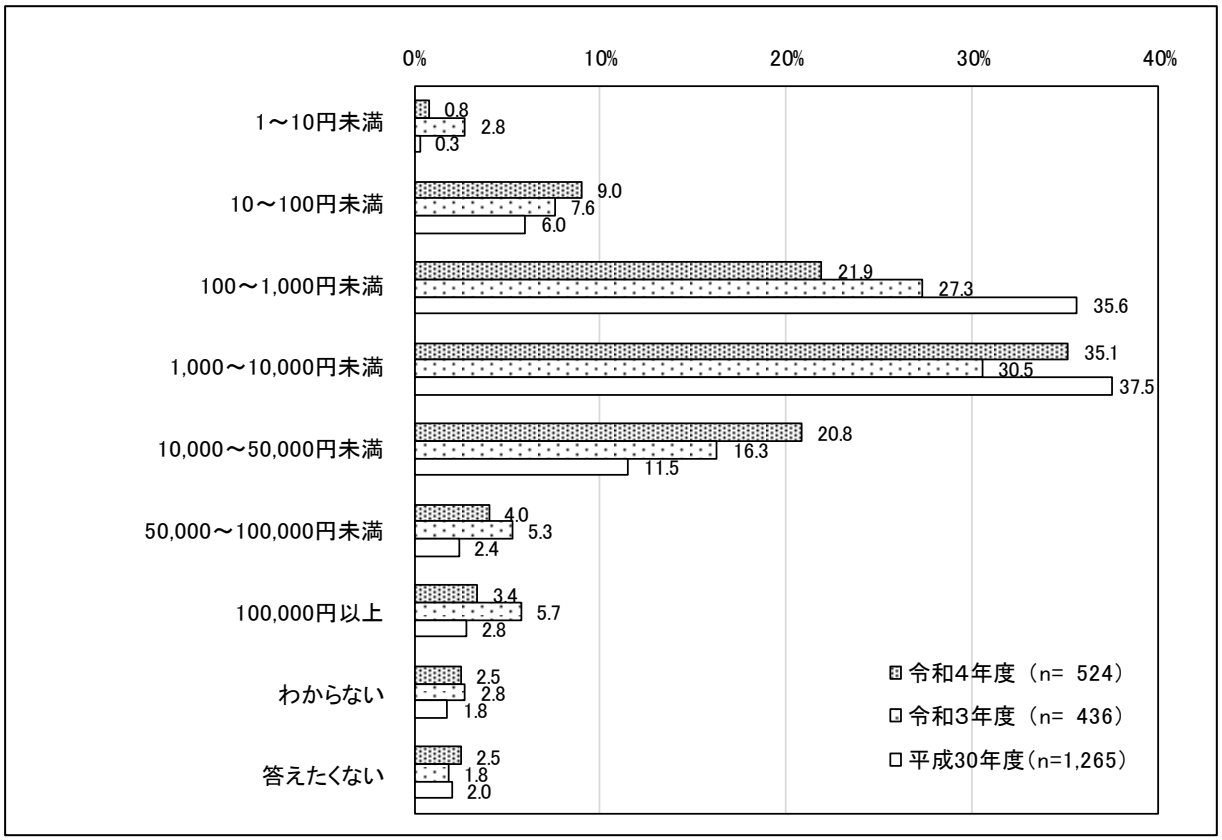
図表130. 寄附の金額



直近 1 年間で金銭の寄附をした 524 人の寄附の金額は、「1～10 円未満」が 0.8%、「10～100 円未満」が 9.0%、「100～1,000 円未満」が 21.9%、「1,000～10,000 円未満」が 35.1%、「10,000～50,000 円未満」が 20.8%、「50,000～100,000 円未満」が 4.0%、「100,000 円以上」が 3.4%であった。

令和３年度と比較すると、「1,000～10,000 円未満」は 4.6 ポイントの増加、「10,000～50,000 円未満」は 4.5 ポイントの増加であった。

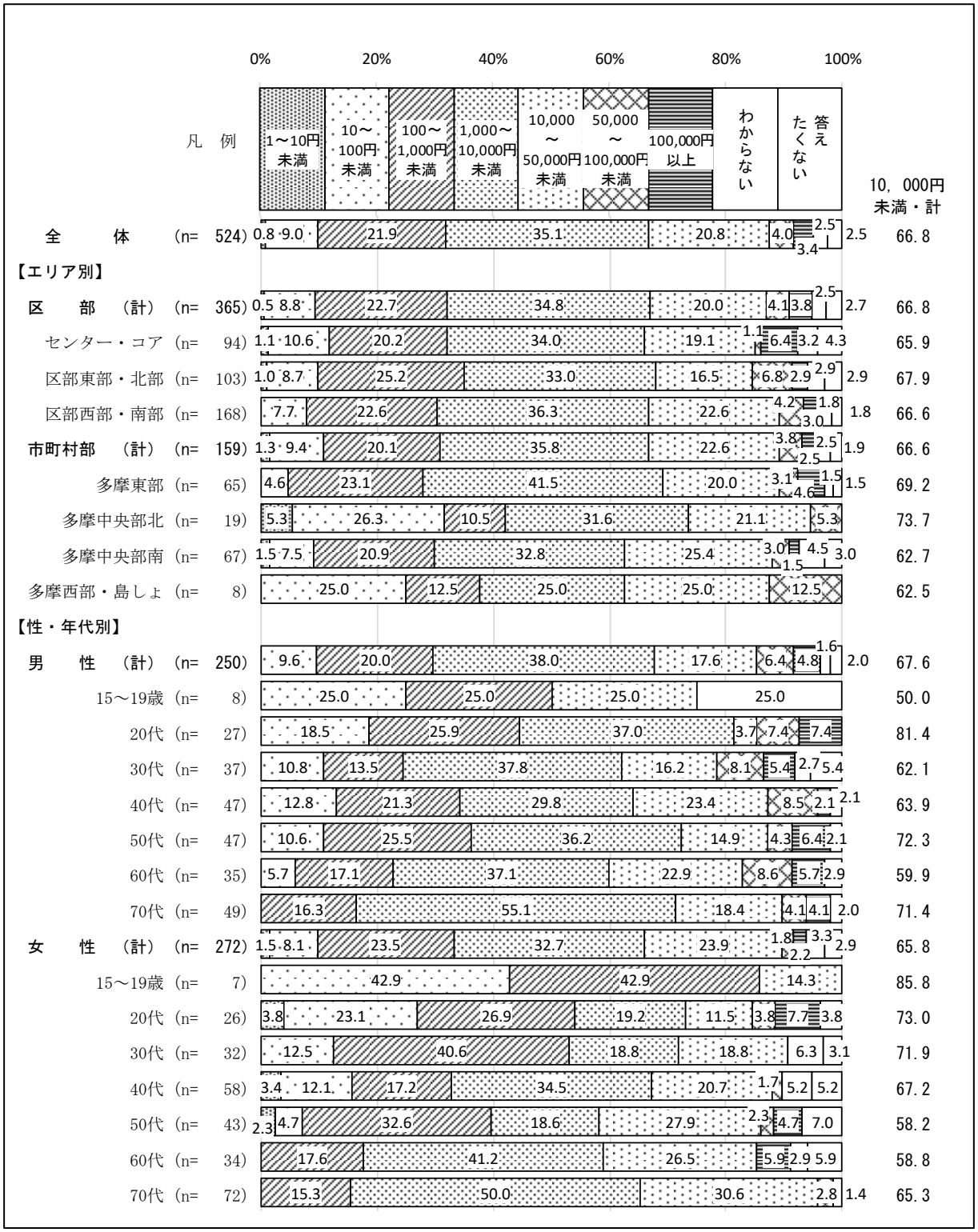
図表131. 寄附の金額【経年比較】



エリア別にみると、区部（計）と市町村部（計）で差はみられなかった。

性・年代別にみると、「1,000～10,000 円未満」では、男性（計）が 38.0％で、女性（計）の 32.7％より 5.3 ポイント高かった。「10,000～50,000 円未満」では、女性（計）が 23.9％で、男性（計）の 17.6％より 6.3 ポイント高かった。

図表132. 寄附の金額【エリア別／性・年代別】

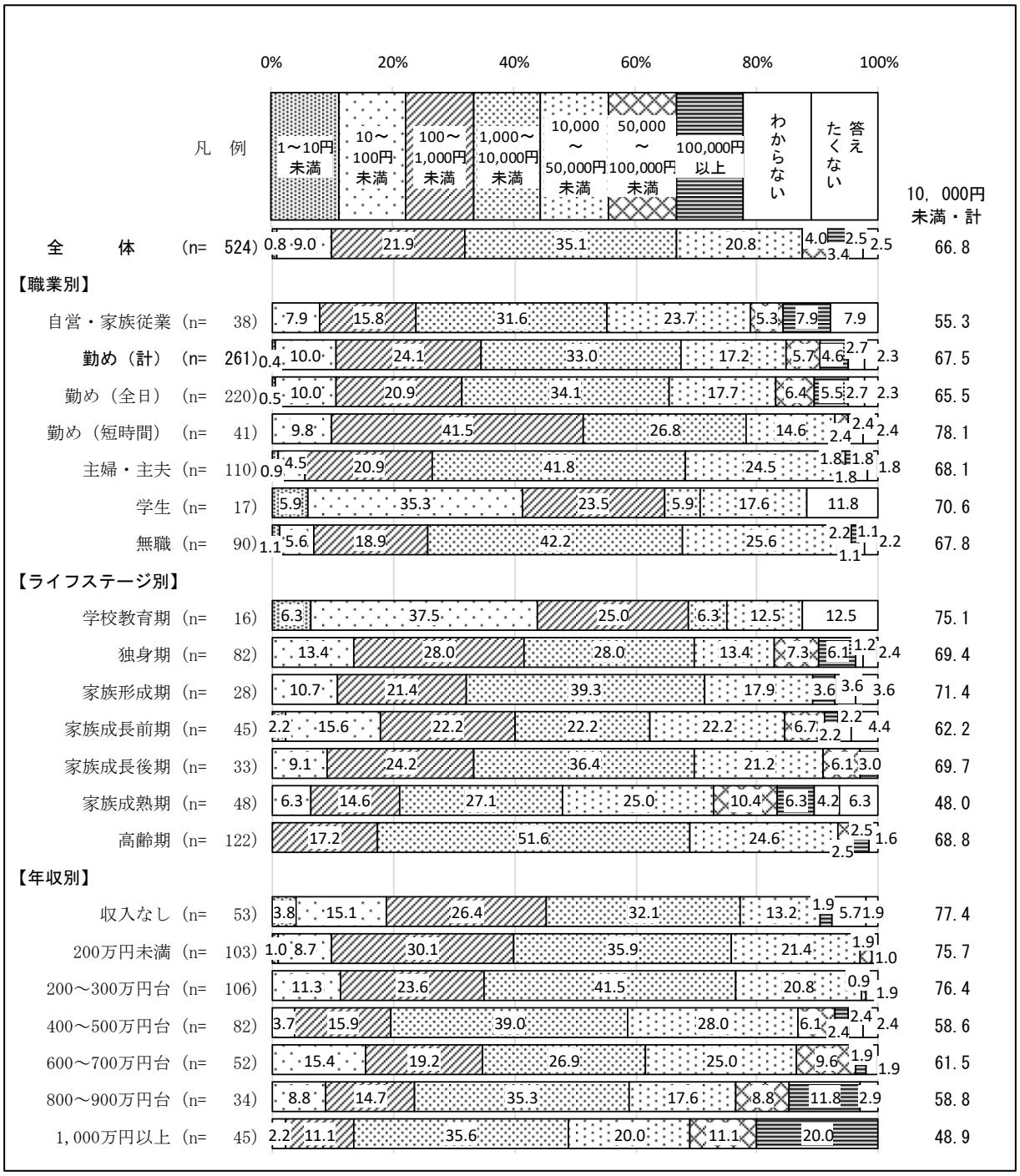


職業別にみると、「1,000～10,000 万円未満」では、主婦・主夫と無職がいずれも 40%を超えた。

ライフステージ別にみると、高齢期では、「1,000～10,000 円未満」が 51.6%で、全体の 35.1%より 16.5 ポイント高かった。

年収別にみると、年収が上がるにつれて、寄附の金額が高くなる傾向がみられた。

図表133. 寄附の金額【職業別／ライフステージ別／年収別】

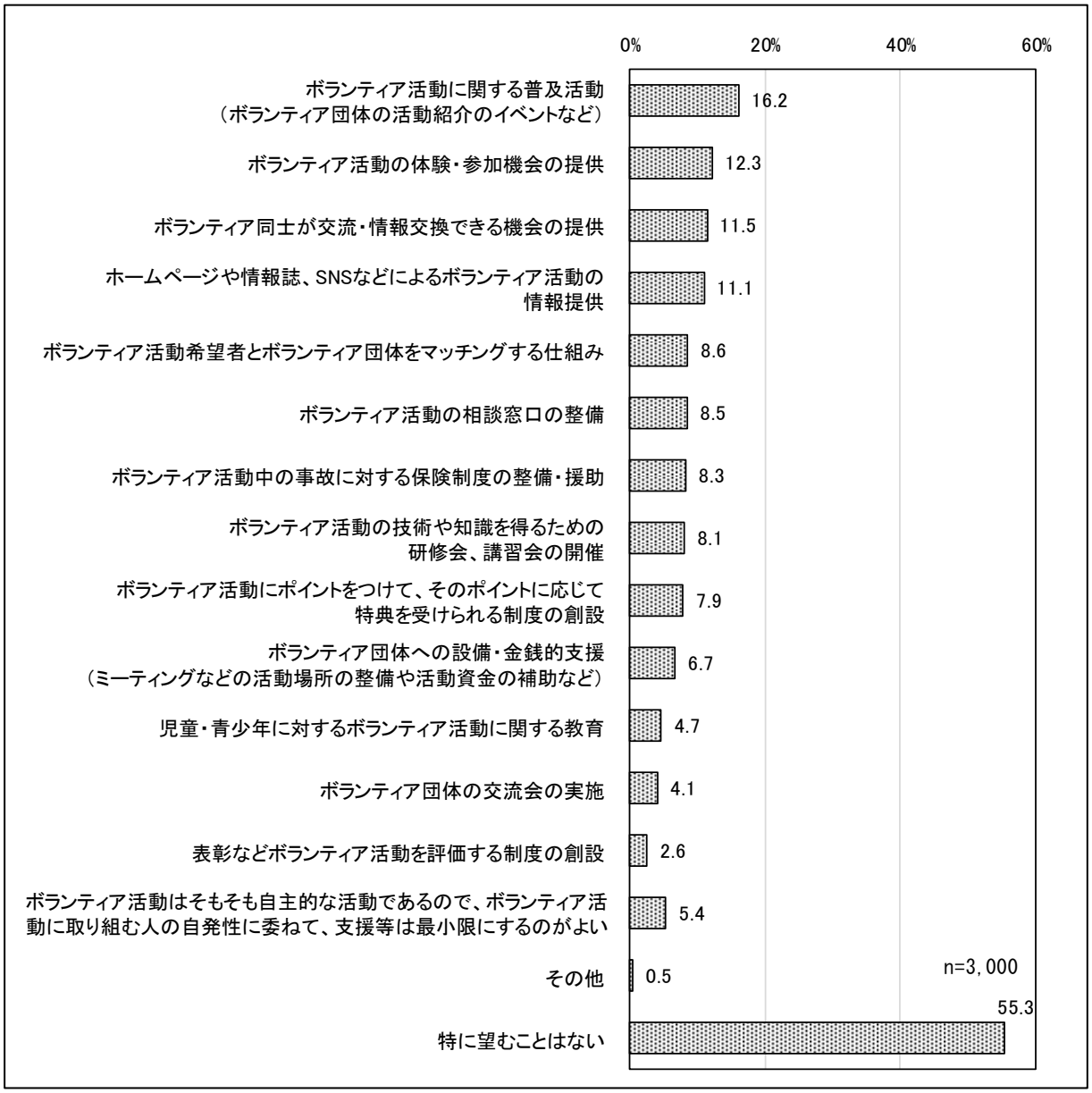


５ ボランティア活動への参加のための支援について

５－１ ボランティア活動参加に関して望む支援

Q33　あなたはボランティア活動参加に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

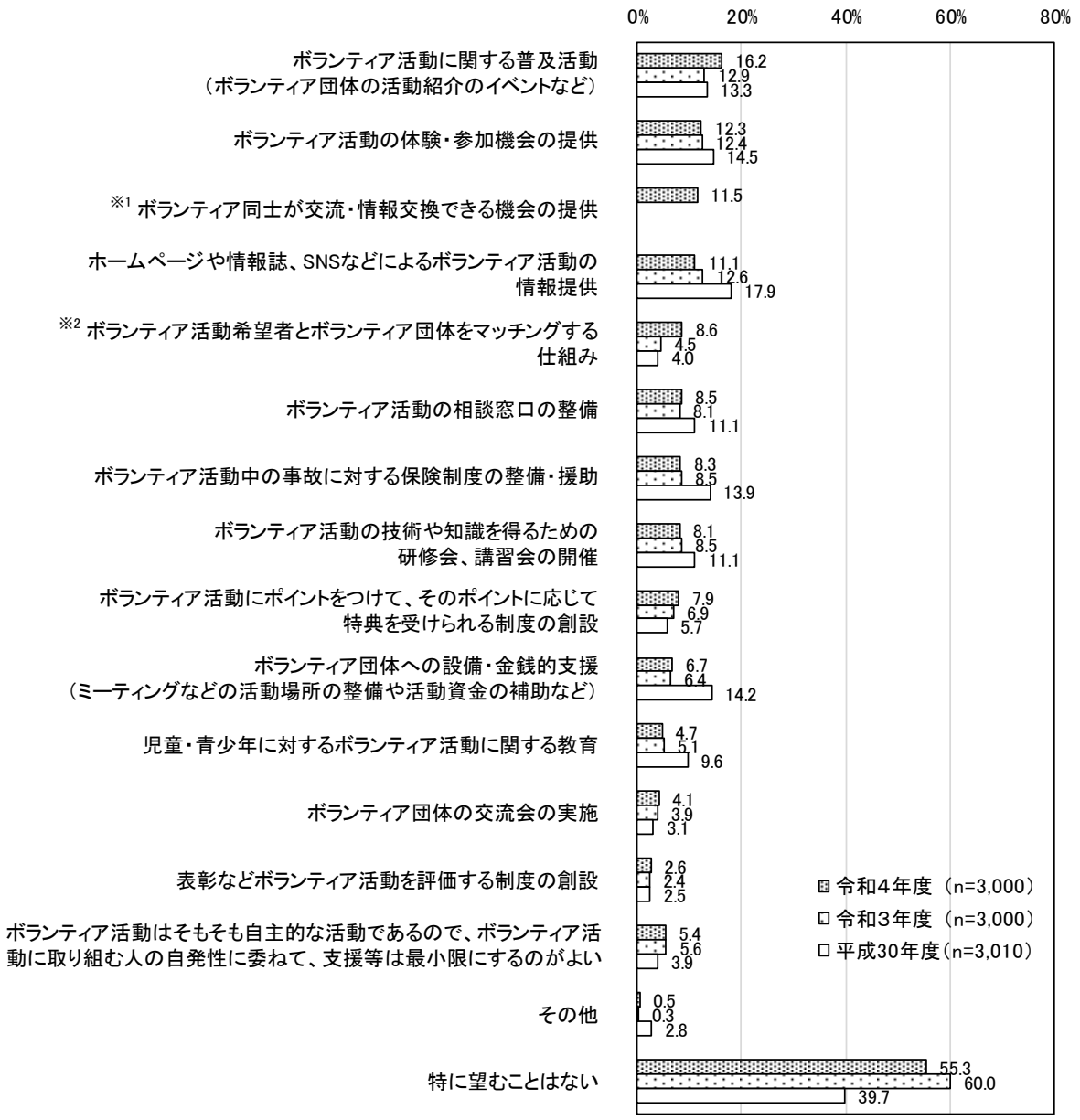
図表134. ボランティア活動参加に関して望む支援



ボランティア活動参加に関して望む支援のうち、「ボランティア活動に関する普及活動」が16.2%で最も高かった。次いで、「ボランティア活動の体験・参加機会の提供」が12.3%、「ボランティア同士が交流・情報交換できる機会の提供」が11.5%であった。また、「特に望むことはない」は55.3%であった。

令和３年度と比較すると、「ボランティア活動に関する普及活動」は 3.3 ポイントの増加、「ボランティア活動の体験・参加機会の提供」は 0.1 ポイントの減少であった。

図表135. ボランティア活動参加に関して望む支援【経年比較】



※1　令和4年度の新規選択肢

※2　令和3年度は「ボランティア活動の希望者の登録制によるボランティアを募集する団体への紹介」

性・年代別にみると、男性 15～19 歳では、「ボランティア活動に関する普及活動」が 27.1%、「ボランティア活動の体験・参加機会の提供」が 23.7%で、いずれも全体より 10 ポイント以上高かった。女性 15～19 歳では、「ボランティア活動の体験・参加機会の提供」が 23.1%、「ホームページや情報誌、SNS などによるボランティア活動の情報提供」が 23.1%で、いずれも全体より 10 ポイント以上高かった。

図表136. ボランティア活動参加に関して望む支援【エリア別／性・年代別】

	n	ボランティア活動に関する普及活動（ボランティア団体の活動紹介のイベントなど）	ボランティア活動の体験・参加機会の提供	ボランティア同士が交流・情報交換できる機会の提供	ホームページや情報誌、SNSなどによるボランティア活動の情報提供	ボランティア活動希望者とボランティア団体をマッチングする仕組み	ボランティア活動の相談窓口の整備	ボランティア活動中の事故に対する保険制度の整備・援助	ボランティア活動の技術や知識を得るための研修会、講習会の開催	ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じて特典を受けられる制度の創設	ボランティア団体への設備・金銭的支援（ミーティングなどの活動場所の整備や活動資金の補助など）	児童・青少年に対するボランティア活動に関する教育	ボランティア団体の交流会の実施	表彰などボランティア活動を評価する制度の創設	ボランティア活動はそもそも自主的な活動であるので、ボランティア活動に取り組む人の自発性に委ねて、支援等は最小限にするのがよい	その他	特に望むことはない
全体	3,000	16.2	12.3	11.5	11.1	8.6	8.5	8.3	8.1	7.9	6.7	4.7	4.1	2.6	5.4	0.5	55.3
【エリア別】																	
区部（計）	2,089	17.2	11.9	11.7	10.5	8.6	8.9	7.9	8.1	7.8	6.1	4.5	4.1	2.6	5.1	0.5	55.6
センター・コア	607	18.1	12.0	11.2	9.2	8.9	7.6	7.7	6.4	7.7	5.9	4.8	3.8	3.0	4.8	0.5	55.5
区部東部・北部	601	16.3	10.6	11.5	9.5	7.8	9.2	7.0	8.0	5.8	5.0	3.3	4.0	1.8	4.7	0.2	58.7
区部西部・南部	881	17.3	12.6	12.1	12.1	8.9	9.5	8.7	9.4	9.1	7.0	5.1	4.4	2.8	5.6	0.7	53.6
市町村部（計）	911	13.8	13.4	11.2	12.4	8.8	7.8	9.1	8.0	8.1	8.0	5.0	4.1	2.5	6.3	0.7	54.6
多摩東部	366	14.2	14.5	10.9	12.8	9.8	6.8	8.7	6.3	7.7	7.9	4.6	4.4	3.0	6.0	1.1	53.0
多摩中央部北	109	11.0	12.8	11.9	14.7	5.5	9.2	12.8	10.1	7.3	8.3	4.6	3.7	1.8	5.5	0.9	64.2
多摩中央部南	388	13.4	12.9	10.8	11.3	8.8	8.2	8.2	9.0	9.0	8.0	5.7	4.4	2.3	6.2	0.3	53.9
多摩西部・島しょ	48	20.8	10.4	14.6	12.5	8.3	8.3	10.4	8.3	6.3	8.3	4.2	－	2.1	10.4	－	50.0
【性・年代別】																	
男性（計）	1,529	17.3	11.5	13.0	11.0	7.8	9.6	8.0	8.2	6.9	7.5	4.4	5.0	3.4	5.8	0.5	56.0
15～19歳	59	27.1	23.7	16.9	13.6	10.2	11.9	13.6	11.9	8.5	11.9	5.1	6.8	5.1	8.5	－	37.3
20代	218	20.6	10.6	15.6	13.8	10.1	10.1	7.8	7.8	13.3	9.2	6.0	5.0	7.8	6.0	0.5	53.7
30代	261	15.7	11.9	10.7	13.8	7.7	5.0	4.6	7.3	6.5	5.4	2.3	5.4	2.7	3.8	0.8	60.9
40代	307	16.3	7.5	12.1	12.1	8.8	9.4	5.2	7.8	7.8	6.8	6.5	4.6	3.9	6.2	0.7	60.9
50代	283	16.3	11.0	12.7	5.7	5.7	8.8	7.1	5.7	4.6	7.4	2.8	3.9	2.1	2.8	0.7	58.3
60代	205	10.2	10.2	11.7	9.3	7.3	11.2	11.7	7.8	4.4	7.8	4.4	5.4	2.4	6.3	－	56.6
70代	196	23.0	16.8	15.3	11.2	7.1	14.3	13.3	13.8	4.1	7.7	4.6	5.6	1.0	10.2	－	45.9
女性（計）	1,454	15.1	13.3	10.0	11.0	9.4	7.4	8.5	8.0	8.9	5.9	5.0	3.2	1.7	5.1	0.6	54.7
15～19歳	65	21.5	23.1	16.9	23.1	7.7	3.1	6.2	10.8	15.4	10.8	15.4	3.1	7.7	7.7	－	40.0
20代	198	17.2	15.2	10.6	15.2	8.6	10.1	8.1	6.1	13.6	9.6	7.1	3.0	5.1	4.0	0.5	54.0
30代	250	8.0	9.2	8.4	8.0	7.6	4.0	4.8	6.0	8.0	0.8	3.2	2.4	0.8	3.2	0.4	64.8
40代	282	14.2	10.3	9.9	10.3	9.2	7.8	8.5	8.2	9.2	5.0	4.3	2.8	0.4	6.4	0.7	57.1
50代	262	16.0	15.6	9.5	11.8	11.1	9.5	11.8	8.8	10.7	6.1	5.0	3.8	1.9	4.2	1.1	55.0
60代	190	12.6	11.6	8.9	6.3	11.1	8.9	8.9	7.9	3.2	5.3	3.7	3.2	0.5	5.8	－	51.1
70代	207	21.7	16.4	11.1	11.1	9.7	5.8	9.7	10.6	5.8	8.7	3.9	4.3	0.5	6.3	0.5	47.3

（人）　（%）

職業別にみると、学生では、「ボランティア活動に関する普及活動」が 24.6%、「ボランティア活動の体験・参加機会の提供」が 20.6%で、いずれも他の職業に比べ高かった。

ライフステージ別にみると、学校教育期では、「ボランティア活動に関する普及活動」が 24.7%で、全体の 16.2%より 8.5 ポイント高かった。

年収別にみると、800～900 万円台では、「ボランティア活動に関する普及活動」が 22.2%で、全体より 6.0 ポイント高かった。

図表137. ボランティア活動参加に関して望む支援【職業別／ライフステージ別／年収別】

	n	ボランティア活動に関する普及活動（ボランティア団体の活動紹介のイベントなど）	ボランティア活動の体験・参加機会の提供	ボランティア同士が交流・情報交換できる機会の提供	ホームページや情報誌、SNSなどによるボランティア活動の情報提供	ボランティア活動希望者とボランティア団体をマッチングする仕組み	ボランティア活動の相談窓口の整備	ボランティア活動中の事故に対する保険制度の整備・援助	ボランティア活動の技術や知識を得るための研修会、講習会の開催	ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じて特典を受けられる制度の創設	ボランティア団体への設備・金銭的支援（ミーティングなどの活動場所の整備や活動資金の補助など）	児童・青少年に対するボランティア活動に関する教育	ボランティア団体の交流会の実施	表彰などボランティア活動を評価する制度の創設	ボランティア活動はそもそも自主的な活動であるので、ボランティア活動に取り組む人の自発性に委ねて、支援等は最小限にするのがよい	その他	特に望むことはない
全体	3,000	16.2	12.3	11.5	11.1	8.6	8.5	8.3	8.1	7.9	6.7	4.7	4.1	2.6	5.4	0.5	55.3
【職業別】																	
自営・家族従業	266	19.2	12.8	12.0	10.9	8.6	9.0	8.3	7.5	4.1	10.9	2.3	4.5	1.9	7.1	0.4	52.3
勤め（計）	1,556	17.0	11.9	12.3	11.1	8.9	8.7	6.9	7.4	8.3	5.8	4.9	4.6	2.7	4.7	0.4	56.5
勤め（全日）	1,305	16.4	11.6	12.0	11.0	8.7	8.4	6.4	7.2	8.0	5.6	4.7	4.5	2.8	4.6	0.5	57.0
勤め（短時間）	251	20.3	13.1	13.5	11.2	10.0	10.4	9.2	8.4	9.6	7.2	6.4	4.8	2.4	5.2	0.4	53.8
主婦・主夫	474	14.8	13.9	9.5	10.5	9.1	8.2	11.2	9.1	7.0	5.9	4.4	3.2	1.5	5.3	0.8	52.3
学生	175	24.6	20.6	17.7	18.9	9.7	8.6	9.7	10.3	14.3	11.4	8.6	5.1	6.9	8.0	－	42.9
無職	474	11.0	9.3	9.1	9.1	7.0	8.0	9.7	9.5	7.0	6.5	4.2	3.2	1.9	6.1	0.8	60.1
【ライフステージ別】																	
学校教育期	170	24.7	19.4	18.2	18.2	9.4	8.2	9.4	10.0	14.7	11.2	8.8	5.3	7.1	8.2	－	42.9
独身期	609	14.6	12.2	11.0	12.8	8.5	7.2	6.4	6.6	9.4	5.9	4.6	4.1	4.1	4.4	0.8	60.1
家族形成期	222	11.7	8.1	11.3	12.2	6.8	6.3	6.8	6.3	10.4	5.9	3.6	3.2	3.2	4.1	0.5	55.0
家族成長前期	206	19.9	13.1	10.7	11.7	9.2	9.2	4.4	7.8	8.3	4.9	8.3	3.9	2.9	4.4	0.5	51.9
家族成長後期	173	18.5	9.8	15.6	6.4	10.4	8.7	9.8	10.4	5.8	6.9	4.6	2.9	1.7	2.9	1.2	56.6
家族成熟期	315	14.6	10.8	10.2	9.5	6.0	7.9	8.6	6.7	5.1	4.8	4.1	3.2	2.2	4.4	0.3	56.8
高齢期	439	20.0	17.3	13.4	11.6	9.3	10.3	13.7	11.6	3.9	8.2	4.6	5.0	0.9	7.3	－	46.9
【年収別】																	
収入なし	356	11.5	13.8	8.1	11.5	7.0	7.6	10.4	9.3	9.8	5.3	6.2	1.1	3.4	4.8	0.6	57.9
200万円未満	653	17.0	11.9	11.0	11.5	8.4	8.4	9.2	7.8	7.5	7.5	4.3	4.0	1.8	5.8	0.9	53.9
200～300万円台	575	16.0	15.5	12.7	10.4	9.6	10.6	8.3	9.6	9.7	7.5	6.1	5.2	2.3	5.6	0.3	52.7
400～500万円台	511	18.0	13.1	13.1	12.1	10.4	7.0	8.6	8.2	8.2	7.6	4.7	4.1	2.7	5.9	0.2	54.2
600～700万円台	268	18.3	10.8	13.4	10.4	8.6	7.8	6.7	7.5	7.1	6.0	2.2	5.2	1.9	4.9	0.4	56.0
800～900万円台	153	22.2	7.8	11.8	13.1	8.5	9.2	8.5	7.2	5.2	7.2	3.9	3.9	3.3	6.5	1.3	50.3
1,000万円以上	148	18.2	8.8	14.2	10.8	6.8	14.9	5.4	10.1	4.7	8.1	4.1	6.1	5.4	7.4	0.7	48.0

（人）　（%）

団体調査

I. 企業向け調査

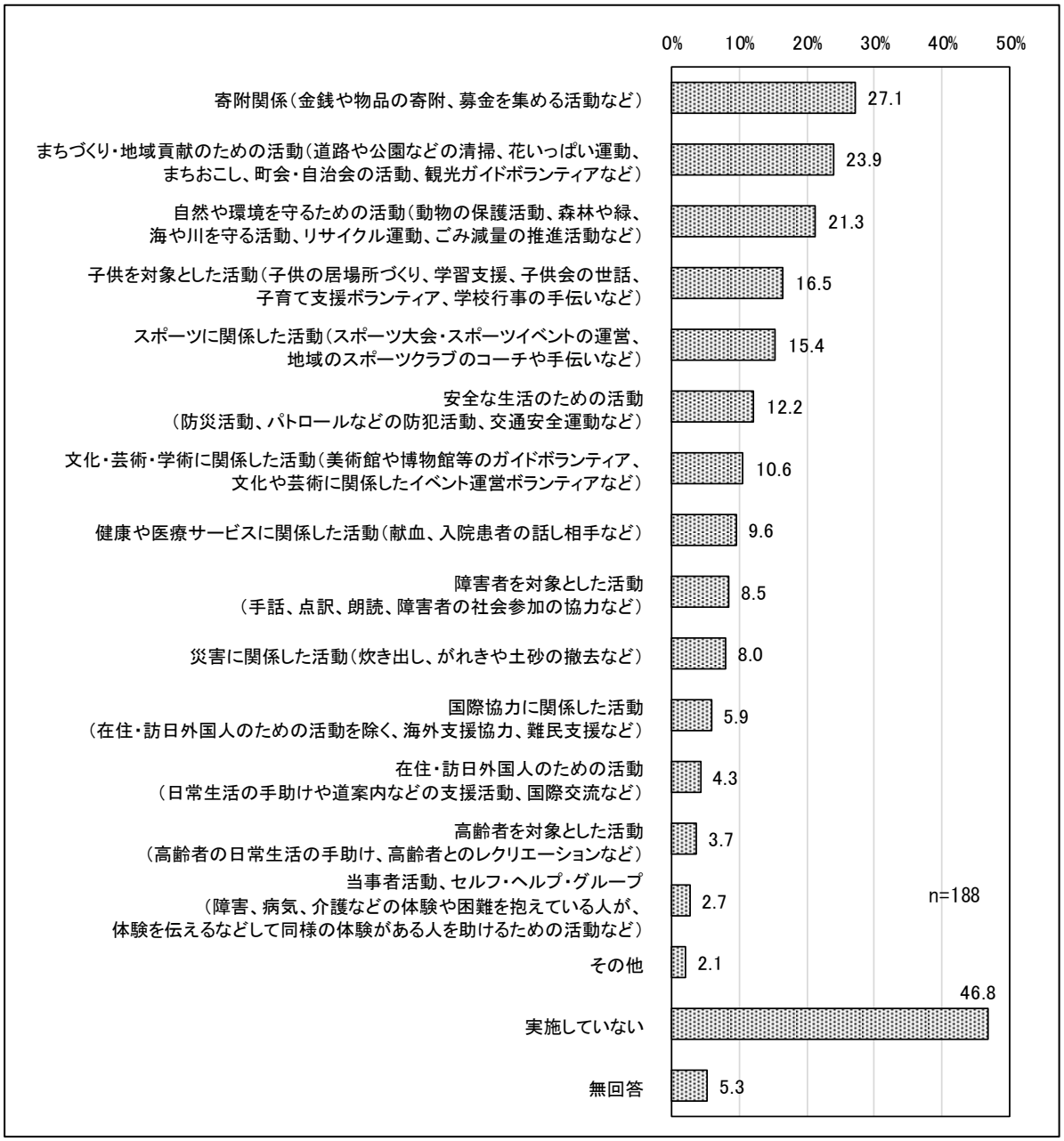
１ ボランティア活動について

１－１ 実施しているボランティア活動

Q1　貴社が社会貢献活動として実施しているボランティア活動等※で、当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

図表Ｉ-1. 実施しているボランティア活動

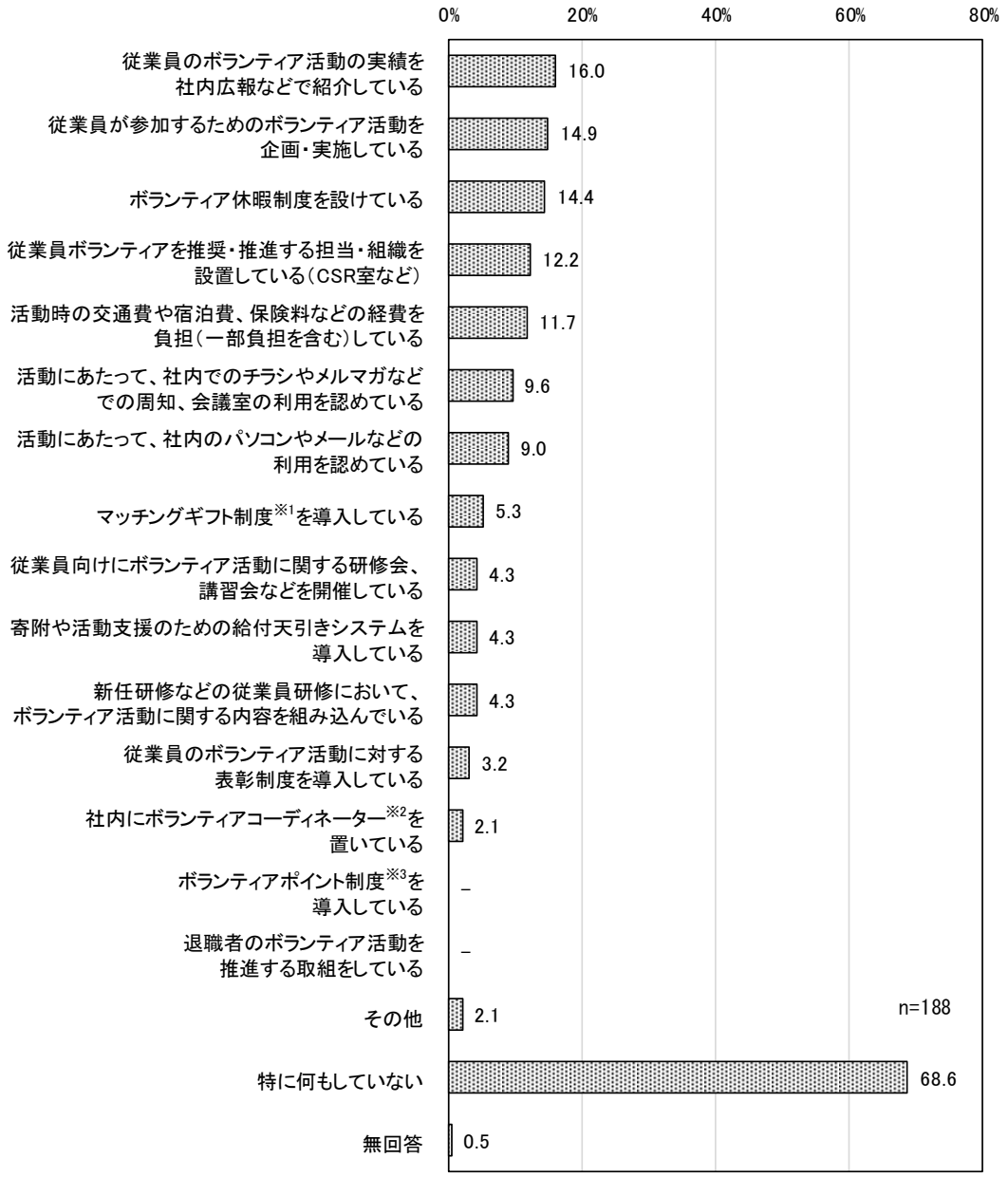


実施しているボランティア活動のうち、「寄附関係」が 27.1％で最も高かった。次いで、「まちづくり・地域貢献のための活動」が 23.9％、「自然や環境を守るための活動」が 21.3％であった。また、「実施していない」は 46.8％であった。

１－２ ボランティア活動の推奨・推進のために行っているもの

Q2　従業員（常勤に限る）のボランティア活動を推奨・推進するために行っているもので、当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅰ-2. ボランティア活動の推奨・推進のために行っているもの



※1 マッチングギフト制度：従業員による寄附などに、集まった金額の一定比率を上乗せして寄附する制度

※2 ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側とを調整する人材

※3 ボランティアポイント制度：ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じた特典を受けられる制度

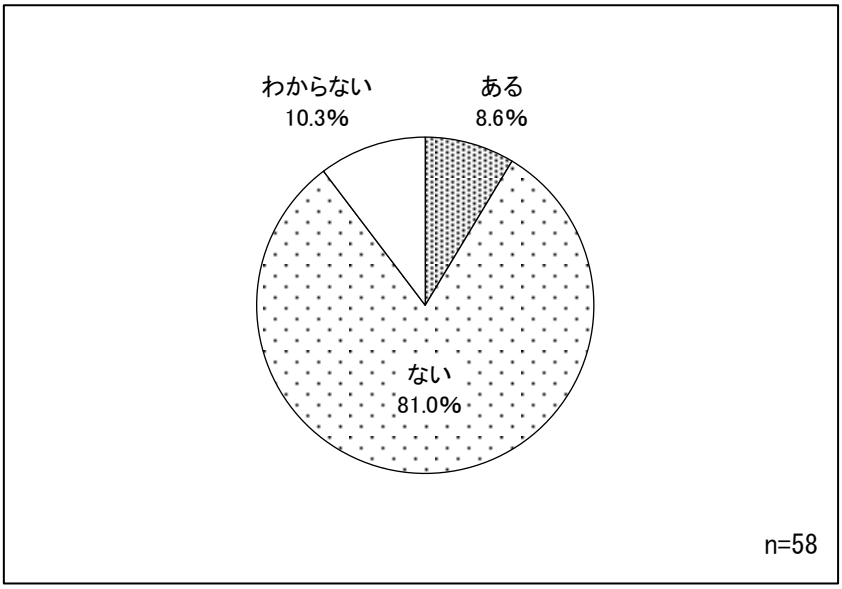
従業員のボランティア活動の推奨・推進のために行っているもののうち、「従業員のボランティア活動の実績を社内広報などで紹介している」が 16.0％で最も高かった。次いで、「従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している」が 14.9％、「ボランティア休暇制度を設けている」が 14.4％であった。また、「特に何もしていない」は 68.6％であった。

１－３ 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果

（Q2 で 1～16 と答えた方）

Q3　選択した取組のうち、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。（単一回答）

図表Ⅰ-3. 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果



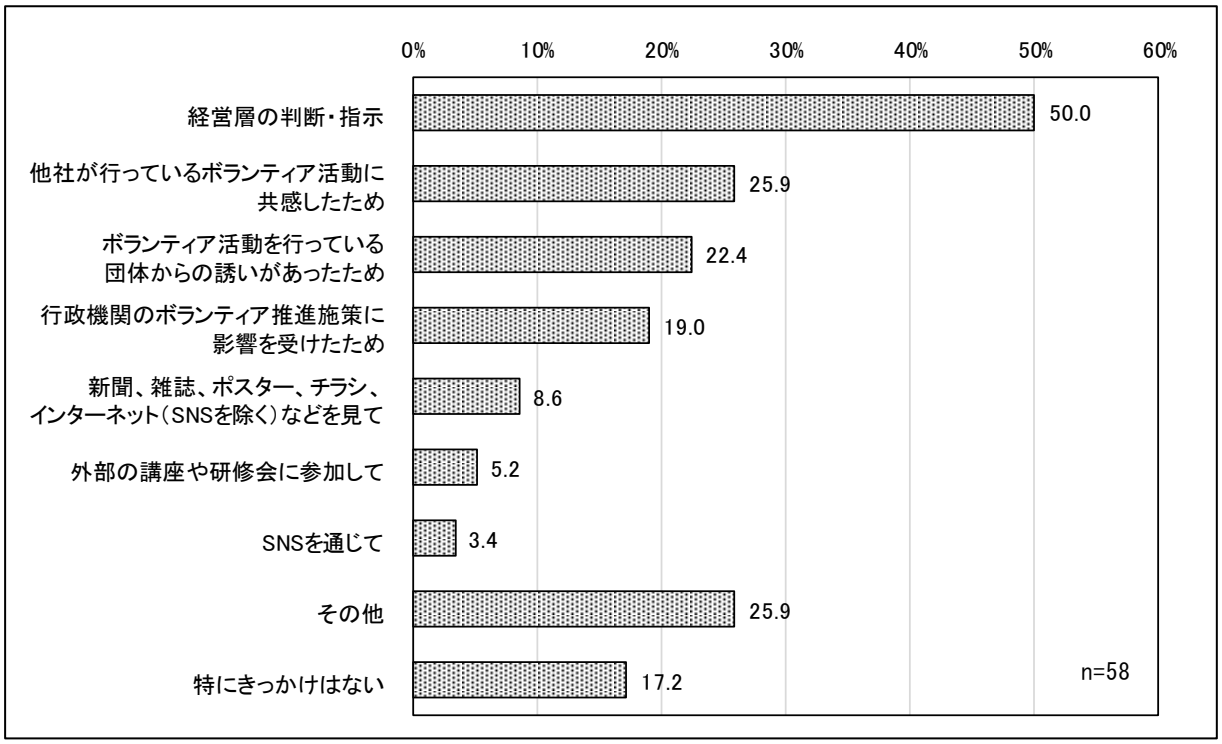
東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、新たに開始もしくは充実したものは、「ある」が 8.6%、「ない」が 81.0%であった。

１－４ ボランティア活動の推奨・推進の取組を始めたきっかけ

（Q2 で 1～16 と答えた方）

Q4　従業員のボランティア活動を推奨・推進する取組を始めたきっかけについて、当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅰ-4. ボランティア活動の推奨・推進の取組を始めたきっかけ



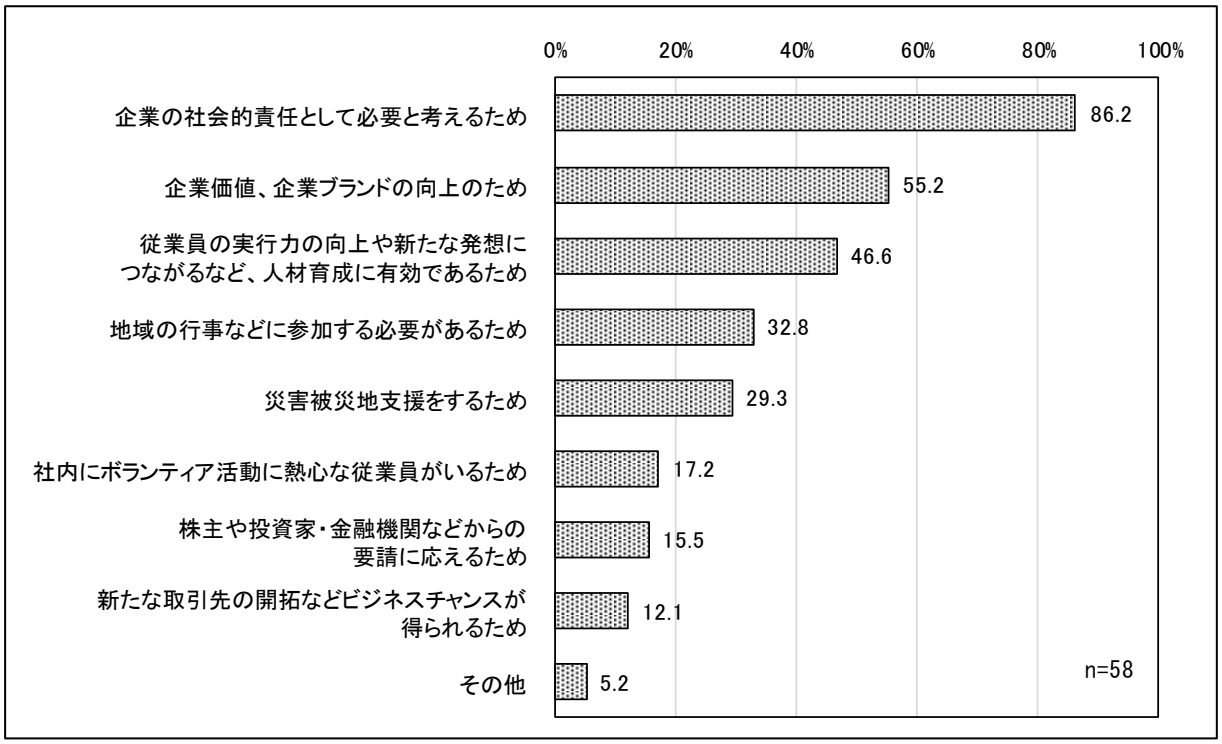
ボランティア活動の推奨・推進の取組を始めたきっかけは、「経営層の判断・指示」が 50.0%で最も高かった。次いで、「他社が行っているボランティア活動に共感したため」が 25.9%、「ボランティア活動を行っている団体からの誘いがあったため」が 22.4%であった。

１－５ ボランティア活動の推奨・推進に取り組む理由

（Q2 で 1～16 と答えた方）

Q5　従業員のボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいる理由について、当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅰ-5. ボランティア活動の推奨・推進に取り組む理由



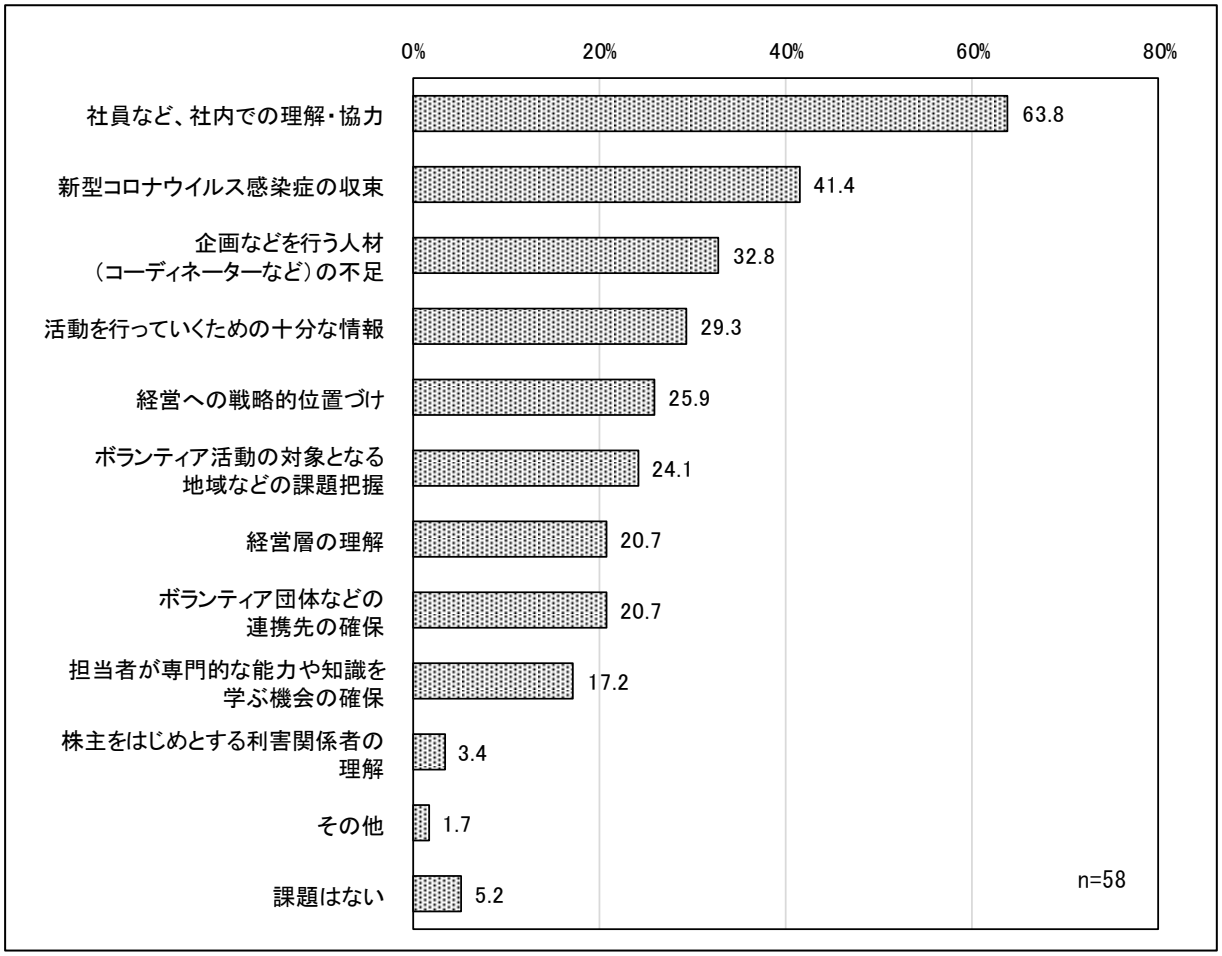
ボランティア活動の推奨・推進に取り組む理由は、「企業の社会的責任として必要と考えるため」が 86.2%で最も高かった。次いで、「企業価値、企業ブランドの向上のため」が 55.2%、「従業員の実行力の向上や新たな発想につながるなど、人材育成に有効であるため」が 46.6%であった。

１－６ ボランティア活動を進める上での課題

（Q2 で 1～16 と答えた方）

Q6　今後、従業員のボランティア活動を進めていくにあたり、課題と考えていることはありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅰ-6. ボランティア活動を進める上での課題



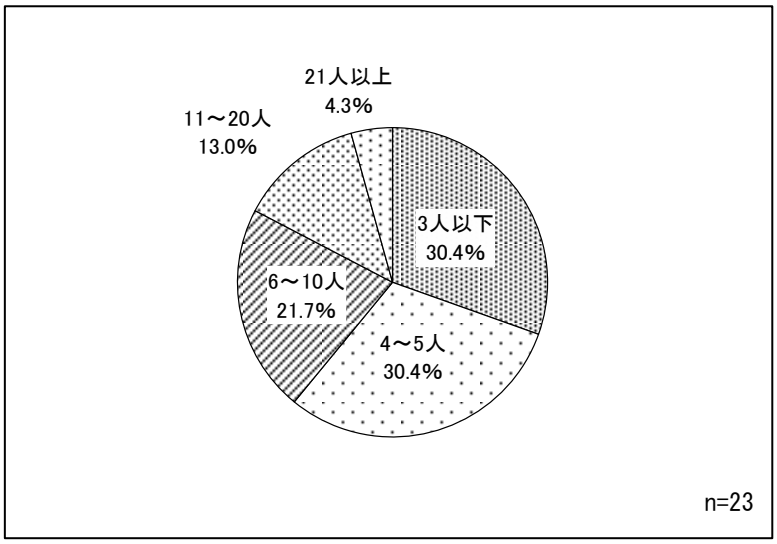
ボランティア活動を進める上での課題は、「社員など、社内での理解・協力」が 63.8%で最も高かった。次いで、「新型コロナウイルス感染症の収束」が 41.4%、「企画などを行う人材の不足」が 32.8%であった。

１－７ ボランティア活動を推奨・推進する組織の構成人数、経営層の関与

（Q2 で「1.従業員ボランティアを推奨・推進する担当・組織を設置している（CSR 室など）」と答えた方）

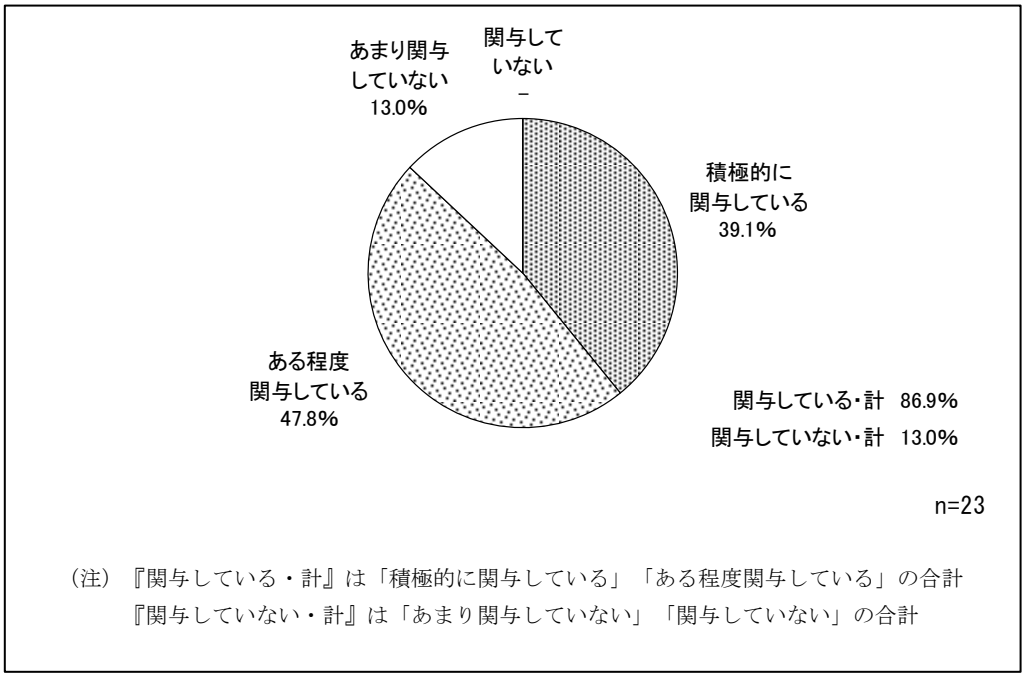
Q7　従業員のボランティア活動を推奨･推進する組織の構成人数と､当該組織などへの経営層（担当役員など）の関与についてお答えください。（各単一回答）

図表Ｉ-7. ボランティア活動を推奨・推進する組織の構成人数



ボランティア活動を推奨・推進する組織の構成人数は、「3 人以下」と「4～5 人」がいずれも 30.4%、「6～10 人」が 21.7%、「11～20 人」が 13.0%、「21 人以上」が 4.3%であった。

図表Ｉ-8. ボランティア活動を推奨・推進する組織への経営層の関与



ボランティア活動を推奨・推進する組織への経営層の関与は、「積極的に関与している」が 39.1%、「ある程度関与している」が 47.8%、「あまり関与していない」が 13.0%であった。

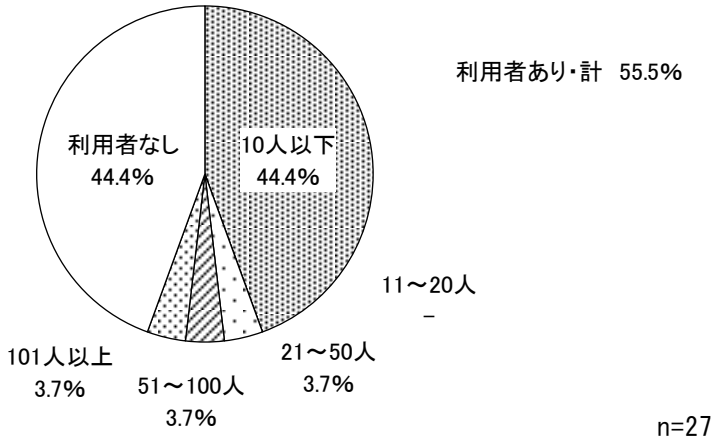
１－８ ボランティア休暇制度を利用した従業員数

（Q2 で「2.ボランティア休暇制度を設けている」と答えた方）

Q8　ボランティア休暇制度を直近の 1 年間で利用したことがある従業員は何人ですか。（単一回答）

注：直近で取りまとめた 1 年間の休暇利用状況であれば、期間はいつでも結構です。

図表Ⅰ-9. ボランティア休暇制度を利用した従業員数



（注）『利用者あり・計』は「10人以下」「21～50人」「51～100人」「101人以上」の合計

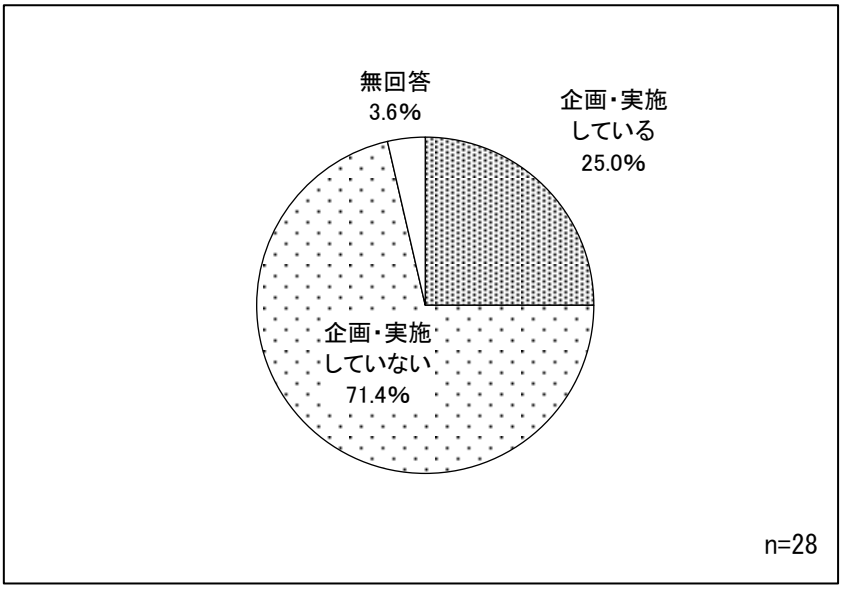
直近 1 年間でボランティア休暇制度を利用した従業員数は、「10 人以下」が 44.4%、「21～50 人」と「51～100 人」と「101 人以上」がいずれも 3.7%、「利用者なし」が 44.4%であった。

１－９ プロボノの企画・実施の有無と実施している専門性

（Q2 で「5.従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している」と答えた方）

Q9　従業員の専門性（職業を通じて培った技能や知識、経験など）を活かしたボランティア活動（プロボノ）を企画・実施していますか。（単一回答）

図表Ⅰ-10. プロボノの企画・実施の有無



プロボノの企画・実施の有無は、「企画・実施している」が 25.0%、「企画・実施していない」が 71.4%であった。実施している団体の具体的な専門性は以下のとおり。

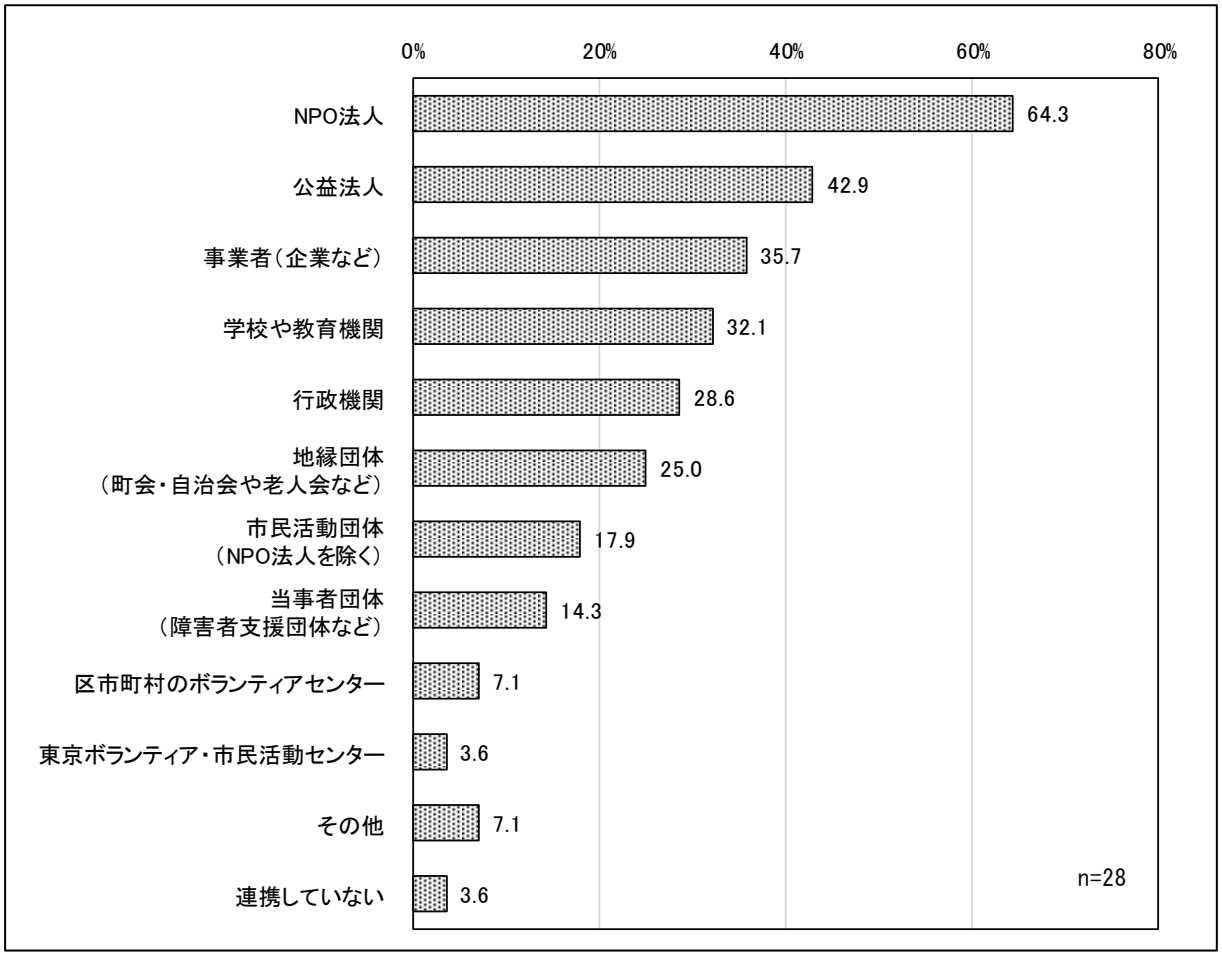
記述内容
組織運営、課題解決など
ICTスキル・ネットリテラシー
子供達へ税について教えている。
・当社に多く在籍している理美容師のスキル ・事業と一体となり推進しているCSR経営の考え方（外部講義の実施等。）
近隣の小学生の事業所訪問受け入れ
健康・栄養に関する知識

１－１０ 連携団体

（Q2 で「5.従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している」と答えた方）

Q10　ボランティア活動の企画・実施にあたって、連携して行っている団体があれば、当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅰ-11. 連携団体



ボランティア活動の企画・実施にあたって連携している団体は、「NPO 法人」が 64.3%で最も高かった。次いで、「公益法人」が 42.9%、「事業者（企業など）」が 35.7%であった。

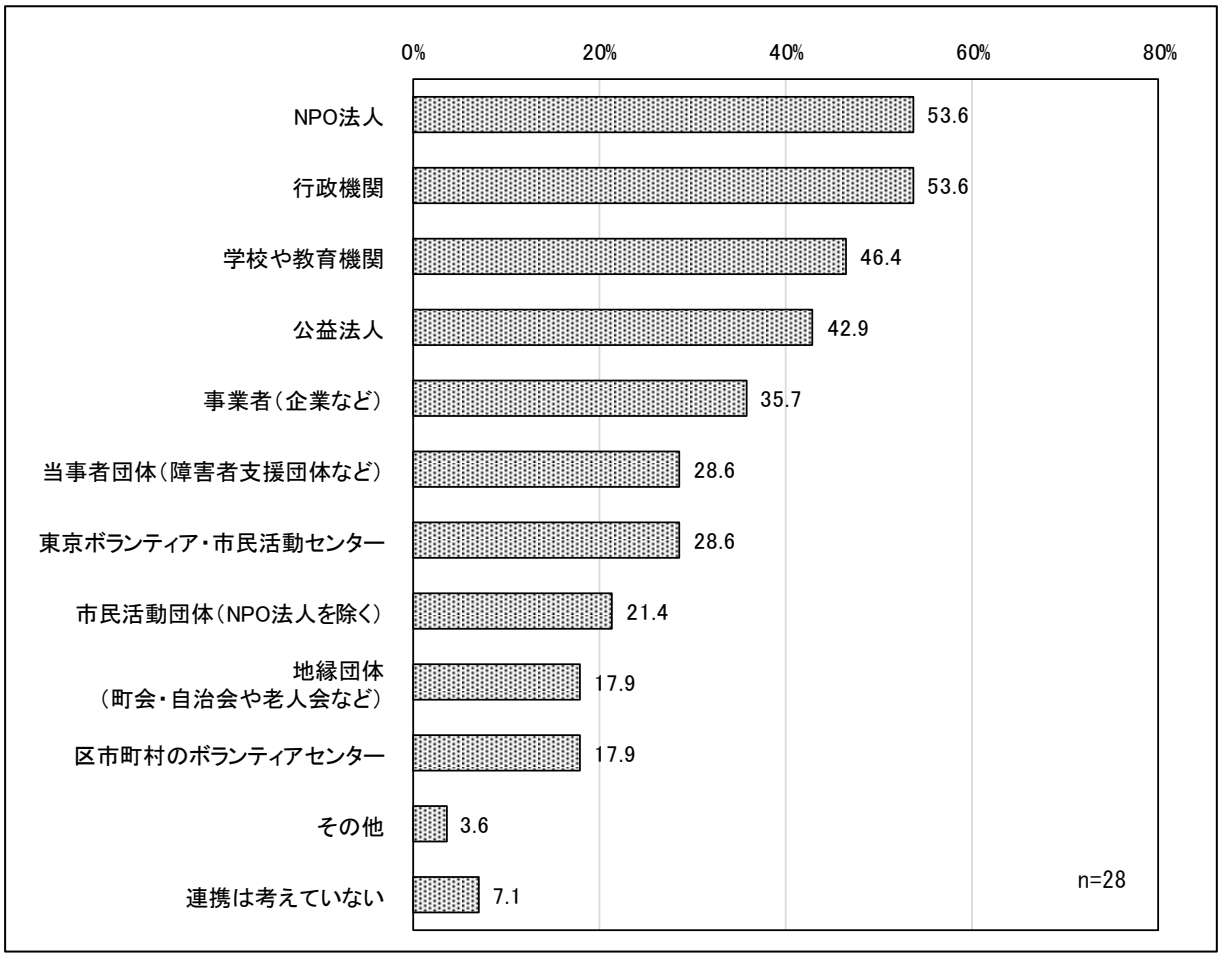
１－１１ 今後連携したい団体

（Q2 で「5.従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している」と答えた方）

Q11　ボランティア活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体があれば、当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

注：現在、既に連携していて、今後も引き続き連携したい場合も含めてお答えください。

図表Ⅰ-12. 今後連携したい団体



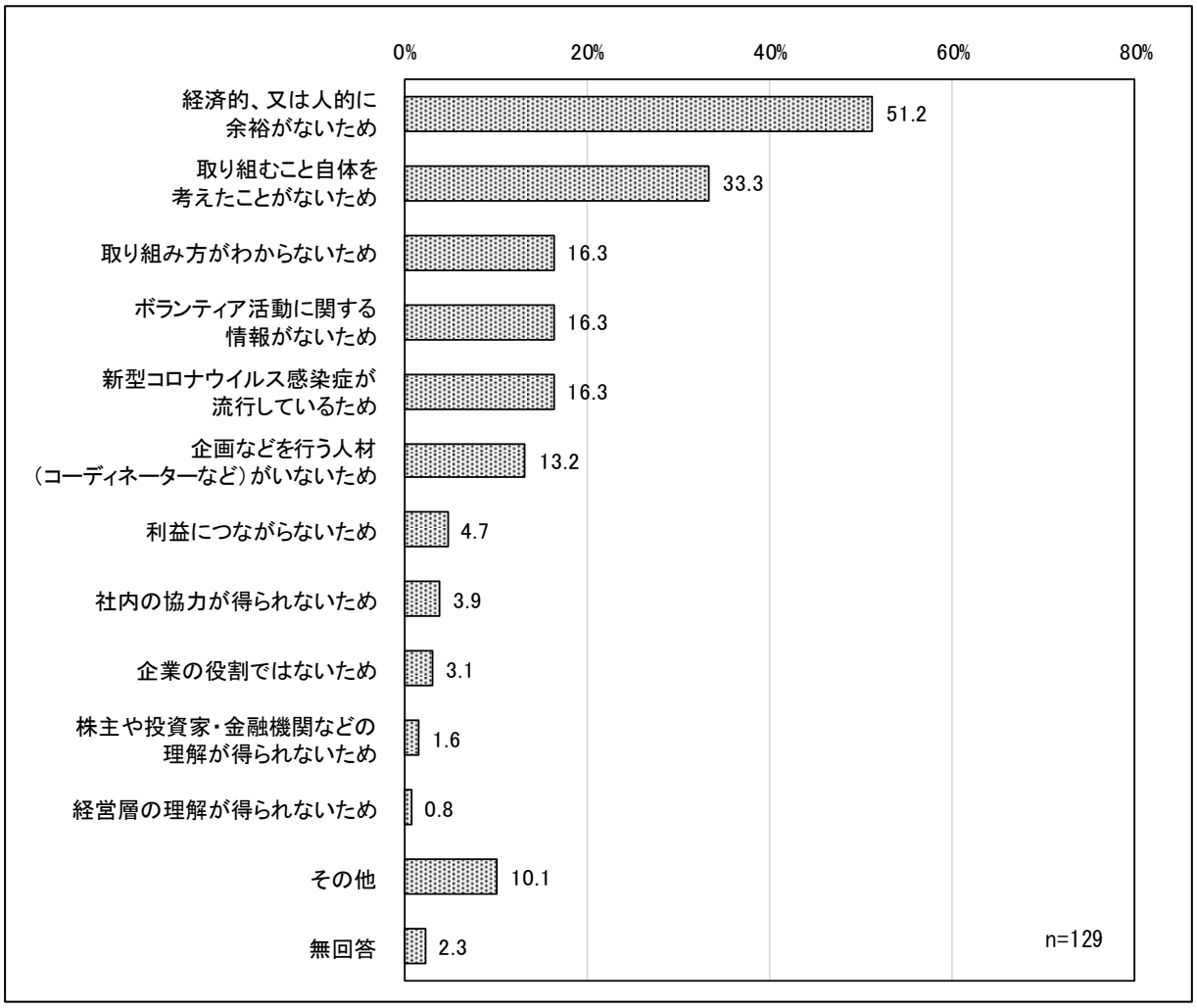
ボランティア活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体は、「NPO 法人」と「行政機関」がいずれも 53.6%、「学校や教育機関」が 46.4%であった。

１－１２ ボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいない理由

（Q2 で「17.特に何もしていない」と答えた方）

Q12　従業員のボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいない理由について、当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅰ-13. ボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいない理由



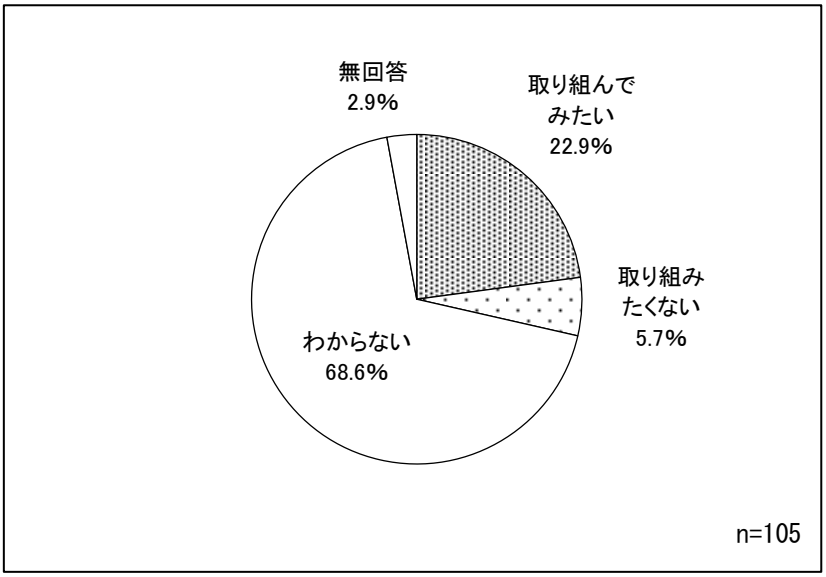
ボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいない理由は、「経済的、又は人的に余裕がないため」が 51.2%で最も高かった。次いで、「取り組むこと自体を考えたことがないため」が 33.3%であった。

１－１３ 取り組んでいない理由が解決されたときの取組意向

（Q12 で 3～12 と答えた方）

Q13　Q12 で回答した理由が解決されれば、従業員のボランティア活動の推奨・推進に取り組んでみたいと思いますか。（単一回答）

図表Ⅰ-14. 取り組まない理由が解決されたときの取組意向

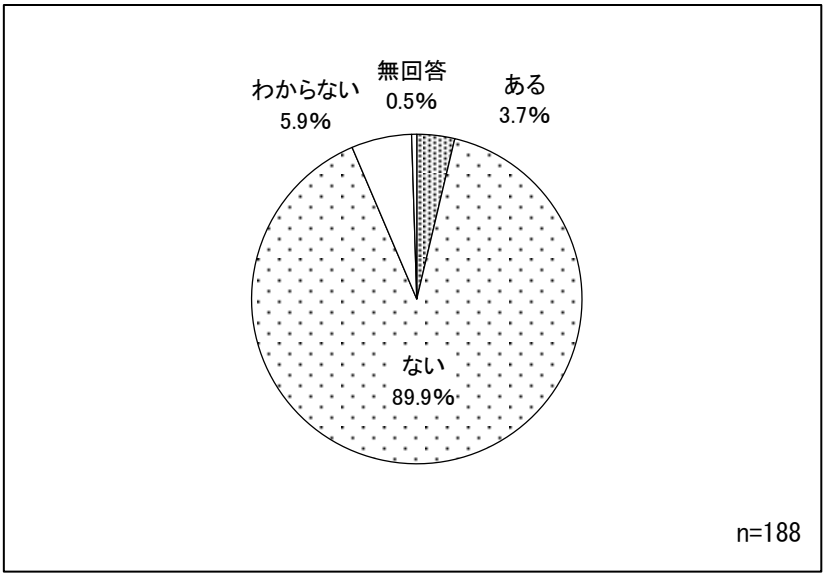


取り組んでいない理由が解決されたときの取組意向は、「取り組んでみたい」が 22.9%、「取り組みたくない」が 5.7%、「わからない」が 68.6%であった。

１－１４ 従業員によるボランティア活動組織の有無

Q14　貴社には、従業員によって設立・運営されているボランティア活動を行うための組織（サークルなど）がありますか。（単一回答）

図表Ⅰ-15. 従業員によるボランティア活動組織の有無



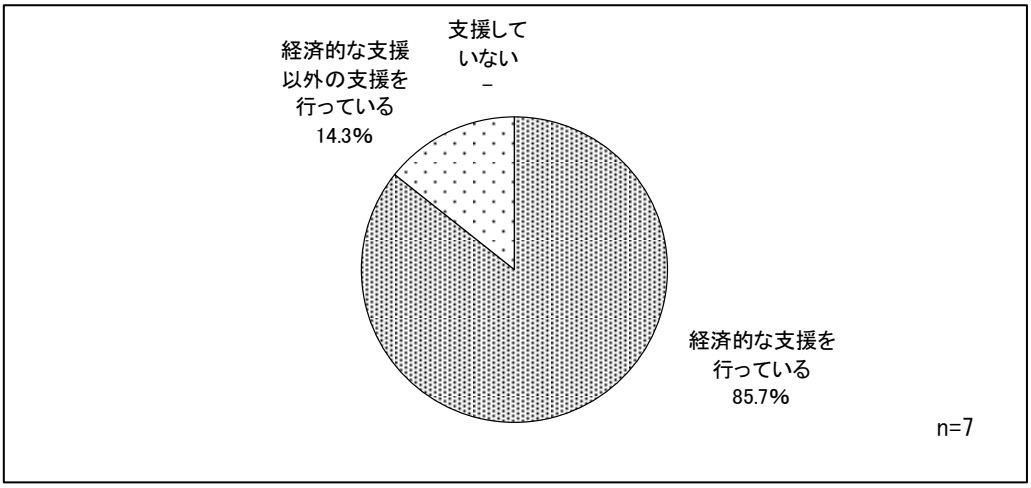
従業員によるボランティア活動組織の有無は、「ある」が 3.7%、「ない」が 89.9%であった。

１－１５ 従業員によるボランティア活動組織への支援

（Q14 で 1 と答えた方）

Q15　貴社は、従業員によって設立・運営されているボランティア活動を行うための組織（サークルなど）の活動を支援していますか。（単一回答）

図表Ⅰ-16. 従業員によるボランティア活動組織への支援

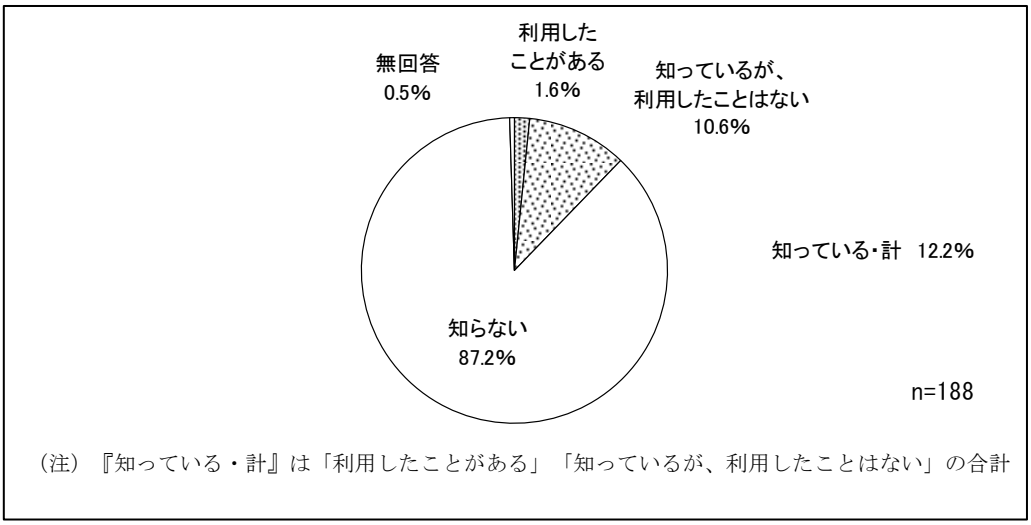


従業員によるボランティア活動組織への支援は、「経済的な支援を行っている」が 85.7%、「経済的な支援以外の支援を行っている」が 14.3%であった。

１－１６ 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験

Q16　東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）

図表Ⅰ-17. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験

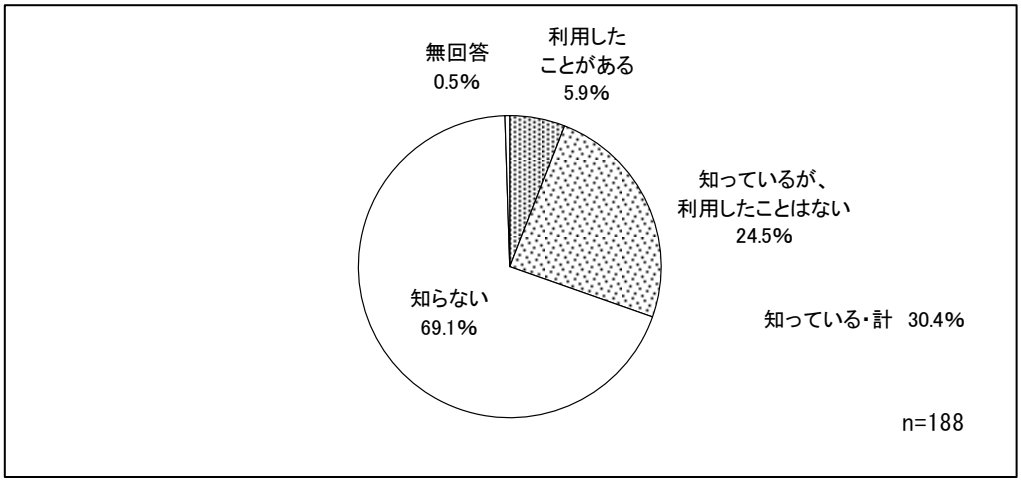


東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が 1.6%、「知っているが、利用したことはない」が 10.6%で、この 2 項目を合わせた『知っている・計』は 12.2%であった。一方、「知らない」は 87.2%であった。

１－１７ 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

Q17　区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）

図表Ⅰ-18. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

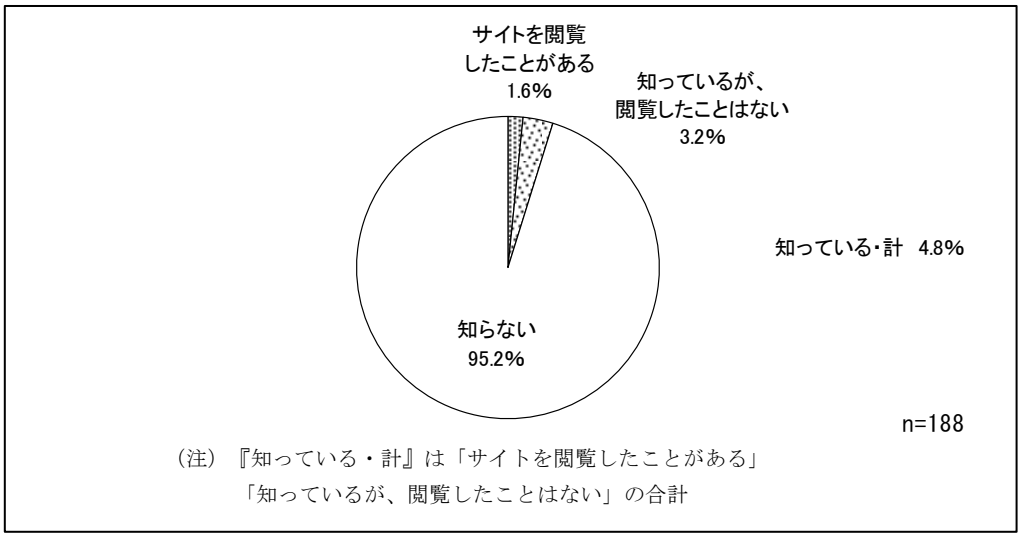


社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が5.9%、「知っているが、利用したことはない」が24.5%で、この２項目を合わせた『知っている・計』は30.4%であった。一方、「知らない」は69.1%であった。

１－１８ 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験

Q18　東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。（単一回答）

図表Ⅰ-19. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験



「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験は、「サイトを閲覧したことがある」が1.6%、「知っているが、閲覧したことはない」が3.2%で、この２項目を合わせた『知っている・計』は4.8%であった。一方、「知らない」は95.2%であった。

１－１９ 今後の取組意向

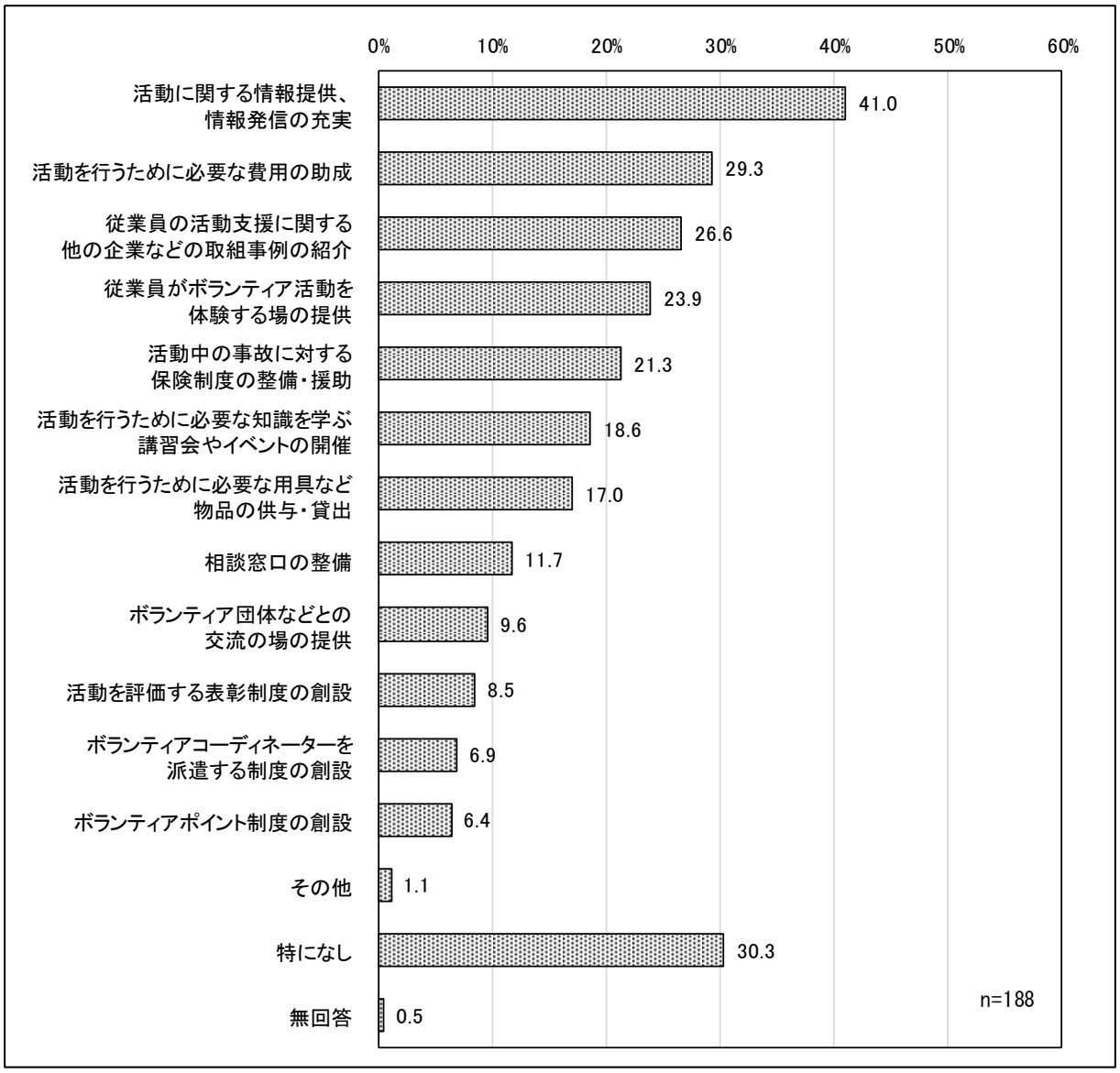
Q19　ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

記述内容
社員参加の裾野を拡げる活動の充実
お金や物資を送って終わり、ではなく、弊社では人と人との気持ちが目に見えて通じる活動に重きを置いているので、今後も本当に困っている方の力になれるような活動に取り組みたいと考えています。
・職員のボランティア活動参加に関する啓発活動 ・職員に意欲的にボランティア活動に参加してもらうための方法検討 ・ボランティア活動推進に向けた役員への協力依頼
弊社のCSR活動は、「社会的価値を持った活動」をさらに深め、広げていくことで、お客様や社会からの信頼に基づいた、健全で永続的な企業成長を目指すものです。こうした活動を「事業と一体化した価値共創型CSR」として進めています。グローバルに事業を展開する企業として、SDGsで掲げられる、世界が直面するさまざまな課題と真摯に向き合い、事業を通じた社会課題の解決を図ることで、持続可能な社会の実現に寄与し、持続的な成長を目指していきます。
ボランティア活動に関して、現段階では社員個人の意識に任せている部分が強く、会社としてより社会貢献できるような取り組みを検討していきたい。
町の清掃活動などは、引き続き継続していく予定。
社会的にボランティア活動の認知度が上がれば、社内での取組もしやすくなる。
会社が支援しているスポーツ団体の試合運営に係わるボランティア活動。
SDGs活動の一環として継続していく。
従業員が参加できるボランティア活動のメニューを増加させたい。
従業員教育を経て、社会貢献を中心に取り組んでいけるよう進めたい。
自身が保有する技術と知識を、途上国のために役立てたい。

１－２０ ボランティア活動に関して望む支援

Q20　従業員のボランティア活動を推奨・推進するために、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅰ-20. ボランティア活動に関して望む支援



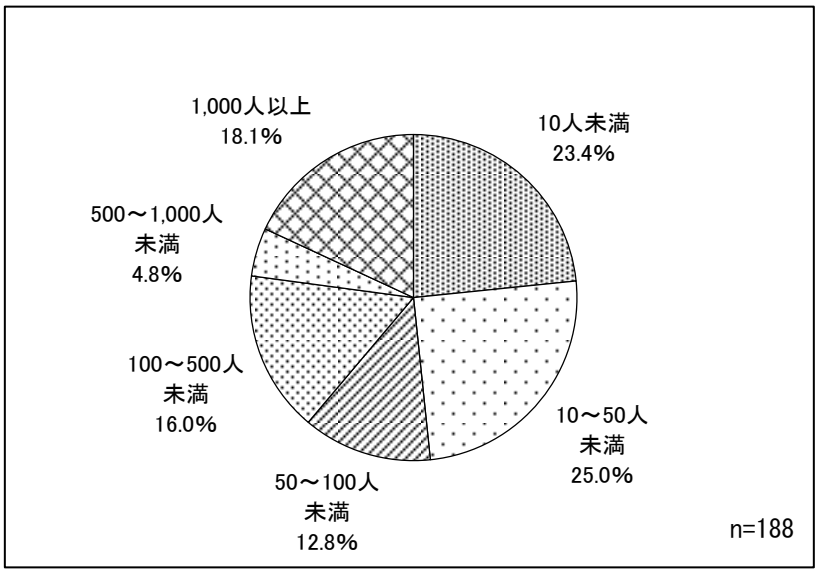
ボランティア活動に関して望む支援のうち、「活動に関する情報提供、情報発信の充実」が41.0％で最も高かった。次いで、「活動を行うために必要な費用の助成」が29.3％、「従業員の活動支援に関する他の企業などの取組事例の紹介」が26.6％であった。また、「特になし」は30.3％であった。

２ 会社の概要について

２－１ 総従業員数

Q21　貴社の総従業員数は何人ですか。（単一回答）

図表Ⅰ-21. 総従業員数

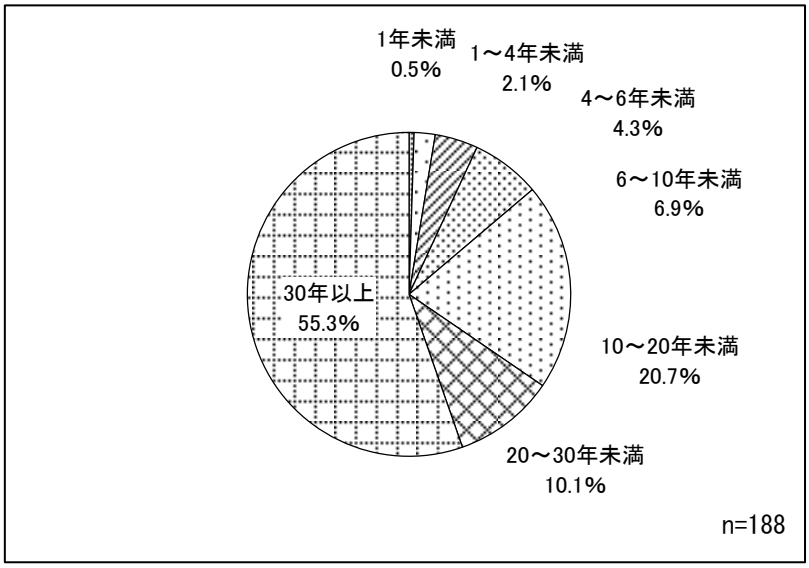


総従業員数は、「10 人未満」が 23.4%、「10～50 人未満」が 25.0%、「50～100 人未満」が 12.8%、「100～500 人未満」が 16.0%、「500～1,000 人未満」が 4.8%、「1,000 人以上」が 18.1%であった。

２－２ 設立からの経過年数

Q22　貴社は設立から何年経っていますか。（単一回答）

図表Ⅰ-22. 設立からの経過年数

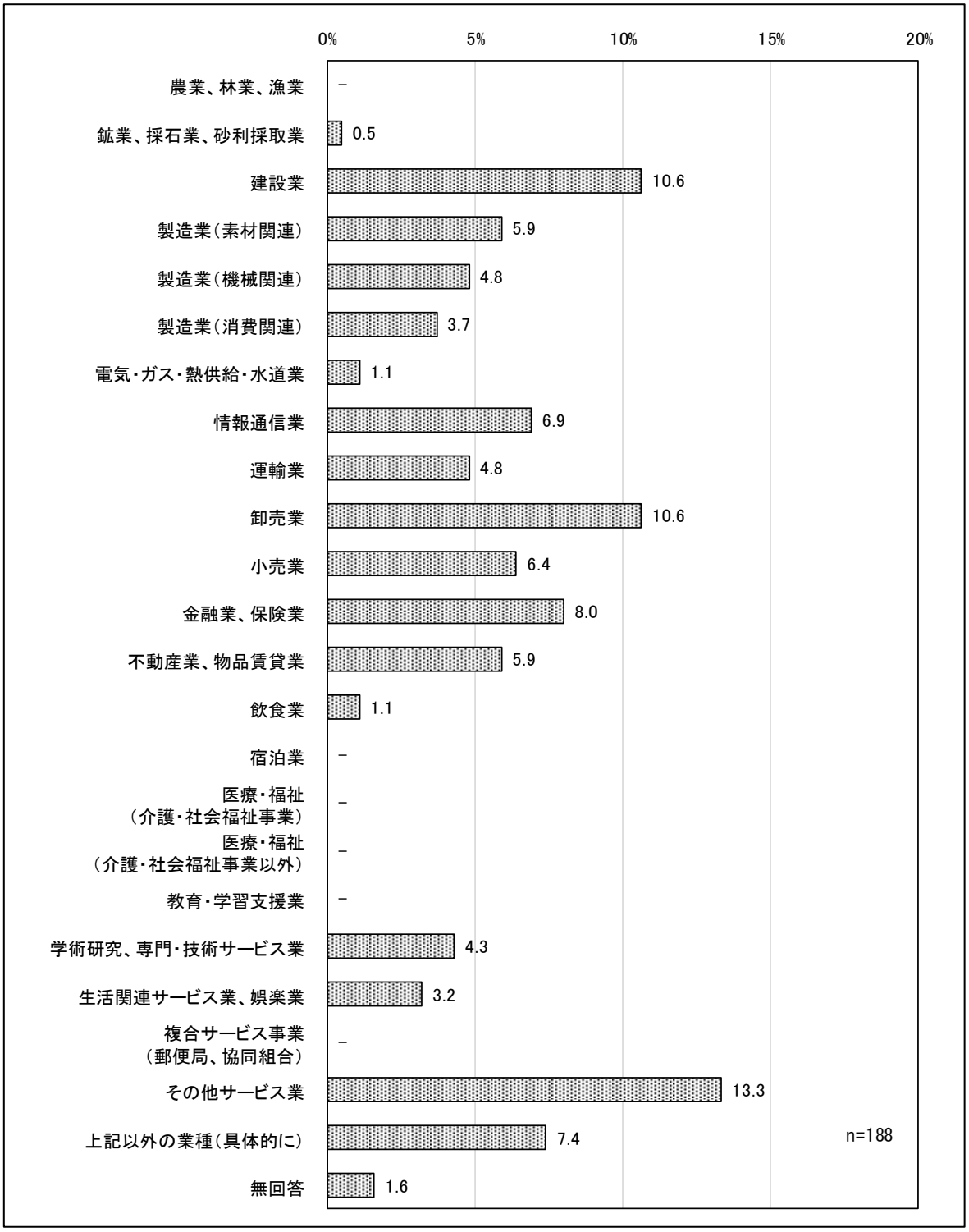


設立からの経過年数は、「1 年未満」が 0.5%、「1～4 年未満」が 2.1%、「4～6 年未満」が 4.3%、「6～10 年未満」が 6.9%、「10～20 年未満」が 20.7%、「20～30 年未満」が 10.1%、「30 年以上」が 55.3%であった。

２－３ 業種

Q23　貴社の業種は何ですか。複数該当する場合は、最も売上高が大きいものについてお答えください。（単一回答）

図表Ⅰ-23. 業種

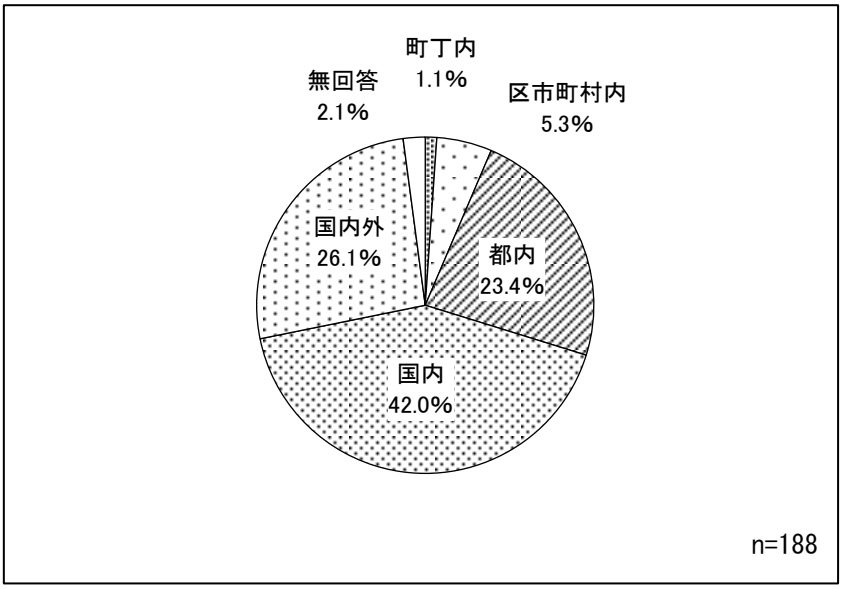


業種は、「建設業」と「卸売業」がいずれも 10.6％で、「その他サービス業」が 13.3％であった。

２－４ 事業を行っている地域

Q24　貴社が事業を行っている地域についてお答えください。（単一回答）

図表Ⅰ-24. 事業を行っている地域

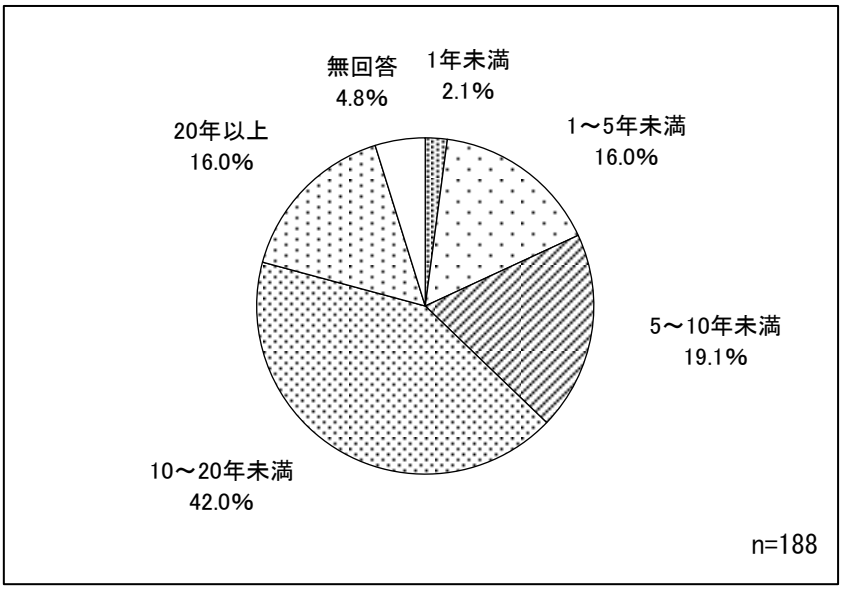


事業を行っている地域は、「町丁内」が 1.1%、「区市町村内」が 5.3%、「都内」が 23.4%、「国内」が 42.0%、「国内外」が 26.1%であった。

２－５ 従業員の平均勤続年数

Q25　貴社の従業員の平均勤続年数は何年ですか。（単一回答）

図表Ⅰ-25. 従業員の平均勤続年数

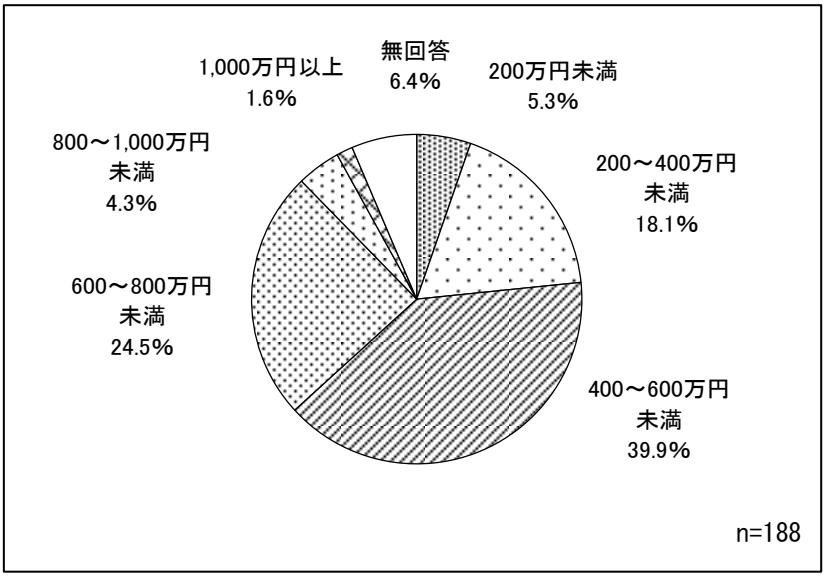


従業員の平均勤続年数は、「1 年未満」が 2.1%、「1～5 年未満」が 16.0%、「5～10 年未満」が 19.1%、「10～20 年未満」が 42.0%、「20 年以上」が 16.0%であった。

２－６ 従業員の平均賃金

Q26　貴社の従業員の平均賃金はいくらですか。（単一回答）

図表Ⅰ-26. 従業員の平均賃金

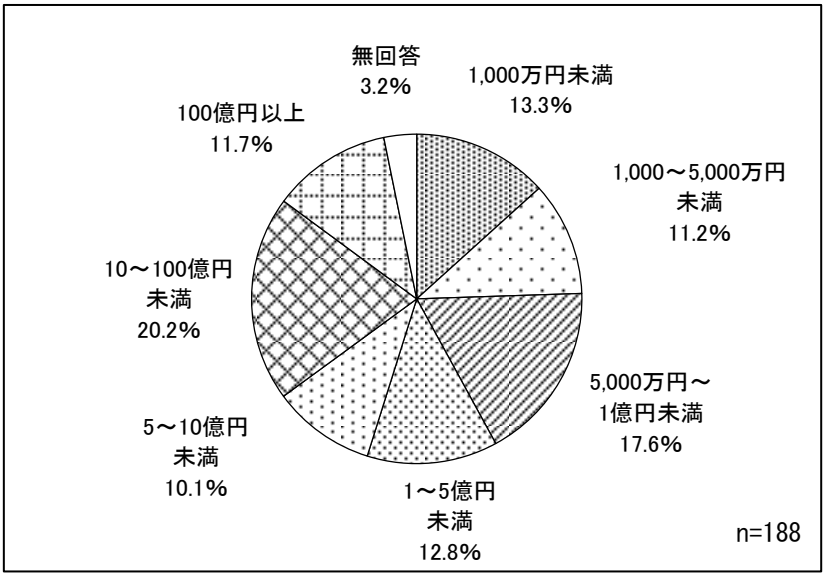


従業員の平均賃金は、「200 万円未満」が 5.3%、「200～400 万円未満」が 18.1%、「400～600 万円未満」が 39.9%、「600～800 万円未満」が 24.5%、「800～1,000 万円未満」が 4.3%、「1,000 万円以上」が 1.6%であった。

２－７ 資本金

Q27　貴社の資本金をお答えください。（単一回答）

図表Ⅰ-27. 資本金



資本金は、「1000 万円未満」が 13.3%、「1000～5000 万円未満」が 11.2%、「5000 万円～1 億円未満」が 17.6%、「1～5 億円未満」が 12.8%、「5～10 億円未満」が 10.1%、「10～100 億円未満」が 20.2%、「100 億円以上」が 11.7%であった。

II. NPO 法人向け調査

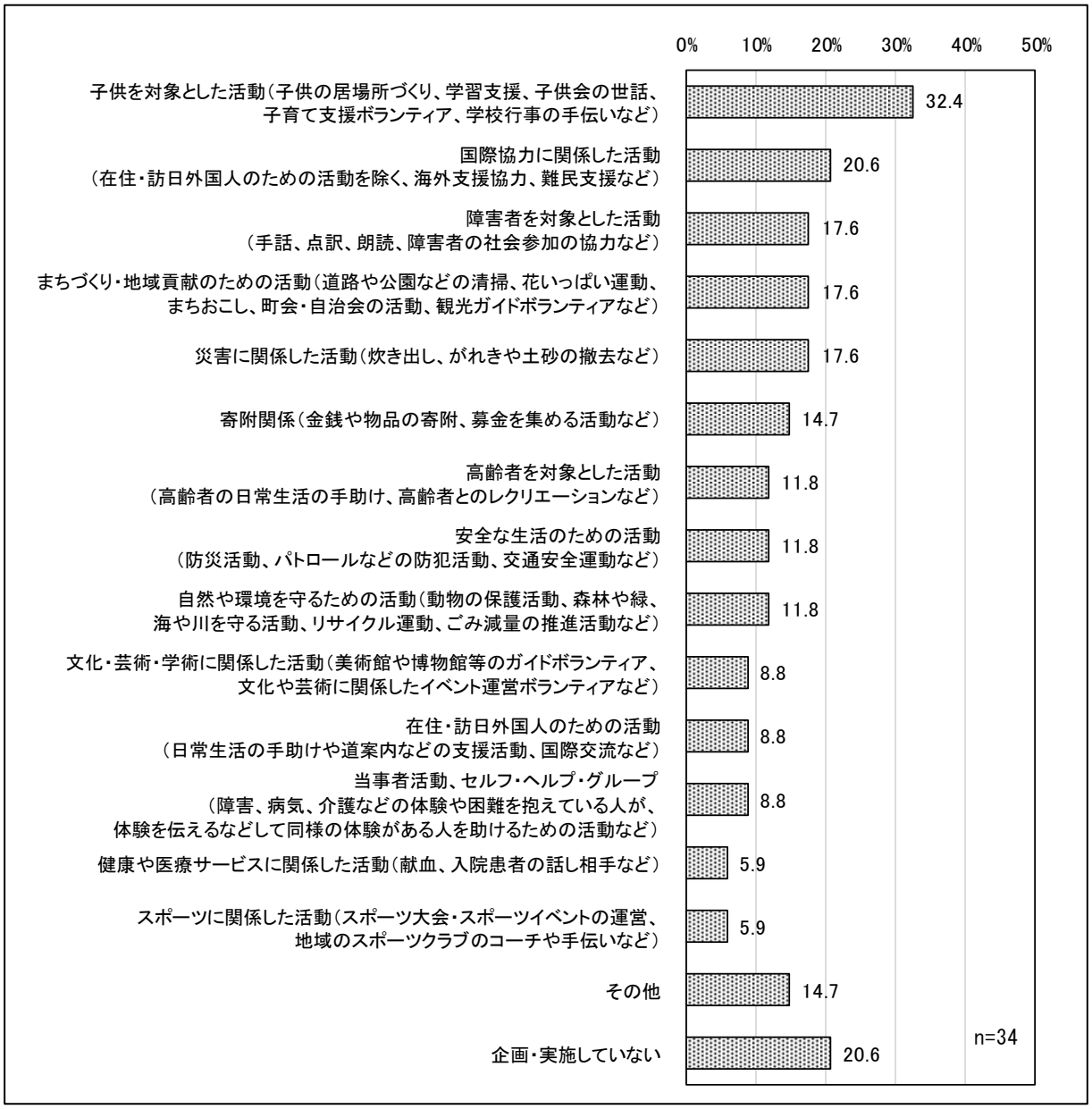
1 ボランティア活動について

1－1 企画・実施しているボランティア活動

Q1　貴団体が団体として企画・実施しているボランティア活動※で、当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

図表Ⅱ-1. 企画・実施しているボランティア活動



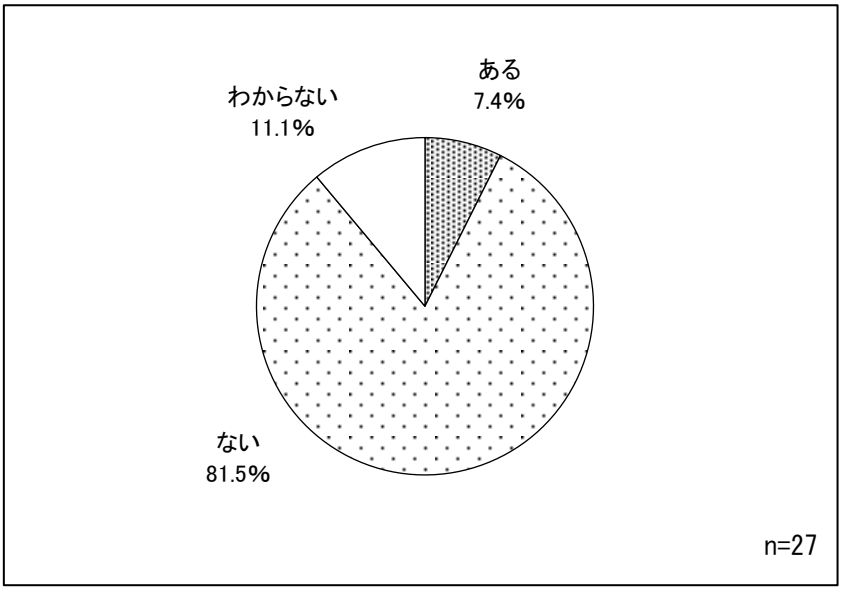
企画・実施しているボランティア活動のうち、「子供を対象とした活動」が 32.4％で最も高かった。次いで、「国際協力に関係した活動」が 20.6％であった。また、「企画・実施していない」は 20.6％であった。

１－２ 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果

（Q1 で 1～15 と答えた方）

Q2　選択した活動のうち、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。（単一回答）

図表Ⅱ-2. 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果



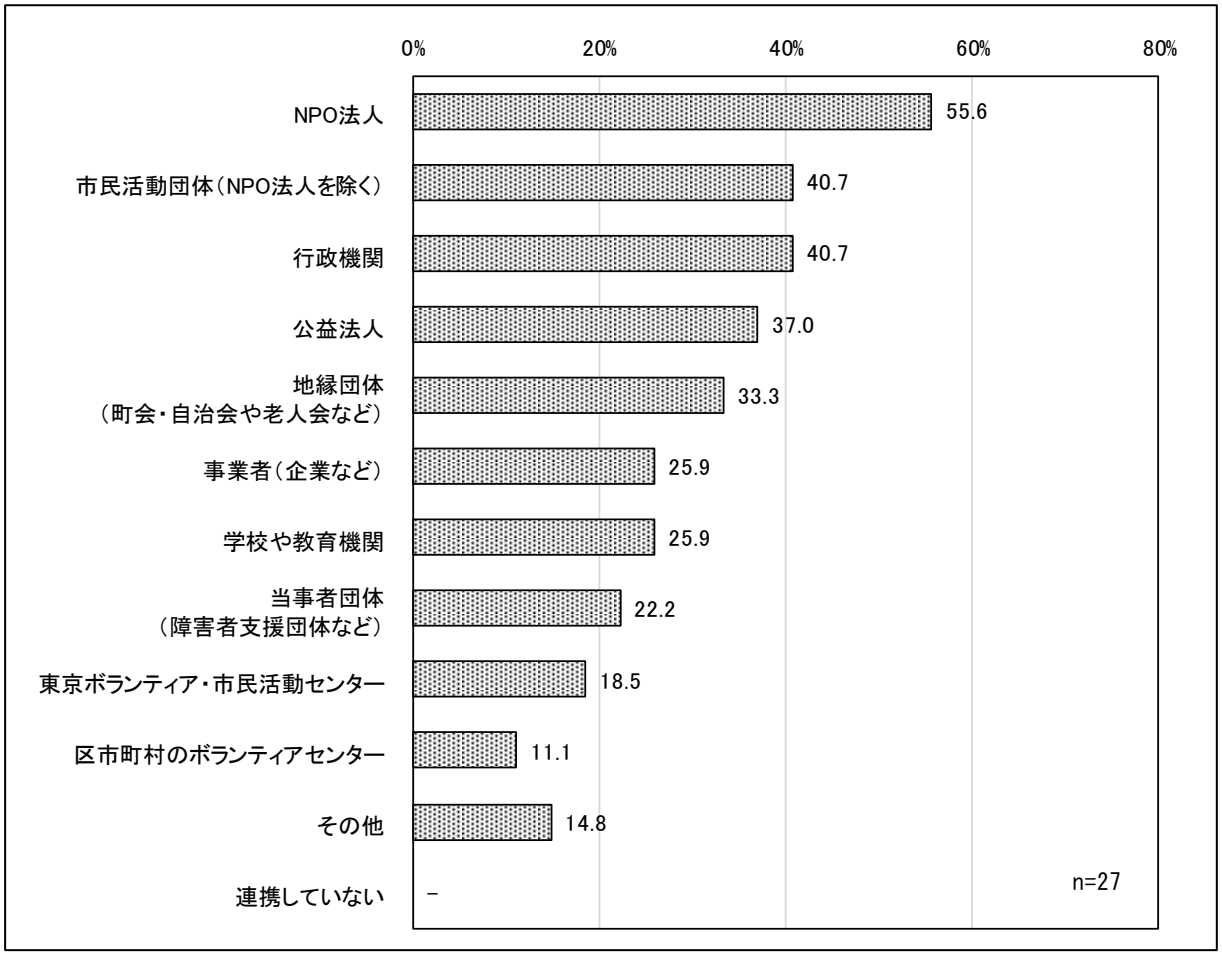
東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、新たに開始もしくは充実したものは、「ある」が 7.4%、「ない」が 81.5%であった。

１－３ 連携団体

（Q1 で 1～15 と答えた方）

Q3　ボランティア活動（社会貢献活動）の企画・実施にあたって、連携している団体がありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅱ-3. 連携団体



ボランティア活動の企画・実施にあたって連携している団体は、「NPO 法人」が 55.6％で最も高かった。次いで、「市民活動団体（NPO 法人を除く）」と「行政機関」がいずれも 40.7％であった。

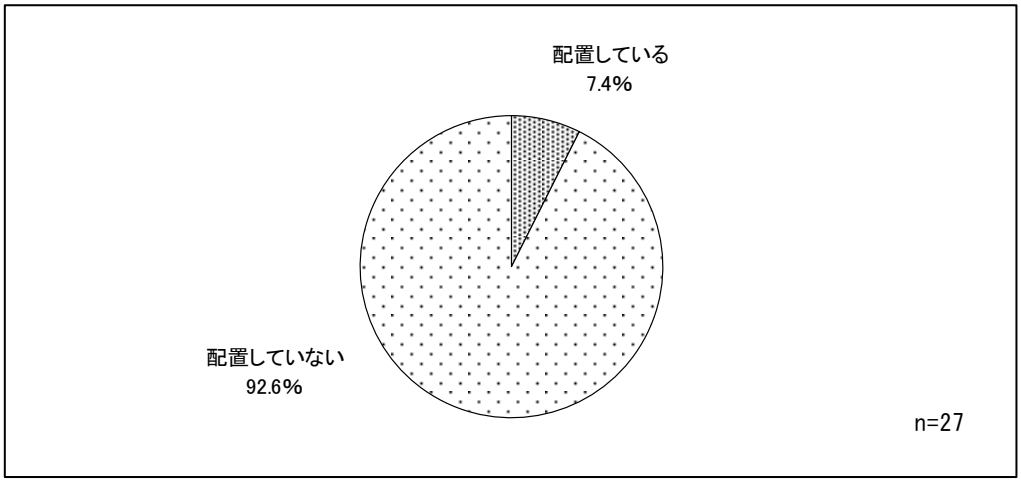
１－４ ボランティアコーディネーター配置の有無

（Q1 で 1～15 と答えた方）

Q4　ボランティアコーディネーター※を配置していますか。

※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側とを調整する人材

図表Ⅱ-4. ボランティアコーディネーター配置の有無



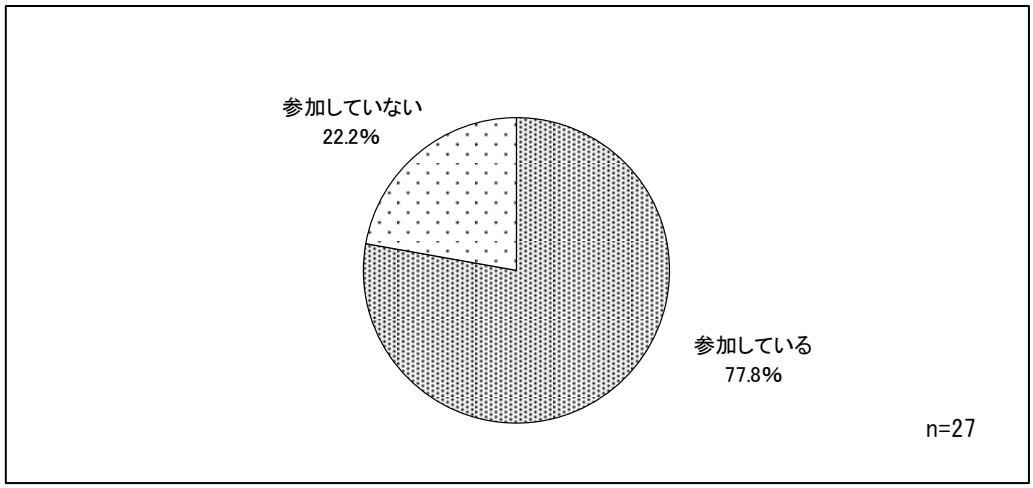
ボランティアコーディネーターの配置の有無は、「配置している」が 7.4%、「配置していない」が 92.6%であった。

１－５ ボランティア参加の有無

（Q1 で 1～15 と答えた方）

Q5　貴団体のボランティア活動（社会貢献活動）を企画・実施する際に、ボランティアは参加していますか。現場でボランティア活動をしている方（管理、運営、総務、庶務等に係るものは除く。）についてお答えください。

図表Ⅱ-5. ボランティア参加の有無



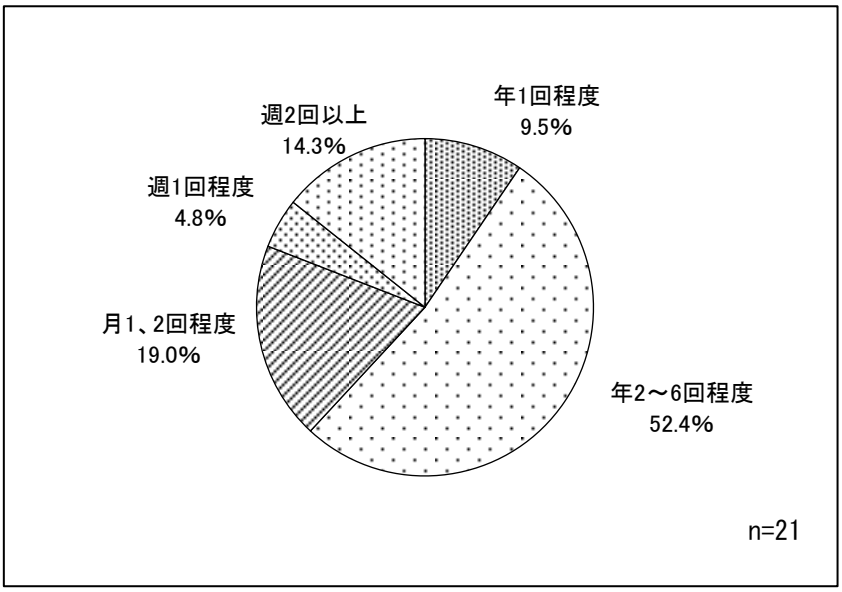
ボランティア参加の有無は、「参加している」が 77.8%、「参加していない」が 22.2%であった。

１－６ ボランティアの年間活動頻度、１回あたりの活動人数・平均活動時間

（Q5 で 1 と答えた方）

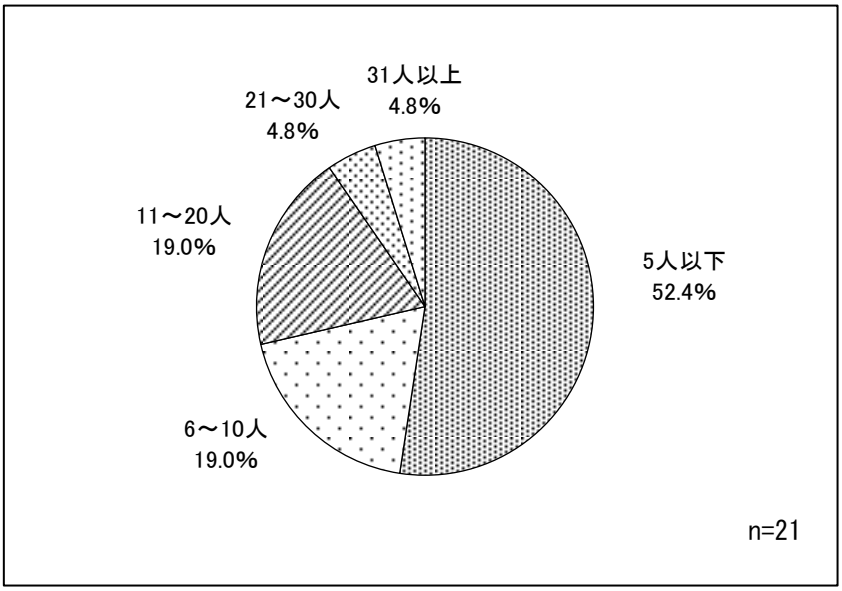
Q6　ボランティアが参加する活動について、年間の活動頻度及び 1 回あたりのボランティア活動人数・時間をお答えください。（複数の活動を企画・実施している場合は、そのうち中心的に行っている活動についてお答えください。）（各単一回答）

図表Ⅱ-6. ボランティアの年間活動頻度



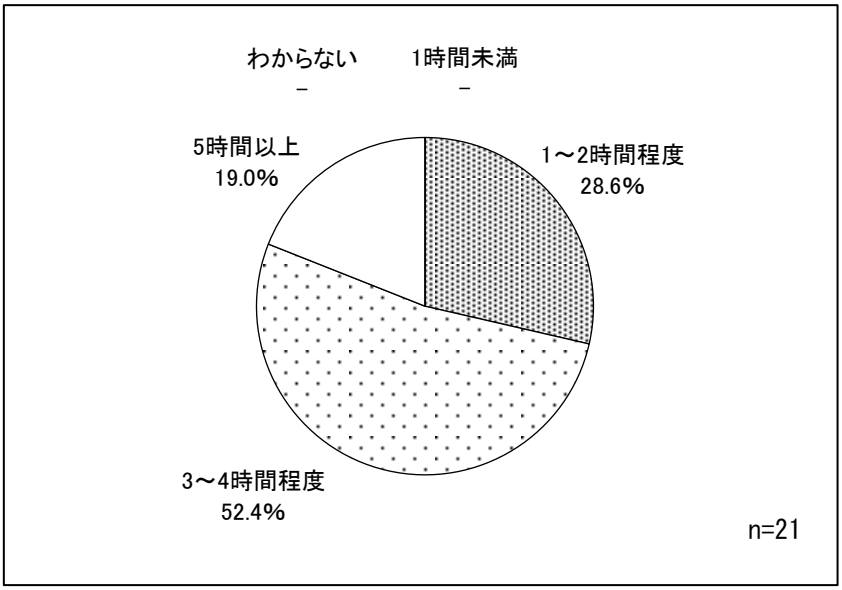
ボランティアの年間活動頻度は、「年 1 回程度」が 9.5%、「年 2～6 回程度」が 52.4%、「月 1、2 回程度」が 19.0%、「週 1 回程度」が 4.8%、「週 2 回以上」が 14.3%であった。

図表Ⅱ-7. ボランティアの 1 回あたりの活動人数



ボランティアの 1 回あたりの活動人数は、「5 人以下」が 52.4%、「6～10 人」と「11～20 人」がいずれも 19.0%、「21～30 人」と「31 人以上」がいずれも 4.8%であった。

図表Ⅱ-8. ボランティアの１回あたりの平均活動時間



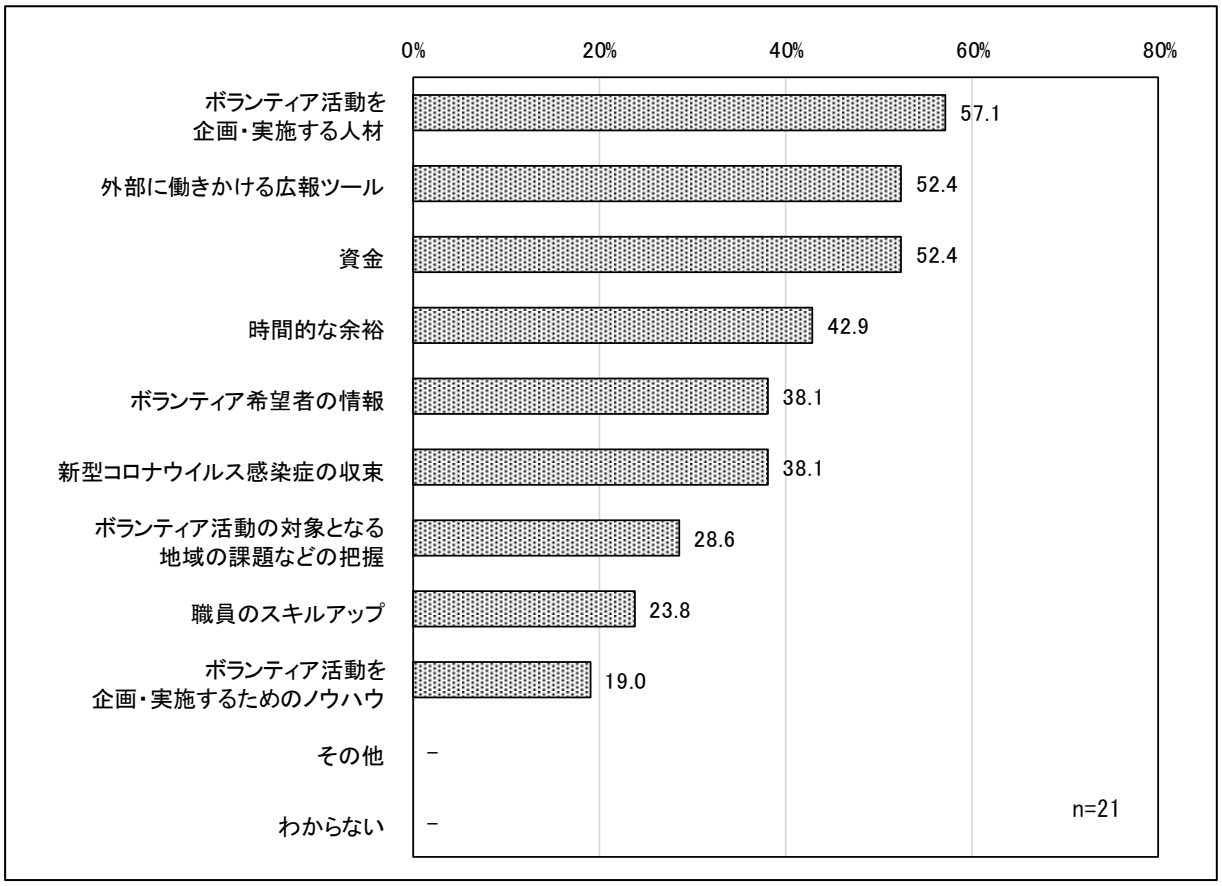
ボランティアの１回あたりの平均活動時間は、「1～2 時間程度」が 28.6%、「3～4 時間程度」が 52.4%、「5 時間以上」が 19.0%であった。

１－７ 参加人数を増やすために必要なこと

（Q5 で１と答えた方）

Q7　ボランティアの参加人数を増やしていくためにはどのようなことが必要ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅱ-9. 参加人数を増やすために必要なこと



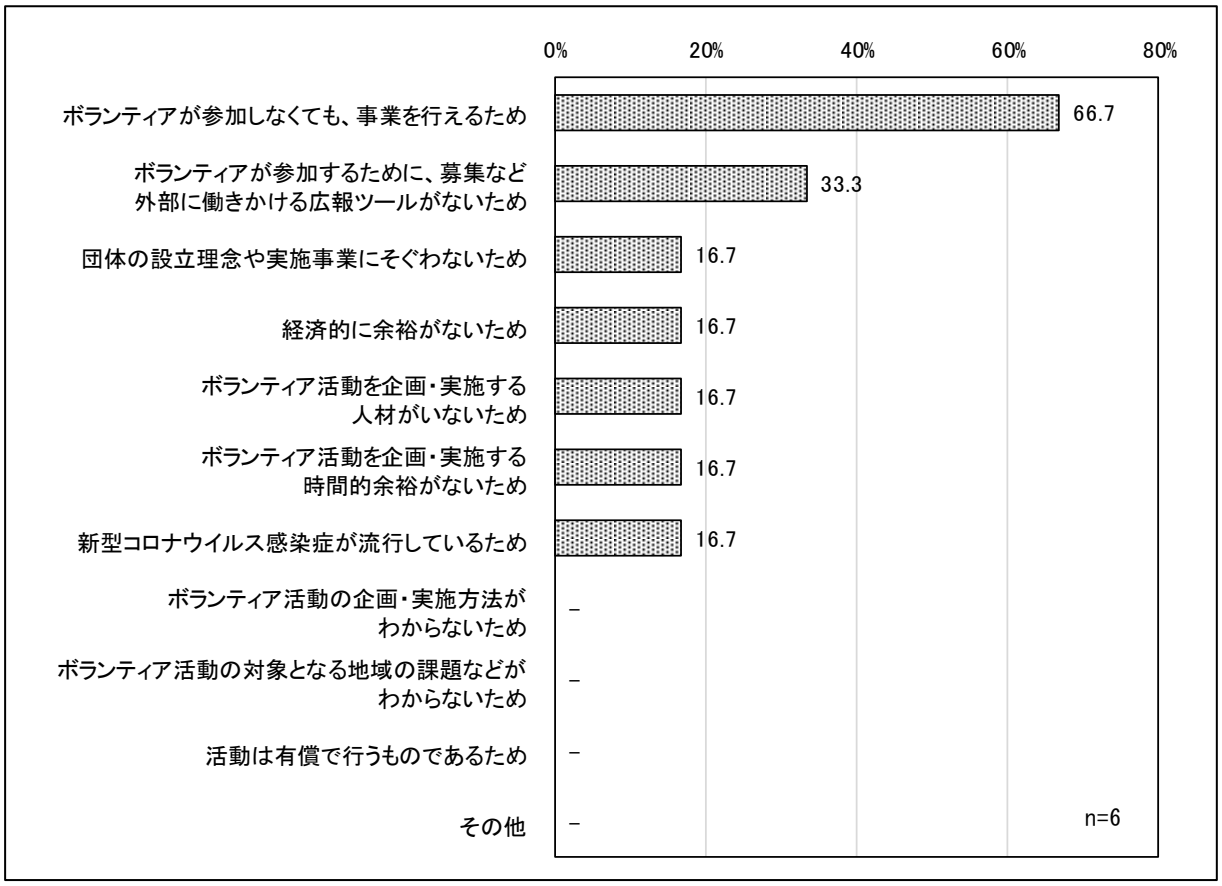
参加人数を増やすため必要なことは、「ボランティア活動を企画・実施する人材」が 57.1％で最も高かった。次いで、「外部に働きかける広報ツール」と「資金」がいずれも 52.4％であった。

１－８ ボランティアが参加していない理由

（Q5 で 2 と答えた方）

Q8　ボランティアが参加していない理由について、当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅱ-10. ボランティアが参加していない理由

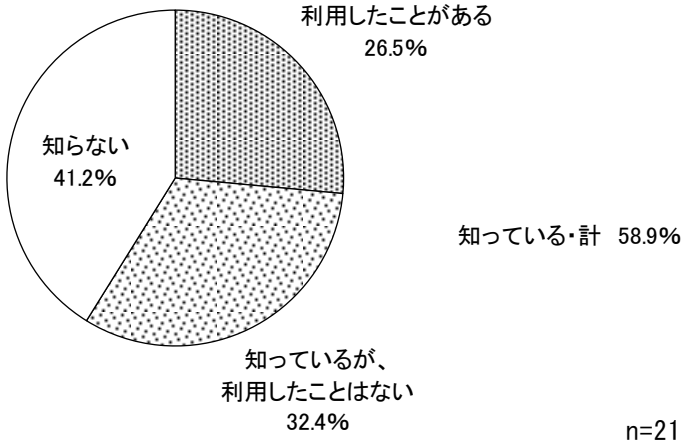


ボランティアが参加していない理由は、「ボランティアが参加しなくても、事業を行えるため」が 66.7％で最も高かった。次いで、「ボランティアが参加するために、募集など外部に働きかける広報ツールがないため」が 33.3％であった。

１－９ 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験

Q9　東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）

図表Ⅱ-11. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験



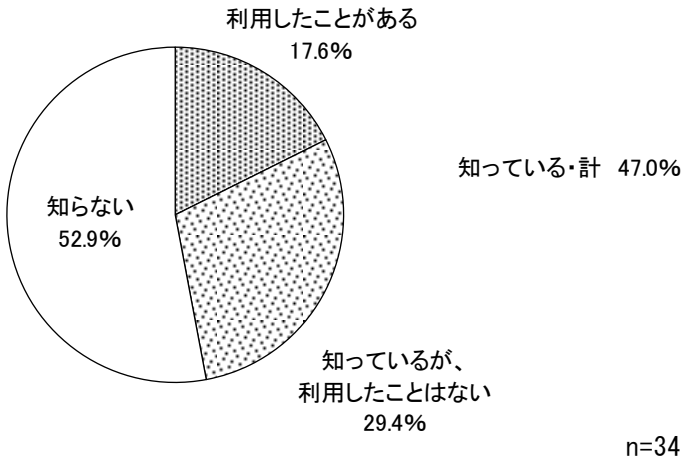
（注）『知っている・計』は「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」の合計

東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が26.5%、「知っているが、利用したことはない」が32.4%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は58.9%であった。一方、「知らない」は41.2%であった。

１－１０ 「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験

Q10　東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」はご存じですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）

図表Ⅱ-12. 「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験



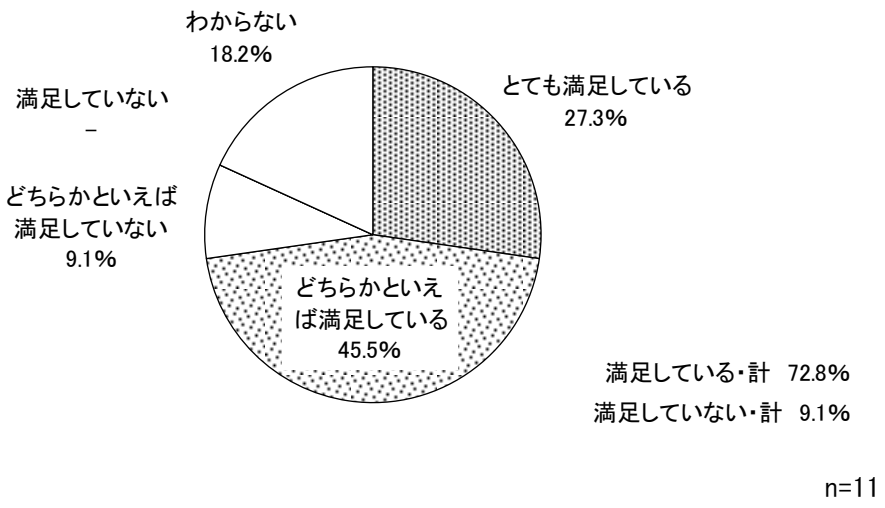
「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が17.6%、「知っているが、利用したことはない」が29.4%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は47.0%であった。一方、「知らない」は52.9%であった。

１－１１ 東京ボランティア・市民活動センターもしくは「ボラ市民ウェブ」の満足度

（Q9 または Q10 で 1 と答えた方）

Q11　利用して、満足されましたか。（単一回答）

図表Ⅱ-13. 東京ボランティア・市民活動センターもしくは「ボラ市民ウェブ」の満足度



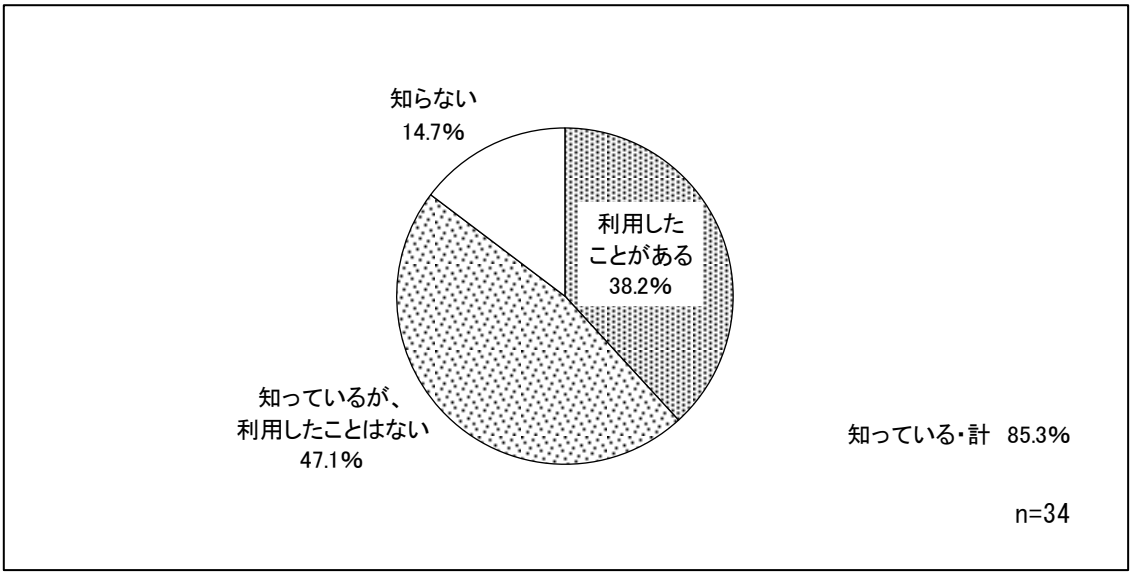
（注）『満足している・計』は「とても満足している」「どちらかといえば満足している」の合計
『満足していない・計』は「どちらかといえば満足していない」「満足していない」の合計

東京ボランティア・市民活動センターもしくは「ボラ市民ウェブ」の満足度は、「とても満足している」が 27.3%、「どちらかといえば満足している」が 45.5%、「どちらかといえば満足していない」が 9.1%であった。

１－１２ 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

Q12　区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）

図表Ⅱ-14. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

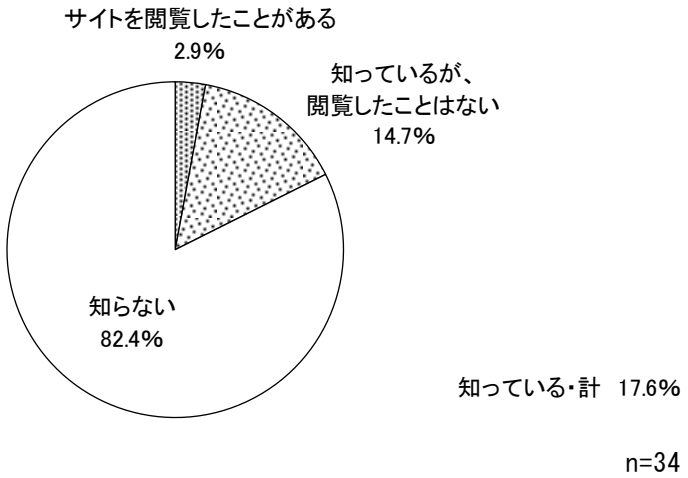


社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が38.2%、「知っているが、利用したことはない」が47.1%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は85.3%であった。一方、「知らない」は14.7%であった。

１－１３ 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験

Q13　東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。（単一回答）

図表Ⅱ-15. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験



（注）『知っている・計』は「サイトを閲覧したことがある」
「知っているが、閲覧したことはない」の合計

「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験は、「サイトを閲覧したことがある」が 2.9%、「知っているが、閲覧したことはない」が 14.7%で、この 2 項目を合わせた『知っている・計』は 17.6%であった。一方、「知らない」は 82.4%であった。

１－１４ 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の満足度

（Q13 で 1 と答えた方）

Q14　「東京ボランティアレガシーネットワーク」を利用して満足されましたか。（単一回答）

「東京ボランティアレガシーネットワーク」のサイトを閲覧したことがある 1 団体に満足度を聞いたところ、「どちらかといえば満足している」との回答であった。

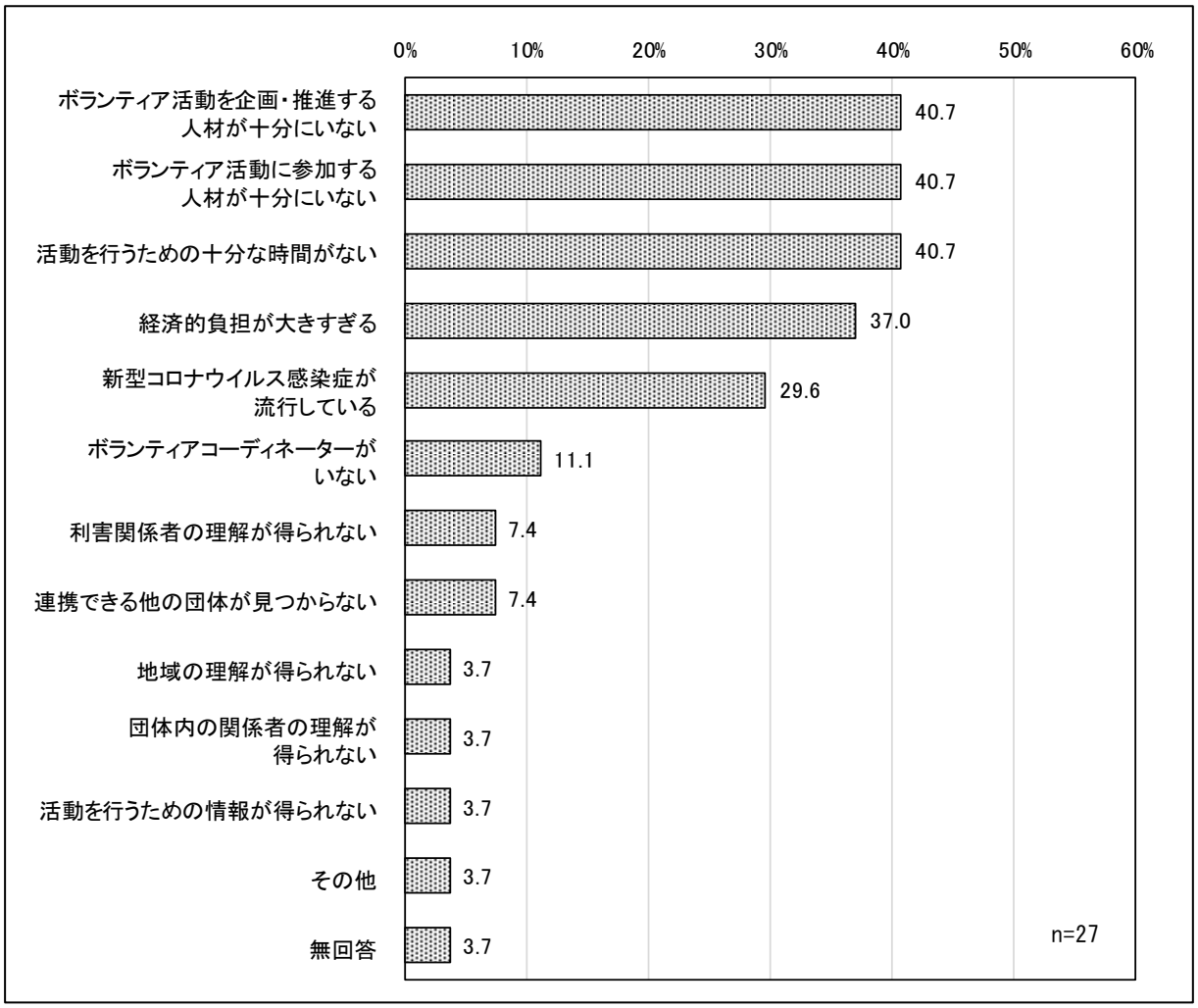
※本質問は対象が 1 団体のみのため、図は省略。選択肢は「とても満足している」「どちらかといえば満足している」「どちらかといえば満足していない」「満足していない」「わからない」の 5 つであった

１－１５ ボランティア活動を推進するにあたっての課題

（Q1 で 1～15 と答えた方）

Q15　貴団体のボランティア活動（社会貢献活動）を推進するにあたっての課題をすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅱ-16. ボランティア活動を推進するにあたっての課題



ボランティア活動を推進するにあたっての課題は、「ボランティア活動を企画・推進する人材が十分にいない」と「ボランティア活動に参加する人材が十分にいない」と「活動を行うための十分な時間がない」がいずれも 40.7％であった。

１－１６ 今後の取組意向

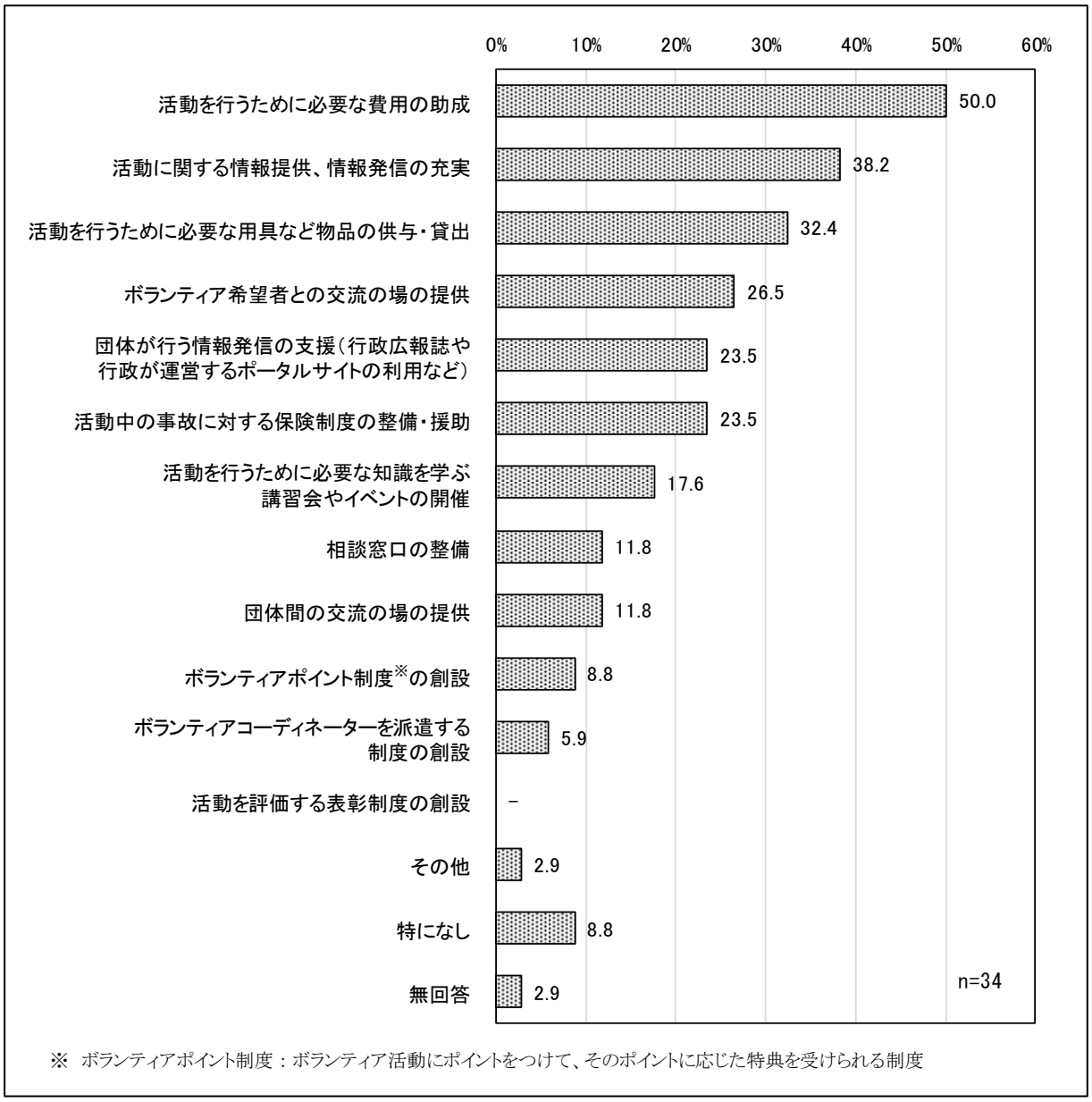
Q16　ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

記述内容
ボランティア活動のための、企業・団体の休暇取得促進制度等
ボランティア活動等に施設が必要であるが、東京オリンピックやコロナ禍の影響により施設確保が難しくなり活動に大きく影響しています。
現在の活動を維持するのにも、人材不足気味なので、必要な人材の確保を進めていきたい。
活動に関わる方々（実行委員会）が、就労、学生の為、時間がない、調整が難しいなど。又、活動場所についても、時間に限りがあり、又、自由に使用できない。（区の施設を主に使用している為）
講演会などの開催が地域貢献活動であることが市民等に理解されにくい。
ボランティアとして活動する人材を安定的に育成する必要性を感じている。育成の仕組みをつくりたい。

１－１７ ボランティア活動に関して望む支援

Q17　ボランティア活動に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅱ-17. ボランティア活動に関して望む支援



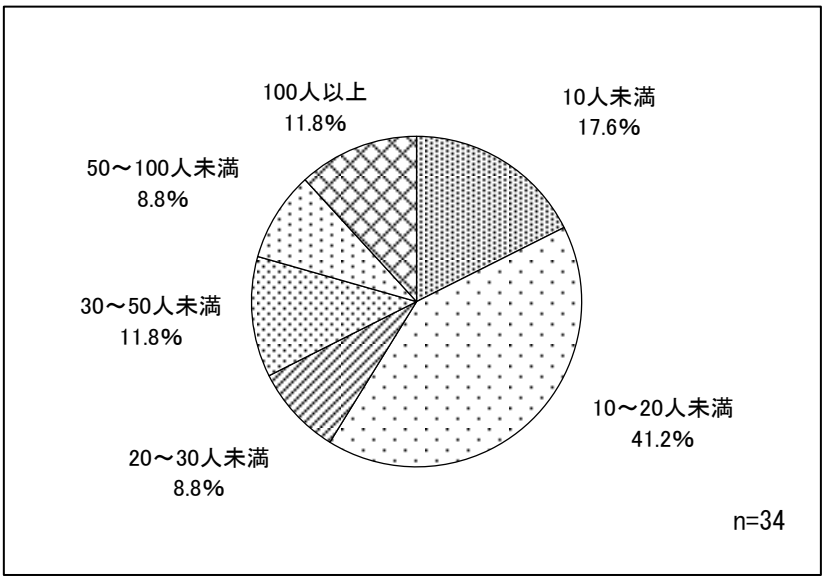
ボランティア活動に関して望む支援は、「活動を行うために必要な費用の助成」が 50.0％で最も高かった。次いで、「活動に関する情報提供、情報発信の充実」が 38.2％、「活動を行うために必要な用具など物品の供与・貸出」が 32.4％であった。

２ 団体の概要について

２－１ 団体構成員の総数

Q18　貴団体の団体構成員の総数は何人になりますか。（単一回答）

図表Ⅱ-18. 団体構成員の総数

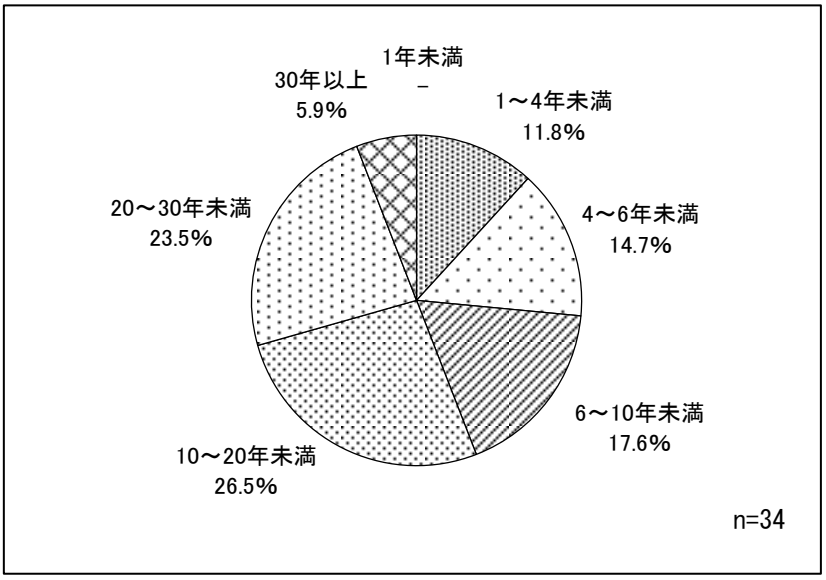


団体構成員の総数は、「10 人未満」が 17.6%、「10～20 人未満」が 41.2%、「20～30 人未満」が 8.8%、「30～50 人未満」が 11.8%、「50～100 人未満」が 8.8%、「100 人以上」が 11.8%であった。

２－２ 設立からの経過年数

Q19　貴団体は設立から何年経っていますか。（単一回答）

図表Ⅱ-19. 設立からの経過年数

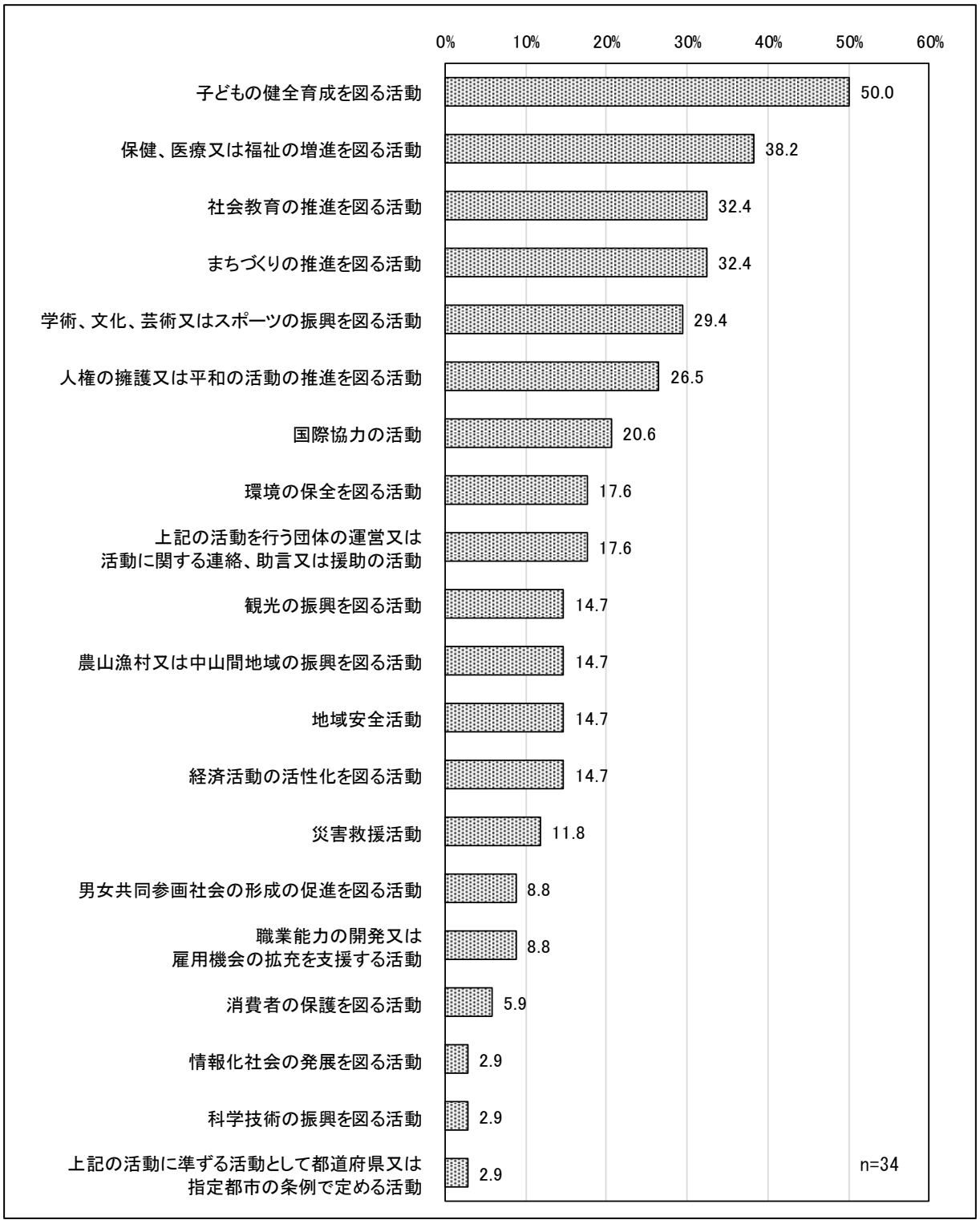


設立からの経過年数は、「1～4 年未満」が 11.8%、「4～6 年未満」が 14.7%、「6～10 年未満」が 17.6%、「10～20 年未満」が 26.5%、「20～30 年未満」が 23.5%、「30 年以上」が 5.9%であった。

２－３ 活動分野

Q20　貴団体の活動分野は次のどれにあたりますか。（複数回答）

図表Ⅱ-20. 活動分野

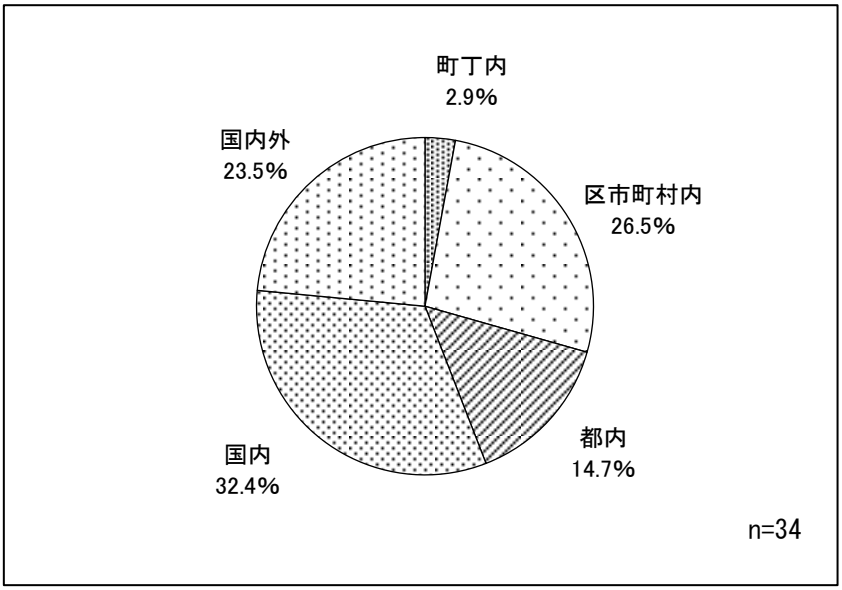


活動分野は、「子どもの健全育成を図る活動」が 50.0％で最も高かった。次いで、「保健、医療又は福祉の増進を図る活動」が 38.2％であった。

２－４ 活動地域

Q21　貴団体の活動地域はどの程度の範囲ですか。（単一回答）

図表Ⅱ-21. 活動地域

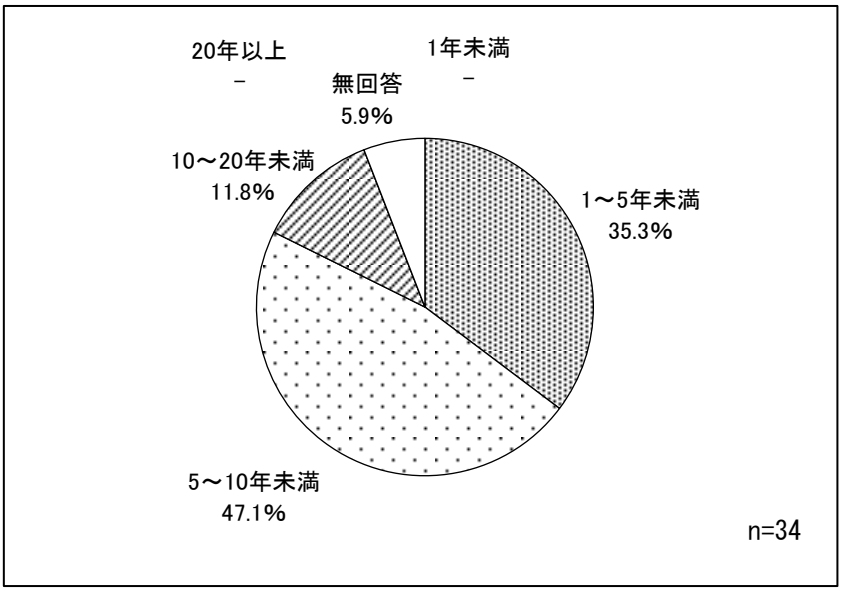


活動地域は、「町丁内」が 2.9%、「区市町村内」が 26.5%、「都内」が 14.7%、「国内」が 32.4%、「国内外」が 23.5%であった。

２－５ 構成員の平均勤続年数

Q22　貴団体の構成員の平均勤続年数は何年ですか。（単一回答）

図表Ⅱ-22. 構成員の平均勤続年数

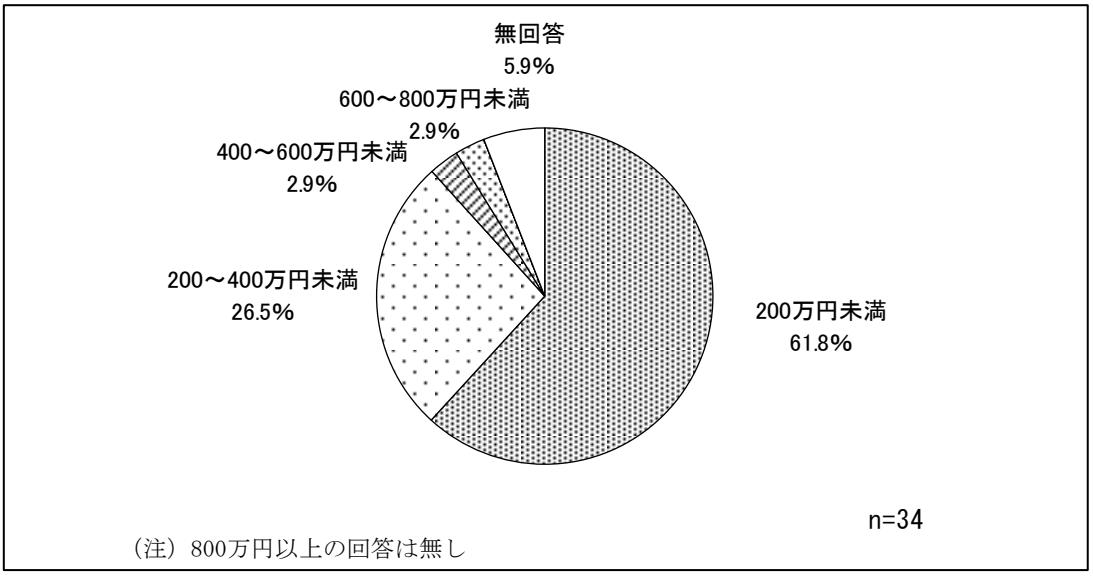


構成員の平均勤続年数は、「1～5 年未満」が 35.3%、「5～10 年未満」が 47.1%、「10～20 年未満」が 11.8%であった。

２－６ 構成員の平均賃金

Q23　貴団体の構成員の平均賃金はいくらですか。（単一回答）

図表Ⅱ-23. 構成員の平均賃金

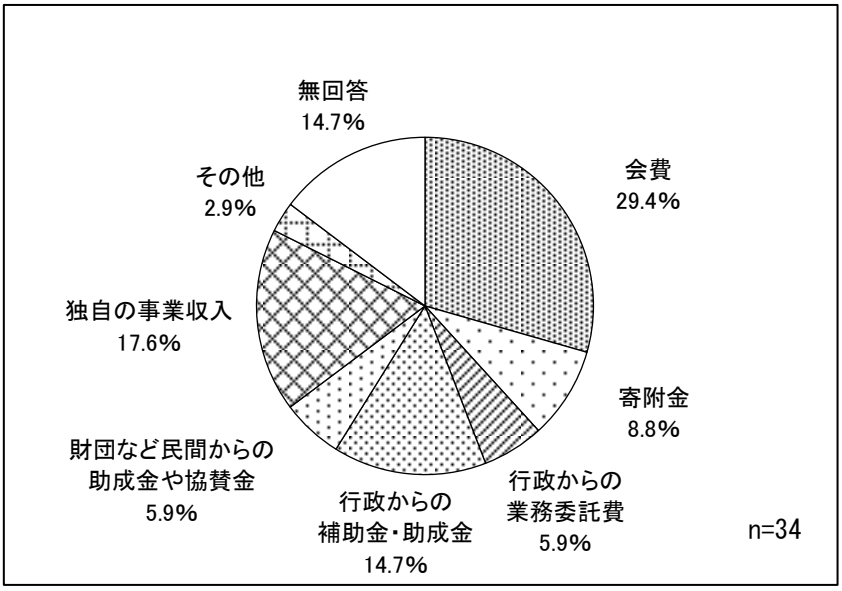


構成員の平均賃金は、「200 万円未満」が 61.8%、「200～400 万円未満」が 26.5%、「400～600 万円未満」と「600～800 万円未満」がいずれも 2.9%であった。

２－７ 主な収入源

Q24　貴団体の主な収入源は何ですか。（単一回答）

図表Ⅱ-24. 主な収入源

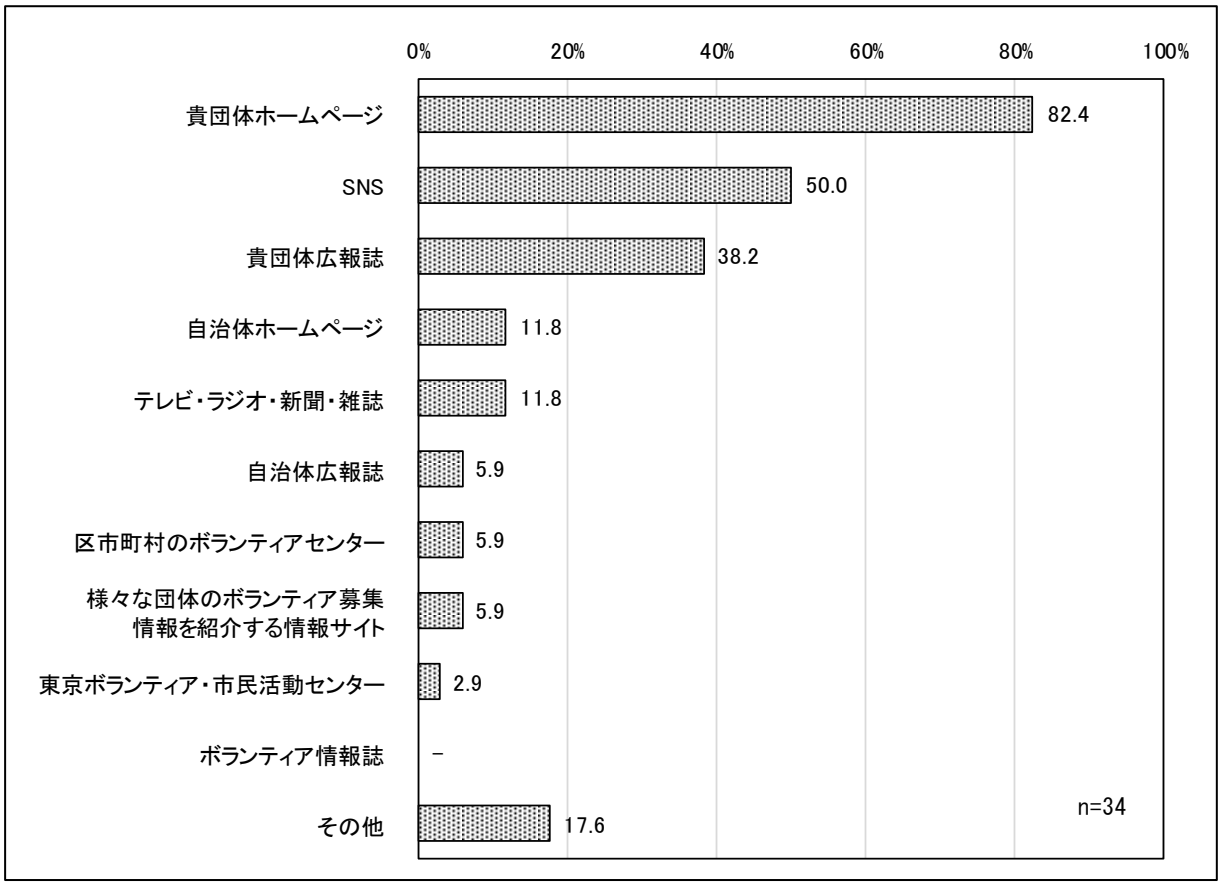


主な収入源は、「会費」が 29.4%、「寄附金」が 8.8%、「行政からの業務委託費」が 5.9%、「行政からの補助金・助成金」が 14.7%、「財団など民間からの助成金や協賛金」が 5.9%、「独自の事業収入」が 17.6%であった。

２－８ 情報発信の利用媒体

Q25　貴団体の活動内容について情報発信する際に利用しているものとして、当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅱ-25. 情報発信の利用媒体



情報発信の利用媒体は、「貴団体ホームページ」が 82.4％で最も高かった。次いで、「SNS」が 50.0％、「貴団体広報誌」が 38.2％であった。

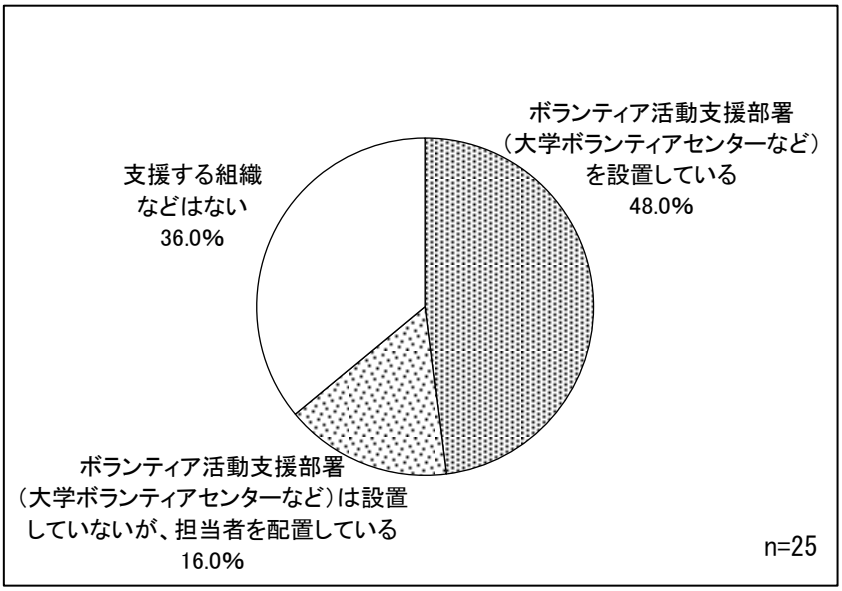
III. 大学向け調査

１ ボランティア活動について

１－１ 学生のボランティア活動の支援組織の有無

Q1	貴学には、学生のボランティア活動※を支援する組織などがありますか。（単一回答） ※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

図表Ⅲ-1. 学生のボランティア活動の支援組織の有無



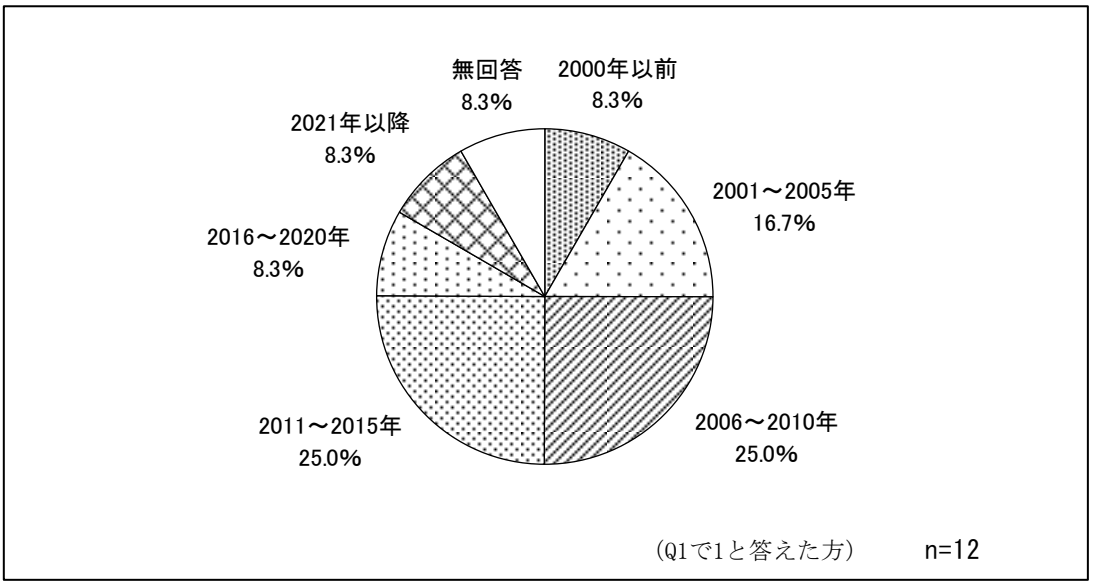
学生のボランティア活動の支援組織の有無は、「ボランティア活動支援部署を設置している」が 48.0%、「ボランティア活動支援部署は設置していないが、担当者を配置している」が 16.0%、「支援する組織などはない」が 36.0%であった。

１－２ ボランティア活動支援部署などの名称・設置年度・職員数・設置のきっかけ

（Q1 で 1、2 と答えた方）

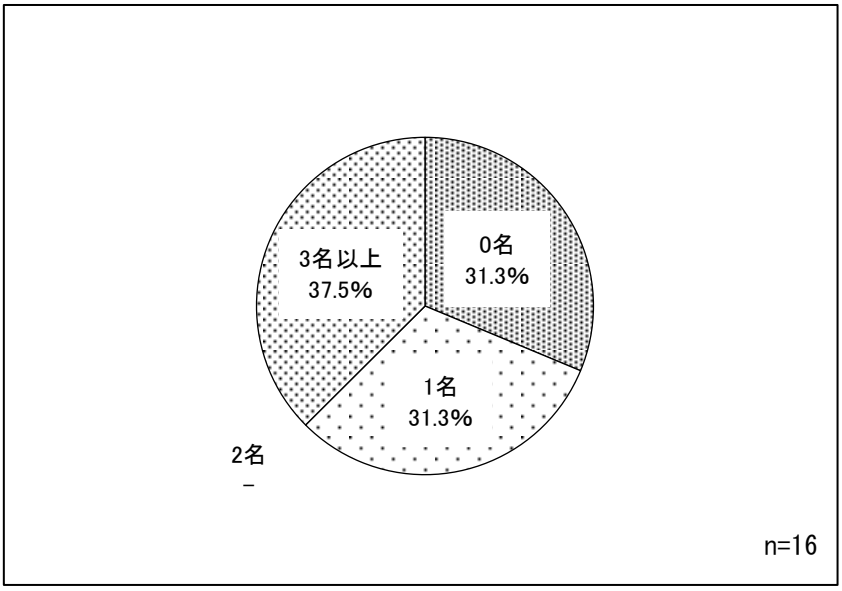
Q2　設置しているボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などの名称・設置年度・職員数・設置したきっかけをお答えください。
（Q1 で 2 と答えた方は、職員数と配置したきっかけをお答えください。）

図表Ⅲ-2. ボランティア活動支援部署などの設置年度



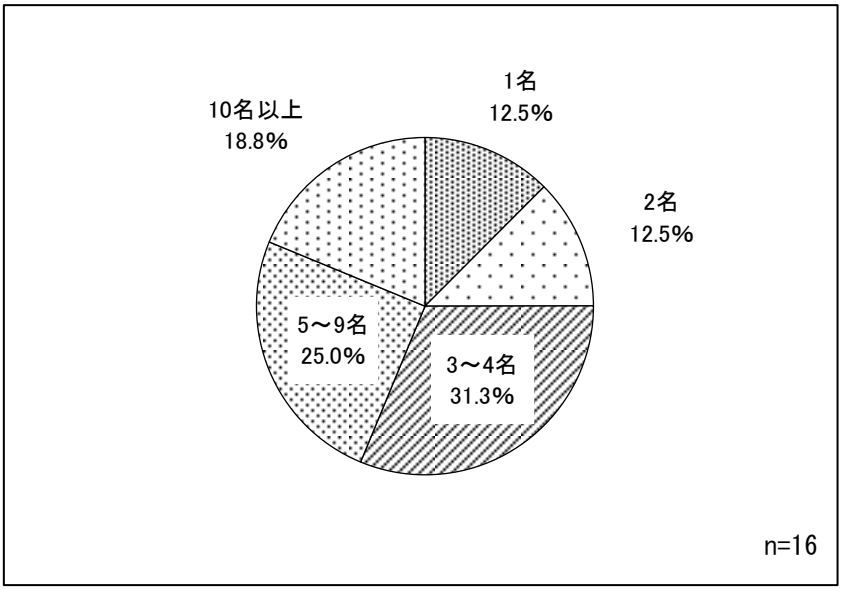
ボランティア活動支援部署などの設置年度は、「2000 年以前」が 8.3%、「2001～2005 年」が 16.7%、「2006～2010 年」と「2011～2015 年」がいずれも 25.0%であった。

図表Ⅲ-3. ボランティア活動支援部署などの教員数



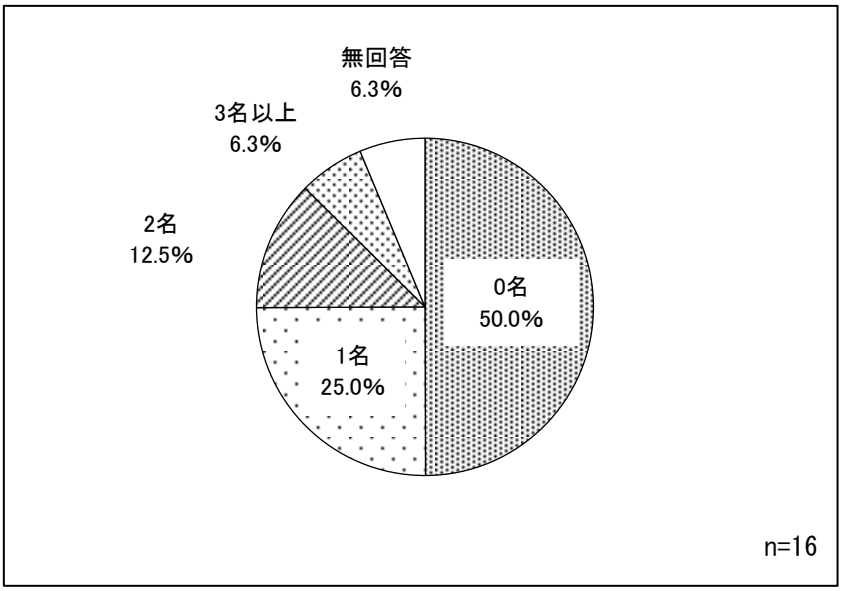
ボランティア活動支援部署などの教員数は、「0 名」と「1 名」がいずれも 31.3%、「3 名以上」が 37.5%であった。

図表Ⅲ-4. ボランティア活動支援部署などの事務職員数



ボランティア活動支援部署などの事務職員数は、「1 名」と「2 名」がいずれも 12.5%、「3～4 名」が 31.3%、「5～9 名」が 25.0%、「10 名以上」が 18.8%であった。

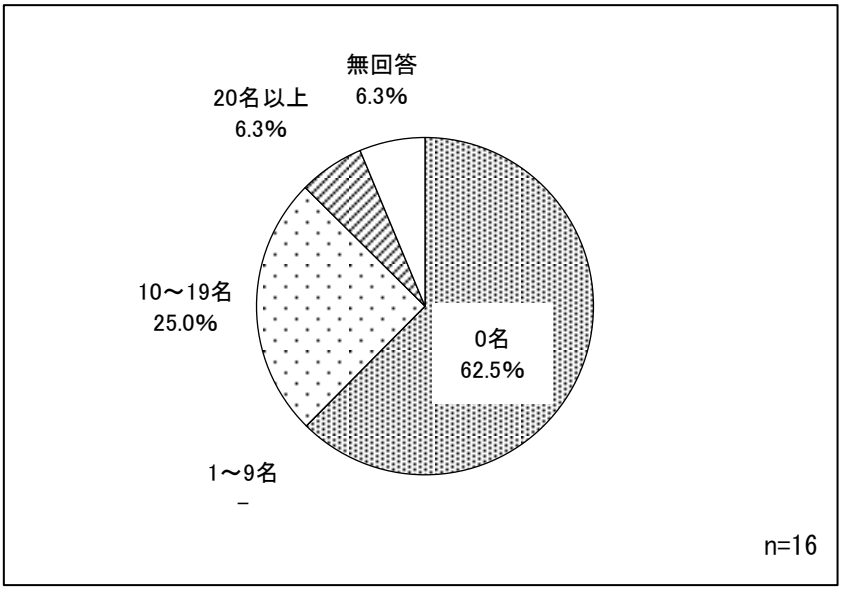
図表Ⅲ-5. ボランティア活動支援部署などのボランティアコーディネーター※数



ボランティア活動支援部署などのボランティアコーディネーター※数は、「0 名」が 50.0%、「1 名」が 25.0%、「2 名」が 12.5%、「3 名以上」が 6.3%であった。

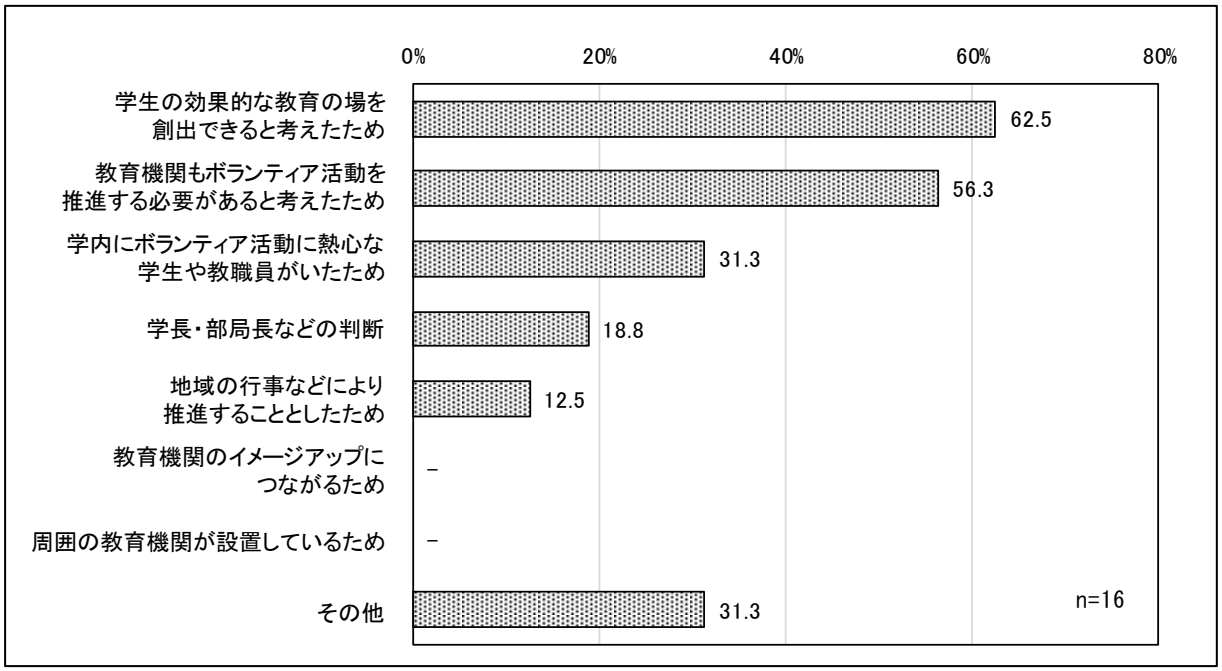
※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側とを調整する人材

図表Ⅲ-6. ボランティア活動支援部署などの学生スタッフ数



ボランティア活動支援部署などの学生スタッフ数は、「0 名」が 62.5%、「10～19 名」が 25.0%、「20 名以上」が 6.3%であった。

図表Ⅲ-7. ボランティア活動支援部署などの設置のきっかけ



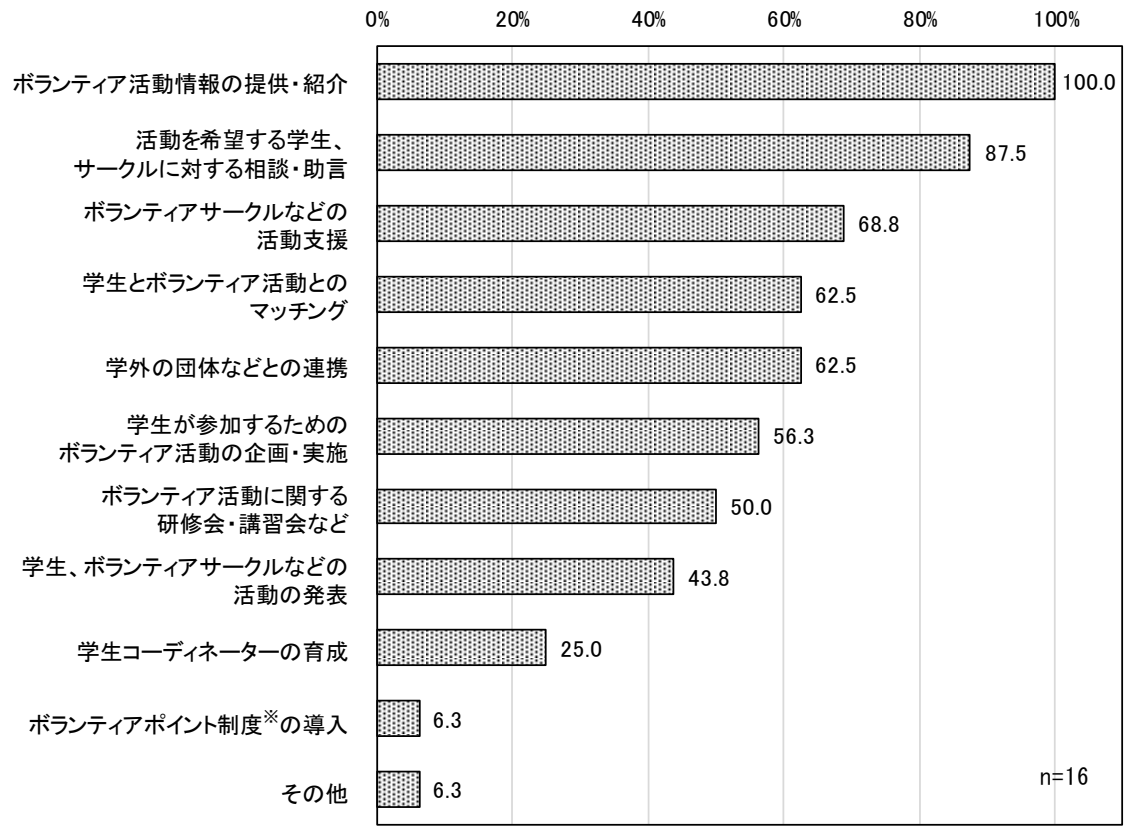
ボランティア活動支援部署などの設置のきっかけは、「学生の効果的な教育の場を創出できると考えたため」が 62.5%で最も高かった。次いで、「教育機関もボランティア活動を推進する必要があると考えたため」が 56.3%、「学内にボランティア活動に熱心な学生や教職員がいたため」が 31.3%であった。

１－３ ボランティア活動支援部署などで行っている取組

（Q1 で 1、2 と答えた方）

Q3　貴学のボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などで行っている取組のうち、当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅲ-8. ボランティア活動支援部署などで行っている取組



※ ボランティアポイント制度：ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じた特典を受けられる制度

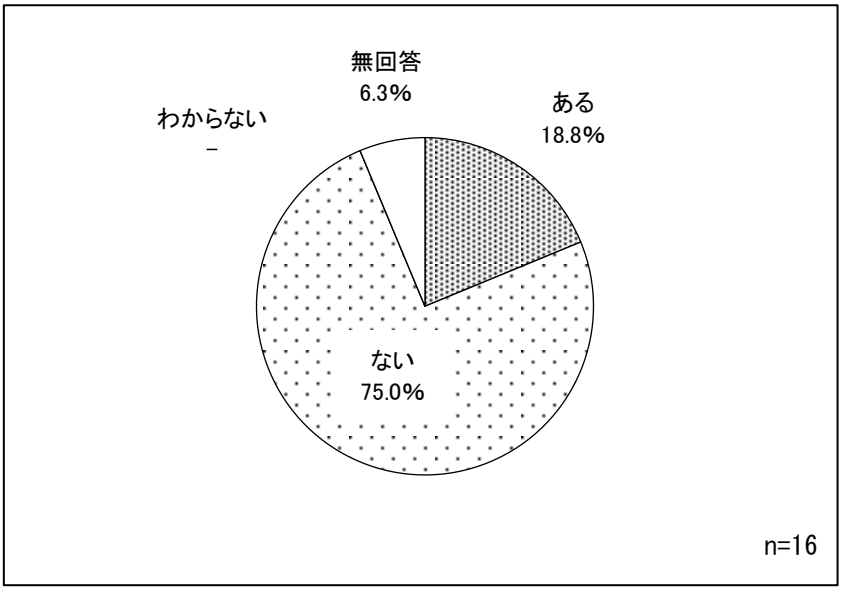
ボランティア活動支援部署などで行っている取組は、「ボランティア活動情報の提供・紹介」が 100.0％で最も高かった。次いで、「活動を希望する学生、サークルに対する相談・助言」が 87.5％、「ボランティアサークルなどの活動支援」が 68.8％であった。

１－４ 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果

（Q1 で 1、2 と答えた方）

Q4　Q3 で選択した取組のうち、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。（単一回答）

図表Ⅲ-9. 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果



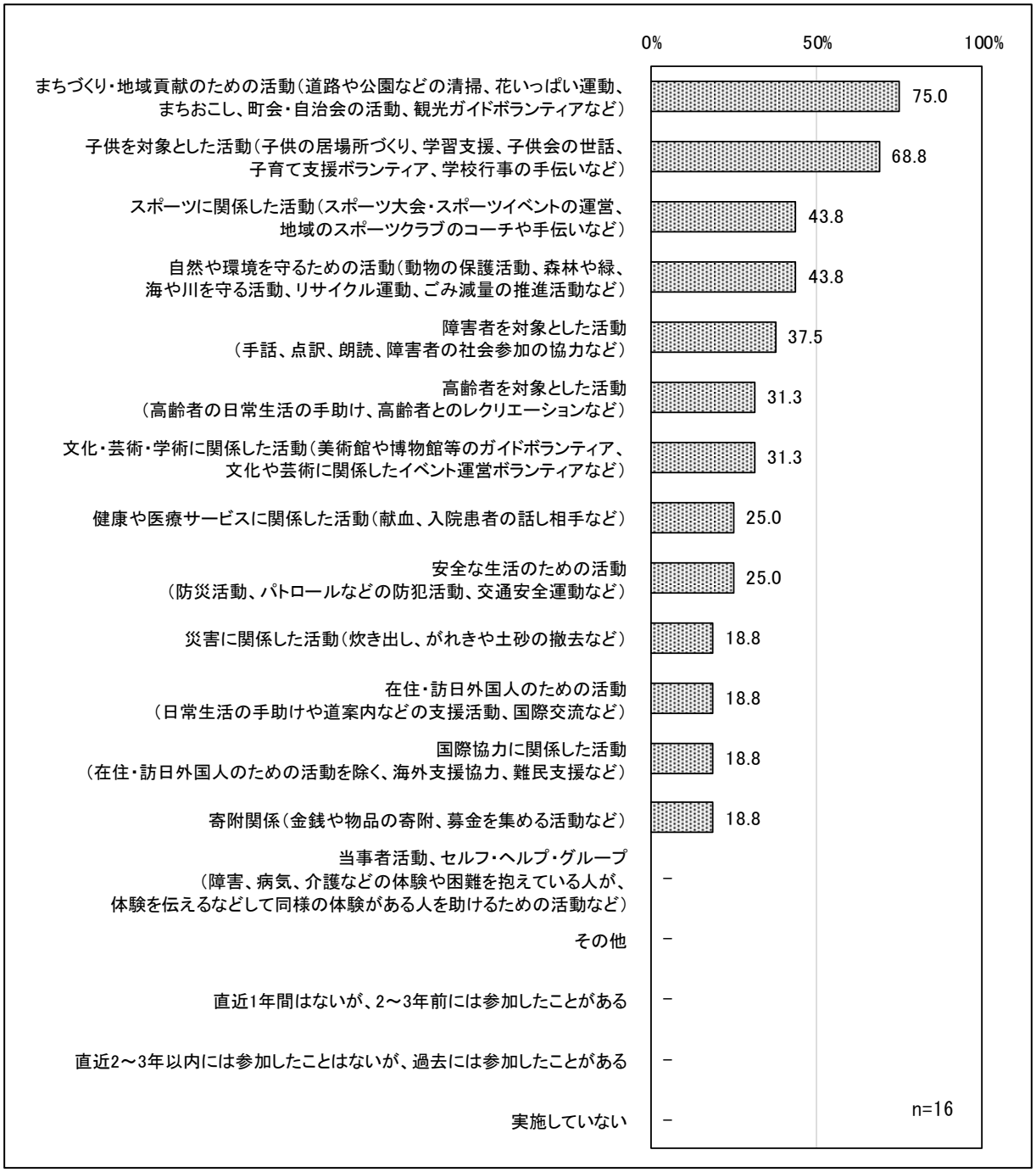
東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、新たに開始もしくは充実したものは、「ある」が 18.8%、「ない」が 75.0%であった。

１－５ 学生が参加したボランティア活動

（Q1 で 1、2 と答えた方）

Q5　貴学で直近 1 年間（令和 3 年 11 月 1 日から令和 4 年 10 月 31 日まで）にボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などが紹介・実施をして、実際に学生が参加したボランティア活動について、当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅲ-10. 学生が参加したボランティア活動



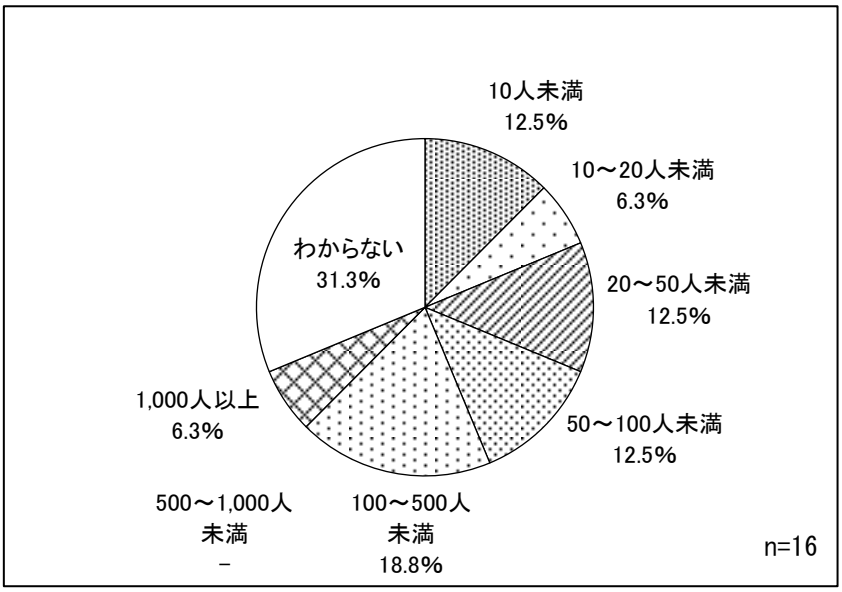
直近 1 年間に学生が参加したボランティア活動は、「まちづくり・地域貢献のための活動」が 75.0％で最も高かった。次いで、「子供を対象とした活動」が 68.8％であった。

１－６ ボランティア活動に参加した学生数

（Q5 で 1～15 と答えた方）

Q6　貴学のボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などが紹介・実施したボランティア活動（寄附関係を含まない）に直近 1 年間（令和 3 年 11 月 1 日から令和 4 年 10 月 31 日まで）で参加した学生数（延べ人数）は何人ですか。（単一回答）

図表Ⅲ-11. ボランティア活動に参加した学生数



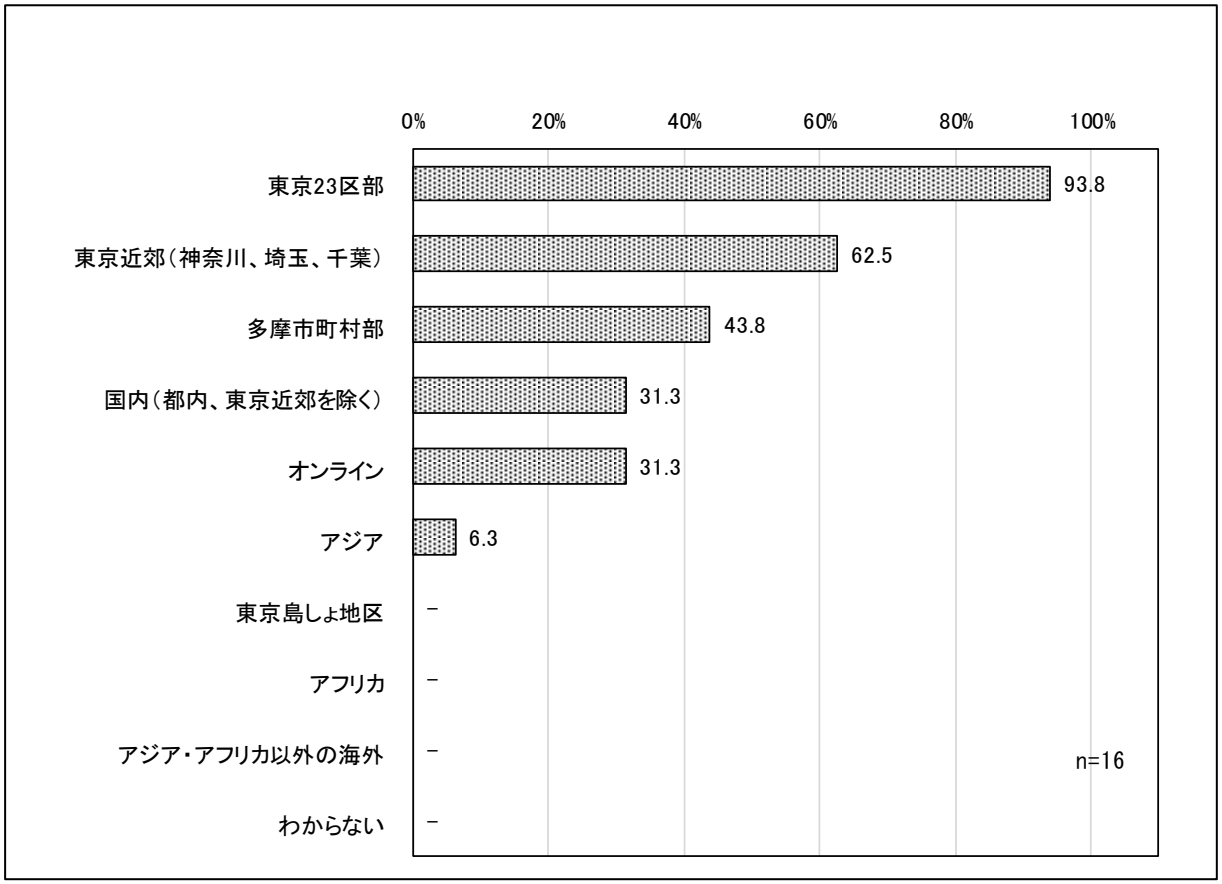
直近 1 年間でボランティア活動に参加した学生数は、「10 人未満」が 12.5%、「10～20 人未満」が 6.3%、「20～50 人未満」と「50～100 人未満」がいずれも 12.5%、「100～500 人未満」が 18.8%、「1,000 人以上」が 6.3%であった。

１－７ 学生が参加したボランティア活動の地域

（Q5 で 1～15 と答えた方）

Q7　貴学のボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などが紹介・実施して実際に学生が参加したボランティア活動について、活動した地域はどこですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅲ-12. 学生が参加したボランティア活動の地域



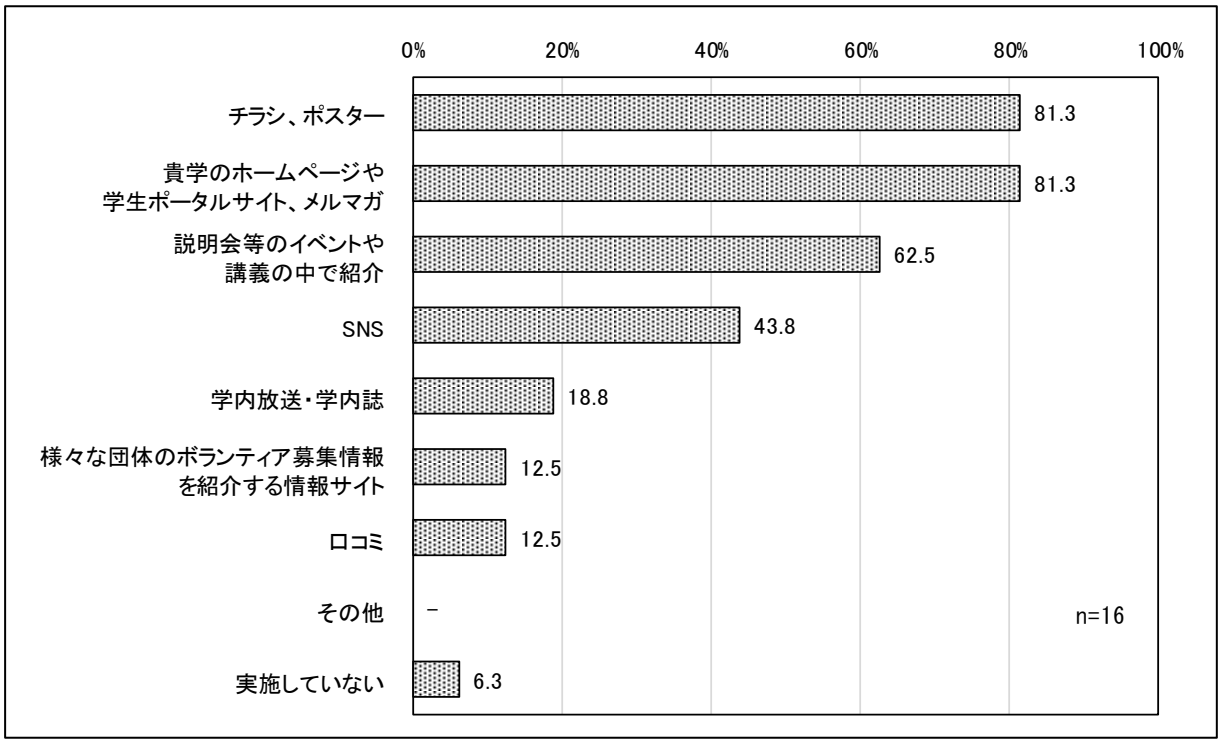
学生が参加したボランティア活動の地域は、「東京 23 区部」が 93.8％で最も高かった。次いで、「東京近郊（神奈川、埼玉、千葉）」が 62.5％、「多摩市町村部」が 43.8％であった。

１－８ 学生へのボランティア活動の周知方法

（Q1 で 1、2 と答えた方）

Q8　学生へのボランティア情報の周知方法について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅲ-13. 学生へのボランティア活動の周知方法



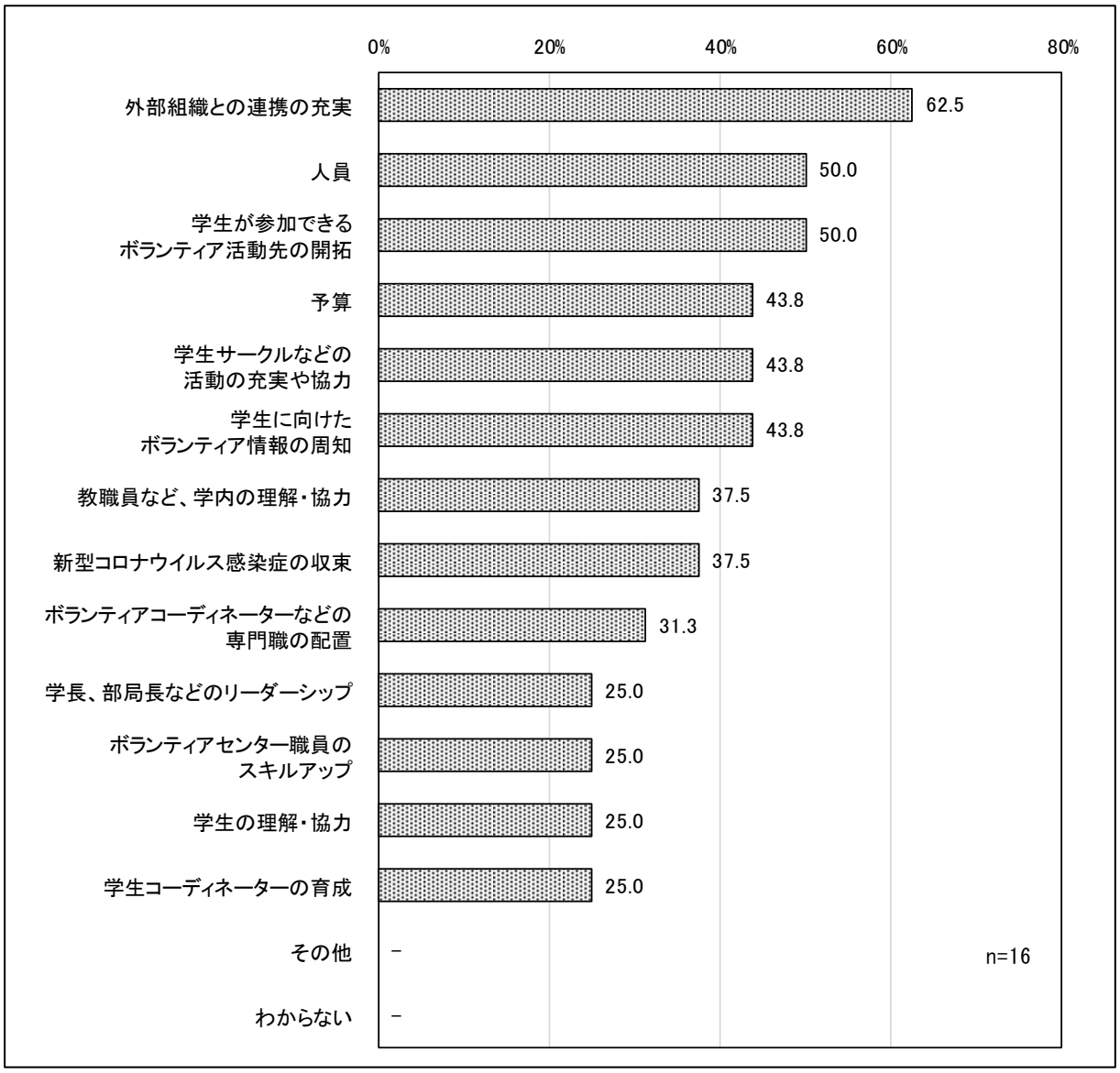
学生へのボランティア活動の周知方法は、「チラシ、ポスター」と「貴学のホームページや学生ポータルサイト、メルマガ」がいずれも 81.3%、「説明会等のイベントや講義の中で紹介」が 62.5%であった。

１－９ 学内ボランティア活動を充実させていくための課題

（Q1 で 1、2 と答えた方）

Q9　学内のボランティア活動を充実させていくための課題は何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅲ-14. 学内ボランティア活動を充実させていくための課題



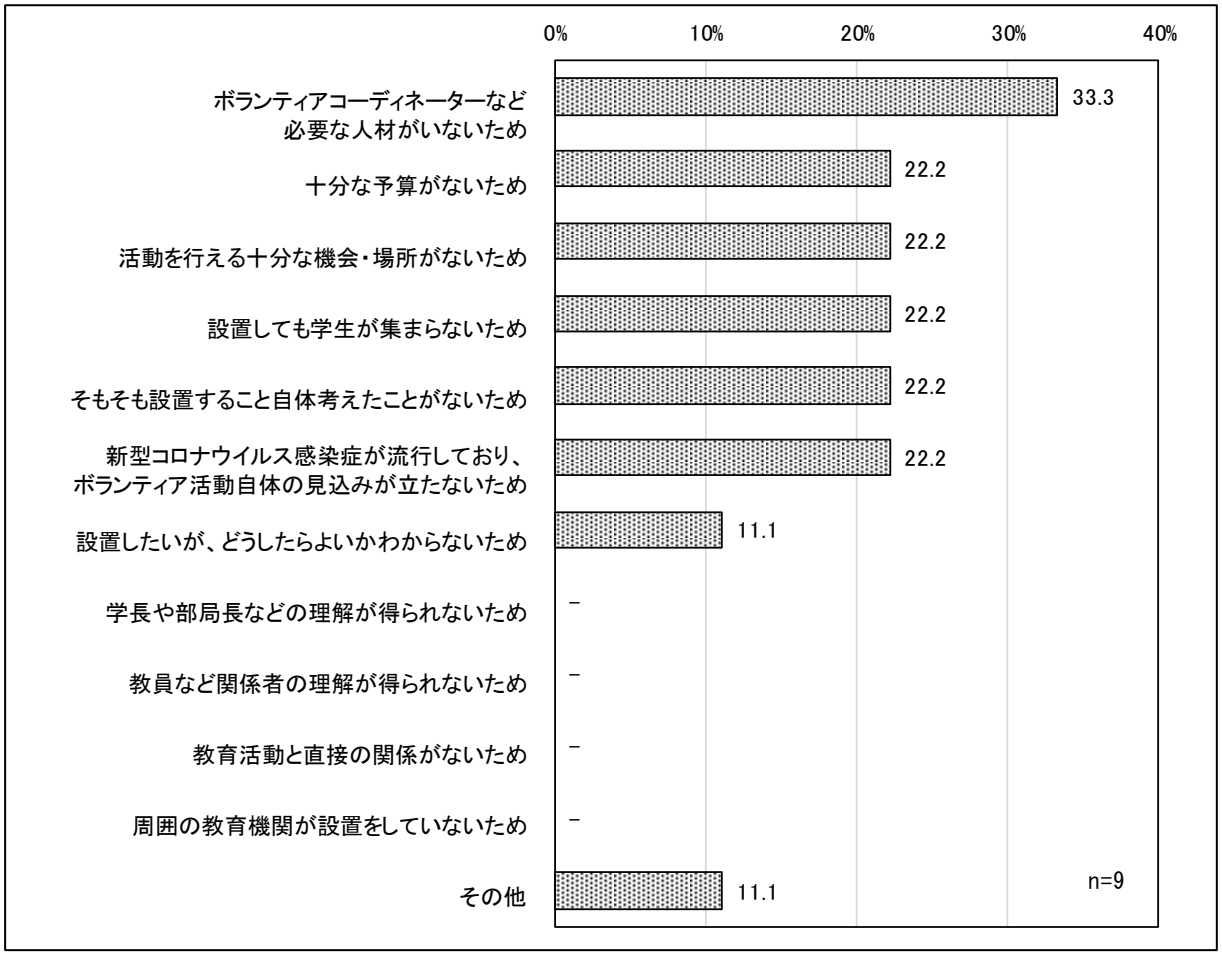
学内ボランティア活動を充実させていくための課題は、「外部組織との連携の充実」が 62.5%で最も高かった。次いで、「人員」と「学生が参加できるボランティア活動先の開拓」がいずれも 50.0%であった。

１－１０ ボランティア活動支援部署などを設置していない理由

（Q1 で 3 と答えた方）

Q10　ボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などを設置していない理由について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅲ-15. ボランティア活動支援部署などを設置していない理由



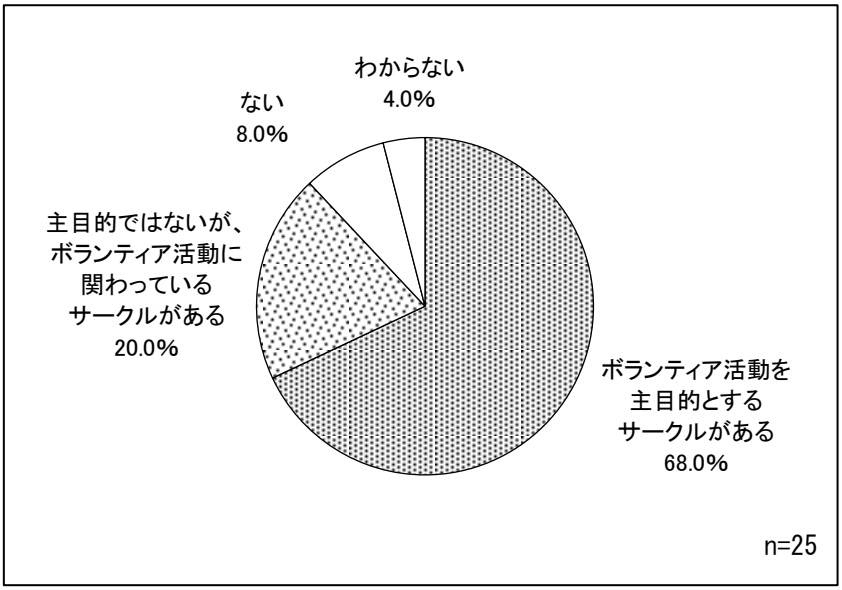
ボランティア活動支援部署などを設置していない理由は、「ボランティアコーディネーターなど必要な人材がいないため」が 33.3%で最も高かった。

１－１１ 学生ボランティアサークルの有無

（すべてと答えた方）

Q11　貴学に学生のボランティアサークルなどはありますか。（単一回答）

図表Ⅲ-16. 学生ボランティアサークルの有無



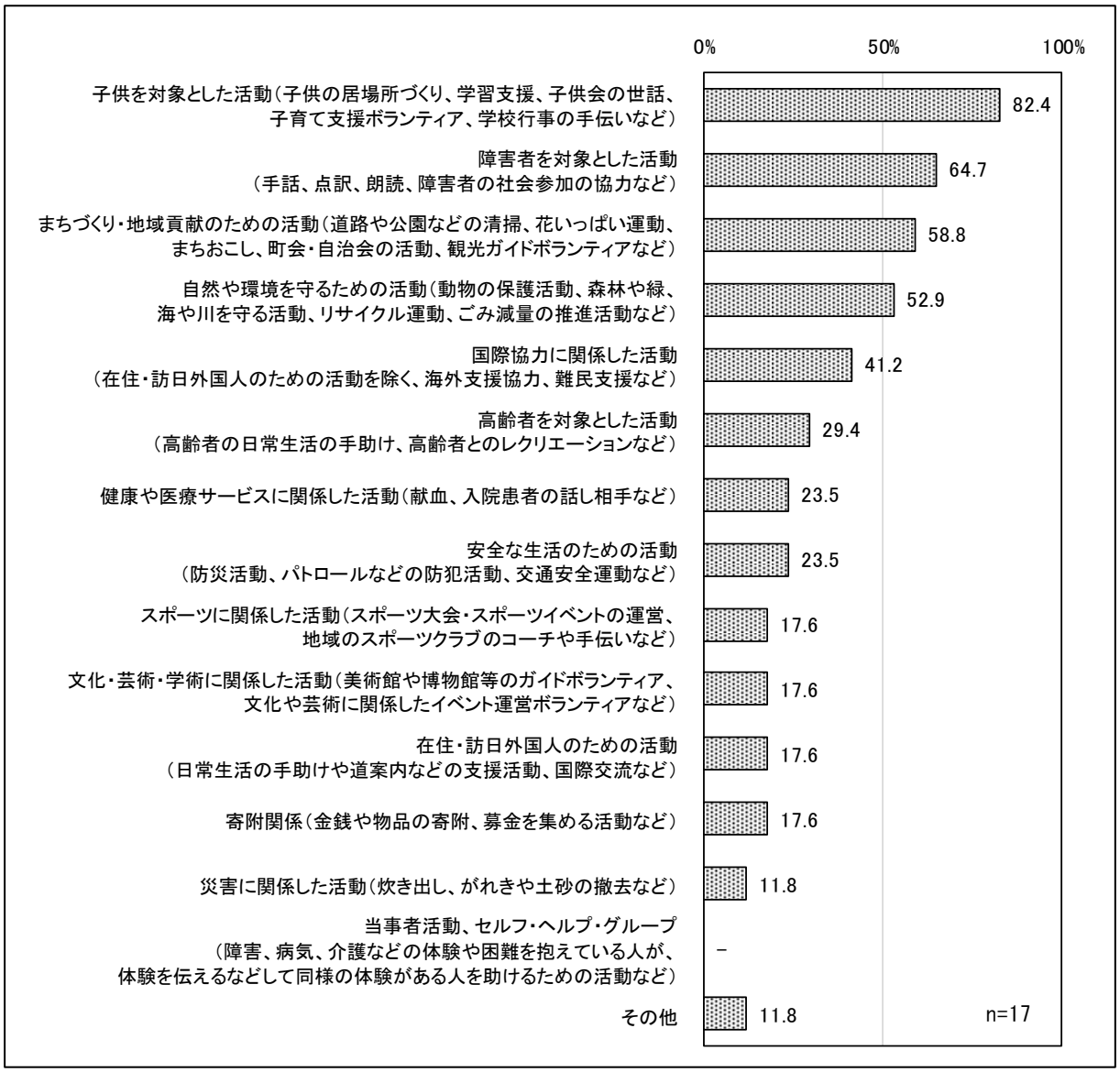
学生ボランティアサークルの有無は、「ボランティア活動を主目的とするサークルがある」が68.0%、「主目的ではないが、ボランティア活動に関わっているサークルがある」が20.0%、「ない」が8.0%であった。

１－１２ ボランティア活動を主目的とするサークルなどの活動内容、団体数、学生数

（Q11 で１と答えた方）

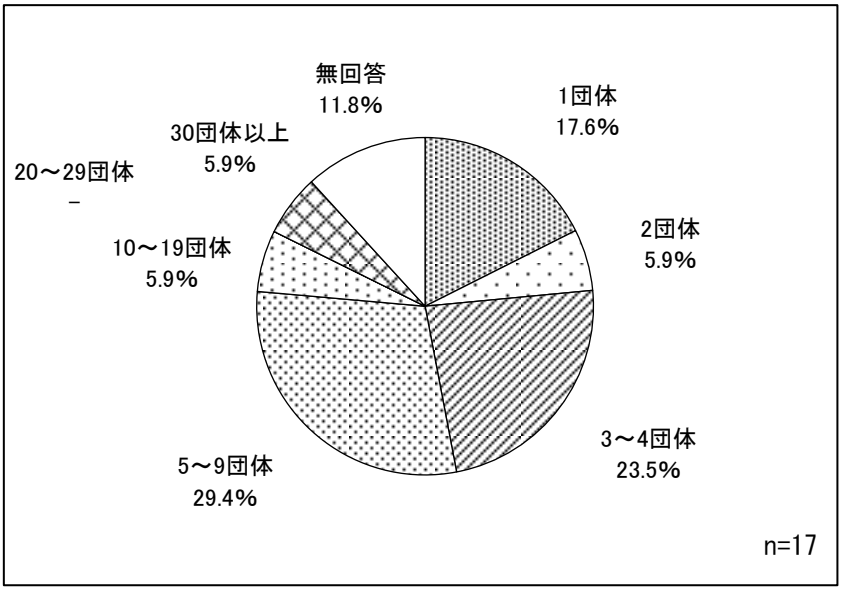
Q12　ボランティア活動を主目的とするサークルなどの活動内容、団体数、学生数をお答えください。

図表Ⅲ-17. ボランティア活動を主目的とするサークルなどの活動内容



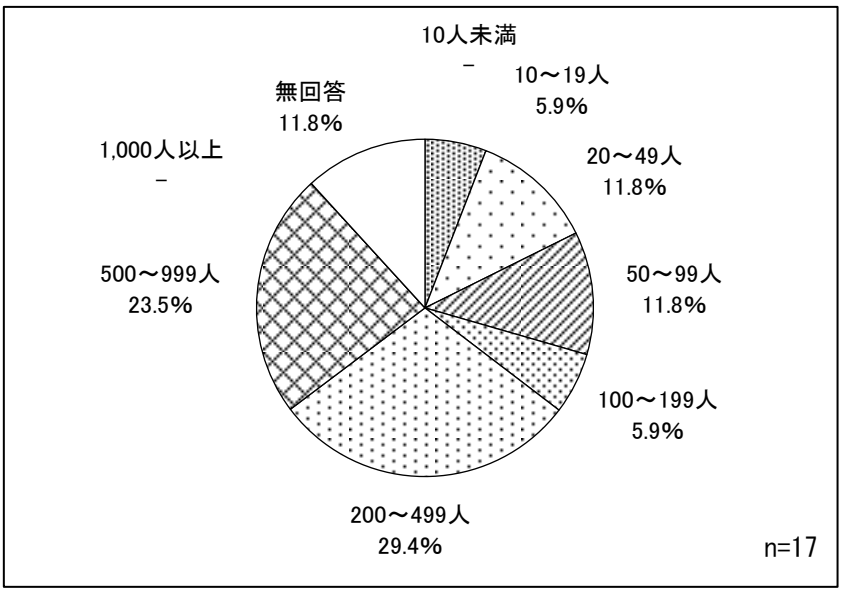
ボランティア活動を主目的とするサークルなどの活動内容は、「子供を対象とした活動」が 82.4％で最も高かった。次いで、「障害者を対象とした活動」が 64.7％、「まちづくり・地域貢献のための活動」が 58.8％であった。

図表Ⅲ-18. ボランティア活動を主目的とするサークルなどの団体数



ボランティア活動を主目的とするサークルなどの団体数は、「1 団体」が 17.6%、「2 団体」が 5.9%、「3～4 団体」が 23.5%、「5～9 団体」が 29.4%、「10～19 団体」が 5.9%、「30 団体以上」が 5.9%であった。

図表Ⅲ-19. ボランティア活動を主目的とするサークルなどの学生数

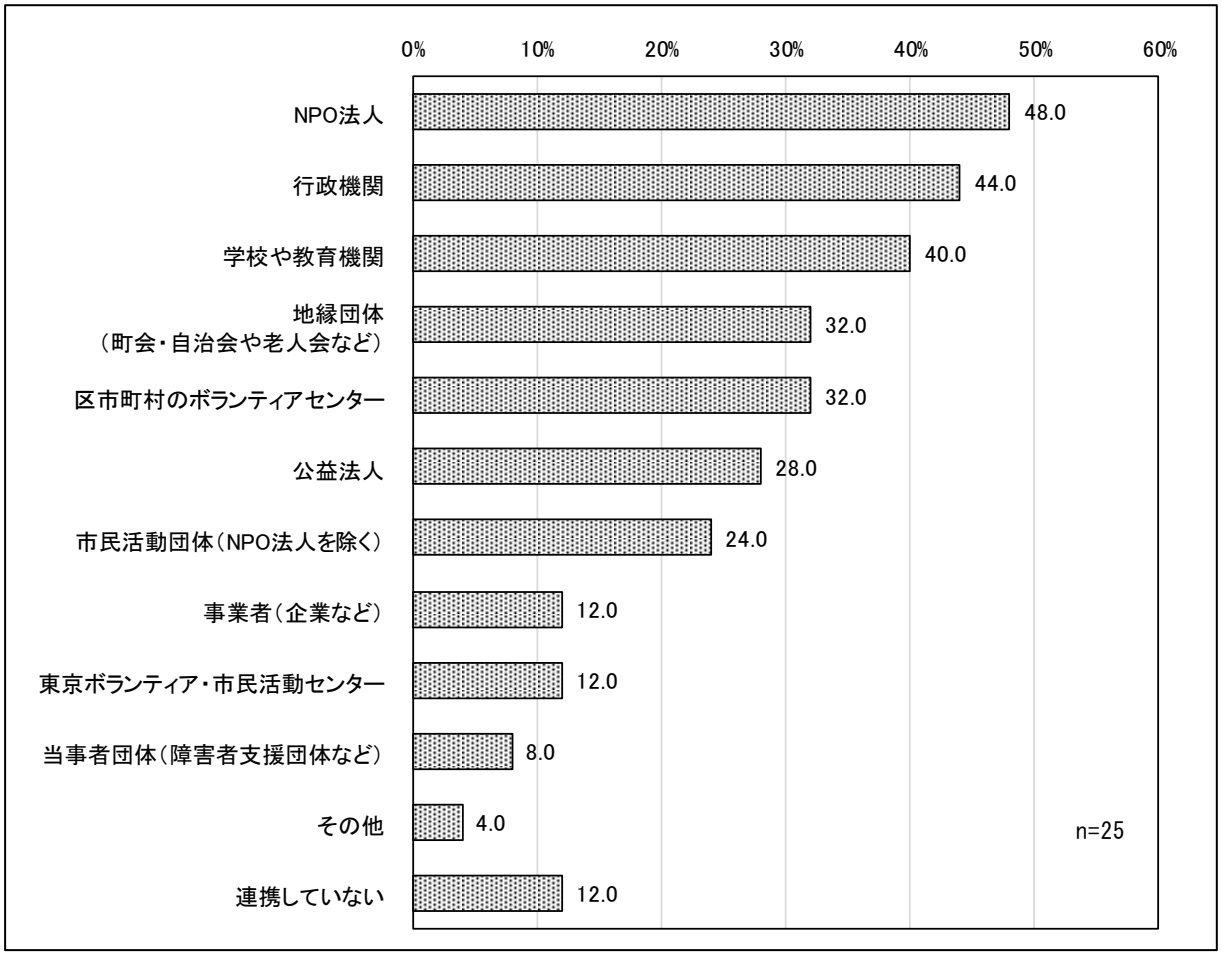


ボランティア活動を主目的とするサークルなどの学生数は、「10～19 人」が 5.9%、「20～49 人」と「50～99 人」がいずれも 11.8%、「100～199 人」が 5.9%、「200～499 人」が 29.4%、「500～999 人」が 23.5%であった。

１－１３ 連携団体

Q13　ボランティア活動の企画・実施にあたって、連携している団体はありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表Ⅲ-20. 連携団体

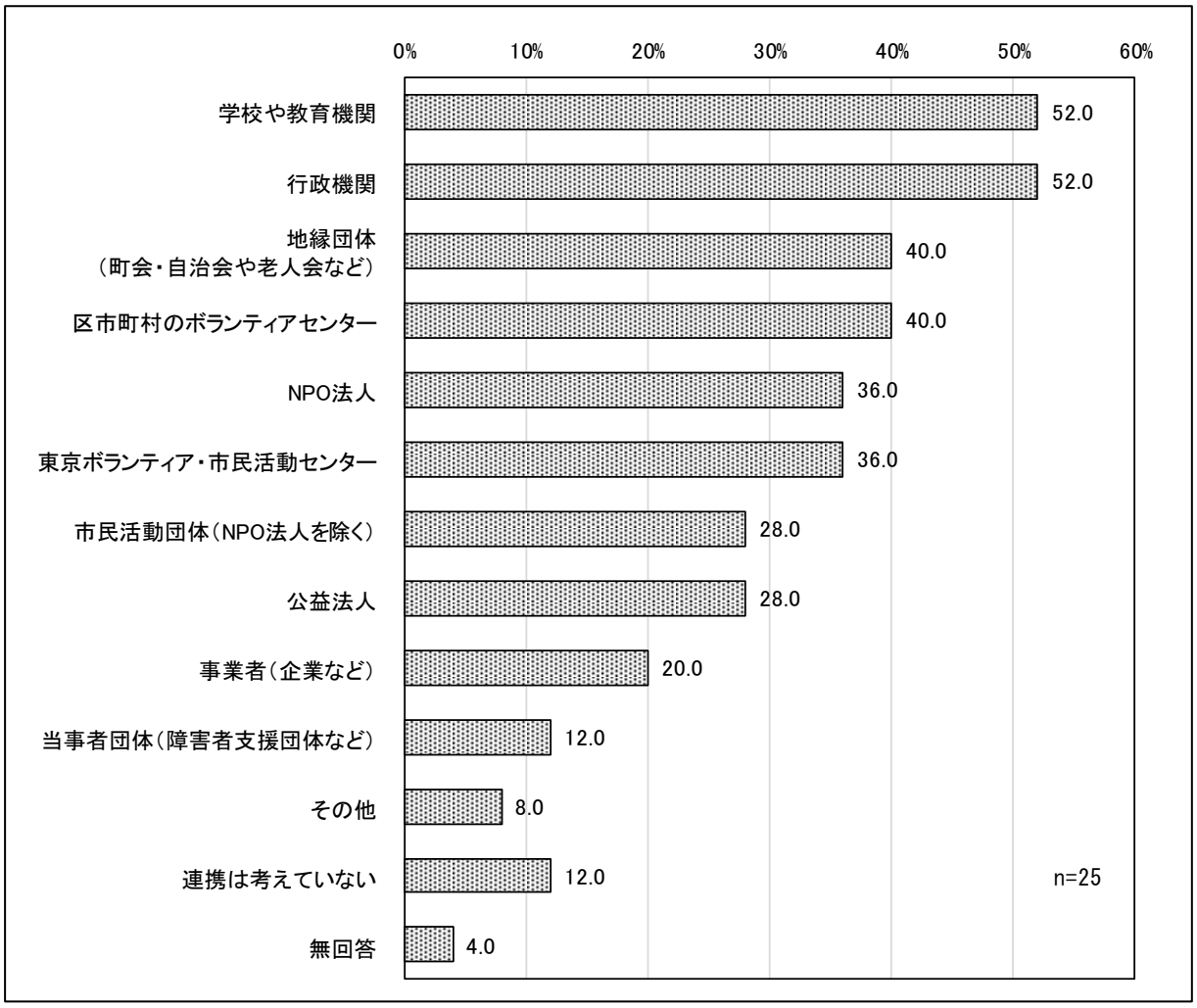


ボランティア活動の企画・実施にあたって連携している団体は、「NPO 法人」が 48.0%で最も高かった。次いで、「行政機関」が 44.0%、「学校や教育機関」が 40.0%であった。

１－１４ 今後連携したい団体

Q14　ボランティア活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体があれば、当てはまるものをすべてお答えください。現在、既に連携していて、今後も引き続き連携したい場合も含めてお答えください。（複数回答）

図表Ⅲ-21. 今後連携したい団体

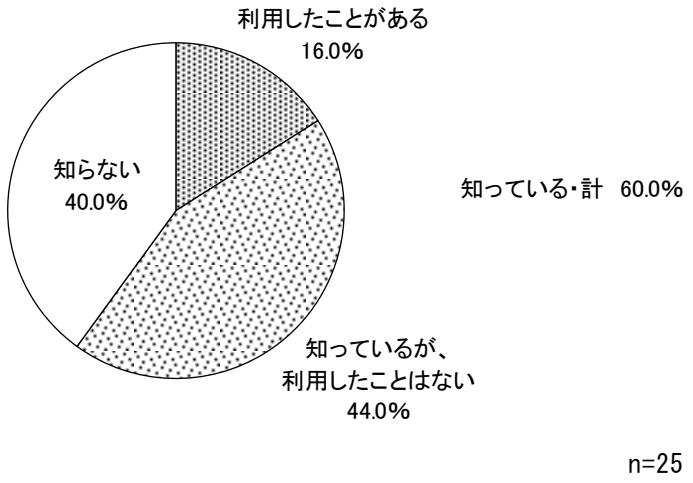


今後連携したい団体は、「学校や教育機関」と「行政機関」がいずれも 52.0%、「地縁団体（町会・自治会や老人会など）」と「区市町村のボランティアセンター」がいずれも 40.0%であった。

１－１５ 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験

Q15　東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）

図表Ⅲ-22. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験



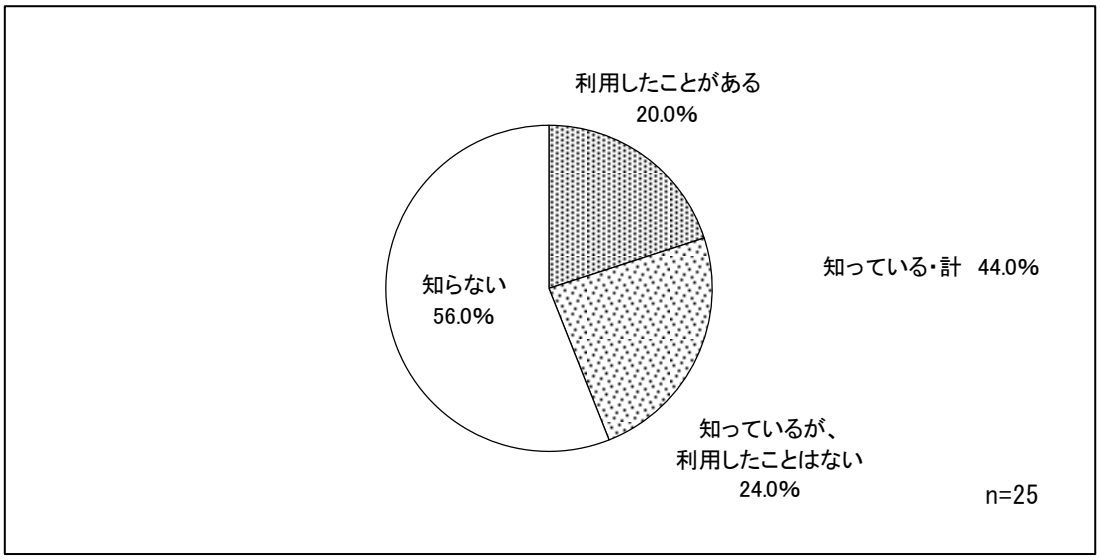
（注）『知っている・計』は「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」の合計

東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が16.0%、「知っているが、利用したことはない」が44.0%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は60.0%であった。一方、「知らない」は40.0%であった。

１－１６ 「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験

Q16　東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」はご存じですか。また、利用したことはありますか。(単一回答)

図表Ⅲ-23. 「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験

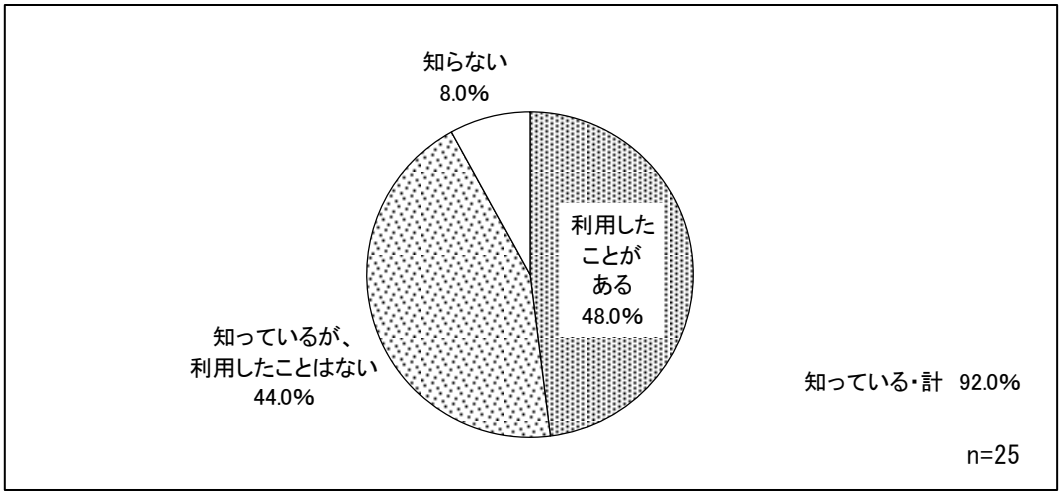


「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が 20.0%、「知っているが、利用したことはない」が 24.0%で、この 2 項目を合わせた『知っている・計』は 44.0%であった。一方、「知らない」は 56.0%であった。

１－１７ 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

Q17　区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。(単一回答)

図表Ⅲ-24. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

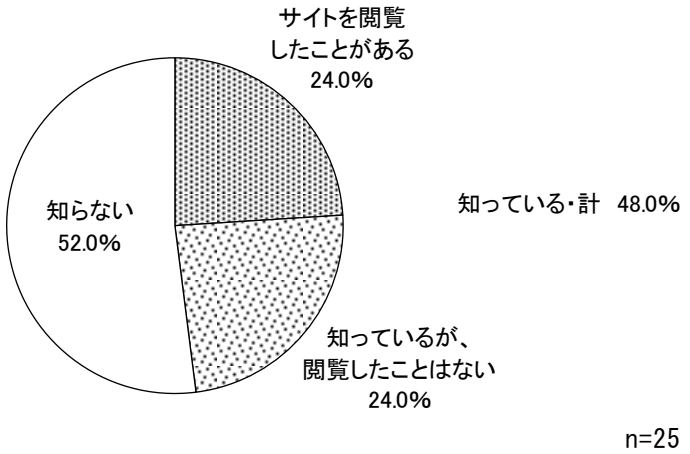


社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が 48.0%、「知っているが、利用したことはない」が 44.0%で、この 2 項目を合わせた『知っている・計』は 92.0%であった。一方、「知らない」は 8.0%であった。

１－１８ 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験

Q18　東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア活動情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。（単一回答）

図表Ⅲ-25. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験



（注）『知っている・計』は「サイトを閲覧したことがある」
「知っているが、閲覧したことはない」の合計

「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験は、「サイトを閲覧したことがある」と「知っているが、閲覧したことはない」がいずれも 24.0％で、この 2 項目を合わせた『知っている・計』は 48.0％であった。一方、「知らない」は 52.0％であった。

１－１９ 今後の取組意向

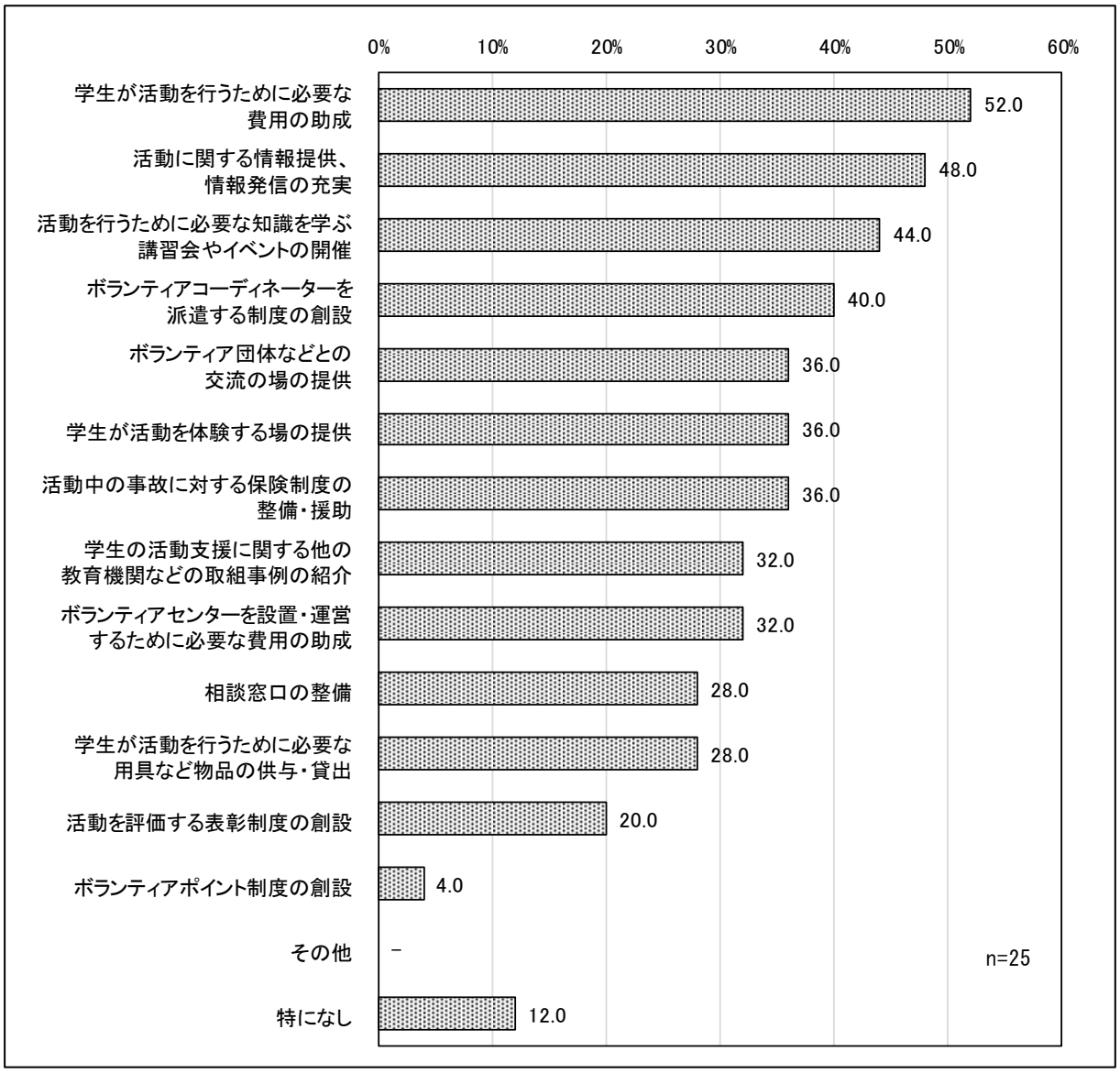
Q19　ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

記述内容
2022年度から2024年度まで、東京2020大会のレガシーとしてDiversity&Inclusionに関する事業を実施している。
今後もサークル活動の一環として学生のやる気があれば支援していく予定。

１－２０ ボランティア活動に関して望む支援

Q20　ボランティア活動に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅲ-26. ボランティア活動に関して望む支援



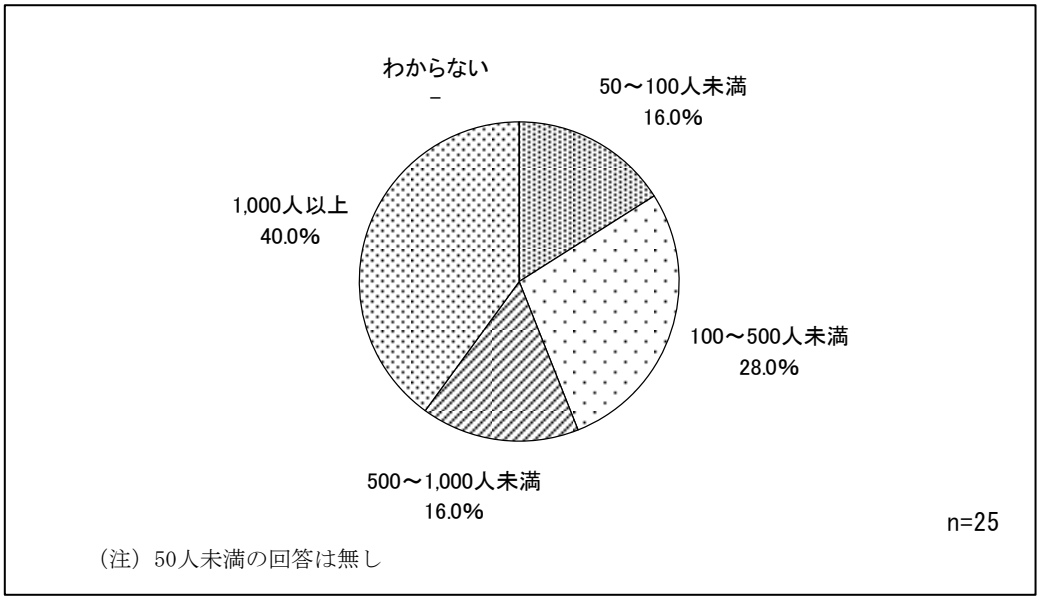
ボランティア活動に関して望む支援は、「学生が活動を行うために必要な費用の助成」が52.0％で最も高かった。次いで、「活動に関する情報提供、情報発信の充実」が48.0％、「活動を行うために必要な知識を学ぶ講習会やイベントの開催」が44.0％であった。

２ 学校の概要について

２－１ 総職員数

Q21　貴学の職員（教授など含む）の総数は何人ですか。（単一回答）

図表Ⅲ-27. 総職員数

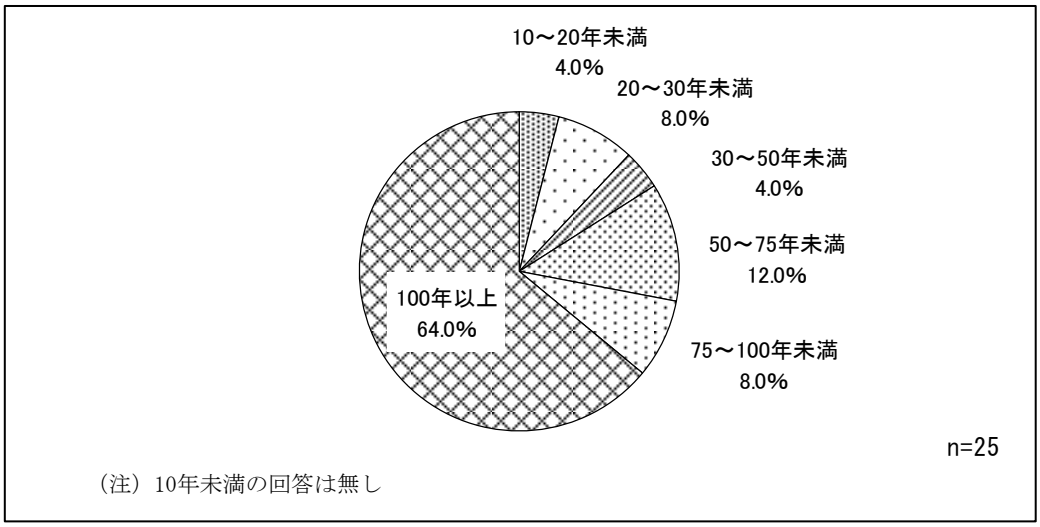


総職員数は、「50～100 人未満」が 16.0%、「100～500 人未満」が 28.0%、「500～1,000 人未満」が 16.0%、「1,000 人以上」が 40.0%であった。

２－２ 設立からの経過年数

Q22　貴学は設立から何年経っていますか。（単一回答）

図表Ⅲ-28. 設立からの経過年数

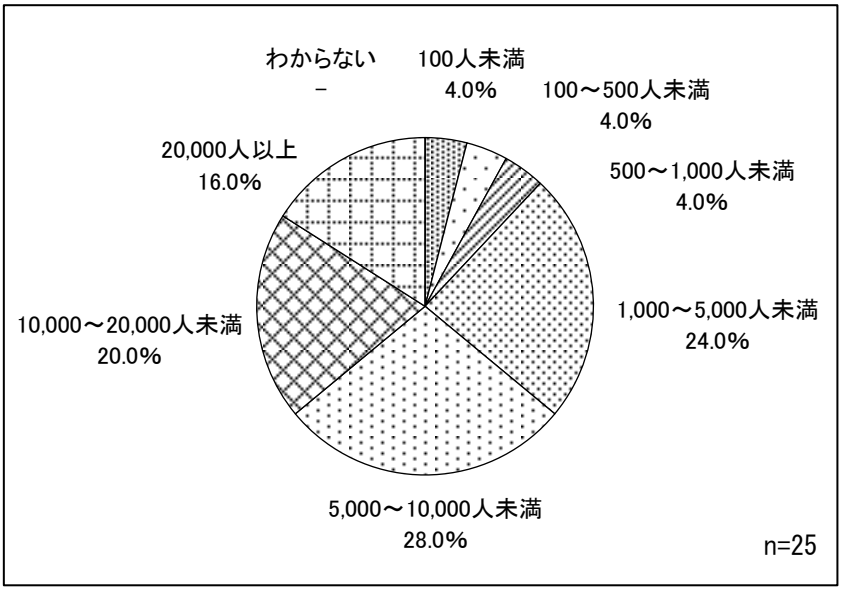


設立からの経過年数は、「10～20 年未満」が 4.0%、「20～30 年未満」が 8.0%、「30～50 年未満」が 4.0%、「50～75 年未満」が 12.0%、「75～100 年未満」が 8.0%、「100 年以上」が 64.0%であった。

２－３ 学生数

Q23　貴学の学生数は何人ですか。（単一回答）

図表Ⅲ-29. 学生数



学生数は「100 人未満」と「100～500 人未満」と「500～1,000 人未満」がいずれも 4.0%、「1,000 人～5,000 人未満」が 24.0%、「5,000～10,000 人未満」が 28.0%、「10,000～20,000 人未満」が 20.0%、「20,000 人以上」が 16.0%であった。

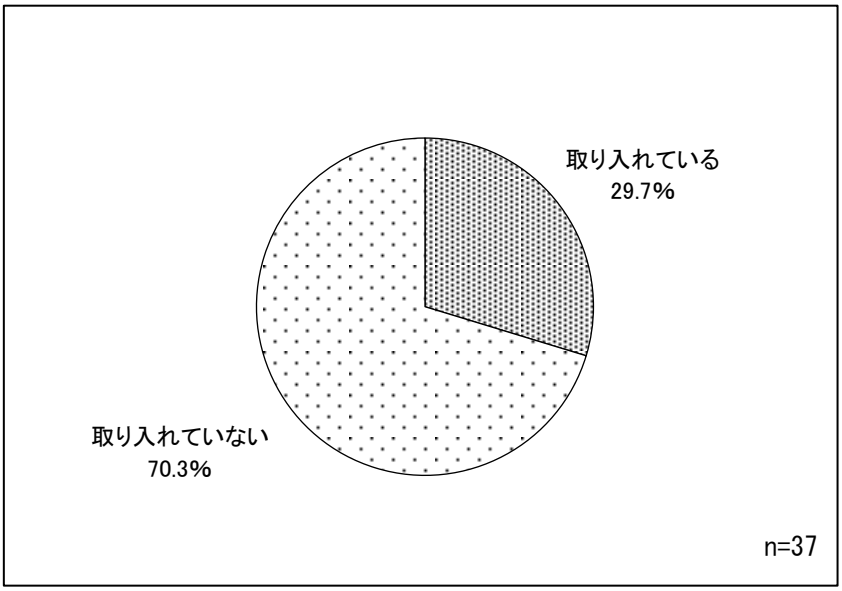
Ⅳ. 中学高校向け調査

１ ボランティア活動について

１－１ 授業でのボランティア活動の取り入れ状況

Q1	授業にボランティア活動※を取り入れていますか。 ※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

図表Ⅳ-1. 授業でのボランティア活動の取り入れ状況



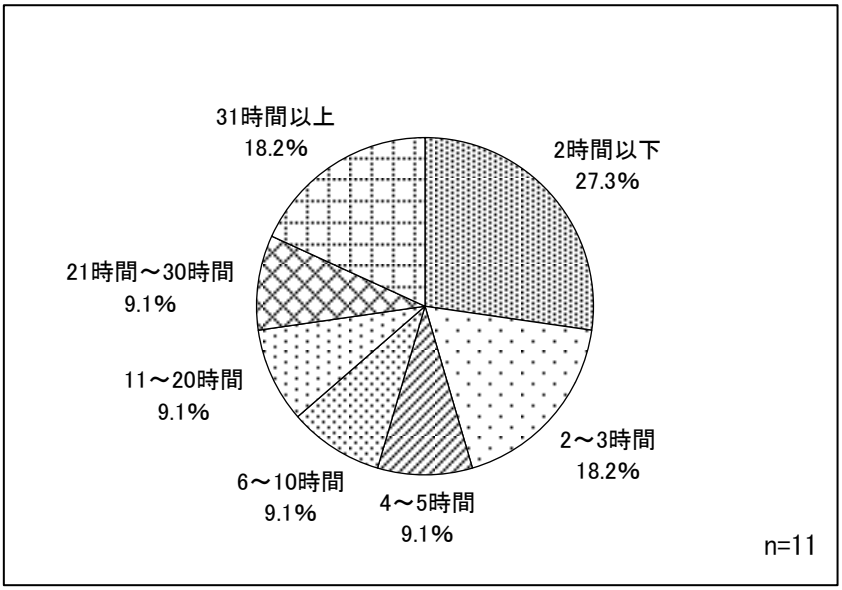
授業でのボランティア活動の取り入れ状況は、「取り入れている」が 29.7%、「取り入れていない」が 70.3%であった。

１－２ 授業に取り入れたボランティア活動の年間時間数及び教科名

（Q1 で 1 と答えた方）

Q2　授業に取り入れたボランティア活動の年間時間数及び教科名をお答えください。

図表Ⅳ-2. 授業に取り入れたボランティア活動の年間時間数



授業に取り入れたボランティア活動の年間時間数は、「2 時間以下」が 27.3%、「2～3 時間」が 18.2%、「4～5 時間」と「6～10 時間」と「11～20 時間」と「21 時間～30 時間」がいずれも 9.1%、「31 時間以上」が 18.2%であった。

授業に取り入れたボランティア活動の教科名
総合的な探求の時間
人間と社会
介護総合演習
総合的な学習の時間
探求活動
宗教科（福祉演習）、総合的な学習の時間
総合的な学習の時間
人間と社会
総合的な学習の時間
道徳
学級活動

１－３ 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果

（Q1 で１と答えた方）

Q3　授業に取り入れたボランティア活動のうち、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。（単一回答）

授業にボランティア活動を取り入れている 11 校に、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、新たに開始もしくは充実したものの有無を聞いたところ、11 校全てが「ない」との回答であった。

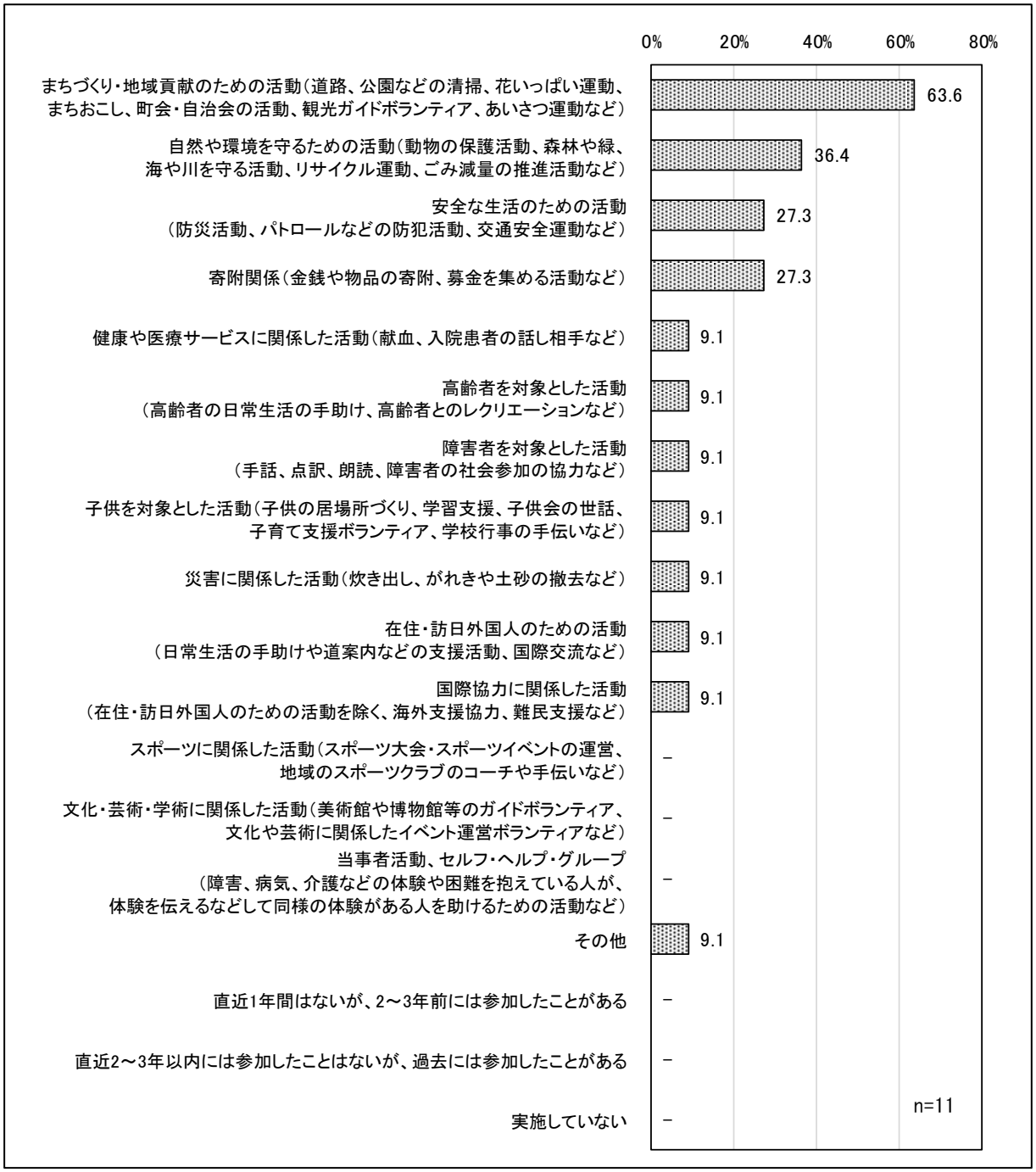
※本質問は「ある」「ない」「わからない」の選択肢のうち、回答は「ない」のみであったため、図は省略

１－４ 授業で生徒が参加したボランティア活動

（Q1 で 1 と答えた方）

Q4　直近 1 年間（令和 3 年 11 月 1 日から令和 4 年 10 月 31 日まで）に授業で実際に生徒が参加したボランティア活動がある場合、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅳ-3. 授業で生徒が参加したボランティア活動



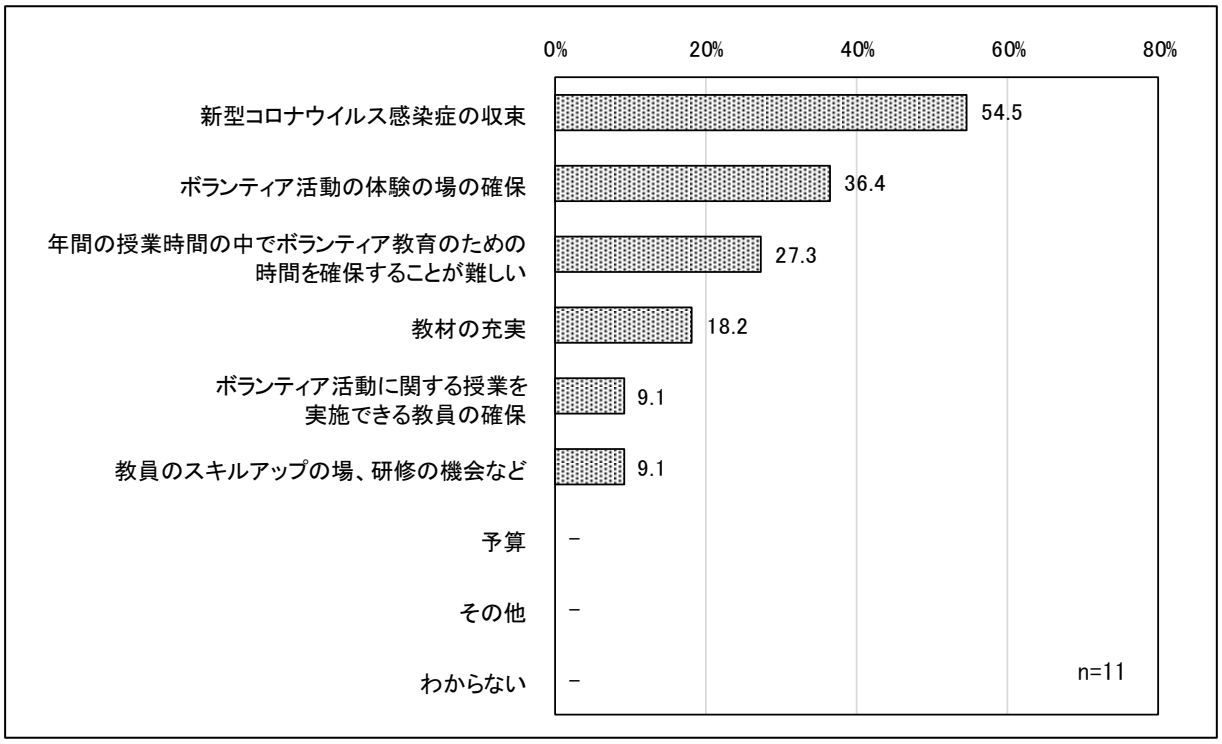
直近 1 年間に授業で生徒が参加したボランティア活動は、「まちづくり・地域貢献のための活動」が 63.6％で最も高かった。次いで、「自然や環境を守るための活動」が 36.4％であった。

１－５ 授業でボランティア活動を取り入れるための課題

（Q1 で１と答えた方）

Q5　授業でボランティア活動を取り入れていくための課題（授業を行っていく上での課題）は何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅳ-4. 授業でボランティア活動を取り入れるための課題



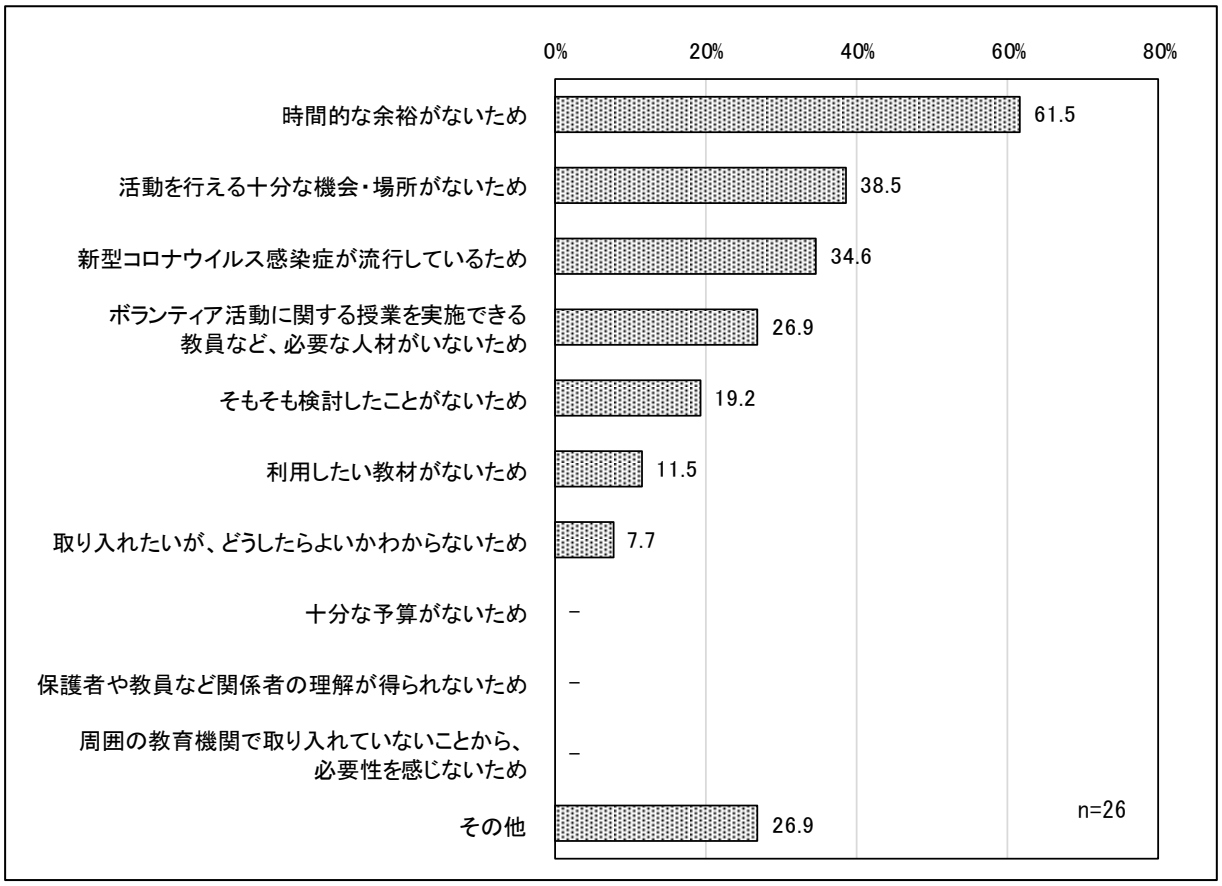
授業でボランティア活動を取り入れるための課題は、「新型コロナウイルス感染症の収束」が 54.5％で最も高かった。次いで、「ボランティア活動の体験の場の確保」が 36.4％、「年間の授業時間の中でボランティア教育のための時間を確保することが難しい」が 27.3％であった。

１－６ 授業にボランティア活動を取り入れていない理由

（Q1 で 2 と答えた方）

Q6　授業にボランティア活動を取り入れていない理由について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅳ-5. 授業にボランティア活動を取り入れていない理由

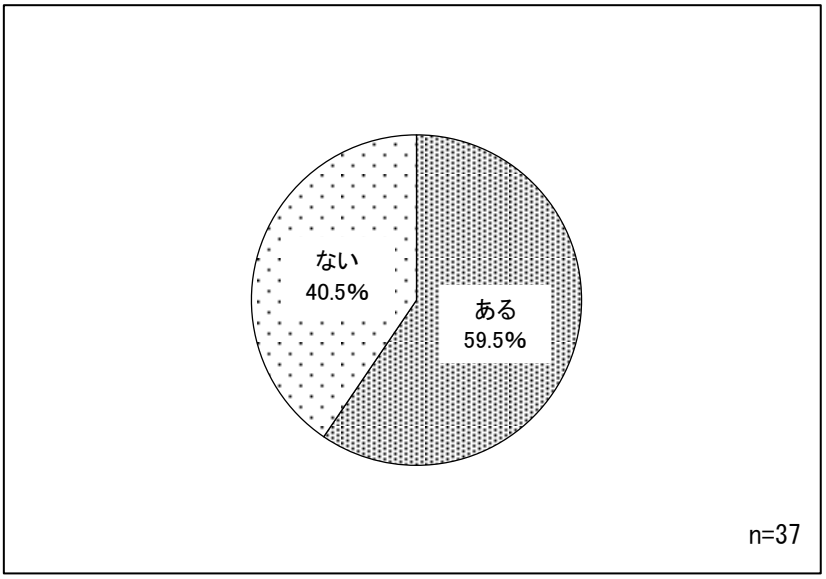


授業にボランティア活動を取り入れていない理由は、「時間的な余裕がないため」が 61.5%で最も高かった。次いで、「活動を行える十分な機会・場所がないため」が 38.5%、「新型コロナウイルス感染症が流行しているため」が 34.6%であった。

１－７ ボランティア活動を行う部活動の有無

Q7　ボランティア活動を行っている部活動などはありますか。

図表Ⅳ-6. ボランティア活動を行う部活動の有無



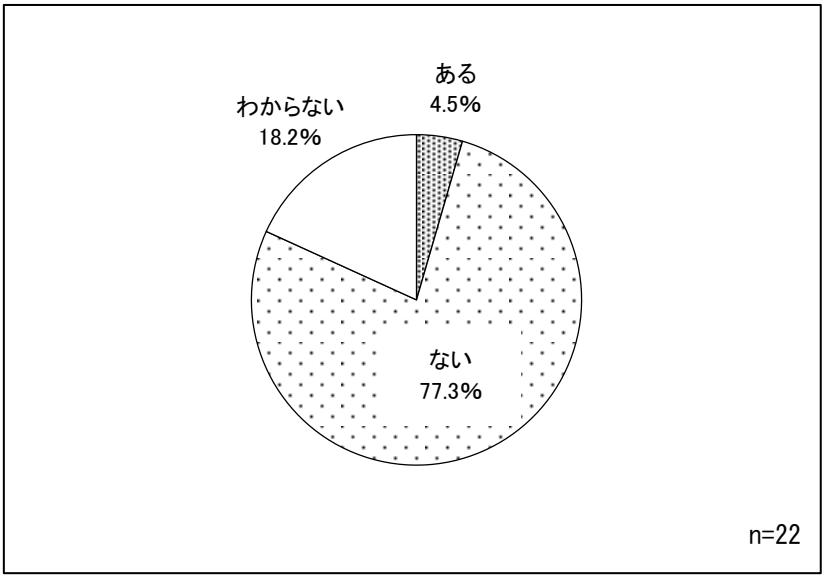
ボランティア活動を行う部活動の有無は、「ある」が 59.5%、「ない」が 40.5%であった。

１－８ 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果

（Q7 で 1 と答えた方）

Q8　ボランティア活動を行っている部活動のうち、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。（単一回答）

図表Ⅳ-7. 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果



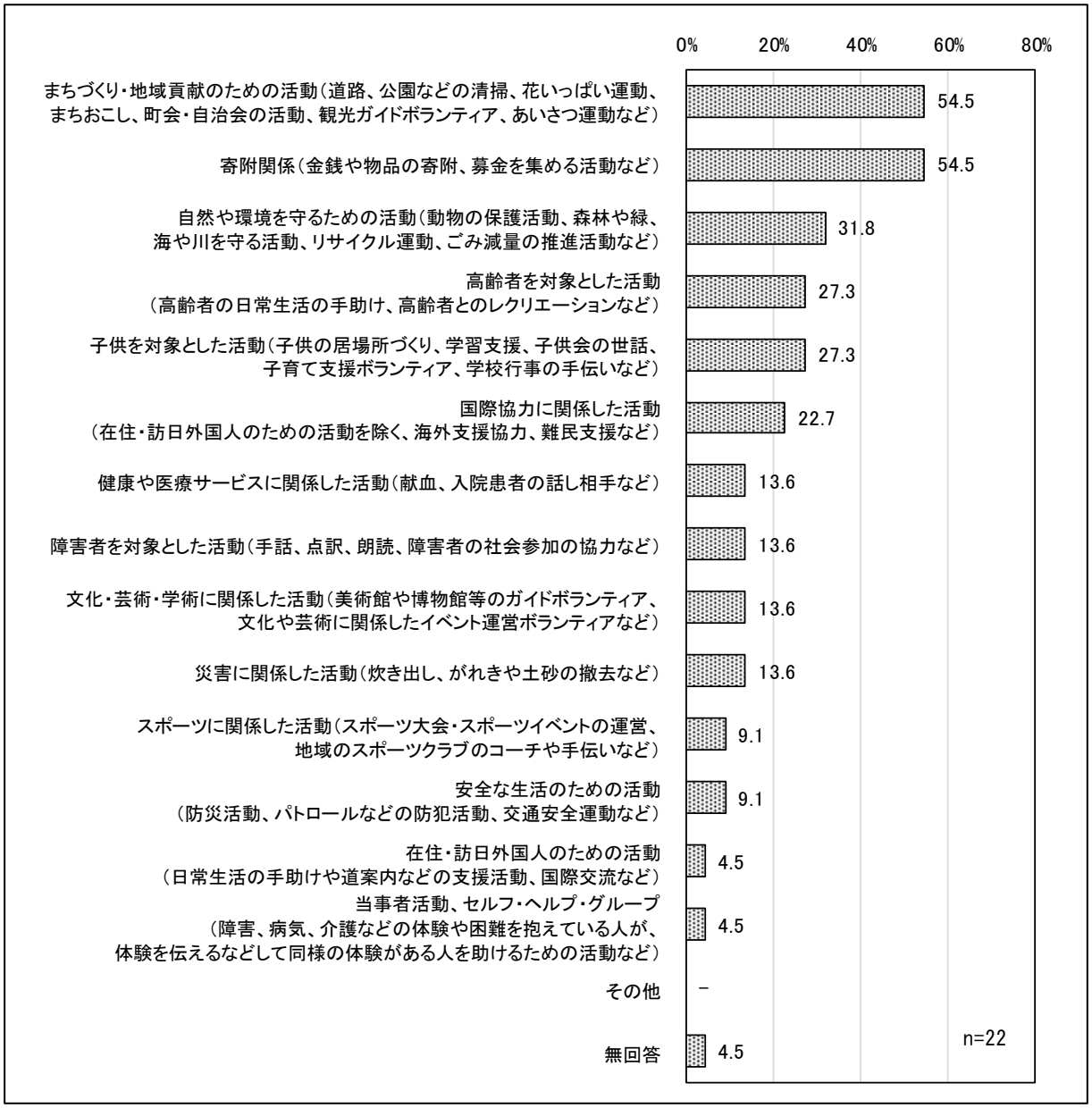
東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、新たに開始もしくは充実したものは、「ある」が 4.5%、「ない」が 77.3%であった。

１－９ ボランティア活動を行う部活動の活動内容、団体数、生徒数、担当教員数

（Q7 で１と答えた方）

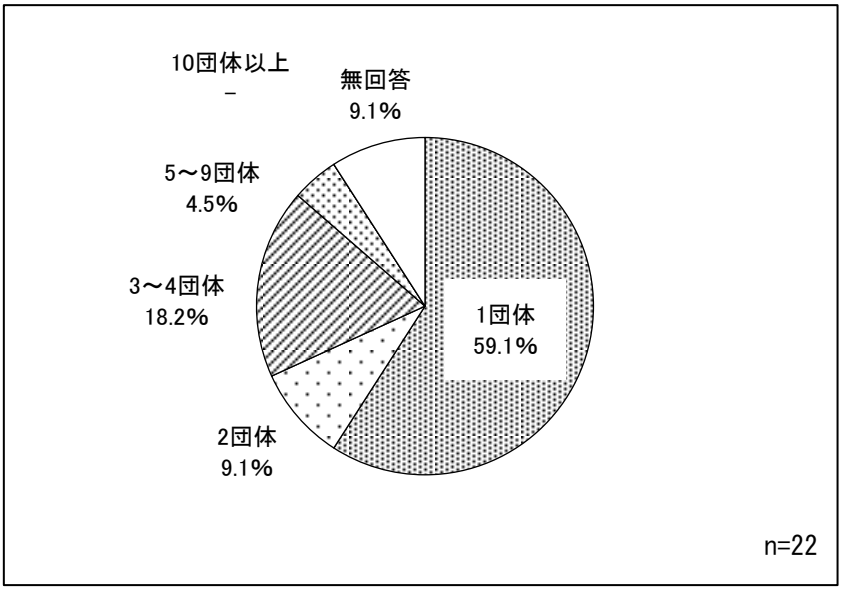
Q9　ボランティア活動を行っている部活動などの活動内容、団体数、生徒数、担当教員数をお答えください。

図表Ⅳ-8. ボランティア活動を行う部活動の活動内容



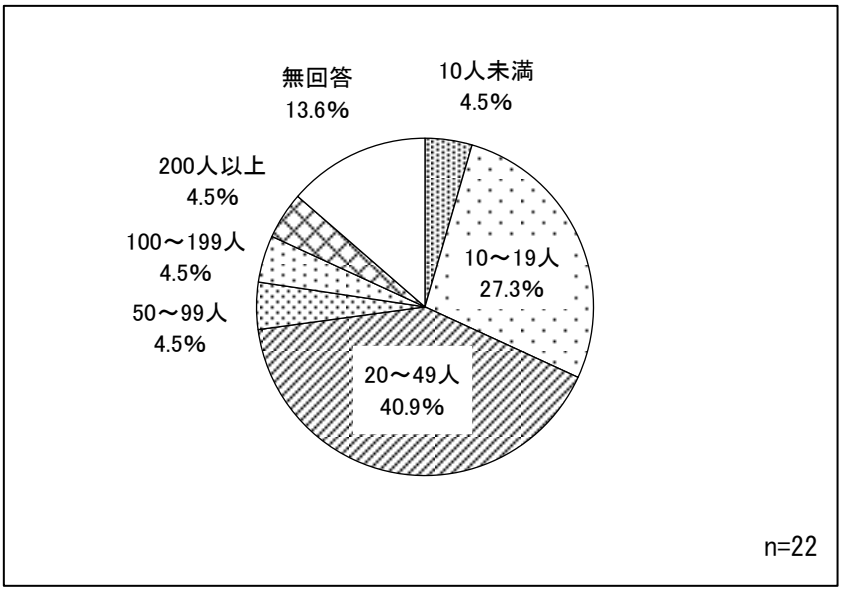
ボランティア活動を行う部活動の活動内容は、「まちづくり・地域貢献のための活動」と「寄附関係」がいずれも 54.5%、「自然や環境を守るための活動」が 31.8%であった。

図表Ⅳ-9. ボランティア活動を行う部活動の団体数



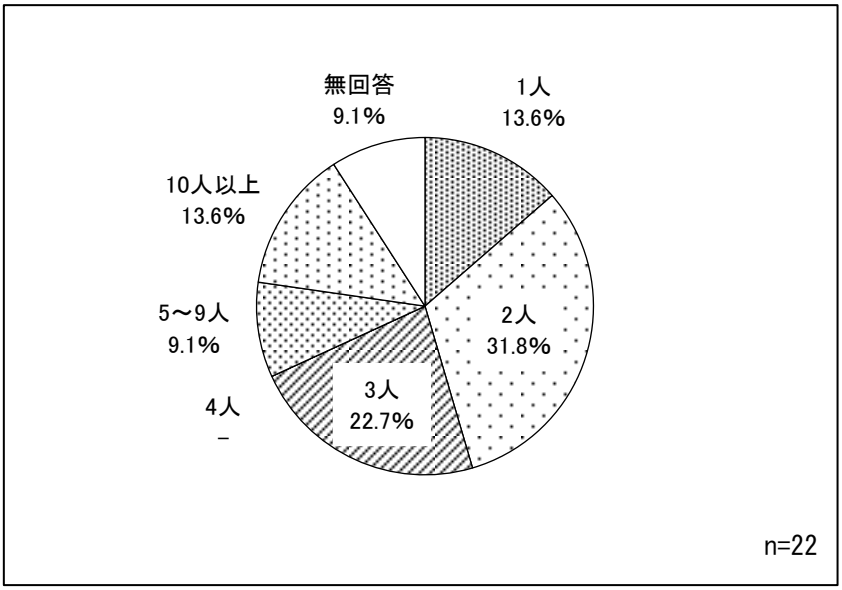
ボランティア活動を行う部活動の団体数は、「1 団体」が 59.1%、「2 団体」が 9.1%、「3～4 団体」が 18.2%、「5～9 団体」が 4.5%であった。

図表Ⅳ-10. ボランティア活動を行う部活動の生徒数



ボランティア活動を行う部活動の生徒数は、「10 人未満」が 4.5%、「10～19 人」が 27.3%、「20～49 人」が 40.9%、「50～99 人」と「100～199 人」と「200 人以上」がいずれも 4.5%であった。

図表Ⅳ-11. ボランティア活動を行う部活動の担当教員数



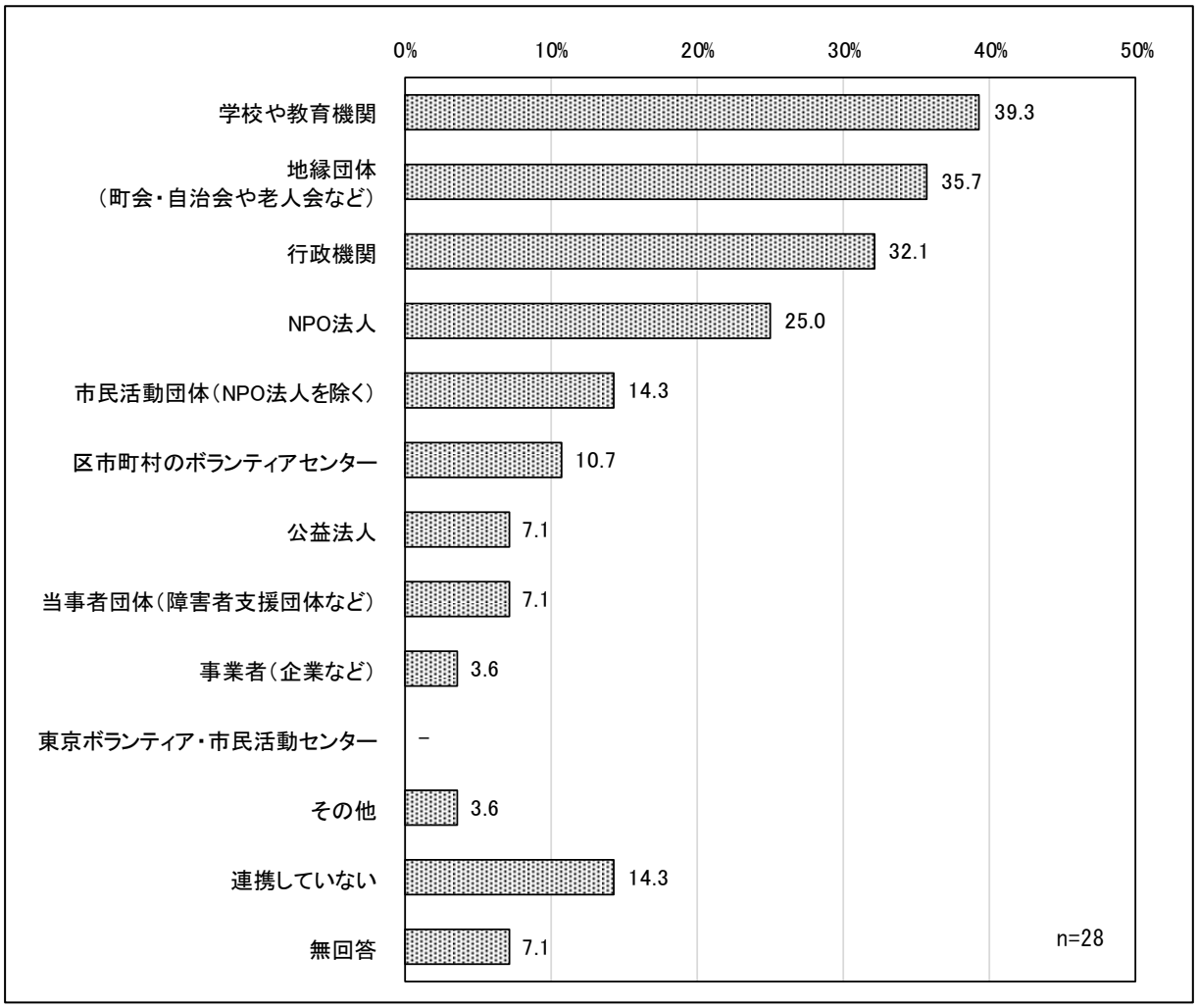
ボランティア活動を行う部活動の担当教員数は、「1 人」が 13.6%、「2 人」が 31.8%、「3 人」が 22.7%、「5～9 人」が 9.1%、「10 人以上」が 13.6%であった。

１－１０ 連携団体

（Q1 または Q7 で 1 と答えた方）

Q10　ボランティア活動を行っている授業や部活動などは、活動にあたり外部の団体と連携していますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅳ-12. 連携団体

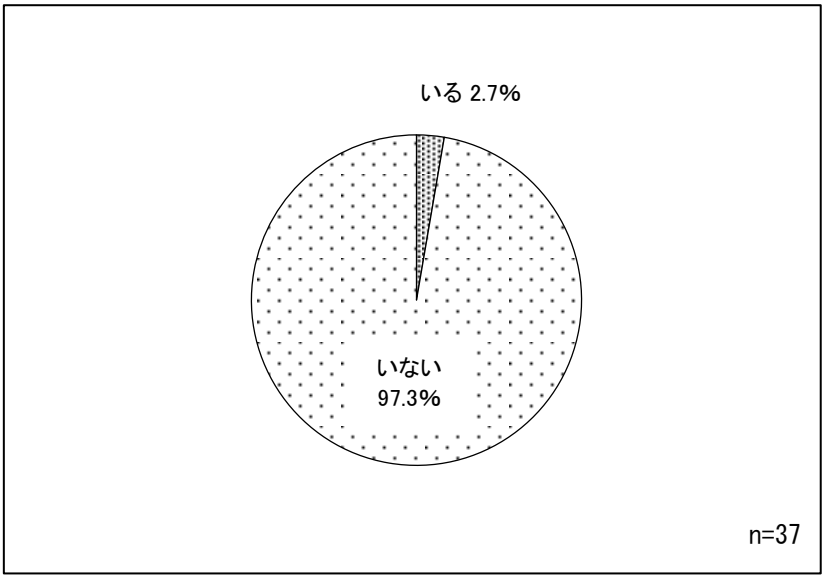


ボランティア活動を行っている授業や部活動などで連携している団体は、「学校や教育機関」が 39.3％で最も高かった。次いで、「地縁団体（町会・自治会や老人会など）」が 35.7％、「行政機関」が 32.1％であった。

１－１１ ボランティアコーディネーターの有無

Q11　ボランティアコーディネーター※として活動できる人はいますか。
※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材

図表Ⅳ-13. ボランティアコーディネーターの有無

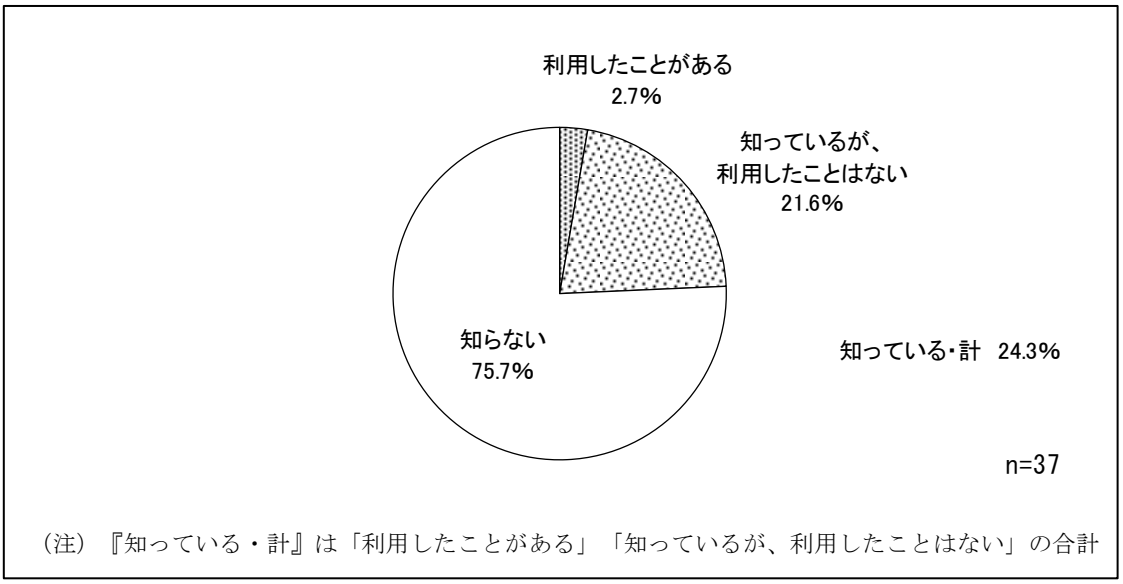


ボランティアコーディネーターの有無は、「いる」が 2.7%、「いない」が 97.3%であった。

１－１２ 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験

Q12　東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）

図表Ⅳ-14. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験



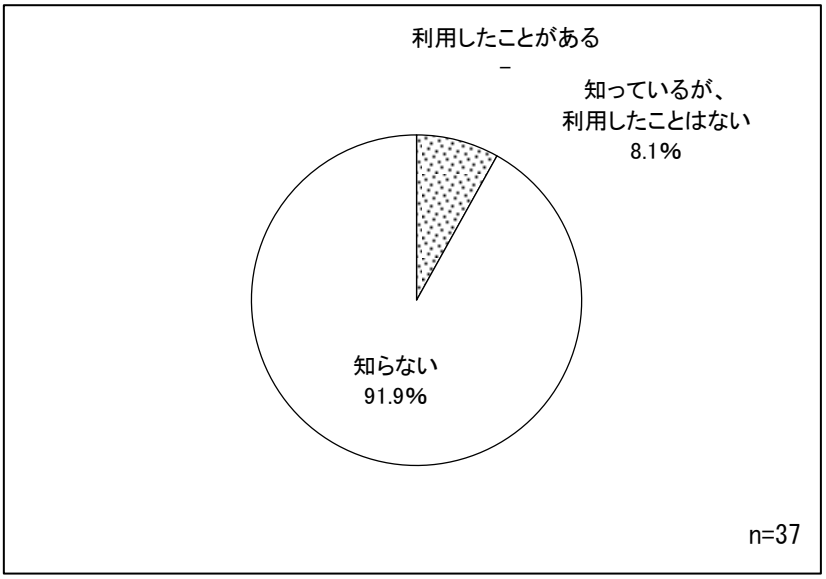
（注）『知っている・計』は「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」の合計

東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が 2.7%、「知っているが、利用したことはない」が 21.6%で、この 2 項目を合わせた『知っている・計』は 24.3%であった。一方、「知らない」は 75.7%であった。

１－１３ 「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験

Q13　東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」はご存じですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）

図表Ⅳ-15. 「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験

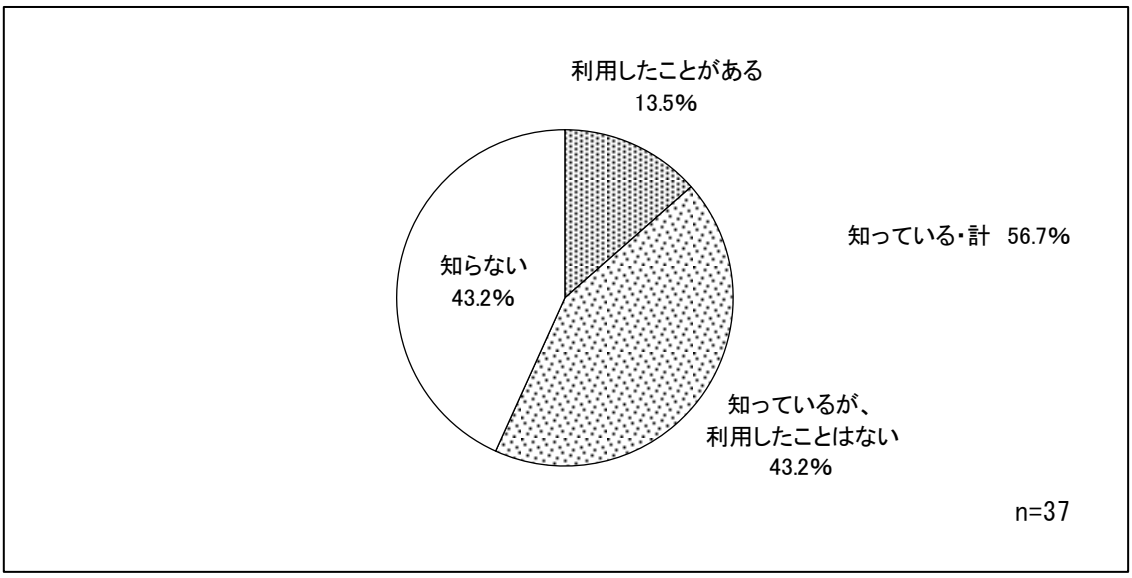


「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験は、「知っているが、利用したことはない」が8.1%、「知らない」が91.9%であった。

１－１４ 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

Q14　区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）

図表Ⅳ-16. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

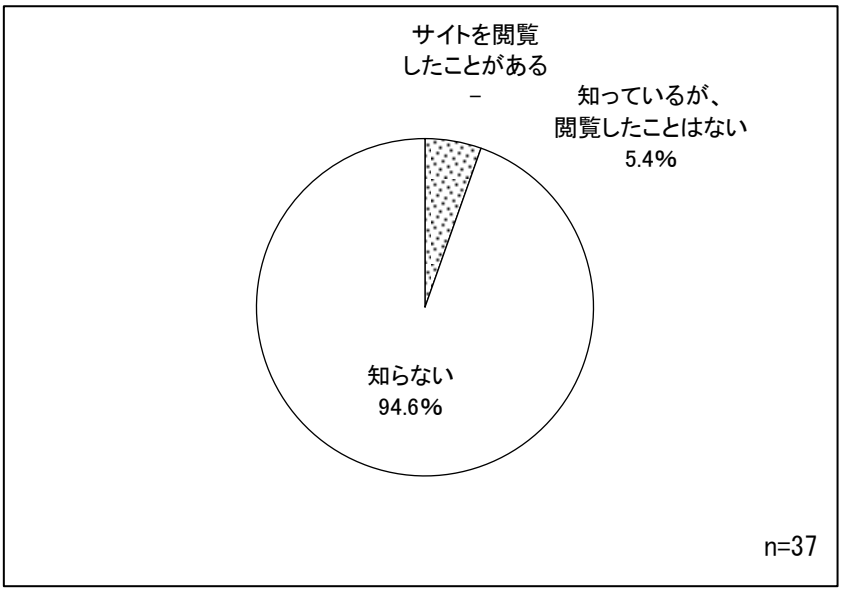


社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が13.5%、「知っているが、利用したことはない」が43.2%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は56.7%であった。一方、「知らない」は43.2%であった。

１－１５ 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験

Q15　東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア活動情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。（単一回答）

図表Ⅳ-17. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験



「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験は、「知っているが、閲覧したことはない」が 5.4%、「知らない」が 94.6%であった。

１－１６ 今後の取組意向

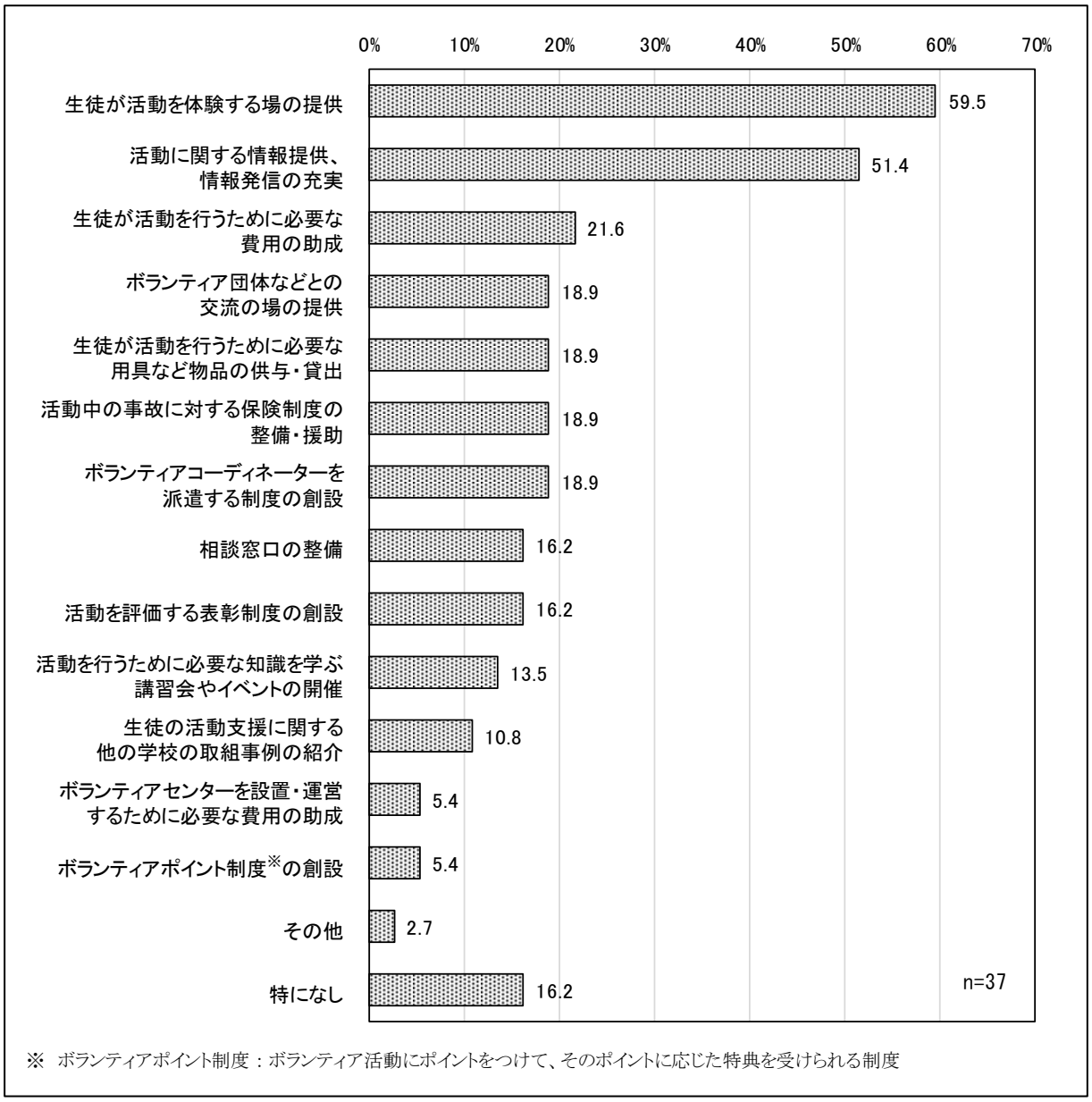
Q16　ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

記述内容
現在は特定のクラスのみがボランティアに参加しているが、学校全体で参加できる体制を整えていきたい。
地域のお祭りのお手伝いや児童館のお手伝い、地域清掃を検討している。
地域と関わるボランティア活動が盛んな学校であったが、コロナの影響でできていなかった。今年は、少しずつ活動を再開しているところである。
学校全体では希望生徒のみで桜並木清掃を実施しています。
できることを無理のない範囲で行っていく。
継続して、地域清掃ボランティア活動を実施していく。
20年前までは、地元の公園の清掃活動をやったりボランティア部が各施設を訪問してボランティア活動を行っていましたが、在籍生徒数が減少し、そういう活動は現在学校単位では実施していません。

１－１７ ボランティア活動に関して望む支援

Q17　ボランティア活動に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅳ-18. ボランティア活動に関して望む支援



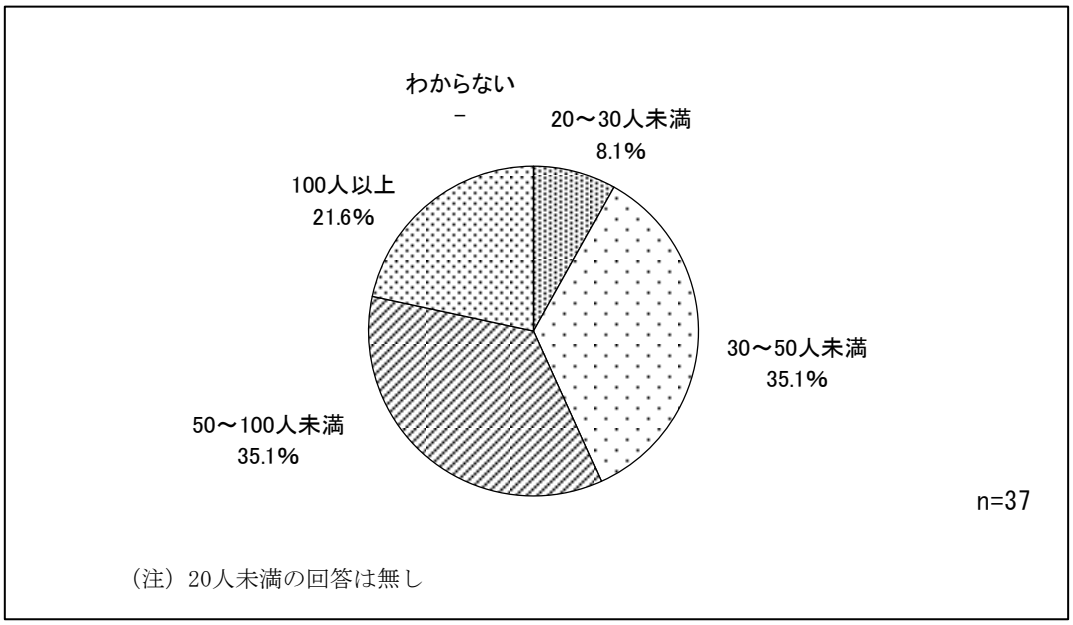
ボランティア活動に関して望む支援は、「生徒が活動を体験する場の提供」が 59.5％で最も高かった。次いで、「活動に関する情報提供、情報発信の充実」が 51.4％、「生徒が活動を行うために必要な費用の助成」が 21.6％であった。

２ 学校の概要について

２－１ 総職員数

Q18　貴校の職員（教職員など含む）の総数は何人ですか。（単一回答）

図表Ⅳ-19. 総職員数

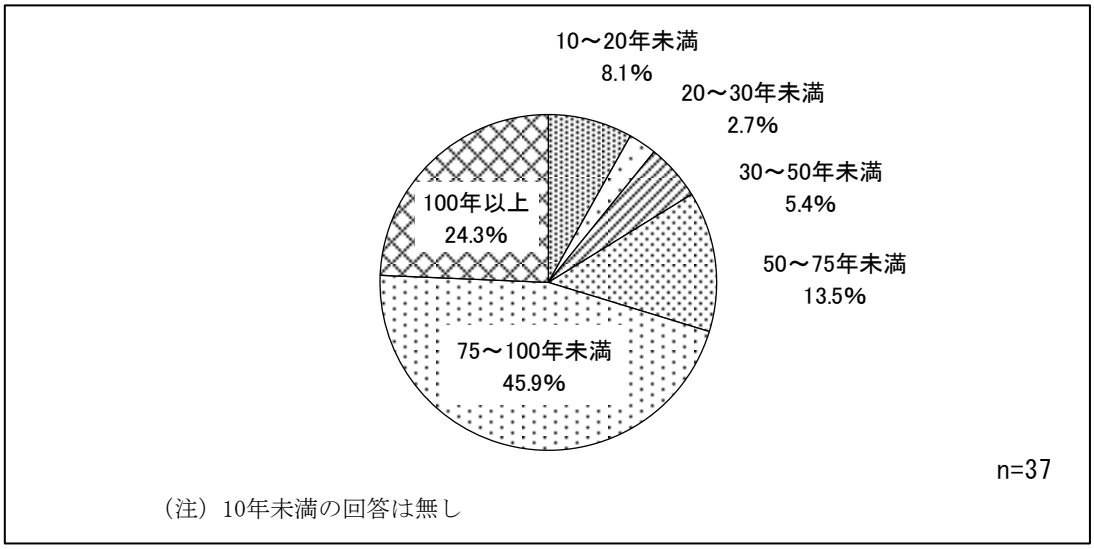


総職員数は、「20～30 人未満」が 8.1%、「30～50 人未満」と「50～100 人未満」がいずれも 35.1%、「100 人以上」が 21.6%であった。

２－２ 設立からの経過年数

Q19　貴校は設立から何年経っていますか。（単一回答）

図表Ⅳ-20. 設立からの経過年数

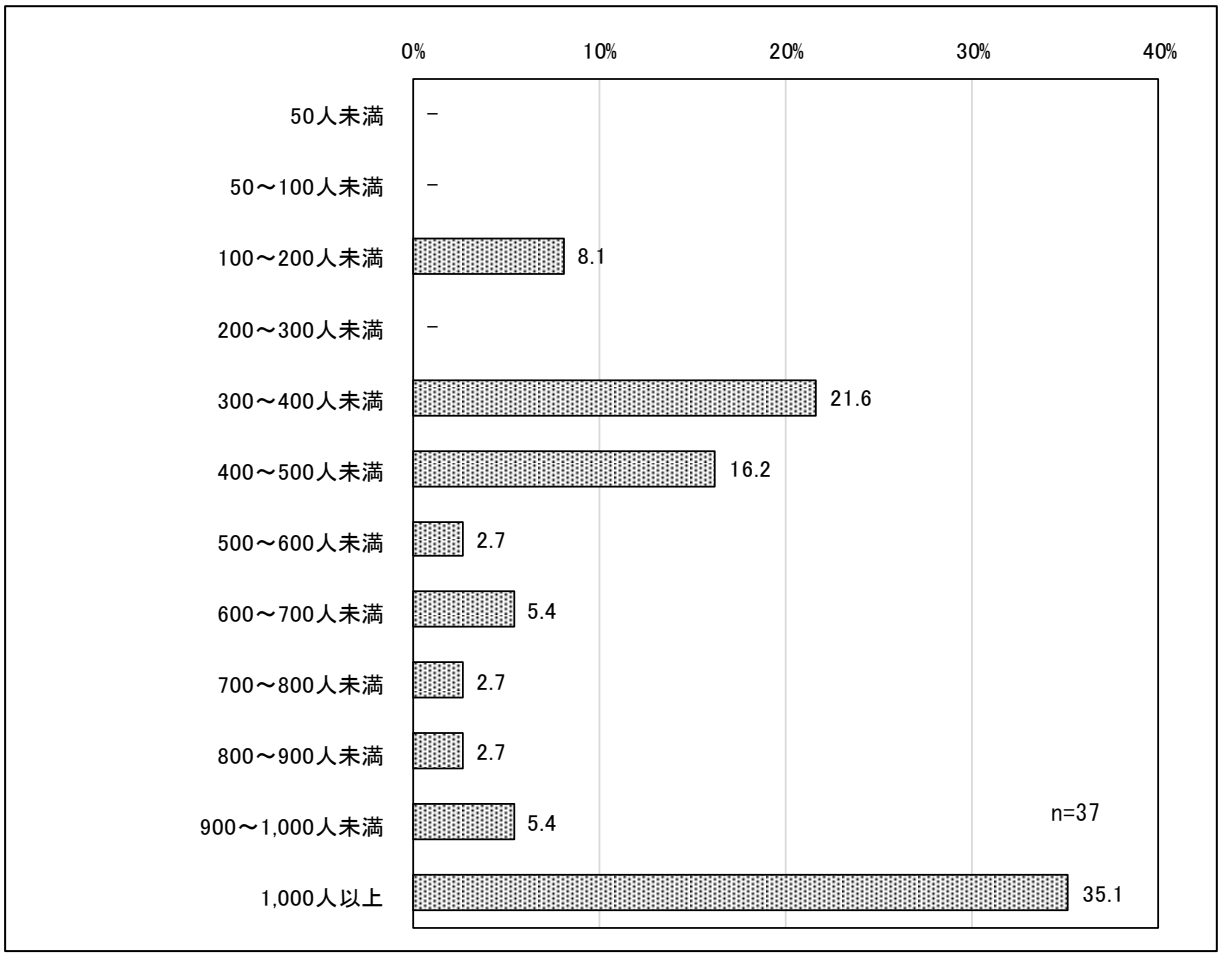


設立からの経過年数は、「10～20 年未満」が 8.1%、「20～30 年未満」が 2.7%、「30～50 年未満」が 5.4%、「50～75 年未満」が 13.5%、「75～100 年未満」が 45.9%、「100 年以上」が 24.3%であった。

２－３ 生徒数

Q20　貴校の生徒数は何人ですか。（単一回答）

図表Ⅳ-21. 生徒数



生徒数は、「100～200 人未満」が 8.1％、「300～400 人未満」が 21.6％、「400～500 人未満」が 16.2％、「500～600 人未満」が 2.7％、「600～700 人未満」が 5.4％、「700～800 人未満」と「800～900 人未満」がいずれも 2.7％、「900～1,000 人未満」が 5.4％、「1,000 人以上」が 35.1％であった。

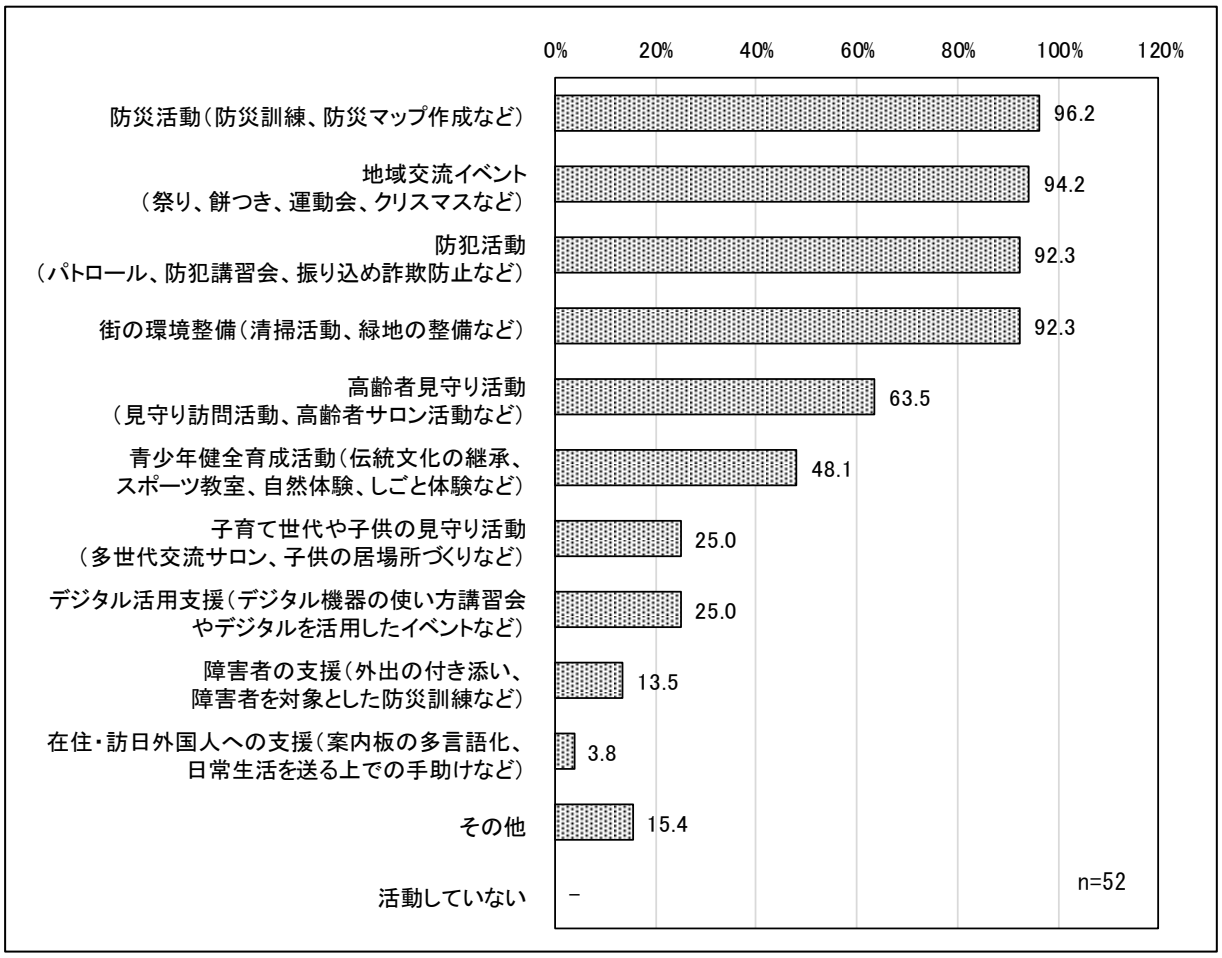
V. 町会自治会向け調査

１ 団体の活動について

１－１ 活動内容

Q1	貴団体の活動内容について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ｖ-1. 活動内容



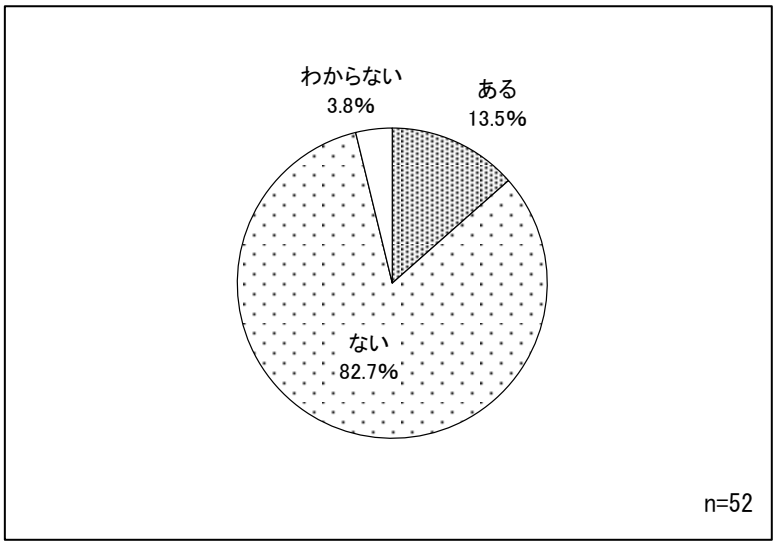
活動内容は、「防災活動」が 96.2％で最も高かった。次いで、「地域交流イベント」が 94.2％、「防犯活動」と「街の環境整備」がいずれも 92.3％であった。

１－２ 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果

（Q1 で 1～11 と答えた方）

Q2　選択した活動のうち、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。（単一回答）

図表Ⅴ-2. 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果

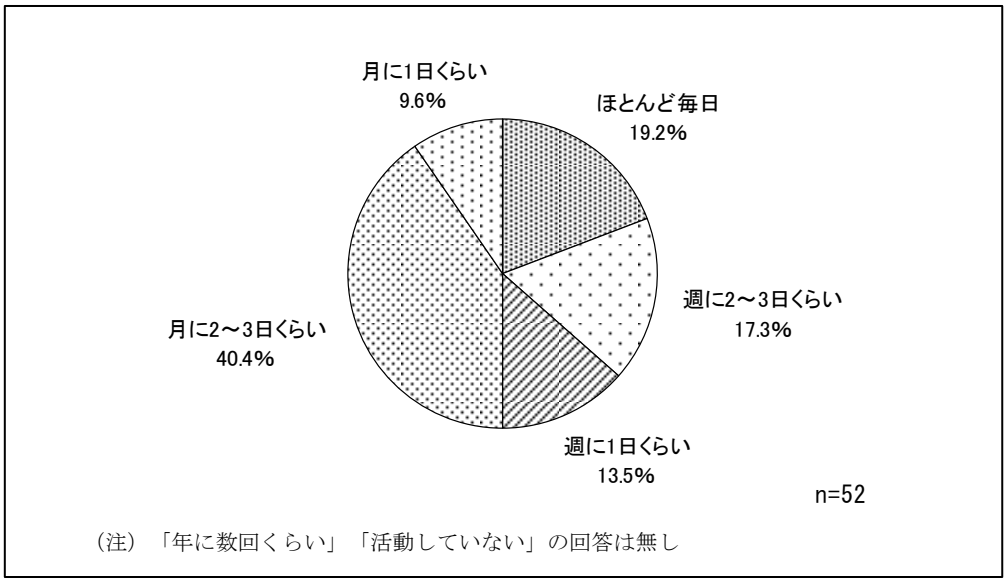


東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、新たに開始もしくは充実したものは、「ある」が 13.5%、「ない」が 82.7%であった。

１－３ 活動状況

Q3　貴団体の活動状況についてお答えください。（単一回答）

図表Ⅴ-3. 活動状況

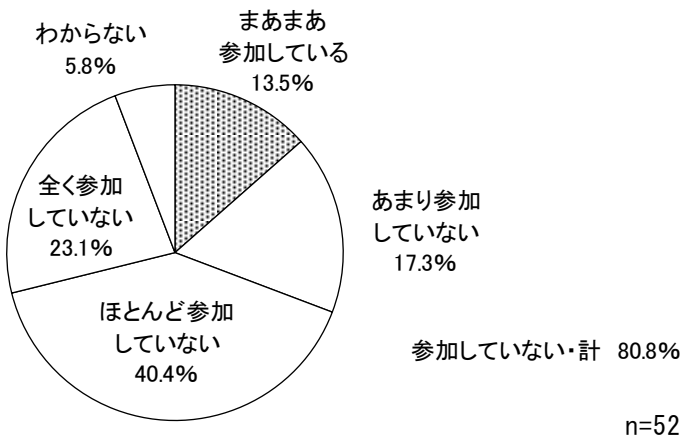


活動状況は、「ほとんど毎日」が 19.2%、「週に 2～3 日くらい」が 17.3%、「週に 1 日くらい」が 13.5%、「月に 2～3 日くらい」が 40.4%、「月に 1 日くらい」が 9.6%であった。

１－４ 外国人の参加状況

Q4　貴団体区域内に住んでいる外国人の活動参加状況についてお答えください。（単一回答）

図表Ⅴ-4. 外国人の参加状況



（注）「全員参加している」「ほとんど参加している」の回答は無し
『参加していない・計』は
「あまり参加していない」「ほとんど参加していない」「全く参加していない」の合計

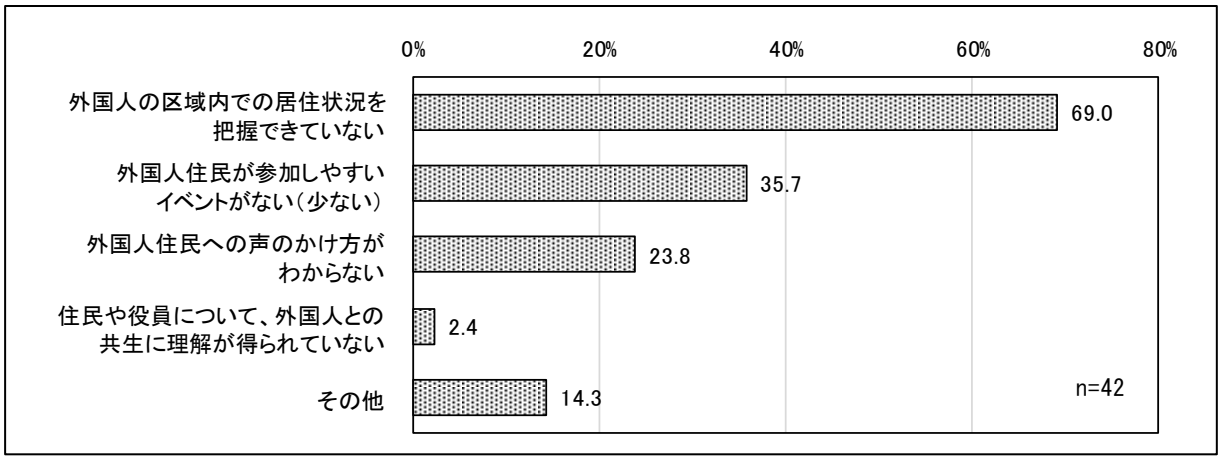
外国人の参加状況は、「まあまあ参加している」が 13.5%、「あまり参加していない」が 17.3%、「ほとんど参加していない」が 40.4%、「全く参加していない」が 23.1%であった。

１－５ 外国人の参加にあたり、妨げとなっていること

（Q4 で 4～6 と答えた方）

Q5　外国人の貴団体活動への参加にあたり、妨げとなっていることについて、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅴ-5. 外国人の参加にあたり、妨げとなっていること

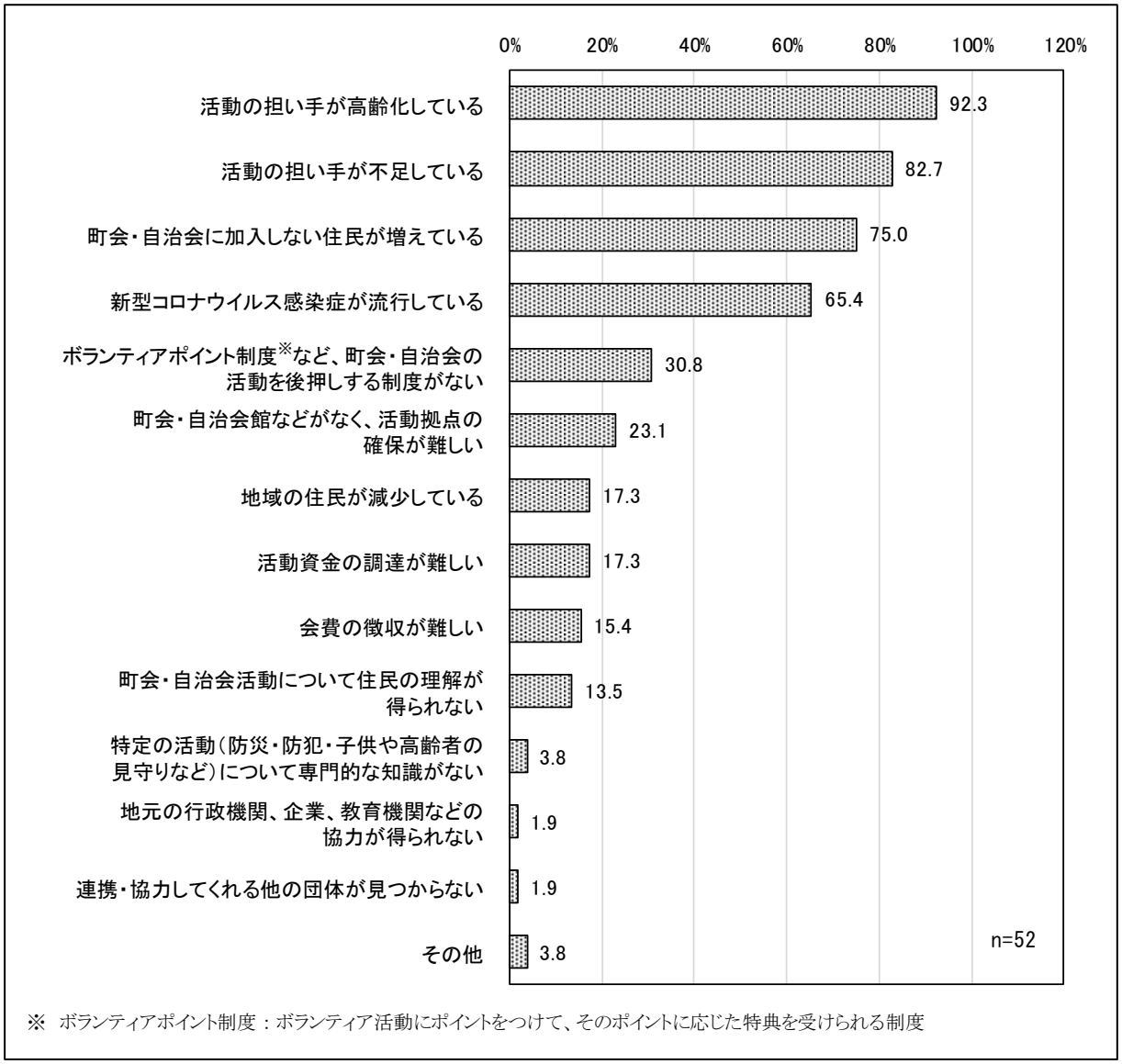


外国人の参加にあたり、妨げとなっていることは、「外国人の区域内での居住状況を把握できていない」が 69.0%で最も高かった。次いで、「外国人住民が参加しやすいイベントがない（少ない）」が 35.7%、「外国人住民への声のかけ方がわからない」が 23.8%であった。

１－６ 活動を行うにあたっての課題

Q6　団体として活動を行うにあたっての課題について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ｖ-6. 活動を行うにあたっての課題



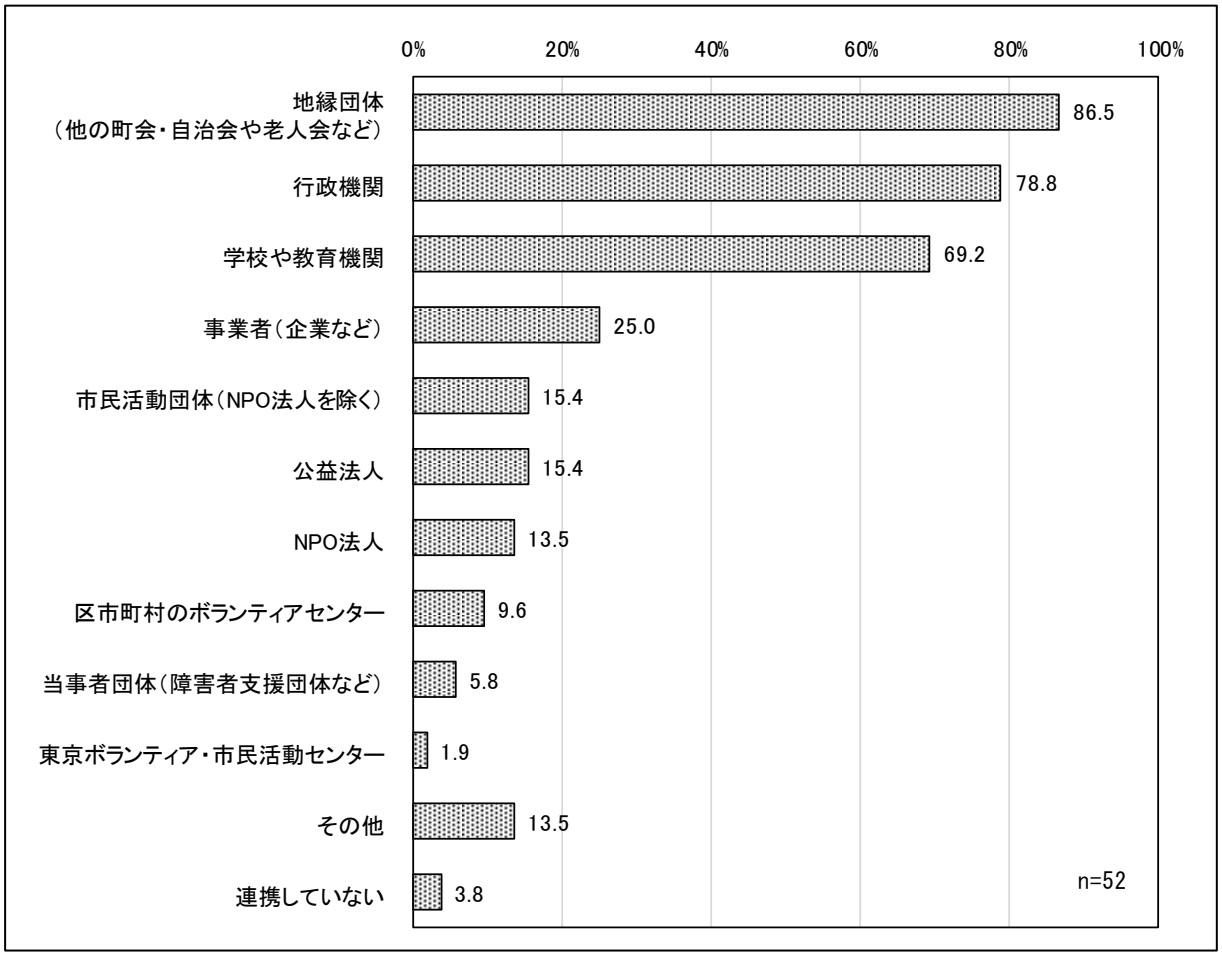
活動を行うにあたっての課題は、「活動の担い手が高齢化している」が 92.3％で最も高かった。次いで、「活動の担い手が不足している」が 82.7％、「町会・自治会に加入しない住民が増えている」が 75.0％であった。

２ 他の団体との連携について

２－１ 連携団体

Q7　貴団体の活動の企画や実施にあたって、連携している団体はありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅴ-7. 連携団体



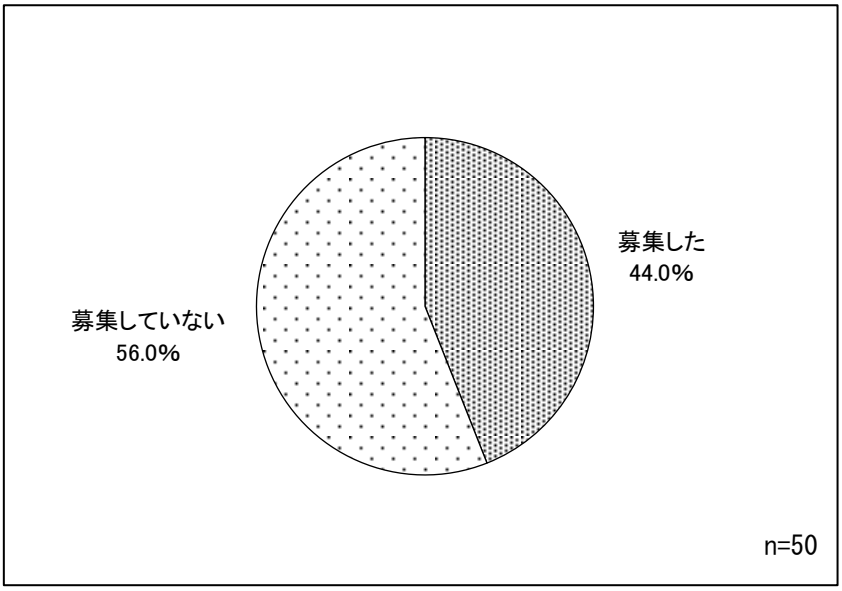
活動の企画や実施にあたって連携している団体は、「地縁団体（他の町会・自治会や老人会など）」が 86.5％で最も高かった。次いで、「行政機関」が 78.8％、「学校や教育機関」が 69.2％であった。

２－２ 連携した団体のボランティア募集の有無、参加人数及び活動内容

（Q7 で 1～11 と答えた方）

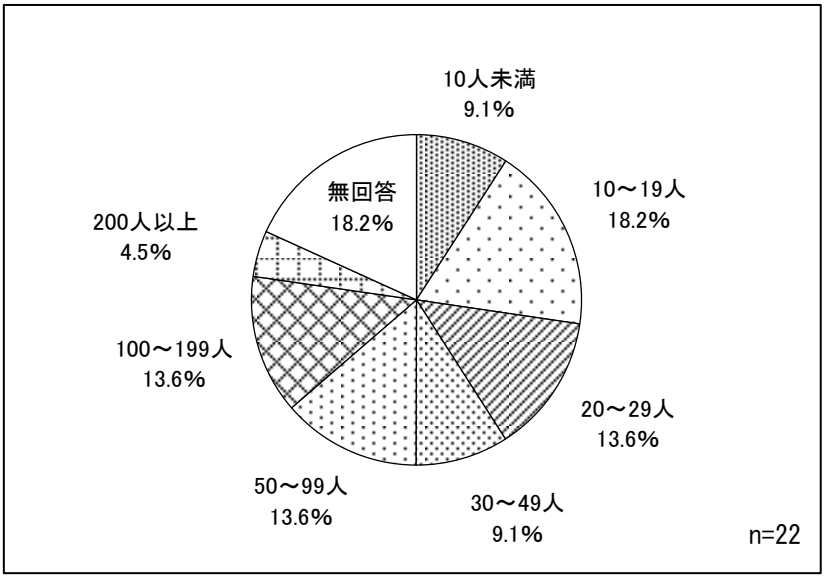
Q8　他の団体と連携した活動において、連携した団体はボランティアの募集を行いましたか。行った場合は、おおよその参加人数及び活動内容をお答えください。

図表Ⅴ-8. 連携した団体のボランティア募集の有無



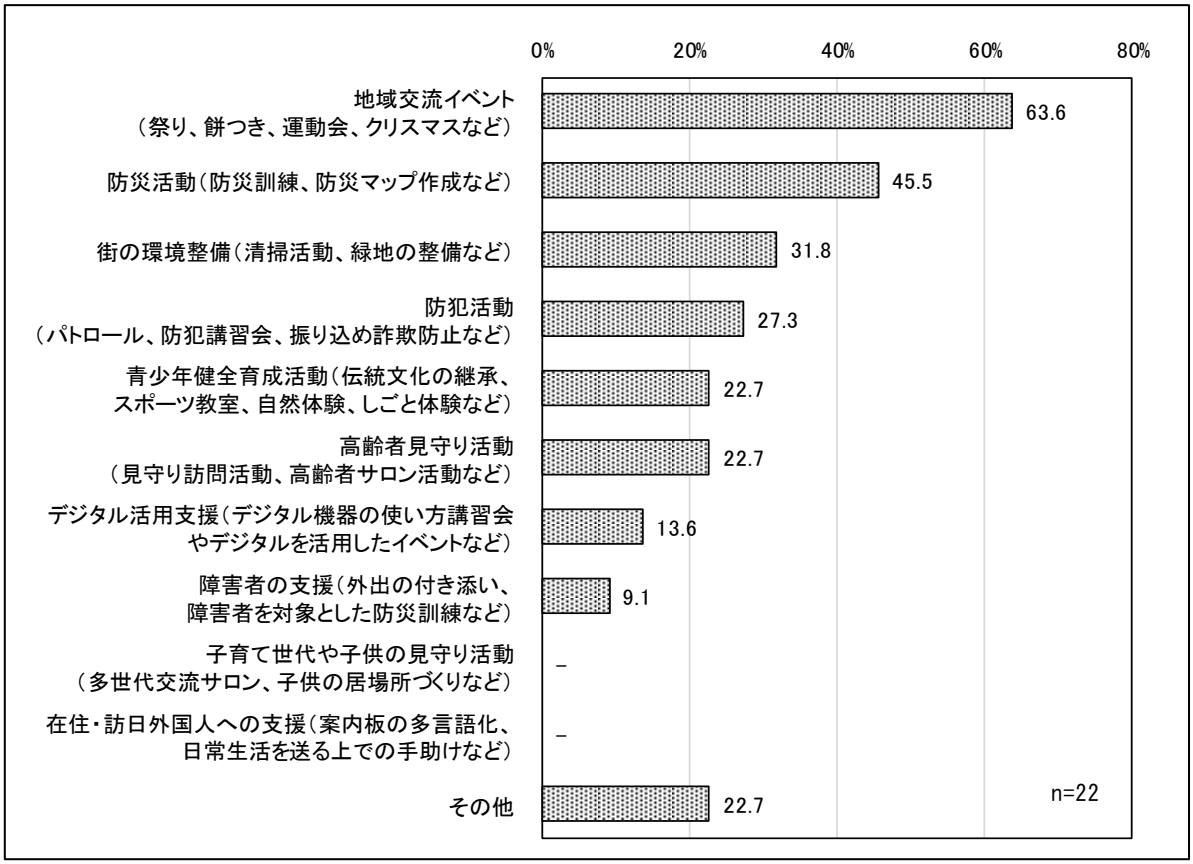
連携した団体のボランティア募集の有無は、「募集した」が 44.0%、「募集していない」が 56.0%であった。

図表Ⅴ-9. ボランティアを募集した連携団体の参加人数



ボランティアを募集した連携団体のボランティア参加人数は、「10 人未満」が 9.1%、「10～19 人」が 18.2%、「20～29 人」が 13.6%、「30～49 人」が 9.1%、「50～99 人」と「100～199 人」がいずれも 13.6%、「200 人以上」が 4.5%であった。

図表Ⅴ-10. ボランティアを募集した連携団体の活動内容



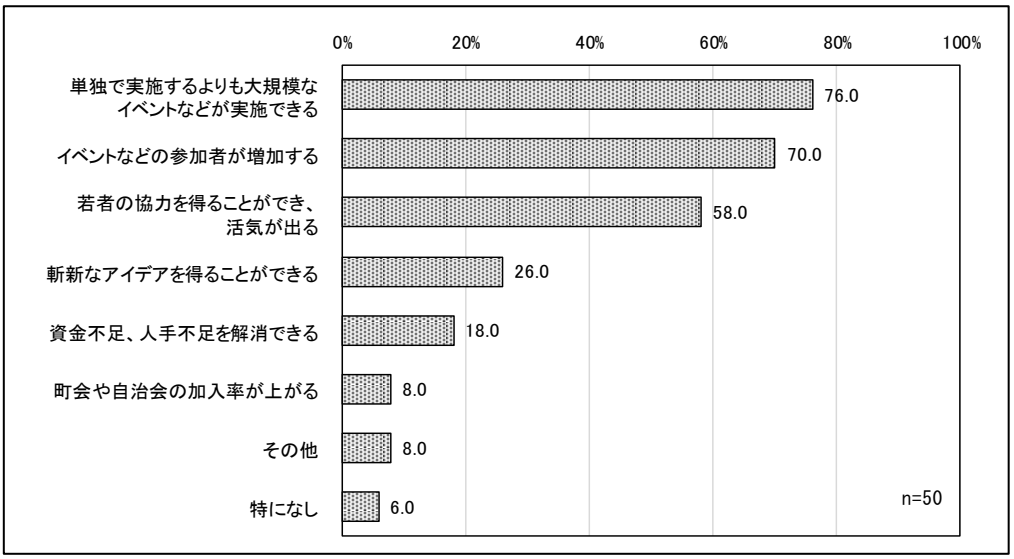
ボランティアを募集した連携団体の活動内容は、「地域交流イベント」が 63.6％で最も高かった。次いで、「防災活動」が 45.5％、「街の環境整備」が 31.8％であった。

２－３ 連携してよかった点や課題

（Q7 で 1～11 と答えた方）

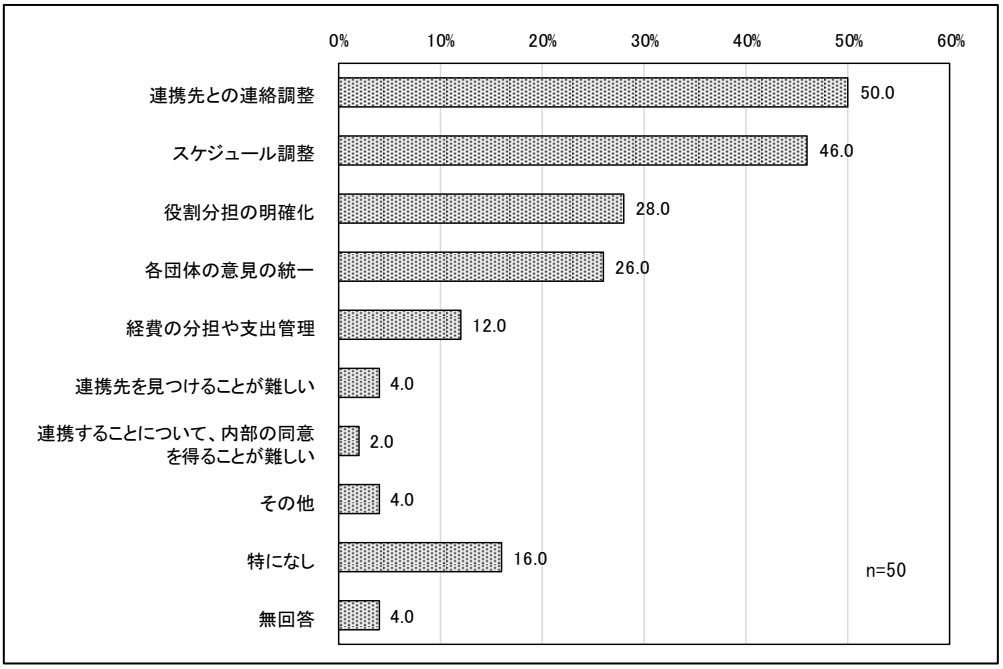
Q9　他の団体と連携してよかった点や課題について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅴ-11. 連携してよかった点



連携してよかった点は、「単独で実施するよりも大規模なイベントなどが実施できる」が 76.0％で最も高かった。次いで、「イベントなどの参加者が増加する」が 70.0％、「若者の協力を得ることができ、活気が出る」が 58.0％であった。

図表Ⅴ-12. 連携する上での課題



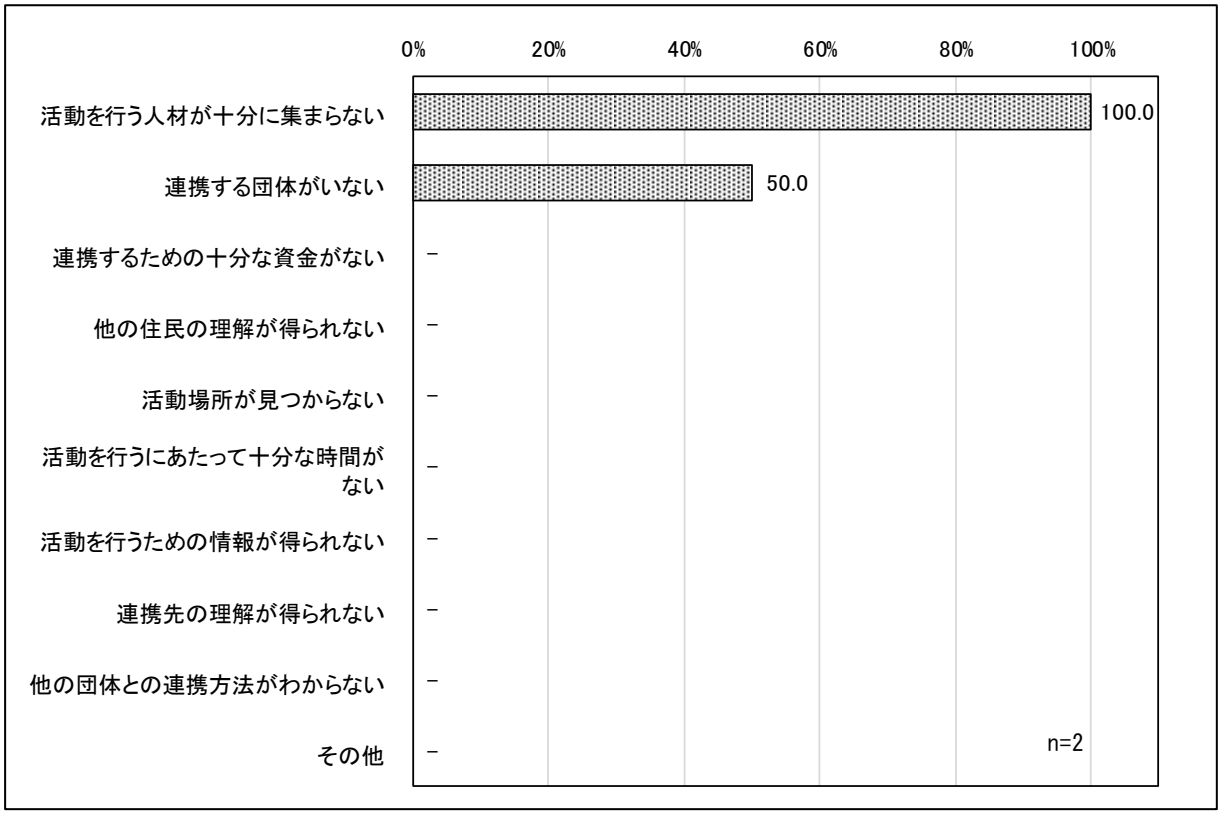
連携する上での課題は、「連携先との連絡調整」が 50.0％で最も高かった。次いで、「スケジュール調整」が 46.0％、「役割分担の明確化」が 28.0％であった。

２－４ 連携の妨げとなること

（Q7 で 12 と答えた方）

Q10　今後他の団体と連携して活動を行う場合、妨げとなることは何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅴ-13. 連携の妨げとなること

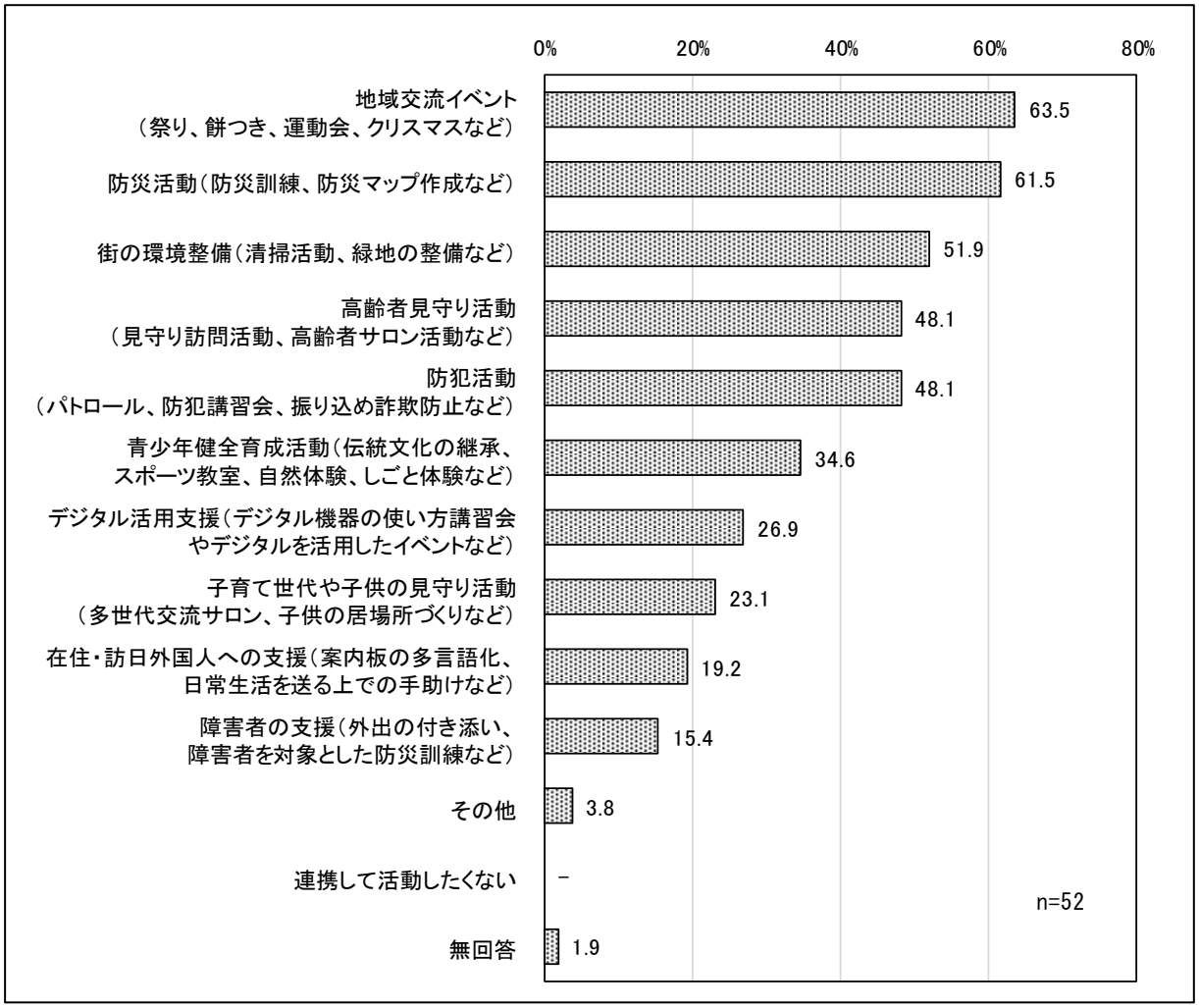


連携の妨げとなることは、「活動を行う人材が十分に集まらない」が 100.0%、「連携する団体がいない」が 50.0%であった。

２－５ 今後連携して行いたい活動分野

Q11　今後どのような分野で他の団体と連携して活動を行ってみたいですか。（複数回答）

図表Ⅴ-14. 今後連携して行いたい活動分野



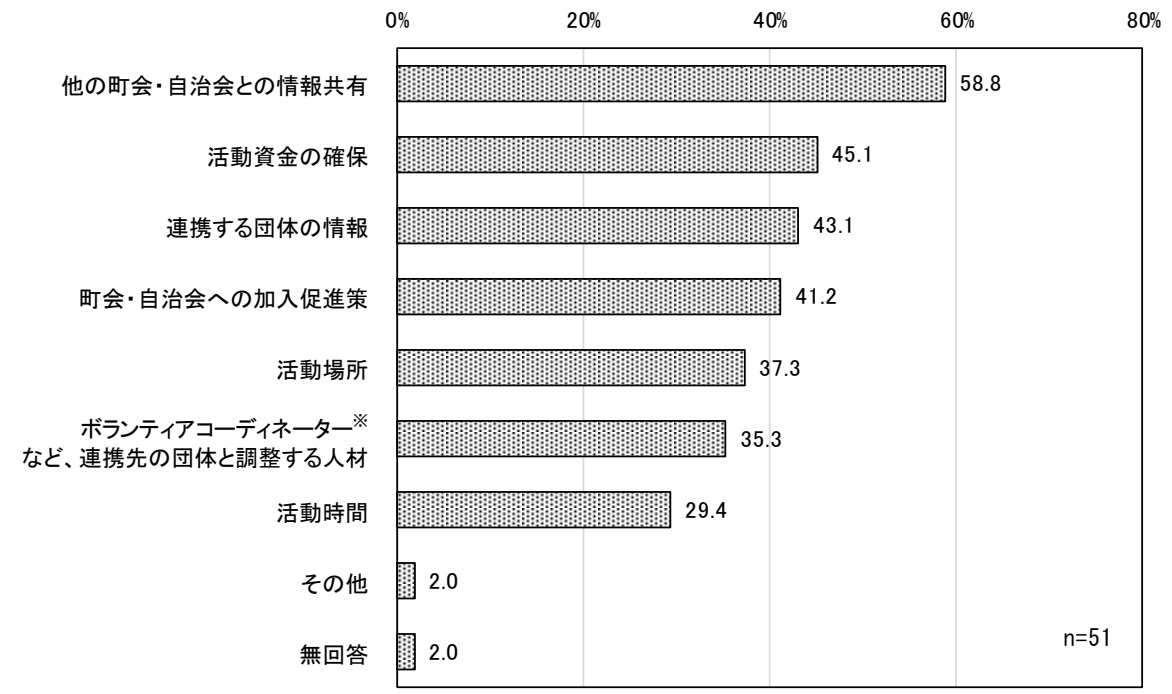
今後連携して行いたい活動分野は、「地域交流イベント」が 63.5％で最も高かった。次いで、「防災活動」が 61.5％、「街の環境整備」が 51.9％であった。

２－６ 連携の継続に必要なこと

（Q11 で 1～11 と答えた方）

Q12　他の団体と連携していくために必要なことは何だと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅴ-15. 連携の継続に必要なこと



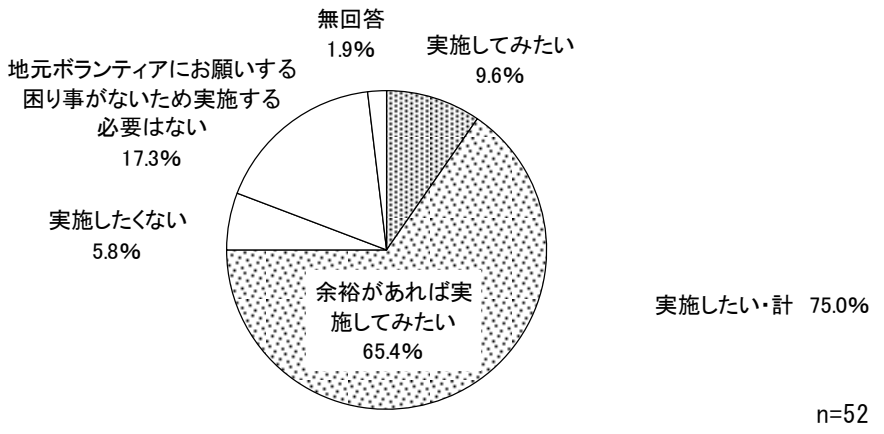
※ ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側とを調整する人材

連携の継続に必要なことは、「他の町会・自治会との情報共有」が 58.8％で最も高かった。次いで、「活動資金の確保」が 45.1％、「連携する団体の情報」が 43.1％であった。

２－７ 地元ボランティアとの連携について

Q13　東京都では、“ちょっとした困りごと”を抱える町会・自治会と、それをお手伝いする地元ボランティアとを区市町村がコーディネーターとなってつなげる取組を一部の区市と連携して実施しています。このような取組を実施してみたいですか。現在、既に連携している場合は、今後についてお答えください。（単一回答）

図表Ⅴ-16. 地元ボランティアとの連携について



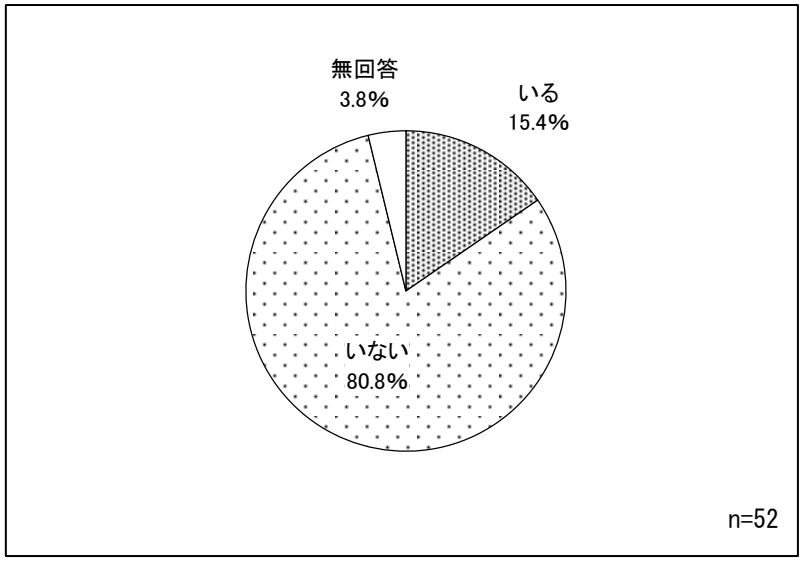
（注）『実施したい・計』は「実施してみたい」「余裕があれば実施してみたい」の合計

地元ボランティアとの連携については、「実施してみたい」が 9.6%、「余裕があれば実施してみたい」が 65.4%、「実施したくない」が 5.8%、「地元ボランティアにお願いする困り事がないため実施する必要はない」が 17.3%であった。

２－８ ボランティアコーディネーターの有無

Q14　ボランティアコーディネーターとして活動できる人はいますか。

図表Ⅴ-17. ボランティアコーディネーターの有無



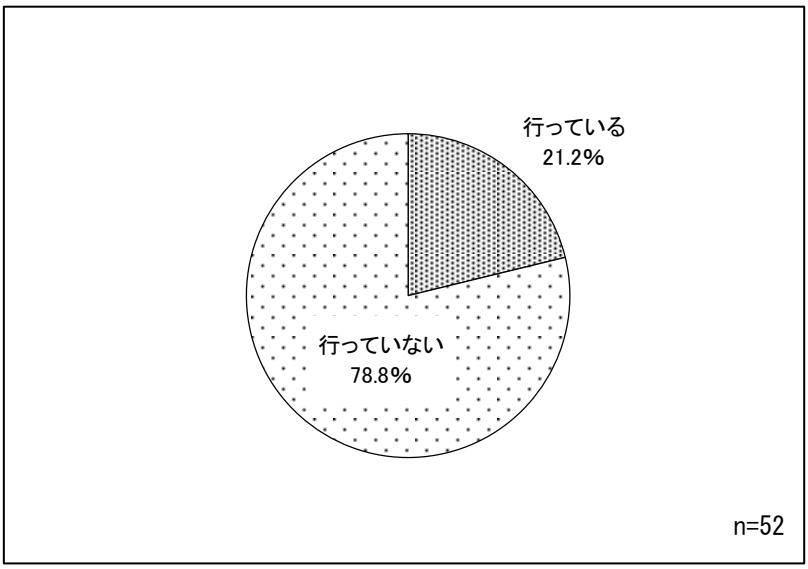
ボランティアコーディネーターの有無は、「いる」が 15.4%、「いない」が 80.8%であった。

３ その他の活動などについて

３－１ サードプレイスを設ける取組の有無

Q15　貴団体では、地域の人が気軽に集まって交流できるような場所で、家庭や職場とは異なるもの（サードプレイス）を設ける取組を行っていますか。
（例）空き家、地域の学校などを利用した高齢者サロン、子育て支援拠点など
「行っている」と答えた方は、どのような活動内容か、具体的にお書きください。

図表Ⅴ-18. サードプレイスを設ける取組の有無



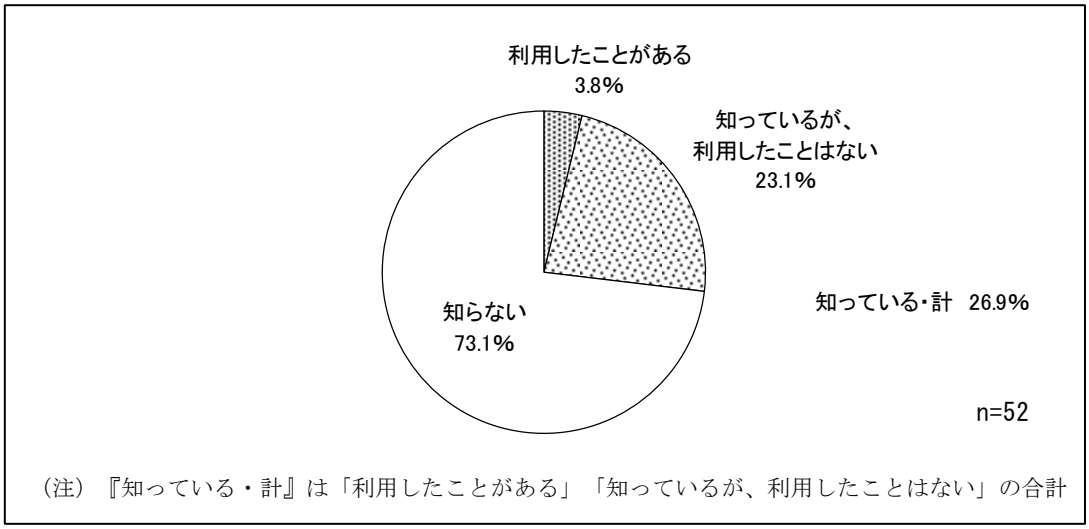
サードプレイスを設ける取組の有無は、「行っている」が 21.2%、「行っていない」が 78.8%であった。取組を行っている団体の具体的な活動内容は以下のとおり。

記述内容
まち中サロン等、高齢者や地域での交流を求めている方が、自由に出入りできる場所を提供している。
自治会館を開放して高齢者が気楽に立ち寄れる喫茶室
高齢者向け各種サークル、子供向けの映画会やクリスマス会、スマホなどITの高齢者セミナー、会員に対する会場提供など
町会会館を利用したスマホ教室、年末フラワーアレンジメント
高齢の方達の交流会（歩こう会など7つくらいの部に分かれ活動している）
町会会館を利用している。
「お庭カフェ」。近所の庭先、駐車場を利用した「昔の井戸端会議」的な催しを定期的に実施。
高齢者サロン。通いの場としてのイベント（体操、手芸、スマホ教室、映画会等）。
「花と緑の会」

３－２ 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験

Q16　東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）

図表Ｖ-19. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験



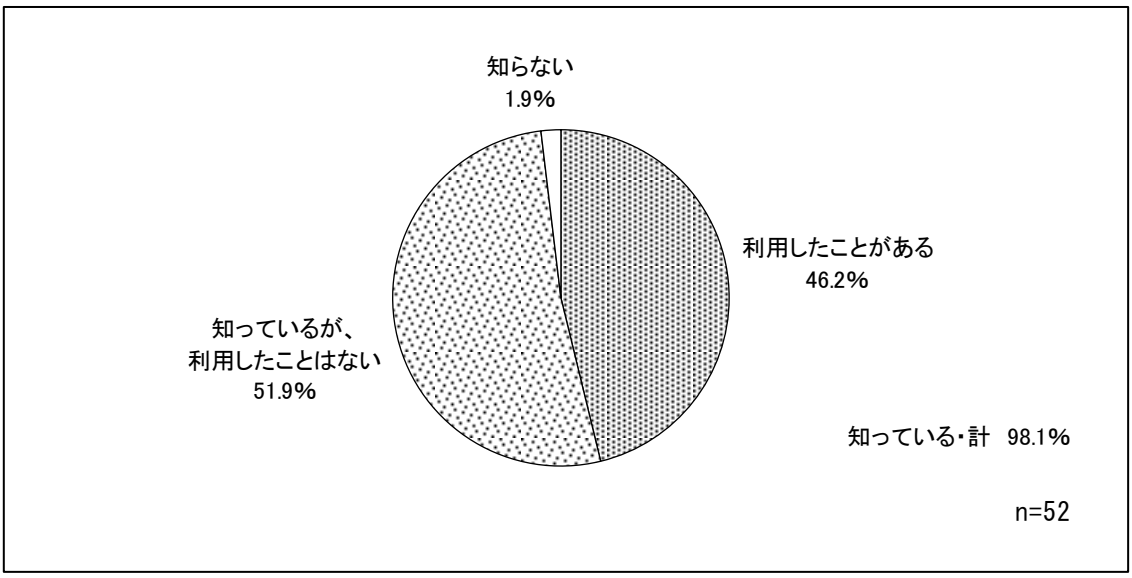
（注）『知っている・計』は「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」の合計

東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が3.8%、「知っているが、利用したことはない」が23.1%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は26.9%であった。一方、「知らない」は73.1%であった。

３－３ 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

Q17　区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）

図表Ｖ-20. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

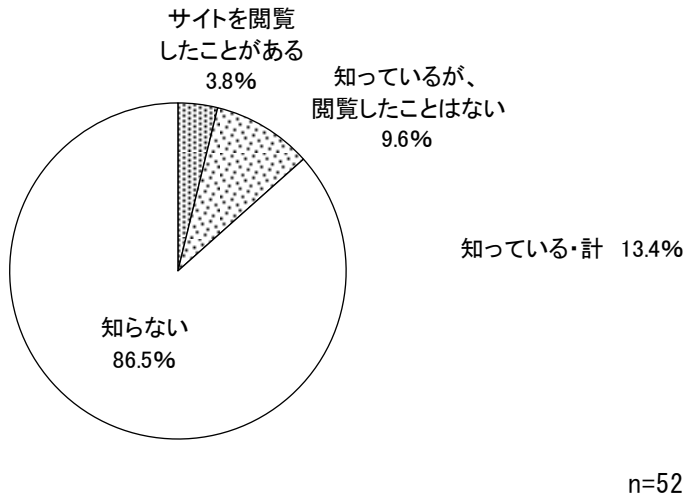


社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が46.2%、「知っているが、利用したことはない」が51.9%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は98.1%であった。一方、「知らない」は1.9%であった。

３－４ 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験

Q18　東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア活動情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。（単一回答）

図表Ⅴ-21. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験



（注）『知っている・計』は「サイトを閲覧したことがある」
「知っているが、閲覧したことはない」の合計

「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験は、「サイトを閲覧したことがある」が 3.8%、「知っているが、閲覧したことはない」が 9.6%で、この 2 項目を合わせた『知っている・計』は 13.4%であった。一方、「知らない」は 86.5%であった。

３－５ 今後の取組意向

Q19　ボランティア活動（町会・自治会活動を含む）に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

記述内容
地域の高齢化、一人住まいの方が増えて自治会活動が以前より活動が制約されている。また、コロナ禍において各種イベント等が開催できず、人との繋がりが難しくなってきている。今後、住まいでの近所付き合いを大事にできるように、自治会会員同士で話し合える機会を増やしたい。
町会費の値上げ。次の世代の役員を作る。町内行事の参加者が毎回同じメンバー。他町会との情報交換。
ボランティアの担い手を増やす。「ちょいボラ」も受け入れる。
コロナ禍により、様々な活動が停止していたため、活動経験者も減り、住民の意識が停滞している。コロナ前とは違うアピール、活動方法を工夫していかなければならなくなっている。
ITを利用した会員間の情報共有や情報発信
府中市にはボランティアコーディネーター組織として「プラッツ」があり、講師の派遣や相談で助かっています。また、防災関係なら市の防災センター、デジタル化や一般ではプラッツ、自治会町会の活動では自治会連合会です。これらは継続して進めていきます。課題として、解決方法が見つからないのは、会員減ではなく「自治会活動者の減少」です。自主活動の余裕がないこと。理由の1つは、「70歳まで働く、両親が正規で働かなければならない」「達成感のある自由なボランティアには参加」「自治会は責任のあるボランティアなので消極的な参加」などです。
マンション建設後の住民・管理組合の加入が期待できない。これらの集合住宅の町会費徴収や会員加入がほしい。
町会の役員等になりうる跡継ぎの育成が必要と考えられる。
無料では長続きが難しい。経済的サポートのシステム作りを希望。
役員の高齢化、女性が私一人の為、組織編成をしたい。
活動を支援する団体や人材の情報発信を積極的にお願い致します。
コロナ禍で思うように活動できなかったが、やっと従来の活動ができるかと期待しています。
マンションに住んでいる若い世代に町会に加入いただいてボランティア活動を助けてもらいたいと考え、4月からマンションの管理組合に打診したいと思っている。
加入促進。

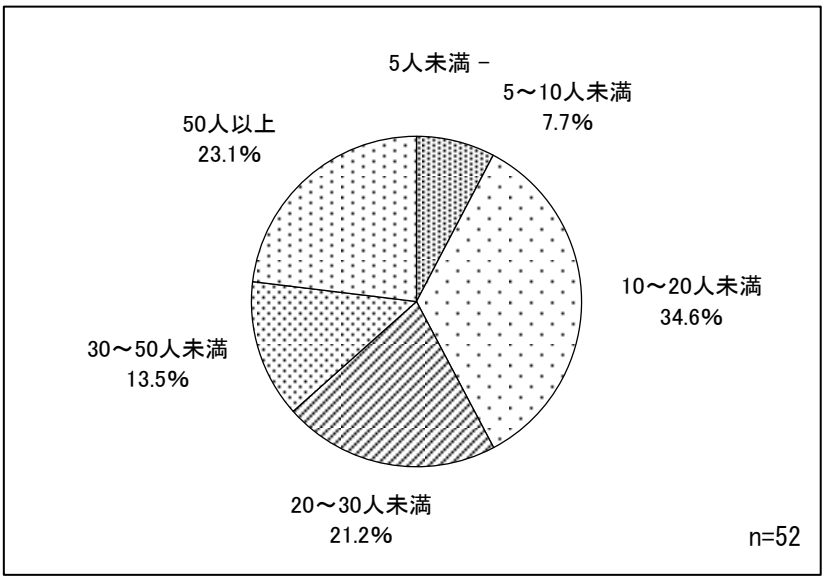
全国的に自治会町会の加入率の低下傾向が明白な状況の中、加入促進が乏しいとしたら、町会、自治会が住民、民意の代表でなくなると考えられる。行政が町会、自治会との連携を考慮頂けるなら、真剣に加入率低下の是正対策を検討頂きたい。
担い手の不足と高齢化が課題。
高齢者の見守りと同じく、子育て世代に対して見守りを行っていきたい。
マンションが増えてきたので、そこの住人は地元の町会に対して興味がなく、無関係の様子が見える。
コロナ禍で活動の制約がある中で、出来うる活動を行っている。少しでも活動を継続していくことが重要と考え、少しでも活動をしている。
町会会員の減少を食い止め、会員の増加を図りたい。また、若年層の取り組みも図りたい。
自治会内の世代交代。近隣商店街、町会とのより積極的な交流。
若い世代の町内会への参加を推進していく。
高齢世帯に対する困りごと相談（チョットした手助け）
自治会内でのこまり事解決の助けあい組織を運営している。様々な外部団体も協力してくれている。この「片倉台福祉ネットワーク」の充実と存続を願っている。
社会福祉協議会を母体としてきずなサロンを開設して５年経ちました。現在コロナ禍でできない月もあり、イベント等、おしゃべりを中心に参加者を増やして、高齢者が多いですが、若い人も参加出来るよう工夫して参りたい。最初は高齢者の居場所づくりとして発足をしました。
コロナ収束の折には、夏祭りの復活、運動会の復活となるようにしていきたい。
インセンティブを配慮しないと、活動の継続は難しい。
新たに設置される地域コミュニティー施設や防火防災の施設を活用していく具体的な方途を立てていく。町会の集会・事務を可能とする場所の確保。
新たにはない。現況の活動を遂行する。

４ 団体の概要について

４－１ 役員数

Q20　貴団体の役員数は何人ですか。（単一回答）

図表Ｖ-22. 役員数

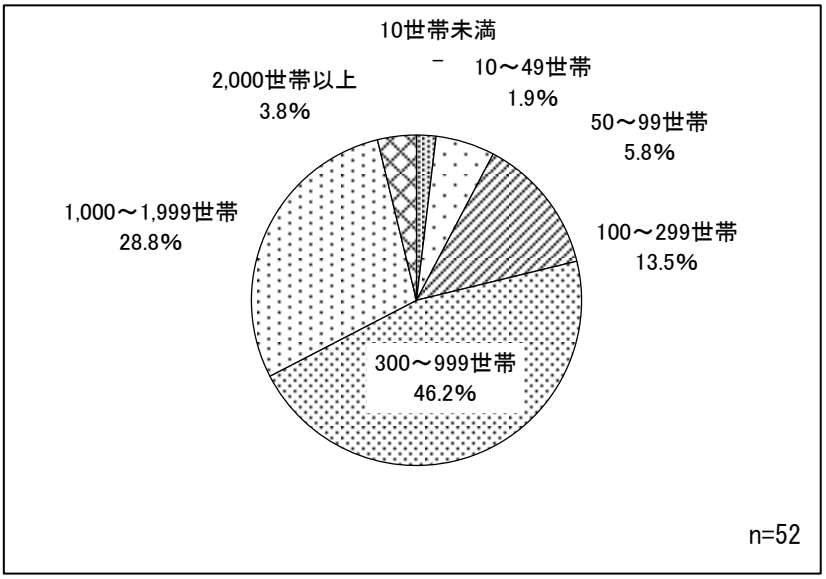


役員数は、「5～10 人未満」が 7.7%、「10～20 人未満」が 34.6%、「20～30 人未満」が 21.2%、「30～50 人未満」が 13.5%、「50 人以上」が 23.1%であった。

４－２ 加入世帯数

Q21　貴団体に加入している世帯数はどのくらいですか。（単一回答）

図表Ｖ-23. 加入世帯数

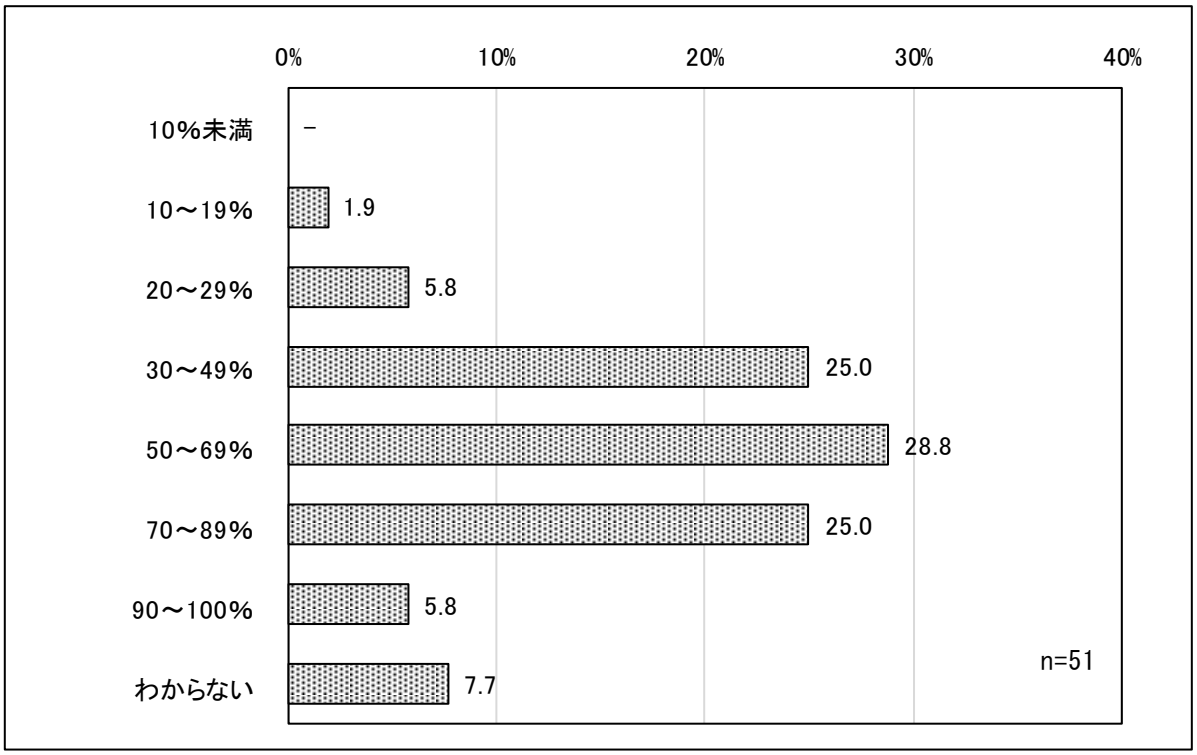


加入世帯数は、「10～49 世帯」が 1.9%、「50～99 世帯」が 5.8%、「100～299 世帯」が 13.5%、「300～999 世帯」が 46.2%、「1,000～1,999 世帯」が 28.8%、「2,000 世帯以上」が 3.8%であった。

４－３ 加入率

Q22　住民の貴団体への加入率はどのくらいですか。（単一回答）

図表Ⅴ-24. 加入率

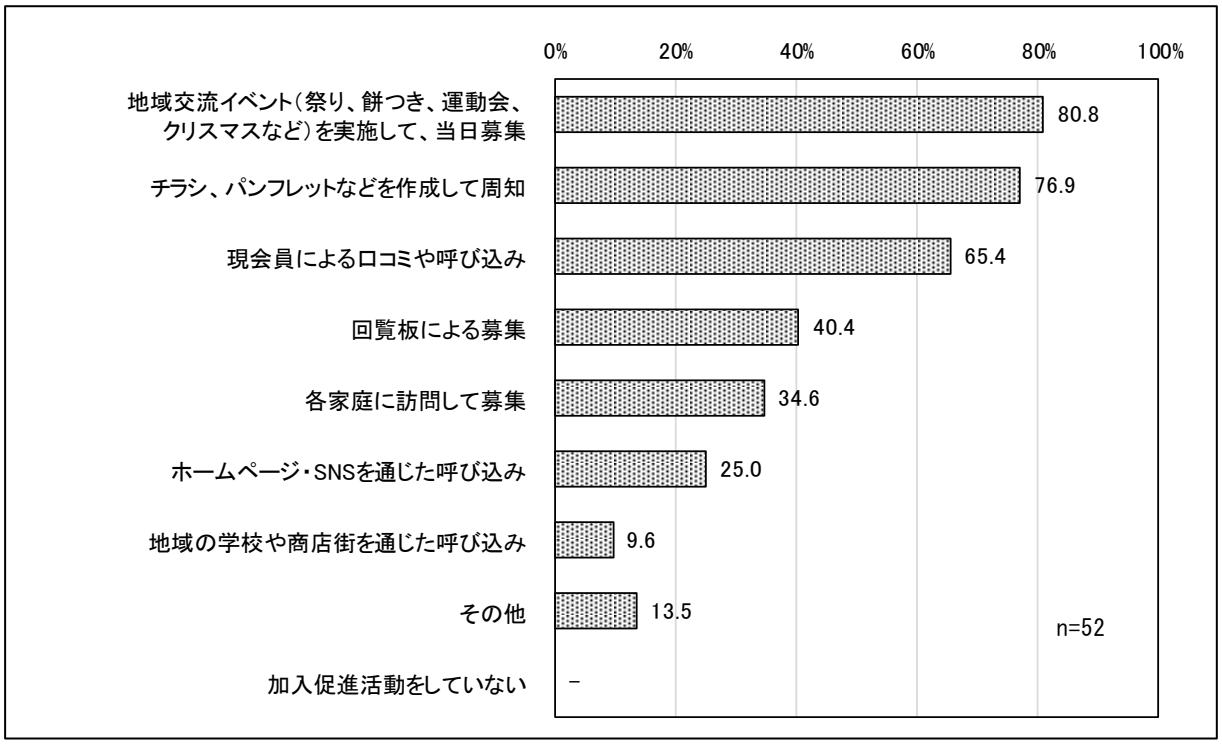


加入率は、「10～19%」が 1.9%、「20～29%」が 5.8%、「30～49%」が 25.0%、「50～69%」が 28.8%、「70～89%」が 25.0%、「90～100%」が 5.8%であった。

４－４ 加入促進の取組

Q23　貴団体は加入促進のためにどのような取組を行っていますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ｖ-25. 加入促進の取組



加入促進の取組は、「地域交流イベントを実施して、当日募集」が 80.8％で最も高かった。次いで、「チラシ、パンフレットなどを作成して周知」が 76.9％、「現会員による口コミや呼び込み」が 65.4％であった。

都民調査　調査票

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

- 回答は匿名で、個人が特定されることはありません。
- 回答を取り消したい場合は、同じ選択肢を再度クリック（タップ）することで取り消すことができます。
- ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。前のページに戻りたい場合は、画面下部の［前へ］を押してください。
- ＊の付いた質問は回答必須です。いずれかの選択肢を選んで［次へ］を押してください。
- 回答の内容によっては質問番号が連続しない場合がありますが、気にせず回答を続けてください。

2%

次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ F0　あなたの居住都道府県をお知らせください。

5%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ F1　あなたの性別をお知らせください。

- ○ 男性
- ○ 女性
- ○ その他
- ○ 答えたくない

7%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ F2　あなたの年齢はいくつですか。

- ◯ 15歳未満
- ◯ 15～19歳
- ◯ 20～24歳
- ◯ 25～29歳
- ◯ 30～34歳
- ◯ 35～39歳
- ◯ 40～44歳
- ◯ 45～49歳
- ◯ 50～54歳
- ◯ 55～59歳
- ◯ 60～64歳
- ◯ 65～69歳
- ◯ 70歳以上

9%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ F3　あなたの仕事は何ですか。

- ◯ 自営業
- ◯ 家族従業（家業手伝い）
- ◯ 勤め（全日）
- ◯ 勤め（短時間）
- ◯ 主婦・主夫
- ◯ 学生
- ◯ 無職
- ◯ その他（具体的に）

11%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ F4　あなたは、結婚していますか。

- ◯ 未婚
- ◯ 既婚（配偶者有）
- ◯ 既婚（離別・死別）

14%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ F4-1　夫婦（またはあなたと配偶者）とも働いていますか。

- ◯ はい
- ◯ いいえ

16%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ F5　お子さんは何人いますか。（同居・別居は問いません。）

- ◯ いない
- ◯ 1人
- ◯ 2人
- ◯ 3人
- ◯ 4人
- ◯ 5人以上

18%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ F5-1　お子さんは、次のいずれに該当しますか。すべてのお子さんについてお答えください。（複数選択可）

※複数のお子さんが同じ選択肢に該当する場合、お子さんの人数とチェック数が異なっていても構いません。

- ☐ 0歳～小学校入学前
- ☐ 小学生
- ☐ 中学生
- ☐ 高校生
- ☐ 専門学生
- ☐ 大学生・大学院生
- ☐ 学校教育終了
- ☐ その他（具体的に）

20%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ F6　現在一緒に住んでいる家族はあなたを含めて何人ですか。

- ○ 1人
- ○ 2人
- ○ 3人
- ○ 4人
- ○ 5人
- ○ 6人
- ○ 7人以上

23%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ F7　あなたの年収はいくらですか。

- ◯ 収入なし
- ◯ 200万円未満
- ◯ 200～300万円台
- ◯ 400～500万円台
- ◯ 600～700万円台
- ◯ 800～900万円台
- ◯ 1,000万円以上
- ◯ わからない
- ◯ 答えたくない

25%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

1　ボランティアについて

＊Q1　あなたはボランティア活動（名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください）に関心がありますか。次の中から1つだけお答えください。
ただし、ボランティア活動とは、下記の1～15に掲げる活動及び金銭や物品の寄附を指します 。

1. 町会・自治会の活動
2. PTAの活動や学校行事の手伝い
3. まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、観光ガイドボランティアなど）
4. 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティアなど）
5. 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
6. 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
7. 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
8. 自然や環境を守るための活動（保護動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
9. スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
10. 文化・芸術・学術に関係した活動（文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
11. 災害に関係した活動（炊き出し、募金を集める活動など）
12. 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
13. 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
14. 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
15. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動）

- ○ とても関心がある
- ○ どちらかといえば関心がある
- ○ どちらかといえば関心がない
- ○ 全く関心がない
- ○ わからない

27%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊Q2　あなたは直近1年間（令和３年11月1日から令和４年10月31日まで）にボランティア活動（寄附は除く）に参加しましたか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- ☐ 町会・自治会の活動
- ☐ PTAの活動や学校行事の手伝い
- ☐ まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、観光ガイドボランティアなど）
- ☐ 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティアなど）
- ☐ 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
- ☐ 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
- ☐ 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
- ☐ 自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
- ☐ スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
- ☐ 文化・芸術・学術に関係した活動（文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
- ☐ 災害に関係した活動（炊き出し、募金を集める活動など）
- ☐ 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
- ☐ 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
- ☐ 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
- ☐ 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）
- ☐ その他
- ☐ 直近1年間はないが、2～3年前には参加したことがある
- ☐ 直近2～3年以内には参加したことはないが、過去には参加したことがある
- ☐ 今まで全くボランティア活動などには参加したことがない

「その他」を選択した方は、行ったボランティア活動の内容について具体的にご記入ください。

30%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q3　直近に参加したボランティア活動の満足度について、次の中から1つだけお答えください。（複数の活動を実施されている方は、そのうち中心的に行っている活動についてお答えください。）

- ◯ とても満足している
- ◯ どちらかといえば満足している
- ◯ どちらかといえば満足していない
- ◯ 満足していない
- ◯ わからない

32%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q4　あなたのボランティア活動の開始時期について、次の中から1つだけお答えください。

- ◯ 直近1年間にボランティア活動を始めた
- ◯ 直近3年以内にボランティア活動を始めた
- ◯ 3年以上前からボランティア活動に参加している
- ◯ わからない

34%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊Q5　あなたがボランティア活動を続けている理由について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- ☐ やりがいや、社会の役に立てている実感があるから
- ☐ もともと興味のある活動だったから
- ☐ 周りの人が続けているから
- ☐ 自分の技術や能力、経験を活動に活かせるから
- ☐ 余暇時間を有意義に過ごせるから
- ☐ 身近に放っておけない問題や課題があるから
- ☐ 就職や進学に有利になると考えるから
- ☐ 様々な立場の人と交流できるから
- ☐ 活動を通じて知識や経験、気づきを得られるから
- ☐ 活動先に通いやすいから
- ☐ 活動の頻度がちょうどよいから
- ☐ 都合がよい時間帯に活動できるから
- ☐ その他（具体的に）
- ☐ 特に理由はない

36%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q6　あなたは直近1年間でどの程度ボランティア活動に参加しましたか。次の中から1つだけお答えください。

- ほとんど毎日
- 週に2～3日くらい
- 週に1日くらい
- 月に2～3日くらい
- 月に1日くらい
- 年に数回くらい
- わからない

39%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q7　あなたは直近1年間で1回につき平均どのくらいの時間、ボランティア活動に参加しましたか。次の中から1つだけお答えください。（複数の活動を実施されている方は、そのうち中心的に行っている活動についてお答えください。）

- 1時間未満
- 1～2時間程度
- 3～4時間程度
- 5時間以上
- わからない

41%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q8　あなたは、ボランティア活動を団体などに加入して行っていますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- [ ] ボランティアを目的とする団体に加入して行っている（セルフ・ヘルプ・グループを含む）
- [ ] 地域社会とのつながりが強い町会などの組織に加入して行っている
- [ ] その他の団体に加入して行っている
  →具体的な団体の種類（各種協会、博物館・美術館など）を記載してください。
- [ ] いかなる団体にも加入せず個人で行っている

43%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q9　あなたは、どのようにボランティア活動に参加していますか。次の中から1つだけお答えください。

- ○ 実際に現地に行って参加している（人と対面する活動など）
- ○ 現地には行かずに参加している（郵便やオンラインツール等を用いたリモートの活動など）
- ○ 上記の両方の方法で参加している

45%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊Q10　あなたは、現地でボランティア活動に参加する際に、どこでボランティア活動に参加していますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- ☐ 現在住んでいる区市町村
- ☐ 以前住んでいた区市町村
- ☐ 現在、通勤・通学で定期的な往来がある区市町村
- ☐ 以前、通勤・通学で定期的な往来があった区市町村
- ☐ その他（具体的に）

48%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊Q11　あなたは、現地に赴かず、オンラインツールなどを用いてボランティア活動に参加する際には、どこでボランティア活動に参加していますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- ☐ 自宅
- ☐ カフェ
- ☐ 勤務先
- ☐ 学校
- ☐ 公共施設（図書館・公民館など）
- ☐ 町会・自治会
- ☐ その他（具体的に）

50%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q12　あなたが参加したボランティア活動において、一度でも交通費、食費やその他実費の支給はありましたか。次の中からそれぞれ１つずつお答えください。

	あった	なかった	わからない
（1）交通費	○	○	○
（2）食費	○	○	○
（3）材料費	○	○	○
（4）ボランティア保険	○	○	○
（5）その他	○	○	○

52%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q13　あなたはボランティア活動の情報をどこから入手しましたか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- ☐ 家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて
- ☐ テレビ・ラジオを視聴して
- ☐ 新聞や雑誌などを見て
- ☐ 独自に募集をしているボランティア団体のホームページ、メールマガジンを見て
- ☐ 都内や国内のボランティア団体の募集情報を多数紹介する情報サイトやメールマガジンを見て
- ☐ SNS（Twitter、Instagram、Facebook、YouTubeなど）を見て
- ☐ 学校、職場、団体が紹介しているものを見て
- ☐ 公共機関などに置いてあるチラシやポスター、車内広告などを見て
- ☐ 都や区市町村の広報誌などを見て
- ☐ 地域の回覧板や掲示板（インターネットやSNSを除く）を見て
- ☐ その他（具体的に）

55%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊Q14　あなたがボランティア活動に参加したきっかけは何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- ☐ 家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて
- ☐ 通っている学校での授業や活動、行事を通じて
- ☐ 勤め先での研修や活動を通じて
- ☐ 自治会や子供会など地域の活動を通じて
- ☐ 所属する団体やサークルなどの活動を通じて
- ☐ ボランティアや地域活動に関わる講座や研修会の参加を通じて
- ☐ SNS（Twitter、Instagram、Facebook、YouTubeなど）を通じて
- ☐ インターネットや電子メールを通じて
- ☐ 新聞、雑誌、ポスター、チラシなどを見て
- ☐ その他（具体的に）
- ☐ 特にきっかけはない

57%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q15　あなたがボランティア活動に参加した理由は何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- ☐ 何か社会の役に立ちたかったから
- ☐ 興味を持ったから
- ☐ 自分の技術や能力、経験を活動に活かしたかったから
- ☐ 就職や進学に有利になると考えたから
- ☐ 余暇時間を有意義に過ごしたいから
- ☐ 身近に放っておけない問題や課題があったから
- ☐ 活動を通じて友人や仲間を増やしたいから
- ☐ 周りの人がやっているから
- ☐ その他（具体的に）
- ☐ 特に理由はない

59%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q16　あなたは直近1年間でボランティア活動に参加しようと思いましたか。次の中から1つだけお答えください。

- ○ 参加しようと思った
- ○ 参加しようと思わなかった
- ○ わからない

61%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q17　あなたがボランティア活動に参加しようと思ったのに、参加しなかったのはなぜですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- ☐ 活動する日や時間の都合がつかなかったから
- ☐ 仕事・学業・家事などで時間的余裕がなかったから
- ☐ 参加方法などの情報が得られなかったから
- ☐ 趣味など自分の楽しみに時間を使いたかったから
- ☐ 健康上の理由から
- ☐ 興味のある活動がなかったから
- ☐ 報酬が得られなかった（安かった）から
- ☐ 経済的負担が大きかったから
- ☐ 周囲（家族・職場）の理解が得られなかったから
- ☐ 一緒に参加できる仲間がいなかったから
- ☐ 専門的な能力がなかったから
- ☐ 参加のしづらさや抵抗感を感じたから
- ☐ 活動が中止・延期になったから
- ☐ 募集定員を超えて（募集が締め切られて）しまったから
- ☐ 参加を断られたから
- ☐ 新型コロナウイルス感染症が流行していたから
- ☐ 参加したいと思う活動場所が自分のニーズにあわなかったから
- ☐ その他（具体的に）

[　　]

- ☐ 特に理由はない

64%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q18　新型コロナウイルス感染症の流行により参加しなかったのは、具体的にどのような理由からですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- ☐ 自分が新型コロナウイルス感染症に罹患していたから
- ☐ 自分が新型コロナウイルス感染症に感染することを予防するため
- ☐ 新型コロナウイルス感染症が拡大することを防ぐため
- ☐ 周囲（家族・職場）の理解が得られなかったから
- ☐ 個人として行っていたボランティア活動が、緊急事態宣言等の影響で中断せざるを得なかったから
- ☐ 参加していたボランティア団体等が活動を休止したから
- ☐ 参加していたボランティア団体等が解散したから
- ☐ その他（具体的に）

66%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊Q19　あなたがボランティア活動に参加しようと思わなかったのはなぜですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- ☐ 仕事・学業・家事などで時間的余裕がないから
- ☐ 参加方法などの情報が得られないから
- ☐ 趣味など自分の楽しみに時間を使いたいから
- ☐ 健康上の理由から
- ☐ 興味のある活動がないから
- ☐ 報酬が得られない（安い）から
- ☐ 経済的負担が大きいから
- ☐ 周囲（家族・職場）の理解が得られないから
- ☐ 一緒に参加できる仲間がいないから
- ☐ 専門的な能力がないから
- ☐ 参加のしづらさや抵抗感を感じるから
- ☐ 新型コロナウイルス感染症が流行しているから
- ☐ その他（具体的に）
- ☐ 特に理由はない

68%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊Q20　新型コロナウイルス感染症の流行により、参加しようと思わなかったのはなぜですか。（複数選択可）

- ☐ 自分が新型コロナウイルス感染症に感染することを予防するため
- ☐ 新型コロナウイルス感染症が拡大することを防ぐため
- ☐ 個人として行っていたボランティア活動が、緊急事態宣言等の影響で中断せざるを得なかったから
- ☐ 参加していたボランティア団体等が活動を休止したから
- ☐ 参加していたボランティア団体等が解散したから
- ☐ その他（具体的に）

70%

前へ　次へ

＊ Q21　あなたが今後ボランティア活動に参加する場合、どのようなボランティア活動に参加したいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- ☐ 町会・自治会の活動
- ☐ PTAの活動や学校行事の手伝い
- ☐ まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、観光ガイドボランティアなど）
- ☐ 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティアなど）
- ☐ 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
- ☐ 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
- ☐ 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
- ☐ 自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
- ☐ スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
- ☐ 文化・芸術・学術に関係した活動（文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
- ☐ 災害に関係した活動（炊き出し、募金を集める活動など）
- ☐ 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
- ☐ 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
- ☐ 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
- ☐ 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）
- ☐ その他（具体的に）

[　　]

- ☐ 参加したいボランティア活動はない

73%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q22　前問であなたが選択したボランティア活動について、あなたはどのように参加しようと思いますか。次の中から当てはまるものを1つだけお答えください。

- ◯ 実際に現地に行って参加する（人と対面する活動など）
- ◯ 自宅やカフェ等、現地に行かずにすむ場所から参加する（郵便やオンラインツール等を用いたリモートの活動など）
- ◯ 上記の両方の方法で参加する

75%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q23　あなたは東京2020大会でボランティアが大会運営のサポートや役割を担い、大会を盛り上げたことをご存じですか。

- ◯ 知っている
- ◯ 知らない

77%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q24　東京2020大会でボランティアが活躍したことを知って、ご自身のボランティア活動に対する意識や行動に変化はありましたか。

- ◯ 東京2020大会を契機に新たにボランティア活動を始め、現在も継続している
- ◯ 東京2020大会前と比較し、活動頻度が増えるなどボランティア活動が充実した
- ◯ 今後ボランティアとして活動したいと考えている
- ◯ 特に変化はない

80%

前へ　次へ

３　ボランティアセンター・市民活動センターについて

＊ Q25　あなたは東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）や、センターが運営するウェブサイト「ボラ市民ウェブ」をご存じですか。また、利用したことはありますか。次の中からそれぞれ1つずつお答えください。

	利用したことがある	知っているが、利用したことはない	知らない
東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）	○	○	○
ウェブサイト「ボラ市民ウェブ」	○	○	○

82%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q26　あなたは東京ボランティア・市民活動センターもしくは「ボラ市民ウェブ」を利用して満足されましたか。次の中から1つだけお答えください。

- ○ とても満足している
- ○ どちらかといえば満足している
- ○ どちらかといえば満足していない
- ○ 満足していない
- ○ わからない

84%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q27　区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。次の中から1つだけお答えください。

- ◯ 利用したことがある
- ◯ 知っているが、利用したことはない
- ◯ 知らない

86%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

４　東京都のボランティア活動推進に関する施策について

＊ Q28　東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。
このサイトでは、ボランティア活動情報をチェックすることができるほか、ユーザー登録をすれば、ボランティアに関する最新情報をメールで受け取ったり、ユーザー同士で交流したりできます。あなたはこの「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。次の中から1つだけお答えください。

- ◯ サイトを閲覧したことがある
- ◯ 知っているが、閲覧したことはない
- ◯ 知らない

89%

前へ　次へ

5　寄附について

＊ Q29　あなたは寄附をしたことがありますか。金銭・物品について、それぞれ１つずつお答えください。ただし、「金銭の寄附」は下記の1～8に掲げる方法、「物品の寄附」は食材・衣類・電子機器等の物品の無償での提供を指します 。

1. 街頭での募金
2. 設置されている募金箱への寄附（街頭募金を除く）
3. 直接手渡し
4. 銀行やコンビニエンスストア等での振込・口座引落
5. クレジットカード等の利用（ポイント等の利用を含む）
6. 商品の購入を通じた寄附（寄附付き商品、フェアトレード製品、被災地産品の購入など）
7. 給与からの天引き
8. クラウドファンディング（ただし、対価性のある還元をもたらすものを除く）

	直近1年間にしたことがある	1年以上前にしたことがある	今までしたことがない
金銭の寄附	○	○	○
物品の寄附	○	○	○

91%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q30　あなたは直近1年間にどのような対象あるいは分野に寄附をしましたか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- ☐ 共同募金（赤い羽根）
- ☐ 緊急災害支援
- ☐ 日本赤十字社
- ☐ 国際協力
- ☐ 町会・自治会などの地縁団体
- ☐ 宗教関連（賽銭を除く）
- ☐ 自然・環境関連
- ☐ 保健・医療・福祉
- ☐ 子供・青少年育成
- ☐ 教育・研究
- ☐ まちづくり・まちおこし
- ☐ 国や都や区市町村など
- ☐ 文化・芸術
- ☐ スポーツ
- ☐ 政治献金
- ☐ 業界団体・商業団体・労働組合
- ☐ 権利擁護・権利支援
- ☐ 雇用促進・雇用支援
- ☐ その他（具体的に）

93%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q31　あなたはどのような方法で金銭の寄附をしましたか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- ☐ 街頭での募金
- ☐ 設置されている募金箱（街頭募金を除く）
- ☐ 直接手渡し
- ☐ 銀行やコンビニエンスストア等での振込・口座引落
- ☐ クレジットカード等の利用（ポイント等の利用を含む）
- ☐ 商品の購入を通じた寄附（寄附付き商品、フェアトレード製品、被災地産品の購入など）
- ☐ 給与からの天引き
- ☐ クラウドファンディング（ただし、対価性のある還元をもたらすものを除く）
- ☐ その他（具体的に）

95%

前へ　次へ

令和４年度　都民等のボランティア活動等に関する実態調査

＊ Q32　あなたは直近1年間で合計どのくらい寄附をしましたか。次の中から1つだけお答えください。

- ○ 1～10円未満
- ○ 10～100円未満
- ○ 100～1,000円未満
- ○ 1,000～10,000円未満
- ○ 10,000～50,000円未満
- ○ 50,000～100,000円未満
- ○ 100,000円以上
- ○ わからない
- ○ 答えたくない

98%

前へ　次へ

6　ボランティア活動への参加のための支援について

＊ Q33　あなたはボランティア活動参加に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- ☐ ボランティア活動に関する普及活動（ボランティア団体の活動紹介のイベントなど）
- ☐ ボランティア同士が交流・情報交換できる機会の提供
- ☐ ホームページや情報誌、SNSなどによるボランティア活動の情報提供
- ☐ ボランティア活動の相談窓口の整備
- ☐ ボランティア活動の技術や知識を得るための研修会、講習会の開催
- ☐ ボランティア活動の体験・参加機会の提供
- ☐ ボランティア活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
- ☐ ボランティア団体への設備・金銭的支援（ミーティングなどの活動場所の整備や活動資金の補助など）
- ☐ ボランティア団体の交流会の実施
- ☐ 表彰などボランティア活動を評価する制度の創設
- ☐ ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じて特典を受けられる制度の創設
- ☐ ボランティア活動希望者とボランティア団体をマッチングする仕組み
- ☐ 児童・青少年に対するボランティア活動に関する教育
- ☐ ボランティア活動はそもそも自主的な活動であるので、ボランティア活動に取り組む人の自発性に委ねて、支援等は最小限にするのがよい
- ☐ その他（具体的に）
- ☐ 特に望むことはない

100%

前へ　完了

団体調査　調査票

都民等のボランティア活動等に関する実態調査
調査票（企業）

それぞれの質問について、当てはまる選択肢の番号に○を記入してください。

1　ボランティア活動について

（すべての方）

Q1　貴社が社会貢献活動として実施しているボランティア活動等※で、当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可） ※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

1. 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
2. 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
3. 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
4. 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど）
5. スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
6. 文化・芸術・学術に関係した活動（美術館や博物館等のガイドボランティア、文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
7. まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、町会・自治会の活動、観光ガイドボランティアなど）
8. 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
9. 自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
10. 災害に関係した活動（炊き出し、がれきや土砂の撤去など）
11. 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
12. 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
13. 寄附関係（金銭や物品の寄附、募金を集める活動など）
14. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）
15. その他（具体的に：　　）
16. 実施していない

（すべての方）

Q2　従業員（常勤に限る）のボランティア活動を推奨・推進するために行っているもので、当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 従業員ボランティアを推奨・推進する担当・組織を設置している（CSR 室など）
2. ボランティア休暇制度を設けている
3. 従業員のボランティア活動の実績を社内広報などで紹介している
4. 社内にボランティアコーディネーター※1を置いている
5. 従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している
6. 従業員向けにボランティア活動に関する研修会、講習会などを開催している
7. 活動時の交通費や宿泊費、保険料などの経費を負担（一部負担を含む）している
8. 従業員のボランティア活動に対する表彰制度を導入している
9. ボランティアポイント制度※2を導入している
10. 寄附や活動支援のための給付天引きシステムを導入している
11. マッチングギフト制度※3を導入している
12. 退職者のボランティア活動を推進する取組をしている
13. 新任研修などの従業員研修において、ボランティア活動に関する内容を組み込んでいる
14. 活動にあたって、社内でのチラシやメルマガなどでの周知、会議室の利用を認めている
15. 活動にあたって、社内のパソコンやメールなどの利用を認めている
16. その他（具体的に：　　）
17. 特に何もしていない　⇒　Q12 へお進みください

※1 ボランティアコーディネーター
　ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側とを調整する人材
※2 ボランティアポイント制度
　ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じた特典を受けられる制度
※3 マッチングギフト制度
　従業員による寄附などに、集まった金額の一定比率を上乗せして寄附する制度

（Q2 で 1～16 と答えた方）

Q3　選択した取組のうち、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。（１つに○）

1.　ある	2.　ない	3.　わからない

（Q2 で 1～16 と答えた方）

Q4　従業員のボランティア活動を推奨・推進する取組を始めたきっかけについて、当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 他社が行っているボランティア活動に共感したため
2. 行政機関のボランティア推進施策に影響を受けたため
3. ボランティア活動を行っている団体からの誘いがあったため
4. 外部の講座や研修会に参加して
5. SNS を通じて
6. 新聞、雑誌、ポスター、チラシ、インターネット（SNS を除く）などを見て
7. 経営層の判断・指示
8. その他（具体的に：　　）
9. 特にきっかけはない

（Q2 で 1～16 と答えた方）

Q5　従業員のボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいる理由について、当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 企業の社会的責任として必要と考えるため
2. 企業価値、企業ブランドの向上のため
3. 新たな取引先の開拓などビジネスチャンスが得られるため
4. 株主や投資家・金融機関などからの要請に応えるため
5. 社内にボランティア活動に熱心な従業員がいるため
6. 従業員の実行力の向上や新たな発想につながるなど、人材育成に有効であるため
7. 災害被災地支援をするため
8. 地域の行事などに参加する必要があるため
9. その他（具体的に：　　）

（Q2 で 1～16 と答えた方）

Q6　今後、従業員のボランティア活動を進めていくにあたり、課題と考えていることはありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 企画などを行う人材（コーディネーターなど）の不足
2. 担当者が専門的な能力や知識を学ぶ機会の確保
3. 経営への戦略的位置づけ
4. 経営層の理解
5. 社員など、社内での理解・協力
6. 株主をはじめとする利害関係者の理解
7. 活動を行っていくための十分な情報
8. ボランティア活動の対象となる地域などの課題把握
9. ボランティア団体などの連携先の確保
10. 新型コロナウイルス感染症の収束
11. その他（具体的に：　　）
12. 課題はない

（Q2 で「1. 従業員ボランティアを推奨・推進する担当・組織を設置している（CSR 室など）」と答えた方）

Q7　従業員のボランティア活動を推奨・推進する組織の構成人数と、当該組織などへの経営層（担当役員など）の関与についてお答えください。（それぞれ１つずつに○）

構成人数	1.　3 人以下　2.　4～5 人　3.　6～10 人 4.　11～20 人　5.　21 人以上
経営層の関与	1.　積極的に関与している　2.　ある程度関与している 3.　あまり関与していない　4.　関与していない

（Q2 で「2. ボランティア休暇制度を設けている」と答えた方）

Q8　ボランティア休暇制度を直近の１年間で利用したことがある従業員は何人ですか。（１つに○）

注：直近で取りまとめた１年間の休暇利用状況であれば、期間はいつでも結構です。

1.　10 人以下　2.　11～20 人　3.　21～50 人
4.　51～100 人　5.　101 人以上　6.　利用者なし

（Q2 で「5. 従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している」と答えた方）

Q9　従業員の専門性（職業を通じて培った技能や知識、経験など）を活かしたボランティア活動（プロボノ）を企画・実施していますか。

1.　企画・実施している　　2.　企画・実施していない

どのような専門性か、具体的にお書きください。

（Q2 で「5. 従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している」と答えた方）

Q10　ボランティア活動の企画・実施にあたって、連携して行っている団体があれば、当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 市民活動団体（NPO 法人を除く）
2. NPO 法人
3. 公益法人
4. 地縁団体（町会・自治会や老人会など）
5. 当事者団体（障害者支援団体など）
6. 事業者（企業など）
7. 学校や教育機関
8. 東京ボランティア・市民活動センター
9. 区市町村のボランティアセンター
10. 行政機関
11. その他
（具体的に：　　）
12. 連携していない

（Q2 で「5. 従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している」と答えた方）

Q11　ボランティア活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体があれば、当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

注：現在、既に連携していて、今後も引き続き連携したい場合も含めてお答えください。

1. 市民活動団体（NPO 法人を除く）
2. NPO 法人
3. 公益法人
4. 地縁団体（町会・自治会や老人会など）
5. 当事者団体（障害者支援団体など）
6. 事業者（企業など）
7. 学校や教育機関
8. 東京ボランティア・市民活動センター
9. 区市町村のボランティアセンター
10. 行政機関
11. その他
（具体的に：　　）
12. 連携は考えていない

（Q2 で「17. 特に何もしていない」と答えた方）

Q12　従業員のボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいない理由について、当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 企業の役割ではないため
2. 取り組むこと自体を考えたことがないため
3. 利益につながらないため
4. 経済的、又は人的に余裕がないため
5. 取り組み方がわからないため
6. 企画などを行う人材（コーディネーターなど）がいないため
7. ボランティア活動に関する情報がないため
8. 経営層の理解が得られないため
9. 社内の協力が得られないため
10. 株主や投資家・金融機関などの理解が得られないため
11. 新型コロナウイルス感染症が流行しているため
12. その他（具体的に：　　）

（Q12 で 3～12 と答えた方）

Q13　Q12 で回答した理由が解決されれば、従業員のボランティア活動の推奨・推進に取り組んでみたいと思いますか。（１つに○）

1.　取り組んでみたい　　2.　取り組みたくない　　3.　わからない

（すべての方）

Q14　貴社には、従業員によって設立・運営されているボランティア活動を行うための組織（サークルなど）がありますか。（１つに○）

1.　ある	2.　ない	3.　わからない

（Q14 で 1 と答えた方）

Q15　貴社は、従業員によって設立・運営されているボランティア活動を行うための組織（サークルなど）の活動を支援していますか。（１つに○）

1. 経済的な支援を行っている
2. 経済的な支援以外の支援を行っている
3. 支援していない

（すべての方）

Q16　東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。（１つに○）

1. 利用したことがある
2. 知っているが、利用したことはない
3. 知らない

（すべての方）

Q17　区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。（１つに○）

1. 利用したことがある
2. 知っているが、利用したことはない
3. 知らない

（すべての方）

Q18　東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。（１つに○）

1. サイトを閲覧したことがある
2. 知っているが、閲覧したことはない
3. 知らない

（すべての方）

Q19　ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

（すべての方）

Q20　従業員のボランティア活動を推奨・推進するために、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 活動に関する情報提供、情報発信の充実
2. 相談窓口の整備
3. 活動を行うために必要な知識を学ぶ講習会やイベントの開催
4. 従業員の活動支援に関する他の企業などの取組事例の紹介
5. ボランティア団体などとの交流の場の提供
6. 従業員がボランティア活動を体験する場の提供
7. 活動を行うために必要な費用の助成
8. 活動を行うために必要な用具など物品の供与・貸出
9. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
10. ボランティアコーディネーターを派遣する制度の創設
11. 活動を評価する表彰制度の創設
12. ボランティアポイント制度の創設
13. その他（具体的に：　　）
14. 特になし

２　貴社について（すべての方）

Q21　貴社の総従業員数は何人ですか。（１つに○）

1.　10 人未満	2.　10～50 人未満	3.　50～100 人未満
4.　100～500 人未満	5.　500～1,000 人未満	6.　1,000 人以上

Q22　貴社は設立から何年経っていますか。（１つに○）

1.　1 年未満	2.　1～4 年未満	3.　4～6 年未満	4.　6～10 年未満
5.　10～20 年未満	6.　20～30 年未満	7.　30 年以上	

Q23　貴社の業種は何ですか。複数該当する場合は、最も売上高が大きいものについてお答えください。（１つに○）

1.農業、林業、漁業	12. 金融業、保険業
2.鉱業、採石業、砂利採取業	13. 不動産業、物品賃貸業
3.建設業	14. 飲食業
4.製造業（素材関連）	15. 宿泊業
5.製造業（機械関連）	16. 医療・福祉（介護・社会福祉事業）
6.製造業（消費関連）	17. 医療・福祉（介護・社会福祉事業以外）
7.電気・ガス・熱供給・水道業	18. 教育・学習支援業
8.情報通信業	19. 学術研究、専門・技術サービス業
9.運輸業	20. 生活関連サービス業、娯楽業
10.卸売業	21. 複合サービス事業（郵便局、協同組合）
11.小売業	22. その他サービス業
	23. 上記以外の業種 （具体的に：　　）

Q24　貴社が事業を行っている地域についてお答えください。（１つに〇）

1.　町丁内	2.　区市町村内	3.　都内	4.　国内	5.　国内外

Q25　貴社の従業員の平均勤続年数は何年ですか。（１つに〇）

1. 1 年未満
2. 1～5 年未満
3. 5～10 年未満
4. 10～20 年未満
5. 20 年以上

Q26　貴社の従業員の平均賃金はいくらですか。（１つに〇）

1. 200 万円未満
2. 200～400 万円未満
3. 400～600 万円未満
4. 600～800 万円未満
5. 800～1,000 万円未満
6. 1,000 万円以上

Q27　貴社の資本金をお答えください。（１つに〇）

1. 1000 万円未満
2. 1000～5000 万円未満
3. 5000 万円～1 億円未満
4. 1～5 億円未満
5. 5～10 億円未満
6. 10～100 億円未満
7. 100 億円以上

ご協力ありがとうございました。

都民等のボランティア活動等に関する実態調査
調査票（NPO 法人）

それぞれの質問について、当てはまる選択肢の番号に○を記入してください。

1　ボランティア活動について

（すべての方）

Q1　貴団体が団体として企画・実施しているボランティア活動※で、当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可） ※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

1. 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
2. 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
3. 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
4. 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど）
5. スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
6. 文化・芸術・学術に関係した活動（美術館や博物館等のガイドボランティア、文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
7. まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、町会・自治会の活動、観光ガイドボランティアなど）
8. 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
9. 自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
10. 災害に関係した活動（炊き出し、がれきや土砂の撤去など）
11. 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
12. 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
13. 寄附関係（金銭や物品の寄附、募金を集める活動など）
14. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）
15. その他（具体的に：　　）
16. 企画・実施していない　⇒　Q9 へお進みください

（Q1 で 1～15 の方）

Q2　選択した活動のうち、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。（１つに○）

1.　ある	2.　ない	3.　わからない

（Q1 で 1～15 の方）

Q3　ボランティア活動（社会貢献活動）の企画・実施にあたって、連携している団体がありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1.　市民活動団体（NPO 法人を除く）	7.　学校や教育機関
2.　NPO 法人	8.　東京ボランティア・市民活動センター
3.　公益法人	9.　区市町村のボランティアセンター
4.　地縁団体（町会・自治会や老人会など）	10.　行政機関
5.　当事者団体（障害者支援団体など）	11.　その他
6.　事業者（企業など）	（具体的に：　　）
	12.　連携していない

（Q1 で 1～15 の方）

Q4　ボランティアコーディネーター※を配置していますか。

1.　配置している	2.　配置していない

※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側とを調整する人材

（Q1 で 1～15 の方）

Q5　貴団体のボランティア活動（社会貢献活動）を企画・実施する際に、ボランティアは参加していますか。現場でボランティア活動をしている方（管理、運営、総務、庶務等に係るものは除く。）についてお答えください。

1.　参加している	2.　参加していない　⇒　Q8 へお進みください

（Q5 で 1 の方）

Q6　ボランティアが参加する活動について、年間の活動頻度及び 1 回あたりのボランティア活動人数・時間をお答えください。（複数の活動を企画・実施している場合は、そのうち中心的に行っている活動についてお答えください。）（それぞれ 1 つずつに○）

年間の活動頻度	1.　年 1 回程度　2.　年 2～6 回程度　3.　月 1、2 回程度 4.　週 1 回程度　5.　週 2 回以上
1 回あたりの活動人数	1.　5 人以下　2.　6～10 人　3.　11～20 人 4.　21～30 人　5.　31 人以上
1 回あたりの平均活動時間	1.　1 時間未満　2.　1～2 時間程度 3.　3～4 時間程度　4.　5 時間以上 5.　わからない

（Q5 で 1 の方）

Q7　ボランティアの参加人数を増やしていくためにはどのようなことが必要ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. ボランティア希望者の情報
2. 外部に働きかける広報ツール
3. 時間的な余裕
4. ボランティア活動を企画・実施する人材
5. ボランティア活動を企画・実施するためのノウハウ
6. 職員のスキルアップ
7. ボランティア活動の対象となる地域の課題などの把握
8. 資金
9. 新型コロナウイルス感染症の収束
10. その他（具体的に：　　）
11. わからない

（Q5 で 2 の方）

Q8　ボランティアが参加していない理由について、当てはまるものをすべてお答えください。

（複数選択可）

1. 団体の設立理念や実施事業にそぐわないため
2. 経済的に余裕がないため
3. ボランティア活動を企画・実施する人材がいないため
4. ボランティア活動の企画・実施方法がわからないため
5. ボランティア活動を企画・実施する時間的余裕がないため
6. ボランティア活動の対象となる地域の課題などがわからないため
7. ボランティアが参加するために、募集など外部に働きかける広報ツールがないため
8. ボランティアが参加しなくても、事業を行えるため
9. 新型コロナウイルス感染症が流行しているため
10. 活動は有償で行うものであるため
11. その他（具体的に：　　）

（すべての方）

Q9　東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。（１つに○）

1.　利用したことがある	2.　知っているが、利用したことはない	3.　知らない

（すべての方）

Q10　東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」はご存じですか。また、利用したことはありますか。（１つに○）

1.　利用したことがある	2.　知っているが、利用したことはない	3.　知らない

（Q9 または Q10 で１の方）

Q11　利用して、満足されましたか。（１つに○）

1.　とても満足している	2.　どちらかといえば満足している
3.　どちらかといえば満足していない	4.　満足していない
5.　わからない	

（すべての方）

Q12　区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。（１つに○）

1.　利用したことがある	2.　知っているが、利用したことはない	3.　知らない

（すべての方）

Q13　東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。（１つに○）

1.　サイトを閲覧したことがある	2.　知っているが、閲覧したことはない	3.　知らない

（Q13 で１の方）

Q14　「東京ボランティアレガシーネットワーク」を利用して満足されましたか。（１つに○）

1.　とても満足している	2.　どちらかといえば満足している
3.　どちらかといえば満足していない	4.　満足していない
5.　わからない	

（Q1 で 1～15 の方）

Q15　貴団体のボランティア活動（社会貢献活動）を推進するにあたっての課題をすべてお答えください。

（複数選択可）

1. 経済的負担が大きすぎる
2. ボランティア活動を企画・推進する人材が十分にいない
3. ボランティア活動に参加する人材が十分にいない
4. 地域の理解が得られない
5. 利害関係者の理解が得られない
6. 団体内の関係者の理解が得られない
7. 活動を行うための十分な時間がない
8. 活動を行うための情報が得られない
9. ボランティアコーディネーターがいない
10. 連携できる他の団体が見つからない
11. 新型コロナウイルス感染症が流行している
12. その他（具体的に：　　）

（すべての方）

Q16　ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

（すべての方）

Q17　ボランティア活動に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 活動に関する情報提供、情報発信の充実
2. 相談窓口の整備
3. 活動を行うために必要な知識を学ぶ講習会やイベントの開催
4. 団体が行う情報発信の支援（行政広報誌や行政が運営するポータルサイトの利用など）
5. 団体間の交流の場の提供
6. ボランティア希望者との交流の場の提供
7. 活動を行うために必要な費用の助成
8. 活動を行うために必要な用具など物品の供与・貸出
9. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
10. ボランティアコーディネーター※1を派遣する制度の創設
11. 活動を評価する表彰制度の創設
12. ボランティアポイント制度※2の創設
13. その他（具体的に：　　）
14. 特になし

※1 ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側とを調整する人材

※2 ボランティアポイント制度：ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じた特典を受けられる制度

２　貴団体について（すべての方）

Q18　貴団体の団体構成員の総数は何人になりますか。（１つに○）

1.　10 人未満	2.　10～20 人未満	3.　20～30 人未満
4.　30～50 人未満	5.　50～100 人未満	6.　100 人以上

Q19　貴団体は設立から何年経っていますか。（１つに○）

1.　1 年未満	2.　1～4 年未満	3.　4～6 年未満	4.　6～10 年未満
5.　10～20 年未満	6.　20～30 年未満	7.　30 年以上	

Q20　貴団体の活動分野は次のどれにあたりますか。（複数選択可）

1. 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
2. 社会教育の推進を図る活動
3. まちづくりの推進を図る活動
4. 観光の振興を図る活動
5. 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
6. 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
7. 環境の保全を図る活動
8. 災害救援活動
9. 地域安全活動
10. 人権の擁護又は平和の活動の推進を図る活動
11. 国際協力の活動
12. 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
13. 子どもの健全育成を図る活動
14. 情報化社会の発展を図る活動
15. 科学技術の振興を図る活動
16. 経済活動の活性化を図る活動
17. 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
18. 消費者の保護を図る活動
19. 上記の活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動
20. 上記の活動に準ずる活動として都道府県又は指定都市の条例で定める活動

Q21　貴団体の活動地域はどの程度の範囲ですか。（１つに○）

1.　町丁内	2.　区市町村内	3.　都内	4.　国内	5.　国内外

Q22　貴団体の構成員の平均勤続年数は何年ですか。（１つに○）

1.　1 年未満	2.　1～5 年未満	3.　5～10 年未満
4.　10～20 年未満	5.　20 年以上	

Q23　貴団体の構成員の平均賃金はいくらですか。（１つに○）

1.　200 万円未満	2.　200～400 万円未満	3.　400～600 万円未満
4.　600～800 万円未満	5.　800～1,000 万円未満	6.　1,000 万円以上

Q24　貴団体の主な収入源は何ですか。（１つに○）

1.　会費
2.　寄附金
3.　行政からの業務委託費
4.　行政からの補助金・助成金
5.　財団など民間からの助成金や協賛金
6.　独自の事業収入
7.　その他（具体的に：　　）

Q25　貴団体の活動内容について情報発信する際に利用しているものとして、当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 貴団体ホームページ
2. 貴団体広報誌
3. 自治体ホームページ
4. 自治体広報誌
5. 東京ボランティア・市民活動センター
6. 区市町村のボランティアセンター
7. 様々な団体のボランティア募集情報を紹介する情報サイト
8. ボランティア情報誌
9. テレビ・ラジオ・新聞・雑誌
10. SNS
11. その他（具体的に：　　）

ご協力ありがとうございました。

都民等のボランティア活動等に関する実態調査
調査票（大学）

それぞれの質問について、当てはまる選択肢の番号に〇を記入してください。

1　ボランティア活動について

（すべての方）

Q1　貴学には、学生のボランティア活動※を支援する組織などがありますか。（１つに〇）

※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

1. ボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンターなど）を設置している
2. ボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンターなど）は設置していないが、担当者を配置している
3. 支援する組織などはない　⇒　Q10 へお進みください

（Q1 で 1、2 の方）

Q2　設置しているボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などの名称・設置年度・職員数・設置したきっかけをお答えください。
（Q1 で 2 と答えた方は、職員数と配置したきっかけをお答えください。）

名称	
設置年度	
職員数 （配置していない場合は「0」人と記入してください。）	教員：（　　）人 事務職員：（　　）人 ボランティアコーディネーター※など：（　　）人 学生スタッフ：（　　）人
きっかけ（複数選択可）	1. 教育機関もボランティア活動を推進する必要があると考えたため 2. 教育機関のイメージアップにつながるため 3. 学生の効果的な教育の場を創出できると考えたため 4. 学内にボランティア活動に熱心な学生や教職員がいたため 5. 地域の行事などにより推進することとしたため 6. 周囲の教育機関が設置しているため 7. 学長・部局長などの判断 8. その他（具体的に：　　）

※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材

（Q1 で 1、2 の方）

Q3　貴学のボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などで行っている取組のうち、当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. ボランティア活動情報の提供・紹介
2. 活動を希望する学生、サークルに対する相談・助言
3. 学生とボランティア活動とのマッチング
4. 学生が参加するためのボランティア活動の企画・実施
5. 学生コーディネーターの育成
6. ボランティア活動に関する研修会・講習会など
7. ボランティアサークルなどの活動支援
8. 学生、ボランティアサークルなどの活動の発表
9. 学外の団体などとの連携
10. ボランティアポイント制度※の導入
11. その他（具体的に：　　）

※ボランティアポイント制度：ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じて特典を受けられる制度

（Q1 で 1、2 の方）

Q4　Q3 で選択した取組のうち、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。（１つに○）

1.　ある　　2.　ない　　3.　わからない

（Q1 で 1、2 の方）

Q5　貴学で直近 1 年間（令和 3 年 11 月 1 日から令和 4 年 10 月 31 日まで）にボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などが紹介・実施をして、実際に学生が参加したボランティア活動について、当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
2. 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
3. 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
4. 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど）
5. スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
6. 文化・芸術・学術に関係した活動（美術館や博物館等のガイドボランティア、文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
7. まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、町会・自治会の活動、観光ガイドボランティアなど）
8. 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
9. 自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
10. 災害に関係した活動（炊き出し、がれきや土砂の撤去など）
11. 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
12. 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
13. 寄附関係（金銭や物品の寄附、募金を集める活動など）
14. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）
15. その他（具体的に：　　）
16. 直近 1 年間はないが、2～3 年前には参加したことがある
17. 直近 2～3 年以内には参加したことはないが、過去には参加したことがある
18. 実施していない

（Q5 で 1～15 の方）

Q6　貴学のボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などが紹介・実施したボランティア活動（寄附関係を含まない）に直近 1 年間（令和 3 年 11 月 1 日から令和 4 年 10 月 31 日まで）で参加した学生数（延べ人数）は何人ですか。（１つに〇）

1.　10 人未満	2.　10～20 人未満	3.　20～50 人未満
4.　50～100 人未満	5.　100～500 人未満	6.　500～1,000 人未満
7.　1,000 人以上	8.　わからない	

（Q5 で 1～15 の方）

Q7　貴学のボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などが紹介・実施して実際に学生が参加したボランティア活動について、活動した地域はどこですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 東京 23 区部	6.　アジア
2. 多摩市町村部	7.　アフリカ
3. 東京島しょ地区	8.　アジア・アフリカ以外の海外
4. 東京近郊（神奈川、埼玉、千葉）	9.　オンライン
5. 国内（都内、東京近郊を除く）	10.　わからない

（Q1 で 1、2 の方）

Q8　学生へのボランティア情報の周知方法について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. チラシ、ポスター
2. 貴学のホームページや学生ポータルサイト、メルマガ
3. 様々な団体のボランティア募集情報を紹介する情報サイト
4. SNS
5. 学内放送・学内誌
6. 説明会等のイベントや講義の中で紹介
7. 口コミ
8. その他（具体的に：　　）
9. 実施していない

（Q1 で 1、2 の方）

Q9　学内のボランティア活動を充実させていくための課題は何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 予算
2. 人員
3. ボランティアコーディネーターなどの専門職の配置
4. 外部組織との連携の充実
5. 教職員など、学内の理解・協力
6. 学長、部局長などのリーダーシップ
7. ボランティアセンター職員のスキルアップ
8. 学生の理解・協力
9. 学生サークルなどの活動の充実や協力
10. 学生コーディネーターの育成
11. 学生が参加できるボランティア活動先の開拓
12. 学生に向けたボランティア情報の周知
13. 新型コロナウイルス感染症の収束
14. その他（具体的に：　　）
15. わからない

（Q1 で 3 の方）

Q10　ボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などを設置していない理由について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 学長や部局長などの理解が得られないため
2. 教員など関係者の理解が得られないため
3. 十分な予算がないため
4. ボランティアコーディネーター※など必要な人材がいないため
5. 活動を行える十分な機会・場所がないため
6. 設置したいが、どうしたらよいかわからないため
7. 設置しても学生が集まらないため
8. 教育活動と直接の関係がないため
9. 周囲の教育機関が設置をしていないため
10. そもそも設置すること自体考えたことがないため
11. 新型コロナウイルス感染症が流行しており、ボランティア活動自体の見込みが立たないため
12. その他（具体的に：　　）

※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材

（すべての方）

Q11　貴学に学生のボランティアサークルなどはありますか。（１つに〇）

1. ボランティア活動を主目的とするサークルがある
2. 主目的ではないが、ボランティア活動に関わっているサークルがある
3. ない
4. わからない

（Q11 で 1 の方）

Q12　ボランティア活動を主目的とするサークルなどの活動内容、団体数、学生数をお答えください。

・活動内容（複数選択可）

1. 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
2. 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
3. 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
4. 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど）
5. スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
6. 文化・芸術・学術に関係した活動（美術館や博物館等のガイドボランティア、文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
7. まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、町会・自治会の活動、観光ガイドボランティアなど）
8. 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
9. 自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
10. 災害に関係した活動（炊き出し、がれきや土砂の撤去など）
11. 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
12. 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
13. 寄附関係（金銭や物品の寄附、募金を集める活動など）
14. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）
15. その他（具体的に：　　）

・団体数　（　　）団体

・学生数 約（　　）人

（すべての方）

Q13 ボランティア活動の企画・実施にあたって、連携している団体はありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 市民活動団体（NPO 法人を除く）
2. NPO 法人
3. 公益法人
4. 地縁団体（町会・自治会や老人会など）
5. 当事者団体（障害者支援団体など）
6. 事業者（企業など）
7. 学校や教育機関
8. 東京ボランティア・市民活動センター
9. 区市町村のボランティアセンター
10. 行政機関
11. その他
（具体的に：　　）
12. 連携していない

（すべての方）

Q14 ボランティア活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体があれば、当てはまるものをすべてお答えください。現在、既に連携していて、今後も引き続き連携したい場合も含めてお答えください。（複数選択可）

1. 市民活動団体（NPO 法人を除く）
2. NPO 法人
3. 公益法人
4. 地縁団体（町会・自治会や老人会など）
5. 当事者団体（障害者支援団体など）
6. 事業者（企業など）
7. 学校や教育機関
8. 東京ボランティア・市民活動センター
9. 区市町村のボランティアセンター
10. 行政機関
11. その他
（具体的に：　　）
12. 連携は考えていない

（すべての方）

Q15 東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。（１つに○）

1. 利用したことがある　　2. 知っているが、利用したことはない　　3. 知らない

（すべての方）

Q16 東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」はご存じですか。また、利用したことはありますか。（１つに○）

1. 利用したことがある	2. 知っているが、利用したことはない	3. 知らない

（すべての方）

Q17 区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。（１つに○）

1. 利用したことがある	2. 知っているが、利用したことはない	3. 知らない

（すべての方）

Q18 東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア活動情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。（１つに○）

1. サイトを閲覧したことがある	2. 知っているが、閲覧したことはない	3. 知らない

（すべての方）

Q19 ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

（すべての方）

Q20　ボランティア活動に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 活動に関する情報提供、情報発信の充実
2. 相談窓口の整備
3. 活動を行うために必要な知識を学ぶ講習会やイベントの開催
4. 学生の活動支援に関する他の教育機関などの取組事例の紹介
5. ボランティア団体などとの交流の場の提供
6. 学生が活動を体験する場の提供
7. 学生が活動を行うために必要な費用の助成
8. ボランティアセンターを設置・運営するために必要な費用の助成
9. 学生が活動を行うために必要な用具など物品の供与・貸出
10. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
11. ボランティアコーディネーターを派遣する制度の創設
12. 活動を評価する表彰制度の創設
13. ボランティアポイント制度※の創設
14. その他（具体的に：　　）
15. 特になし

※ボランティアポイント制度：ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じて特典を受けられる制度

２　貴学について（すべての方）

Q21　貴学の職員（教授など含む）の総数は何人ですか。（１つに○）

1.　10 人未満	2.　10～50 人未満	3.　50～100 人未満
4.　100～500 人未満	5.　500～1,000 人未満	6.　1,000 人以上
7.　わからない		

Q22　貴学は設立から何年経っていますか。（１つに○）

1.　1 年未満	6.　20～30 年未満
2.　1～4 年未満	7.　30～50 年未満
3.　4～6 年未満	8.　50～75 年未満
4.　6～10 年未満	9.　75～100 年未満
5.　10～20 年未満	10.　100 年以上

Q23　貴学の学生数は何人ですか。（１つに○）

1.　100 人未満	2.　100～500 人未満	3.　500～1,000 人未満
4.　1,000～5,000 人未満	5.　5,000～10,000 人未満	6.　10,000～20,000 人未満
7.　20,000 人以上	8.　わからない	

ご協力ありがとうございました。

都民等のボランティア活動等に関する実態調査
調査票（中学高校）

それぞれの質問について、当てはまる選択肢の番号に〇を記入してください。

１　ボランティア活動について

（すべての方）

Q1　授業にボランティア活動※を取り入れていますか。

※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

1.　取り入れている	2.　取り入れていない　⇒　Q6 へお進みください

（Q1 で１の方）

Q2　授業に取り入れたボランティア活動の年間時間数及び教科名をお答えください。

・年間時間数

1.　2 時間以下	2.　2～3 時間	3.　4～5 時間	4.　6～10 時間
5.　11～20 時間	6.　21 時間～30 時間	7.　31 時間以上	

・教科名（　　）

（Q1 で１の方）

Q3　授業に取り入れたボランティア活動のうち、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。（１つに〇）

1.　ある	2.　ない	3.　わからない

（Q1 で 1 の方）

Q4　直近 1 年間（令和 3 年 11 月 1 日から令和 4 年 10 月 31 日まで）に授業で実際に生徒が参加したボランティア活動がある場合、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
2. 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
3. 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
4. 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど）
5. スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
6. 文化・芸術・学術に関係した活動（美術館や博物館等のガイドボランティア、文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
7. まちづくり・地域貢献のための活動（道路、公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、町会・自治会の活動、観光ガイドボランティア、あいさつ運動など）
8. 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
9. 自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
10. 災害に関係した活動（炊き出し、がれきや土砂の撤去など）
11. 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
12. 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
13. 寄附関係（金銭や物品の寄附、募金を集める活動など）
14. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）
15. その他（具体的に：　　）
16. 直近 1 年間はないが、2～3 年前には参加したことがある
17. 直近 2～3 年以内には参加したことはないが、過去には参加したことがある
18. 実施していない

（Q1 で 1 の方）

Q5　授業でボランティア活動を取り入れていくための課題（授業を行っていく上での課題）は何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 予算
2. ボランティア活動の体験の場の確保
3. ボランティア活動に関する授業を実施できる教員の確保
4. 教員のスキルアップの場、研修の機会など
5. 教材の充実
6. 年間の授業時間の中でボランティア教育のための時間を確保することが難しい
7. 新型コロナウイルス感染症の収束
8. その他（具体的に：　　）
9. わからない

（Q1 で 2 の方）

Q6　授業にボランティア活動を取り入れていない理由について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 十分な予算がないため
2. 保護者や教員など関係者の理解が得られないため
3. ボランティア活動に関する授業を実施できる教員など、必要な人材がいないため
4. 活動を行える十分な機会・場所がないため
5. 利用したい教材がないため
6. そもそも検討したことがないため
7. 周囲の教育機関で取り入れていないことから、必要性を感じないため
8. 取り入れたいが、どうしたらよいかわからないため
9. 時間的な余裕がないため
10. 新型コロナウイルス感染症が流行しているため
11. その他（具体的に：　　）

（すべての方）

Q7　ボランティア活動を行っている部活動などはありますか。

1.　ある	2.　ない

（Q7 で１の方）

Q8　ボランティア活動を行っている部活動のうち、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。（１つに○）

1.　ある	2.　ない	3.　わからない

（Q7 で 1 の方）

Q9　ボランティア活動を行っている部活動などの活動内容、団体数、生徒数、担当教員数をお答えください。

・活動内容（複数選択可）

1. 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
2. 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
3. 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
4. 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど）
5. スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
6. 文化・芸術・学術に関係した活動（美術館や博物館等のガイドボランティア、文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
7. まちづくり・地域貢献のための活動（道路、公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、町会・自治会の活動、観光ガイドボランティア、あいさつ運動など）
8. 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
9. 自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
10. 災害に関係した活動（炊き出し、がれきや土砂の撤去など）
11. 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
12. 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
13. 寄附関係（金銭や物品の寄附、募金を集める活動など）
14. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）
15. その他（具体的に：　　）

・団体数（　　）団体

・生徒数（　　）人（合計）

・担当教員数（　　）人（合計）

（Q1 または Q7 で 1 の方）

Q10 ボランティア活動を行っている授業や部活動などは、活動にあたり外部の団体と連携していますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 市民活動団体（NPO 法人を除く）	7. 学校や教育機関
2. NPO 法人	8. 東京ボランティア・市民活動センター
3. 公益法人	9. 区市町村のボランティアセンター
4. 地縁団体（町会・自治会や老人会など）	10. 行政機関
5. 当事者団体（障害者支援団体など）	11. その他
6. 事業者（企業など）	（具体的に：　　）
	12. 連携していない

（すべての方）

Q11 ボランティアコーディネーター※として活動できる人はいますか。

1. いる	2. いない

※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材

（すべての方）

Q12 東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。（１つに○）

1. 利用したことがある	2. 知っているが、利用したことはない	3. 知らない

（すべての方）

Q13 東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」はご存じですか。また、利用したことはありますか。（１つに○）

1. 利用したことがある	2. 知っているが、利用したことはない	3. 知らない

（すべての方）

Q14 区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。（１つに○）

1. 利用したことがある	2. 知っているが、利用したことはない	3. 知らない

（すべての方）

Q15 東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア活動情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。（１つに○）

1. サイトを閲覧したことがある	2. 知っているが、閲覧したことはない	3. 知らない

（すべての方）

Q16 ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

（すべての方）

Q17 ボランティア活動に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 活動に関する情報提供、情報発信の充実
2. 相談窓口の整備
3. 活動を行うために必要な知識を学ぶ講習会やイベントの開催
4. 生徒の活動支援に関する他の学校の取組事例の紹介
5. ボランティア団体などとの交流の場の提供
6. 生徒が活動を体験する場の提供
7. 生徒が活動を行うために必要な費用の助成
8. ボランティアセンターを設置・運営するために必要な費用の助成
9. 生徒が活動を行うために必要な用具など物品の供与・貸出
10. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
11. ボランティアコーディネーターを派遣する制度の創設
12. 活動を評価する表彰制度の創設
13. ボランティアポイント制度※の創設
14. その他（具体的に：　　）
15. 特になし

※ボランティアポイント制度：ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じて特典を受けられる制度

２　貴校について（すべての方）

Q18　貴校の職員（教職員など含む）の総数は何人ですか。（１つに○）

1.　10 人未満	2.　10～20 人未満	3.　20～30 人未満
4.　30～50 人未満	5.　50～100 人未満	6.　100 人以上
7.　わからない		

Q19　貴校は設立から何年経っていますか。（１つに○）

1. 1 年未満	6. 20～30 年未満
2. 1～4 年未満	7. 30～50 年未満
3. 4～6 年未満	8. 50～75 年未満
4. 6～10 年未満	9. 75～100 年未満
5. 10～20 年未満	10. 100 年以上

Q20　貴校の生徒数は何人ですか。（１つに○）

1. 50 人未満	7. 500～600 人未満
2. 50～100 人未満	8. 600～700 人未満
3. 100～200 人未満	9. 700～800 人未満
4. 200～300 人未満	10. 800～900 人未満
5. 300～400 人未満	11. 900～1,000 人未満
6. 400～500 人未満	12. 1,000 人以上

ご協力ありがとうございました。

都民等のボランティア活動等に関する実態調査
調査票（町会自治会）

それぞれの質問について、当てはまる選択肢の番号に〇を記入してください。

１　貴団体の活動について

（すべての方）

Q1　貴団体の活動内容について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。

（複数選択可）

1. 地域交流イベント（祭り、餅つき、運動会、クリスマスなど）
2. 防災活動（防災訓練、防災マップ作成など）
3. 青少年健全育成活動（伝統文化の継承、スポーツ教室、自然体験、しごと体験など）
4. 高齢者見守り活動（見守り訪問活動、高齢者サロン活動など）
5. 子育て世代や子供の見守り活動（多世代交流サロン、子供の居場所づくりなど）
6. 障害者の支援（外出の付き添い、障害者を対象とした防災訓練など）
7. 在住・訪日外国人への支援（案内板の多言語化、日常生活を送る上での手助けなど）
8. 防犯活動（パトロール、防犯講習会、振り込め詐欺防止など）
9. デジタル活用支援（デジタル機器の使い方講習会やデジタルを活用したイベントなど）
10. 街の環境整備（清掃活動、緑地の整備など）
11. その他（具体的に：　　）
12. 活動していない　⇒　Q3 へお進みください

（Q1 で 1～11 の方）

Q2　選択した活動のうち、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。（１つに〇）

1.　ある　　2.　ない　　3.　わからない

（すべての方）

Q3　貴団体の活動状況についてお答えください。（１つに○）

1.　ほとんど毎日	2.　週に 2～3 日くらい	3.　週に 1 日くらい
4.　月に 2～3 日くらい	5.　月に 1 日くらい	6.　年に数回くらい
7.　活動していない		

（すべての方）

Q4　貴団体区域内に住んでいる外国人の活動参加状況についてお答えください。（１つに○）

1.　全員参加している	2.　ほとんど参加している	3.　まあまあ参加している
4.　あまり参加していない	5.　ほとんど参加していない	6.　全く参加していない
7.　わからない		

（Q4 で 4～6 の方）

Q5　外国人の貴団体活動への参加にあたり、妨げとなっていることについて、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 外国人の区域内での居住状況を把握できていない
2. 外国人住民への声のかけ方がわからない
3. 外国人住民が参加しやすいイベントがない（少ない）
4. 住民や役員について、外国人との共生に理解が得られていない
5. その他（具体的に：　　）

（すべての方）

Q6　団体として活動を行うにあたっての課題について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 活動の担い手が不足している
2. 町会・自治会に加入しない住民が増えている
3. 地域の住民が減少している
4. 活動の担い手が高齢化している
5. 活動資金の調達が難しい
6. 会費の徴収が難しい
7. 町会・自治会館などがなく、活動拠点の確保が難しい
8. 町会・自治会活動について住民の理解が得られない
9. 特定の活動（防災・防犯・子供や高齢者の見守りなど）について専門的な知識がない
10. 地元の行政機関、企業、教育機関などの協力が得られない
11. 連携・協力してくれる他の団体が見つからない
12. 新型コロナウイルス感染症が流行している
13. ボランティアポイント制度※など、町会・自治会の活動を後押しする制度がない
14. その他（具体的に：　　）

※ボランティアポイント制度：ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じて特典を受けられる制度

２　他の団体との連携について

（すべての方）

Q7　貴団体の活動の企画や実施にあたって、連携している団体はありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 市民活動団体（NPO 法人を除く）
2. NPO 法人
3. 公益法人
4. 地縁団体（他の町会・自治会や老人会など）
5. 当事者団体（障害者支援団体など）
6. 事業者（企業など）
7. 学校や教育機関
8. 東京ボランティア・市民活動センター
9. 区市町村のボランティアセンター
10. 行政機関
11. その他（具体的　　）
12. 連携していない　⇒　Q10 へお進みください

（Q7 で 1～11 の方）

Q8　他の団体と連携した活動において、連携した団体はボランティアの募集を行いましたか。行った場合は、おおよその参加人数及び活動内容をお答えください。

ボランティアの募集	1.　募集した　　2.　募集していない
◎「1.　募集した」と答えた方は、下記の質問にお答えください。	
ボランティア参加人数	約（　　）人
連携して行った活動はどのようなものですか。当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）	1. 地域交流イベント（祭り、餅つき、運動会、クリスマスなど） 2. 防災活動（防災訓練、防災マップ作成など） 3. 青少年健全育成活動（伝統文化の継承、スポーツ教室、自然体験、しごと体験など） 4. 高齢者見守り活動（見守り訪問活動、高齢者サロン活動など） 5. 子育て世代や子供の見守り活動（多世代交流サロン、子供の居場所づくりなど） 6. 障害者の支援（外出の付き添い、障害者を対象とした防災訓練など） 7. 在住・訪日外国人への支援（案内板の多言語化、日常生活を送る上での手助けなど） 8. 防犯活動（パトロール、防犯講習会、振り込め詐欺防止など） 9. デジタル活用支援（デジタル機器の使い方講習会やデジタルを活用したイベントなど） 10. 街の環境整備（清掃活動、緑地の整備など） 11. その他（具体的に：　　）

（Q7 で 1～11 の方）

Q9　他の団体と連携してよかった点や課題について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

よかった点	1.　単独で実施するよりも大規模なイベントなどが実施できる 2.　若者の協力を得ることができ、活気が出る 3.　イベントなどの参加者が増加する 4.　斬新なアイデアを得ることができる 5.　資金不足、人手不足を解消できる 6.　町会や自治会の加入率が上がる 7.　その他（具体的に：　　） 8.　特になし
課題	1.　連携先との連絡調整 2.　経費の分担や支出管理 3.　役割分担の明確化 4.　各団体の意見の統一 5.　スケジュール調整 6.　連携先を見つけることが難しい 7.　連携することについて、内部の同意を得ることが難しい 8.　その他（具体的に：　　） 9.　特になし

（Q7 で 12 の方）

Q10　今後他の団体と連携して活動を行う場合、妨げとなることは何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 連携するための十分な資金がない
2. 活動を行う人材が十分に集まらない
3. 他の住民の理解が得られない
4. 活動場所が見つからない
5. 活動を行うにあたって十分な時間がない
6. 活動を行うための情報が得られない
7. 連携する団体がいない
8. 連携先の理解が得られない
9. 他の団体との連携方法がわからない
10. その他（具体的に：　　）

（すべての方）

Q11　今後どのような分野で他の団体と連携して活動を行ってみたいですか。（複数選択可）

1. 地域交流イベント（祭り、餅つき、運動会、クリスマスなど）
2. 防災活動（防災訓練、防災マップ作成など）
3. 青少年健全育成活動（伝統文化の継承、スポーツ教室、自然体験、しごと体験など）
4. 高齢者見守り活動（見守り訪問活動、高齢者サロン活動など）
5. 子育て世代や子供の見守り活動（多世代交流サロン、子供の居場所づくりなど）
6. 障害者の支援（外出の付き添い、障害者を対象とした防災訓練など）
7. 在住・訪日外国人への支援（案内板の多言語化、日常生活を送る上での手助けなど）
8. 防犯活動（パトロール、防犯講習会、振り込め詐欺防止など）
9. デジタル活用支援（デジタル機器の使い方講習会やデジタルを活用したイベントなど）
10. 街の環境整備（清掃活動、緑地の整備など）
11. その他（具体的に：　　）
12. 連携して活動したくない

（Q11 で 1～11 の方）

Q12　他の団体と連携していくために必要なことは何だと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 活動資金の確保
2. 町会・自治会への加入促進策
3. 他の町会・自治会との情報共有
4. 活動場所
5. 活動時間
6. 連携する団体の情報
7. ボランティアコーディネーター※など、連携先の団体と調整する人材
8. その他（具体的に：　　）

※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材

（すべての方）

Q13　東京都では、“ちょっとした困りごと”を抱える町会・自治会と、それをお手伝いする地元ボランティアとを区市町村がコーディネーターとなってつなげる取組を一部の区市と連携して実施しています。このような取組を実施してみたいですか。現在、既に連携している場合は、今後についてお答えください。（１つに〇）

1. 実施してみたい
2. 余裕があれば実施してみたい
3. 実施したくない
4. 地元ボランティアにお願いする困り事がないため実施する必要はない

（すべての方）

Q14　ボランティアコーディネーター※として活動できる人はいますか。

1.　いる　　2.　いない

※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材

３　その他の活動などについて

（すべての方）

Q15　貴団体では、地域の人が気軽に集まって交流できるような場所で、家庭や職場とは異なるもの（サードプレイス）を設ける取組を行っていますか。
（例）空き家、地域の学校などを利用した高齢者サロン、子育て支援拠点など

1.　行っている	2.　行っていない
◎「1.行っている」と答えた方は、どのような活動内容か、具体的にお書きください。	

（すべての方）

Q16　東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。（１つに○）

1.　利用したことがある	2.　知っているが、利用したことはない	3.　知らない

（すべての方）

Q17　区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。（１つに○）

1.　利用したことがある	2.　知っているが、利用したことはない	3.　知らない

（すべての方）

Q18　東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア活動情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。（１つに○）

1.　サイトを閲覧したことがある	2.　知っているが、閲覧したことはない	3.　知らない

（すべての方）

Q19　ボランティア活動（町会・自治会活動を含む）に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

４　貴団体について（すべての方）

Q20　貴団体の役員数は何人ですか。（１つに○）

1.　5 人未満	2.　5~10 人未満	3.　10~20 人未満
4.　20~30 人未満	5.　30~50 人未満	6.　50 人以上

Q21　貴団体に加入している世帯数はどのくらいですか。（１つに○）

1.　10 世帯未満	2.　10～49 世帯	3.　50～99 世帯
4.　100～299 世帯	5.　300～999 世帯	6.　1,000～1,999 世帯
7.　2,000 世帯以上		

Q22　住民の貴団体への加入率はどのくらいですか。（１つに○）

1.　10%未満	2.　10～19%	3.　20～29%
4.　30～49%	5.　50～69%	6.　70～89%
7.　90～100%	8.　わからない	

Q23　貴団体は加入促進のためにどのような取組を行っていますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 地域交流イベント（祭り、餅つき、運動会、クリスマスなど）を実施して、当日募集
2. チラシ、パンフレットなどを作成して周知
3. 回覧板による募集
4. 各家庭に訪問して募集
5. 現会員による口コミや呼び込み
6. 地域の学校や商店街を通じた呼び込み
7. ホームページ・SNS を通じた呼び込み
8. その他（具体的に：　　）
9. 加入促進活動をしていない

ご協力ありがとうございました。

「都民等のボランティア活動等に関する実態調査」

登録番号（4）139

令和５年３月発行

編集・発行　東京都生活文化スポーツ局都民生活部地域活動推進課
東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電　話　03（5388）3156

調査委託　株式会社リサーチ東京
東京都杉並区成田西 4-11-18
電　話　03（3391）8833

＜ お 願 い ＞

この報告書の内容を引用される場合、その旨を下記にご連絡ください。なお、印刷物の場合はその掲載部分の写しをお送りくだされば幸いです。

東京都生活文化スポーツ局
都民生活部地域活動推進課
〒163-8001　新宿区西新宿二丁目８番１号
電　話　０３（５３８８）３１５６
ＦＡＸ　０３（５３８８）１３３１
E-mail：S1121202@section.metro.tokyo.jp